

日本美術年鑑：昭和43年版（1967.1-12）

著者	東京国立文化財研究所美術部（美術研究所） 編
出版年月日	1969-03-29
URL	http://doi.org/10.18953/00005631



YEAR BOOK OF JAPANESE ART

日本美術年鑑

昭和 43 年 版 (1967. 1—12)

美 術 研 究 所

NATIONAL INSTITUTE OF ART RESEARCH

12—53 UENO-PARK, TAITO-KU. TOKYO

序

美術界の年間における動向を把握してこれを記録にとどめることはなかなか容易でない。本年鑑は発刊以来、現代美術並びに古美術にわたり、その動向を客観的に偏りなく捉えるための資料を提供することに主眼をおいてきた。しかも、わが美術界は近年すこぶる活況を呈し、諸美術団体の定期展をはじめとして、随時の展覧会もその数を増し、更に各都市の諸画廊における個展・グループ展等の開催も相次ぎ、もはや当年鑑の記録蒐集機能の限度を越すばかりである。また古美術界をみても、国宝・重要文化財の新指定と相表裏して、国・公立博物館や諸財団の美術館における特別展も頻度を増し、加うるに諸新聞社・デパート、あるいはその他の関係団体が企画した国際的な美術展覧会の増加により、新しい文化交流の時代も現出しつつある。一方東西美術関係の研究論文や現代美術に関する評論の発表、研究書、解説書、図録類の刊行等もまた枚挙にいとまのない実情である。

本年鑑はこのような美術界の盛況を、その豊富さと多様性において反映させるよう、必要な資料を集約載録して瞭然たらしめることに意を注ぎ、記事採択の適正と内容の充実とに努力している。しかし、この間にも思わぬ過誤や不備の点がないとは限らない。利用される方々の叱正と教示とを得ることができれば幸甚である。

なおこの年鑑の編集は従来通り当研究所美術部(美術研究所)第2研究室の諸君がこれに当り、更に資料室・第1研究室および庶務課の諸君もこれを援助するところが多かった。なお、この年鑑の編集に当っては、常に諸官庁や美術関係の公私機関をはじめ、多数の学者作家等の御援助を煩わしている。殊に文化庁、国立美術館・博物館、各地の諸新聞社、雑誌社、美術館、研究所、学校、美術団体、画廊等の御援助に待つところが少くない。ここにこれら諸機関の当事者諸賢に対して深甚の謝意を表する。

昭和43年12月

東京国立文化財研究所

美術部長 高 田 修

凡 例

- 1 本年鑑は、昭和42年1月から同年12月に至る1年間の美術界の主要な出来事を掲載した。
- 1 本年鑑の内容は、「図版」「本欄」「便覧」の3部に大別し、「図版」には上記期間中に発表された作品のなかから写真を掲載し、「本欄」は、わが国美術界の全般について、主要な事件、展覧会、物故者、発表された文献などを記載した。

「便覧」は、美術関係の諸施設、団体、美術家及び美術関係者名簿などを集録した。便覧の性質上この欄は原則として現在の記録(昭和43年12月)に従っている。
- 1 本年鑑であつかう美術の範囲は、一般に行なわれる狭義の解釈に従い、絵画、彫塑、工芸、書、および建築に限っている。絵画のうち、日本画と洋画の区別は困難な場合もあるが、ほぼ慣例に従った。建築と工芸はわれわれの注意をひく範囲にとどめ、書は古美術に限った。
- 1 人名を記す場合は、すべて敬称をはぶいた。
- 1 美術展覧会の欄は、展覧会名、日付、場所の順に略記したが、場所が東京の場合にはすべてこれを略し、デパートの場合には日本橋の白木屋・高島屋・三越、渋谷の東横、銀座の松屋、池袋の西武等は地名を省略した。
- 1 美術文献目録、美術家及び美術関係者名簿についてはそれぞれ項目の初めに凡例を記した。

なお「図版」に用いた写真は主に高林・村井・三友写真研究所の写真と諸雑誌よりの複写によることを記して資料提供の謝意に代えさせていただく。

目次

目次

序	1
凡例	3
目次	4
図版目録	4

定期刊行物所載文献	154
現代美術・西洋美術	154
東洋古美術	198
単行図書	212

〔本欄〕

昭和42年美術界年史	1
美術展覧会	7
主要美術展覧会索引	5
受賞一覧	97
昭和40、41、42年度国立美術館・博物館・	
文化財保護委員会新収品目録	102
新指定国宝重要文化財一覧	114
物故者	140
美術文献目録	153
凡例	153
目次	153

〔便覧〕

美術関係研究施設	217
美術関係学会	219
美術教育施設	220
美術観覧施設	226
美術観覧施設索引	225
美術団体一覧	248
日本芸術院会員・皇室技芸員・文化勲章受章者・	
文化功労者・重要無形文化財等一覧・文化財専門	
審議会専門委員名簿	268
美術家及び美術関係者名簿	274

図版目録

日本画

1 サムソン頌(日本表現派10周年 記念展)	菅原 洸人
2 北国湖畔(1回東方美術展)	結城 天童
3 芙蓉峰雪雲(14回日府展)	児玉 三鈴
4 如是我聞(7回日本南画院展)	伊藤 三喜庵
5 山韻()	大平 華泉
6 鳥(これが日本画だ展)	安東 千恵子
7 夢む枯葉(9回日本国際美術展)	工藤 甲人
8 衡のある風景()	渡辺 学
9 雪(27回日本画院展)	尾瀬戸 春江
10 冬樹(9回日本国際美術展)	上田 臥牛
11 水辺曉(17回新興美術展)	小林 果居人
12 ぼたん(9回日本国際美術展)	丸木 位里
13 ためらいがちな(新制作日本画 部春季展'67)	石踊 紘一
14 逃水()	堀越 保二
15 或る日の安英さん(52回院展)	北沢 映月
16 北端の海()	今野 忠一
17 ふるさとの河()	後藤 志朗
18 歌占()	森田 曠平
19 蓮台寺の松陰()	前田 青邨

20 神々とファラオ()	岩橋 英遠
21 花供養()	岡本 弥寿子
22 北海()	松尾 敏男
23 浜豌豆()	堅山 南風
24 秋野()	松岡 政信
25 菩薩()	小倉 遊亀
26 酒折の宮()	安田 観彦
27 樹響(31回新制展)	平川 敏夫
28 「霊家族」より鳥()	佐々木 裕久
29 初月屏風()	加山 又造
30 夏()	堀 文子
31 夕映の池()	上原 卓
32 幽淵()	近藤 弘明
33 来り去る時雨()	山本 丘人
34 樹蔭日光()	塩見 仁朗
35 茫涯()	麻田 鷹司
36 朝陽()	津田 青楓
37 泳流(31回新制作展)	稗田 一穂
38 檣の径(個展)	岡 信孝
39 汐(10回日展)	杉山 寧
40 磐梯()	西山 英雄
41 薰苑()	小井土 昇
42 遙()	下保 昭

目 次

43	池(々)	小野竹喬
44	女優(々)	橋本明治
45	月蝕(々)	東山魁夷
46	踊る(々)	伊東万燿
47	寿石(々)	望月春江
48	凍(々)	高山辰雄

洋 画

49	見世物芸人(10回安井賞受賞展)	宮崎進
50	いけにえをもてあそぶ奴(14回 日府展)	井上成一郎
51	沖縄の海(26回水彩連盟展)	小堀進
52	栄光の門(11回新槐樹社展)	田中三朗
53	白霧犬吠(々)	堀田清治
54	月と鳥と(6回日本実在派展)	中条顕
55	殖(A)(27回美術文化展)	千葉一雄
56	冬の庭(19回三軌会展)	互井開一
57	鳩(々)	松本明也
58	雪国の伝説(27回美術文化展)	島田雄二
59	雪の真鶴風景(示現会20周年記 念展)	檜原健三
60	道化師と馬(々)	上橋薫
61	少年と牛(新協展10周年記念)	田代光
62	エリカ咲く岬(々)	西原比呂志
63	赤による('67 モダンアート展)	阪本文男
64	五月の人(々)	村井正誠
65	風景について其の二(々)	朝妻治郎
66	裸体(53回光風会展)	中村研一
67	八島湿原(々)	田村一男
68	女人像(々)	森田元子
69	作品(1667)(41回国展)	須田剋太
70	島の春(53回光風会展)	笹岡了一
71	題名の無い作品(41回国展)	重延嬰子
72	北京(々)	杉本健吉
73	アッシリャ幻想(々)	宇治山哲平
74	秋の歌(々)	久保守
75	一人で昼食(々)	加賀美勲
76	三人(々)	原精一
77	そら(々)	藤田吉香
78	洗(26回創元会展)	樋口治平
79	古城の丘(33回東光展)	石本秀雄
80	黒川能地謡の人々	森田茂
81	庭に咲いた花(26回創元会展)	鈴木千久馬
82	寒林(44回春陽展)	中谷泰
83	船(々)	宮城音蔵
84	黄昏(々)	三雲祥之助
85	春曇(々)	中川一政
86	国境の村(々)	入江観
87	秋田音頭(々)	小穴隆一
88	世界の壁(9回日本国際美術展)	高松次郎

89	ベランダのモンステラ(々)	奥谷博
90	花曇(々)	小糸源太郎
91	作品 URC(々)	岡部繁夫
92	CUT OUT SIX(々)	小島信明
93	鼻(々)	桂ユキ子
94	白い円(々)	吉原治良
95	幕(々)	糸園和三郎
96	桃色の地図(々)	猪熊弦一郎
97	雪の無線中継所(々)	岡鹿之助
98	MEDO(々)	鶴岡政男
99	春駒寄せと楽譜(々)	山口薫
100	ある群像(々)	麻生三郎
101	長い長い虹の絵(々)	豊 呷
102	おののいてノアの支配に服す海 のすべての魚恐れ(々)	福沢一郎
103	人物(々)	林武
104	準軽にて(3回主体美術展)	吉井忠
105	死(々)	赤塚徹
106	滞船(33回旺玄会展)	鈴木金平
107	母と子(3回主体美術展)	森芳雄
108	群像と裸婦(光陽会15周年記念 展)	曳野豊重
109	滞船(23回現代美術家協会展)	三浦勝治
110	形体の生れ(33回旺玄会展)	河西万文
111	湖底(19回立軌展)	須田寿
112	壁(々)	秋野卓美
113	白い建物(々)	牛島憲之
114	みせしめ(39回新構造展)	北沢定一
115	惑(47回朱葉会展)	吉田ふじを
116	静物(21回女流画家協会展)	仲田好江
117	落日(63回太平洋美術展)	小林孝一
118	城塞(々)	長岡忠三郎
119	長い町の風景M(21回新樹会展)	三宅悦隆
120	冬の丘(々)	大河内信敬
121	裸婦A(々)	三岸黄太
122	舞妓化粧(々)	島村三七雄
123	赤い砂(52回二科展)	東郷青児
124	白黒の像(々)	大沢昌助
125	白雪姫(21回新樹会展)	朝井閑右衛門
126	憩(52回二科展)	中村直人
127	馬力大会(々)	石橋宏一郎
128	青い少女(々)	斎藤三郎
129	魚市場にて(々)	吉井淳二
130	青い風(々)	新田稻実
131	高原と花(々)	鷹山宇一
132	晩秋の阿蘇山(々)	田崎広助
133	鶴沼(29回一水会展)	中村琢二
134	帰って行く人形使い(52回二科 展)	織田広喜
135	三途川(29回一水会展)	近岡善次郎
136	泰山木(々)	高野三三男

目次

137	舟の家族(22回行動展).....	佐藤真一
138	蒼緑の村(ク).....	向井潤吉
139	ライフ(ク).....	江見絹子
140	ポッティチェルリ・ヴィナスの 誕生より(ク).....	森口宏一
141	映(ク).....	田中稔之
142	One day(31回新制作展).....	玉置正敏
143	部屋(22回行動展).....	森真吾
144	エジプトの鷹(31回新制作展).....	三岸節子
145	白い椅子(ク).....	小磯良平
146	デリカテッセン(ク).....	脇田和
147	系譜(ク).....	佐野ぬい
148	自閉的窓風景(31回新制作展).....	麻田浩
149	ピオロニスト(1回美術環展).....	増田誠
150	背後の人(31回新制作展).....	大里光春
151	変身Q(ク).....	岡崎紀
152	ベアトリス(個展).....	里見勝蔵
153	来島水道仲渡島附近(13回一陽 展).....	野間仁根
154	色メガネと外界(13回一陽会).....	北山泰斗
155	日あし(31回自由美術展).....	八幡健二
156	二人(ク).....	永田力
157	休憩(ク).....	井上長三郎
158	ニースの冬(35回独立展).....	高田達四郎
159	南の国(ク).....	海老原喜之助
160	展望台(ク).....	山本正
161	S駅オープン(21回二紀展).....	西村功
162	隅田川(ク).....	中川紀元
163	青いオヘソ(ク).....	佐野繁次郎
164	赤い糸(ク).....	高井貞二
165	海岸(ク).....	星崎孝之助
166	シシリー風景(ク).....	田村孝之助
167	鏡の前(ク).....	宮本三郎
168	あひる(10回日展).....	佐川忠金
169	マジョリカ壺の薔薇(ク).....	小山敬三
170	塔のある入江(ク).....	西山真一
171	房州の春(ク).....	広瀬功
172	落合晩秋(ク).....	日野耕之祐
173	ぎおん(ク).....	小島清雄
174	茜さす漁港(ク).....	奥田憲三
175	神苑(ク).....	三上浩
176	最上川奏(ク).....	真下慶治
177	作品(個展).....	斎藤義重

版画

178	丘の芽(44回春陽展).....	三井永一
179	真夏の海辺(ク).....	古川竜生
180	座標・黄(35回日本版画協会展).....	吹田文明
181	作品(ク).....	日下賢二
182	風景(9回日本国際美術展).....	浜田知明

183	飛翔(35回日本版画協会展).....	上野誠
184	広告(モード3)(ク).....	松本晏
185	少女(9回日本国際美術展).....	南桂子
186	作品・B(13回一陽展).....	野間佳子
187	審判の柵(10回日展).....	棟方志功

彫刻

188	慰霊の泉(靖国神社境内).....	井上武吉
189	作品('67年モダンアート展).....	橋本正司
190	連続空間67(9回日本国際美術 展).....	井上武吉
191	円・2・生('67年モダンアート 展).....	広井力
192	えくぼのある正六面体(個展).....	堀内正和
193	曲芸(41回国展).....	小川清彦
194	Station(9回日本国際美術展).....	ヨシダ・ミノル
195	あるポーズ(41回国展).....	桜井祐一
196	マイホーム No. 2(個展).....	鈴木実
197	四角い罫(9回日本国際美術展).....	小田襄
198	カラスとトーテム(14回日府展).....	河野道生
199	まのいー4(個展).....	柳新也
200	単子の風笛(9回日本国際美術 展).....	塩見哲郎
201	コの記号67—7(ク).....	野水信
202	ミュータント(個展).....	村松達也
203	ふくろう(和光美術展).....	木内克
204	こまいぬ(16回創型展).....	三木貞夫
205	滴(52回二科展).....	村岡三郎
206	美濃窯の老陶工(13回一陽展).....	植木力
207	泉(16回創型展).....	中野四郎
208	ORGAN-BOX(22回行動展).....	建昌覚造
209	元元元(13回一陽展).....	横沢英一
210	二つの世界(22回行動展).....	中島快彦
211	波(31回新制作展).....	一色邦彦
212	神殿に(52回二科展).....	野水信
213	原生の譜(31回新制作展).....	本郷新
214	作品66—7(2回現代日本彫刻 展).....	土谷武
215	MASK 67 G(31回新制作展).....	澄川喜一
216	昇る太陽(ク).....	五十嵐芳三
217	風の祭典(2回現代日本彫刻展).....	岸田克二
218	のんきな雲(個展).....	新宮晋
219	生存(52回二科展).....	笠置季男
220	黄色の花(21回二紀展).....	小島弘
221	作品.....	山口勝弘
222	銀の蝶.....	伊本淳
223	67—17(31回自由美術展).....	池田宗弘
224	明治(17回檀会展).....	柳原義達
225	餓鬼(31回自由美術展).....	島田忠恵
226	裸婦(10回日展).....	木下繁

227	燭明け(♫)	水 船 六 洲
228	静観(♫)	中 村 博 直
229	粧(♫)	横 山 豊 介
230	ヨブ(♫)	山 本 雅 彦
231	女(♫)	蛭 田 二 郎
232	業火(♫)	今 城 国 忠
233	裸婦(♫)	清 水 多 嘉 示

工芸・デザイン

234	破船(6回日本現代工芸美術展)	鈴 木 治 平
235	卵殻交差貼文庫(41回国展)	丸 山 太 郎
236	飛翔(53回光風会展)	松 風 栄 一
237	伝説の峯(♫)	山 形 駒 太 郎
238	線と環(和光美術展)	楠 部 弥 弼
239	赤絵面取方壺(♫)	浜 田 庄 司
240	淵(♫)	岩 田 藤 七
241	つき(♫)	高 村 豊 周
242	スタイロフォーム(6回日本現代工芸美術展)	鈴 木 貫 爾
243	いのちの詩より(10周年新協展)	戸 島 甲 喜
244	休翼千里夢(6回日本現代工芸美術展)	西 大 由
245	クリスタル・ペンギン(♫)	各 務 鉦 三
246	押(♫)	亀 井 勝
247	遙(10回日展)	川 原 和 夫
248	雅楽(14回日本伝統工芸展)	中 島 政 子
249	油滴天目蓋物(♫)	佐々木 正
250	創生(10回日展)	松 本 為 佐 視
251	銅流金文壺(14回日本伝統工芸展)	北 村 一 朗
252	積心(6回日本現代工芸美術展)	宮 崎 芳 郎
253	盤(♫)	安 田 友 彦
254	ある微笑(17回日宣美展)	{ 中河原 暉 朗 辰 己 四 郎
255	童女と亀(10回日展)	山 脇 洋 二
256	彩苑(♫)	井 波 唯 志
257	春想(♫)	海 野 建 夫
258	レベル3(17回日宣美展)	松 永 真
259	吠える(♫)	{ 大 橋 利 樹 辰 己 四 郎
260	ドラクター用製図台(16回毎日工業デザイン展)	{ 安 間 康 男 小 森 康 弘 佐々木 三智雄
261	クリスタル小鉢セット	河 合 祥 子
262	懸垂瓶(10回日展)	叶 光 男
263	ジャンセン水着ポスター(17回日宣美展)	{ 長 友 啓 典 加 納 豊 明

建 築

264	百十四銀行本店	日建設計工務大 阪事務所
265	佐渡グランドホテル	菊竹清訓建築設 計事務所
266	山形ハワイドリームランド	黒川紀章建築・ 都市設計事務所
267	ゆかり文化幼稚園	丹下健三・都市 建築設計事務所
268	日本館(モントリオール万国博)	芦原義信建築設 計研究所
269	千葉県文化会館	大高建築設計事 務所
270	早大理工学部新館	安東勝男設計

回顧と遺作

271	新樹の曲(竜子を偲ぶ展)	川 端 竜 子
272	京の舞妓(生誕百年記念藤島武二展)	藤 島 武 二
273	少女(裸像にみる岡田三郎助・黒田清輝の芸術展)	岡 田 三 郎 助
274	三彩手壺(河井寛次郎遺作展)	河 井 寛 次 郎
275	復員(香月泰男・高山辰雄展)	香 月 泰 男
276	午後(香月泰男・高山辰雄展)	高 山 辰 雄
277	ケイフラマン(原勝郎遺作展)	原 勝 郎
278	銅色の月(山口薫展)	山 口 薫
279	山路(大観生誕100年展)	横 山 大 観
280	梢のある自画像(燦光・関根正二展)	燦 光
281	群落(岡鹿之助展)	岡 鹿 之 助
282	カズラ(勅使河原蒼風の彫刻)	勅使河原 蒼 風
283	Mの像(久保孝雄遺作展)	久 保 孝 雄
284	虹のある風景(野口謙蔵遺作展)	野 口 謙 蔵
285	海辺の村	中 村 彝
286	三星(関根正二・燦光展)	関 根 正 二
287	オーケストラ(三岸好太郎展)	三 岸 好 太 郎

外国の作家と作品

288	イオとアルゴス(ポンペイ古代美術展)	
289	PUBLIT 詩画8(9回日本国際美術展)	フェルディナン ド・クリベット
290	間違った方向(♫)	ポ ル ・ マ ラ
291	権力と栄光(グラフィック・アート USA 展)	D・シュウォーツ
292	神像(メソポタミア展)	
293	無題(9回日本国際美術展)	フランク・ステ ラ

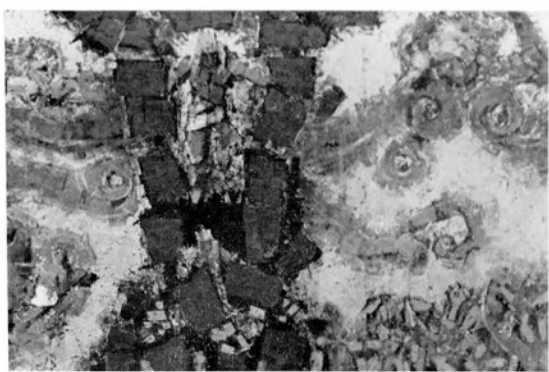
目 次

- 294 核分裂(9回日本国際美術展)……ピーター・セッ
ジリー
- 295 Mets (ク) ……ビクトル・バザ
ルリー
- 296 カフェにて(ク) ……アルベルト・ジ
ャコメッティ
- 297 自転車(ク) ……ローウエル・ネ
スピット
- 298 プリュージュの白鳥の争い……アンドレ・マッ
ソン
- 299 絵画72・G1965(ク) ……ジェラルド・シ
ュネーデル
- 300 私の母(ク) ……アンドレ・コタ
ボ
- 301 フォンタナに捧ぐ12(ク) ……ネルソン・ライ
ルナー
- 302 ランプのある静物(52回二科展) ……ビ ュ ッ フ ェ
- 303 犬と家族(ク) ……ア ペ ル
- 304 ル・アーヴルのアトリエでの画
家とモデル(デュフィ回顧展) ……デ ュ フ ィ
- 305 浴槽(現代イタリア美術展) ……ヴァレーリオ・
アダーミ
- 306 ほろほろ鳥(古代イタリア美術展)
- 307 作品52回(二科展) ……モ ン タ ネ
- 308 ロージ(現代イタリア美術展) ……ミムモ・ロテッ
ラ
- 309 荷馬車の集まる所(ソ連絵画50
年展) ……フ レ ン ツ
- 330 弥生式水注形土器 大和歴史館保管
- 331 鏡瓦 平安時代 摂津四天王寺境内出土 大阪府
四天王寺
- 332 宇瓦 平安時代 摂津四天王寺境内出土 大阪府
四天王寺
- 333 古井家住宅 個人
- 334 衡梅院本堂 京都府 衡梅院
- 335 鶴岡八幡宮 末社丸山稻荷社本殿 神奈川県 鶴
岡八幡宮
- 336 銅造如来立像 大和般若寺石造十三重塔内納置品
- 337 伊佐爾波神社 楼門・廻廊 愛媛県 伊佐爾波神
社
- 338 霊台橋 熊本県 砥用町

新指定重要文化財

- 310 海の幸 青木繁筆
- 311 生々流転 横山大観筆
- 312 紙本着色四季耕作図 久閑守景筆
- 313 絹本着色普賢延命像 広島県 持光寺
- 314 絹本着色親鸞上人絵伝 愛知県 如意寺
- 315 鮭 高橋由一筆
- 316 女 荻原守衛作
- 317 絹本着色細川成之像 徳島県 丈六寺
- 318 木造釈迦如来坐像 京都府 宮壇院
- 319 木造観音菩薩坐像 福井県 長慶院
- 320 木造馬頭観音坐像 福井県 中山寺
- 321 金銅装笈 山形県 慈光明院
- 322 金銅装獅子宝相華文説相箱 藤田美術館
- 323 金銅密教法具 藤田美術館
- 324 織部角形鉢 個人
- 325 金光明最勝王経注釈 奈良県 東大寺
- 326 日蓮自筆遺文 静岡県 大石寺
- 327 念仏式 京都府 竜谷大学
- 328 白氏文集 京都府 神田喜一郎
- 329 弥生式台付舟形土器 熊本県 小林麟也

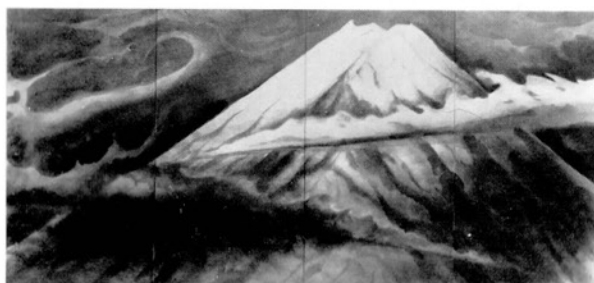
版 図



1 サムソン頌 (日本表現派10周年記念展) 菅原 洗人



2 北国湖畔 (1回東方美術展) 結城 天童

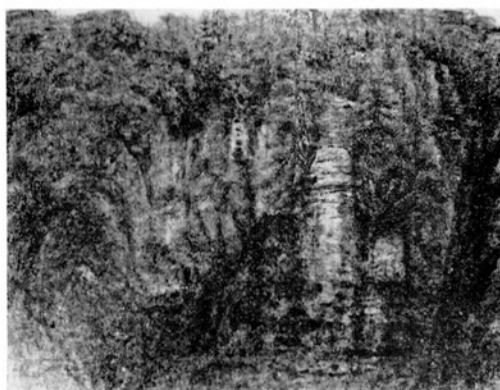


3 芙蓉峰雪雲 (14回日府展) 児玉 三鈴

日本画



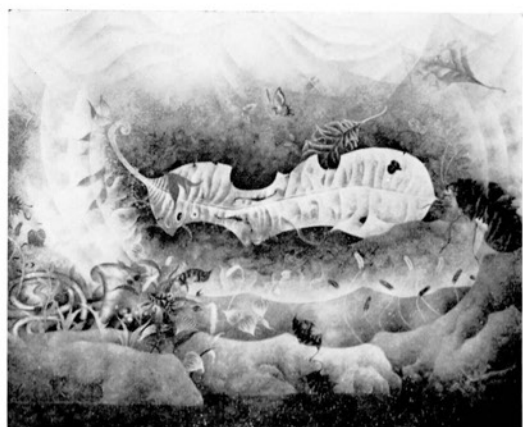
4 如是我聞 (7回日本南画院展) 伊藤 三喜庵



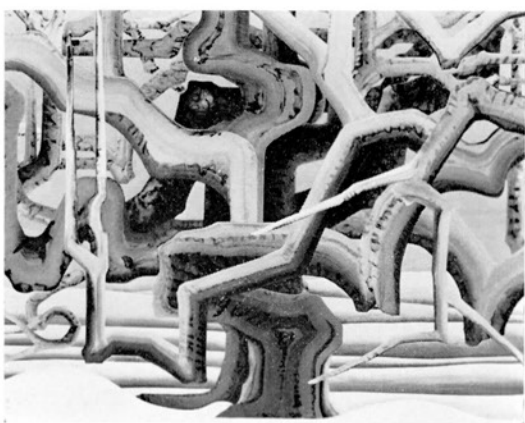
5 山韻 (7回日本南画院展) 大平 華泉



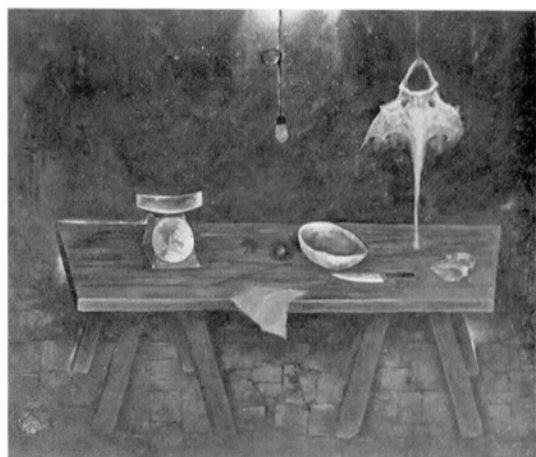
6 鳥 (これが日本画だ展) 安東 千恵子



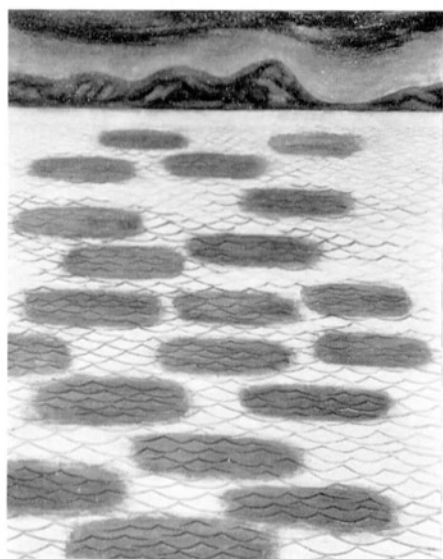
7 夢む枯葉 (9回日本国際美術展) 工藤 甲人



10 冬樹 (9回日本国際美術展) 上田 臥牛



8 荷のある風景 (9回日本国際美術展) 渡辺 学



11 水辺暁 (17回新興美術展) 小林 果居人



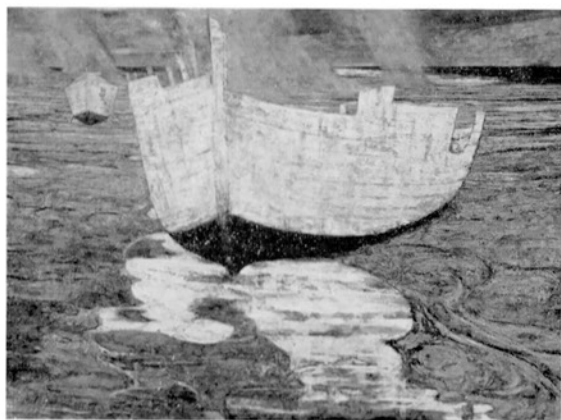
9 雪 (27回日本画院展) 尾瀬戸 春江



12 ばたん (9回日本国際美術展) 丸木 位里



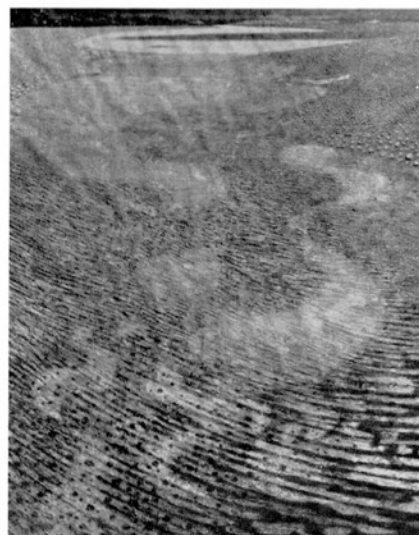
13 ためらいがちな(新制作日本画部春季展 67) 石 踊 紘 一



16 北端の海 (52回院展) 今 野 忠 一



14 逃水(新制作日本画部春季展 67) 堀 越 保 二



17 ふるさとの河 (52回院展) 後 藤 志 朗



15 或る日の安英さん (52回院展) 北 沢 映 月



18 歌占 (52回院展) 森 田 曠 平



19 蓮台寺の松陰 (52回院展) 前田 青 邨



22 北海 (52回院展) 松尾 敏 男



20 神々とファラオ (52回院展) 岩 橋 英 遠



23 浜豌豆 (52回院展) 堅 山 南 風



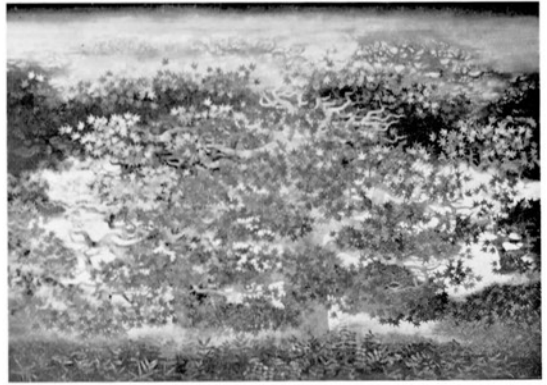
21 花供養 (52回院展) 岡 本 弥寿子



24 秋野 (52回院展) 松 岡 政 信



25 菩薩 (52回院展) 小倉遊亀



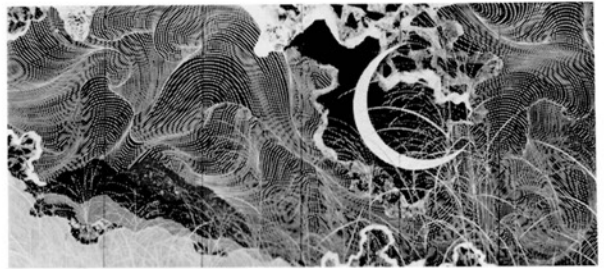
27 樹響 (31回新制作展) 平川敏夫



26 酒折の宮 (52回院展) 安田朝彦



28 「雲家族」より鳥 (31回新制作展) 佐々木裕久



29 初月昇風 (31回新制作展) 加山又造



30 夏 (31回新制作展) 堀文子



31 夕映の池 (31回新制作展) 上 原 卓



34 樹蔭白光 (31回新制作展) 塩 見 仁 朗



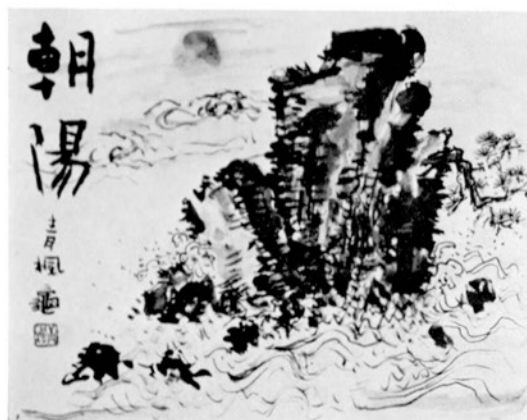
32 幽淵 (31回新制作展) 近 藤 弘 明



35 茫涯 (31回新制作展) 麻 田 鷹 司



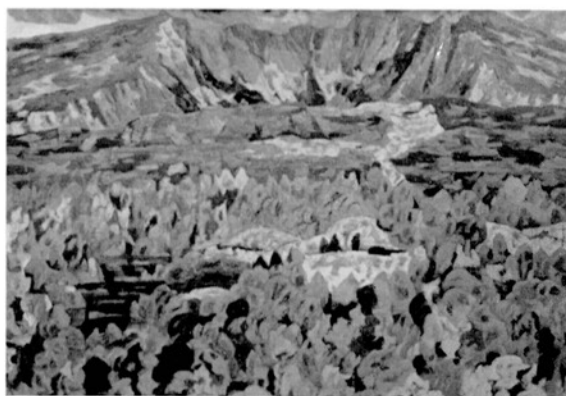
33 来り去る時雨 (31回新制作展) 山 本 丘 人



36 朝陽 (個 展) 津 田 青 楓



37 氷流 (31回新制作展) 稗田 一穂



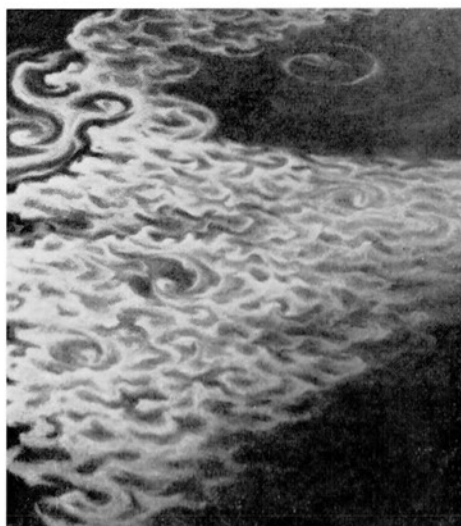
40 整梯 (10回日展) 西山 英雄



38 櫛の径 (個展) 岡 信孝



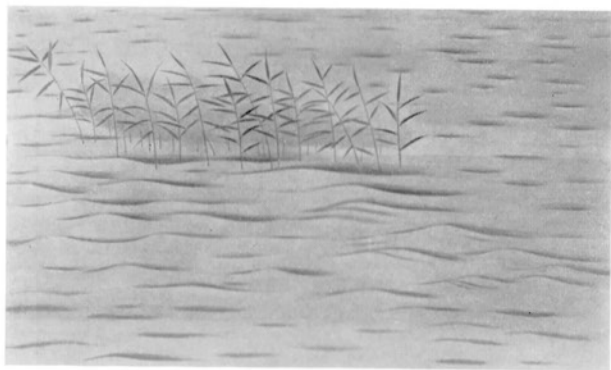
41 薫苑 (10回日展) 小井土 昇



39 砂 (10回日展) 杉山 寧



42 遙 (10回日展) 下保 昭



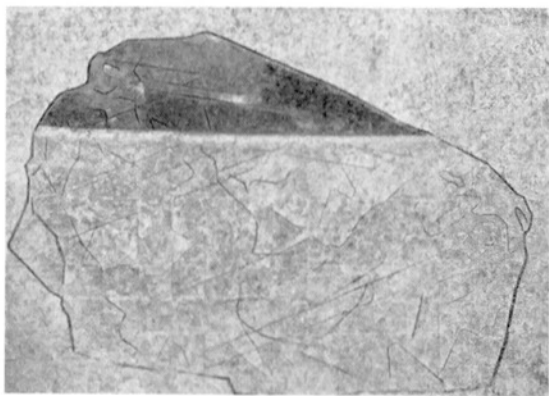
43 池 (10回日展) 小野竹斎



46 踊る (10回日展) 伊東万耀



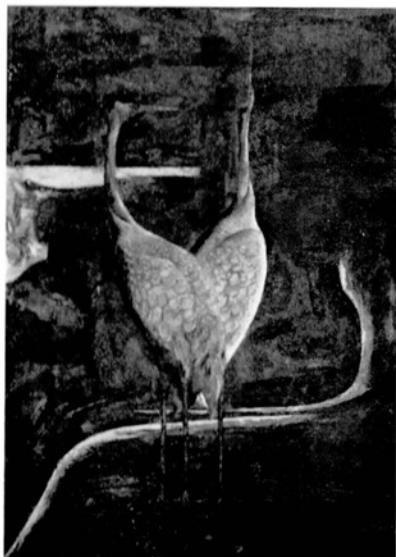
44 女優 (10回日展) 橋本明治



47 寿石 (10回日展) 望月春江



45 月篋 (10回日展) 東山魁夷



48 凍 (10回日展) 高山辰雄



49 見世物芸人 (安井賞候補展) 宮崎 進



50 いけにえをもてあそぶ奴 (14回日府展) 井上成一郎



51 沖縄の海 (26回水彩連盟展) 小堀 進



52 栄光の門 (11回新槐樹社展) 田中三朗

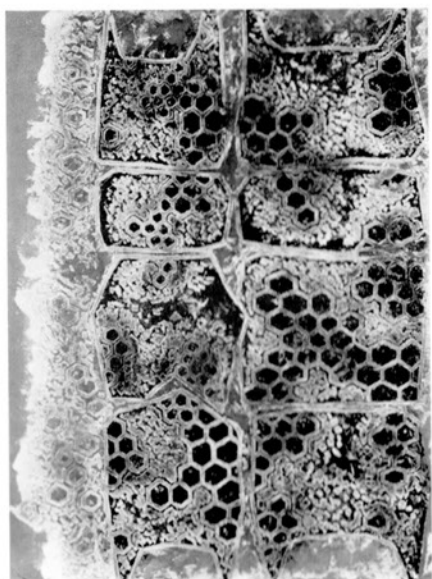


53 白露犬吠 (11回新槐樹社展) 堀田清治



54 月と鳥と (6回日本実在派展) 中条 顕

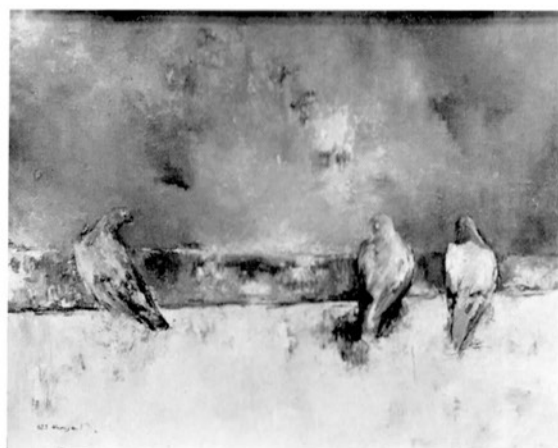
洋 画



55 殖(A) (27回美術文化展) 千葉 一 雄



56 冬の庭 (19回三軌会展) 五井 開 一



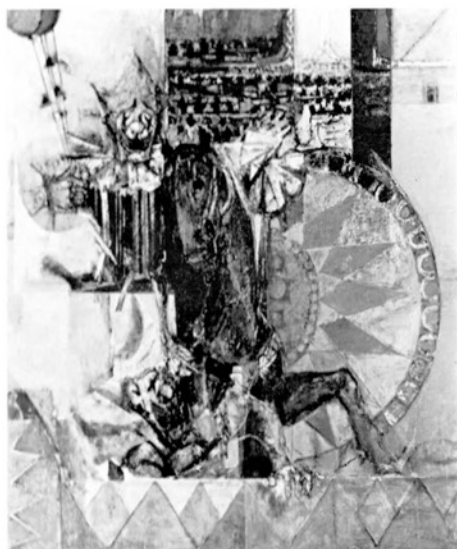
57 鳩2 (19回三軌会展) 松本 明 也



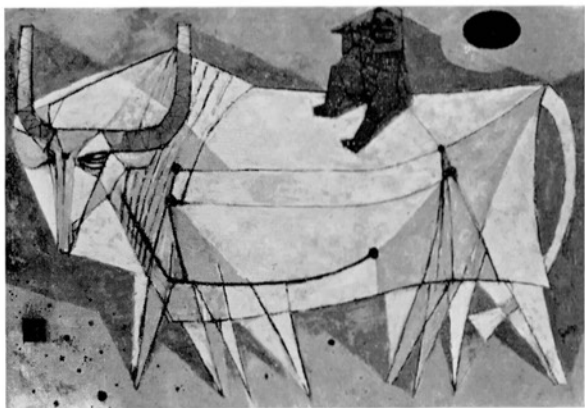
58 雪国の伝説 (27回美術文化展) 島田 雄 二



59 雪の真鶴風景 (示現会20周年記念展) 橋原 健 三



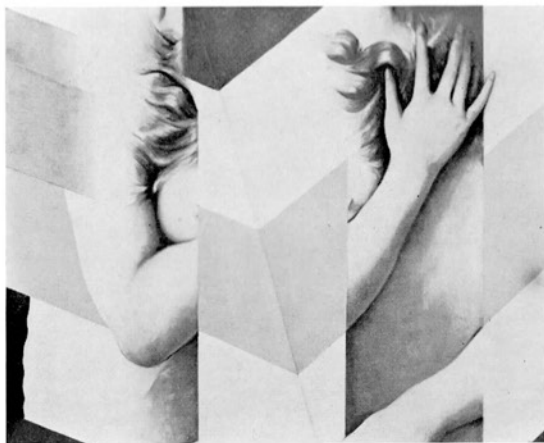
60 道化師と馬 (示現会20周年記念展) 上橋 薫



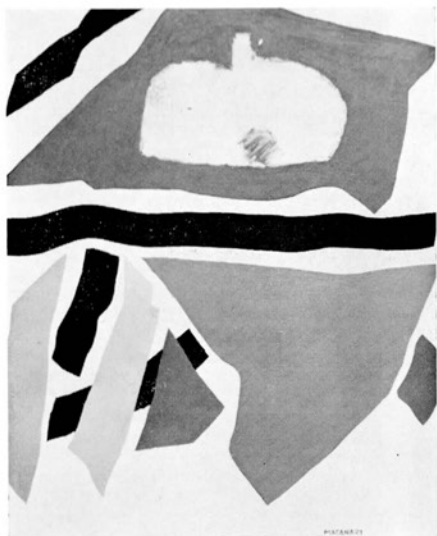
61 少年と牛・1 (新協展10周年記念) 田代 光



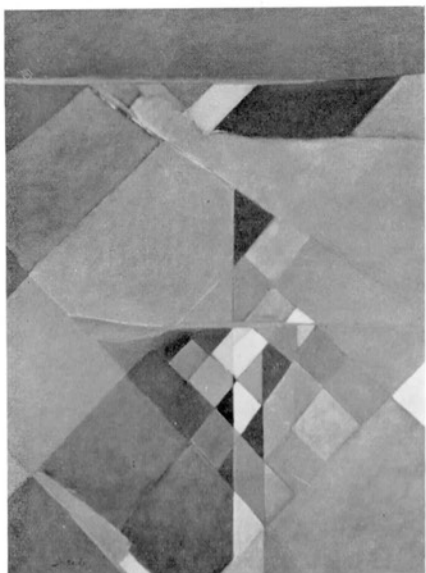
62 エリカ咲く岬 (新協展10周年記念) 西原 比呂志



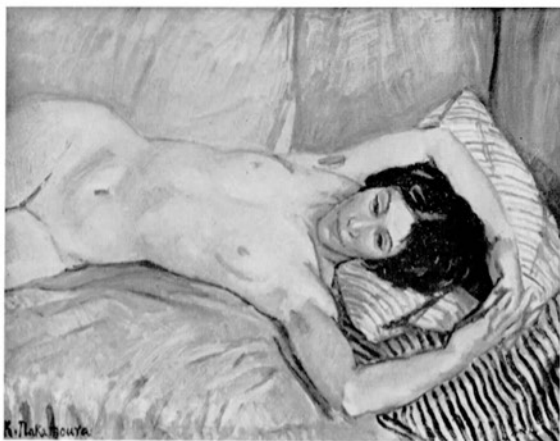
63 赤による (67モダンアート展) 阪本文男



64 五月の人 (67モダンアート展) 村井正誠



65 風景について其の二 (67モダンアート) 朝妻治郎



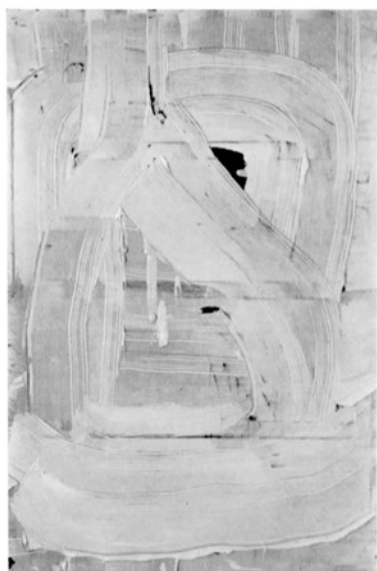
66 裸体 (53回光風会展) 中村研一



67 八島湿原 (53回光風会展) 田村 一男



68 女人像 (53回光風会展) 森田 元子



69 作品 (1967) (41回国展) 須田 勉太



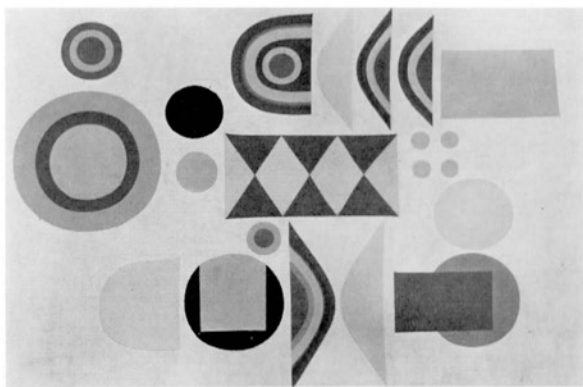
70 島の春 (53回光風会展) 笹岡 了一



71 題名の無い作品M (41回国展) 重延 環子



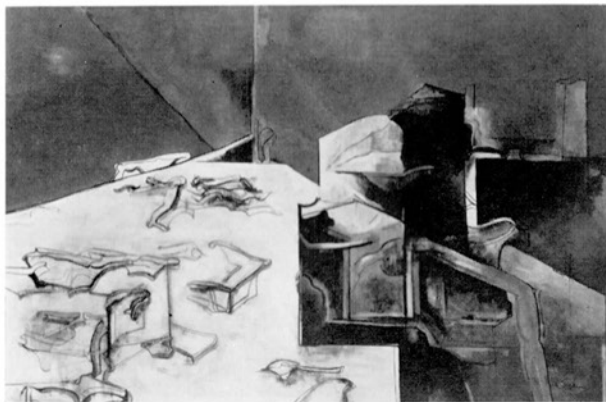
72 北京 (41回国展) 杉本 健吉



73 アッシリヤ幻想 (41回国展) 宇治山 哲平



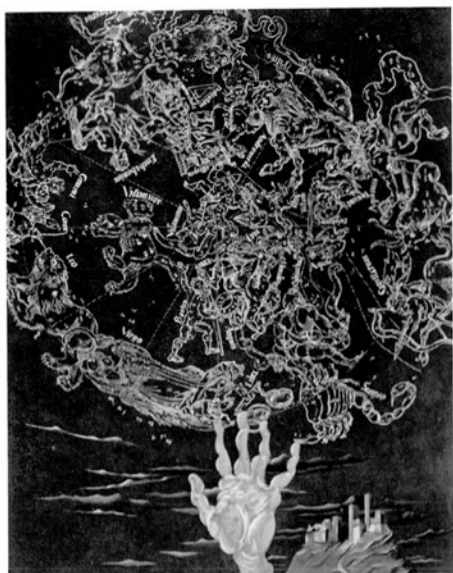
74 秋の歌 (41回国展) 久保 守



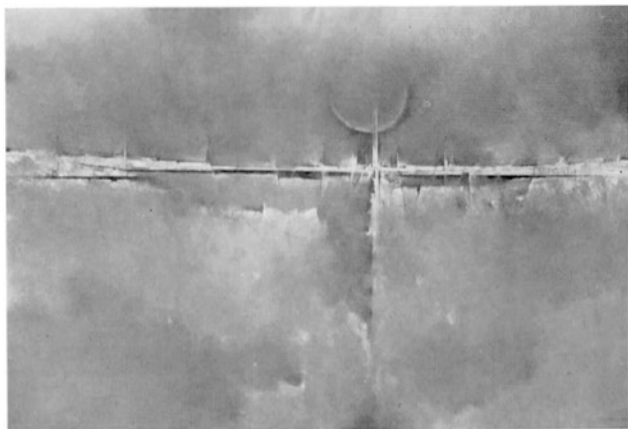
75 一人で昼食 (41回国展) 加賀美 勲



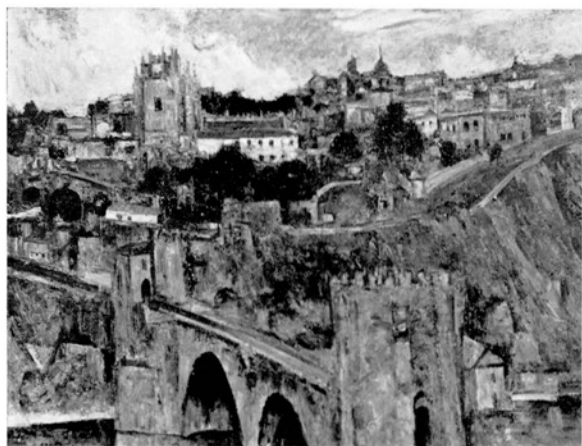
76 三人 (41回国展) 原 精一



77 そら (41回国展) 藤田 吉香



78 洗 (26回創元会展) 樋口 治平



79 古城の丘 (33回東光展) 石 本 秀 雄



80 黒川能地謡の人々 (33回東光展) 森 田 茂



81 庭に咲いた花 (26回創元会展) 鈴 木 千久馬



82 寒林 (44回春陽展) 中 谷 泰



83 船 (44回春陽展) 宮 城 音 蔵



84 黄昏 (44回春陽展) 三 雲 祥之助



85 春曇 (44回春陽展) 中 川 一 政



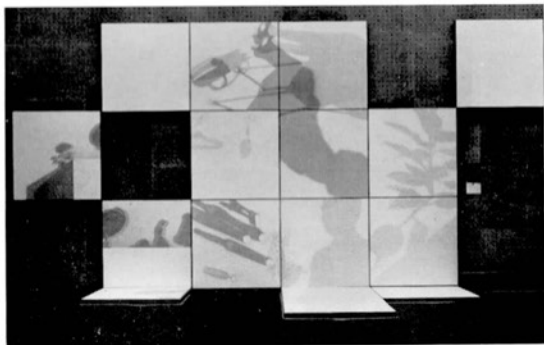
87 秋田音頭 (44回春陽展) 小 穴 隆 一



90 花曇 (9回日本国際美術展) 小 糸 源太郎



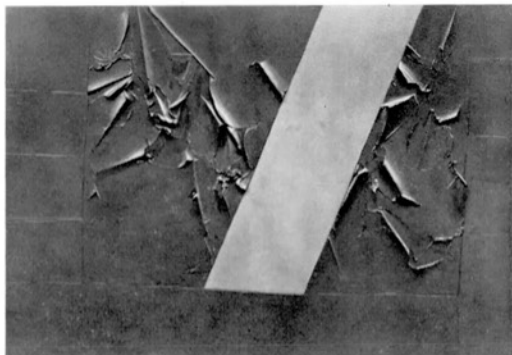
86 国境の村 (44回春陽展) 入 江 観



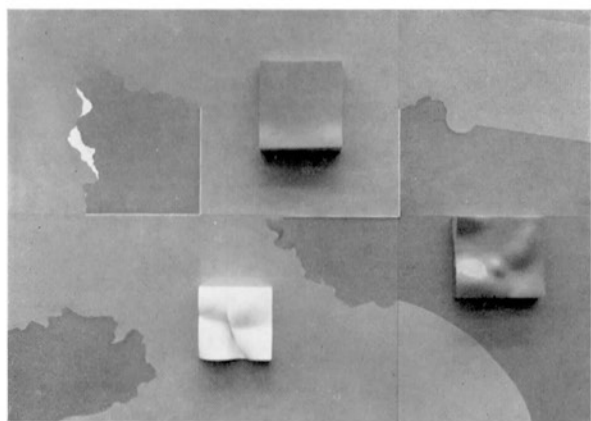
88 世界の壁 (9回日本国際美術展) 高 松 次 郎



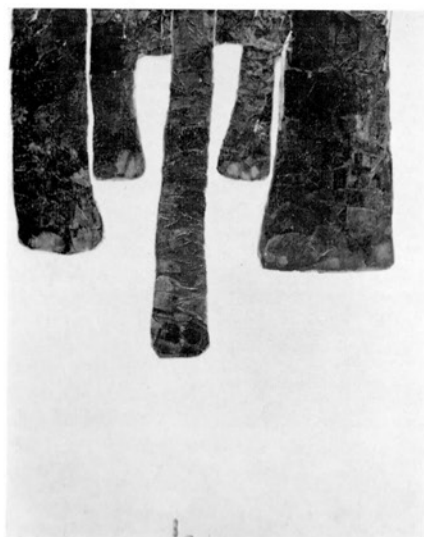
89 ベランダのモンステラ (9回日本国際美術展) 奥 谷 博



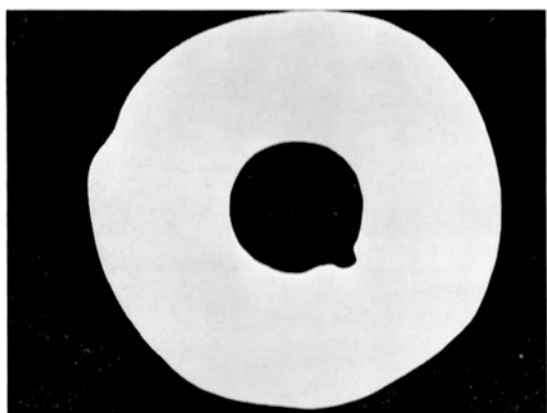
91 作品URC (9回日本国際美術展) 岡 部 繁 夫



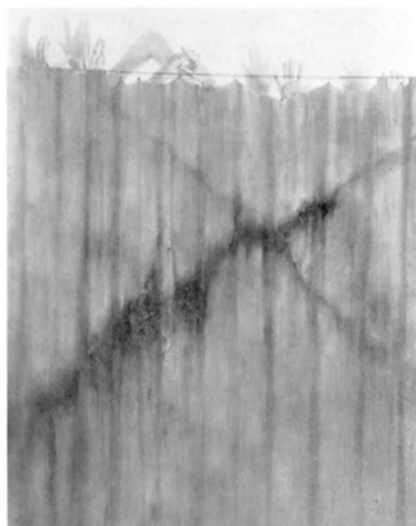
92 CUT・OUT・SIX (9回日本国際美術展) 小 島 信 明



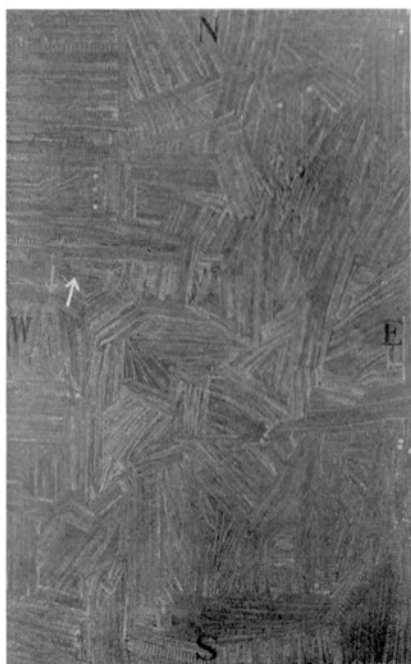
93 鼻 (9回日本国際美術展) 桂 ユキ子



94 白い円 (9回日本国際美術展) 吉 原 治 良



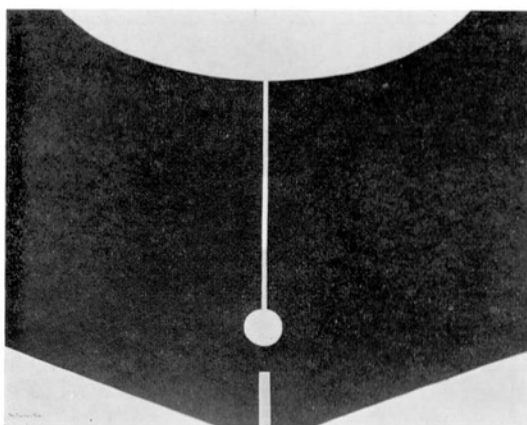
95 霧 (9回日本国際美術展) 糸 圖 和 三 郎



96 桃色の地図 (9回日本国際美術展) 猪 熊 弦 一 郎



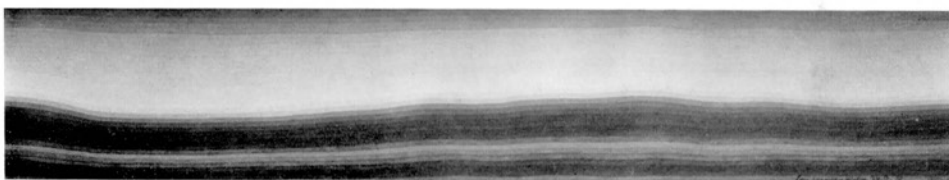
97 雪の無線中継所 (9回日本国際美術展) 岡 鹿 之 助



98 MEDO (9回日本国際美術展) 鶴岡政男



100 ある群像 (9回日本国際美術展) 麻生三郎



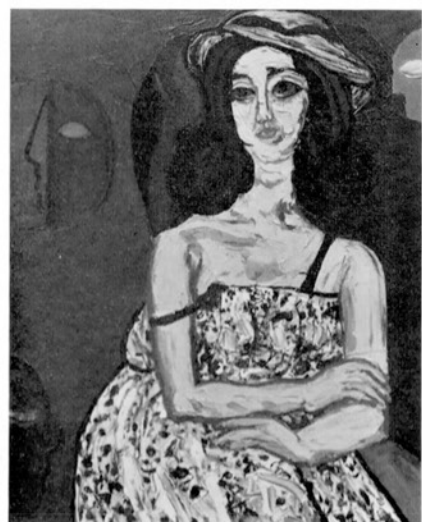
101 長い長い虹の絵 (9回日本国際美術展) 蜷 軔



102 海のすべての魚恐れおののいてノアの支配に服す
(9回日本国際美術展) 福沢一郎



99 春駒寄せと楽譜 (9回日本国際美術展) 山口 薫



103 人物 (9回日本国際美術展) 林 武



104 津軽にて (3回主体美術展) 吉井 忠



105 死 (3回主体美術展) 赤塚 徹



106 滞船 (33回旺玄会展) 鈴木金平



107 母と子 (3回主体美術展) 森 芳雄



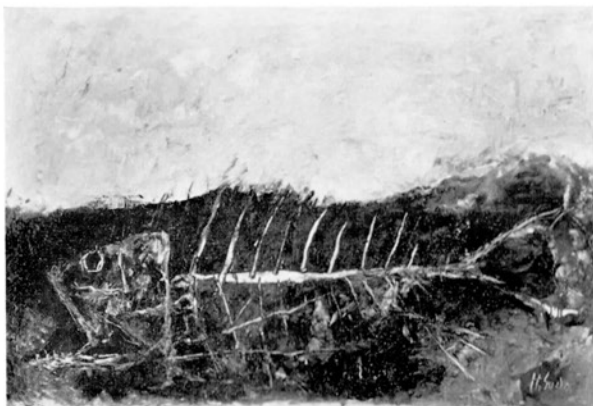
108 群像と裸婦 (光陽会15周年記念展) 曳野 豊重



109 滞船 (23回現代美術家協会展) 三浦 勝治



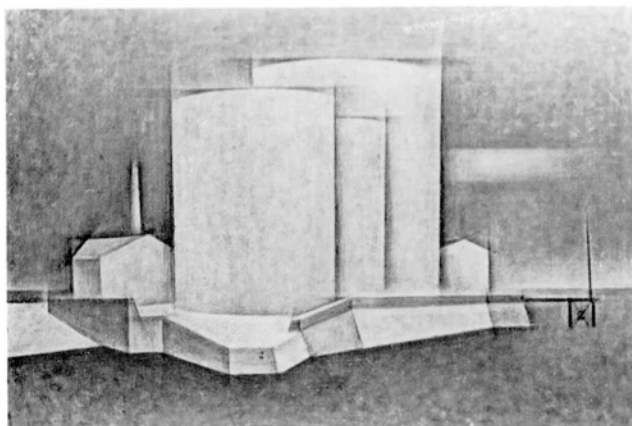
110 形体の生れ (33回旺玄会展) 河西 万文



111 湖底 (19回立軌展) 須田 寿



112 壁A (19回立軌展) 秋野 卓美



113 白い建物 (19回立軌展) 牛島 憲之



114 みせしめ (39回新構造展) 北沢 定一



115 惑 (47回朱葉会展) 吉田 ふじを



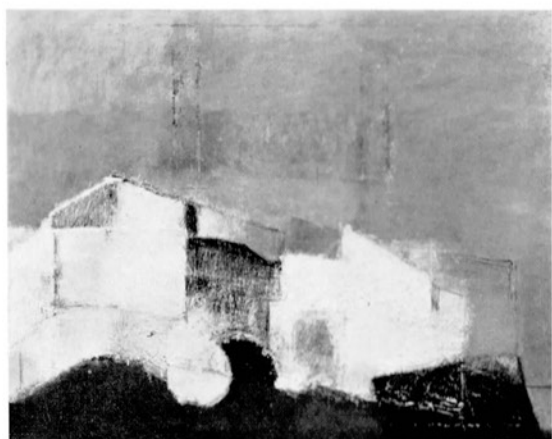
116 静物 (21回女流画家協会展) 仲田 好江



117 落日 (63回太平洋美術展) 小林 孝一



118 城塞 (63回太平洋美術展) 長岡 忠三郎



119 長い町の風景M (21回新樹会展) 三宅 悦隆



120 冬の丘 (21回新樹会展) 大内 信敬



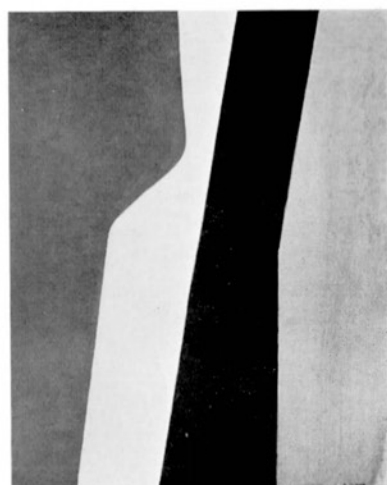
121 裸婦A (21回新樹会展) 三岸 黄太



122 舞妓化粧 (21回新樹会展) 島村 三七雄



123 赤い砂 (52回二科展) 東郷青児



124 白黒の像 (52回二科展) 大沢昌助



125 白雪姫10 (21回新樹会展) 朝井 関右衛門



126 憩 (52回二科展) 中村直人



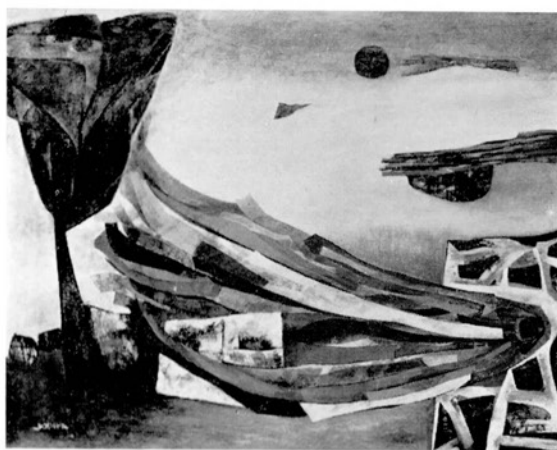
127 馬力大会 I (52回二科展) 石橋 宏一郎



128 青い少女 (52回二科展) 斎藤三郎



129 魚市場にて (52回二科展) 吉井淳二



130 青い風 (52回二科展) 新田穂実



131 高原と花 (52回二科展) 鷹山宇一



132 晩秋の阿蘇山 (52回二科展) 田崎広助



133 鶺鴒 (29回一水会展) 中村琢二



134 帰って行く人形使い (52回二科展) 織田広喜



135 三途川 (29回一水会展) 近岡 善次郎



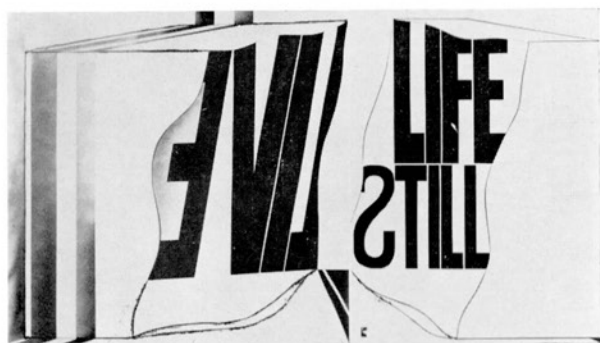
136 泰山木 (29回一水会展) 高野 三三男



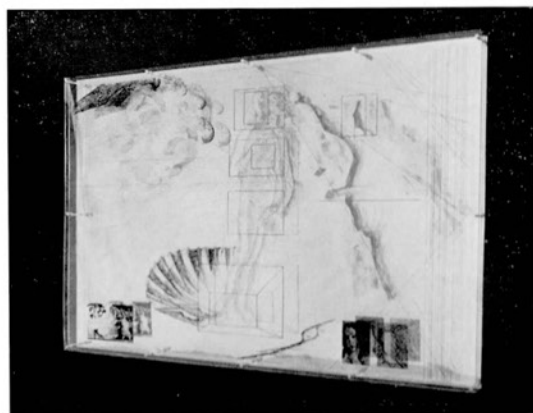
137 舟の家族 (22回行動展) 佐藤 真一



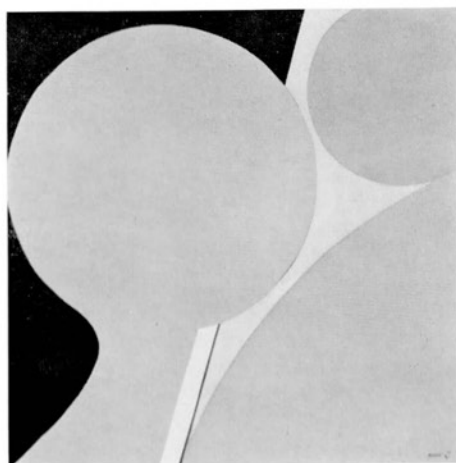
138 蒼緑の村 (22回行動展) 向井 潤吉



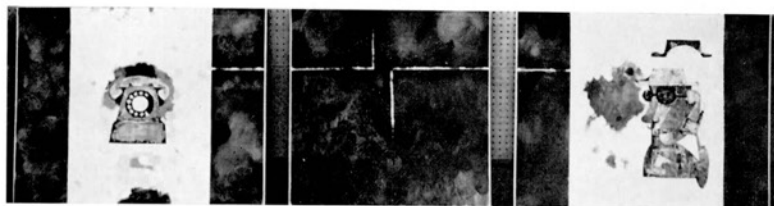
139 ライフ (22回行動展) 江見 絹子



140 ポッチェリ・ヴィナスの誕生より (22回行動展) 森 口 宏一



141 影(2) (22回行動展) 田中 稔之



142 One dey (31回新制作展) 玉置正敏



143 部屋 (22回行動展) 森真吾



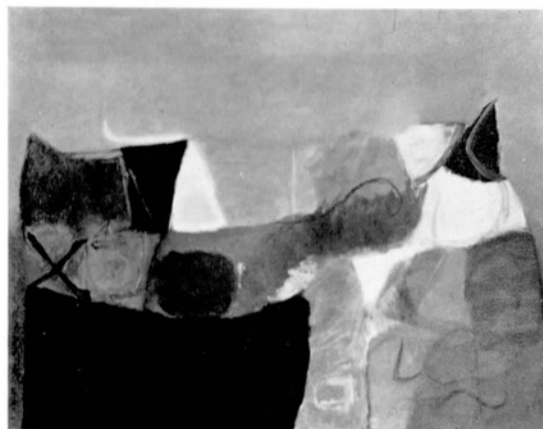
144 エジプトの鷹 (31回新制作展) 三岸節子



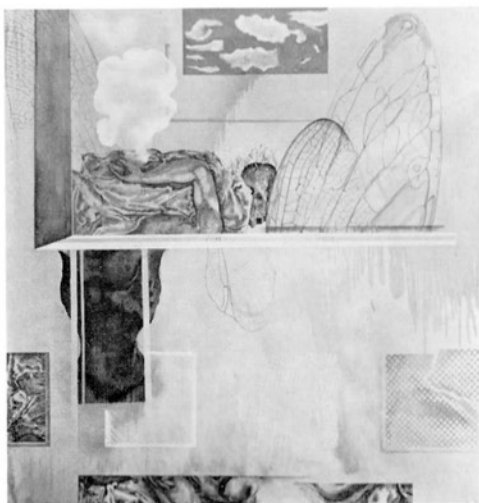
145 白い椅子 (31回新制作展) 小磯良平



146 デリカテッセン (31回新制作展) 脇田和



147 系譜 (31回新制作展) 佐野ぬい



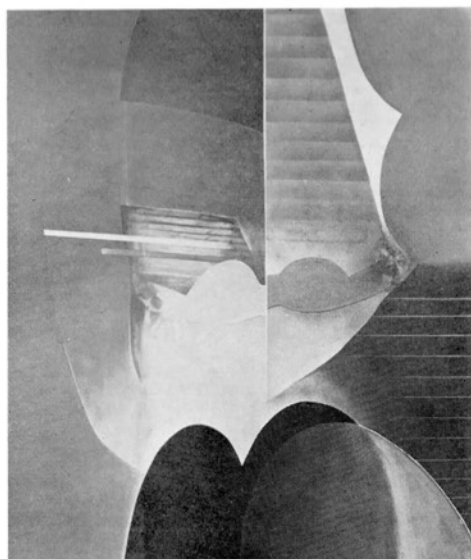
148 自閉的窓風景 (31回新制作展) 麻田 浩



149 ピオロニスト (1回美術環展) 増田 誠



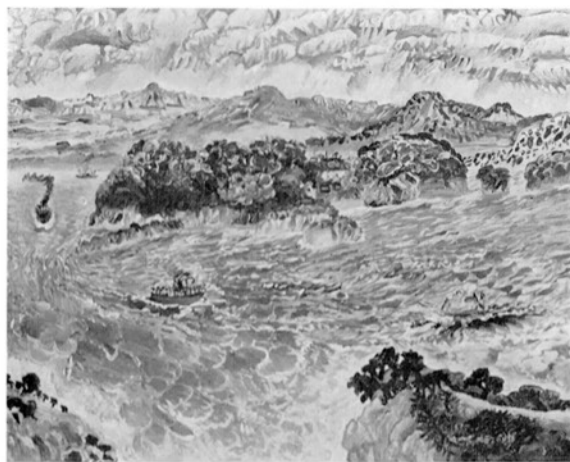
150 背後の人 (31回新制作展) 大里光春



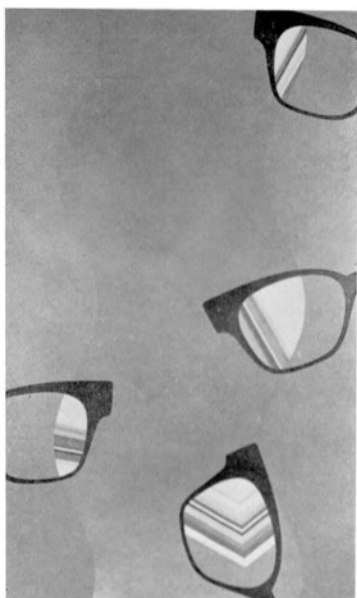
151 変身Q (31回新制作展) 岡崎 紀



152 ベアトリス (個展) 里見勝蔵



153 来島水道仲度島附近 (13回一陽展) 野間仁根



154 色メガネと外界 (13回一陽会展) 北山 泰斗



155 日あし (31回自由美術展) 八幡 健二



156 二人 (31回自由美術展) 永田 力



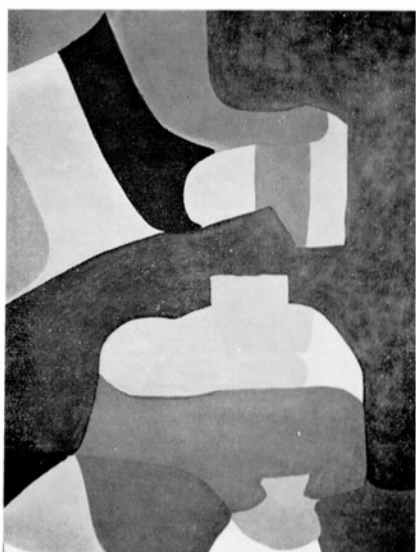
157 休憩 (31回自由美術展) 井上 長三郎



158 ニースの冬 (35回独立展) 高橋 達四郎



159 南の国 (35回独立展) 海老原 喜之助



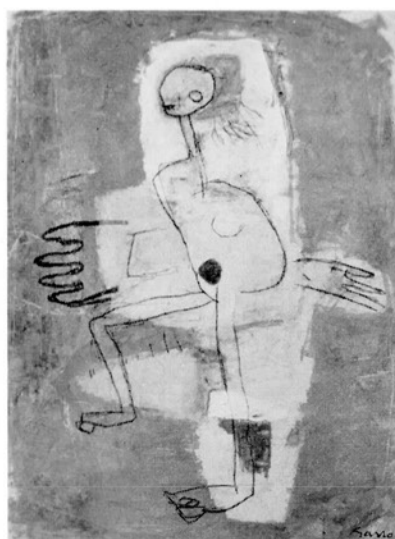
160 展望台 (35回独立展) 山本 正



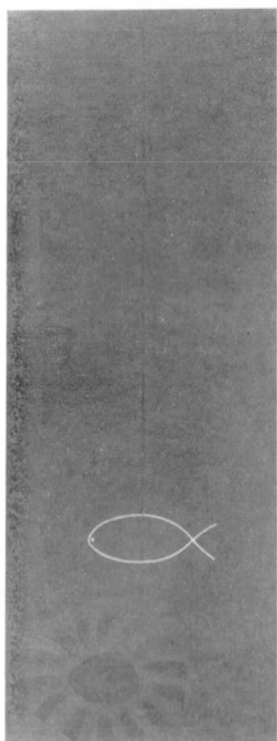
161 S駅オープン (21回二紀展) 西村 功



162 隅田川 (21回二紀展) 中川 紀元



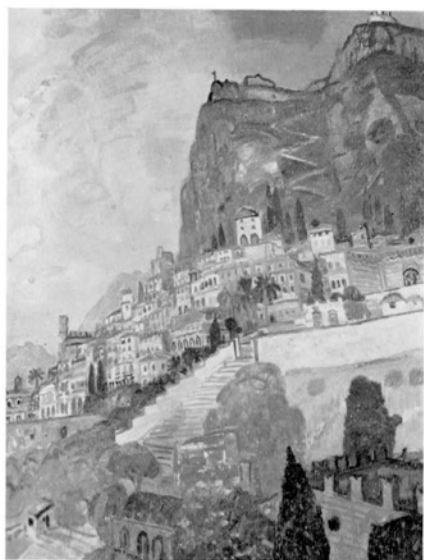
163 青いオヘソ (21回二紀展) 佐野 繁次郎



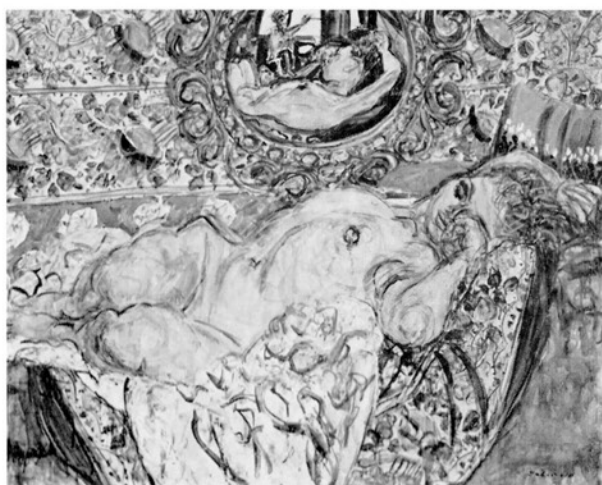
164 赤い糸 (21回二紀展) 高井 貞二



165 海岸 (21回二紀展) 星崎 孝之助



166 シシリー風景 (21回二紀展) 田村孝之助



167 鏡の前 (21回二紀展) 宮本三郎



168 あひる (10回日展) 佐川忠金



169 マジョリカ壺の薔薇 (10回日展) 小山敬三



170 塔のある入江 (10回日展) 西山真一



171 房州の春 (10回日展) 広瀬功



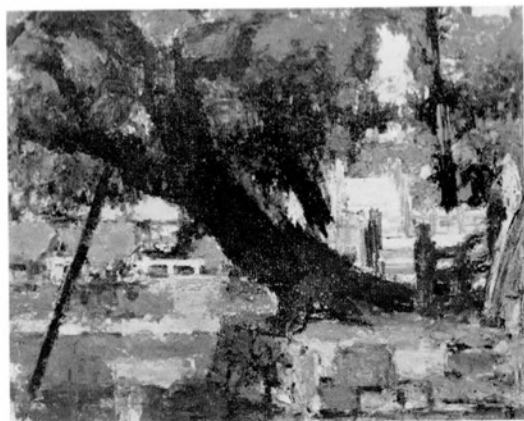
172 落合晩秋 (10回日展) 日野耕之祐



173 ぎおん (10回日展) 小島清雄



174 西さす漁港 (10回日展) 奥田憲三



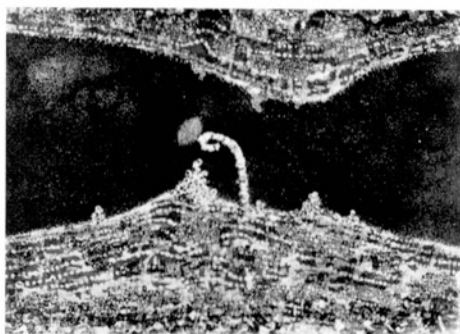
175 神苑 (10回日展) 三上浩



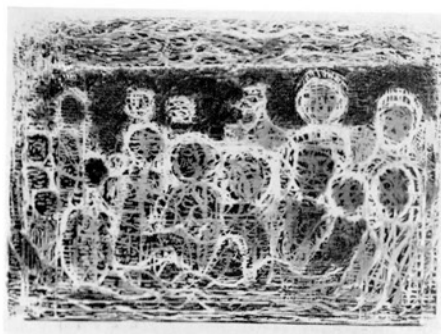
176 最上川峯 (10回日展) 真下慶治



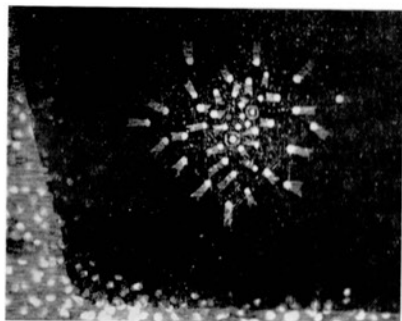
177 作品 (個展) 齋藤義重



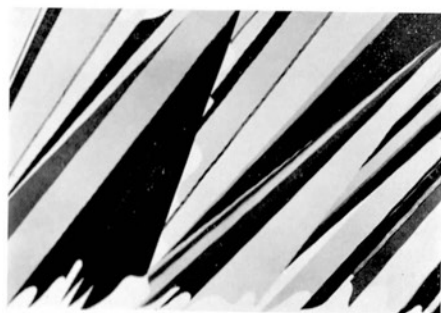
178 丘の芽 (44回春陽展) 三井 永一



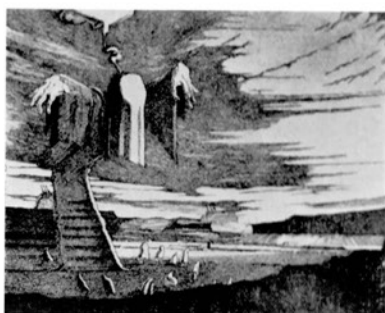
179 真夏の海辺 (44回春陽展) 古川 竜生



180 座標・黄 (35回日本版画協会展) 吹田 文明



181 作品 (35回日本版画協会展) 日下 賢二



182 風景 (9回日本国際美術展) 浜田 知明



183 飛翔 (35回日本版画協会展) 上野 誠



184 広告 (モード3) (35回日本版画協会展)
松本 健



185 少女 (9回日本国際美術展) 南 桂子



186 作品・B (13回一陽展) 野間 桂子

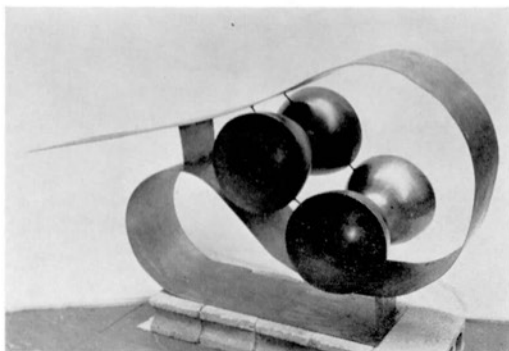


187 審判の柵 (10回日展) 榎方 志功

版 画



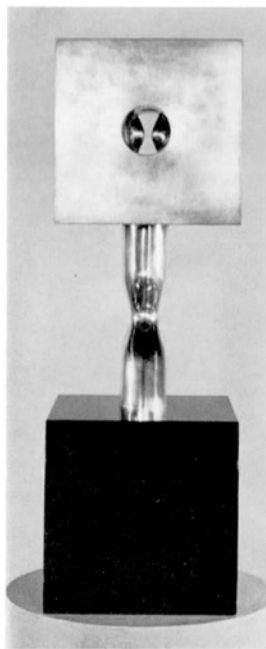
188 慰霊の泉(靖国神社境内)井上武吉



189 作品(67年モダンアート展)橋本正司



190 連続空間67(9回日本国際美術展)井上武吉



192 えくぼのある正六面体(個展)
堀内正和



193 曲芸(41回国展)
小川清彦



191 円・2・生(67年モダンアート展)広井力

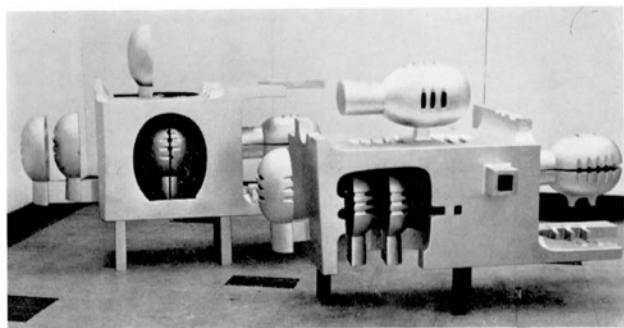


194 Station(9回日本国際美術展)ヨシダ・ミノル



195 あるポーズ(41回国展)桜井祐一

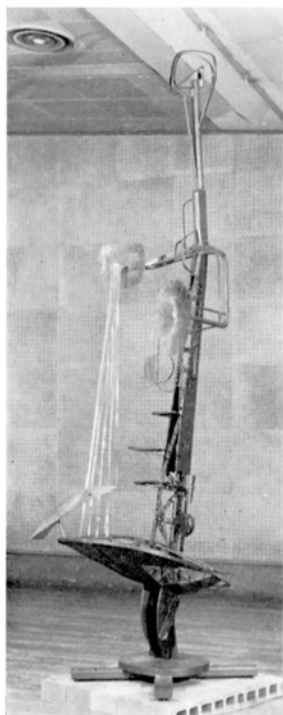
彫刻



196 マイホーム, No. 2 (個展) 鈴木 実



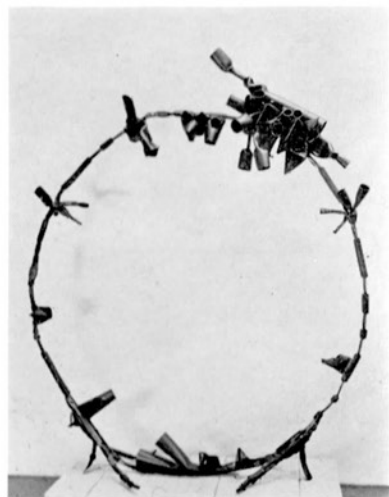
197 四角い窓 (9回日本国際美術展) 小田 翼



198 カラスとトーテム (14回日府展)
河野道生



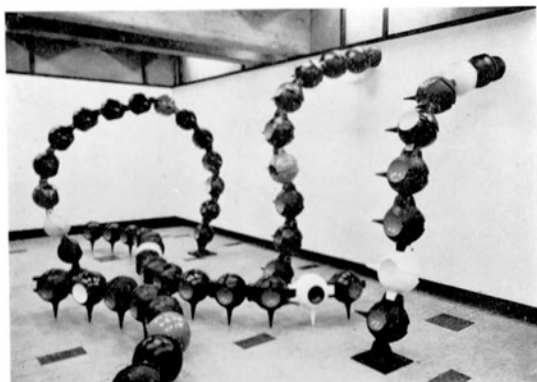
199 まのい—4 (個展) 柳 新也



200 単子の風笛 (9回日本国際美術展) 塩見 哲郎



201 コの記号67—7 (9回日本国際美術展) 野水 信



202 ミュータント (個展) 村松 達也



203 ふくろう (和光美術展) 木内 克



204 こまいぬ (16回創型展) 三 木 貞 夫



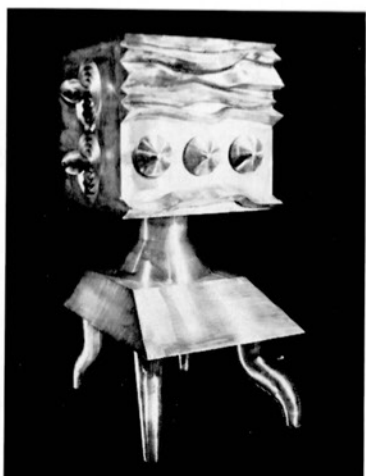
205 滴 (52回二科展) 村 岡 三 郎



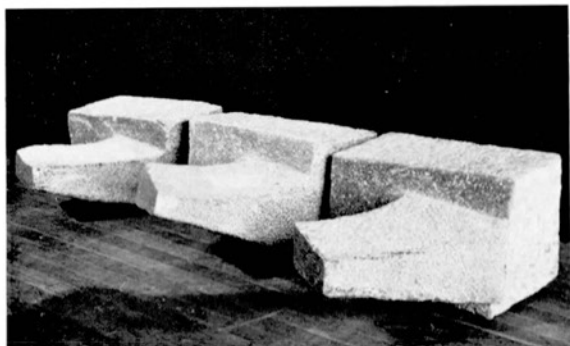
206 美濃窯の老陶工 (13回一陽展) 植 木 力



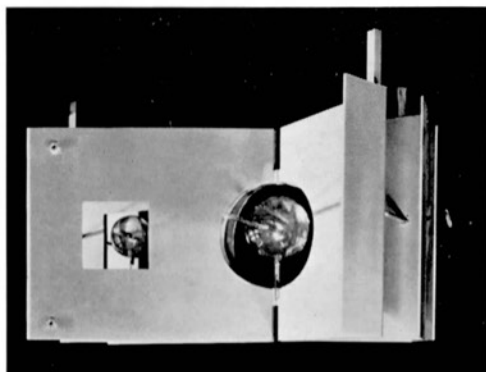
207 泉 (16回創型展) 中 野 四 郎



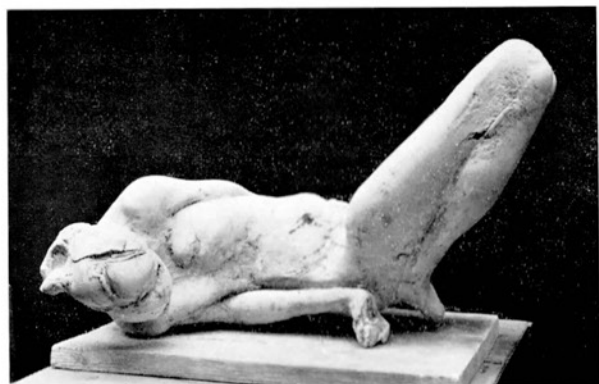
208 ORGAN—BOX (22回行動展) 建畠 寛造



209 元元元 (13回一陽展) 横 沢 英 一



210 二つの世界 (22回行動展) 中 島 快 彦



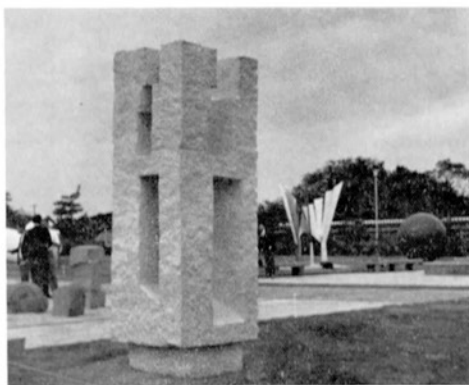
211 波 (31回新制作展) 一色邦彦



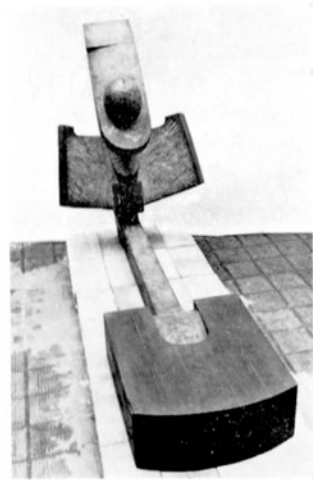
212 神殿に (52回二科展) 野水信



213 原生の譜 (31回新制作展) 木郷新



214 作品66-7 (2回現代日本彫刻展) 土谷武



215 MASK 67G (31回新制作展) 澄川 高一



216 昇る太陽 (31回新制作展) 五十嵐芳三



217 風の祭典 (2回現代日本彫刻展) 岸田克二



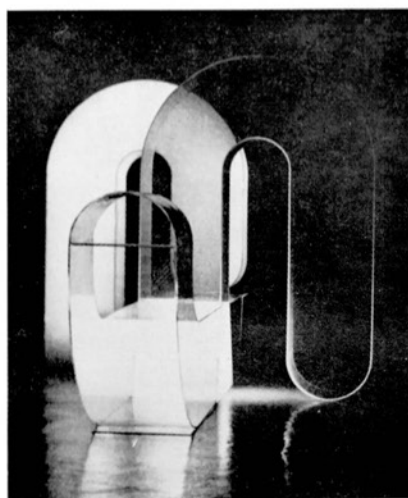
218 のんきな雲 (個展) 新宮 晋



219 生存 (52回二科展) 笠 置 季 男



220 黄色の花 (21回二紀展) 小 島 弘



221 作品 (長岡美術節賞展) 山 口 勝 弘



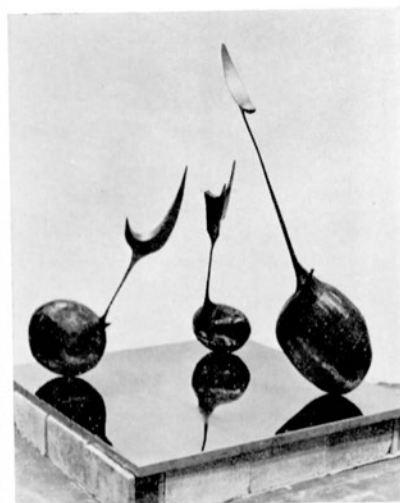
224 明治 (17回檀会展) 柳 原 義 達



222 銀の蝶 (個展) 伊 本 淳



223 67~17 (31回自由美術展) 池田宗弘



225 餓鬼 (31回自由美術展) 島 田 忠 恵



226 裸婦 (10回日展) 木下 繁



227 燭明り (10回日展) 水船六洲



228 静観 (10回日展) 中村博直



229 粧 (10回日展) 横山豊介



230 ヨブ (10回日展) 山本 稚彦



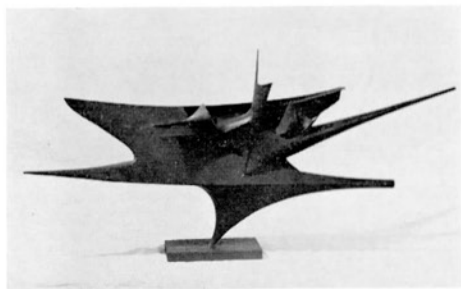
232 業火 (10回日展) 今城国忠



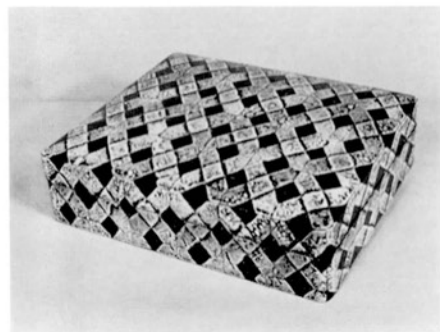
233 裸婦 (10回日展) 清水多嘉示



231 女 (10回日展) 蛭田 二郎



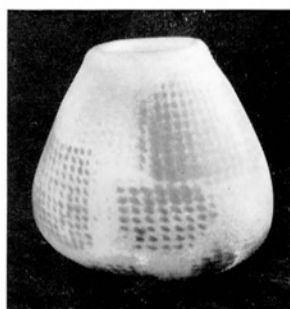
234 破船 (日本現代工芸美術展) 鈴木 治 平



235 卵殻交差貼文庫 (国展) 丸 山 太 郎



236 飛翔 (光風会展) 松 風 栄 一



240 籾 (和光美術展) 岩 田 藤 七



238 線と環 (和光美術展) 橘 部 弥 弐



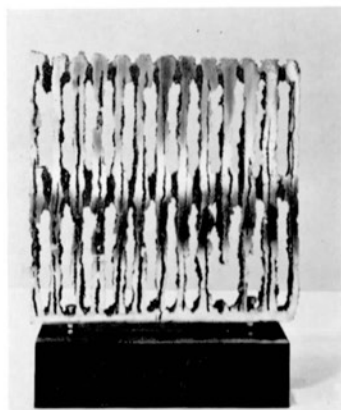
239 赤絵面取方壺 (和光美術展) 浜 田 庄 司



241 つき (和光美術展) 高 村 豊 周



237 伝説の峯 (光風会展) 山 形 駒 太 郎



242 スタイロフォーム (日本現代工芸美術展) 鈴木 貫 爾

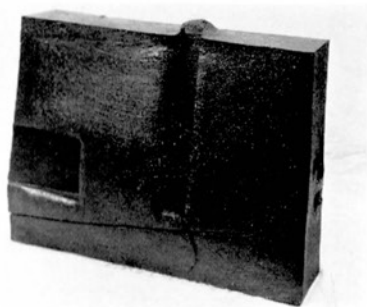


243 いのちの詩より (新協展) 戸 島 甲 喜

工芸・デザイン



244 休翼千里夢（日本現代工芸美術展）西 大 由



246 押（日本現代工芸美術展）亀 井 勝



247 通（日展）川 原 和 夫



248 雅楽（日本伝統工芸展）中 島 政 子



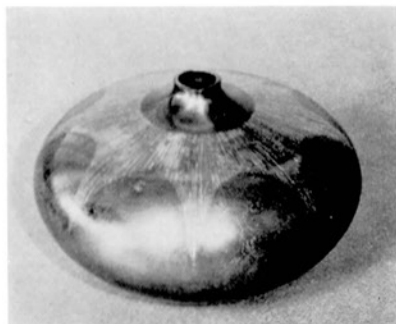
249 油滴天目蓋物（日本伝統工芸展）佐々木 正



245 クリスタルペンギン（日本現代工芸美術展）各 務 敏 三



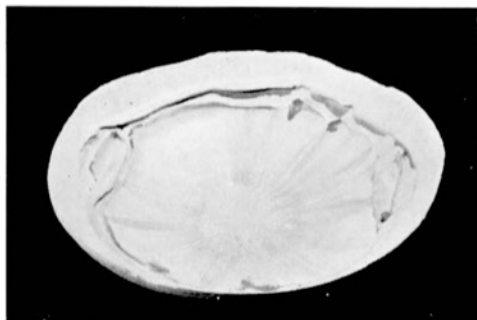
250 創生（日展）松 本 為 佐 祝



251 銅鍍流金文壺（日本伝統工芸展）北 村 一 朗



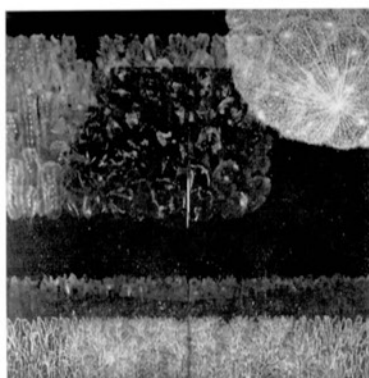
252 積心（日本現代工芸美術展）宮 崎 芳 郎



253 盤（日本現代工芸美術展）安 田 友 彦



254 ある微笑 (日宣美展) 中河原暉朗・辰巳 四郎



256 彩苑 (日展) 井 波 唯 志



257 春想 (日展) 海 野 建 夫



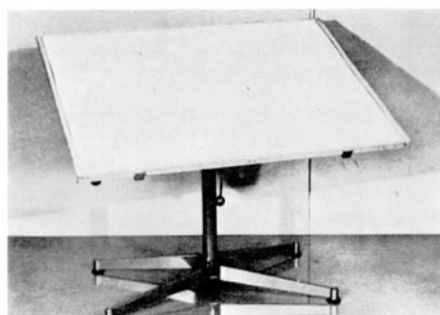
255 童女と亀 (日展) 山 脇 洋 二



258 レベル3 (日宣美展) 松 永 真



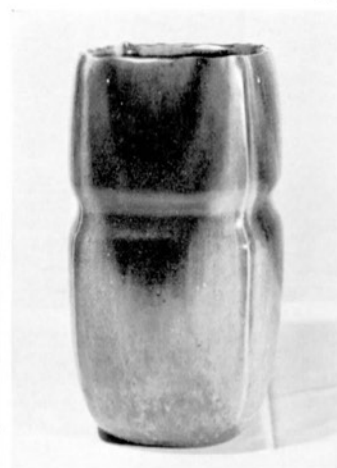
259 叫える (日宣美展) 大橋利樹・辰巳四郎



260 ドラクター用製図台 (毎日工芸デザイン展)
安間 康男・小森 康弘・佐々木三智雄



261 クリスタル小鉢セット 河 合 祥 子



262 懸重瓶 (日展) 叶 光 男



263 ジャンセン水着ポスター (日宣美展)
長友 啓典・加納 豊明



264 百十四銀行本店 日建設計工務大阪事務所



265 佐渡グランドホテル 菊竹清訓建築設計事務所



266 山形ハイドリームランド
黒川紀章建築・都市設計事務所



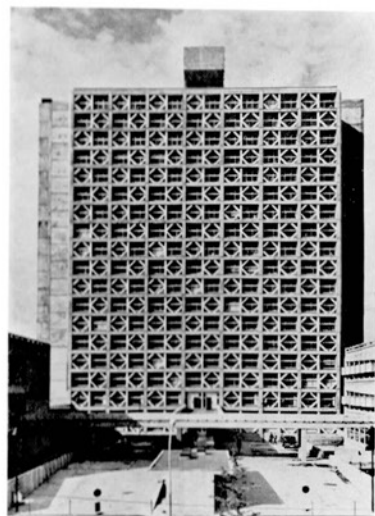
267 ゆかり文化幼稚園 丹下健三・都市建築設計事務所



268 日本館（モントリオール万国博）芦原義信建築設計研究所

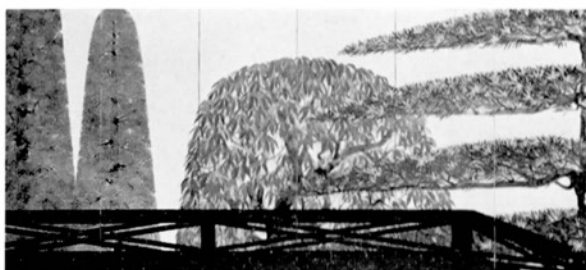


269 千葉県文化会館 大高建築設計事務所



270 早大理工学部新館 安東勝男設計

建 築



271 新樹の曲（童子を偲ぶ展）川 端 竜 子



272 京の舞妓（生誕百年記念藤島武二展）
藤 島 武 二



273 少女（裸像にみる岡田三郎助・黒田清輝の
芸術展）岡田三郎助



274 三彩手壺（河井寛次郎遺作展）河井寛次郎



275 復員（香月泰男・高山辰雄展）香月 泰男



276 午後（香月泰男・高山辰雄展）高 山 辰 雄



277 ケイフラマン（原勝郎遺作展）原 勝 郎



278 銅色の月（山口薫展）山 口 薫

回顧と遺作



279 山路 (大観生誕100年展) 横山大観



280 箱のある自画像 (燦光・関根正二展) 燦光



281 群落 (岡鹿之助展) 岡鹿之助



284 虹のある風景 (野口謙蔵遺作展) 野口謙蔵



282 カズラ (勅使河原蒼風の彫刻) 勅使河原 蒼風



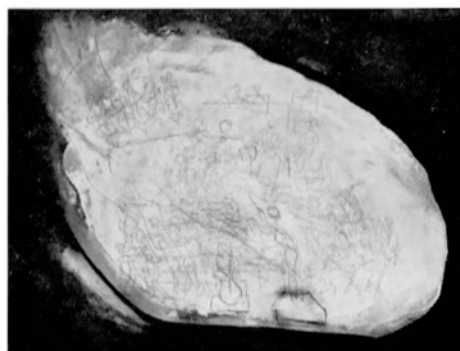
283 Mの像 (久保孝雄遺作展) 久保 孝雄



285 海辺の村 (中村彝展) 中村 彝



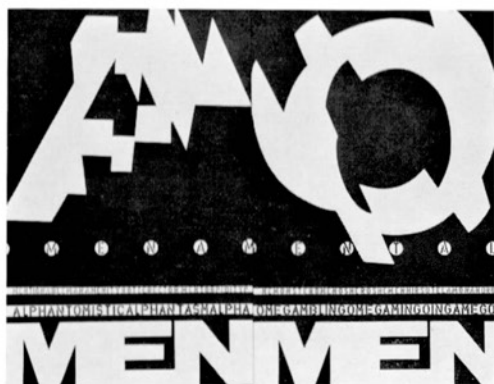
286 三星 (関根正二・燦光展) 関根 正二



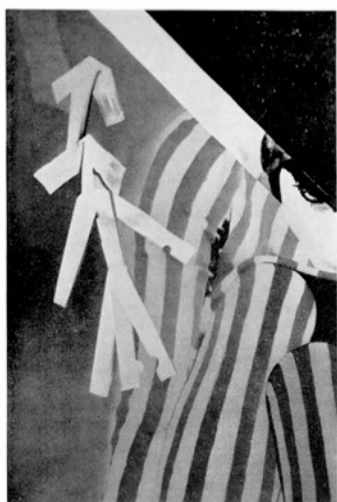
287 オーケストラ (三岸好太郎展) 三岸 好太郎



288 イオとアルゴス (ボンバイ古代美術展)



289 PUBLIT 詩画8 (日本国際美術展) フェルディナンド・クリベット



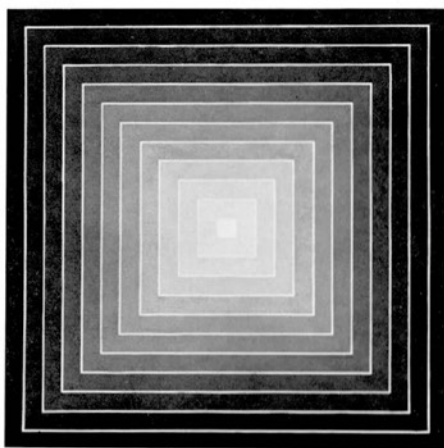
290 間違った方向 (日本国際美術展)
ボル・マラ



291 権力と栄光 (グラフィック・アート
USA展) D・シュウオーツ

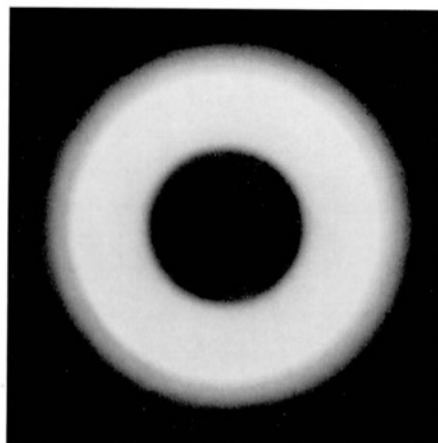


292 神像 (メソポタミア展)

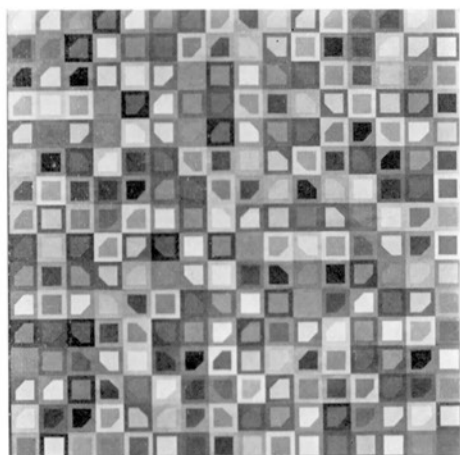


293 無題 (日本国際美術展) フランク・ステラ

外国の作家と作品



294 核分裂 (日本国際美術展) ピーター・セッジリー



295 Mets (日本国際美術展) ピクトル・バザルリー



296 カフェにて (日本国際美術展) アルベルト・ジャコメッティ



297 自転車 (日本国際美術展) ローウェル・ネスビット



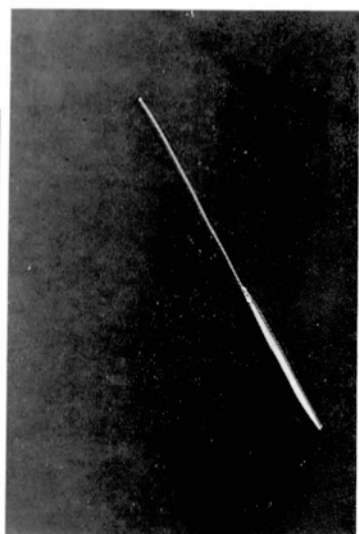
298 ブリュージュの白鳥の争い (日本国際美術展)
アンドレ・マッソン



299 絵画72・G1965 (日本国際美術展)
ジェラルド・シュネーデル



300 私の母 (日本国際美術展)
アンドレ・コタゴ



301 フォンタナに捧ぐ12 (日本国際美術展)
ネルソン・ライルナー



302 ランプのある静物（二科展）ビュッフェ



303 犬と家族（二科展）アベル



304 ル・アーヴルのアトリエでの画家とモデル
（デュフィ回顧展）デュフィ



305 浴槽（現代イタリア美術展）ヴァレリオ・アゲーミ



306 ほろほろ鳥（古代イタリア美術展）



307 作品（二科展）モンタネリ



308 ローシ（現代イタリア美術展）ミムモ・ロテッラ



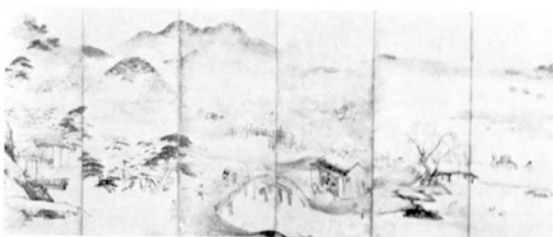
309 荷馬車の集まる所（ソ連絵画50年展）フレンツ



310 海の幸 青木 繁 財団法人ブリヂストン美術館



311 生々流転 横山大観筆 細川護立



312 紙本着色四季耕作図 久岡守景筆 石川県立美術館



313 絹本着色普賢延命像
広島県 持光寺



314 絹本着色親鸞上人絵伝
愛知県 如意寺



315 鮭 高橋由一筆
東京芸術大学



316 女 荻原守衛作
東京国立博物館



317 絹本着色細川成之像
徳島県 丈六寺



318 木造釈迦如来坐像
京都府 宮垣区



319 木造観音菩薩坐像
福井県 長慶院

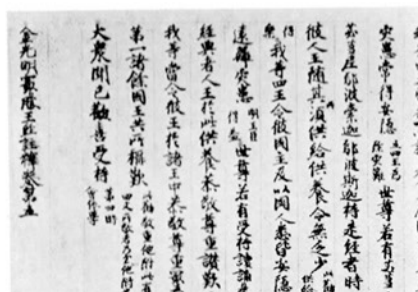
新指定重要文化財



320 木造馬頭観音坐像 福井県 中山寺



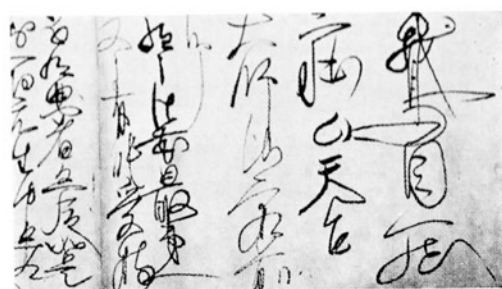
321 金銀装菱 山形県 慈光明院



325 金光明最勝王經注釈 奈良県 東大寺



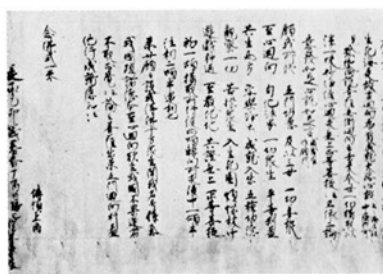
322 金銅装獅子宝相華文説相箱 大阪府 財団法人藤田美術館



326 日蓮自筆遺文 静岡県 大石寺



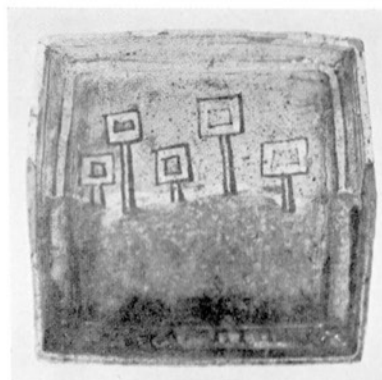
323 金銀密教法具 同上



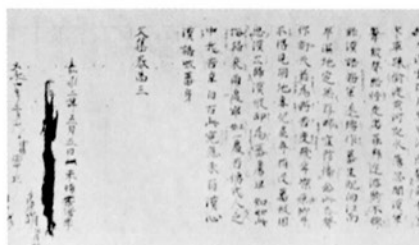
327 念仏式 京都府 竜谷大学



329 弥生式台付角形土器 熊本県 小林崎也



324 織部角形鉢 東京都 井川比呂志



328 白氏文集 京都府 神田喜一郎



330 弥生式水注形土器 奈良県 大和歴史館



331 鏡瓦—平安時代 摂津四天王寺境内出土 大阪府 四天王寺



332 宇瓦—平安時代 摂津四天王寺境内出土 同左



336 創造如来立像 (大和般若寺石造 十三重塔内納置品) 奈良県 般若寺



333 古井家住宅 兵庫県 古井徳治



337 伊佐爾波神社 楼門・廻廊 愛媛県 伊佐爾波神社



334 衡梅院本堂 京都府 衡梅院



338 霊台橋 熊本県 砥用町



335 鶴岡八幡宮末社丸山稻荷社本殿 神奈川県 鶴岡八幡宮

本欄

昭和42年美術界年史

1 月

○毎日芸術賞 第8回毎日芸術賞(昭和41年度)のうち美術部門は「渡米後の回顧展の成果」によって岡田謙三に、また、特別賞は「香川県の建築及び都市開発のデザイン・ポリシー」に対し金子正則知事を中心とする建築関係者一同に対し贈ることを1日決定した。尚本年度は*大賞、の該当なしと決定。

○東郷青児画業50年展開催 二科会展初入選の「パラソルさせる女」から現在に至る迄の作品、油絵約70点、デッサン20点を東京銀座松屋で5日から11日まで展覧した。

○縄文晩期の円型集会場発見 昭和35年から発掘が続けられている大分県大石遺跡から、1月9日円型の集会場跡らしいものが発見された。

○沖縄で日本古美術展ひらかる 文化財保護委員会・琉球政府共催による「日本古美術展」が1月20日から2月19日にわたって約1ヶ月間ひらかれた。

○ルーブル美術館展観記念「日本名画展」 41年春開催の「フランスを中心とする17世紀ヨーロッパ名画展」の見返りにルーブルで開かれた「日本名画展」の出品作が帰国したのを機会に、1月24日から29日の6日間これらの作品の特別展観が東京国立博物館で行なわれた。

○安井賞 洋画の新人賞第10回安井賞は、1月26日光風会所属宮崎進「見世物芸人」に決定した。

○北関東で銅鐸発見 1月27日栃木県小山市田間西裏の畑で農作業中の中村ときさんが銅製の器具を発見、やがて、これが小形銅鐸であることが判明、現物は文化財保護委員会の保管するところとなった。この発見により、銅鐸の分布圏の東限は静岡から一挙に北関東にまで拡大されたことになる。

2 月

○梅原竜三郎自作を国立近代美術館に寄贈 梅原竜三郎は画業60年にわたる自作の逸品を戦後買い戻し収集していたが、国立近代美術館の新築を期に初期の風景画から系統的、時代別に約20余点を寄贈すると文部省に申し出た。

○オリエント7千年展開催 東大のイラン・イラク調査団10年の発掘・調査成果を集め、調査報告を写真などの資料で展示したほか、日本に招来された古代文明の遺品約4,000点を展覧した。主催は東大イラク・イラ

ン遺跡調査団、東京新聞社、東京中日新聞社で2月17日から3月1日まで、日本橋白木屋で開催。

○中川一政展 1914年作「酒倉」から未発表の本年作品まで約70点を展示する画業50年回顧展が2月17日から22日まで銀座、松屋で開催された。

○日本最古の八角塔跡発見 京都市の西南、長岡丘陵の東麓にある檜原庵寺の発掘が奈良国立文化財研究所の指導のもとに、2月24日から3月末にかけて行なわれた。今回の調査により、これが飛鳥時代末に創建され、長岡京の造営時に補修された八角塔をもった寺院跡であることが判明した。

○文化財保護委員会は31日41年度の国宝・重要文化財の指定を発表 今回の新指定には国宝絵画1、彫刻4、工芸品2、書跡6、考古1、建造物1の15件、重文は絵画11、彫刻11、工芸品16、書跡9、考古10、建造物21、計78件。今回の指定は明治時代に重点がおかれ、はじめて明治の油絵や彫刻(高橋由一「鮭」、下村観山「弱法師」、青木繁「海の幸」、大観「生々流転」、荻原守衛「女」、慶応義塾三田演説館などが重文に指定されている。

3 月

○東京国立近代美術館の新築工事始まる 東京都千代田区代官町の一角、竹橋畔(旧皇居北の丸の一角)に敷地を決定した東京国立近代美術館の新築工事は、3月3日地鎮祭を行ない、基本設計にもとずき鹿島建設の手で工事に着工されることになった。

○ユーゴスラヴィア・イコン展 東京及び京都国立博物館、朝日新聞社主催、外務省、文部省、ユーゴスラヴィア大使館後援で、同国、とくにマケドニア地方に伝わる11世紀—17世紀にわたるすぐれたイコン40点が選ばれ3月3日—31日まで東京国立博物館で展示された。イコンがまとめて紹介されたのは初めてで、意義ある展観であった。(京都展4月8日—5月7日)

○第4回国際青年美術家展 ビエンナーレ形式で開かれてきた国際青年美術家展(主催日本文化フォーラム)の今回第4回展は日本とアメリカの45歳以下の青年画家の競作となった。米国側76点、日本側は2,500点の応募作から93点を入選作として陳列、グランプリは前田齊に贈られた。3月4日—14日東京池袋西武百貨店で開催。

○芸術選奨 41年度(第17回)の芸術選奨の受賞者が9日、文部省から次の通り発表された。

美術部門 池田満寿夫(版画) 赤地友哉(漆芸)

昭和42年美術界年史

他演劇、映画、音楽、舞踊、文学、古典芸術、評論等の部門は略。(毎年各芸術部門で特にすぐれた業績をあげたり新生面を開拓した者に贈られる賞)

○岡山後楽園の復旧なる 元禄13年(1700)備前藩主池田綱政の創設した後楽園は、昭和20年の戦災によって庭内の諸建築もほとんど炎上してしまった。昭和32年度からその復旧事業が始まり、このほど完成をみ、3月11日に復旧記念式典を挙行政した。

○学士院賞きまる 日本学士院は13日、42年度(第57回)の恩賜賞受賞者及び日本学士院賞を決定発表した。美術関係では「平安時代世俗画の研究」で東大文学部助教授秋山光和が受賞した。

○ユトリロ展開催 ユトリロの初期から晩年に及ぶ回顧展で、白の時代。を中心に油絵、グワッシュ、水彩等149点の作品が集められた。我国では最初の大規模なユトリロ展であった。3月23日から5月7日まで開期を延長、毎日新聞社主催により東京セントラル美術館で開催。

○文化財の新指定 3月27日から30日まで4日間にわたり開かれた文化財専門審議会の答申にもとづき、文化財保護委員会は3月31日、新たに国宝15件、重要文化財78件、史跡17件、名勝1件、天然記念物11件、重要民俗資料3件、重要無形文化財3件、計128件の指定を決定した。

○重要無形文化財保持者決定 文化財保護委員会第4分科会は28日、重要無形文化財保持者として5氏を決定したが、その中美術工芸関係では竹芸の生野祥雲斎、友禪の森口華弘の2氏が選ばれた。

4 月

○竹久夢二展開催 大正初期、京都で初個展を開き青春期のひとときを過した夢二にとってはゆかりの深い京都、岡崎の市美術館で、200数十点の遺作、遺品を集めて2日から回顧展が行なわれた。

○レンブラント展開催 東京国立博物館では日本経済新聞社と共催で4月2日から5月16日まで「レンブラント名作展」を開いた。出品された作品は20代から晩年に及ぶ作品で「学者の肖像」、「フローラ」(エルミタージュ博物館蔵)、「ほほえむサスキア」(ドレスデン美術館蔵)等、油絵11点、エッチング素描155点。東京にひきつづき5月25日から京都国立博物館でも開催された。

○芸術院賞受賞者決定 41年度恩賜賞と芸術院賞の受賞者の6名が選ばれたが美術関係は下記が6日決定した。芸術院賞

上村松篁「樹下幽禽」(第30回新制作展)に対し(日)
佐藤太清「風騷」(第9回日展出品作)に対し(日)
島村三七雄「巽橋」(第34回独立展)等の業績に対し(洋)

浅見隆三「爽」(第9回日展出品作)に対し(陶芸)

金子鳴亭「丘壑寄懷抱」(第9回日展出品作)に対し(書)

佐藤武夫 建築界につくした多年の業績に対し
受賞式は5月29日、日本芸術院会館で行なわれた。

○ボムベイ古代美術展 国立西洋美術館、読売新聞社共催で4月8日から東京、国立西洋美術館で開催。更に6月8日から大阪市立美術館、7月末からは福岡県文化会館で開かれた。イタリア政府、イタリア中亜極東研究所、ナポリ国立美術館の協力を得て、ブロンズ、テラコッタ、ガラスなどボムベイ美術の最も特徴的な遺品約200点を選んで送られてきたもので、古代ローマの美術と生活の歴史を偲ばせる興味深い展覧であった。

○メソポタミア展開催 紀元前5千年の農耕文化に端を発するメソポタミアの高度な古代文明を伝えるメソポタミアの遺宝が、秘蔵するイラク国立博物館、及びイラク共和国政府の好意によって日本で初めて公開された。特に国外持出を禁じていた「メスカラムドック」の金かぶと、「青銅のディオニソス像」等数十点の特別出品も含め、美術的にも考古学的にもきわめて価値の高い逸品が約300点展覧された。東京国立博物館、イラク文化情報省、中日新聞社その他中日系新聞社の共催で22日から東京国立博物館で開催。

○藤島武二展開催 藤島武二、生誕100年を記念する展覧がブリヂストン美術館に於て、日本経済新聞社と共催で4月27日から5月28日まで開かれ、明治・大正・昭和にわたる足跡を示す約170点に及ぶ作品が出品された。

○橋本関雪美術館開館記念展 旧橋本関雪の自宅並びに庭園を開放、美術館として関雪の東西に亘る美術コレクションを中心に随時特別展を開くことになった。第1回は記念展としてギリシャ陶芸展を29日から開催した。

5 月

○河井寛次郎遺作展開催 昨秋逝去した河井寛次郎の遺作展が、日本民芸館、大原美術館、毎日新聞社の主催で2日から7日迄日本橋高島屋で開かれた。50余年の陶業を回顧する、代表作約200点の他、京都河井家の内部を会場に再現する他、彼の蒐集した民芸品も陳列され、河井芸術の全ぼうをよく伝えた。

○第9回日本国際美術展開催 毎日新聞社、日本国際美術振興会主催、5月10日から30日まで東京都美術館で開催。参加17カ国、280余作家480余点の出品で、特別陳列としてホアン・ミロとジャコメッティの版画50点を展示した。(受賞については97頁参照)

○近代日本の版画展開催 明治以降、小林清親から現代までの創作版画の歴史的展望を試みた展覧で、国立近代美術館では初めての企画であった。石井柏亭、坂本

繁二郎、万鉄五郎等洋画家の手になる版画も含め280余点が5月20日から6月18日まで展示された。

○**中尊寺金色堂内陣部材の特別陳列** 39年3月より東京国立文化財研究所保存科学部において修理が進められていた金色堂内陣部材の漆芸部門の修理が終了したのを記念し、東京国立博物館でこれら部材の特別展覧が行なわれた。

○**四国八十八箇所文化財総合調査(高知県)おわる** 文化財保護委員会美術工芸課が中心となって行なっていた四国八十八箇所文化財総合調査は、高知県を最後に4カ年にわたる作業を終了した。

6 月

○**国立近代美術館京都分館が独立** 国立近代美術館京都分館は1日から独立、京都国立近代美術館(館長今泉篤男)として発足した。

○**「近代日本画の名作」展開催** 国立近代美術館京都分館が京都国立近代美術館として昇格、独立したのを記念しての展覧会で、伝統的日本画の再認識を促す企画展であった。

○**芸術院の会員選考法など衆院で問題となる** 6月2日、衆院文教委員会で、芸術院会員の選考法、各部定員の不均衡、或は写真、華道その他へ門戸を拡げよなどの発言があり、更に7月には芸術議員連盟の有志代議士と芸術院会員有志(中曾根康弘、麻生良方、北村西望、川端康成、宮本三郎ら12人)が懇談会を開き、今後とも討議を重ねることとなった。

○**山口薫展開催** 画業40年を回顧し、1926年作から近作まで約80点を陳列、6月16日から銀座松屋で開いた。

○**日本芸術院長に高橋誠一郎再選** 日本芸術院では23日の総会で院長選挙を行ない現院長、高橋誠一郎を再選した。

7 月

○**岡倉天心記念公園落成** 東京都台東区谷中の岡倉天心旧宅跡が区立岡倉天心記念公園として開放されることになり12月開園式が行なわれた。東隅に六角堂を模した天心史蹟記念堂がつけられ、平櫓田中による、天心の上半身像(約1米)が納められる。

○**大観生誕百年記念展開く** 山種美術館開館1周年記念特別展として大観展が開かれた。前期展(7月21日—27日)と後期展(8月1日—27日)と2回に分け総出品数約80点、大観の画業を回顧するにふさわしい数年ぶりの大回顧展であった。

○**日石寺不動堂(重文)焼失** 富山県上市町の日石寺不動堂が7月23日全焼した。不動堂は解体修理中であったが、この火災で損焼をまぬかれた旧部材は僅少であ

った。

○**厳島神社本殿被焼(国宝)の屋根破損** 7月24日午前9時ごろ、厳島神社被焼の檜皮葺の屋根が燃えているのを発見、すぐ消火されたが、消火作業の際、屋根の一部が破損された。

○**野口謙蔵遺作展開く** 将来を期待されながら昭和19年、43歳で逝去した官展系作家野口謙蔵の遺作展が18年ぶりで開かれ、全作品304点を収録したカタログも出版された。初期のフォーヴ風の作品から、郷土、滋賀県琵琶湖畔の風土と生活に至純の慕情をささげた南画風の後期作品まで、約60点が銀座、彩壺堂で展示された。

○**平安中期の埋没家屋の発見** 秋田県鷹巣町胡桃館で平安中期の豪族の居館跡と推測される三棟の建物と棚が発掘された。なおこの付近には建築部材の出土するところがあり、更に何棟かの埋没家屋の存在が予想されている。

8 月

○**ルノワール展** 毎日新聞社主催で東京を初め名古屋、大阪、静岡、福岡の各地で開かれた。東京は上野松坂屋を会場に8日から20日まで開催され、油絵57点、彫刻6点、リトグラフ12点が出品され、英・仏の画廊、蒐集家から作品が集められた。

○**現代美術の動向展** 過去1年間、最も活動し、注目を集めた作家を選んで、その作品を展示する、京都国立近代美術館の企画展で、広く新人作家を選出し、現代美術の新しい認識を意図する展覧会である。

○**ミシガン大学「石濤展」に重文の石濤画参加** ミシガン大学は創立150周年を記念して東洋学会会議を開催し、その際「石濤展」を中心とする東洋美術の展覧を行った。日本からは住友家の、廬山観瀑図及び黄山八勝図冊(共に重文)の2点のほか数点が出品され、米沢嘉圃、鈴木敬両氏が記念講演を行なった。

9 月

○**現代イタリア美術展開催** カポグロッシ、フォンタナ、カステラーニ、彫刻家ではボモドロ兄弟、ソマイーニなど、主としてローマ、ミラノを中心とする現代イタリア第一線の画家、彫刻家49名の作品93点を集めた展覧会で、ローマ国立近代美術館との共催で、9月2日から東京国立近代美術館で開かれた。

○**北海道立美術館開館**(9月3岸展、10月黒田清輝展) 去る7月12日、故三岸好太郎の遺作油絵61点、デッサン水彩等159点が節子未亡人より好太郎出身地の札幌市に設立準備中の道立美術館に寄贈する事となり、去る7月12日神奈川県立美術館で北海道知事に目録が贈

呈されたが、9月3日道立美術館が完成。三岸の遺作220点を陳列開館した。三岸の作品を陳列する美術館の設立を条件に遺作の寄贈を申し出たことから、急拠美術館の設立が企てられ旧図書館を改装設立となったもの。寄贈作品は節子夫人、黄太、土方定一ら15人の運営委員会によって管理される。

○文部省芸術家在外研修制度発足 本年から芸術各分野の新人(若手作家)を海外に派遣し、研修させようと文部省が始めた研修制度に4名が選ばれた。

美術—奥谷 博(洋画) 音楽—若杉 弘(指揮)
舞踊—横井 茂(振付演出) 演劇—増見利清(演出)

○カンヌ、ビエンナーレ展で野崎利喜男受賞 南仏カンヌで開催の同市主催第2回国際絵画、彫刻ビエンナーレ展の絵画部門で野崎利喜男がカンヌ大賞を受賞した。14日発表。

○サンパウロ、第9回「ビエンナーレ国際美術展」で吹田文明受賞 日本からは、本年は日本代表コミッション—益田義信の参加出品計画の許に大規模の日本現代版画140点の外、特徴的な日本画を出品、そのうち吹田文明の版画が最優秀賞をうけた。尚9カ国、9人の国際審査員の中、日本からは久保貞次郎氏が招待参加した。

○鳳凰堂屏絵の模写一部完成 宇治平等院鳳凰堂の屏絵のうち「中品上生図」2面の模写が完成し、鳳凰堂北側の位置に取りつけた。同寺では全ての屏絵を模写に置きかえ、鳳凰も模造品につけかえて、本物は収蔵庫におさめる方針。

10 月

○中村彝遺作展開催 中村彝の遺作展としては74点も集められたのはめずらしく、久しぶりで展覧された作品も少くなかった。新宿駅ビル6階画廊で14日から開かれ、多くの入場者があった。

○文化勲章受章者決定 本年度の文化勲章受章者は27日正式決定発表された。美術関係では、林武(洋画)、村野藤吾(建築)が選ばれた。また豊道春海は、書では初めての文化功労者となった。文化勲章の伝達式は11月3日、功労者の顕彰式は同6日に行なわれた。

○古代イタリア美術展開く 東京国立博物館及びイタリア文部省の主催で10月28日から12月17日まで、上野東京国立博物館で開催。出品作 は先史時代からローマ時代、紀元後3—4世紀に亘り、ローマ、フィレンツェを初め、イタリア全域を含む16の博物館から送られてきている。時代的にも、地域的にも広く、かつ体系的な展覧となった。

○ソ連絵画「50年展」開く 日ソ文化交流の一つとして先に日本から「近代日本画名作展」を企画、作品を送ったのに対するもので、ソ連は、1917年の革命後から現代に至るまでの50年間のソ連近代美術の歩みを展望

する作品が送られ、展示することになったもの。50年の歩みを概観出来る展覧としては初めてで、きわめて有意義な催しとなった。

11 月

○デュフィ回顧展開催 国立西洋美術館、京都国立近代美術館では、フランス文化省、同国立美術館総局、パリ国立近代美術館の協力を得て、我国では初めての総合的なデュフィ回顧展を開いた。出品は、フランス各地の美術館31カ所の他、個人コレクター等からで、油彩80点の他水彩、グワッシュ、版画、タピスリイなど総計200点に及んだ。東京は11月3日から開催したが京都は昭和43年1月4日から開かれた。

○岡鹿之助展開催 画業40年記念展として毎日新聞社主催の許に渋谷東急百貨店本店で11月17日から29日まで開催、初期の「信号台」から最近作まで97点を展覧した。昭和38年の白木屋展につぐ第2回目の回顧展である。

12 月

○朝倉彫塑館開館 東京都台東区谷中の故朝倉文夫のアトリエをそのまま保存し、財団法人組織で朝倉文夫遺作陳列館がつくられ、12月2日から開館した。公開は毎週、土・日・月の3日間、理事長高橋誠一郎、常任理事坂崎垣。

主要美術展覧会 索引

* 目録掲載

現代美術

1 月

名所絵展(サントリー美).....	7
川端竜子展(三越).....	7
日本画の新春展(山種美).....	7
東郷青児展(松屋).....	7
大倉集古館展(大倉集古館).....	7
第2回主体美術会員展(村松画廊).....	7
日本洋画壇1967年展(白木屋).....	7
神奈川文化財展(有隣堂).....	7
池田満寿夫銅版画展(京王).....	7
第17回東西文化交渉資料展(天理ギャラリー).....	8
長谷川昇回顧展(三越).....	8
ルネッサンス・ミュニアチール展 (日経ギャラリー).....	8
跡見泰回顧展(日動サロン).....	8
第10回安井賞候補新人展(国立近美).....	8
和光美術展(和光).....	9
版画と立体による作品展(みゆき画廊).....	9

2 月

第2回昭和会展(日動サロン).....	9
現代ポーランド版画展「前期」(日本画廊).....	9
ハンス・ベルメール展(南画廊).....	9
森会展(資生堂画廊).....	10
第20回日本アンデパンダン展(都美).....	10
ドラム展(吉井画廊).....	10
春和会展(孔雀画廊).....	10
第10回中央公論新人展(中央公論画廊).....	11
現代アメリカのリビング・アート (京都国立近代美).....	11

3 月

第17回日本南画院展(東京都美).....	11
立軌会春季展(ギャリ・アルカンシェル).....	11
日本の四季シリーズ展(山種美).....	11
近代日本の美術展(国立近美).....	11
ユーグラスラヴィア・アイコン展(東京国立博物館).....	11
第4回国際青年美術家展(西武).....	11
第27回美術文化協会展(都美).....	12
長崎展(サントリー美).....	12
日本現代版画展(ポール・ギャラリー).....	12
第10回新協記念展(都美).....	12
アンデパンダン展(京都市美).....	12
春の名品展(大和文華館).....	12
第6回日本実在派展(文芸春秋画廊).....	13
第9回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展	

出品作国内展示(国立近美).....	13
第9回アントワープ国際彫刻ビエンナーレ 国内展(現代彫刻センター).....	13
第26回水彩連盟展(都美).....	13
第43回白日展(タ).....	13
第19回三帆会展(タ).....	13
第20回示現会展(タ).....	13
ユトリロ展(東京セントラル美).....	14
第22回日本美術院春季展(三越).....	14
創元会10人展(高島屋).....	14

4 月

走泥社展(伊勢丹).....	14
木内克彫刻展(現代彫刻センター).....	14
* 第17回モダンアート展(都美).....	14
第35回日本版画協会展(都美).....	16
初期京焼展(根津美).....	16
第25回美術文化協会展(大阪市立美).....	16
第53回光風会展(都美).....	16
第26回創元会(都美).....	16
第7回同時代展(資生堂ギャラリー).....	16
第14回サンシュマン展(高島屋).....	16
近代日本の絵画と工芸(京都国立近美).....	16
グラフィックアートUSA展(国立近美).....	16
* 高山辰雄・香月泰男展(鎌倉近美).....	16
* ボンベイ古代美術展(国立西洋美).....	17
第4回具象美術展(横浜市民ギャラリー).....	17
第15回日彫展(都美).....	17
裸像にみる黒田清輝・岡田三郎助の芸術展 (伊勢丹).....	18
小泉清遺作展(高島屋).....	18
山本豊市彫刻展(現代彫刻センター).....	18
三岸好太郎展(南天子画廊).....	18
吉原治良個展(東京画廊).....	18
第5回虹の会日本画展(兼素洞).....	18
* 第44回春陽会展(都美).....	18
* 第41回国画会展(タ).....	20
第33回東光会展(タ).....	21
メソポタミア展(東京国立博物館).....	22
近代日本の洋画名作展(石橋美).....	22
第15回青羊会日本画展(三越).....	22
* 藤島武二展(ブリヂストン美).....	22

5 月

高田博厚彫刻展(現代彫刻センター).....	23
河井寛次郎遺作展(高島屋).....	24
日本の素描(山種美).....	24
第27回日本画院展(都美).....	24

主要美術展覧会 索引

* 第9回日本国際美術展(都美).....	24
独立18人展(資生堂ギャラリー).....	24
* 第6回日本現代工芸美術展(高島屋).....	30
久保孝雄遺作展(現代彫刻センター).....	31
日本洋画のあけぼの秋田蘭画(大和文華館).....	31
* 近代日本の版画展(国立近美).....	31
'67の視覚展(都美).....	34
版画にみる明治時代展(本間美).....	34
岩田藤七個展(高島屋).....	35

6 月

菊地一雄自選展(現代彫刻センター).....	35
恩賜賞・日本芸術院受賞作品展(松屋).....	35
日本洋画の巨匠たち(神奈川県立博物館).....	35
トルコ洞窟教会壁画展(三越).....	36
55回日本水彩画展(都美).....	36
* 山口薫展(松屋).....	36
海老原喜之助(日動画廊).....	37
第2回日本芸術祭出品作品国内展示 (国立近代美).....	37
原勝郎遺作展(高島屋).....	38

7 月

第4回太陽展(日動画廊).....	38
* 大観生誕100年展(山種美).....	38
ジャスパー・ジョーンズ展(南画廊).....	39
近代日本の水彩と素描(東京国立近美).....	39
* 現代美術の動向展(京都国立近美).....	39
野口謙蔵遺作展(彩畫堂).....	39
* 日本画150年展(鎌倉近美).....	39

8 月

戦争展(日本画廊).....	43
ルノワール展(上野・松坂屋).....	43
* 第19立軌展(三越).....	43
* 杉浦非水遺作展(三越).....	43
第11回日宣美展(京王).....	45
* 異色の近代画家たち(京都国立近美).....	45
* 第21回新樹会展(三越).....	47
第11回シェル美術賞展(白木屋).....	48
佐伯祐三回顧展(西武).....	48
高井貞二展(高島屋).....	48

9 月

* 第52回二科展(都美).....	48
* 第22回行動展(ク).....	50
* 第52回日本美術院展(ク).....	51
* 現代イタリア美術展(東京国立近美).....	53
* 開館記念三岸好太郎展(北海道立美).....	55
* デュフィ展(日動画廊).....	57
岩田藤七回顧展(資生堂ギャラリー).....	58

* 第31回新制作協会展(都美).....	59
* 第13回一陽会展(都美).....	60
* 近代日本の工芸(京都国立近美).....	61
徳川期の画家たち展(神奈川県立近美).....	63
19人のシュールレアリスト展(東京画廊).....	63
* 第14回日本伝統工芸展(三越).....	64

10 月

第19回具体美術展(セントラル美).....	66
* 近代洋画名品展(名古屋・名鉄百貨店).....	66
* 第2回現代日本彫刻展(宇部市野外彫刻美).....	67
第1回美術環境展(日本画廊).....	67
* 第35回独立展(都美).....	68
* 第21回二紀展(ク).....	70
* 第31回自由美術展(ク).....	70
* 中村彝展(新宿ステーションビル).....	72
今日の作家'67年展(横浜市民ギャラリー).....	72
* 黒田清輝個展(北海道立美).....	73
近代日本画名作展(前期)(山種美).....	74
秋の名品展(大和文華館).....	74
現代イタリア美術展(京都国立近美).....	75
* 鑑光・関根正二展(鎌倉近美).....	75
* ソ連絵画50年展(東京国立近美).....	76
古代イタリア美術展(東京国立博物館).....	77
京都の美術工芸100年(京都市美).....	77

11 月

* 第10回日展(都美).....	78
棟方志功展(日本橋・東急).....	82
大倉集古館所蔵品展(大倉集古館).....	82
五島美術館名品展(渋谷・東急).....	82
日本民芸館展(日本民芸館).....	82
* デュフィ回顧展(国立西洋美).....	82
* 第6回国際形象展(三越).....	85
近代日本画名作展「後期」(山種美).....	87
* 岡鹿之助展(東急本店).....	88
5人の日本画家展(日本画廊).....	89
* 第4回長岡現代美術賞展(長岡現代美).....	89

12 月

フランス近代美術展(東急本店).....	90
* 勅使河原蒼風の彫刻展(京都国立近美).....	90
第11回安井賞候補新人展(東京国立近美).....	92

美術展覧会

〔現代美術〕

1 月

8 回日展 2—8 京都市美術館
 笹鹿彪個展 2—11 ギャラリー・アルカンシエル
 日本美人画展 2—11 西武
 名所絵展 3—2月26 サントリー美術館
 村島西一墨彩展 4—7 丸善画廊
 川端竜子展 4—8 三越
 熊谷守一・武者小路実篤二人展 4—8 上野・松坂屋
 千種達夫日本画展 4—8 三越
 坂本雅城禅画展 4—11 京王百貨店
 睦月会日本画展 4—11 小田急
 日米版画展 4—11 京王百貨店
 武者小路実篤近作展 4—13 伊勢丹
 鎌倉近代美術館所蔵名品展 4—15 鎌倉近代美術館
 現代アメリカ絵画展 4—22 京国立近代美術館
 日本画の新春展 4—2月19 山種美術館
 東郷青児展 5—11 松屋
 日展日本画受賞作家展(秋葉長生・高橋澄爽・山岸純・石川響・大日躬世子・川島浩・篠崎之男・関根将雄・田所浩・野々内良樹・三浦白瑠) 5—11 松屋
 ミニチュア展 5—11 東和画廊
 中国陶磁名宝展シリーズ染付 5—15 五島美術館
 東京国際版画ビエンナーレ展 5—22 国立近代美術館
 5×3—1=14人展(内田信・石垣栄蔵・小川寛里ほか) 5—22 ルナミ画廊
 ピカン版画展 5—31 南天子画廊
 大倉集古館展 5—5月7 大倉集古館
 市村一画展 6—10 銀芳堂画廊
 佐賀直衛画展 6—10 銀芳堂画廊
 新春新人展 6—11 日動サロン

斎藤真成小品展 6—14 大阪・ハクホウ画廊
 岡村康彦・芳野二夫展 7—13 紀伊国屋画廊
 交楽竜弾個展 7—14 ギャラリー創苑
 旺玄会委員展 8—13 銀座ヤマト画廊
 笠原司雄新春展 8—21 画廊喫茶ジャパン
 岡田久春展 9—14 養清堂画廊
 5人展 9—14 サエグサ画廊
 古美術展 9—14 西村画廊
 新進作家油絵展 9—14 シロタ画廊
 四方会展 9—14 中公丸ビル画廊
 西嶋俊親個展 9—14 文芸春秋画廊
 八人展(大沢昌助・織田広喜・斎藤三郎・寺田竹雄・野村守夫・塙賢三・藤川栄子・藤沢典明) 9—14 ときわ画廊
 武内博洲個展 9—15 大阪・信濃橋画廊
 早川義孝展 9—20 東金堂ギャラリー
 北村竺画展 9—21 壱番館画廊
 木村嘉子個展 9—21 日本画廊
 にもかかわらず微笑む展 9—21 サトウ画廊
 '67 OBJECT TEN(伊藤隆康・植田充・遠藤平雄・岡崎和郎・佐藤慶次郎・杉原康弘・鈴木亘・高橋閑夫・松本哲・円池茂) 9—21 画廊クリスタル
 3回八駿会展(牛島憲之・岡信孝・近藤弘明・稗田一穂・広瀬功・堀文子・森芳雄・渡辺学) 9—21 スルガ台画廊
 稲葉治夫個展 9—22 夢土画廊
 宮田茂登絵更沙塾展 10—14 丸善画廊
 加藤十右エ門作陶展 10—15 三越
 現代彫塑展 10—15 三越
 堀内正和彫刻展 10—16 秋山画廊
 二科水墨展 10—18 一方堂画廊
 具家版画展 10—21 美松書房画廊

ちいさなちいさな絵の展覧会 11—15 松坂屋
 西塔義睦個展 11—15 銀芳堂画廊
 6人展(高井道夫他) 11—16 椿近代画廊
 おぎくぼ画廊賞候補展 11—16 おぎくぼ画廊
 岡村天溪画展 11—17 竹川画廊
 2回主体美術会会員展 11—20 村松画廊
 池田満寿夫展 12—21 日本橋画廊
 大森啓助歌舞伎絵展 12—21 ギャラリー・アルカンシエル
 鈴木亜夫展 12—21 日動サロン
 桑田笹舟近作展 13—17 松屋
 新春淡彩展 13—17 京王梅田画廊
 日本洋画壇1967年展 13—17 白木屋
 花房英樹油絵展 13—17 大丸
 神奈川県文化財展 13—18 有隣堂
 洋画巨匠展 13—18 西武
 賛美会展 13—18 東和画廊
 バリ展 13—23 日動画廊
 池田満寿夫銅版画展 13—25 京王百貨店
 ミナミケイコ版画展 14—18 小田急
 まつだひろこはりえのはな展 14—20 西銀座デパート
 伊東深水展 14—24 伊勢丹
 ソ連近代名画展 14—2月28 京都市立美術館
 日本水彩画会京都支部展 16—19 京都府ギャラリー
 川口精六個展 16—21 フォルム画廊
 加藤土師萌色紙展 16—21 みゆき画廊
 北村綱義個展 16—21 資生堂ギャラリー
 黒田穰個展 16—21 樺画廊
 後藤義雄色紙展 16—21 大倉画廊
 酒井俊幸個展 16—21 全線画廊
 3人展(小久保・原・酒井) 16—21 ギャラリー創苑
 島田正治墨画展 16—21 中公丸ビル画廊

美術展覧会(1月)

下村正三個展 16—21 丸善画廊
知求会春季展 16—21 昭和画廊
2人展(村上・天野) 16—21 全線画廊
古沢恒敏個展 16—21 サエグサ画廊
'67新春内外名品展 16—21 大阪・梅田画廊
長谷嶺二郎個展 16—21 文芸春秋画廊
西田藤次郎個展 16—22 銀芳堂画廊
吉田公子個展 16—22 シロタ画廊
3人展(互井開一・木村純寛・三保憲司) 16—31 ヨコヤマ画廊
松下元夫個展 16—31 コトブキ・ギャラリー
三上正寿小品展 16—31 新宿・カドー画廊
難波田史男個展 16—2月4日 第七画廊
17回東西文化交渉資料展 16—5月15日 天理ギャラリー
板倉洋二・山田孝展 17—22 椿近代画廊
泉田康治版画展 17—22 松坂屋
長谷川昇回顧展 17—22 三越
椎名剛美・石井滋二人展 17—22 三越
高野良之助個展 17—22 石田画廊
窓美会日本画展(神谷信慧・葛原輝・杉山もと子・武村秀水・村野深水) 17—22 上野・松坂屋
松山徹展 17—22 椿近代画廊
9回藝会日本画展 17—22 高島屋
松本陽子個展 17—23 秋山画廊
中国陶磁名宝展(染付) 17—2月12日 五島美術館
創立40周年記念展 18—2月1日 紀伊国屋画廊
おぎくぼ画廊選抜展(歌田春恵・片田隆) 19—22 おぎくぼ画廊
レモン展(城所昌夫・倉石隆・塚谷政善・手塚益雄・渡カ敷唯言・中島保彦) 19—26 東和画廊
豊田一男展 19—28 飯田画廊
伊藤順子油絵個展 20—25 京王梅田画廊
新制作受賞者展 20—25 西武
結城天童日本画展 20—25 大丸
丹室会日本画展 20—25 白木屋

森田元子ヨーロッパスケッチ展 20—25 松屋
日本画総合展 20—29 京都府ギャラリー
3回桂花会展(小倉遊亀・堀川公子・小市美智子・小松澄佳・飯塚万千子) 20—30 一方堂画廊
8回日展 20—2月19日 愛知県美術館
松声会展 21—24 松崎画廊
大町公子個展 21—26 村松画廊
荒木道子個展 21—26 村松画廊
井出彫刻展 21—26 村松画廊
高間夏樹個展 21—26 村松画廊
麻生花児個展 21—31 絵画堂ギャラリー
ルネサンス・ミュージアチール展 21—3月26日 日経ギャラリー
本木美佐夫個展 22—28 画廊喫茶ジャポニ
伊勢正義個展 22—31 ギャラリー・アルカンシエル
安東千恵子作品展 22—2月21日 新宿・風月堂
129回現代版画展 23—28 わたなべアートサロン
小林はくどう・関根伸夫展 23—28 椿近代画廊
島田章三油絵個展 23—28 サエグサ画廊
示現会5人の作家展(大内田茂士・橋原建二・松本重雄・田原輝・奈良岡正夫) 23—28 千代田画廊
藤田忠夫個展 23—28 サエグサギャラリー丸の内店
堀川恭彰刻展 23—28 ときわ画廊
小野彦三郎個展 23—28 資生堂ギャラリー
5000展 23—28 樺画廊
ラースボー個展 23—28 養清堂画廊
因藤寿個展 23—28 毫番館画廊
庄司剛個展 23—28 ルナミ画廊
春の会展 23—28 中丸ビル画廊
田中正憲個展 23—28 椿近代画廊
佐藤義郎個展 23—28 スルガ台画廊
小林貴久個展 23—28 文芸春秋画廊
柳瀬正代個展 23—29 夢土画廊
現代日本異色作家展 23—29 京都

アヅマ・ギャラリー
ななし会グループ展 28—29 銀芳堂画廊
跡見泰回顧展 23—30 日動サロン
鶴岡洋銅版画個展 23—2月4日 サトウ画廊
5回珠紅会展 24—29 高島屋
熊谷登久平油絵展 24—29 三越
本阿弥光仙茶陶展 24—29 三越
松本奉山水墨画展 24—29 上野・松坂屋
緑映会日本画展(加藤栄三・杉山寧・高山辰雄・橋本明治・森田沙伊・山田申吾) 24—29 松坂屋
会田富康スケッチ展 24—29 竹川画廊
井上平八郎・富樫一・島村三男展 24—30 秋山画廊
おぎくぼ画廊選抜展(松本百司) 25—30 おぎくぼ画廊
伊勢正義近作展 25—31 ギャラリー・アルカンシエル
日本バステル画会展 25—31 伊勢丹
窪田知矩・鈴子二人展 26—31 銀座ヤマト画廊
ヴォルシュ展 26—2月4日 日本橋画廊
8回新世美術会日本画展(生重定・花岡朝生・田畑安則・長島北彩・栗原慶果・黒崎義介・松永光王) 27—2月1日 大丸
綿貫宏介ポルトガル作品集 27—2月1日 松屋
日仏新進作家油絵展 27—2月1日 小田急
小品展 27—2月1日 東和画廊
グループF展 27—2月1日 村松画廊
10回安井賞候補新人展 27—2月26日 国立近代美術館
渡辺一幸個展 29—2月3日 椿近代画廊
8回松浦善夫個展 29—2月4日 画廊喫茶ジャポニ
久保吉汎個展 30—2月4日 昭和画廊
樫田伸也・山川輝夫2人展 30—2月4日 スルガ台画廊
4回八青会展(上橋薫・京野一・館野良行・田中良尊・内藤定昭・松

美術展覧会(1・2月)

本巖・三上浩・山川浩) 30—2月
4 文芸春秋画廊
和光美術展(杉山寧・徳岡神泉・中
村岳陵・橋本明治・東山魁夷・福
田平八郎・山口蓬春・梅原竜三郎)
30—2月4 和光
石浦美智代作品展 30—2月4 中
公丸ビル画廊
ネオ・フォルム4人展 30—2月4
ときわ画廊
田中義昭個展 30—2月4 文芸春
秋画廊
デビット・シルババーグ個展 30—
2月4 養清堂画廊
静寂派展 30—2月4 竹川画廊
松本英一郎個展 30—2月4 樺画
廊
石原薫展 30—2月5 紅画廊・京
都書院画廊
鳥取政昭個展 30—2月5 銀芳堂
画廊
佐々木黙風個展 30—2月5 大倉
画廊
4人展(種倉一昭・本間道晴・本田
殿信・西小野邦宏) 30—2月5
夢土画廊
斎藤寿一銅版画展 30—2月10 ギ
ャ러리・エスパース
版画と立体による作品展(村井正誠・
朝妻治郎・小川孝子・勝呂忠・山
口薫・吹田文明・清野克巳・勝本
富士雄) 30—2月10 みゆき画廊
刑部人油絵展 31—2月5 三越
菊地茂雄個展 31—2月5 石田画
廊
田代幸俊個展 31—2月5 京都画
廊16
白石篤作陶展 31—2月5 三越
羽原智達個展 31—2月6 秋山画
廊

2 月

吉田武展 1—6 おぎくぼ画廊
旺玄会選抜展 1—6 銀座ヤマト
画廊
10回日本表現派展 1—8 都美術
館
林貞子油絵展 1—8 伊勢丹
沖田稔個展 1—10 東金堂ギャラ
リー

2回昭和会展 1—11 日動サロン
2回叢立会展(榎倉雀吾・古家新・
伊谷賢蔵・柏原覚太郎・小出卓三・
向井潤吉・田辺三重松・田中忠雄)
1—14 ギャ러리・アルカンシエ
ル
吉野辰己個展 2—7 村松画廊
能仲ヤツヲ個展 2—7 村松画廊
田口雅己個展 2—7 村松画廊
井上皇光個展 2—7 村松画廊
吉原英雄版画展 2—14 壺番館画
廊
新井勝利「源氏物語」原画展 3—
8 松屋
二元会代表作家展 3—8 白木屋
内ヶ崎光枝個展 3—8 東和画廊
日本画展 3—8 西武
6回県展選抜展 3—9 都美術館
二代目川島勘兵衛回顧展 3—12
京都市美術館
6回神奈川県女流美術家展 4—9
横浜・高島屋
5回九夢展(赤川勲・加賀美勲・加
賀美榮子・杉山繁男・高橋邦明・
中林忠良・枚田美智子・深草広平)
4—9 椿近代画廊
日本大学芸術学部美術学科絵画彫刻
卒業制作展 4—9 銀座画廊・
椿近代画廊
羽山富雄展 4—9 ルナミ画廊
田中三朗近作個人展 4—11 フジ
カワ画廊
熊谷守一近作展 4—18 ギャレリ
ー・ボワン
武士の装身具 4—26 根津美術館
青山孝個展 5—10 竹川画廊
SAC作家展 5—11 樺画廊
野村清六個展 6—10 資生堂ギャ
ラリー
内田和夫個展 6—11 スルガ台画
廊
田屋幸男個展 6—11 昭和画廊
高塚篤個展 6—11 文芸春秋画廊
藤沢アイ個展 6—11 養清堂画廊
珠玉小品展 6—11 中公丸ビル画
廊
安久一郎個展 6—11 ときわ画廊
つくど会 6—11 全線画廊
福島鶴太郎個展 6—11 サエグサ
画廊
新藤健吉個展 6—11 サトウ画廊

グループ版画展 6—11 大倉画廊
9回黄樹会展 6—11 丸善画廊
川畑静江個展 6—11 文芸春秋画
廊
直野進個展 6—12 銀芳堂画廊
発言者の会 6—13 横浜市民ギャ
ラリー
斎藤隆個展 6—15 夢土画廊
フレデリック・ハリス展 6—15
ポール・ギャラリー
現代ポーランド版画展(前期) 6—
18 日本画廊
フォルム新人展(糸田芳雄・井上悟・
大沼映夫・木村訓丈・重延環子・
田中淳・八田豊・伏木澄夫・星守
雄) 6—18 フォルム画廊
ハンス・ベルメール展 6—18 南
画廊
長行治満個展 6—18 三菱電機ギ
ャラリー
霞節男個展 6—25 第七画廊
川上十郎個展 7—12 石田画廊
17回田中案山子個展 7—12 三越
寺中作雄油絵展 7—12 三越
舩田圭子草絵展 7—12 三越
9回牧人社作品展(江馬進・北村好
絵・野々内保太郎・皆川千恵子・
山田規代・小野踏青・利倉喜久子・
水野深草・安島雨晶) 7—12 高
島屋
染代々展 7—12 三越
安藤吾路青樹会洋画展(伊藤正三・
岸本政尚・小林孝一・高梨潔・手
代木英馬・土井邦晃・日向茂生・
和田甫) 7—12 上野・松坂屋
石引将也個展 7—12 銀座ヤマト
画廊
3人展(鈴木政治・佐藤昭彦・横田
幸子) 7—12 銀座ヤマト画廊
2人展(佐藤雄司・宮川範子) 7—
12 銀座ヤマト画廊
日向茂生個展 7—12 銀座ヤマト
画廊
7人の彫刻展(石井康夫・高木辰夫・
滝徹・竹田光幸・富田真平・林利
根・安丸行) 7—13 秋山画廊
3回モダンアート版画展 8—13
村松画廊
おぎくぼ画廊選抜展(海戸弘) 8—
13 おぎくぼ画廊
日楠社水墨展 9—17 伊勢丹

美術展覧会(2月)

丹象会10人展 9—17 伊勢丹
 明日葉展(宮脇公実・木内広・宮城音蔵・五味秀夫) 10—15 東和画廊
 光荘会6人展(浅田春荘・磯部客光・佐藤如泉・平尾泉荘・舟口桂荘・益田霞郎) 10—15 白木屋
 1回新彩会新作油絵展(秋保正三・青山竜水・桑原実・寺田竹雄・伊藤悌三・黒田頼綱・渡辺武夫・桂ユキ子・田中峯・野崎利喜雄) 10—15 小田急
 1回東方美術協会展 10—15 松屋
 松岡洋子個展 10—15 ルナミ画廊
 配島庸二個展 10—15 椿近代画廊
 グループ展(カルペンチュール他) 10—15 椿近代画廊
 唐津焼展 10—15 西武
 高木雅章個展 11—16 竹川画廊
 南美穂子個展 12—18 紀伊国屋画廊
 小林丙個展 13—18 日動サロン
 更科秀版画展 13—18 養清堂画廊
 芝田米三・彼末宏2人展 13—18 サエグサ画廊
 高梨潔個展 13—18 昭和画廊
 山室正子・福田陽子展 13—18 中公丸ビル画廊
 円尾博美彫刻展 13—18 スルガ台画廊
 石版画展(伊東明子・大久保垣・川端吉明・沢順子・清水洋子・橋本歌江・山中保) 13—18 中央公論画廊
 轟会展(石本正・加山又造・横山操・平山郁夫) 13—18 資生堂画廊
 賀川孝個展 13—18 ときわ画廊
 川上清次個展 13—18 サトウ画廊
 舟坂保助版画展 13—18 大倉画廊
 柏村黙個展 13—18 文芸春秋画廊
 加倉井甚三郎油絵展 13—18 みゆき画廊
 石版画展 13—18 中央公論画廊
 丸尾博美彫刻展 13—18 スルガ台画廊
 現代日本異色作家展(近藤文雄・中村宏・山下菊二・中村正義・橋本竜美・岡本信治郎・池田竜雄・大島哲以・市村司) 13—19 京都・アヅマ・ギャラリー
 高橋智恵子個展 13—19 文芸春秋

画廊
 山田良知個展 13—19 銀芳堂画廊
 具象選抜新鋭百人展 14—18 巴里画廊
 9回女流日本画創作会展 14—19 松坂屋
 双立会日本画展 14—19 上野・松坂屋
 菊地最子個展 14—19 銀座ヤマト画廊
 20回京都工芸美術展 14—19 三越
 熊谷九寿個展 14—19 高島屋
 坪内節太郎水墨画展 14—19 三越
 鈴木芳子個展 14—20 秋山画廊
 須田絢子個展 14—26 石田画廊
 三井永一版画個展 15—21 ギャラリー・アルカンシエル
 駒込繁芳個展 15—21 椿近代画廊
 彩紅会展 16—19 京都市ギャラリー
 グループ展 16—21 ルナミ画廊
 中山府二夫個展 16—21 椿近代画廊
 渡辺恂三個展 16—25 夢土画廊
 須賀野チイ・塚原琢哉展 16—3月1 壱番館画廊
 池田茂雄個展 17—22 竹川画廊
 大田俊子個展 17—22 竹川画廊
 園原小波個展 17—22 東和画廊
 中川一政個展 17—22 松屋
 春の日本画小品展 17—22 西武
 毎日商業・工業デザイン賞展 17—22 松屋
 21回新匠会公募展 17—22 京王
 射影空間(坂本正治・鈴木直) 18—25 画廊クリスタル
 14回日府展 18—27 都美術館
 大淵陽一個展 18—28 日本橋画廊
 日米現代絵画展 18—28 ポール・ギャラリー
 20回日本アンデパンダン展 18—3月2 都美術館
 11回新桃樹社展 19—3月2 都美術館
 具象選抜新鋭百人展 20—24 巴里画廊
 2回青草会展 20—25 中公丸ビル画廊
 今井ロチン新作油絵展 20—25 銀座ヤマト画廊
 130回現代版画展 20—25 わたなべ

アートサロン
 中村健一郎滞欧作品展 20—25 淀画廊
 西原千司・西原愛子二人展 20—25 昭和画廊
 野村正治個展 20—25 サエグサ画廊
 細田政義銅版画展 20—25 養清堂画廊
 山本蘭村展 20—25 日動サロン
 冬島大二郎個展 20—25 村松画廊
 吉原森一郎個展 20—25 ときわ画廊
 '67パッケージング展 20—25 丸善画廊
 棚瀬修次個展 20—25 樺画廊
 黒崎陽人個展 20—25 文芸春秋画廊
 村上巖個展 20—25 文芸春秋画廊
 小林研三油絵個展 20—25 みゆき画廊
 天野夫佐子個展 20—25 画廊クリスタル
 3回湘帆会展 20—25 美松書房画廊
 木原康行・上林千珂二人展 20—26 銀芳堂画廊
 山田彌一画展 20—26 京都アヅマ・ギャラリー
 比田井南谷近作展 20—3月4 大倉画廊
 スルガ台画廊新人選抜展(枚田美智子・吉岡弘昭) 20—3月4 スルガ台画廊
 小磯良平作品展 20—3月4 大阪・梅田画廊
 現代ポーランド版画展 20—3月4 日本画廊
 岡田博個展 20—3月5 シロタ画廊
 ドラン展 20—3月20 吉井画廊
 位双作品展 21—24 京都府ギャラリー
 春和会展(野島青々・鈴木竹柏・関主税・佐藤太清・村松乙彦・村山徑・伊東万耀・浜田台児・羽根万象) 21—25 孔雀画廊
 18回荻野康児個展 21—26 高島屋
 6回丸山妙子油絵展 21—26 三越
 加賀蒔絵展 21—26 三越
 平賀龜祐近作展 21—26 高島屋

20回京都工芸美術展 21—26 京都・大丸

沼沢仁個展 21—26 石田画廊

朝日広告賞入賞作品展 21—26 高島屋

熊坂満個展 21—27 秋山画廊

くぬぎ会展 21—27 いとう画廊

酒田洋画展 22—26 本間美術館

グループ・ドン展 22—27 ルナミ画廊

4回ぐるーぷ15展(岡本洋子・仲本千恵・加瀬満子・北村入洲美・鈴木詢子・竹内郁恵・竜田聡美・建部ひろ子・中山泰子・野畑昭子・平松裕子・広政みどり・宮本喜世・師岡洋子) 22—27 椿近代画廊

ROZO群展 22—28 椿近代画廊
日大芸術学部卒業制作デザイン展

22—28 ギャラリー・アルカンシエル
宮地竜作品展 22—3月21 新宿風月堂

3回紀元展 23—28 横浜市民ギャラリー

二科五人展(西村竜介・斎藤三郎・佐藤吉吾郎・鶴岡義雄・山本不二夫) 23—3月4 東金堂ギャラリー

林伸光個展 24—3月1 白木屋

塚原哲夫日本画展 24—3月1 大丸

蛸子善悦個展 24—3月1 東和画廊

有名コレクション展 24—3月5

京王梅田画廊

西洋版画展 24—3月8 西武

41回東京芸術大学卒業展 25—27 都美術館

6回大調和展 25—3月3 都美術館

蒼蛙展 26—28 京都府ギャラリー
壁画研究集団無次元展 26—3月3

銀座ヤマト画廊

華嚴会展(岩田藤七・上田桑鳩・木内克・田中武・寺田政明・野村清六・三上正寿・棟方志功・森治樹) 26—3月7 伊勢丹

窓井会洋画展 26—3月7 伊勢丹

中尊寺秘宝展 26—3月21 京都市美術館

柿田弘義個展 27—3月4 昭和画廊

永山友子個展 27—3月4 養清堂画廊

郭仁植個展 27—3月4 画廊クリスタル

10回中央公論新人展(日本画)(石川響・篠崎之男・関根将雄・田所浩・野々内良樹・三浦白瑠・岡本弥寿子・島田良祐・森田曠平・守屋多々志・黒沢吉蔵・堀越保二・吉村和起) 27—3月4 中央公論画廊

管野矢一画展 27—3月4 日動サロン

藤本俊子個展 27—3月4 資生堂ギャラリー

青木正春画展 27—3月4 ときわ画廊

常重実画展 27—3月4 サエグサ画廊

本田克己画展 27—3月4 フォルム画廊

上村松博画展 27—3月4 みゆき画廊

上野紀子画展 27—3月5 銀芳堂画廊

黒木邦彦画展 27—3月5 銀芳堂画廊

伊藤隆康画展 27—3月11 夢土画廊

稲木秀臣画展 27—3月11 サトウ画廊

杉全直画展 27—3月18 第七画廊

吉村益信画展 27—3月18 東京画廊

7回三多圭会展(阿部六陽・境野各柏・田崎美山・田中針水・中村玲方・藤谷雅春・山下巖) 28—3月5 上野・松坂屋

昭風会日本画油絵展 28—3月5 三越

畑田春郷油絵展 28—3月5 三越

レナード・キャスル作陶展 28—3月5 三越

角治画展 28—3月5 高島屋

鈴木悦子画展 28—3月5 ルナミ画廊

青炎会日本画展 28—3月5 松坂屋

寺田武弘彫刻展 28—3月6 秋山画廊

トルーイット展 28—3月11 南画廊

現代アメリカのリビング・アート
28—3月26 京都国立近代美術館

3 月

岡本半三新作油絵展 1—4 兼素洞

17回日本南画院展 1—6 都美術館

樋沖代画展 1—6 竹川画廊

四田淳三画展 1—7 紀伊国屋画廊

李世得画展 1—10 日本橋画廊

人物の素描展 1—10 日動画廊

立軌会春季展 1—10(秋野卓美・飯島一・五百住己・牛島憲之・大貫松三・小川イチ子・須田寿・武林敬吉・玉置弘三・丹野正弘・中谷貞彦・樹田達雄・山下大五郎・吉本弘) 1—10 ギャラリー・アルカンシエル

日本の四季シリーズ展 1—4月30 山種美術館
一陽会京都作家展 2—5 京都府ギャラリー
清原重以知作品展 3—8 小田急
寺田政明デッサン展 3—8 小田急

田坂ゆたか水彩画展 3—8 松屋
水彩画2人展(増田・大条) 3—8 松屋

鈴木敏之画展 3—8 大丸
新制作入賞グループ展 3—8 東和画廊

近代日本の美術展 3—26 国立近代美術館

絵巻展 3—28 根洋美術館
ユーゴスラヴィア・アイコン展 3—31 東京国立博物館

12回GROUP'77展(梅田博之・江戸健・栗原勇・砂原寿一・中野敏) 4—9 村松画廊

笹山長廣画展 4—9 銀座ヤマト画廊

一瀬茂治画展 4—9 村松画廊

新画会展 4—9 村松画廊

グループ展 4—9 村松画廊

4回国際青年美術家展(前田斎・フランク・ロス・瓦林睦生・ジョン・アルトーン・阪本文男・正田壤・大野増穂・ヘクター・レオナルデ

美術展覧会(3月)

イ、加賀谷武、金光松美、ジェロルド・C・バレイ、奥田善己、高橋由明、コナー・エバーツ、ピーター・W・タンジェン、小松豊、平松輝子、小久保彰、ジミー・エルンスト、ロバート・ハートマン、稲葉治夫、マリー・C・スノードン、ジャック・キャリッグ、武留井義男、太田幸雄、小野洋、高木康夫、横田健三、ジュリアン・スタンザック、アイデル・ウェバー、浅井昭、マリオ・ユリサリー、佐藤武、矢野正治、古川功、蘭部雄作、ジャック・ソネンバーク、川端紘一、ジョージ・L・バーライン、サム・チャカリアン、松田豊、互井昭子、堀越陽子、浜口富治、ノーマン・ホールデン、古屋京子、福島誠、岡田博、ジュリア・パール、矢田道也、池田定己、小林正味、ジョイス・トレイマン、大陽吉美、宇高竜、山村国品、ベン・カミヒラ、堀尾貞治、田中米吉、斎藤秀一、ダビッド・シンブソン、エリザベス・マモルスキー、野上祇磨、水崎昭雄、堀内一忠、カーメン・シセロ、クレイトン・ポンド、安部福一、藤田宏、河口竜夫、志賀健蔵、ウィリアム・ジョージンス、レオナルド・ボロック、木村和照、ミカエル・バーム、イエズ・ゴーチャー、松岡守也、山田彊一、ロバート・ハウト、金子英彦、リチャード・ミラー、名坂有子、山本文彦、俵繁徳、高岸昇、今井祝雄、柏原えつとむ、ジェラルド・ゲーフ、富浦静男、力丸義孝、加藤大博、平田逸治、鈴木康雄、丹野正弘、安達東彦、川瀬集一、ハリー・ネイドラー、清水晃、古川美保子、ロナルド・チェイス、ビンセント・ペレッツ、木原康行、阿部恵一、村田隆、山下弘喜、小松清) 4—14 西武

27回美術文化協会展 4—16 都美術館

長崎展 4—5月7 サントリイ美術館

12回新世紀美術協会展 5—16 都美術館

日本と中国の古陶磁器展 5—4月

20 白鶴美術館

三浦高志個展 6—9 椿近代画廊
中村健一郎滞欧作品展 6—11 アオイ画廊
井上重生油絵展 6—11 昭和画廊
内田如風渡米記念展 6—11 大阪梅田画廊
小野喜三郎展 6—11 中央公論画廊
城所昌夫個展 6—11 資生堂ギャラリー
野見山暁治個展 6—11 ギャラリー・ボワン
加賀谷武・代谷松男2人展 6—11 画廊クリスタル
日比野正寿個展 6—11 椿近代画廊
元山道子版画展 6—11 養清堂画廊
山路真護個展 6—11 日動サロン
王之内満雄個展 6—11 全線画廊
大橋幸子個展 6—11 樺画廊
矢野雅章個展 6—11 みゆき画廊
有田徳一油絵展 6—11 丸善画廊
3人展(布川玲子・星野かよ子・水上南里子) 6—11 ときわ画廊
スルガ台画廊新人選抜展(太田久・杉田五郎) 6—11 スルガ台画廊
竹久夢二展 6—12 精美堂画廊
中村正次個展 6—12 銀芳堂画廊
鈴木実個展 6—12 銀芳堂画廊
日本現代版画展 6—15 ボール・ギャラリー
古美術を楽しむ会展 6—25 日本画廊
日向裕作品展 7—11 フォルム画廊
林正治水彩画展 7—12 三越
渥美美峰日本画展 7—12 三越
造景美術紫山流展 7—12 三越
鈴木青々作陶展 7—12 高島屋
友人会油絵展(服部正一郎・大沼昌助・田崎広助・田村孝之介・田中忠雄・田辺三重松・中村善策・故栗原信・松本弘三・古家新・寺田竹雄・宮本三郎) 7—12 高島屋
甲竜会日本画展 7—12 上野・松坂屋
アトリエきんぼうげ作品展 7—12 松坂屋
五十嵐芳三彫刻展 7—13 秋山画

廊

10回新協記念展 7—16 都美術館
アンデバンダン展 8—14 京都市美術館
日本伝統やきもの展 8—15 伊勢丹
吉崎道治滞欧スケッチ展 8—15 伊勢丹
白洲正子工芸展 9—12 文芸春秋画廊
服部正一郎個展 9—25 東邦画廊
春の名品展 9—4月9 大和文華館
白柳会展 10—15 白木屋
近岡善次郎スケッチ展 10—15 松屋
白鳥三郎油絵展 10—15 大丸
井上清司現代一線の画家写真展 10—15 京王百貨店
佐藤吉五郎油絵展 10—15 西武
池田道康個展 10—15 東和画廊
古山康雄個展 10—15 東和画廊
新象作家展 10—15 村松画廊
2回神奈川県美術館 11—30 神奈川県立近代美術館
日彰会展 12—15 京都府ギャラリー
茨木一明・桜井敏生・島袋英男作品展 12—17 椿近代画廊
千葉二紀展 12—17 ルナミ画廊
三木弘作品展 13—18 資生堂ギャラリー
杉山和圭カワラ展 13—18 養清堂画廊
碓田勝己・関口誠2人展 13—18 昭和画廊
鳥居敏文作品展 13—18 カワシミ画廊
2回小室至個展 13—18 ときわ画廊
田崎広助・鈴木信太郎・野間仁根3人展 13—18 千代田画廊
小野貴美子個展 13—18 サエグサ画廊
小田亜紀夫水彩画展 13—18 全線画廊
青木マサオ個展 13—18 樺画廊
リ・ウファン個展 13—18 サトウ画廊
土屋加代子個展 13—18 大倉画廊
林謙一個展 13—18 フォルム画廊

ロダン水彩素描展 13—18 いとう
画廊
黒崎義介画展 13—18 一方堂画
廊
緑川広太郎個展 13—18 壱審館画
廊
宮本恒平遺作展 13—18 日動サロ
ン
4回グループHEX展 13—18 美
松書房画廊
西村きよ画展 13—18 竹川画廊
6回日本実在派展 13—19 文芸春
秋画廊
篠原佳尾銅版画個展 13—19 銀芳
堂画廊
野上郷介個展 13—19 夢土画廊
杉本亀久雄作品展 13—20 大阪・
梅田画廊
大久保泰個展 13—23 日本橋画廊
森本紀久子個展 13—25 フランネ
ル・ギャラリー
後藤伊子個展 14—18 紀伊国屋画
廊
宮竹一清仏像展 14—19 三越
三秀会陶芸3人展 14—19 三越
至岐会(石本正・岩崎英遠・上村松
篁・西山英雄・平山郁夫・小野木・
新道繁・田辺三重松・森芳雄・浜
口陽三) 14—19 高島屋
25日会日本画展 13—19 上野・松
坂屋
宮田文子遺作小品展 14—19 松坂
屋
村上泰造彫刻展 14—20 秋山画廊
鶴岡義雄滞欧スケッチ展 14—25
東金堂ギャラリー
9回サンパウロ・ビエンナーレ国際
美術出品作国内展示 14—26 国
立近代美術館
12回雨晴会展(奥村土牛・岡鹿之助・
中川一政・森田沙伊) 15—18 兼
素洞
9回アントワープ国際彫刻ビエンナ
ーレ国内展(井上武吉・江口週・
木内克・菊地一雄・建畠覚造・富
松孝佑・堀口正和・本郷新・柳原
義達・山本豊市) 15—25 現代彫
刻センター
福島金一郎ブロムナード・パリ展
15—31 新橋画廊
堂本印象の作品展 15—6月15 堂

本美術館
5回京都画壇新作日本画と額装展
16—23 伊勢丹
American Modern Art Exhibition
16—28 壱審館画廊
3段8割秀作展(石原竜一・祐乗坊
宣明) 16—31 精美堂画廊
10回辛島一誓作品展 17—22 白木
屋
田中竜児日本画展 17—22 神戸・
そごう
欧州美術展 17—22 松屋
中国石仏展 17—22 小田急
永島勝介個展 17—22 東和画廊
岩館知義油絵展 17—22 大丸
dd展 17—22 白木屋
加藤幸兵衛陶芸展 17—22 西武
京都美大作品展 18—22 京都市美
術館
横田稔個展 18—23 椿近代画廊
横田文恵水彩画展 18—23 椿近代
画廊
18回中央美術協会展 18—23 銀座
画廊
相場秀夫個展 18—23 椿近代画廊
上田ひろよし個展 18—23 ルナミ
画廊
三芳悌吉個展 18—24 ギャルリ・
アルカンシエル
26回水彩連盟展 18—31 都美術館
43回白日展 18—31 都美術館
19回三軌会展 18—31 都美術館
20示現会展 18—31 都美術館
女子美術大学・女子美術短期大学
'67卒業制作展 19—21 女子美術
大学
青溪会展 19—24 竹川画廊
ポール・ウルフンデン個展 19—31
ギャラリー・磯谷
荒谷直之介展 20—25 日動サロン
小野教治個展 20—25 文芸春秋画
廊
131回現代版画展 20—25 わたなべ
アートサロン
浜田喜代5回展 20—25 昭和画廊
日和崎尊夫展 20—25 養清堂画廊
丸山五郎・美沙子展 20—25 此花
画廊
武者小路実篤近作展 20—25 大倉
画廊
高橋靖夫個展 20—25 資生堂ギャ

ラリー
小川阿屋子個展 20—25 樺画廊
松岡正個展 20—25 サエグサ画廊
谷本重義個展 20—25 銀芳堂画廊
辻岡道彦個展 20—25 画廊クリス
タル
土屋貢個展 20—25 一方堂画廊
高島野十郎個展 20—25 丸善画廊
長島・喜屋武・古彫彫刻3人展 20
—25 ときわ画廊
守屋哲郎個展 20—25 みゆき画廊
自由美術3人展 20—25 ギャラリ
ー創苑
渡辺昌明個展 20—26 夢土画廊
6回佐野釘治油絵展 20—26 文芸
春秋画廊
小寺照久個展 20—26 銀芳堂画廊
歌田俊恵版画展 20—29 シロタ画
廊
赤松おさむ欧米スケッチ展 20—31
アオイ画廊
三月会(辻谷和子・藤本かおり他)
20—31 あかね画廊
平田逸治・清水国夫展 20—4月1
スルガ台画廊
田中稔の個展 20—4月8 第七画
廊
3回始玄会展(小栗潮・加倉井和夫・
高山辰雄・山口吉三郎・佐藤閑夫・
鈴木竹柏) 21—26 高島屋
日光鳴竜展 21—26 三越
平山郁夫トルコ風物スケッチ展 21
—26 三越
蒼グループ作陶展 21—26 高島屋
藪内弘彰刻展 21—27 秋山画廊
多摩美術大学卒業制作展 22—24
多摩美術大学
井染道人個展 22—25 中公丸ビル
画廊
自由美術グループ連合展 22—27
村松画廊
栗林今朝男個展 22—27 フォルム
画廊
板木順子個展 22—27 養清堂画廊
アンチーム展(山口薫・テレスコヴ
ィッチほか) 22—30 吉井画廊
曾宮一念陶板と素描淡彩展 22—4
月1 現代画廊
SAC GROUP. SHOW "New geo-
metrio works" 22—4月21 新
宿風月堂

美術展覧会(3・4月)

現代彫刻家エスキース展(木内克・山本豊市・高田博厚・本郷新・菊地一雄・柳原義達・堀内正和・植木茂・佐藤忠良・向井良吉・吉田芳夫・桜井祐一・舟越保武・建畠覚造) 23—30 大阪・梅田画廊
田中亜木男作品展 23—4月1 兜屋画廊
宮脇愛子展 23—4月8 東京画廊
ユトリロ展 23—5月5 東京セントラル美術館
大野忠男エジプト・ヨーロッパ美術の旅 24—28 浦和・埼玉図書館
近作ビュッフェ版画展 24—29 京王
佐藤一俊展 24—29 ルナミ画廊
3人展(祖父江弘幸・坂田昭三・藤永俊雄) 24—29 椿近代画廊
3回内田信・山本和子展 24—29 椿近代画廊
海外作家の版画の会 24—29 大丸
宮内義雄個展 24—29 東和画廊
大塚一路童心画展 24—29 松屋
川瀬順一作陶展 24—29 松屋
現代版画大家展 24—29 大丸
7回日本南画院展 24—30 京都美術館
アパッティ版画展 24—4月5 西武
松葉良個展 25—30 竹川画廊
土窯グループ作陶展 25—31 ギャラリー・アルカンシエル
鳩川誠一展 27—4月1 日動サロン
春日井正義和紙作品展 27—4月1 大倉画廊
五回連翹会展 27—4月1 資生堂ギャラリー
7回関口茂作品展 27—4月1 昭和画廊
新東京会油絵大家展(中川一政・宮本三郎・熊谷守一・中川紀元・海老原喜之助・鈴木信太郎・向井潤吉・伊藤康) 27—4月1 サエグサ画廊
青々会展 27—4月1 丸善画廊
パピルスグループ展 27—4月1 中央公論画廊
篠爪俊彦個展 27—4月1 全線画廊
栗田哲夫個展 27—4月1 樺画廊
守屋直行個展 27—4月1 画廊ク

リスタル
小賢政之助個展 27—4月1 フォルム画廊
青木憲一個展 27—4月1 いとう画廊
スタジオ・オ・オロ展 27—4月1 みゆき画廊
木村晃郎個展 27—4月1 夢土画廊
中平達子個展 27—4月1 サトウ画廊
和二状元個展 27—4月1 養清堂画廊
集団「版」4人展(稲田三郎・秋山静・風間照市・豊針広司) 27—4月1 ときわ画廊
尼野和三個展 27—4月1 ギャラリー創苑
山本貞展 27—4月2 文芸春秋画廊
山口牧生彫刻個展 27—4月2 文芸春秋画廊
グループQ展 27—4月2 銀芳堂画廊
同有洋画展 27—4月5 日本橋画廊
山内豊喜小品展 27—4月5 東金堂ギャラリー
福田豊四郎展「小サイ世界」 27—4月8 南天子画廊
伊藤隆康展 27—4月11 夢土画廊
22回日本美術院春季展 28—4月2 三越
創元会10人展(鈴木千久馬・田中繁吉・倉員辰雄・安藤信哉・川口雄男・深谷徹・樋口一郎・橋本花・高島常雄・井上和) 28—4月2 高島屋
グループ蒼展 28—4月2 石田画廊
河井武一作陶展 28—4月2 高島屋
石黒連州水墨画展 28—4月2 三越
岩淵重哉作陶展 28—4月2 三越
三浦巖水彩画展 28—4月2 上野・松坂屋
益田日出樹個展 28—4月2 松坂屋
成川勝己個展 28—4月2 村松画廊

渡辺哲也個展 28—4月2 村松画廊
石橋幸子個展 29—4月14 壺密館画廊
伊藤利彦個展 30—4月4 ルナミ画廊
3人展(大内早苗・谷田由利子・戒田なおみ) 30—4月14 椿近代画廊
グループ展 30—4月14 椿近代画廊
大和作内彫刻作品展 31—4月5 松屋
堀内貞明個展 31—4月5 東和画廊
ぐるうふ樹展 31—4月5 竹川画廊

4 月

37回日本パステル画展 1—6 銀座ヤマト画廊
永田精二滞欧作展 1—7 ギャラリー・アルカンシエル
走泥社展(林秀行・林康夫・鳥羽克昌・門井嘉衛・川端信二・川上力三・河島浩三・吉竹弘・高野基夫・田辺彩子・辻勘之・村井次郎・熊谷順吉・山田光・近藤清次・佐藤敏・佐藤雅彦・鈴木治) 1—7 伊勢丹
窮油絵小品展 1—7 伊勢丹
木内克彫刻展 1—13 現代彫刻センター
17回モダンアート展 1—19 都美術館
会員出品目録
絵画
AIR OMI オオミダイゾー
作品 A 上 前 智 祐
〃 B 〃
VIET の鎧(I) 刀 根 真 澄
〃 (II) 〃
装 置 高 橋 元 尚
にもかかわらず 笹 岡 信 彦
消えることのな い人々 (A) 〃
〃 (B) 〃
グ ラ フ 河 野 稔 而
〃 〃
作 品 A 岩 田 ちよ子
〃 B 〃

作 品 嶋 本 昭 三
 灼 小 松 清
 蒼 穹
 雪が降る(くよ)
 〃 (ひる)
 華 奢 斎 藤 忠 誠
 作 品 A 森 慧
 〃 B
 東ねられた脚
 祭日の記録(イ)
 〃 (ロ)
 スフィックスの
 問い
 馬の霊に献げる
 緑の風景
 カイロの街角
 赤による……
 青による……
 断片による意味
 の図式—プラス
 ・マイナス—
 〃 一死—
 雪 山 勝 田 宏 一
 白い田園風景
 果 園 周 襄 吉
 月の道産子
 夜間飛行
 磯の寓話
 窓
 寿 東 俊 二
 虫 (弓) 小 松 義 雄
 〃 (ラッパ) 正 田 嬢
 えぶり(折り) 大 西 長 利
 〃 (飲び)
 白 い 女 勝 呂 忠
 白 い 影 〃
 響 岡 周 末
 緑 光 永 直 人
 青 〃
 作 品 江 藤 嬰 子
 〃 木 村 良 枝
 二 重 像 鈴 木 初 江
 装 う 青 石 佐 藤 多 都 夫
 1967年 状態 O-L-WA
 〃 O-L-WB
 Rising Sun 勝 本 富士雄
 風景について (其の1)
 〃 (其の2)
 風 の 人 村 井 正 誠

五 月 の 人 〃
 空気がおしく 小 川 孝 子
 て 〃
 春の仕度で 中 村 真
 色空間6色の結 〃
 合・1967 いそべ たつお
 作 品 A 〃
 〃 B 〃
 赤 の 詩 小 林 孔
 朝 〃
 作 品 「祇」 白 石 道 夫
 MEDM 江 波 伸
 MEDE 〃
 白 い 街 安 部 美 佐
 〃 〃
 か げ 宮 野 蔵 人
 蝕ばれる空間 I 岡 本 公 夫
 〃 II 〃
 作 品 (A) 鯛 天 伸 一
 〃 (B) 〃
 間 高 塚 篤
 〃 〃
 作 品 125 竹 田 長 年
 〃 110 〃
 青 い 核 執 行 正 夫
 青 い 層 〃
 かたち 67-8 恒 川 俊 明
 〃 67-9 〃
 NOEMA 671 木 村 一 生
 〃 672 〃
 石 室 岸 浩
 〃 〃
 魔 聖 山 口 信 郎
 マッターホー 山 里 寿 男
 ンの十字架 (I) 〃
 〃 (II) 〃
 二 つ 西 川 幸 衛
 Flower-1 根 岸 茂 行
 〃 2 〃
 赤 い 柱 宮 本 宏
 青 い 柱 〃
 グループ A 若 松 六 弥
 〃 B 〃
 群れの意味 能 伸 ヤツヲ
 〃 〃
 作 壺 栗 原 勇
 〃 式 〃
 自由の現象 松 永 品 子
 作 品 A 水 谷 信 子
 〃 B 〃
 作 品 山 内 慶 子

室・室・室 [1] 渡 部 武
 〃 [2] 〃
 悦 神太麻 雅 生
 集 落 宅 野 豊
 祭 り 〃
 失 楽 園 A 和 田 和 雄
 寓 話 A 曾 根 亮
 〃 B 〃
 葛藤(情と理) 赤 崎 君 美
 転 機 〃
 紅 梅 荒 瀬 貞 次
 山 梅 〃
 彫 刻
 ロ ロ ロ ロ 最 上 寿 之
 作 品 1 橋 本 正 司
 〃 2 〃
 行 為 A 杉 江 淳 平
 〃 B 〃
 海の記憶(樹脂) 田 辺 芳 栄
 円—1/8—思 広 井 力
 円—2—一生 〃
 版 画
 DON 吹 田 文 明
 群 星 〃
 人 No. 1 清 野 克 巳
 〃 2 〃
 暦 F 田 島 宏 行
 〃 C 〃
 天 使 牛 玖 健 治
 〃 〃
 〃 〃
 写 真
 ファンタジア 2 橋 本 守 雄
 〃 3 〃
 to me 梅 村 豊
 of you 〃
 真昼のメルヘン 梅 村 アキラ
 青いスペース 小 島 洋 吉
 遠い黄色 〃
 マシン 1 鳥 居 良 禅
 〃 2 〃
 貌 — 67A 吉 川 治 夫
 〃 67B 〃
 神々の踏まえし 高 柳 英 磨
 土 ① 〃
 〃 ② 〃
 〃 ③ 〃
 〃 ④ 〃
 生活美術
 地域社会 I 本 野 東 一
 〃 II 〃
 作 品 藤 原 健 嗣

美術展覧会(4月)

35回日本版画協会展 1—19 都美術館
 初期京焼展 1—30 根津美術館
 島居昭美・浜本昌宏版画2人展 2—8 紀伊国屋画廊
 25回美術文化協会展 2—9 大阪市立美術館
 新槐樹社展 2—9 大阪市立美術館
 53回光風会展 2—19 都美術館
 26回創元会 2—19 都美術館
 7回同時代展(浜田知明・堀内規次・倉石隆・森芳雄・岡本半三・佐田勝・佐藤真一・斎藤真成・富成忠夫・戸田吉三郎) 3—7 資生堂ギャラリー
 高橋信一版画展 3—8 養清堂画廊
 堀義雄個展 3—8 画廊クリスタル
 竹内けいヨーロッパ風景展 3—8 大倉画廊
 中川紀元展 3—8 梅田画廊
 鈴木誠個展 3—8 日動サロン
 岩船修三個展 3—8 文芸春秋画廊
 成井弘新作展 3—8 千代田画廊
 藤野級井個展 3—8 中公丸ビル画廊
 中井知生個人展 3—8 サエグサ画廊
 森秀雄個展 3—8 櫟画廊
 佐藤事個展 3—8 村松画廊
 グループ展 3—8 村松画廊
 春原敏之個展 3—8 サトウ画廊
 ユトリロ版画展 3—8 みゆき画廊
 バット・ヨセフ個展 3—8 青木画廊
 柳田久個展 3—8 昭和画廊
 斎藤宋馬個展 3—8 丸善画廊
 ダムアート展 3—8 ときわ画廊
 前畑省三個展 3—9 文芸春秋画廊
 小林幹利個展 3—9 夢土画廊
 伊藤寿和個展 3—9 銀芳堂画廊
 杉山兼次個展 3—9 銀芳堂画廊
 箕村禧男個展 3—12 フランネル・ギャラリー
 中西夏之展 3—14 南画廊
 新井東史雄展 3—15 日本画廊

福島誠個展 3—15 ポール・ギャラリー
 スルガ台画廊新人選抜展(松岡真・出水徹) 3—15 スルガ台画廊
 三岸黄太展 3—22 東邦画廊
 ペルシャ陶器を中心としたオリエンタル展 3—6月30 出水美術館
 河本五郎作陶展 4—9 高島屋
 14回サンシュマン展(林武・東郷青児・鳥海青児・高島達四郎・高岡徳太郎・向井潤吉・田村孝之介・野間仁根・高野三三男・小磯良平・宮本三郎・海老原喜之助・鈴木信太郎) 4—9 高島屋
 伊勢崎満(陽山)作陶展 4—9 三越
 京都陶芸家クラブ展 4—9 三越
 画家俳人句画展 4—9 松坂屋
 村上洋一画展 4—9 石田画廊
 中村徳三郎滞欧作品展 4—10 フジカワ画廊
 島田忠恵・遠藤渥一2人展 4—10 秋山画廊
 近代日本の絵画と工芸 4—30 京都国立近代美術館
 5回創造美術青年展 5—10 椿近代画廊
 多摩芸術学園2年中間展 5—10 銀座画廊
 若山茂個展 5—10 ルナミ画廊
 グループ・ノバ展 5—10 椿近代画廊
 ラ・フォンテーヌ寓話銅版画展 5—15 壱番館画廊
 青倉薫個展 6—11 竹川画廊
 笠井誠一画展 6—15 日本橋画廊
 グラフィックアートUSA展 6—5月14 国立近代美術館
 草門展 7—11 東和画廊
 増田大罇中南米風物個人展 7—12 銀座ヤマト画廊
 ルイズ・デュセット作陶展 7—12 松屋
 中山三郎個展 7—12 銀座ヤマト画廊
 三村比呂志漆芸展 7—12 大丸
 小出広通個展 7—12 小田急
 石仏展 7—12 西武
 43回白日展 7—14 愛知県美術館
 モーリス・ユトリロ石版画展 7—15 ギャラリーポワン

穹油絵小品展(青木純子・梅津五郎・管野矢一・西田享・日野耕之祐・平松譲・広瀬功・深谷徹・宮崎進) 8—14 伊勢丹
 丸野豊司花油絵展 8—14 伊勢丹
 安西啓明日本画展 8—14 ギャラリー・アルカンシエル

美術資料図書館開館記念展覧会 8—30 武蔵野美術大学

高山辰雄・香月泰男展 8—5月14 鎌倉近代美術館

高山辰雄 作品目録

食	べ	る	1946
た	け	の	1947
道			1948
に	わ	と	〃
し	し	う	1949
え	り	ま	〃
赤	い	服	1950
緑	の	セ	〃
夕		映	〃
雪	の	山	1955
午		后	〃
静	物	(大	〃
沼			1956
峯			1957
静	物	(たまね)	1958
静	物	(大	1959
鳩			〃
道			1961
出		山	1962
夜			1963
森	の	な	〃
海		遙	1965
部	屋	の	〃
五		山	〃
瀬	戸	内	〃
続	く	野	〃
雨	あ	が	〃
野			1966
静	物	の	〃
花			〃
樹	木	の	〃
続	く	野	〃
海			1967
丘			〃
山			〃
香	月	泰	
門	作	品	
	目	録	
			1941

水 鏡 1942
 釣 床 〃
 波 紋 1943
 ホンバイ 1944
 埋 葬 1949
 朝 散 1950
 石 歩 1953
 牡 牛 〃
 遊 泳 1955
 新 間 〃
 路 傍 1956
 砂 上 〃
 左 官 〃
 糸 卷、眼 鏡 〃
 太 陽 1957
 鷹 客 〃
 乗 シャルト 〃
 石 疊 〃
 飛 鳩 〃
 人 と ふ く ろ う 〃
 告 別 〃
 竜 骨 1959
 1 9 4 5 〃
 北 ヘ 西 ヘ 〃
 ダ モ イ 〃
 運 ぶ 人 〃
 運 ぶ 人 1960
 ホンバイ 〃
 避 難 民 〃
 穴 掘 人 〃
 東 雲 1961
 黒 い 太 陽 〃
 湿 地 〃
 涅 槃 〃
 列 〃
 ナ ホ ト カ 〃
 土 掘 田 1962
 ア ム ー ル 〃
 雪 1963
 餓 〃
 雪 (窓) 〃
 風 〃
 鋸 1964
 伐 〃
 神 農 〃
 凍 土 1965
 朝 陽 〃
 荆 〃
 囚 〃

海 (ベチカ) 冬 1966
 凍 河 〃
 星 (有刺鉄線) 冬 〃
 私・マホルカ 〃
 復員タラップ 1967
 ポンベイ古代美術展 8—28 国立
 西洋美術館
 出品目録
 モザイク 1~2
 大理石 4~19
 壁 画 21~88
 ブロンズ 89~139
 テラコッタ 140~186
 ガラス 187~205
 貨幣 206~255
 以上カタログによる作品番号より
 横須賀グループ展 9—14 村松画
 廊
 唐川武紀個展 9—15 ギャラリー
 磯谷
 4回具象美術展 9—19 横浜市民
 ギャラリー
 伊原秀樹・山下征治展 10—15 あ
 かね画廊
 坪井鶴吉個展 10—15 資生堂ギ
 ャラリー
 菅原二郎彫刻展 10—15 養清堂画
 廊
 9回12展(上田哲豊・浮田克躬・尾
 崎正章・大津鎮雄・北村巖・田中
 春弥・三橋文雄・中谷竜一・広瀬
 力・藤島舜・本山唯雄・渡辺祐一
 郎) 10—13 日動サロン
 塗師祥一郎個展 10—15 丸善画廊
 ビカン会展 10—15 全線画廊
 山下幸男個展 10—15 樺画廊
 グループ展(大河内信秀他) 10—15
 サエグサ画廊
 能仲ヤツオ個展 10—15 サトウ画
 廊
 楠目絹個展 10—15 大倉画廊
 研展 10—15 三菱電機ギャラリー
 近藤喜男個展 10—15 昭和画廊
 炎樹会 10—15 中央公論画廊
 竹翠会 10—15 中公論丸ビル画廊
 柴田賢治郎個展 10—15 ときわ画
 廊
 主体美術新人展 10—15 サエグサ
 画廊丸の内店
 12回おのざわ・さんいちオール・ス
 トリップ漫画展 10—15 美松書

房画廊
 斎藤三郎風景展 10—16 文芸春秋
 画廊
 上野実個展 10—16 夢土画廊
 司修展 10—16 シロタ画廊
 赤坂三好個展 10—16 銀芳堂画廊
 寺戸恒晴個展 10—17 文芸春秋画
 廊
 上村次敏立体作品展 10—22 画廊
 クリスタル
 一山会油絵展(林武・鳥海青児・海
 老原喜之助・野口弥太郎・熊谷守
 一・小林和作・朝井閑右衛門・山
 口薫・脇田和・高島達四郎・荻須
 高德) 11—16 三越
 清和会日本画展(塩出英雄・樋笠数
 慶・菊川多賀子・森田曠平・長谷
 川清澄・近藤千尋・島田良祐・岡
 本弥寿子) 11—16 三越
 宮永東山作陶展 11—16 三越
 7回日本南画院展 11—16 大阪市
 立美術館
 8回円心展(工芸) 11—16 高島屋
 春唱会日本画展(浜田昇児・下保昭・
 川崎鈴彦・高木義夫・村山径・工
 藤甲人・山本知克・郷倉和子・北
 沢映月・三輪良平・樋笠数慶・関
 主税) 11—16 高島屋
 7人展('66 新制作展受賞作家によ
 る) 11—16 椿近代画廊
 人間国宝展 11—16 上野・松坂屋
 赫々会洋画展 11—16 上野・松坂
 屋
 村瀬雅徳個展 11—16 ルナミ画廊
 ひまになはたか展 11—16 椿近代
 画廊
 三浦勉個展 11—17 紀伊国屋画廊
 松居身紀子個展 11—17 秋山画廊
 吉田政治・吹田文明版画展 11—28
 第七画廊
 埼玉円空展 11—5月28 埼玉会館
 郷土資料館
 今村价男個展 12—17 竹川画廊
 西村功個展 12—22 フォルム画廊
 小柴久枝個展 12—28 新橋画廊
 赤津実油絵作品展 13—18 東和画
 廊
 15回日影展 13—5月2 都美術館
 市野弘之作陶展 14—19 大丸
 二科商美春季展 14—19 小田急
 各務クリスタル新作展 14—19 小

美術展覧会(4月)

田急

示現会展 14-19 愛知県美術館
 横山大観展 14-26 小田急
 丹下亮子油絵展 15-20 巴里画廊
 園田俊吉個展 15-20 村松画廊
 和氣史郎近作展 15-21 大阪フジ
 カワ画廊
 裸像にみる黒田清輝・岡田三郎助の
 芸術展 15-22 伊勢丹
 鱧和彦油絵個展 15-24 ギャラリー・
 アルカンシェル
 福島瑞穂個展 17-22 資生堂ギャ
 ラリー
 異色作家素描展 17-22 あかね画
 廊
 小泉清遺作展 17-22 高島屋
 132回現代版画展 17-22 わたなべ
 アートサロン
 上田輝個展 17-22 椿近代画廊
 木下義謙個展 17-22 日動サロン
 大橋城個展 17-22 中央公論画廊
 7人展(中村徳次郎・中村道子・金
 子嘉一・芳賀武・安藤育宏・横尾
 茂・多賀谷進) 17-22 全線画廊
 橋本きく子個展 17-22 樺画廊
 合田佐和子オブジェ展 17-22 ル
 ナミ画廊
 寺崎武男個展 17-22 千代田画廊
 坂井俊雄油画個展 17-22 丸善画
 廊
 大橋城個展 17-22 中央公論丸ビ
 ル画廊
 柳新也彫刻展 17-22 ときわ画廊
 ポビー展 17-22 椿近代画廊
 YACG展 17-22 椿近代画廊
 西村功油絵個展 17-22 フォルム
 画廊
 飯山勇油絵個展 17-22 サエグサ
 画廊
 比野木三男・加藤昌範2人展 17-
 22 みゆき画廊
 平間誠治個展 17-23 銀芳堂画廊
 野田典男個展 17-23 夢土画廊
 現代版画秀作展 17-24 養清堂画
 廊
 関口俊吾展 17-28 老番館画廊
 山本豊市彫刻展 17-28 現代彫刻
 センター
 三岸好太郎個展 17-28 南天子画
 廊
 鈴木新夫作品展 17-28 アオイ画

廊

米良道博小品展 17-28 東金堂ギ
 ャラリー
 加納光於展 17-28 南画廊
 スルガ台画廊新人選抜展(安德瑛・
 下田義実) 17-28 スルガ台画廊
 ゾラビア・ベチオール木版画展 17
 -28 ギャラリー磯谷
 西井正樹個展 17-29 日本画廊
 早川義孝展 17-29 昭和画廊
 吉原治良個展 17-5月23 東京画
 廊
 鈴木節雪山岳墨画展 18-23 三越
 河合紀作陶展 18-23 三越
 ドイツ展 18-23 三越
 2回朴花社展(五十嵐撥一・上野泰
 郎・太田正弘・黒沢吉蔵・信太金
 昌・竹山博・野崎貢・信時次郎・
 稗田一穂・福田監治・宮本和子・
 毛利武彦) 18-23 高島屋
 藤原建作陶展 18-23 高島屋
 白光展 18-23 石田画廊
 小島真佐吉近作展 18-23 松坂屋
 グループ陀展 18-23 竹川画廊
 市川悦也・朝岡康二2人展 18-24
 秋山画廊
 佐藤武雄銅版画展 18-28 日本橋
 画廊
 陽明文庫名宝展 18-6月4 五島
 美術館
 5回虹の会日画本展(小栗潮・加倉
 井和夫・山口吉三郎・佐藤罔夫・
 鈴木竹柏) 19-22 兼素洞
 44回春陽会展 22-5月8 都美術
 館
 出品目録
 絵画
 作品(No.65) 大庭勝郎
 作 品 前田舜敏
 〃 〃 〃
 作品 ① 吉江麗子
 〃 ② 〃
 笛吹き童子 加藤助八
 青のかげ 〃
 いけにえ 横山了平
 像 〃
 久高の秘儀 玉那覇正吉
 旗のある船出 〃
 白々 上原欽二
 塔 〃
 魚族 ① 田畔司朗

魚族 ②

浮 田畔司朗
 衣をとる女 松村禎夫
 ボーズする女 松島治基
 〃 〃
 末 明 五味秀夫
 漁 村 加山四郎
 シクラメンと流 〃
 木 〃
 船 宮城音蔵
 ボー ト 〃
 城 壁 今関鶯人
 城 壁 と 木 〃
 人 〃
 〃 〃
 磯 び ら き 中山爾郎
 貝 寄 風 〃
 ナルキッソス 関頼武
 神話の女 〃
 雪の街 中村徳三郎
 古城と街 〃
 寒 林 中谷泰
 窓 辺 小川マリ
 赤 い 実 〃
 山の村 南大路一
 〃 〃
 たそがれ 宮田武彦
 安楽椅子 〃
 卓上静物 安喰虎雄
 蟹のある静物 〃
 積 藤井令太郎
 館 三井永一
 森の 〃
 北のくにの教会 笠木実
 〃 〃
 翔 〃
 静 物 岩崎又二郎
 花 南城一夫
 雪の浅野川 ① 水谷清
 〃 ② 〃
 燈 〃
 春曇(福浦) 岡鹿之助
 溪 谷 中川一政
 相 撲 石井鶴三
 白 梅 三雲祥之助
 黄 昏 〃
 樺 林 川端弥之助
 牛 頭 ① 工藤陸雄
 〃 ② 〃
 スロヴェングラ 倉田三郎
 ド風景 横堀角次郎
 夏の前穂高 〃
 東大三四郎池 〃
 港の 家 村山密

ルーアンの聖堂	村山密	虫かごのある風景	出岡実	浅間山初雪(霜の朝)	伊川鷹治
人形粧	加藤秀夫	ニューヨーク博覧会(円ラプソディの空間とストライプス)	今竹七郎	山麓の秋花	〃
箱ラセナ	横尾丈夫	デュエットの構図	〃	磯かばめ	豊泉恵三
花の木落	遠藤典太	想ひ出の映像(A)	田代利夫	蛸壺の花像	〃
部穂高南峰	足立源一郎	〃(B)	〃	少女城山	山川清
北熱海	荒木市三	陸の花	大嶺政敏	ダムを作る	大沢鉦一郎
あじさいと桃	越智雄二	海の花	小柳秀太郎	橋畔①	川隅路之助
赤い実①	〃	蛙	〃	〃②	〃
潮騒	木本晴三	鰯の構図(A)	小坂茂	秋の庭	関四郎五郎
山峡紅葉	田川勤次	〃(B)	〃	アルプスの空	〃
ベトナムそれから	田中岑	マンズヒールドの軍功章	川島昇太郎	かがしを作る村	市川晃晴
国境の村	入江観	後退の力学	〃	いで湯の谿	〃
城館にて	〃	花畠夕陽	小泉倫之助	月と雲と山	小栗哲郎
暗きより暗きへ	清宮質文	花咲く海辺	〃	大和田みかん山	土屋義郎
火屋の中	寺田美恵子	恩師悠々	角南松生	富士アザミA	〃
影暗い海	〃	トレドの裏坂道	〃	〃B	佐藤篤郎
眠る人	〃	花畑のある海岸(A)	上野春香	竹のある風景	津谷鹿市
巴里の色	前田藤四郎	〃(B)	〃	北条の羅漢	〃
イビサにて	〃	八仙花生	友田みね子	暮春	宗久恭子
「静物」メキシコの魚	長谷川潔	群生	〃	早春	〃
瓶に挿したフランスの種草	〃	祭りの日	田中寿太郎	沖繩風景①	大嶺政寛
コップに挿したメキシコの種草	〃	流れのある風景	原田平治郎	〃②	〃
海辺の更衣所	古川龍生	吾野の山と採石場	川上尉平	海辺	井上重生
真夏の海辺	〃	伊豆須崎	〃	丘の上の学校	〃
日傘の少女達	〃	河原A	志村一男	黒い蝶	伊藤慶之助
彩色塔	三井永一	河原B	〃	蝶の群	〃
盤の塔	〃	がんらいこう	岩田栄之助	X	鬼塚金華子
丘の芽	〃	ひまわり	〃	アロエ	〃
風雷	石井鶴三	浅間山村骸骸	杓掛利通	アカリファ	原田武夫
二人の老漁夫	北岡文雄	残像	佐藤昌胤	風景	秋口保波
船小屋の静物	武田健夫	像像	藤野竜	休ム	〃
屋根	野村候三	街静	加賀孝一郎	夢科湖	本荘起
少女像	〃	物庵	魚津良吉	木崎	〃
古里の山	木村晃郎	郎庵A	〃	花を求める孤児	小川緑
風土記より宗像の大神	〃	裸婦B	伊藤善	北辺の樹	〃
宇治拾遺物語より道命阿闍梨と道祖神	〃	小さい肉屋	〃	子供のいる風景	四方れい
暗い海	池内登	肉屋のアンデロ	〃	とりのくる丘	〃
海霊雪	野村千春	〃	〃	北原の雪景	広野殷生
残湖	出岡実	〃	〃	春	〃
魚のある風景	〃	〃	〃	島の西瓜売・風	徳田信保
		〃	〃	〃・風	〃
		〃	〃	山島山	石田正典
		〃	〃	森の少女	〃
		〃	〃	青い服の娘	石川武彦
		〃	〃	漁	平田峻三
		〃	〃		高橋辰雄

松	島	高	橋	辰	雄
シャルトル		高	木	勇	次
サンマルコ				〃	
りんごの樹と太陽と（アンデルセン童話より）		西	尾	節	子
も言はぬ本（アンデルセン童話より）				〃	
三	原	山	曾	根	徹
	〃			〃	
裸	婦	木	下	公	男
壁（印度二題）		吉	田	達	磨
群れ（印度二題）				〃	

み	き	内	島	花	の	菜
廣	次	内	木	図	の	海
枝	文	田	土	原	構	高
雄		田	土	根		箱
知		村	喜	(A)		街
		多		(B)		街
寿	九	谷	熊	(黒)	婦	裸
一	精	保	原	人	の	三
守		山	久	歌		秋
雄	義	本	青	景		風
吉	健	田	杉	京		北
爰		庫	庫	A		松
				B		

休 日	斎 藤 静 柳
牛市は高値呼び	下 淵 冷 泉 子
果 樹 園 に て	島 田 鮎 子
題名の無い作品	重 延 璽 子
M	
野 原 に て	藤 本 俊 子
磯の幻想 67-5	高 瀬 捷 三
遊 猫	洪 川 栄 志
塔の見える風景 (鶴林寺・秋)	上 田 清 一
塔の見える風景 (鶴林寺・夏)	〃
春のエリプス	
広場 ワシントン	平 塚 運 一
D. C.	

野 中 進

「波」	真日	垣向	武裕	勝裕	座像一M	染谷英五	カーテン地	茶影	柚三	木浦	沙弥郎
春	山本	萬司	萬司	悠	工芸	木研児	疎	耀	木村	昌斗志	
オレンジ塀	宮芳	平夫	平夫	六郎	櫛描紋大鉢	後藤山雅子	黒相	天性	飯橋	谷本	清一郎
(平戸)	小林敏	夫	夫	慶三	金唐紙布	原田	個	女	長	浜	三
きざはし	〃			亀太郎	海図(壁掛)	〃	花と	淡川康一博士	川崎	富三	
裸婦習作	亀井貞雄			三雄	げいしょう	板津夏子	淡川康一博士	(禪画の研究家)	吉川	正太郎	
(赤い手套)	〃			伊兵衛	名古屋帯	〃	斎藤清氏	顔	竹田	太	
裸婦習作(脱衣)	尾田	竜		謹介	(もみじ)	小島恵次郎	二つの	春色	平松	村田	
作品A	上原正三			躬三	着物(貝がら)	河井武一	浅雪	景錦	木島	居角	
作品B	〃			清夫	屏風トランプ絵	黒田辰秋	風景	詩	中北	西山	
鉄をつくる43	杉本賢司	健		胤雄	黒鉄白釉流六角鉢	喜多村作太郎	水マチエール	草生	小内	菅田	
鉄をつくる44	吉田清志	衛哉		行幸	鉄白釉流茶碗	〃	誕生	遙	竹見	野中	
冬	大蔵田章三			幸太郎	拭漆樽茶托	丸山太郎	遺作	ハナヤ	田中	勘兵衛	
黄みどり色の太陽	島田和子	薫夫		甲治	鉄葉打掛壺	前川典子	襲	べんべん	清里	貫一郎	
五	岩宮真音	幸美	則	多喜夫	呉洲三色流鉢	長沼孝一	羽黒	杉	島	星	
月	高橋美	豊			貝釉茶碗A(黒)	中村	石画	映			
ナワ蛇と巫女と磐境	佐々木	勲文			貝釉茶碗B(並)	〃	幻	隅			
箱	矢岡博				均窯手鉢	芹沢銈介	一				
T O R O S	大西				貝釉茶碗C(白)	佐久間藤太郎					
道と町	〃				貝釉窯変徳利	滝田項一					
母と子のスペース	秋山進				卵殻交差貼文庫	〃					
K-Will-1	千野茂				卵殻貼筆入	岡村吉右衛門					
交	古島敏夫				帯	大島郁					
作品67の8	茨木明照				つむぎ着尺	太田仔至子					
作品67 No.48	荒塚喜一郎				手捺染飾布	〃					
えこおる・ど・ろまん	山井祐一				敷物(1)	及川全三					
ちようちよう屋敷	山本豊				敷物(2)	〃					
樹氷地帯	鈴堀川善二				着物津村四季	立花長子					
作品A	柴田				鉄砂花紋花瓶	上田恒次					
作品B	〃				鉄砂花紋大皿	柳悦孝					
彫刻	四田昌二				白磁面取瓶子	〃					
腰かけた女	関谷充				白磁大壺	四本貴資					
座女	小川清彦				ウール飾布	〃					
膝つく裸婦	染谷英五				蝦夷物語	柚木沙弥郎					
無窮動					しま(1)赤地						
系譜の記録					しま(2)黄地						
アトリエの女神					吉野織格子地						
風あるポーズ5					みどり小格子着尺						
無題					カーデガン						
寝具No.4					毛織生地						
オブス					はたる草壁掛						
ハイヒール					白磁木瓜角大皿						
ハイヒール					吉野帯地						
トルソ					四布ふとん地						
太古の鳥					熨斗目着物						
四次元を軸とした試作「夢」					熨斗目広巾袖						
曲芸					カーテン地I						
立像一S					カーテン地II						
					カーテン地青						

(河井寛次郎遺作)

呉須泥刷毛目茶碗
 三彩掛茶碗
 辰砂簡描茶碗
 練り上げ鉢
 白瓷辰砂飴呉須草文鉢
 呉須蠟抜き丸額鉢
 鉛釉象嵌鉢
 飴釉陶硯
 辰砂飴縞文三重宮
 黒釉木瓜型鉢
 呉須抱瓶
 白掛二彩打角瓶
 呉須塗分食味入(藤蔓付)
 呉須辰砂丸文角盒子
 鉄釉竹文角鉢
 鉄釉三彩扁壺(足付)
 白釉辰砂茶碗
 鉄釉三彩花文角鉢
 辰砂抜蠟丸文菱型扁壺
 飴釉辰砂文字入陶板
 呉須抜蠟丸文角瓶
 鉄釉抜蠟丸文長角盒子
 辰砂抜蠟花文角盒子

33回東光会展 22—5月8 都美術

美術展覧会(4月)

館
メソポタミア展(総点数304点) 22—5月31 東京国立博物館
近代日本の洋画名作展 22—5月21 石橋美術館
日本写真派第一回展 23—28 資生堂ギャラリー
吉田孝次郎展 23—28 椿近代画廊
みどり会 23—28 銀座画廊
小島正太郎展 23—28 ルナミ画廊
としただし個展 23—28 椿近代画廊
西川春江日本画近作展 23—30 伊勢丹
大工原武司個展 24—28 中央公論丸ビル画廊
平山郁夫トルコスケッチ展 24—28 フォルム画廊
馬淵一世個展 24—28 美松書房画廊
田代順七個展 24—28 サエグサ画廊
むさい展(鶴岡政男・園房江・杉原清司・川上茂昭・内田耕・上原二郎・井上美彦・伊藤朝彦) 24—29 ときわ画廊
11回沐羊展(山田稔・幸田彰・古川祚久・入江泰三・椿逸雄・秋草紘・岩井宏充・則武幸子・長谷川湧子・松本昭・山野井敏子・滝深光亮) 24—29 竹川画廊
石川滋彦近作展 24—29 日動サロン
林清納個展 24—29 文芸春秋画廊
丹麗会展 24—29 三菱電機ギャラリー
渡辺義一遺作展 24—29 丸善画廊
2人展(杉江良・斎藤孝夫) 24—29 全線画廊
富田文雄個展 24—29 樺画廊
中井昇個展 24—29 サトウ画廊
小野隆史個展 24—29 画廊クリスタル
桑原宏個展 24—30 文芸春秋画廊
志賀広一個展 24—30 夢土画廊
版の会展 24—30 銀芳堂画廊
浜田台児個展 25—30 高島屋
2回錦戸新銀仏像展 25—30 高島屋
15回羊年会日本画展(杉山寧・高山辰雄・森田沙伊・東山魁夷・加藤

榮三・橋本明治・山田申吾) 25—30 三越
松岡吉一・大村勉2人展 25—30 石田画廊
明窓会日本画展 25—30 上野・松坂屋
高橋亮展 25—30 銀座ヤマト画廊
フローラ展 25—5月4 ギャラリー・アルカンシェル
田口弘勝・前田武志2人展 25—30 秋山画廊
青麦会展 27—30 紀伊国屋画廊
上條明吉・上條陽子2人展 27—5月2 村松画廊
東福玲子個展 27—5月2 一方堂画廊
馬堀喜孝個展 28—5月3 白木屋
現代美術家小品展 28—5月3 松屋
木内克レリーフ展 28—5月3 大丸
2回新彩会油絵展 28—5月10 小田急
エレン・ブレーカ展 28—5月10 西武
松方コレクション展 28—5月21 鹿児島市立美術館
藤島武二展(生誕百年記念) 28—5月27ブリヂストン美術館
作品目録
花見(下絵) 明治24—25
春の小川(水彩) 明治29
遺 遺 明治30
天平の面影 明治35
蝶 明治36
自画像 明治36
素描 明治38—40
裸婦素描 明治39—40
裸婦素描 明治38—40
臥裸婦(素描) 明治38—40
噴水(小品) 明治38—40
ヴェルサイユ風景 明治38—40
ヴェルサイユの秋 明治38—40
パリ偶居の記念 明治38
浴室の女 明治39—40
セーヌの河畔 明治39—40
パリ郊外風景 明治39—40
リュクサンブール公園 明治39—40
裸体習作 明治39—40
西洋婦人像 明治39—40

西洋婦人像 明治39—40
フランス婦人像 明治39—49
公園の一隅(小品) 明治39—40
ヨット(スイス) 明治40
スイス風景 明治41
ルチュルン 明治41
ネミ湖 明治41
風吹く日 明治41
イタリア婦人 明治41—42
チョチャラ 明治41—42
黒扇 明治41—42
ボンベイ 明治41—42
ボンベイ 明治41—42
ボンベイ 明治41—42
ボンベイ遺跡 明治41—42
ボンベイの家 明治41—42
ボンベイの廃墟 明治41—42
糸杉 明治41—42
糸杉 明治41—42
イタリアの笠松 明治41—42
ローマの郊外 明治41—42
ローマの寺院 明治41—42
ローマの遺跡 明治41—42
雲(ローマ) 明治41—42
空(ローマ) 明治41—42
半裸婦人像 明治41—42
裸婦(水浴・水彩) 明治41—42
池畔の女 明治41—42
農婦(小品) 明治41—42
イタリア風景(小品) 明治41—42
イタリアの海 明治41—42
噴水のある池 明治41—42
ヴィラ・デステの池 明治41—42
池 明治41—42
ヴェニス裏街 明治41—42
ボンベイ壁画模写 明治41—42
ボンベイ壁画模写 明治41—42
ナポリ湾 明治41—42
池(ヴィラ・デステ) 明治42
黒衣の婦人 明治42
幸ある朝 明治42
空 明治45
うつつ 大正2
匂い 大正4
大川端 大正6
大川端残雪 大正6
大川端(水彩) 大正6
アルチシヨ 大正6 頃
草の香 大正7
カンピトリオのあたり(双帳) 大正8

打掛の女(小品) 大正 9
 少 女 大正 9
 横たわる裸婦(小品) 大正 9
 裸婦(パステル) 大正 9
 鏡 の 前 大正 9
 紫 陽 花 大正10
 唐 様 三 部 作 大正10
 女 の 顔 大正10
 アマゾース(習作) 大正10
 東 洋 振 り 大正13
 半 裸 婦 人 像 大正13
 芳 蕙 大正15
 女 の 横 顔 大正15
 婦 人 像 (小品) 大正15
 少女の裸婦(小品)
 赤いバックの裸婦(小品)
 赤い花の裸婦(小品)
 鉸剪眉(水彩・パステル) 昭和 2
 静 物 昭和 2
 静物(パステル) 昭和 2
 牡 丹 昭和 3
 臥 裸 婦 素 描 昭和 3
 淡 路 島 遠 望 昭和 4
 淡 路 島 遠 望 昭和 4
 淡 路 島 遠 望 昭和 4
 仏 画 (小品) 昭和 4
 大王岬に打寄せる怒濤 昭和 6
 日の出の朝熊山 昭和 6
 鳥羽の海遠望 昭和 6
 鳥羽の日の出 昭和 6
 鳥羽の海(日の出) 昭和 6
 朝の海(パステル) 昭和 6
 朝の海(パステル) 昭和 6
 紀州風景(暁の海) 昭和 6
 黒 汐 (潮岬) 昭和 6
 潮 岬 昭和 6
 潮 岬 昭和 6
 潮 岬 (小品) 昭和 6
 太 陽 (潮岬) 昭和 6
 日 の 出 昭和 6
 太陽のある風景 昭和 6
 熱海の日の出(小品) 昭和 6
 大 洗 (小品) 昭和 6
 浪 (大洗) 昭和 6
 大洗の日の出 昭和 6
 神戸港の日の出 昭和 7
 神戸港の日の出 昭和 7
 五剣山の日の出 昭和 7
 五剣山の日の出 昭和 7
 屋根よりの遠望 昭和 7

東 海 旭 光 昭和 7
 日 の 出 昭和 7
 日の出(パステル) 昭和 7
 小 豆 島 の 春 昭和 7
 花 昭和 9
 花 (小品)
 台湾聖廟の裏木戸 昭和 8
 杏 花 の 里 昭和 8
 春 (杏花) 昭和 8
 杏 花 (安茂里) 昭和 8
 杏 花 の 道 昭和 8
 荒 れ る 海 昭和 9
 山上の日の出(礁氷峠) 昭和 9
 港 の 朝 陽 昭和 9
 奈 良 風 景 昭和 9
 台湾の舞妓(小品) 昭和10
 台 湾 の 女 昭和10
 台湾の女(パステル) 昭和10
 京 の 舞 妓 昭和10
 騎 兵 (素描) 昭和10
 旭 光 (新高山) 昭和10
 新 高 山 昭和10
 海 昭和10
 室 戸 岬 遠 望 昭和10
 港 の 正 月 昭和11
 奈良平原の日の出 昭和11
 琉球の女(パステル) 昭和11
 麻 姑 献 寿 昭和12
 旭日照六合(御物) 昭和12
 蒙 古 の 日 の 出 昭和12
 蒙 古 高 原 昭和12
 蒙古風景(パステル) 昭和12
 蔵王山雪の日の出 昭和12
 耕 到 天 昭和12
 上海蘇州河激戦の跡 昭和13
 西 湖 (水彩) 昭和13
 黄 浦 江 (水彩) 昭和13
 上 海 黄 浦 江 昭和14
 犬吠岬の灯台 昭和15
 青 富 士 (小品) 昭和16
 赤 富 士 (小品) 昭和16
 港の朝陽(絶筆) 昭和18
 追 加
 支那服の女(パステル) 大正15頃
 信濃の春(パステル) 昭和 8頃
 森 の 日 の 出 昭和 8頃
 風 景 (日の出) 昭和 8頃
 (パステル)
 船 煙 夕 照 昭和10頃
 雪 の 日 の 出 昭和12頃

ステラ(絵はがき下絵)
 縮 図 帖 (2冊)
 画 稿 集
 蝶 供 養 帖
 7 回蒼騎会展 29—5月4 銀座画
 廊
 辻伸一個展 29—5月4 ルナミ画
 廊
 記号派展 29—5月4 椿近代画廊
 黒の会展 29—5月4 椿近代画廊
 行動美術協会展 29—5月5 大阪
 市立美術館
 栃原輝明・克子2人展 30—5月6
 竹川画廊
 53回光風会展 30—5月10 愛知県
 美術館

5 月

3 人展(山脇真一・鈴木延雄・友田
 稔) 1—6 文芸春秋画廊
 葛城尚個展 1—6 全線画廊
 椿寿雄個展 1—6 樺画廊
 新鋭の日本画家展 1—6 あかね
 画廊
 朝陽会展 1—6 三菱電機ギャラ
 リー
 回瀾会展 1—6 銀座ヤマト画廊
 野中進個展 1—6 サエグサ画廊
 3 人展(前川欣三・小泉博夫・柏原
 えつとむ) 1—6 画廊クリスタ
 ル
 白浜禎吉個展 1—7 銀芳堂画廊
 滝川啓三個展 1—7 文芸春秋画
 廊
 高橋美子個展 1—7 銀芳堂画廊
 池田太一個展 1—7 おぎくぼ画
 廊
 鯨井聿・斎藤晃司展 1—7 夢土
 画廊
 足立源一郎個展 1—9 日動サロ
 ン
 大歳克術個展 1—12 日本橋画廊
 スルガ台画廊新人選抜展(今井幸子・
 柏原えつとむ) 1—13 スルガ台
 画廊
 三上誠個展 1—13 日本画廊
 上田桑鳩・三上正寿合作小品展 1
 —14 カドー画廊
 高田博厚彫刻展 1—15 現代彫刻
 センター

美術展覧会(5月)

6回彫刻集団「刊」展 1—31 日比谷公園内
 宮城と徳展 1—31 精美堂画廊
 河井寛次郎遺作展 2—7 高島屋
 関四郎五郎油絵展 2—7 三越
 竹久夢二版画回顧展 2—7 松坂屋
 村上源一個展 2—7 石田画廊
 京の工芸互匠会展 2—7 三越
 童画グループ「車」展 2—8 紀伊国屋画廊
 8回丹羅会日本画展(伊東万燿・大山忠作・加藤東一・加藤辰明・川本末雄・今野忠一・郷倉和子・野島青枝・浜田台児・樋笠敦慶・平山郁夫・福王寺法林・吉田善彦) 2—9 伊勢丹
 日本の素描—素描から作品— 2—6月25 山種美術館
 成田克彦個展 3—8 村松画廊
 河野興二個展 3—8 村松画廊
 二科会員グループ展 3—10 東和画廊
 長沢昭朗個展 4—9 銀座画廊
 宇根元警個展 4—13 荏番館画廊
 新保兵次郎油絵展 5—10 松屋
 プラスアルファ展 5—10 椿近代画廊
 3人展(本田・吉田・宮本) 5—10 椿近代画廊
 K O Sグループ展 5—10 椿近代画廊
 村田元作陶展 5—10 松屋
 初夏の風景油絵展 5—14 ギャラリー・アルカンシェル
 織部展 5—17 京王
 新世紀美術協会展 6—12 大阪市立美術館
 宇藤義一個展 7—11 竹川画廊
 ヴァスコ・ブラード版画展 7—14 ギャラリー磯谷
 黄金の聖書展 7—31 西武
 天野三郎作品展 8—13 アオイ画廊
 赤の会展(鯛正之輔・田中郁夫・萩原栄文・松井叔生) 8—13 下村画廊
 小松益喜個展 8—13 大阪・梅田画廊
 佐田勝個展 8—13 南天子画廊
 佐藤亜土個展 8—13 文芸春秋画

廊
 炎樹会彩画展(井上孟・浜谷次郎・高木正行) 中央公論画廊
 マーキュリー会15周年記念展(藤山愛一郎・石崎重郎・森治樹・白根清香・花崎利義・松山茂助・岡松成太郎・山田三郎太) 8—13 資生堂ギャラリー
 2人展(阿部威・依田邦子) 8—13 標画廊
 女流3人展 8—13 あかね画廊
 軽部興個展 8—13 昭和画廊
 米原二郎個展 8—13 中央公論ビル画廊
 箕口博彰刻展 8—13 ときわ画廊
 白根光夫個展 8—13 サエグサ画廊丸の内店
 日本画16人展 8—13 梅花亭ギャラリー
 桜井良次個展 8—13 サエグサ画廊
 宮永岳彦絵画教室展 8—14 東金堂ギャラリー
 小畑勉個展 8—14 夢土画廊
 福島忠個展 8—14 おさくば画廊
 加藤興巖個展 8—14 銀芳堂画廊
 宗久恭子個展 8—14 銀芳堂画廊
 遠藤拓也版画展 8—17 養清堂画廊
 榎戸庄衛個展 8—17 ポールギャラリー
 海老原喜之助個展 8—17 日動画廊
 小紋章子個展 8—20 画廊クリスタル
 淡青会 8—20 新橋画廊
 高橋岡夫展 8—20 シロタ画廊
 香月泰男滞米スケッチ展 8—20 フォルム画廊
 豊島和子個展 8—20 サトウ画廊
 香月泰男滞欧水彩展 8—20 みゆき画廊
 佐藤大寛展 9—14 三越
 ベルナル・ビュッフェ近作展 9—14 三越
 柴晨会工芸展 9—14 三越
 小川千穂作品展 9—14 上野・松坂屋
 市瀬竹士展 9—15 秋山画廊
 イラストレーション'67展(柳原良平・早川良雄・山城隆一・福田繁

雄・松本はるみ・久里洋二・井上洋介・田名網敬一・阿部隆夫・田保橋淳・井坂芳太郎・灘本唯人・横尾忠則・真鍋博・沢田重隆・宇野重喜良) 9—20 村松画廊
 明治大正名画展 9—21 本間美術館
 丹希会洋画5人展(織田広喜・庫田葵・高田誠・鷹山宇一・藤井令太郎) 10—16 伊勢丹
 常田健個展 10—16 紀伊国屋画廊
 大沢昌助展 10—17 日動サロン
 27回日本画院展 10—22 都美術館
 9回日本国際美術展 10—30 都美術館
 出品目録

◆オーストリア

園	油	1966	オズワルド・オーバーバー
頭	ク	1967	ク
口と園	ク	1966	ク
頭と口	ク	1967	ク
ドナルド・マルコム・キャンベルの死	テンペラ・鉛筆・オイル・ラベ		ベーター・ボンゲラッツ
精神分裂病者の横顔	テンペラ・鉛筆・オイル・チョーク	1967	ク
O. B. の横顔	テンペラ		ク
豚としてのDr. フックスの横顔	ク	1966	ク
風景	テンペラ・油		ク
雷のパノラマ	黒鉛	1966	アースルフ・ライナー
有名な人々	ク	ク	ク
精神分裂の王様	ク	ク	ク
霊界の悪魔	ク	ク	ク

◆ベルギー

サラダを前にした肉好きの王様	油	1965	ジャック・シュメイ
蜜蜂庄さく機、または箱につめられた自然	ク	1966	ク
一匹の蠅が他の一匹の前を通る	ク	ク	ク

美術展覧会(5月)

大いなる成長	木炭・テンペラ	1966	ジャック・シュメイ
ウィーズン ドンクのシ ャンソン	油	1965	ジャック ・ラコン ブレ
アルカーナ (エドガー ル・バレー ズに捧ぐ)	〃	1966	〃
アン・ラド クリフに捧 ぐ	〃	1964	〃
身分証の国 にて	〃	1966	〃
夜の紋章	〃	〃	〃
それでも	〃	1964	ポール・マ ラウ
間違った方 向	〃	1966	〃
偶 像	〃	〃	〃
赤 い 火	〃	1967	〃
あと数セン チ……	〃	〃	〃

◆ボリビア

魚	玄武岩	1964	マリナ・ ヌネス・プ ラド
宇宙の母	〃	〃	〃
鳩	しまめ のう	1964	〃
母 と 子	〃	〃	〃
母 と 子	〃	〃	〃
母 と 子	玄武岩	1965	〃
宇宙の眼	〃	〃	〃
母 と 子	木	〃	〃
形 体	しまめ のう	〃	〃
母 と 子	木	〃	〃
赤いコンド ル	石	〃	〃
母 と 子	玄武岩	1966	〃
母 と 子	〃	〃	〃
姉 妹	〃	〃	〃
コンドル	〃	〃	〃

◆ブラジル

住居の箱 I	木・ア クリル ・布・ アルミ	1965	ルーベン ス・ゲル シュマン
住居の箱一 空気	木・ア クリル	〃	〃
一人ぼっち の男の箱	アクリ ル	1966	〃

一人ぼっち の男の箱	アクリ ル	1966	ルーベン ス・ゲル シュマン
祖先の箱	〃	〃	〃
箱の中のす べて	〃	1965	〃
フォンタナ に捧ぐ I, II	布・鉄	1967	ネルソン ・ライル ナー
パズル	木	1965	〃
君は……の 一部	木・ア ルミ	〃	〃
シャザン	〃	1967	マウリシ オ・ノゲ イラ・リ マ
ハ ー !	〃	〃	〃
ウーツシュ	〃	〃	〃
発 明 油	〃	1964	エリオ・ オイティ シカ
宇宙の絵画	油・ビ ニール	〃	〃
宇宙のレリ ーフ	ニトロ セルロ ーズ	〃	〃

◆フランス

海 の 空	油	1965	ジョルジ ユ・アデ イロン
サン・トロ ペのぶどう 畑	〃	1966	〃
サン・トロ ペの竹林	〃	1965	〃
静物《イタ リアの壺》	〃	1966	ポール・ アイズピ アリ
女の肖像	〃	〃	〃
小さな道化 師	〃	〃	〃
黒い木 II	〃	1966	ギュスタ フ・ボラ ン
逆光にかげ った野原	〃	〃	〃
プロバンス 地方の春	〃	〃	〃
農 機 具	〃	1965	ジャン・ カルズー ー
廃 港	〃	1966	〃
坐礁した船	〃	〃	〃
冬の太陽	〃	1965	アンドレ ・コタボ
私 の 母	〃	〃	〃
アグリジェ ントの谷と 神殿	〃	1966	〃
聖霊降臨祭 の備え	〃	1965	リュシア ン・クー トー
彼女らは夜 を待つ	〃	1966	〃

夜の前には 会話が	油	1966	リュシア ン・クー トー
T1966—E 30	〃	1966	アンス・ アルツン グ
T1966—R 7	〃	〃	〃
ブリュージュ の白鳥の 争い	〃	1966	アンドレ ・マッソ ン
魔法使いの 部屋	〃	〃	〃
彫刻のある 静物	油・コ ラージュ ユ	1966	ポール・ ルベイロ ル
三枚組絵 その 1	油	1966	ジャン＝ ポール・ リオベル
その 2	〃	〃	〃
その 3	〃	〃	〃
絵画 72-G 1965	〃	1965	ジェラ ール・シ ュネーデル
絵画 23-H 1966	〃	1966	〃
絵画 85-F 1963	〃	1963	〃
大きな風景 —絵画1966	〃	1966	ラウル・ ユバック
Montchavert —絵画1966	〃	〃	〃
野のふもと	〃	〃	〃
金のオリオ ン	コラー ージュ	1965	ビクトル ・バザル リー
ヘクラ (ア イスランド の火山)	〃	〃	〃
Mets	〃	1964	〃
膝をついた 人	石	1965	ウージェ ーヌ・ド デーニュ
坐った人	〃	〃	〃
すまいNo.1	ブロン ズ	1956 —58	エチエン ヌ＝マル タン
迷 宮 II	石	1966	フランソ ワ・スタ ーリー
ひ と で	木	1959 —60	〃
ビーナス	大理石	1958	〃

◆ドイツ

銀色の獅子 のベッドで のまどろみ	油	1965	バヤ・ビ ンゲマー
青獅子のベ ッドでのま どろみ	〃	〃	〃
幸福を見積 る	〃	1966	〃

美術展覧会(5月)

土の上	油	1965	ヨハネス・ゲッセル	思い出の記	油・コ ラー ジュ	1967	ジバン・ア ダ ル ジ ヤ	歴 史 1	グワッ シュ	1966	ソン・ス ーナ ム
うしろ向き	〃	〃	〃	コンボジシ ョン No. 1	油	1966	アルン・ ブース	歴 史 2	〃	〃	〃
横たわる像	〃	1966	〃	コンボジシ ョン No. 2	〃	〃	〃	山 1	油	1967	ユン・ユ クツク
PUBLIT, 詩画 8	〃	1965	フェルデ イ・ナンド ・クリベ ット	コンボジシ ョン No. 3	〃	〃	〃	山 2	〃	〃	〃
PUBLIT, 詩画 38	〃	1966	〃	でたらめの 文字	〃	1966	L. S. ラ ジブート	山 3	〃	1966	〃
PUBLIT, 詩画 38	〃	〃	〃	黒と黄色	〃	1965	〃	山 4	〃	1965	〃
宿 場	〃	1966	イエンス ・ラウゼ ン	コンボジシ ョン	〃	1966	〃	夜 明 け	〃	1966	〃
碇泊地	〃	〃	〃	動く身体	〃	1966	A. ラマ チャンド ラン	頂 上	〃	〃	〃
風景 II	〃	〃	〃	臣従の礼 I	〃	1965	〃	太 陽	〃	1967	〃
マホガニー の肘掛椅子	〃	1963	アルノル ド・ライ スラー	◆イタリア				◆ポルトガル			
家具の流れ	〃	〃	〃	夏のようだ	油	1967	アントニ オ・コル ポラ	バイショ・ レレーボ	油	1966	マヌエル ・バプチ スタ
バラの紋章	〃	1964 —65	〃	子供時代の 壁	〃	1966	〃	バイショ・ レレーボ	〃	〃	〃
◆イギリス				アラビア語 の読みもの	〃	〃	〃	絵 画 1	〃	1966	カルルス ・カルベ ット
避 泊 港	油	1966	テス・ジ ェレイ	ある朝の思 い出	〃	1665	〃	絵 画 2	〃	〃	〃
第2避泊港	〃	〃	〃	二 打	〃	1967	〃	試 み る	カラー ジュ	〃	ジュアオ ・アベル ・マンタ
タラント (イタリア 南東部海軍 基地)	〃	〃	〃	二つの弧	〃	1966	ジュゼッ ペ・サン トマソ	浜 辺	カラー ジュ・ 油	〃	〃
アイガー	アクリル	1965	ジェレミ ・ムー ン	チマーブエ の「キリス ト磔刑図」 をたたえて	〃	1967	〃	ロ ボ ッ ト	〃	〃	〃
輪 投 げ	〃	〃	〃	告 知	〃	1966	〃	ダラスの一 瞬	〃	〃	〃
メーデー	〃	〃	〃	謎	〃	1967	〃	アカデミッ クな勉強1	〃	1965	サ・スゲ イラ
茶 色	ポリビ ニール・ アセト ・アクリ ル	1966	ジョン・ ブラム	青い空間	〃	〃	〃	アカデミッ クな勉強2	〃	1966	〃
灰色の八月	〃	〃	〃	中空で	〃	1967	エミリオ ・スカナ ビーノ	イタリア風 に寝る	油	1965	〃
黄色 IV	〃	〃	〃	白い三角に 支えられて	〃	〃	〃	バルセロナ の家	カラー ジュ・ 油	〃	パウラ・ レグ
コ ロ ナ	ポリビ ニール・ アセト ・アクリ ル	1966	ピーター ・セツジ リー	開 花	〃	〃	〃	ゴルゴン ケンタウロ ス	〃	〃	〃
核 分 裂	〃	〃	〃	病 的	〃	〃	〃	◆スペイン			
光	〃	〃	〃	像	〃	〃	〃	絵 画	油・コ ラー ジュ	1967	アルヒモ ン
ほぼ大僧正 の長さ	アクリル	1966	マーク・ ボー	◆大韓民国				絵 画	〃	〃	〃
二列行進	〃	〃	〃	作品 C-5	墨	1967	チュン・ タクユン	絵 画	〃	〃	〃
こうらい鶯	〃	〃	〃	作品 F-3	〃	〃	〃	絵 画	オブ ジェ	1965	ホセ・ギ ノバール
◆インド				時 間 3	油・ 砂	1966	ホワン・ ヨンヨッ プ	絵 画	〃	〃	〃
果	油	1966	ジバン・ ア ダ ル ジ ヤ	時 間 5	〃	〃	〃	ドメネク・ イ・ムン タ ネールに 捧ぐ	〃	〃	〃
瞬 間	〃	〃	〃	病いの時	油	1967	キム・チ ョンハク	黒と赤と色 調	油	1966	ホセ・マ リア・イ グレシア ス
	〃	〃	〃	しあわせな 時	〃	〃	〃				

美術展覧会(5月)

菱形を変える コンポジション	油	1966	ホセ・マ リア・イ グレシア ス
躍動する表 面	〃	〃	〃
絵画(形と でっぱり)	獣皮	1966	フリアン ・マルチ ン・デ・ ビダレス
絵画(朝日)	〃	〃	〃
絵画(空間 の世界)	〃	〃	〃
コンポジシ ョン 1	油・砂	1967	エデュワ ルド・マ ロー
コンポジシ ョン 2	〃	〃	〃
コンポジシ ョン 3	〃	〃	〃
◆スウェーデン			
予 言	油	1950 —56	ベルナ ール・モ ルン
牛小屋の思 考	〃	1957	〃
幻覚と感情	〃	〃	〃
静かな雰囲気	〃	1958	〃
自画像の部 分	〃	1951	〃
作 品	〃	1964	アンデル ス・エス タルン
作 品	〃	1665	〃
作 品	〃	〃	〃
作 品	〃	1966	〃
作 品	〃	〃	〃
かぶと虫シ リーズ I (雄)	ビニ ール	〃	カール＝ アクセル ・パーソ ン
かぶと虫シ リーズ II (雄と雌)	〃	〃	〃
かぶと虫シ リーズ III (雄)	〃	〃	〃
かぶと虫シ リーズ IV (雄と雌)	〃	〃	〃
かぶと虫シ リーズ V (雄)	〃	〃	〃
◆ス イ ス			
二つのねじ れ散った円	合成 樹脂	1966	フランツ ・フェデ イエ
縞と円 I	〃	〃	〃
動力伝送	〃	〃	〃
縞と円 II	〃	〃	〃
運命の神の 車輪	〃	〃	〃

絵画 50/66	油	1966	ウィリ ー・ラ ーニ ナウ
絵画 61/66	〃	〃	〃
絵画 62/66	〃	〃	〃
絵画 77/66	〃	〃	〃
絵画 79/66	〃	〃	〃
円 錐 I	合成 樹脂	1967	ロルフ・ ウェバー
円 錐 II	〃	〃	〃
円 錐 III	〃	〃	〃
単 体	〃	1966	〃
◆アメリカ			
自転車 66	油	1966	ローウ エス ビット
コネチカッ トの馬小屋	〃	〃	〃
アトリエの 壁面 II	〃	〃	〃
四 輪 馬 車	〃	1964	ケネス・ ノーラン ド
断層斜面	〃	1966	〃
S 氏 像	アクリ ル	1965	〃
Galiloo	〃	1966	ジュール ス・オリ ツキ
連 累	〃	〃	〃
約 束	〃	〃	〃
Hollis Fra mpton	油	1963	フランク ・ステラ
無 題	〃	1966	〃
無 題	〃	〃	〃
R—18	〃	1964	ウルファ ート・ウ イルク
R—20	〃	〃	〃
R—26	〃	〃	〃
◆ユーゴスラビア			
絵 画 VIII	油	1965	ラドミ ール・ダ ムニャ ノビ ツチ
絵 画 IX	〃	〃	〃
1965年5月 22日	〃	〃	〃
5月22日の ための小 さな花束	〃	1966	〃
5月22日の ための小 さな花束 II	〃	1967	〃
発 見	〃	1964	オルダン ・ベトレ ブスキ
黙 示	〃	1966	〃
磔 刑	〃	〃	〃

(生物の)組 織浴離	油	1966	オルダン ・ベトレ ブスキ
墓 碑 銘	〃	1965	〃
光 と 影	テン ペラ	1967	イバン・ タバコビ ッチ
隠れた世界 I	カラー ジュッ サ	〃	〃
光・色・形	テン ペラ	〃	〃
隠れた世界 II	カラー ジュッ サ	〃	〃
夜 明 け	テン ペラ	〃	〃
◆日 本			
◇洋 画			
長い長い虹の絵	〃	〃	嘯
道化の埋葬	〃	〃	朝井 閑右衛門
作品 42 の A	〃	〃	浅 田 慶 明
ある 群 像	〃	〃	麻 生 三 郎
R 14. 1966	〃	〃	阿 部 展 也
Alphabet skin, No. 3	〃	〃	荒 川 修 作
幕 (手)	〃	〃	糸 園 和 三 郎
射 的	〃	〃	井 上 長 三 郎
桃色の地図	〃	〃	猪 熊 弦 一 郎
グラフ 67—5.3	〃	〃	稲 葉 治 夫
Soleil	〃	〃	今 井 俊 満
白に捧ぐ	〃	〃	今 井 祝 雄
作 品	〃	〃	今 中 クミ子
The aquarium within a aqua rium	〃	〃	宇佐美 圭 司
浜	〃	〃	牛 島 憲 之
脚のシリーズ (アクロバット)	〃	〃	榎 戸 庄 衛
盛 夏	〃	〃	海老原 喜之助
東 洋 人	〃	〃	大 沢 昌 助
雪の無線中継所	〃	〃	岡 鹿之助
雲と子供	〃	〃	岡 田 謙 三
「作品 U. R. C」	〃	〃	岡 部 繁 夫
子守り唄・マダ ム・ルーランの 肖像(クール・ ゴッホ論より)	〃	〃	岡 本 信治郎
天空に我あり	〃	〃	岡 本 太 郎
予 言 者	〃	〃	荻 太 郎
街 角	〃	〃	荻 須 高 徳
ベランダのモン ステラ	〃	〃	奥 谷 博
円 150 c—c	〃	〃	オノサト・トシ ノブ
像	〃	〃	小山田 二 郎

美術展覧会(5月)

タラップ(復員)
鼻
Oval black
瀬戸風景
踊子
花曇り
Cut'out six
海辺
クレール
連帯
流転化石
太陽と人間
平治元年十二月
二十六日
銀座にベトコン
が出た!
緑と赤
Le Cirque—44
鳥
世界の壁
高原
エレミアの時代
Les fleurs d'an-
tan
働く人達
MEDO
私の場
エトルタ
潮岬灯台
長崎の風
海
人
物
きざまれた白
館
海のすべての魚
恐れおのいて
ノアの支配に服
す
音
人間空間・3
永久花
楽園追放
裸婦を描く
木場の人
作品N.Y. No.1
記録と遺産
棲門
Lapin Agileの
夜
春駒寄せと楽譜
対
葬
列
コース 1-A

香月泰男
桂川端実
川北川民次
小磯良平
小糸源太郎
小島信明
小斎藤作重
小斎藤善三
坂本藤敬
佐藤繁次郎
白髪一雄
篠原有司男
高井貞二
高橋由明
高間七郎
高松次郎
高鷹山宇一
田中忠雄
田淵安一
田村孝之介
田鶴岡政男
仲田好江
中谷泰之
鍋井克太郎
野見山治
林田武
八馬場豊
福沢一郎
古田安
前田常作
三岸節子
三雲祥之助
三宮本三郎
村井正誠
元永定正
森省一郎
森芳雄
森田元子
山口薫
山口長男
山田下菊二
山本正

白い円
Just curve '67
(Station)
53 Noen clouds
in perspective
Blue universe
飛転
◇日本画
出口のない空間
森の衣裳
フラミンゴ
冬の樹
東邦の人々
草の譜
終電車
モロッコ・メジ
ナ
溪下
舞月
雪枯
夢む
寂映
石仏
水芭蕉曼陀羅
神話(A)
祭祀暦
草の鳥
教会への道
かざはない
野の語らい
樹凌
祈る高砂族
ぼたん
喜劇と悲劇
真性
檀林皇后
衡のある風景
◇版画
虚構
コンストラク
ションシス
テム
Peninsular 25
47・4
孤独
Waiting for
Summer
華やかなる孤独
白吉原治良
アクリル・
ネオン
ステン
レス
ヨシダ ミノル
油・ネオン
吉村益信
若尾和呂
脇田和
朝倉撰雄
池田幹正
石本正牛
上田臥郎
上野泰郎
上原卓以
大森運夫
奥村厚一
小野具子
片岡又造
加工藤甲人
近藤弘明
今野忠一
佐藤多持
白藤朱根
常盤大空
西村昭二
西山英雄
野崎貢美
橋本竜夫
平川敏夫
福王寺法林
丸木位里
水谷勇夫
宮原明良
山本政雄
渡辺学
尼野和三
磯辺行久
(協力=尾崎正教)
加納光於
日下賢二
駒井哲郎
白井昭子
清宮質文

深き淵より
赤と黒5
火の不浸透
お伽の国
No. 17
卓上の小鳥
風景
闇入者
少女
津軽三味線の
柵
Event 3
大地の響
◇彫塑
トルソ
MU—S 501
Zwielicht
番人
連続空間67
黙
空間への二つ
の孤
裸婦
Let us be up
and doing
四角い罨
脱ぐ
微笑
99人目の花嫁
立つ女
柱 No. 2
あるポーズ6
女
单于の風笛
Tension and
compression
DEN—3
Mask. May
周波数
37306776
イザベル・ル
オー女史
ひと
エンチ
ング
エッチ
・グ
ラフ
石
ボリエ
ステル
樹脂
アルミ
合金
木
石膏
ボリエ
ステル
ステン
レス
ボリエ
ステル
石膏
黒花崗
岩
石膏
和紙
石膏
ブロン
ズ
鉄
ステン
レスス
チール
ブロン
ズ
木
アクリ
ル・ア
ルミ
石膏
木
中林忠良
野村博
野中ユリ
萩原英雄
長谷川潔
浜田知明
深沢幸雄
南桂子
棟方志功
吉原英雄
吉田政次
朝倉響子
吾妻兼治郎
飯田善国
五十嵐芳三
井上武吉
植木茂
江口週
大須賀力
岡崎和郎
小田裏
菊池一雄
木内克
木村賢太郎
黒田嘉治
昆野恒
桜井祐一
佐藤忠良
塩見哲郎
篠田守男
志水晴児
澄川喜一
多田美波
高田博厚
高橋キヨシ

Organ—box	アルミニウム	建畠 覚造
藝 股 の 話	木	田中 栄作
裸 婦	石膏	千野 茂
非 化 Q	ブロンズ	辻 晋堂
番 人	鉄鋳物	土谷 武一
和	石	富樫 孝術
相—323	木	富松 知徳
Colonna VI	木	豊福 隆業
一つの穴のある 単側空間 (トポロジイ)	合成樹脂	長野 隆業
「コの記号」 67—7	木	野水 信
Gocco 30	〃	橋本 典子
揺 車	〃	藤本 美弘
Dots	木、プラスチック	福島 敬恭
ダミアン神父	ブロンズ	舟越 保武
作品 1967 L1	ブロンズ石	細川 宗英
正六面体のなかの 円錐形のなかのトルソ	ブロンズ	堀内 正和
少年の壁	樹脂	本郷 新
Ear pink 12	石膏・ネオン	三木 富雄
秦皮(とりねこ)の舞	木	水井 康雄
ポ ポ ポ ポ	プラスチック	最上 寿之
道標(風と鳥)	ブロンズ	柳原 義達
装 置	プラスチック	山口 勝弘
無 題	乾漆	山本 豊市
無 題	鉄	湯原 和雄
P/S 後から来るC	鉄	若林 奮
◆特別陳列=ミロとジャコメッティの版画		
髪座の星々 I	エッチング	1964 ホアン・ミロ
髪座の星々 II	〃	〃
髪座の星々—黒	〃	〃
見張番たち	リトグラフ	〃
おごそかな闘い	〃	〃
ぶどうを摘む女	〃	〃
滝	〃	〃
ぶどう摘む男	〃	〃

たそがれの環	リトグラフ	1964 ホアン・ミロ
楽園の鳥	エッチング	1965 〃
鳥と黄色い月	〃	〃
海の底 I	〃	〃
海の底 II	〃	〃
鳥と石投げ器	リトグラフ	〃
Betelgeuse	〃	〃
鍛冶屋の鳥	エッチング	〃
侵された輪	リトグラフ	〃
破られた輪	〃	〃
女 獺 人	〃	〃
太 陽	エッチング	1966 〃
月	〃	〃
流れ星	〃	〃
一つがいの鳥 I	〃	〃
一つがいの鳥 II	〃	〃
一つがいの鳥 III	〃	〃
石壁の絵 I	ドライ・ポイント	〃
石壁の絵 II	〃	〃
石壁の絵 III	〃	〃
石壁の絵 IV	〃	〃
無 題	〃	〃
アトリエのアンネット	リトグラフ	1955 アルベルト・ジャコメッティ
犬 と 猫	〃	〃
アトリエの胸像	〃	〃
胸 像	〃	〃
カフェにて	〃	〃
犬	〃	〃
彫像といす	〃	〃
アンネットの正面像	エッチング	〃
花 II	〃	〃
裸婦正面像	〃	〃
立っている男	リトグラフ	1957 〃
胸 像 I	〃	1960 〃
胸 像 II	〃	〃
裸婦と花	〃	〃
坐っている裸婦	〃	1961 〃
男 の 顔	〃	1963 〃

スタンバ	リトグラフ	1964 アルベルト・ジャコメッティ
窓辺による芸術家の母	〃	〃
男の胸像	〃	〃
読書する芸術家の母 I	〃	〃
二紀会 100 人展	11—16	都美術館
石岡光朗個展	11—16	ルナミ画廊
グループ VOYANT No. 4 展	11—16	椿近代画廊
19回泉会展	11—16	丸善画廊
鈴木香雨個展	11—16	銀座画廊
越智雄二個展	11—20	兜屋画廊
池下昌徳個展	12—17	竹川画廊
大橋正イラストレーション展	12—17	松屋
現代巨匠作品展	12—17	大丸
レオナルド・フジタ版画展	12—17	小田急
旭達文木版画展	12—17	小田急
広瀬功展	12—17	西武
小品展	12—23	東和画廊
5回もくせい展(秋元保・糸川清・栗原源六・河野友三郎・佐曾利正男・鷺谷欽平・代田申三・坪井矩一郎・埜口能正・浜中徹太郎・正井章一・岸三二・堀野秀作・熊田藤作・佐久間宗) 13—18		銀座ヤマト画廊
三上隆彦個展	13—23	日本橋画廊
ユトリロ展	13—6月11	京都市美術館
松田尚之彫塑展	15—19	朝日会館ホール
川島隆夫個展	15—20	丸ノ内サエグサ画廊
加藤秀夫個展	15—20	サエグサ画廊
独立18人展(海老原喜之助・岡部繁夫・小島善太郎・小林和作・斎藤長三・坂本善三・鈴木亜夫・鈴木保徳・高橋忠弥・高間惣七・鳥海青児・中津瀬忠彦・中間冊夫・中山巍・野口弥太郎・林武・山本正) 15—20		資生堂ギャラリー
関口俊吾展	15—20	大阪・梅田画廊
山本ひろの展	15—20	文芸春秋画廊
志村一男個展	15—20	昭和画廊

美術展覧会(5月)

清水弘哉個展 15—20 中央公論丸
ビル画廊
谷口道子個展 15—20 全線画廊
永原達朗個展 15—20 様画廊
佐藤努個展 15—20 サトウ画廊
戸田定個展 15—20 中央公論画廊
秀島任個展 15—20 ときわ画廊
62層展 15—20 梅花亭ギャラリー
ヴェウ・ヴァルセーロス版画展 15
—20 ギャラリー磯谷
水口豊個展 15—21 銀芳堂画廊
大谷俊治個展 15—21 文芸春秋画
廊
グループ・カトル 15—21 夢土画
廊
荻谷己代子個展 15—21 おぎくば
画廊
唐笠真理個展 15—24 壺番館画廊
ボン・デ・ザール展(岡田又三郎・
大久保泰・笹岡了一・佐藤真一・
島村三七雄・橋原健三・西山真一・
服部正一郎・藤本東一郎・松島正
幸・南政善) 15—24 ギャラリー・
アルカンシェル
松任谷千鶴個展 15—24 東金堂ギ
ャラリー
高木勲個展 15—27 日本画廊
東京在住の外人作家展 15—27 祐
天寺ギャラリー
6回日本現代工芸美術展 16—21
高島屋
会員出品目録
蠟型鋳銅花器 須賀竜治
風の唄 染川鉄之助
緑釉角瓶 滝一夫
水かげ 小森克巳
花器「紫影」 小森野泰明
開飯田美郎
たく器花挿 安原喜明
魚 三谷吾一
豊飯塚小軒斎
聴春 佐野猛夫
緑釉懸垂瓶 叶光夫
鳥岸田竹史
樹下の想念 野口晴朗
化石群 高橋節郎
刻文壺 宮下善寿
群生想譜 帖佐美行
燦光釉花瓶 森野嘉光
空に懸かる 佐治正

布目象嵌鉄壺 大須賀 喬
水 辺 山崎 覚太郎
クリスタル・ベ 各務 鉦三
ンゲン
手織錦星座 山鹿清華
鋳銅花瓶 山室百世
染彩飛びたつ 皆川月華
飯 浅見隆三
孔雀と童子 山河本五郎
青い朝(4) 般若 弘
ゆく雲・額 番浦 省
蒼釉壺 加藤 光
地 形 辻 卷三郎
育(はぐくむ) 鶴 山一夢
木芸鳥と花の 横松 栄一
よろこび よろこび 平松 宏春
婦 心 加藤 卓男
續 高橋 盛
志野花器「日月」 楓 木川 泰
墨 彩 西 伊東 本
揺和 寺 母
蘇州園林 伊 東 正
蒼 陶 寺 寛
晨 金 新
萌 金 東
鳳友漆パネル 中里 忠
灰ぐすりの壺 村田吉生
珊瑚礁の魚 真子実也
乾漆花器抱 中村光哉
夕風(ゆうなぎ) 可西泰三
鋳銅花器 伊東 翠
白 海 野建
暈 横倉 嘉
黒い肌 来野 月
67-A-4 須賀 松
蠟型鋳造「花」 寺石 正
陥没した土地の 会田 富
風景 田川 青
黄銅筒花入 広信 小
Go! Go! 井米三
花 瓶 浜張
と り 丸
*静謐、漆パネル 象
刻塔 さきやき
繁 繁
(海洋)蠟型鋳銅 水盤

大須賀 喬
山崎 覚太郎
各務 鉦三
山鹿清華
山室百世
皆川月華
浅見隆三
山河本五郎
般若 弘
番浦 省
加藤 光
辻 卷三郎
鶴 山一夢
横松 栄一
平松 宏春
加藤 卓男
高橋 盛
楓 木川 泰
西 伊東 本
寺 母
新 東 正
中里 忠
村田吉生
真子実也
中村光哉
可西泰三
伊東 翠
海 野建
横倉 嘉
来野 月
須賀 松
寺石 正
会田 富
田川 青
広信 小
井米三
浜張 丸
大須賀 喬
山崎 覚太郎
各務 鉦三
山鹿清華
山室百世
皆川月華
浅見隆三
山河本五郎
般若 弘
番浦 省
加藤 光
辻 卷三郎
鶴 山一夢
横松 栄一
平松 宏春
加藤 卓男
高橋 盛
楓 木川 泰
西 伊東 本
寺 母
新 東 正
中里 忠
村田吉生
真子実也
中村光哉
可西泰三
伊東 翠
海 野建
横倉 嘉
来野 月
須賀 松
寺石 正
会田 富
田川 青
広信 小
井米三
浜張 丸

採石場
草文壺
鋳銅壁面裝飾
「静舞」
穀(カク)
休翼千里の夢
夕 映
扁壺 青
野 富
龍 富士
象嵌磁黒釉壺
曉 炎と土偶の壺
緑彩 壺
青い 壺
萌 芽
三彩藍釉 方容
新 生
鋳銅壺「詞」
粉白彩 壺
と まる
盤 朝陽(花籃)
赤流 壺
ポー ズ
流るる星
渚の幻想(乾漆
による)
盤
盤
いきもの
待 春
あかり(ミクロ・
コスモス)
スタイロフォー
ム
碧 萃
鳥 紋
彩朱乾漆盛器
トーマスポール
「乾立」
銀河のかけら
壁面裝飾「円舞」
流彩変壺
彩魚(壺)
新生(花器)
新飛芽花
香律岩壺
影 漆 鳥

青木滋芳
伊東陶山
坂辰治
板 坂
山 本 正
西 藤 大
加 沢 舜
岸 武
大 西 忠
井 上 治
宮之原 謙
吉賀 大
宮 坂 房
今 井 政
三 井 安
井 上 良
清水 六
楠 部 兵
蓮 田 衛
鈴 木 式
関 青 々
浮 田 武
田 辺 司
清 水 竹
越 智 裕
堀 健 三
尾 長 友
安 田 彦
加 藤 清
原 益 夫
河合 誓 徳
大久保 婦
永 井 鉄
鈴木 貫 爾
谷口 良 三
西 村 忠
南 祥 輝
市 橋 敏 雄
宮田 宏
横山 白
中村 翠
松原 春
津田 永
梶山 伸
徳田 八
斉 藤 十
佐 藤 悦
小 川 正
岡 田 欣
田 章 人

美術展覧会(5月)

花 入 大須賀 選
野草と蝶額 鴨 政雄
草の実 二口 志保子
輪 転 小林 美春
「磁象」パネル 浅蔵 五十吉
歓 喜 山下 恒雄
乾漆方型壺 横山 玉抱
ひ ら く 平野 利太郎
永 劫 三橋 国民
冬 日 山岸 堅二
游 亀倉 蒲舟
宇宙空間(蝕) 河合 匡造
包 容 小川 正波
野 草 渋谷 和子
白 い 壺 岩田 久利
回 想 勝 正弘
翔 小田原 俊雄
蒼 い 壺 藤平 伸
お う む 明石 朴景
雪華釉花器 永沢 永信
「朱玄」盛器 平石 晃祥
柿納「鳥」丸壺 大樋 年郎
立 夏 春日井 秀雄
青木大乗近作展 16—21 高島屋
ガラス工芸展 16—21 三越
石川県新作陶芸展 16—21 三越
古賀忠雄彫塑展 16—21 三越
3回平松宏春彫金展 16—21 高島屋
河井寛次郎遺作展 16—21 大阪・高島屋
ジャネット・リーチ作陶展 16—21 三越
ハボ展 16—22 秋山画廊
20代具象新人展 16—6月4 石田画廊
片柳忠男個展 16—6月4 松坂屋
瀟林クラブ日本画展 16—6月4 上野・松坂屋
8回橋畔会展(中谷泰・南大路一・森芳雄) 17—20 兼素祠
SHI 戦 SO5 展(今村聖太・勝岡良夫・属兵衛・牧朗・西村安孝) 17—22 椿近代画廊
丸本耕個展 17—22 椿近代画廊
金曜会日本画展 17—22 銀座画廊
前山忠個展 17—22 ルナミ画廊
6回独立選抜展 17—23 都美術館
長谷川利行展 17—24 伊勢丹
小原稔個展 18—23 竹川画廊
西村憲定滞欧作品展 18—24 日動

サロン
瀬川新一写真展 18—24 紀伊国屋画廊
原画展 18—24 丸善画廊
片山末加銅版画展 18—27 養清堂画廊
岡村夫二スケッチ展 19—24 小田急
川崎春彦展 19—24 松屋
ミクロの芸術展 19—24 松屋
長谷太郎大和路墨絵展 19—24 大丸
龍隆会展 19—24 銀座ヤマト画廊
久保孝雄遺作展 19—30 現代彫刻センター
峰岸魏山人・内山雨海2人展 19—31 白木屋
日本洋画のあけぼの秋田蘭画 19—6月18 大和文華館
7回丹径会展 20—25 巴里画廊
3回南枝会展 20—25 巴里画廊
近代日本の版画展 20—6月18 国立近代美術館
出品目録
＜明治期 1868—1912＞
肖像 石 1882 石井 鼎湖
向 じ 満 木 1910 石井 柏亭
下 谷 〃 〃 〃
日本ばし(東京十二景の内) 〃 〃 〃
新吉原夜桜景 〃 1880 井上 安治
銀座商店夜景 〃 1882 〃
鹿 鳴 館 〃 1883 〃
日本橋夜景 〃 1880 小倉 柳村
浅草観音夜景 〃 〃 〃
向島八百松楼之景 〃 〃 〃
湯 島 之 景 〃 〃 〃
ハツ山之景 〃 〃 〃
愛 宕 山 〃 1881 〃
隅 田 川 辺 〃 〃 〃
東京下谷芸妓小幾 石 1883 亀井 至一
水戸浪士会愛宕山図 〃 1889 合田 清
嬌花濡雨図 〃 1888 五姓田芳柳
多聞丸射禽図 〃 1875 五姓田義松
東京小梅曳船夜図 木 1876 小林 清親

東京両国百本杭眺之図 木 1879 小林 清親
鴨に枯蓮 〃 〃 〃
浅草夜見世 〃 1881 〃
池の端花火 〃 〃 〃
今戸夏月 〃 〃 〃
日本橋夜 〃 〃 〃
箱根湖畔より富士眺望図 〃 〃 〃
南 禅 寺 石 1888 小山 三造
祇 園 祭 〃 〃 〃
市川高麗蔵の姉輪平次ほか3点(草舞舞台姿の内) 木 1911 坂本繁二郎
台湾雞籠港口之景 石 〃 高橋 由一
大阪松嶋松の華風景之図 木 1885 野村 芳国
大阪天王子村清水之図 〃 〃 〃
大阪城ばんば之図(京阪名所図絵の内) 〃 〃 〃
東京芸妓奴 石 1879 平木 政次
団子坂菊花ニコライ教会堂 〃 1890 二神 純孝
新橋停車場 〃 〃 〃
摂州箕面山瀑布図 〃 〃 松田 緑山
築地保停留館庭中之図 銅 〃 〃
一鶴の花和尚ほか1点(草舞舞台姿第二集の内) 木 1911 山本 鼎
デッキの一隅 〃 1912 〃
野鷲(香港所見) 〃 〃 〃
鹿児島戦争 石 1877 山本 芳翠
磐梯山噴火真図 木 1888 山本芳翠画(合田清刻)
矢 矧 橋 銅 1881 結城 正明
琵琶の女 石 1886 渡辺 幽香
おはよまたあさ 木・銅 1884 ビゴ
化粧 銅 1891 〃
濃尾地震 〃 〃 〃
灯かげの女 〃 〃 〃
中村芝翫像 石 〃 スモリック
日本ボンチ 木 1883 ワーグマン
＜大正期 1912—1926＞
窟 の 湯 木 1923 石井 鶴三

美術展覧会(5月)

長火鉢の女	木	1916	伊東 深水
泥 舟	〃	1917	〃
畑	〃	1920	〃
屋上の狂人	〃	1921	〃
湯 浴 み	〃	1922	〃
銭 湯	〃	1914	太田 三郎
死 刑 宣 告	リノ	1925	岡田 竜夫
南国の果樹園	木	1913	岡本 婦一
ア ネ モ ネ	〃		〃
上野広小路 (東京風景 の内)	石	1916	織田 一磨
洲崎(同上)	木	〃	〃
道 頓 堀 (大阪風景 の内)	〃	1917	〃
築港(同上)	〃	1919	〃
三人の女給	〃	1920	〃
作 品 (赤)	〃	1912	恩地孝四郎
作 品 (緑)	〃	〃	〃
作品(裸婦)	〃	〃	〃
母 と 子	〃	1916	〃
水 浴	〃	〃	〃
ヌ ード	〃	1925	〃
浴 後	〃	1926	〃
初夏の風	〃		川上 澄生
ランプとアル ファベッ トの本	〃		〃
塩原のおか ね路	〃	1918	川瀬 巴水
曇り日の矢口	〃	1919	〃
雪にくるる 寺島町(東 京十二景の 内)	〃	1920	〃
水 遊 び	〃		川端 竜子
ガード下	〃	1921-2	上阪 雅人
長崎丸山之 景	石・ 木	1924	河野 通勢
阿 蘇 五 景 (5点)	木	1920	坂本繁二郎
港屋絵草紙 店	〃	1914	竹久 夢二
小 は る	〃	1915	〃
風 景	〃	〃	〃
幕 あ い	〃	〃	〃
去勢者と緋 罌粟	〃	1914	田中 恭吉
焦 心	〃	〃	〃
歓喜と悲哀	〃	1915	〃
玉 乗 り	〃	1914	戸張 孤雁
女 学 生	〃	1921	〃
風 景	〃	1916	永瀬 義郎

ゆ あ み	木	1915	橋口 五葉
浴 後 之 女	〃	1920	〃
温 泉 宿	〃	〃	〃
夏 装 之 娘	〃	〃	〃
盆を持つ女 (お直さん)	〃	〃	〃
風	〃	1915	長谷川 潔
海岸の帆船	〃	1916	〃
紐育上空を 飛ぶ?号	銅	1918	〃
南仏サンメ ーム古村	〃	1925	〃
深 川 木 場	木	1924	平塚 運一
船	〃	1916	広島新太郎
夕 暮	〃	〃	〃
太 陽 と 鳥	〃	〃	〃
軽 業	〃	〃	〃
青 い 花	〃	1914	藤森 静雄
支那人と鳥 籠	〃	1921	前川 千帆
巴 里 の 冬	銅	1916	岡部 時雄
犬 吠 風 景	石	1921	森田 恒友
静 物	木	1926	山口 進
こうもり安 カフェのダ ンス	〃	1917	山村 耕花
〃	〃	1924	〃
ブルトンヌ の水浴	〃	1912	山本 鼎
高原の道	石	1918	〃
房 州 の 海	〃	1919	〃
ブルトンヌ	木	1920	〃
海辺の子供	〃	〃	〃
水辺の子供	〃	〃	〃
哥 路	〃	〃	〃
支 那 の 女	〃	〃	〃
サンマルタ ンにて	〃	〃	〃
セエヌ河畔 の村	〃	〃	〃
ブルターニ ュの小湾	〃	〃	〃
ル ガ ノ 町	石	1925	吉田 博
穂 高 山 (日本アル プス十二題 の内)	木	1926	〃
太陽のある 風景	〃	1912	万 鉄五郎
十 字 路	〃	1914	〃
男	〃	〃	〃
臥ている人	〃	1923	〃
羅布かつぐ 人	〃	1924	〃
箱 根	銅	1913	バーナード ・リーチ
手賀沼我孫 子	〃	1918	〃

<昭和(戦前) 1926—1944>			
九島山風景	木	1936	畦地梅太郎
八幡浜渠之 浦	〃	〃	〃
風	石		石井 鶴三
白 い 花	〃	1927	織田 一磨
古 町 夜 景 (花市)	〃	1929	〃
お茶の水聖 橋	〃	1930	〃
工 場 街	木	1935	小野 忠重
街	〃	1938	〃
人 体 考 察 (3点)	〃	1927	恩地孝四郎
春 の 譜	〃	1940	〃
メ ー デ ー	〃	1930	勝木 貞夫
笹 飴	〃	1936	勝平 得之
い ろ り	〃	1939	〃
青 山 墓 地 (新東京百 景の内)	〃	1929	川上 澄生
楽 士	〃	〃	〃
サアカス	〃	1933	川西 英
神 戸 港 (新日本百 景の内)	〃	1940	〃
古 道 具 屋	〃	1941	〃
神 戸 街 景	〃	〃	〃
築 地 (昭 和 大 東 京 百 図 絵 の 内)	〃	1931	小泉癸巳男
深川(同上)	〃	1933	〃
戸 越 銀 座 (同上)	〃	1940	〃
緑 側	〃	1935	小村 雪岱
花・きりぎ りす	〃	1931	清宮 彬
花	〃	1934	〃
葡 萄	〃	〃	〃
炭	〃	〃	〃
夜 四 題 (4点)	〃	1932	谷中 安規
春の自転車	〃	〃	〃
挿 絵	〃	〃	〃
風 景	〃		富本 憲吉
猿	銅	1939	玉村善之助
裸 婦	木	1928	永瀬 義郎
彦 根 城	〃	1942	橋本 興家
ダ リ ア	銅		長谷川 潔
版 画 集	〃		〃
十五夜の桜 (子供)	木	1944	初山 滋
港 夜 景	〃		平塚 運一
雪のニコラ イ	〃	1932	〃
斑鳩寺初秋	〃	1942	〃

風景	木	1927	深沢 索一
築地 (新東京百景の内)	〃	1929	〃
赤陽	〃	1934	藤牧 義夫
墓	〃	〃	〃
愛宕山放送局 (新東京百景の内)	〃	1929	藤森 静雄
中央气象台 (同上)	〃	〃	〃
羽田の秋 (大東京十二景の内)	〃	〃	〃
雪の駿河台 (同上)	〃	〃	〃
神楽坂 (新東京百景の内)	〃	〃	逸見 享
牛込見附 (同上)	〃	〃	〃
渋谷百軒店 (新東京百景の内)	〃	〃	前川 千帆
工場地帯 本所(同上)	〃	〃	〃
浴泉裸婦	〃	1943	〃
美しきエス プリ	リノ・木	1931	前田藤四郎
時計	併	1932	〃
紅型	木	1939	〃
漁村	〃	〃	前田 政雄
二菩薩釈迦 十大弟子	〃	1940	棟方 志功
＜昭和期(戦後) 1945—＞			
生かされた 虹 今日と 昨日	孔	1965	巖 嘔
山男	木	1956	畦地梅太郎
白い像	〃	1958	〃
疑念 B	〃	1962	尼野 和三
建	〃	〃	〃
女・動物たち	銅	1960	池田満寿夫
化粧する女	〃	1964	〃
夏	〃	〃	〃
窓からの眺め	石	1966	〃
沈む	銅	1961	泉 茂
作品62—24	凸	1962	磯辺 行久
作品62—25	〃	〃	〃
作品 D	併	1959	一原 有徳
作品 E	〃	〃	〃
石笥の系譜 (2)	銅	1962	稲田 三郎
四月の浮標	〃	1964	〃
ふくろう (B)	木	1961	上野 誠

廃墟(長崎) B	木	1962	上野 誠
シグナル	銅	1953	瑛 九
旅人	石	1957	〃
蝶	〃	1956	海老原 喜之助
とりの庭	木	1960	小野 忠重
一つの丸	石	1961	オノサト トシノブ
孤独(リリ ックNo.11)	木	1949	恩地孝四郎
白い菱形	銅	1965	勝本富士雄
イブノス	〃	1960	加納 光於
星・反芻学 —III	〃	1962	〃
半島状の23 街	〃	1967	〃
海辺の流木	木	1953	北岡 文雄
紫の花	〃	1959	〃
作品 43	石	1960	北川 民次
作品 46	木	1966	日下 賢二
お茶の水辺 の鉄橋	〃	〃	〃
東の間の幻 影	〃	1950	上阪 雅人
木の葉と飛 んでいる鳥	銅	1951	駒井 哲郎
凝視(花)	〃	1961	〃
唐招提寺	木	1950	斎藤 清
森 (E)	〃	1959	〃
青のイメー ジ	銅	1961	斎藤 寿一
風樹 (I)	〃	1964	〃
金剛夜叉王 円舞 (終曲のない踊り)	木	1960	笹島 喜平
フォルム	〃	1962	〃
祭	〃	1954	〃
緑と赤	石	1966	菅井 汲
悲しみの顔	〃	〃	〃
過ぎゆくも の	木	1959	清宮 質文
梟の森	〃	1963	〃
墓地とニュ ーヨーク	〃	1957	関野準一郎
子供にいる 風景	〃	1960	〃
村のコンポ ジション	石	1958	利根山光人
間 — I	〃	1957	土橋 醇
自在 II	銅	1961	野村 博
窓	〃	1962	〃
石の花(赤)	木	1959	萩原 英雄
お伽の国 No. 1	〃	1960	〃
	〃	1966	〃

パ	銅	1956	浜口 陽三
水差と葡萄	〃	1957	〃
桜桃	〃	1962	〃
初年兵哀歌	〃	1951	浜田 知明
狂った男	〃	1962	〃
争乱図	〃	〃	福沢 幸雄
失われた像	〃	1967	〃
からすと花	孔	1956	福井良之助
かたつむり とあじさい	〃	1962	〃
夜の鳥	石	1957	福沢 一郎
岬	木	1953	前田藤四郎
薫風	〃	1962	〃
モンスリー 公園	銅	1956	南 桂子
風船	〃	1962	〃
作品 B	〃	1964	宮下登喜雄
V — 2	〃	1965	〃
湧然する女 者達々	木	1954	棟方 志功
恐山の柵	〃	1963	〃
唄う人	石	1956	村井 正誠
夜の祭礼	孔	1961	森 義利
神楽囃子	〃	1965	〃
防空壕のお ときはなし	木	1956	山口 源
邂逅	〃	1960	〃
作品 9	〃	〃	吉田 遠志
作品 10	〃	1952	〃
たまもの・ 赤	〃	1962	吉田 穂高
休日の神話	木・石	1966	〃
憂愁の空 No. 1	木	1957	吉田 政次
空間 No. 29	〃	1963	〃
鳥	銅・石	1965	吉原 英雄
出来事	〃	1966	〃
鳥と顔	石	1960	脇田 和
花の道 (エルサレ ム入場)	木	1962	渡辺 禎雄
馬上三博士	〃	1964	〃
古染付展	20—6月25	鎌倉近代美 術館	
新収品と伊谷賢蔵・堀内正和の作品 展	21—6月18	京都市美術館	
大村義信展	22—27	櫛面廊	
GOTO ヌベエ展	22—27	みゆき画 廊	
新制作8人展(石川滋彦・伊藤雄郎・ 角浩・小磯良平・小松益喜・三岸 節子・荻太郎・内田武夫)	22—27		

美術展覧会(5月)

千代田画廊
三輪映子個展 22—27 画廊クリスタル
田中信幸作品展 22—27 わたなべアートサロン
深堀富美子個展 22—27 中林画廊
八幡健二展 22—27 サエグサ画廊
2人展(保科・岩渕) 22—27 全線画廊
画廊創設一哉堂展 22—27 資生堂ギャラリー
菊地秀一個展 22—27 昭和画廊
木山磯個展 22—27 ときわ画廊
勅使川原一文個展 22—28 銀芳堂画廊
6回百賀会展 22—27 美松書房画廊
中川秀子個展 22—28 銀芳堂画廊
藪野健個展 22—28 みゆき画廊
依岡慶樹個展 22—28 文芸春秋画廊
2回社人展(井上慎・鶴飼毅・加藤長一・北岡文雄・小泉富司・小島市造・鮫島宗明・篠窪亮・長岡定雄・吉野広行・米田重博・呉天華・名塚樹也) 22—28 ギャラリーセブン
宮城与徳遺作展 22—28 精美堂画廊
成瀬安紀子個展 22—28 シロタ画廊
3人展(嶋剛・張ヶ谷一保・小山茂一) 22—28 夢土画廊
佐藤努個展 22—28 おぎくぼ画廊
佐藤真一新作油絵展 22—31 兜屋画廊
六香会展(勝呂志・中井幸一・永田力・城所昌夫・平井進・三井永一) 22—31 あかね画廊
若松光一郎個展 22—31 ポールギャラリー
マルティエ個展 22—31 ギャラリー・磯谷
タヴ・モ・リヨン個展 22—6月31 フランネル・ギャラリー
バブロスキー油絵個展 23—27 フォルム画廊
4回宋友会日本画展(大山忠雄・小栗潮・加藤東一・加倉井和夫・佐藤園夫・山口吉二郎) 23—27 孔雀画廊

新制作日本画春季展 23—28 高島屋
有馬正彦・上野遼・遠藤昭展 23—28 椿近代画廊
清水鍊徳個展 23—28 高島屋
INTER. MEDIA 23—28 ルナミ画廊
二紀具象展 23—28 松坂屋
井上治男作陶展 23—28 三越
動く絵画展 23—28 椿近代画廊
独立小品展 23—28 銀座画廊
鈴木実彰刻展 23—29 秋山画廊
金山平三遺作展 23—6月4 本間美術館
33回旺玄会展 23—6月5 都美術館
38回第一美術展 23—6月5 都美術館
品川工個展 23—6月10 第7画廊
田中せつ子個展 24—29 竹川画廊
神岡好子個展 24—29 竹川画廊
'67の視覚展 24—30 都美術館
赤木幸輝個展 25—30 東和画廊
吉野正明個展 25—30 銀座ヤマト画廊
泉4人展 25—30 銀座ヤマト画廊
七鴉会展(畠山滋・富山芳男・友部隆治・川口栄・内山又輔・丸山正男・鈴木智雄) 19—24 銀座ヤマト画廊
無礙会展 19—24 銀座ヤマト画廊
3人展(加藤弘子・南美江・安田良圭) 19—25 紀伊国屋画廊
難波田竜起ステンドグラス試作展 20—5月1 東和画廊
14回青陶会展 21—26 松屋
三輪高英日本画展 21—26 大丸
柴田静雄個展 21—26 村松画廊
大森一生ホワイトシリーズ展 21—26 一方堂画廊
佐藤守男個展 21—26 村松画廊
寺田武男回顧展 21—28 千代田画廊
畦地梅太郎ガラス絵展 21—6月2 現代画廊
鍋井克之作品展 21—6月3 京王梅田画廊
版画にみる明治時代展 22—30 本間美術館
堀田清治個展 25—31 日動サロン
井上郷太郎展 25—31 伊勢丹

キツキ会本彫展 25—31 ギャラリー・アルカンシエル
金子徳衛個展 25—6月3 日本橋画廊
鈴木治個展 25—6月10 老番館画廊
池田遙邨・小林和作・西山英雄展 26—31 大丸
3回近代美術協会展 26—31 西武
中村正義展 26—6月1 紀伊国屋画廊
窪田登個展 27—6月6 村松画廊
N. S. S グループ展 28—6月4 椿近代画廊
森森久朗油絵展 29—6月2 津市画廊イズミ
小笠原正博・小松弘忠展 29—6月3 ルナミ画廊
4回清岡宏彰欧州作品展 29—6月3 文芸春秋画廊
坂口光男個展 29—6月3 養清堂画廊
3回佐藤陽子個展 29—6月3 フォルム画廊
坂本益夫小品展 29—6月3 アオイ画廊
芝田耕個展 29—6月3 梅田画廊
斑目秀雄滞欧作品展 29—6月3 大倉画廊
16回三枝会展 29—6月3 銀座サエグサ画廊
大谷章一個展 29—6月4 画廊クリスタル
七洋会展 29—6月4 下村画廊
10回集団・版展 29—6月10 ときわ画廊
渡辺貞一個展 29—6月10 日本画廊
岡部繁夫個展 29—6月1 紀伊国屋画廊
一線美術会展 29—6月3 全線画廊
内田公雄個展 29—6月3 樺画廊
田本富美子・三薺正之2人展 29—6月4 銀芳堂画廊
豊島弘尚個展 29—6月10 サトウ画廊
岡部繁夫個展 29—6月3 文芸春秋画廊
飯倉隆水彩展 29—6月3 みゆき画廊

鈴木治展 29—6月10 壱番館画廊
川上重治個展 29—6月3 三菱電
機ギャラリー
斎藤寿一画展 29—6月4 夢土画
廊
川村信雄画展 29—6月3 昭和画
廊
磯野怜子・河原進展 29—6月10
スルガ台画廊
増田善次郎画展 29—6月4 おぎ
くぼ画廊
三枝会展 29—6月3 サエグサ画
廊
今井佑子展 30—6月4 竹川画廊
20回彩交会日本画展 30—6月4
三越
高橋家斎作陶展 30—6月4 三越
ラスコー洞窟壁画写陶器展 30—6
月4 三越
高木義夫画展 30—6月4 高島屋
村松達也彫刻展 30—6月5 秋山
画廊
河井寛次郎遺作展 30—6月11 大
原美術館
岩田藤七画展 30—6月4 高島屋
バリ画壇展 30—6月4 上野・松
坂屋
4回十坪会展 31—6月5 銀座ヤ
マト画廊

6 月

大国章夫画展 1—6 ギャラリー・
アルカンシエル
小堀進展 1—7 日動サロン
現代版画四人展 1—10 村上画廊
63回太平洋展 1—13 都美術館
21回女流画家協会展 1—13 都美
術館
エミリオ・グレコ・デッサン・エッ
チング展 1—7 伊勢丹
菊池一雄自選展 1—6月14 現代
彫刻センター
朝鮮の民画と木工品 1—7月31
日本民芸館
エルデ展 1—6 東和画廊
鈴木勉画展 1—10 壱番館画廊
笹島喜平木版画展 2—7 京王百
貨店
恩賜賞・日本芸術院賞受賞作品展
2—7 松屋

京都中堅日本画展 2—7 西武
ソル展 2—7 村松画廊
山下房子作品展 2—7 村松画廊
備前池田家と岡山美術館名宝展 3
—13 西武
近代日本画の名作展 4—7月2
京都国立近代美術館
胡美会展(日本画) 4—9 銀座画
廊
和田義正画展 4—9 椿近代画廊
000プラン展 4—9 椿近代画
廊
淵岡宏平彫刻展 4—9 ルナミ画
廊
3回射影空間 5—10 画廊クリス
タル
扉会油絵展 5—10 サカモト画廊
田中忠雄画展 5—10 大阪・梅田
画廊
木村義治版画展 5—10 養清堂画
廊
古川直之画展 5—10 中央公論丸
ビル画廊
大野晴義画展 5—10 資生堂ギャ
ラリー
光風会14人の作家展 5—10 千代
田画廊
新槐樹社4人展 5—11 画廊きの
くにや
新道繁展 5—11 吉井画廊
16回創型会彫塑展 5—15 都美術
館
ヨシオカシゲオ画展 5—11 シロ
タ画廊
篠原敏郎画展 5—11 夢土画廊
加来純子画展 5—10 昭和画廊
浜田信画展 5—10 丸善画廊
飯山勇画展 5—10 サエグサ画廊
丸の内店
佐藤一・山田行彦2人展 5—10
ときわ画廊
岡田寛画展 5—11 おぎくぼ画廊
萩原正滯欧作品展 5—10 新橋画
廊
東本光博画展 5—10 全線画廊
制作「べ」展(武井宏允・内田ヒロ
シ) 5—10 櫟画廊
千原三郎画展 5—10 サエグサ画
廊
熊川昭男画展 5—11 銀芳堂画廊
渡部伸彦画展 5—17 サトウ画廊

香取栄次郎画展 5—17 東金堂ギ
ャラリー
清水汀子画展 5—10 文芸春秋画
廊
笹沼浩平画展 5—10 文芸春秋画
廊
伊藤諒画展 5—10 竹川画廊
藤井兼弘画展 5—10 竹川画廊
5回美朱会展 5—10 美松書房画
廊
金相游版画展 5—17 ギャラリー
磯谷
グループ・ドロ展 5—11 梅花亭
ギャラリー
御正伸画展 5—10 みゆき画廊
松樹会展 5—11 あかね画廊
中神潔画展 5—11 兜屋画廊
4回黒門会展 6—11 高島屋
福原達朗作陶展 6—11 三越
宮本三郎作品展 6—11 三越
現代鍍金工芸展 6—11 三越
一水会会員洋画展 6—11 伊勢丹
橋本正司彫刻展 6—12 秋山画廊
小田襄画展 6—17 日本橋画廊
3回主体美術展 6—19 都美術館
3回破門の芸術英一蝶展 6—18
本間美術館
柏輪会日本画展 6—11 上野・松
坂屋
向彰会彫刻展 6—11 松坂屋
中神潔画展 6—11 兜屋画廊
深見美郎・柳沢淑郎2人展 6—11
銀座ヤマト画廊
米田和子・多田明2人展 6—11
銀座ヤマト画廊
原田成大画展 6—10 フォルム画
廊
中村次雄画展 6—11 石田画廊
17回未更会展 7—10 兼素洞
7回青明会日本画展 7—10 中央
公論画廊
安保健二画展 7—12 ギャラリー・
アルカンシエル
15回光陽会展 7—19 都美術館
17回新興展 7—19 都美術館
4回礫工会展 8—14 伊勢丹
丹燦会日本画洋画展 8—14 伊勢
丹
田中阿喜良展 8—16 日動サロン
日本洋画の巨匠たち 8—7月7
神奈川県立博物館

美術展覧会(6月)

斎藤武個展 8—13 東和画廊
 グループ展 8—13 村松画廊
 5回三五会油絵小品展 9—14 大丸
 4回梧桐会スケッチ展 9—14 松屋
 2回現代大家近作油絵展 9—21 小田急
 中野晃嗣作陶展 9—15 松屋
 磯工会展 9—15 伊勢丹
 '67・モダンアート協会新人展 10—15 椿近代画廊
 ボンペイ展 10—7月16 大阪市立美術館
 3人展 10—15 銀座画廊
 海老塚市太郎個展 10—15 ルナミ画廊
 朝鮮青年展 10—15 椿近代画廊
 二紀会女流同人展 10—17 紀伊国屋画廊
 9回日本国際美術展 10—30 京都市立美術館
 小原信夫個展 12—17 昭和画廊
 沢野井信夫油絵展 12—17 老番館画廊
 浅本鳳子・奥田千穂子二人展 12—17 みゆき画廊
 8回駿光会展 12—17 スルガ台画廊
 森川昭彰刻展 12—17 ときわ画廊
 古賀猛個展 12—17 文芸春秋画廊
 稲村雲洞個展 12—17 養清堂画廊
 城国幸男作品展 12—17 大阪・梅田画廊
 下沢木鈴郎作即写と板画作品展 12—17 中央公論丸ビル画廊
 2回青圭会展 12—17 資生堂ギャラリー
 仲田好江展 12—18 吉井画廊
 神戸二紀選抜展 12—18 トーア画廊
 共美展 12—17 三菱電機ギャラリー
 高田正二郎個展 12—17 丸善画廊
 4人展 12—18 夢土画廊
 小野北辰斎戯画展 12—18 おぎくぼ画廊
 神井昭雄個展 12—17 樺画廊
 グループ展 12—17 全線画廊
 秋元清弘個展 12—17 サエグサ画廊

ZERO展 12—17 銀芳堂画廊
 北九州9人展 12—17 銀座ヤマト画廊
 山本一弘個展 12—17 画廊クリスタル
 島田興司・西山忠男2人展 12—18 文芸春秋画廊
 これが日本画だ展 12—24 日本画廊
 橋本竜美個展 12—24 南天子画廊
 Art Posters 12—30 東京画廊
 池田竜雄個展 12—24 青木画廊
 3回博覧会日本画展 13—18 高島屋
 陶芸三人展(田村耕一・清水卯一・藤本能道) 13—18 三越
 平野トシ子作陶展 13—18 三越
 安原喜明作陶展 13—18 三越
 トルコ洞窟教会壁画展 13—18 三越
 10回菱洗会 13—18 高島屋
 幸寿個展 13—18 大分市トキワ文化ホール
 折原久義・村山武久2人展 13—18 石田画廊
 岸田克二彫刻展 13—19 秋山画廊
 虹峰会展(2回) 13—23 ギャラリー・アルカンシエル
 岩崎鐸個展 13—7月1 第七画廊
 羽会洋画展 13—18 上野・松坂屋
 岡本半三デッサン展 13—18 松坂屋
 鈴木寛男個展 13—17 兜屋画廊
 伊藤勇輔個展 13—17 フォルム画廊
 ネオ・フォルム展 14—19 村松画廊
 55回日本水彩画展 15—27 都美術館
 広重・雨の芸術展 15—22 伊勢丹
 小品展 15—27 東和画廊
 木内克新作展 16—21 大丸
 山口薫展 16—21 松屋

出品目録

静物 1926
 裸婦 1928
 静物 1930
 自画像 1930
 緑衣の女 1931
 ワンダ像 1931
 緑衣横臥婦人像 1931

バリのアトリエにて 1932
 バリ・アレジアの教会 1932
 カンヌ風景 1933
 マルティック風景 1933
 和服の娘 1934
 裾野とカラス 1935
 古羅鳥の旅 1937
 潮騒 1937
 紐 1939
 蛸壺など 1939
 野辺の風景 1940
 水 1941
 葬送 1943
 ひだまりの樹木 1947
 十和田紀行 1948
 裸婦 1948
 牛と王女 1948
 柿 1948
 桃 1948
 残雪の樹木 1949
 馬 1950
 花子誕生 1950
 幻想 1951
 あじさい 1952
 季節の哀歌——「田甫と鳥」 1953
 カラスと杉と水 1953
 少年とカラス 1953
 林の幻影 1953
 ダム・エリザベットの戴冠 1953
 広場の十字架 1953
 銅色の月 1954
 ノートルダム 1954
 あや子正月 1954
 ひざし 1955
 白亜に刻む 1955
 孤独者のすまい 1955
 雪山好日 1955
 むすめ像 1956
 赤い牛 1957
 あや子月魂 1957
 千手像——「黒夫人」 1957
 栗のいが 1957
 牛と鳥 1957
 夜の宿 1958
 林と動物 1958
 あや子あやとり 1959
 牛の親子 1959
 牛の顔 1959
 矢羽根とぶ 1959
 格子の牛 1959
 山の小さい池 1959

紙箱と真田紐 1960
霧の沼 1960
甲斐虎のクマ 1961
荒れた小さな菱形の沼 1962
牛と娘 1962
仏の手 1963
草原を飛ぶつばさ 1963
あゝ都 1963
矢羽根ときじ 1963
虎船と菜の花畑 1963
シンホニイランドス
ケープー沼の樹 1964
水田を飛ぶカーチ
ス式軽飛行機 1964
沼のある牧場 1964
月と馬 1964
養魚池の驟雨 1964
月と道産子 1967
牛と花嫁 1967
ナイルの源泉 1967
しのぶ鎧 1967
2回三木辰夫個展 16—21 銀座画
廊
二保隆個展 16—21 椿近代画廊
選抜精鋭作家10人展 16—21 白木
屋
真道茂彫刻展 16—21 椿近代画廊
現代陶芸名匠展 16—21 松屋
海老原喜之助展 16—25 日動画廊
小田切ようこ個展 16—21 ルナミ
画廊
色紙展 16—28 西武
吉田薫子個展 17—22 竹川画廊
武永根雄個展 17—23 日動サロン
14回新美術協会展 17—26 都美術
館
豊川和子個展 17—22 竹川画廊
松崎武一郎個展 18—23 銀座ヤマ
ト画廊
佐藤義雄個展 18—23 銀座ヤマト
画廊
アンチーム展 19—24 吉井画廊
池上浩新作展 19—24 千代田画廊
三浦此中個展 19—24 中央公論丸
ビル画廊
加藤昭雄彫刻展 19—24 壺番館画
廊
牛島憲之個展 19—24 資生堂ギャ
ラリー
枝英会展 19—24 サエグサ画廊
三輪なつ子個展 19—25 信濃橋画廊
小作青史版画展 19—29 大阪・フ

ォルム画廊
フランス新鋭作家ルートル版画展
19—7月1 養清堂画廊
長谷川雅子個展 19—24 全線画廊
津田亜紀個展 19—24 樺画廊
城南展 19—25 銀芳堂画廊
村松定育個展 19—7月1 サトウ
画廊
後藤彦愛個展 19—24 一方堂画廊
保科友江個展 19—24 みゆき画廊
グループ・サマ展 19—24 あか
ね画廊
三好ユキ子個展 19—25 シロタ画
廊
日野耕之祐個展 19—24 昭和画廊
清水康雄個展 19—28 日本橋画廊
羽田重亮個展 19—24 ときわ画廊
駿々会展 19—24 スルガ台画廊
大坂日出男個展 19—25 おぎくぼ
画廊
小林勇個展 19—24 文芸春秋画廊
関根民夫個展 19—24 画廊クリス
タル
尚美展 20—24 壺中居
18回工彩会工芸展 20—25 松坂屋
20回農鳥社展 20—25 京都・大丸
エミリオ・グレコ展 20—25 高島
屋
佐伯米子油絵展 20—25 三越
2回門脇俊一版画展 20—25 三越
友伸会日本画展 20—25 三越
宮永理吉彫刻展 20—26 秋山画廊
6回忘花展 20—27 大阪・フジカ
ワ画廊
選抜邦画展 20—25 上野・松坂屋
くぬぎ会 20—26 兜屋画廊
須藤健個展 20—25 村松画廊
樹谷吉彦個展 20—25 村松画廊
富沢征夫個展 20—25 村松画廊
佐藤時夫個展 20—25 村松画廊
加藤水城個展 20—25 ギャラリー
セブン
新倉喜作個展 20—24 フォルム画
廊
清水光子個展 20—7月1 東金堂
ギャラリー
佐藤国子・油井重美2人展 20—25
石田画廊
20回創造展 21—7月3 都美術館
小林勇個展 21—25 文芸春秋画廊
中国陶磁展 22—10月1 大和文華

館
野崎浩個展 22—27 ルナミ画廊
古河漫画展 22—27 椿近代画廊
ジャック7人展 22—27 椿近代画
廊
早川義孝新作油絵展 23—28 小田
急
石井勝雲人新南宗画作品展 23—28
白木屋
洋画精鋭8人展 23—28 大丸
2回日本芸術祭出品作品国内展示
23—29 国立近代美術館
5回明陶会陶芸展 23—30 伊勢丹
田中阿喜良展 23—30 名古屋・日
動画廊
彩樹会展 23—28 竹川画廊
2回辻村ジュサブロー作品展 24—
30 ギャラリー・アルカンシェル
柴田祐作水彩画展 24—29 銀座ヤ
マト画廊
秋野不矩・斎藤真成美術館所蔵品展
25—7月23 京都市立美術館
3回淵展 26—7月1 資生堂ギャ
ラリー
3回小寺明子個展 26—7月1 サ
エグサ画廊
井上篤・石阪春生(素描による2人
展) 26—7月1 大阪・梅田画廊
4回小牧盛行洋画展 26—7月1
中央公論丸ビル画廊
石井守個展 26—7月1 スルガ台
画廊
福田芳子個展 26—7月2 画廊
「紅」
堀田純一個展 26—7月2 文芸春
秋画廊
油野誠一画展 26—7月8 壺番館
画廊
大森達夫スケッチ展 26—7月8
日本画廊
版画・ジャスパー・ジョーンズ展
26—7月22 南画廊
古賀喜久男個展 26—7月2 シロ
タ画廊
平賀透個展 26—7月2 夢土画廊
中曾根信雄個展 26—30 昭和画廊
吉沢暉二・若木山画装2人展 26—
7月1 丸善画廊
梅地信介個展 26—7月1 ときわ
画廊
稲葉猛個展 26—7月2 おぎくぼ

美術展覧会(6・7月)

画廊
小倉周個展 26—7月1 新橋画廊
稲葉雅個展 26—7月8 櫟画廊
三浦定雄個展 26—7月2 銀芳堂画廊
宮崎浩小さんの個展 26—7月2 銀芳堂画廊
岡内由美個展 26—7月1 村松画廊
坂本廉三個展 26—7月1 村松画廊
小林絢子個展 26—7月1 あかね画廊
19回清流会展 27—30 兼素洞
神谷公明展 27—7月1 東電サービスセンター
渡辺祐一郎個展 27—7月1 兜屋画廊
原勝郎遺作展 27—7月2 高島屋
関敏彰刻展 27—7月3 秋山画廊
大貫松三油絵展 27—7月1 三越
小林数雄洋画展 27—7月2 上野・松坂屋
日本画展 27—7月3 紀伊国屋画廊
グループ「ゴキブリ」Auction 28—7月3 椿近代画廊
23回現展 28—7月10 都美術館
武山忠道個展 28—7月3 ルナミ画廊
39回新構造社展・朱葉会展 29—7月10 都美術館
高森明個展 29—7月4 東和画廊
田所量司個展 29—7月4 竹川画廊
中島明個展 30—7月5 名鉄・6階画廊
新陽会展(日本画) 30—7月6 小田急
西洋版画展 30—7月12 西武
早川義高油絵展 30—7月6 小田急
神山利夫・東格二人展 30—7月5 銀座ヤマト画廊
7 月
栗原信追悼展 1—7 ギャラリー・アルカンシエル
藤村加代子個展 1—10 日本橋画廊

太陽展(第4回) 1—15 日動画廊
七月会 1—15 銀座・田島
ヴィレツェンツォ・ガエタニエッロ展 1—25 ギャラリー・キューブ
大観生誕100年展 1—8月27 山種美術館
出品目録
猿廻し 明治25年
山越阿弥陀三尊像図模写 〃 28年
迷児 〃 35年
月明 〃
水鏡 〃 41年
流燈 〃 42年
山路 〃 44年
釈迦・十六羅漢 〃
洞庭秋月(瀟湘八景) 〃 45年
瀟湘夜雨(〃) 〃
煙寺晚鐘(〃) 〃
山市晴嵐(〃) 〃
平沙落雁(〃) 〃
漁村返照(〃) 〃
遠浦帰帆(〃) 〃
江天暮雪(〃) 〃
松並木 大正2年
焚火 〃 4年
竹雨 〃
秋色 〃 6年
千ノ与四郎 〃 7年
山窓無月 〃 8年
老子 〃 10年
暮色 〃 11年
生々流転 〃 12年
寒山拾得 〃 13年
曙色 〃 13年頃
御苑春雨 〃 13年
早春 〃
東山 〃
鸚鵡 大正15年
比良山の月 〃
竹 大正15年頃
叭嘯鳥 昭和2年
木兎 〃 2年頃
胡瓜 〃 2年
秩父霊峰春曉 〃 3年
梅花 〃 4年
紅葉 〃 6年
朝霧 〃 9年
五浦の月 〃 10年
龍蛟躍西溟 〃 11年

夜深し 〃 12年
秋色武蔵国 〃 13年
麗日 〃 14年
夕月 〃
蓬萊山 〃 14年頃
朝陽映島 〃
松 〃
夏(海十題のうち) 昭和15年
黒潮(〃) 〃
浦澳(〃) 〃
雨霽る(山十題のうち) 〃
月明らかに 昭和18年頃
天長地久 〃 19年頃
午下り 〃 21年
四時山水 〃 22年
瀟湘夜雨 〃 23年
漁火 〃 26年
夜桜 〃 27年
夏の海 〃 27年頃
或る日の大平洋 〃 27年
虫の声 〃 28年頃
双竜争珠 〃 30年
暗香浮動 〃 32年
不二 〃
勅題にちなんで
朝晴雪 大正8年
田家早梅 〃 9年
社頭曉 〃 10年
曉山雲 〃 12年
山色連天 〃 14年
河水清 〃 15年
山色新 昭和3年
田家朝 〃 4年
海辺巖 〃 5年
社頭雪 〃 6年
曉鷺声 〃 7年
朝海 〃 8年
田家雪 〃 12年
神苑朝 〃 13年
連峰雲 〃 17年
池辺鶴 〃 18年
洞庭の夜 大正10年
錦銀装会日本画展 1—5 松屋
第一美術会員油絵8人展 1—5 松屋
日府三秀会展 2—6 三越
加藤舜陶作陶展 2—6 三越
JAN会展 2—11 村松画廊
中村直人作品展 2—6 三越
板木順子版画展 3—8 養清堂画廊

第3回寫展 3—8 資生堂ギャラリー
辻好子個展 3—8 文芸春秋画廊
竹田譲個展 3—8 中央公論丸ビル画廊
高木正子処女作第1回展 3—8 千代田画廊
グループ「回」 3—8 みゆき画廊
ビクトリアル・デザイン展 3—8 丸善画廊
和田義彦・滝沢貝幸二人展 3—9 スルガ台画廊
山岸清人個展 3—9 新橋画廊
寺池陶燥作陶展 3—9 高島屋
北斎・広重東海道五十三次展 3—14 小田画廊
現代作家5人展 3—20 ギャラリー・新宿
土橋佐喜子展 3—8 文芸春秋画廊
現代青年バリ版画展 3—16 夢土画廊
松本竣介素描展 3—15 南天子画廊
大森運夫スケッチ展 3—8 日本画廊
藤村かよ子個展 3—12 日本橋画廊
大河内信秀個展 3—8 サエグサ画廊丸の内店
ブルニノ・サエッティ展 3—8 フジ・アートギャラリー帝劇店
伊忠嶺俊保個展 3—8 ときわ画廊
ジャスパー・ジョーンズ展 3—22 南画廊
橋戸友幸・手塚昇2人展 3—8 全線画廊
高以良基個展 3—8 全線画廊
樫葉雅個展 3—8 樫葉画廊
加藤陽個展 3—8 サエグサ画廊
赤羽喜一個展 3—9 銀芳堂画廊
黒木邦彦個展 3—9 銀芳堂画廊
高木康夫個展 3—15 サトウ画廊
馬展(三上隆彦・中村輝、他) 3—15 大倉画廊
ガイタニエロ彫刻展 3—20 ギャラリー・キューブ
油野誠一個展 3—15 毫番館画廊
ぐるーぶ*ころ。展 3—15 あかね画廊

沼沢仁個展 3—9 シロタ画廊
三軌会グループ展 3—8 ヨコヤマ画廊
元村平個展 3—13 ギャラリー磯谷
晴風会日本画展 3—9 上野・松坂屋
光陽会選抜展 3—9 松坂屋
丹野正弘個展 3—8 昭和画廊
グループ・ル・ムン展 3—8 いたう画廊
第2回ムサシノアート展 4—9 椿近代画廊
4人展 4—9 椿近代画廊
斎藤聖香作品展 4—10 秋山画廊
飯塚八郎個展 4—22 第七画廊
寺池陶燥作陶展 4—10 高島屋
藤田喬平吹き硝子新作展 4—10 高島屋
長沢昭朗日本画個展 4—9 銀座画廊
小崎侃個展 4—9 ルナミ画廊
年輪会展 5—11 竹川画廊
現代名匠彫塑展 6—12 大丸
近代日本の水彩と素描 6—8月27 東京国立近代美術館
茶碗展 6—30 根津美術館
小原キク個展 6—11 東和画廊
日展水彩作家協会展 6—11 銀座ヤマト画廊
井上恒也日本画展 7—11 三越
伊東翠壺作陶展 7—11 三越
松本慎三水画展 7—11 三越
東山紗智子アルカンシエル硝子工芸展 7—11 三越
第9回朴土グループ展 7—12 松屋
矢野茫工個展 7—12 松屋
春光会洋画展 7—13 小田急
京翠会第1回展 7—18 京王梅田画廊
川上澄生版画展 7—12 白木屋
レオナルド・フジタ近作展 8—14 彩畫堂
辛島宜夫・山田実2人展 8—8月10 風月堂
17回新興展 8—13 大阪市立美術館
14回新美術展 8—13 大阪市立美術館
圭成会展 8—16 ギャラリー・ア

ルカンシエル
現代美術の動向展 8—8月13 京都国立近代美術館
出品目録
食 器 髪 嘔
椅 子 〃
虹 〃
作品(67—1) 青木マサオ
ママがケガをした 井田昭一
負の球 伊藤隆康
作品(Work) 大野増穂
1—25
ゴムの着衣についての考察(1) 岡崎和郎
こうもりがき 岡田博
飛び立つ前に 加納光於
(No. 8)
作品(Work) 聴濤裏治
2, 4, 67
作品(Work) 日下賢二
67, 3
Opus, 67—6—3 榊健
ヘルマフロディトス(赤による) 阪本文男
射影空間 阪本正治
Smiles of lone 白井昭子
マイホームNo.3 鈴木実
Le Cirque 高橋由明
White blue 寺尾恍示
組曲 1 寺田武弘
K. T 像アラベスク 中西夏之
Décalcomanie 野中ユリ
(VI)
Dot 福島敬恭
アングル 船井裕
作品(Work) 宮脇愛子
402—2
記録と遺産 森省一郎
作品(Work) 2 湯原和夫
Foam—H 吉田稔郎
Cosmoplastic ヨシダミノル
Lady 1 吉原英雄
Queen Semivamis neon plan 吉村益信
作品(Work) 2 若尾和呂
京都日本画新人展 9—12 京都府ギャラリー
大兼実個展 10—14 資生堂ギャラリー
第3回上田貞一個展 10—15 全線画廊
中村輝彫刻展 10—15 大阪・梅田画廊

美術展覧会(7月)

陣野重康個展 10—15 中央公論丸
ビル画廊
5人展 10—15 大倉画廊
吉井高重個展 10—15 椿近代画廊
第2回66会日本画展 10—15 美松
書房画廊
佐々木邦彦個展 10—15 大阪・中
宮画廊
井上覚造ミニアチュール展 10—16
高島屋
中山竹史展 10—16 文芸春秋画廊
友山智香子展 10—16 文芸春秋画
廊
山内秀臣個展 10—16 文芸春秋画
廊
伽羅北陸美術工芸展 10—16 高島
屋
現代アメリカ版画展 10—22 養清
堂画廊
樋口シン展 10—29 毛番館画廊
田中阿喜良展 10—16 大阪・日動
画廊
油絵・水彩五人の会 10—15 サエ
グサ画廊
石崎昭三・鶴田照日本画展 10—16
松坂屋
新国喜代子個展 10—15 樺画廊
諸大家水彩展 10—15 サエグサ画
廊
太田正個展 10—16 銀芳堂画廊
吉本博二個展 10—16 銀芳堂画廊
野間グループ展 10—15 大倉画廊
志賀誠二個展 10—15 画廊クリス
タル
矢野雅章個展 10—15 みゆき画廊
菅原洸人個展 10—16 あかね画廊
坂中功一郎・橋本修2人展 10—15
ルナミ画廊
深谷徹個展 10—15 昭和画廊
伊藤武司個展 10—22 日本画廊
小川勝蔵個展 10—15 丸善画廊
佐藤一・山田行彦2人展 10—15
ときわ画廊
富沢秀文個展 10—15 スルガ台画
廊
勝田道孝個展 10—16 おぎくぼ画
廊
稲田年行個展 11—17 秋山画廊
外陶会作陶展 11—18 伊勢丹
三紳会(陶芸・漆芸・金工) 11—18
伊勢丹

坪内節太郎カブキ・スケッチ展 11
—13 歌舞伎サロン
土橋醇作品展 12—16 三越
生田和孝作陶展 12—16 三越
坪内民子・三宮美和子・峰村静子3
人展 12—16 石田画廊
第一美術選抜展 12—17 銀座ヤマ
ト画廊
井田淳一画展 12—17 村松画廊
紫光会展 12—17 村松画廊
坂田康二画展 12—17 村松画廊
三人展(佐々木、他) 12—17 村松
画廊
グループ五我展 12—17 竹川画廊
朝倉摂・渡辺学作品展 13—18 松屋
19世紀の巨匠 13—18 大丸
版画三人展 13—18 東和画廊
菅井汲石版画展 14—19 ギャラリ
ーポワン
庫田毅画展 14—24 日本橋画廊
1回伍彩会デッサン展 14—25 小
田急
野口謙蔵遺作展 15—21 彩壺堂
14回新美術展 15—22 神戸南蛮美
現代洋画展 15—24 ギャラリ・ア
ルカンシェル

近代日本画の150年展 15—8月27
鎌倉近美

出品目録

春秋山水図 与謝蕪村 絹本
着色
朝熊嶽真景図 池 大雅 紙本
着色 1751
柳下童子図 〃 〃
児島湾真景 〃 絹本
着色
山 水 図 〃 紙本
着色
美人の図 曾我蕭白 絹本
着色
池 大 雅 像 福原五岳 〃
唐 美 人 図 円山応挙 〃
眼鏡絵(京
名所12景) 〃 紙本
着色
芸者と送り
女図 歌川豊春 絹本
着色
牡丹と双猫
図 司馬江漢 〃
泰西獵客図 〃 着色
須賀川風景 亜政堂
田善 絹本
着色
松に唐鳥図 佐竹曙山 〃
富 嶽 図 小田野
直武 〃

水辺白鷺図 小田野
直武 絹本
着色
信州風景図 葛飾北斎 〃
竜 図 〃 紙本
墨画
相州箱根日
金山全景絵
巻 〃 紙本
着色
花鳥図模写 石川大波 〃 1796
公余探勝図
巻 谷 文 晁 〃 1793
松 島 図 〃 絹本
墨画
那須真景図 〃 絹本
着色
名花十友図 渡辺華山 〃 1826
千山萬水図 〃 〃 1840
ヒボクラテ
ス像 〃 〃
〃 〃 〃
芙蓉泛鴨図 〃 紙本
着色
松崎樓堂像
面稿 〃 〃
高久露崖像 椿 椿山 絹本
着色
同上 面稿 〃
山 水 図 富岡鉄斎 紙本
着色 1897
同 龔 永 昌 〃 絹本
着色 1896
積 雨 収 小川芋銭 紙本
着色 1930
夏 日 四 題 の
内 黄 昏 横山大観 絹本
着色 1899
雨 後 〃 紙本
墨画
木の間の秋 下村観山 紙本
着色 1907
菊 慈 童 菱田春草 絹本
着色 1900
釣 婦 〃 〃 1901
蓬 萊 山 〃 〃 1898
曙 色 〃 〃 〃
夕 暮 上村松園 〃 1941
堅田の二休 平福百穂 紙本
墨画 1928
お夏清十郎
物語 鏡木清方 絹本
着色 1939
吉野細雨図 富田溪仙 〃 1926
説 法 今村紫紅 〃 1908
春 さ き 〃 紙本
着色 1916
住 吉 詣 小林古径 絹本
着色 1913
河 風 〃 〃 1915

榛名山賦 竹久夢二 絹本着色 1931
 日食 安田靫彦 紙本着色 1925
 慈悲光礼讃 川端龍子 絹本着色 1918
 漢江の朝霧 前田青邨 〃 1926
 漢水の夕 〃 〃 〃
 伊豆の海 土田麦僊 絹本着色 1917
 罌粟 〃 〃 1929
 胡瓜畑 奥村土牛 〃 1927
 瑞兆 水越松南 紙本着色 1924
 二月の頃 村上華岳 絹本着色 1911
 裸婦図 〃 〃 1925
 山岳図 〃 〃 1938
 島二作 小野竹喬 絹本着色 1916
 早冬の丘 〃 〃 〃
 流紋 中村岳陵 絹本着色 1939
 緑影 〃 〃 1942
 出雲江角港 小茂田青樹 紙本着色 1921
 冬瓜茄子図 岸田劉生 絹本着色 1926
 童女図 〃 〃 1926
 鶴沼海岸小景 〃 〃 1926
 牡丹図 福田平八郎 絹本着色 1925
 遊帖 〃 〃 1935
 樹間 玉村方久斗 〃 1936
 桜図 〃 〃 〃
 芭蕉図 中川一政 紙本着色 1948
 宴 山口蓬春 〃 1960
 オデオンの遺址 速水御舟 紙本着色 1931
 芙蓉風花 〃 〃 1934
 凍池 〃 〃 1929
 浴後 小倉遊亀 絹本着色 1939
 二河白道を描く 太田聴雨 紙本着色 1948
 蓮 徳岡神泉 絹本着色 1920
 荻江寿友像 伊東深水 1957
 雨を呼ぶ山野 山本丘人 1958
 鶴 上村松篁 1959
 仙 岩橋英遠 1964
 秋田のマリア 福田豊四郎 紙本着色 1948

火山 片岡球子 1965
 めらはど 柴田安子 紙本着色 1932
 晩照 東山魁夷 1954
 雷神 加藤栄三 1966
 自転車 杉山寧 1853
 夜 高山辰雄 1963
 曠野の鴉 工藤甲人 1964
 風景 堀文子 1959
 落葉 福王寺法林 1958
 寂照 近藤弘明 1965
 樹炎 平川敏夫 1964
 群像 上野泰郎 1960
 黒い鳥 加山又造 1957
 仏教伝来 平山郁夫 紙本着色 1959
 藍のうつわ(日本・中国・オランダ)展 15—9月3日 サントリー美術館
 現展作家自選展 16—21 椿近代画廊
 山本幸夫陶芸個展 16—21 椿近代画廊
 内海登美子個展 16—21 ルナミ画廊
 飯守米子紫炎会(上田文子・渡辺菊江・前川芳子・橋本昭子・池田君子・須藤愛子) 16—30 寛画廊
 創元会委員展 17—22 千代田画廊
 8回清水隆悦油絵個展 17—22 中丸ビル画廊
 イグナフ油絵個展 17—22 此花画廊
 島田秀哉個展 17—22 榛画廊
 村上誠個展 17—22 サエグサ画廊
 宮下芳子個展 17—22 大倉画廊
 土筆会展 17—22 みゆき画廊
 七月会展 17—22 あかね画廊
 石田明個展 17—22 丸善画廊
 壁下孝個展 17—22 スルガ台画廊
 安藤吾路個展 17—22 昭和画廊
 池水寛治個展 17—23 銀芳堂画廊
 黒沢三郎個展 17—23 文芸春秋画廊
 中林忠良個展 17—23 シロタ画廊
 山本圭吾個展 17—23 夢土画廊
 新井信正個展 17—23 おぎくぼ画廊
 植木茂彫刻展 17—31 現代彫刻センター
 応美会展 18—22 竹川画廊

喜多村知油絵展 18—23 三越
 明治100年に因む版画展 18—23 三越
 七窯会作陶展 18—23 三越
 福田肇治・黒沢吉蔵二人展 18—23 高島屋
 寺田竹雄近作展 18—23 高島屋
 示現会油絵展 18—23 三越
 青木春見個展 18—23 松坂屋
 創元会新人展 18—23 銀座ヤマト画廊
 ばび展 18—23 村松画廊
 PiP展 18—23 村松画廊
 川田清彫刻展 18—24 秋山画廊
 3回主体美術展 18—26 京都市美術館
 日版画展 19—23 上野・松坂屋
 7回グループ生展(乾竜平・小笠原誠次・田中猛夫・中野英一・小川智・橋本清・山口幸平・水野一) 20—25 京都市美術館
 集団*新展。20—25 東和画廊
 煌土社日本画展 21—26 白木屋
 加藤清一油絵展 21—26 松屋
 京風俗版画展 21—26 松屋
 '67.新宿・夏展(大村連・北山泰斗・深尾庄介) 21—29 ギャラリー・新宿
 木内克デッサン展 21—30 本間美術館
 7回本間焼と楽焼展 21—30 本間美術館
 伊勢正義個展 21—31 日動サロン
 中山府仁夫個展 22—27 椿近代画廊
 3回三人展(高梨真智子・筆宝淑子・飯沼佐和子) 22—27 椿近代画廊
 中里清個展 22—27 銀座画廊
 内田信個展 22—27 ルナミ画廊
 油絵五人展 22—27 銀座画廊
 川内徹彦個展 23—29 アトリエ彩々
 藤恵子個展 23—29 ヨコヤマ画廊
 三M会展 23—28 竹川画廊
 3回内野秀美個展 24—29 サエグサ画廊
 笠井一画展 24—29 文春画廊
 上前智祐油絵作品展 24—29 養清堂画廊
 宮崎進個展 24—29 資生堂ギャラリー

美術展覧会(7・8月)

井藤五郎個展 24—29 ときわ画廊
 ヴィリジャン会展 24—29 全線画廊
 下田悌二郎個展 24—29 樫画廊
 阪本基義個展 24—29 サトウ画廊
 群炎美術協会グループ展 24—29
 大倉画廊
 三人展(北村・弓野・毛利) 24—29
 文春画廊
 杉村昌子個展 24—29 みゆき画廊
 赫炎会展 24—29 あかね画廊
 玉置弘三油絵個展 24—29 丸善画廊
 鈴木伸雄個展 24—29 昭和画廊
 岡芳子個展 24—29 スルガ台画廊
 14回新美術展 24—30 愛知県文化
 会館美術館
 石沢久夫個展 24—30 夢土画廊
 松田政志銅版画展 24—30 銀芳堂
 画廊
 川端寿文個展 24—30 おぎくぼ画廊
 池昭二個展 24—31 東金堂ギャラ
 リー
 矢島美枝子個展 24—8月5 日本
 画廊
 三珠会日本画展(大山忠作・加藤東
 一・野島青々・浦田正夫・山口吉
 三郎・佐藤因夫・加倉井和夫・小
 栗潮) 25—30 三越
 石田重子日本画展 25—30 上野・
 松坂屋
 小原照恵絵画小品展 25—30 松坂
 屋
 インテリアオブジェ展 25—31 秋
 山画廊
 杉全直コラージュ展 25—8月4
 ギャラリー・アルカンシェル 25—
 8月15 第七画廊
 2回湾々会展(中根寛・小松崎邦雄・
 進藤善) 26—30 高島屋
 友仲会日本画展 26—30 三越
 二紀京都作家展 27—30 京都府キ
 ャラリー
 グループ「緑」展 27—8月1
 東和画廊
 三上正寿日本画近作展 27—8月3
 伊勢丹
 日本山岳画協会展 27—8月3 伊
 勢丹
 カネコフミオ・桜井淳子・清水勲展

28—8月2 椿近代画廊
 植木力彫刻小品展 28—8月2 松
 屋
 日本画物語作家名品の会 28—8月
 2
 佐藤事個展 28—8月2 ルナミ画
 廊
 島田洗耳近作展 28—8月2 松屋
 大崎善生水彩画展 28—8月2 白
 木屋
 ボンベイ展 29—9月3 福岡県文
 化会館
 井上正作個展 29—9月3 竹川画
 廊
 東都美術展 30—8月4 村松画廊
 篠原有司男個展 30—8月4 村松
 画廊
 大野尊個展 30—8月4 銀座ヤマ
 ト画廊
 大谷幸一油絵展 30—8月4 銀座
 ヤマト画廊
 十人会展 30—8月4 銀座ヤマト
 画廊
 今井善一郎作品展 31—8月5 大
 倉画廊
 田中良個展 31—8月5 あかね画
 廊
 細合仁一郎個展 31—8月5 樫画
 廊
 鶴岡充男個展 31—8月5 銀芳堂
 画廊
 J号会展 31—8月5 文芸春秋画
 廊
 山崎直樹彫刻展 31—8月5 秋山
 画廊
 中山総一油絵展 31—8月5 中公
 丸ビル画廊
 菅野功個展 31—8月5 昭和画廊
 田中悠紀子個展 31—8月5 スル
 ガ台画廊
 武山富士子個展 31—8月5 サエ
 グサ画廊
 福岡早苗彫刻展 31—8月5 と
 きわ画廊
 モダンアート会員彫刻8月展 31—
 8月5
 VAVA展 31—8月6 文芸春秋画
 廊
 正田壤個展 31—8月6 夢土画廊
 大坂日出男個展 31—8月6 おぎ
 くぼ画廊

五十嵐彰雄展 31—8月6 京都・
 画廊紅
 阿部威個展 31—8月12 サトウ画
 廊
 向井修二展 31—8月13 大阪・画
 廊あの
 上田寿夫妻展 31—8月14 寛画廊

8 月

木村彰木版画展 1—5 養清堂画
 廊
 小山正太郎水彩展 1—6 彩堂堂
 京都画壇新人選抜展 1—6 高島
 屋
 4回樺会油絵展 1—6 高島屋
 安西啓明日本画展 1—6 三越
 畔柳興二洋画展 1—6 上野・松
 坂屋
 一線美術会員展 1—6 銀座・松
 坂屋
 谷口利夫個展 1—7 秋山画廊
 田辺穰個展 1—8 日動サロン
 4回私のコレクション展 1—12
 本間美術館
 AGOSTO展 1—15 銀座・田島
 杉全直コラージュ・デッサン展 1
 —15 第七画廊
 溝淵尚版画展 1—21 美術出版社
 ロビー
 堀口泰造展 1—26 ギャラリー・
 キューブ
 外国素描版画展 1—31 南天子画
 廊
 オール新人具象1000名選抜展 2—
 6 巴里画廊
 鈴木伸夫個展 3—6 一方堂画廊
 5回グループ KOCU展 3—8
 椿近代画廊
 新芸術協会会員小品展 3—8 東
 和画廊
 沼田晴一郎個展 3—8 椿近代画
 廊
 大倉集古館所蔵品展 3—10月29
 大倉集古館
 佐田勝ガラス絵展 4—9 京王梅
 田画廊
 古沢岩美デッサン展 4—9 大丸
 山里寿男展 4—9 松屋
 角尾路子個展 4—9 竹川画廊
 6回一丹会洋画展 4—10 伊勢丹

アート7展 5—10 村松画廊
 ミニヨン展 5—14 日動画廊・藤島サロン
 一水会の作家15人展 7—12 千代田画廊
 大久保坦版画展 7—12 養清堂画廊
 8回斑会展 7—12 文芸春秋画廊
 鱧利彦・小林丙二人展 7—12 資生堂ギャラリー
 8回柏樹会 7—12 文芸春秋画廊
 長島吉三郎個展 7—12 サエグサ画廊
 村上金広個展 7—12 樺画廊
 村瀬真治個展 7—12 大倉画廊
 飯塚仁個展 7—12 みゆき画廊
 平山康允個展 7—12 あかね画廊
 帝美展 7—12 中丸九ビル画廊
 吉岡弘昭個展 7—12 スルガ台画廊
 熊岡まゆみ個展 7—12 昭和画廊
 青山正昂個展 7—13 銀芳堂画廊
 西脇敦子個展 7—13 夢土画廊
 西村峰子個展 7—13 おぎくぼ画廊
 ベルナル・ビュッフェ石版画集展 7—16 アオイ画廊
 戦争展 7—19 日本画廊
 現代水彩作家展 7—26 梅花亭ギャラリー
 十一会展 8—13 高島屋
 松本富太郎作品展 8—13 高島屋
 鈴木良三油絵展 8—13 三越
 阿部六陽日本画展 8—13 三越
 24回日本水彩画会会員展 8—13 三越
 ルノワール展 8—20 上野・松坂屋
 インテリア・オブジェ展 8—21 秋山画廊
 14人の発言者達(相場秀夫・相場由紀子・小村彰丸・後藤充・佐藤尚・柴田昌一・下山良範・関光行・中島啓匡・中山節子・中山府仁夫・細井泰三・森顕爾) 9—14 椿近代画廊
 本郷惇個展 9—15 日動サロン
 草野昭治個展 10—15 東和画廊
 原田澄子個展 10—15 竹川画廊
 香月泰男展 11—16 松屋
 鳥居雅隆展 11—16 松屋

孫瑛画展 11—16 銀座ヤマト画廊
 伊藤彬日本画展 11—16 西武
 10月会展 11—16 村松画廊
 2回現代形象版画展(小作青史・加藤清美・北岡文雄・駒井哲郎・関野準一郎・利根山光人・中山正・細田政義・水船六洲・長谷川潔) 11—17 伊勢丹
 5回戸田浩堂日本画展 11—17 伊勢丹
 平畑筆一個展 12—16 紀伊国屋画廊
 金子一治個展 14—19 養清堂画廊
 佐々木進吉個展 14—19 中丸九ビル画廊
 服部保個展 14—19 大阪・梅田画廊
 若月剛造作展 14—19 昭和画廊
 酒井俊幸個展 14—19 全線画廊
 浅川澄個展 14—19 樺画廊
 サロン・ド・ゲン展 14—19 資生堂ギャラリー
 吉野興博個展 14—19 サエグサ画廊
 グループ展 14—19 文芸春秋画廊
 山本一郎個展 14—19 あかね画廊
 藤沢喬個展 14—19 ときわ画廊
 大塚哲個展 14—19 スルガ台画廊
 中川八州個展 14—19 ルナミ画廊
 松本幸治郎絵画小品個展 14—20 おぎくぼ画廊
 八田豊個展 14—20 京都・画廊紅
 ブラック展 14—20 銀芳堂画廊
 三人展(星野友一郎・森仁志・堀内稔) 14—20 夢土画廊
 端山経作個展 14—26 サトウ画廊
 現代水彩・版画展 14—30 ボール・ギャラリー
 青葉会展 15—20 高島屋
 6回慧星会油絵展 15—20 高島屋
 19回立軌展 15—20 三越

出品目録

壁 A 秋野卓美
 ♪ B ♪
 ♪ C ♪
 ガッシュ(滞欧作4点) 飯島一次
 風景 A 五百住乙
 ♪ B ♪
 白い建物 牛島憲之
 金の沼 小川イチ

白 い 蜜 小川イチ
 青 い 鳥 ♪
 湖 底 須田寿
 浮 游 ♪
 城 A 玉置弘三
 ♪ B ♪
 鶉飼 A ♪
 ♪ B ♪
 大 樹 丹野正弘
 樹 例 ♪
 水 辺 の 木 ♪
 高 原 の 木 ♪
 スペインの町 武林敬吉
 スペインの丘 ♪
 スペインの寺院 ♪
 男 と 石 中谷貞彦
 少 年 ♪
 カサ・デル・シ 榎田達雄
 ニ ョ ー レ ♪
 流 ♪
 水 ♪
 南 の 島 ♪
 漁 港 A 宮内義雄
 ♪ B ♪
 ♪ C ♪
 洛北残雪 山下大五郎
 早春農家 ♪
 洛北花背 ♪
 習作 A・B・C・D・E・F
 (エッチング・滞欧作) 吉本弘

松浦非水遺作展 15—20 三越

出品目録

ポスター
 光風会第一回展覧会 明治45年
 光風会第二回展覧会 大正2年
 光風会第三回展覧会 ♪ 3年
 光風会第七回展覧会 ♪ 8年
 三越呉服店 新館落成 ♪ 3年
 ♪ ♪
 ♪ ♪ 4年
 ♪ 第九回児童博覧会 ♪ 6年
 ♪ 本店西館修築落成 ♪ 14年
 新宿分店新築落成
 ♪ 新宿店開店 ♪
 ♪ 京城新館落成 昭和4年
 ♪ 銀座店開店 ♪ 5年
 ジャパン ツーリスト ビューロー 大正12年
 アサヒグラフ臨時増刊 明治大正名作展号 昭和2年
 地下鉄上野浅草間開通 ♪ ♪

美術展覧会(8月)

地下鉄上野浅草間開通	昭和2年
ポスター研究雑誌 アフイッシュ	〃 〃
七人社第一回創作展	大正15年
七人社第二回創作展	昭和2年
七人社第三回創作展	〃 3年
大電力放送開始 JOAK	〃 〃
岐阜長良川鵜飼と納涼	〃 4年
世界裸体美術全集	〃 6年
佐渡汽船	〃 9年
湘南電車開通	
南満州鉄道	
トモエ石鹼	
杉浦非水図案生活三十年 記念聯合展覧会	〃 11年
紙巻煙草みのり発売	〃 16年
カルピス	
通信省貯蓄	
星名刺	
日比谷美松	
ヤマサ醤油	
星製菓	
雑誌表紙 I	
中学世界 9巻6号	明治39年
リーガル タイムス 1 〃 2 〃	〃 42年
劇と詩 7 〃	〃 44年
実業倶楽部 1 〃 8 〃	〃 〃
〃 1 〃 11 〃	〃 〃
女子文壇 8年1 〃	〃 45年
〃 8 〃 5 〃	〃 〃
中学世界 15巻7 〃	〃 〃
現代 4 〃 5 〃	大正2年
文章世界 8 〃 6 〃	〃 〃
処女 10年1 〃	〃 3年
趣味之友 1巻2 〃	〃 5年
日本印刷界 77 〃	〃 〃
趣味之友 3 〃 12 〃	〃 6年
黒白 1 〃 1 〃	〃 〃
秀才文壇 17年4 〃	〃 〃
新人 211 〃	〃 7年
新女界 10巻3 〃	〃 〃
〃 10 〃 6 〃	〃 〃
開拓者 16 〃 1 〃	〃 10年
婦人倶楽部 2 〃 8 〃	〃 〃
たかね 26 〃	〃 〃
世帯 1 〃 2 〃	〃 11年
婦人倶楽部 5 〃 5 〃	〃 13年
東京 1 〃 4 〃	〃 〃
自然 5 〃 3 〃	〃 15年
家の光 3 〃 7 〃	昭和2年

現代 8巻10号	昭和2年
美容 3 〃	〃 4年
家の光 6 〃 1 〃	〃 5年
実業界 44 〃 1 〃	〃 7年
科学知識 13 〃 10 〃	〃 8年
ピコロ 1 〃 1 〃	〃 9年
科学知識 15 〃 4 〃	〃 10年
みつこし タイムス 8 〃 5 〃	明治43年
〃 9 〃 4 〃	〃 44年
〃 9 〃 8 〃	〃 〃
〃 10 〃 12 〃	〃 45年
三越 1 〃 3 〃	〃 44年
〃 1 〃 5 〃	〃 〃
〃 1 〃 11 〃	〃 〃
〃 2 〃 2 〃	〃 45年
〃 3 〃 1 〃	大正2年
〃 3 〃 3 〃	〃 〃
〃 3 〃 6 〃	〃 〃
〃 3 〃 7 〃	〃 〃
〃 3 〃 8 〃	〃 〃
〃 3 〃 9 〃	〃 〃
〃 3 〃 11 〃	〃 〃
〃 3 〃 12 〃	〃 〃
〃 4 〃 6 〃	〃 3年
〃 4 〃 9 〃	〃 〃
〃 4 〃 10 〃	〃 〃
〃 4 〃 12 〃	〃 〃
〃 5 〃 2 〃	〃 4年
〃 5 〃 8 〃	〃 〃
〃 5 〃 12 〃	〃 〃
〃 6 〃 10 〃	〃 5年
〃 7 〃 8 〃	〃 6年
〃 8 〃 8 〃	〃 7年
〃 11 〃 10 〃	〃 10年
〃 11 〃 12 〃	〃 〃
〃 15 〃 7 〃	〃 14年
〃 16 〃 12 〃	〃 15年
〃 20 〃 1 〃	昭和5年
大阪の三越 ツーリスト 6年11 〃	〃 〃
〃 3 〃 6 〃	大正4年
〃 5 〃 5 〃	〃 6年
〃 6 〃 5 〃	〃 7年
〃 7 〃 4 〃	〃 8年
〃 16 〃 1 〃	昭和3年
〃 19 〃 3 〃	〃 6年
〃 19 〃 5 〃	〃 〃
〃 20 〃 4 〃	〃 7年
雑誌表紙 II	
みつこし タイムス 7巻6号	明治42年
〃 7 〃 9 〃	〃 〃

みつこし タイムス 7巻11号	明治42年
〃 7 〃 12 〃	〃 〃
〃 7 〃 13 〃	〃 〃
〃 8 〃 6 〃	〃 43年
〃 10 〃 2 〃	〃 45年
〃 10 〃 4 〃	〃 〃
〃 10 〃 6 〃	〃 〃
三越(原画) 4 〃 2 〃	大正3年
〃 (〃) 5 〃 4 〃	〃 4年
〃 (〃) 8 〃 11 〃	〃 7年
〃 9 〃 6 〃	〃 8年
〃 9 〃 8 〃	〃 〃
〃 9 〃 11 〃	〃 〃
〃 9 〃 12 〃	〃 〃
〃 10 〃 6 〃	〃 9年
〃 11 〃 1 〃	〃 10年
〃 11 〃 7 〃	〃 〃
〃 12 〃 1 〃	〃 11年
〃 18 〃 4 〃	昭和3年
〃 19 〃 11 〃	〃 4年
〃 20 〃 8 〃	〃 5年
〃 22 〃 2 〃	〃 7年
印刷世界 (原画) 58 〃	大正3年
アフイッシュ 1 〃 1 〃	昭和2年
〃 1 〃 2 〃	〃 〃
〃 1 〃 3 〃	〃 〃
〃 1 〃 4 〃	〃 〃
〃 2 〃 3 〃	〃 4年
〃 3 〃 1 〃	〃 5年
〃 3 〃 6 〃	〃 〃
〃 3 〃 7 〃	〃 〃
短歌至上主義 4 〃 2 〃	〃 11年
〃 (原画) 10 〃 5 〃	〃 17年
短歌至上 18 〃 1 〃	〃 28年
〃 20 〃 3 〃	〃 30年
装幀	
女皇クレオパ トラ 大正3年	永代静雄 著隆文館
東洋画論集成 〃 4年	読画書院
大日本美術史 〃 11年	黒田鵬心 著誠文堂
国際写真情報 〃 〃	国際情報 社
日本動物図鑑 昭和2年	北隆館
英文世界名著 全集 〃 3年	英文世界 名著全集 刊行会
新校群書類従 〃 〃	内外書籍
現代日本文学 全集 〃 〃	改造社
近代日本文学 大系 〃 〃	国民図書

美術展覧会(8月)

日本美術年鑑	昭和4年	朝日新聞社
応用動物図鑑	〃 5年	北隆館
世界美術全集	〃 〃	平凡社
現代短歌全集	〃 6年	改造社
日本昆虫図鑑	〃 7年	北隆館
新興写真の作り方	〃 〃	金丸重嶺著玄光社
鐔大観	〃 10年	川口勝著南人社
万葉集全注釈	〃 26年	武田祐吉注改造社
羽田から羽田まで	〃 27年	岡野保次郎著日経連
著書および装幀		
富士山スケッチ	明治40年	金尾文淵堂
子宝	〃 42年	三越
非水図按集	大正4年	金尾文淵堂
しほりの図案	〃 7年	平安堂
非水百花譜	〃 9-11年	春陽堂
非水創作図案集	〃 15年	文雅堂
図案の美学	昭和7年	アトリエ社
実用図案資料大成	〃 8年	〃
世界人物図案資料集成	昭和27年	技報堂
世界動物図案資料集成	〃 〃	〃
世界植物図案資料集成	〃 〃	〃
非水図按集 第一輯	大正4年 木版	金尾文淵堂
しほりの図案	大正7年 木版	平安堂
非水百花譜	大正9-11年 木版	春陽堂
非水創作図案集	大正15年 木版	文雅堂
非水図案絵葉書	大正15年頃 木版	上方屋平和堂
煙草パッケージ		
ひびき	昭和7年	〃
パロマ	〃 8年	〃
桃山	〃 9年	〃
光	〃 11年	〃
扶桑	〃 13年	〃
日光	〃 24年	〃
カルピス包装紙		
キリンビール商標		
日本画		
浅間	昭和11年	紙本着彩 52×37cm

姫鶴と波紋の表情	昭和30年	紙本着彩 110×91cm
小鳥の声 (翠子と合作)	昭和34年	紙本淡彩 132×32cm
梅 (俳画)	大正7年	紙本淡彩 17.5×109cm
写生帖 明治30年一昭和40年		
植物写生帖	春之部	〃
〃	夏之部	〃
〃	秋之部	〃
〃	冬之部	〃
魚類写生帖	〃	〃
虫類写生帖	〃	〃
清野恒油絵展	15-20	三越
ぶらんしえ展	15-20	椿近代画廊
七彩会洋画展	15-20	上野・松坂屋
新協美術油絵展	15-20	銀座・松坂屋
現代水彩画展	15-21	ギャルリ・アルカンシェル
自由美術小品展	15-31	椿近代画廊
足利時代水墨画展	15-31	本間美術館
ロジェ・ミユール展	15-9月9	〃
フジ・アート・ギャラリー帝劇店	〃	〃
小林哲夫個展	16-22	日動サロン
牛久健治個展	17-22	東和画廊
る・え・ら会展	17-22	銀座ヤマト画廊
芸術の不自由展	17-22	村松画廊
斎藤智個展	17-25	シロタ画廊
久保田善満個展	17-26	東金堂ギャラリー
アメリカ・フランスアートポスター展	18-21	京王
第11回日宣美展	18-23	京王
斎藤与理水彩画展	18-23	小田急
2回大調和秋季展	18-23	白木屋
ポーランド絵本作家原画展	18-24	伊勢丹
長野紀個展	18-24	紀伊国屋画廊
太平洋戦争絵画写真展	19-30	西武
異色の近代画家たち	19-9月17	〃
京都国立近代美術館 出品目録		
〇襲光		
洋傘に倚る少女	油彩	1930
ライオン	〃	C. 1937

眼のある風景	油彩	c. 1938
馬	〃	〃
鳥	〃	1940
蝶	〃	1942
静物	〃	1944
魚	〃	〃
自画像	〃	〃
梢のある自画像	〃	〃
風景	〃	〃
〇石垣栄太郎		
二階つきバス	油彩	1920
街	〃	1925
鞭うつ	〃	〃
腕	〃	1929
リンチ	〃	1931
ボーナス・マーチ	〃	1932
キューバの反乱	〃	1933
K. K. K.	〃	1937
強風	〃	1939
恐怖	〃	1940
地獄へ	〃	1942
〇今西 中通		
真珠	油彩	1935
作品	〃	〃
海辺の裸婦達	鉛筆・パステル	〃
作品	油彩	1937
〃	〃	1940
静物	〃	〃
青の静物	〃	〃
緑の静物	〃	〃
作品	〃	〃
首のある静物	〃	1944
自画像	コンテ	1945
〇瑛九		
赤の中の小さな白	油彩	1938
海底	〃	1948
だだっ子	〃	1954
湖	〃	1956
ピルの窓	〃	1957
月	〃	〃
丸 II	〃	1958
午後(虫の不在)	〃	〃
花東	〃	1959
翼	〃	〃
〇坂田 一男		
静物	油彩	1934
コンポジション	〃	1936
〃	〃	1948
〃	〃	1949

美術展覧会(8月)

コンポジション	油 彩	c.1950
エスキース	〃	1953
建築物	〃	1954
裸婦	〃	〃
メカニック・エレメント	〃	1955
釣り	〃	〃
コンポジション	〃	〃
〃	〃	1956
〃	〃	〃
○関根 正二		
姉弟	油 彩	1918
チューリップ	〃	〃
三星	〃	1919
子供	〃	〃
○野口 謙蔵		
霜の朝	油 彩	1934
冬日	〃	1934—35
雑草	〃	1937
城	〃	〃
沼辺の夕立	〃	〃
水村雪後	〃	1938
冬田と子供	〃	1939
朝	〃	〃
太陽と村落	〃	1940
不動尊	〃	1941
虹のある雪景	〃	1943
○野田 英夫		
都会	油 彩	1934
帰路	〃	1935
小供	〃	1936
風景	水 彩	〃
ウッドストックの森	〃	〃
カフェテリア	〃	〃
サーカス	油 彩	1937
内田伯肖像	〃	〃
バス内	〃	〃
メリーゴーランド	〃	〃
省線ホーム	〃	1938
子供とたらい	〃	〃
風景	〃	〃
上野山下風景	〃	〃
○長谷川三郎		
オルレアン街道の雨	油 彩	1932
麦わら帽子の婦人像	〃	1934
青の静物	〃	1936
蝶の軌跡	〃	1937
湖畔にて I	〃	1948

湖畔にて II	油 彩	1948
鳥	〃	1949
狂詩曲漁村	〃	1952
アブストラクション	〃	1953
水族館にて	〃	1955
○長谷川利行		
田端変電所	油 彩	1926
浅草停車場	〃	1927
カフェ・オリエント	〃	1928
月夜の渡し場	〃	〃
前田夕暮像	〃	1929
岸田国土像	〃	1930
鉄工場裏	〃	1931
夜景	〃	1935
四人の裸婦	〃	〃
大島の海	〃	1937
新宿風景	〃	c.1937
大和家かほる	〃	〃
上野風景	〃	1938
○原 勝四郎		
高尾山	油 彩	〃
瀬戸浦風景	〃	1935
風莫の港	〃	1940
番所亭	〃	〃
道化	〃	1941
裸婦	〃	1947
江津良の港	〃	1951
樹陰	〃	1952
海辺	〃	1954
老人像	〃	1956
自画像	〃	1959
向日葵	〃	1962
○船川 末乾		
巴里風景	油 彩	1923
パンとメロン	〃	c.1924
花	〃	c.1925
花とパイプ	〃	1926
籠と唐蜀黍	〃	1927
花	〃	〃
花と果物	〃	〃
桃とマスカット	〃	c.1927
水指と黒い仮面	〃	c.1929
○松本 竣介		
街	油 彩	1938
都会	〃	1940
街にて	〃	〃
顔(自画像)	〃	〃
煙突のある風景(お茶の水駅南口)	〃	1941
画家の像	〃	〃

ニコライ堂	〃	c.1941
ニコライ堂の横の通り(ニコライ小聖堂)	〃	〃
運河(汐留近く)	〃	c.1942
並木道(聖橋通り)	〃	1943
A夫人像	〃	1946
建物	〃	1948
○村山 槐多		
風景	水 彩	1914
〃	油 彩	〃
裸婦	〃	c.1914
自画像	〃	〃
カンナと少女	水 彩	1915
風景	油 彩	〃
バラと少女	〃	1917
湖水と女	〃	〃
松と榎	〃	1918—19
風景	〃	c.1919
中村幸平・富永恒光2人展 20—26		
ルナミ画廊		
大洋美術協会展 20—24 日比谷画廊		
秋山静鋼版画展 21—26 椿近代画廊		
136回現代版画展 21—26 わたなべアート・サロン		
4回双丘展 21—26 丸善画廊		
富張広司版画展 21—26 養清堂画廊		
柴富忠徳個展 21—26 昭和画廊		
田所量司個展 21—26 中公丸ビル画廊		
飯田春行個展 21—26 ときわ画廊		
桑田道夫個展 21—26 ギャラリー新宿		
秋吉征雄・茨木捷彰二人展 21—26 樺画廊		
宮河久小品展 21—26 資生堂ギャラリー		
松本巖個展 21—21 サエグサ画廊		
高田義人個展 21—26 みゆき画廊		
角井満夫個展 21—26 あかね画廊		
内田彰彦個展 21—26 スルガ台画廊		
7回グループ青染展 21—27 文芸春秋画廊		
6人展(小川智他) 21—27 夢土画廊		
中根正治個展 21—27 銀芳堂画廊		
こんどうまさる個展 21—27 銀		

芳堂画廊
竹内松山個展 21-28 おぎくぼ画廊

浅野弥衛個展 21-30 毫番館画廊
21回新樹会展 22-27 三越

出品目録

絵画

ポントット 安寿房子
キリスト逮捕 〃
一隅 池内康子
白の流れ 木村美鈴
アンダルシア 小林絢子
A・B 紺野弘子
花のある静物 〃
白の静物 〃
静物 齋藤小枝子
鳥遊園地 〃
作品 1・2 坂本幸子
人物 坂本年
あじさい 〃
静物 坂本年
作品 A・B 佐藤満里子
教会のある村 A・B・C 杉村昌子
輪廻の章 A・B 平野杏子
花 A・B 藤村加代子
人形 A・B 水野澄子
静物 A・B 三村瑤子
青い静物 赤堀尚
伊豆風景 〃
卓上静物 〃
木の風景 〃
風景 畦地梅太郎
園谷の残雪 〃
園谷にたつ人 〃
静物 A・B・C 植田寛治一
山間の町 笠井誠一
静物の村 〃
南村 〃
村 〃
作品 1-10 門倉芳枝
聖者 カルペンティール
聖母 〃
夕陽と広告塔 黒木実
目黒遠望 〃
煙突の見える風景 〃
人物 齋藤研
静物 〃
風景 〃

バエトーンの悲劇(銅版)
アプロディーテ(銅版)

壁(銅版)
南伊豆の新緑
伊浜風景A・B
卓上静物
夏山A
漁船
織女A・B・C
いえなみ
ひととまち
砲台山
街角
人形達
漁船
古い教会
作品 L-74
〃 L-76
〃 L-99
〃 L-100
〃 L-101
(銅版)

騎馬物
静
長い町の風景K
〃 M
乗手者
独り者
ネガティブ
白雪姫 1-10
秋の丘
冬の丘
雪の丘
ダリア
ひまわり
桜 A・B・C
阿波踊り
富士図
還城楽と八仙の舞
死火
桜島
舞妓蒲
菖蒲
二つの花
横たわる
彫刻のある静物
春
プラム

佐藤武雄
〃
〃
志邨武久
〃
進藤蕃
〃
武田邦雄
中神潔
〃
平沢喜之助
〃
〃
〃
〃
細田政義
〃
〃
〃
〃
三雲祥之助
〃
三宅悦隆
〃
〃
〃
三宅瑞穂
朝井閑右衛門
大河内信敬
〃
〃
〃
〃
〃
〃
大久保泰
片岡球子
〃
〃
〃
〃
島村三七雄
〃
仲田好江
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
エチュード
A・B・C

室 内 仲 田 好 江
ば ら 〃
静物 A 〃
裸婦 A・B・C 三 岸 黄 太
少 女 南 政 善
老 人 〃
横 向 きの 女 〃
肘をつく女 〃
支那服の少女 〃
絵 の 前 〃
お 祝 の 肖 像 〃

工芸

十 余 点 岩 田 藤 七
彫 刻
サントール(石彫) 阿 部 忠
女 舟(木彫) 秋 山 璵 子
トルソ 秋 山 川 明 進
立 像 荒 川 直 照
作 品 No. 13 大 滝 戸 武 平
海 女 神 柴 田 善 志
ト リ 柴 田 善 二
鉄 面 高 橋 米 吉
歌 手 〃
若 い 女 〃
い こ う 子 〃
学 生(首) 武 井 難 之
十九歳のひと(首) 〃
雷 神 塚 田 喜 司 郎
壁の中の太陽 原 武 典
南島閑日A・B 土 方 久 功
小品トルソ A・B 〃
奏 水 島 石 根
土 の 女 〃
き よ(首) 茂 木 弘 行
K 子 の 首 〃
聖母マリアの像 木 内 克
習 作 1・2 〃
天 女 〃
あるポーズ(1) 桜 井 祐 一
ネグリジェの女 〃
正 力 氏 像 清 水 多 嘉 示
女 の 顔 〃
裸 婦 〃
少女坐像(石膏) 千 野 茂
裸 婦(木彫) 〃
無 題 山 本 豊 市
エチュード 〃
A・B・C 〃
14回仏教美術展 22-27 三越

美術展覧会(8・9月)

日本陶磁器協会賞受賞作家陶芸展
22—27 三越

17回独立10人の会 22—27 高島屋

堀井英男・小浪純男・小倉健輔三人展 22—27 文芸春秋画廊

山崎豊日本画展 22—27 三越

寺島修治水彩画展 22—27 上野・松坂屋

森田六男個展 22—28 秋山画廊

畦地梅太郎版画展 22—31 ギャラリー・アルカンシェル

関川都個展 22—31 日本橋画廊

グループ・デ・エザンス展 23—28 銀座ヤマト画廊

西尾善積個展 23—31 日動サロン

加藤直子個展 24—29 東和画廊

11回シエル美術賞展(菅木志雄・山本圭吾・鈴木慶則・安藤勝康・桑原盛行・高間夏樹・関根伸夫・小串里子・橋葉雍・鈴木充朗・小畑勉・松本曼・前田守一・丹羽勝次・加藤大博・八島正明・八田豊・楠田信吾・矢野正治・川端紘一・松田豊・前田啓・保田博司・加藤勲) 25—30 白木屋

小田部三平展 25—30 京王

高塚省吾個展 25—30 竹川画廊

豊田一男新作油絵展 25—30 大丸

入江一子・大内のふ子二人展 25—30 大丸

藤原茂富日本画展 25—30 小田急

秋保正三・佐々木孔二人展 25—30 小田急

植木茂彫刻展 25—31 大阪・梅田画廊

10人のガラス展 25—31 伊勢丹

佐伯祐三回顧展 25—9月6 西武

土井雅一作品展 26—29 日比谷画廊

テリー・バトリック・花谷由紀子二人展 26—30 紀伊国屋画廊

プリンター「12」油絵展 27—9月1 銀座画廊

豊川和子個展 27—9月1 ルナミ画廊

松山徹個展 27—9月1 椿近代画廊

アドマン展 28—30 丸善画廊

3回四行展 28—9月2 文芸春秋画廊

池田一末個展 28—9月2 ときわ

画廊

平塚運一滞米版画作品展 28—9月2 養清堂画廊

中村善種個展 28—9月2 資生堂ギャラリー

ジェームス・ロドリック・マコール個展 28—9月2 シロタ画廊

内藤道広個展 28—9月2 昭和画廊

高橋愛綱個展 28—9月2 樺画廊

志邨武久個展 28—9月2 サエグサ画廊

土屋義宣油絵展 28—9月2 みゆき画廊

行友巖個展 28—9月2 中公丸ビル画廊

伊藤定次郎・奥村昭二二人展 28—9月3 スルガ台画廊

大淵真市個展 28—9月3 夢土画廊

座間明直個展 28—9月3 銀芳堂画廊

高橋貞義個展 28—9月3 文芸春秋画廊

キタカミ・カユウ個展 28—9月3 おぎくぼ画廊

森本紀久子個展 28—9月3 大阪・画廊あの

山田彌一画展 28—9月9 サトウ画廊

高間惣七油絵展 29—9月3 三越

高嶋祥光日本画展 29—9月3 三越

6回美の美展 29—9月3 三越

高井貞二展 29—9月3 高島屋

武藤彰日本画展 29—9月3 高島屋

8回十柯会 29—9月3 高島屋

グループGA展 29—9月3 村松画廊

三歳会洋画展 29—9月3 銀座・松坂屋

阿部淑子個展 29—9月3 村松画廊

大鎌一也個展 29—9月4 秋山画廊

戦後美術史の問題作展 29—9月9 銀座ヤマト画廊

朋人社彫刻展 31—9月4 丸善画廊

石井義雄個展 31—9月5 東和画

廊

金曜会展 31—9月5 竹川画廊

3回4人展(中村勝美・山本吉雄・葛西四雄・中川澄子) 31—9月6 老番館画廊

9 月

西田亨新作油絵展 1—6 小田急

現代肖像美術協会展 1—6 白木屋

宇野亜喜良プティ・ロマネスク展 1—6 松屋

田中岑個展 1—7 日動サロン

一水会陶芸展 1—8 伊勢丹

彫刻巨匠四人展(山本豊市・本郷新・菊地一雄・木内克) 1—9 大阪・梅田画廊

現代彫刻家レリーフ展 1—9 大阪・ハクホウ画廊

二科会新秋展 1—12 ギャラリー・アルカンシェル

久里洋二油絵展 1—13 椿近代画廊

久里洋二アニメーション展 1—14 紀伊国屋画廊

大久保坦版画展 1—20 美術出版社ロビー

52回二科展 1—20 都美術館

会員出品目録

絵画

何処へ	吉田正雄
晩餐	〃
観賞する人	松井正
日曜日のチュルリー公園	〃
メキシコの女	寺田竹雄
噴水とマスカン(シャイヨー宮の大噴水)	織田広喜
帰って行く人形遊び	〃
パリの夜	鶴岡義雄
愛	〃
曲線風景	大沢昌助
白黒の像	〃
地の糧	狩野守
森の費	〃
迷路	田中君子
行進	〃
黒の歴史	斉藤三郎
青い少女	〃

HATAHATA JOREN	桑 原 実	LA POUPÉE	春 田 安喜子	月 蝕	戸 川 ふみ子
ばんざい	赤 羽 恒 男	冠 婦	吉 井 淳 二	に っ ぽ ん	西 村 千太郎
かぜのひ	猪 田 七 郎	漁 市 場	清 水 刀 根	な で し こ	〃
或る物語	伊 東 静 尾	巴 里 の 街 A	月 館 れ い	人々の為の機械	森 田 信 夫
土と共々	久 保 繁 造	〃 B	大 瀧 陽 一	レース売り	佐々木 宗一郎
〃	藤 沢 典 明	鳥 と 果 実	北 川 民 次	フェイラ(露店	〃
作 異 貌 A	堀 越 隆 次	北 の 海	松 本 弘 二	市)の葉草屋	新 開 盛 寿
〃 B	堀 越 隆 次	メキシコ三姉妹	伊 藤 上 丁 一	アンデスの岩に	〃
鳥と人とA	堀 越 隆 次	吾子の初旅像	萩 尾 テ ル	托す吸血税吏	〃
〃 B	堀 越 隆 次	群 林 の 人 達	藤 井 二 郎	リオのパカンス	〃
ま っ り の 森	石 橋 宏 一 郎	水に眠る女	末 永 一 夫	—SALON D'AUTOMNE	TOKYO—
伴 奏	鈴 木 幸 生 人	南 劇 役 者	安 藤 幹 衛	Les Couperets	ALDINE
馬力大会1	福 島 金 一 郎	芸 人 酒 場	大 城 皓 也	de l'espace	ALIX Yves
馬力大会2	東 郷 青 児	団地のある丘	〃	Nature morte	APPRL
この子らを	佐 藤 吉 五 郎	陶 土 の 山	福 島 淳 志 郎	marine	BARDONNE
憩 荒 天	服 部 正 一 郎	繁 栄 ?	井 上 賢 三	Chien avec	BARON-
海 辺 の 人 々	ベ ル ・ 串 田	政 治 ?	増 田 勉	famille	RENOUARD
サーカスの馬	鷹 山 宇 一	イェフワイ・イ	藤 田 慎 治	Le café sur la	BELASCO
巴里の街角	野 村 守 夫	エフワイ(久高	高 根 秀 雄	plage	DANIÉLE
モロッコの女	西 村 龍 介	島イザイホー)	新 田 稻 実	Murmure de	BERTHOM-
五人目の花嫁	松 葉 清 吾	神々の誕生	山 尾 薫 明	l'Automne	ME SAINT-
赤い砂	〃	鉄骨のある港	〃	Composition	ANDRE
倒れたる木のあ	故 伊 庭 伝 治 郎	残 雪	吉 村 勲	Le ruisseau	BORDEAUX
る風景	佐 藤 吉 五 郎	作 品	〃	encaissé	LE PECQ
ルクサンブルグ	服 部 正 一 郎	木 立 ち	田 川 覚 三	Coquillages	BRAYER
の公園	〃	流 木 と 岡	今 長 谷	exotiques	Yves
丘	〃	海 に て	竹 内 清	La Tour Eiffel	BRYEN
水 郷	〃	森 の う た	〃	L'air de L'ère	BUFFET
那 須 科	〃	恵 和 新 山	井 上 賢 三	Nature morte	Bernard
センチメンタル	ベ ル ・ 串 田	山 A	増 田 勉	à la lampe	CHAMBRIN
・ジャニー	〃	〃 B	〃	Bain de minuit	Jack
センチメンタル	鷹 山 宇 一	うろくず千一夜	藤 田 慎 治	Nature morte	CHAPELAIN-
・ジャニー	野 村 守 夫	深海に落ちた猫	〃	aux pastèques	MIDY
高 原 ・ 花	西 村 龍 介	モンマルトルの	高 根 秀 雄	Les Avettes	CHARLOT
〃 ・ 湖	〃	異邦人	〃	Le petit	Paul
トレド風景	松 葉 清 吾	〃	新 田 稻 実	Colléone	CHASTEL
聖 堂	山 本 不 二 夫	街 青 い 風	〃	Articulation	COLIGNON
館	青 山 龍 水	天 女 の 使 者	山 尾 薫 明	Orce, gris et	DEBRE
Peinture gris	藤 川 栄 子	象 の 祭	〃	taches claires	Olivier
Jaune Serie	〃	つ ど い	〃	Nagasaki	DESNOYER
三人の舞妓	井 上 覚 造	東 北 1	吉 村 勲	Le Cher	François
花を抱ける舞妓	春 田 安喜子	〃 2	〃	Noxal	DESPIERRE
花と姉弟	〃	South Ferry	杉 本 ヘ ン リ ー	Commencement	DEYROLIE
長崎の港	〃	New York	〃	du mystère	DUMI
赤と茶の構図	〃	Young master	〃	"Ile Tudy"	TRESCO
三人の構図	〃	渚 に て	戸 川 ふみ子	Peinture	Natalia
近代魚	〃	〃	〃	Scène antique	EVE Jean
LA POUPÉE	〃	〃	〃	Village de	FEITO Luis
同性	〃	〃	〃	L'Yonne	FERRARA D.

美術展覧会(9月)

Composition au mur rouge	GENIS	宝冠観音彫刻	鈴木 崧	ポスター 二点	池田正二
Paysage du limon	HAYDEN	ドンキホーテ	須賀通泰	ポスター 二点	明山正次
Composition bleue	ISTRATI	スワンプ・ナート	〃	ポスター 一点	藤重信
Pêcheurs sur la lagune	JANSEM	ある木型	平野秀一	ポスター 二点	轟周平
Veral	KOENIG	カメオ	細井良雄	ポスター 三点	田沢清見
La cour carrée de la lune	KOLOS-VARY	壁談議	工藤健治	ポスター 一点	河村久子
Peinture	LANCELOT NEY	人魚	竹内正治	ポスター 二点	竹内和夫
Peinture	LANSKOY	少女立像	大西金次郎	ポスター 一点	木島武雄
Les Américains à Paris	LEGRAND Edy	1967メキシコにて	吉岡侃	ポスター 二点	山崎達雄
Le sommeil des amants	MAC AVOY	蝗座	倉沢実	ポスター 二点	高橋節郎
Ciel orangeux	MARZELLE	童話も行くサッカラの道	小島広志	ポスター 一点	能勢三
Les lampions du 14 Jilulet	MONTANE Roger	羊を追うトレドの山道	淀井敏夫	ポスター 二点	佐々木幸三
Orezza	MORTEN-SEN	海辺の椅子	〃	ポスター 一点	石川ナツオ
Le Métro	MOSER	立つ女	松井隆治	22回行動美術展 1-20 都美術館	
Figure de Française	OUDOT Roland	夏無限への想念1	高須賀桂寿	会員出品目録	
Beten-Land	PIAUBERT Jean	〃 2	小山由寿	絵画	
Composition	PISTRE	神殿に	野水信司	記憶的	三箇三郎
Orange et rouge	POLIAKOFF Serge	叶魚	長谷川雅司	記憶とのあいだ	〃
Les Régates	ROHNER	5の形A	東村正久	記憶とのきずな	南和好
Bord de la mer	RUDEL Jean	〃 B	飯田艇三	皮作品 30-G	伊藤久三郎
Le Port de Dieppe	SABOURA-UD E.	ある形態作品	荒木啓司	皮作品 30-R	鬼頭正人
Etang de l'or No. 2	SARTHOU Maurice	伸張	野口嘉光	部屋	森真吾
Paysage de Paris	SEGAL Simon	対態	斉藤秀男	階	〃
Peinture	VAN VELDE Bram	生存	笠置松	オレンヂのある	前川佳子
Tau-Ceti	VASARELY Victor	連帯	木村敏	黒に緑	〃
La Seine dans L'île	VINAY Jean	三つの影	古久保三郎	Marine-Show	大門清次
Paysage de L'Ardèche	YANKEL	人間の記録	村岡三郎	〃	〃
Le mime	DE WARO-QUIER Henri	亀裂	大平隆洋	累形	柘植太
みみづく	仁戸田秀吉	Exchange of eyes	日高正法	風形	〃
群花	〃	浮遊	〃	費べのアリア	田中徳喜
ポンテ・ベツキオ (スイレンツエ)	関谷 陽	交流	〃	赤べのアリア	〃
黄金の家 (ヴェネチア)	〃	歴史	広瀬不可止	映 (1)	田中稔之
峠	辻本敬三	商業美術	〃	〃 (2)	〃
座せる	原田直康	マドレー応用ニ	赤羽喜一	ラ イ フ	江見絹子
土偶	〃	ユーステンドグ	〃	〃	〃
		ラス試案 一点	〃	テレパシーによるボリビア紀行“冬”	野尻弘
		ポスター 一点	〃	テレパシーによるボリビア紀行“夏”	〃
		ポスター 一点	高橋春人	ポッティチェルリ・ヴィナスの誕生・より	森口宏一
		ポスター 二点	高橋良	ポッティチェルリ・春・より	〃
		ポスター 二点	日置勝駿	湖畔 A	大場厚
		ポスター 二点	坪井鶴吉	〃 B	〃
		ポスター 二点	〃	6つのページ(1)	稲葉桂
		ポスター 二点	〃	〃 (2)	〃

方式67—14(四)

〃 (凸)

むかしむかしの
話から(左)むかしむかしの
話から(右)

青の中の顔

赤の中の顔

R—I

R—II

石 華 (A)

〃 (B)

旅 愁 A

〃 B

市 邑

立 像

シャトルから来

た鳥

領 事 館

燃えるエルサレ

ムを見る予言者

彼女の目はひら

かれた

と べ I

〃 II

立っている人

人

市 場

語 り

錆びた楽器

寓 話

記 念 撮 影

仲 間

灯 と 女

女・とり・サイ

コロ

舟 弁 慶

足 弁 慶

サイゴン周辺

切れたテープ

舟 の 家 族

青 年 た ち

蛭 道 物 語

朝 の 門

黒 い 裸 女

トレド(スペイン)

シャルトル(フ

ランス)

オリーブの庭

蒼 緑 の 村

草原の六月

吉 川 家 永

〃

藤 井 多鶴子

〃

松 本 宏

〃

河 端 亮 治

〃

深 見 隆

〃

高 井 寛 二

〃

大 森 朔 衛

〃

貝 原 六 一

〃

田 中 忠 雄

〃

大 谷 久 子

〃

辻 親 造

〃

田 中 阿喜良

〃

河 野 通 紀

〃

三 芳 悌 吉

〃

下高原 千 歳

〃

難 波 香久三

〃

高 橋 進

〃

佐 藤 真 一

〃

齋 藤 真 成

〃

田 川 寛 一

〃

川 原 章 二

〃

古 家 新 吉

向 井 潤

〃

〃

〃

〃

〃

〃

島 の 秋

島の春(梅とエ

リカ)

祝 典

風 輪

投票日の朝

広告のある風景

歓 待

合 唱

伯耆大山晩秋

山陰海岸「鎧の

袖」

白 い 段 畠

布良港の冬

魚板を運ぶ

校倉と瓦と柿

連 馬 文

先 陣 図

船 と 女

滑 川 雨 季

越 前 梅 浦

バス・ストップ

A

B

扇 面 図

万葉扇面図

真昼の境内

こわれた仁王の

ある寺

肖 像

飛 翔

雪の念仏寺(A)

〃 (B)

旗頭(はたがし

ら)

魔除けの獅子

夏 一いー

〃 一ろー

二つの太陽

真 夏

無 題 1

〃 2

誕 生

転 行

旗 連

白 II

〃 III

接 A

〃 B

鬼 子 母 神 会

一 印

榎 倉 省 吾

〃

小 林 武 夫

〃

斎 藤 正 治

〃

西 阪 修

〃

伊 谷 賢 蔵

〃

柏 原 覚 太 郎

〃

福 井 勇

〃

矢 野 喜 久 男

〃

飯 田 清 毅

荒 井 秀 宜

〃

田 中 勇 次 郎

〃

坪 内 節 太 郎

〃

玉 沢 潤 一

〃

荒 木 由 三

〃

尾 崎 悌 之 助

〃

儀 間 比 呂 志

〃

原 義 行

〃

全 和 鳳

〃

保 地 謹 哉

〃

辻 好 子

〃

小山内 益 郎

〃

北 勝 徳 弘

〃

阿 部 平 臣

〃

西 田 秀 雄

〃

〃

〃

〃

〃

彫 刻

連作 155

「Pahha」

魚 鱗 No.8

単子の風笛

碑に刻む

組曲「宇宙から

の訪問者」

箱の中の箱

ブラジャーとス

カート

平家の甲

題命のないモニ

ューメント

ORGAN-BOX

2

碑

吊 久

Tête-à-tête

1967—5

作品

Fiction—67

Janus No. 13

(影)

作 品

ある蛮族の碑

作 品 17

うずくまる

作 品 '67

神 話

二つの世界

67 の 2

武家の門

板 碑

イ ゲ タ

石 枕

諷 諭 詩—2

DIALOGUE

(赤と青と)

52回日本美術院展

館

出品目録

萌 岳

花 の

秋 野

慈 光

行 春

麗 端 の

北 海

花 供 養

寸又峽権現岳

面構(I)等持院殿

岩 城 信 嘉

橋 本 省

塩 見 哲 郎

白 井 謙 二 郎

石 井 厚 生

尾 川 宏

戸 津 侃

井 上 平 八 郎

今 村 輝 久

建 畠 覚 造

小 谷 謙

小 井 戸 信 雄

藤 庭 賢 一

岸 田 克 二

富 谷 道 信

田 中 榮 作

村 上 泰 造

中 野 將 是

林 慎 悟 卓

高 橋 快 彦

松 岡 島 快 彦

中 板 谷 門 光 允

小 佐 宮 永 理 正

増 田 弘

辻 観 二

翁 1—20

都 美 術

義 寛

春 雄

萬 千 子

岡 政 正

口 松 澄 和

倉 倉 子 一

今 野 敏 男

松 尾 本 弥 寿 子

岡 小 島 一 谿 子

片 岡 球 子

— 52 —

夏のこどもたち 風冬の歌華 題変海妓無き 望鳩橋ら 鷺象秋木 風景 風場苑池 室原泉像谷景園日鐘 鉄韻
 夏 盆 享 微 田 猷 樹 無 地 能 舞 虛 真 群 灼 団 群 二 古 夜 白 舞 立 高 宵 交 橋 窓 夏 は 堂 白 工 梅 養 苑 温 荒 平 群 溪 落 公 秋 晚 宵 蘇 晨 森 梢 海 嘯 車 風
 東 保 園 朴 獄 登 昼 地 重 填 台 山 窓 窓 はん いた の 鱒 日 光 枯 木 子 供
 敏吉 仁 喜 喜 栗 桂 榮 皓 博 悠 藤 二 信 春 曉 安 象 千 徹 真 為 嘉 楚 美 米 山 人 絵 衣 子 阿 勢 金 雄 武 邦 山 種 美術 館
 浪 沢 堀 原 町 原 川 宅 藤 田 田 佐 岡 根 藤 本 原 田 庭 見 内 辺 条 井 村 村 森 田 井 村 野 沢 見 野 沢 浪 井 藤 元 城 山 種 美術 館
 米 矢 内 桑 十 塚 豊 三 遠 津 伏 岩 館 曾 加 阪 森 和 桜 浅 山 渡 上 堀 奥 古 大 益 川 森 松 星 小 里 河 安 高 浅 佐 山 結 山 種 美術 館
 日 泊 地 息 段 子 鳥 影 晴 祭 立 椿 女 怪 宮 海 昼 樹 山 麗 女 秋 鶴 話 船 場 家 蔭 船 沼 夜 定 園 場 1—10月10 椿 近代 画廊
 の 高 岸 獅 灯 い 川 ん ど 海 の の い 囲 ま れ た 花 の ファンタジ ー 帰 ら ぬ 師 涼 品 秋 水 上 市 日本 の 秋 1—10月10 風 月 堂
 春 礎 花 上 休 崖 堂 石 彼 黒 投 秋 柴 木 赤 白 山 と 北 月 花 白 冬 新 秋 南 廃 冠 童 白 窠 花 に 緑 アン コール トム 花 の ファンタジ ー 帰 ら ぬ 師 涼 品 秋 水 上 市 日本 の 秋 1—10月10 風 月 堂
 九 徹 美 男 泉 世 祢 重 子 治 雄 朗 惇 子 孔 嗣 之 一 子 光 都 康 次 義 三 秋 水 勝 志 平 猛 夏 登 子 彦 治 シ 繁 郎 子 善 勉 枝 二 郎 郎 光 信 子 良 英
 尻 村 本 田 沢 藤 山 藤 室 本 津 田 藤 口 下 田 田 田 口 藤 川 川 島 藤 森 上 田 本 野 藤 田 川 藤 崎 藤 田 藤 上 田 川 田 野 輪 倉 尾 山 芳 中 川 村 村
 江 梅 藤 町 荻 根 後 横 加 松 栗 梅 吉 斎 小 木 山 和 樹 溝 伊 皆 五 十 川 佐 江 江 相 松 高 佐 村 下 加 高 佐 岩 神 佐 井 寺 衣 津 井 箕 大 石 畠 久 田 戸 木
 山 屋 楽 義 悠 夜 達 雪 き 物 ト 畔 樹 間 紋 め 照 み 川 鶴 船 景 人 原 く 潟 場 園 冑 畠 前 景 下 所 家 に 門 織 原 蔭 原 望 堂 畑 望 景
 立 真 青 妙 郷 高 能 晩 ひ 瀑 静 マ リ オ ネット ぼ り 地 編 蔭 ら 島 峯 公 祭 風 景 下 所 家 に 門 織 原 蔭 原 望 堂 畑 望 景
 子 靈 子 義 人 衛 広 二 星 鳩 久 雄 榮 郎 子 力 史 郎 方 一 準 子 泉 信 史 子 子 映 生 園 雄 史 田 徹 光 杏 倪 榮 紀 夫 子 茂 子 紀 治 郎 子 二 角 子
 道 伯 公 惠 弘 勝 宗 竜 煌 宋 彰 治 康 柳 和 郷 十 五 功 鈴 冷 一 庭 淑 千 英 翠 竹 静 昌 花 硯 宏 端 民 公 富 小 枝 子 德 世 彦 行 四 郎 子 正 欣 亀 潤
 砂 崎 塚 川 藤 原 藤 波 目 井 崎 鉢 井 島 藤 寺 本 尻 莊 目 崎 川 崎 生 田 部 木 嶋 沢 川 丸 本 塚 司 玉 井 藤 藤 壁 藤 多 岡 田 谷 高 木 浜 村
 浜 森 大 井 伊 荻 柴 近 那 松 川 飯 酒 飯 内 窪 寺 江 古 那 岡 江 岩 土 浅 服 鈴 大 成 小 西 宮 大 郡 児 折 後 康 斧 佐 岩 斎 本 梅 岡 今 綿 日 鈴 小 中

美術展覧会(9月)

出品目録

○カルラ アッカルディ			
赤	紫	テンペラ、キャンバス	1963
紺	青	〃	〃
○ヴァレリオ アデーミ			
浴	槽	クリラ塗り、キャンバス	1966
テレビのある室内		〃	〃
海	辺	〃	1967
○アフロ(アフロ バザルデッラ)			
コロラド	油	彩	1967
○ジェトゥーリオ アルヴィアーニ			
震える金属織	金	属	1966
a	〃	〃	〃
b	〃	〃	〃
○ロドルフォ アリコ			
叫	び	ポリエステル塗り木製組立てオブジェ	1966
	〃	アクリル塗り組立てオブジェ	〃
	〃	エ	〃
○エンリコ バイ			
バレード	カラー	ジュ	1962
メッカヌーブ	〃		1963
○レーモ ビアンコ			
3	D	赤合せ板	
〃	〃	白合せ板	
○アルベルト ビアージノエドアルド ランディ			
S	6	セリグラフィ	1964/65
〃	7	セリグラフィ	〃
〃	9	セリグラフィ	〃
○アゴスティーノ ボナルーミ			
赤	I	レリーフ、キャンバス	1967
〃	II	〃	〃
○ダヴィデ ボリアーニ			
PHスコープ		アルミ、アクリルガラス、モーター、紫外線、燐	1964/66
超立体		アクリルガラス、セリグラフィ、モーター	1964
○アルベルト ブッリ			
鉄		鉄、ハンダ付け	1961
白		木、ビニール	
穴		麻 袋	

○ジュセッペ カポグロッシ			
表面	317	油彩、キャンバス	1959
〃	318	〃	1959/61
表面	No. 605	白色レリーフ	1967
〃	No. 606	〃	〃
○ニコラ カッリーノ			
構造	11	ポリステイロール塗り、木、キャンバス	1963
構成		ポリステイロール塗り、木	1966
○アンドレラ カシエッラ			
二つの星のごとく		大理石	1965
○エンリコ カステラーニ			
表面		ニス塗り、キャンバス	1966
○マリオ チェーロリ			
時計		木	1964
イエスとノー	〃		1964
○エットレ コッラ			
田園のイメー		鉄	1952
三日間の祈り	〃		1962
○ジャンニ コロンボ			
リズムミカルな構成		ポリステイロール塗り、電気装置	1959
集中的な構成		ポリステイロール	1962
○ピエトロ コンサーグラ			
自由な話し合い		ブロンズ、ハンダ付け	1961
透視		木、珪瑯塗り(赤)	1965
つるされた平面		アルミニウム、珪瑯塗り(紫)	1967
○トニ コスタ			
視覚のダイナミズムTK		プラスチック、木	1967
○ルーチョ デル・ベッツォ			
白色の大きな台		モニター、板	1963
金色の大きな絵	〃		1964
幾何学的構成		カラー、ジュ、	1965
○ピエロ ドラーツィオ			
もつれ		油彩、キャンバス	1966
伸縮	〃		1966
○ルチアーノ ファブロ			

穴		ガラス、鉄	1963
円と四角		ガラス、金属	1964
○ターノ フェスタ			
よろい戸		木、珪瑯塗り	1962/66
ミケランジェロから No. 1		キャンバス、珪瑯塗り	1966
○ルーチョ フォンターナ			
空間概念		油彩、キャンバス(黒)	1964
〃		油彩、キャンバス(緑)	
〃		木ニス塗り、穴あきキャンバス(黒/黒)	1965
〃		木ニス塗り、穴あきキャンバス(白/白)	1966
○セルジョ ロンバルド			
スーパー絵画		木、薄板プラスチック	1966
○フランチェスコ ロ・サヴィオ			
メタル、黒オパール		鉄	1960
メタル、黒オパール		金 属	1960
結合		セメント、鉄	1962
○ビエロ マンゾーニ			
綿玉構成		綿、ノリ付け	
無色		キャンバス	1959
〃		ポリステイロール	1962/63
○エンツォ マーリ			
構成	857	木、薄板プラスチック(白、黒)	1952/67
○ジーノ マロッタ			
ボン		ポリエステル	1964
開かれた絵画		木製レリーフ、ニス塗り	1966
○アンジェロ モリコーニ			
哀れなチャーリー		油彩、キャンバス	1965
○ガストーネ ノヴェッリ			
逃げるのは無駄じゃない		併用技法、キャンバス	1959
サンカーラ		油彩、キャンバス	1961
釣り日和の海		併用技法、キャンバス	1966
○ピーノ パスカーリ			
鯨の再構成		木枠、布張り	1966
○パオロ パテッリ			
ヘクサゴン(六種競技)		アクリル製絵画、キャンバス	1967

○アキッレ ペリッリ
最後の吟遊詩人の悲歌 テンペラ、キ
ャンバス 1961

○ミケランジェロ ピストレット
集 会 IX カラージュ、ステ
ンレス 1966

○アルナルド ポモドーロ
旅人の柱 ブロンズ 1964

○ジョ ポモドーロ
大輻射構造 (穹窿建築家
への記念) ポリエステル
(黒) 1966

○レーモ レモッティ
白いデコラと立体切面 金属、デコラ 1967

〃 〃 〃

○ミムモ ロテッラ
楽しげに キャンバス、
写真モンタージュ焼付け 1965

ロージャー 紙、写真モン
タージュ焼付け 1966

○ジュセッペ サントマーソ
リズムカルな空間 油彩、キャン
バス 1966

○パスクワーレ サントーロ
遊び場 鉄板、銅片 1965
一つの幻覚 鉄片、ハンダ
付け 1965

恐怖は無知よりまし 鉄片、スレー
ト 1967

○エミーリオ スカナヴィーノ
……を待ちながら 油彩、キャン
バス 1964

充満と空虚 油彩、キャン
バス 1964

○サルヴァトーレ スカルピッタ
秘密の結婚 キャンバス 1958

○マリオ スキファーノ
近似的に 油彩、キャン
バス、プラスチック 1967

華美と抽象 珪瑯塗りキャン
バス、紙貼付け 1963

○フランチェスコ ソマイーニ
オルダリーア (神前のあかし) 鉄
1963

○タンクレーディ
ヴェネツィアについて 併用技法 1958

○ジューリオ トゥルカート
ニューヨークの思い出 油彩、キャン
バス 1964

熱っばい赤 砂、グリセリン、油彩、キ
ャンバス 1966

○エミーリオ ヴェドヴァ
組立て1964—
第2次ベルリン・タダの記
念 No. 2 併用技法、と
め金付き木 1964
/65

○11回シエル美術賞展 3—10 京
都市美術館

沢畑京桂個展 3—10 シロタ画廊

開館記念三岸好太郎展 3—12月29
北海道立美術館

出品目録

<油 彩>

花をもつ少女 (坐像) 初 期 ボール板

二 人 人 物 〃 カンバス

花をもつ少女 (立像) 〃 ボール板

横 向 少 年 〃 〃

黄八丈の男 〃 カンバス

大塚仲町風景 A 1922 〃

ラケットを持つ少年と少女と犬 1922~3 ボール板

大塚仲町風景 B 1923 カンバス

レモンをもてる少女 〃 ボール板

大塚仲町風景 C 〃 カンバス

安孫子風景 1923~4 〃

娘 像 〃 〃

腕をくむ男 〃 〃

冬 1924 〃

兄および彼の長女 〃 〃

友人肖像 〃 〃

冬の屋 1925 〃

婦人像 A 1924~5 〃

赤い肩かけの婦人像 〃 〃

裸 体 1925 〃

中国の少女 1927 〃

中国婦人群像 1927~8 ボール板

支那服の男 1927~8 油 彩

静 物 1928 カンバス

な す び 〃 〃

茶 畑 〃 〃

風 景 〃 〃

黄色の服の婦人像 〃 〃

裸 体 〃 〃

マスクせる道化A 1929 カンバス

マスクせる道化B 〃 〃

マスクせる道化C 〃 〃

横むき婦人像 〃 〃

マリオネット 1930 〃

黄 服 少 女 〃 〃

黒い服の婦人像 〃 ボール板

三 人 家 族 〃 油 彩

婦 人 像 〃 〃

読書婦人像 〃 〃

猫の顔の道化 1931 カンバス

裸 体 〃 ボール板

婦 人 像 A 〃 カンバス

〃 B 1931~2 〃

〃 C 1931~2 〃

少 年 道 化 1932 〃

悪魔 (オーケストラ裏面) 〃 〃

男 二 人 〃 〃

後向きの裸婦 〃 ボール板

裸 の 男 1932 〃

北大のボプラ並木 〃 カンバス

水盤のある風景 〃 〃

コンポジションA 〃 〃

コンポジションB 1933 〃

コンポジションC 〃 〃

コンポジションD 〃 〃

花 〃 〃

オーケストラ 〃 〃

乳 首 〃 〃

パレットのある静物 〃 〃

花 〃 〃

のんびり貝 1934 〃

<デッサン、グワッシュ、水彩、その他>

裸 婦 墨

少 女 像 コ ン テ

道 化 墨

男 〃

上 海 風 景 墨 (ペン)

裸 婦 鉛 筆

裸 婦 二 人 墨

少 女 〃

美術展覧会(9月)

コンポジション	墨	街	墨(ペン)	裸	婦	鉛	筆
裸婦	鉛	目	ク	靴下を履く少女	娘	ク	彩
人物二人	墨	パイプの男	ク	姑裸	婦	水	墨
裸婦	鉛	観葉植物	ク	雨の	日	ク	墨
オーケストラ	クレパス	海と射光	印刷・彩色	馬		ク	ク
ク	ク	龍を持つ少女	版	裸花	婦	ク	ク
ク	ク	姑娘二人	木版	座る女		墨(ペン)	
ク	ク	蛾と蝶	墨(ペン)	少	女	ク	墨
ク	ク	マリオネット	ク	裸	婦	コ	ン
ク	ク	裸婦	ク	アコーディオンと女		ク	テ
ク	ク	背面裸婦	墨	少女の顔		ク	ク
ク	ク	裸婦	ク	女の顔		水	彩
ク	コンテ	ク	鉛筆	姑女の顔		鉛	筆
男女	ク	少女	墨	女裸	の	墨	
点と線	グワッシュ	ク	グワッシュ	裸線	と女	鉛	墨
飛ぶ蝶	墨(ペン)	ク	ク	少		墨(ペン)	筆
道化	ク	パイプの男	鉛筆	裸		コンテ	筆
ク	水彩(グワッシュ)	少	墨	アトリエ・デザイン		グワッシュ	
パイプの男	ク	少	ク	少	女神化	墨	
裸女立像	墨(ペン)	道	ク	牧		墨(ペン)	筆
姑娘像	木コンテ	少	コ	道		鉛	墨(ペン)
少年像	木版	男の	墨(ペン)	ク		ク	ク
ギニョールの舞台	墨	姑女	ク	ク		ク	ク
裸婦	水彩(グワッシュ)	少	鉛筆	ク		墨(ペン)	
座る女C形像	鉛筆	女の	墨(ペン)	リボ	ン	墨・水	彩
デザイン人物	水	風裸	グワッシュ	裸		墨	ク
裸婦	ク	ク	鉛筆	ク		水	彩
ク	墨(ペン)	ク	ク	ギニョール		石	版
ク	鉛筆	マリオネット3	墨	二人人物		墨(ペン)	
ク	ク	道化の顔	ク	女の顔		グワッシュ	
ク	ク	裸	鉛筆	踊り		コンテ	
ク	ク	ク	ク	女窓		墨(ペン)	
ク	ク	ク	ク	男		鉛筆	
アトリエ顔婦想鉢物	ク	ク	ク	ぶらさがる男		ク	
魚	墨(ペン)	ク	水	女の顔		墨	
女	ク	ロバを引く姑娘	水	旅		印刷・彩色	
人物室内像	墨	二人人物	墨(ペン)	龍を持つ少女		水	彩
女影人	墨(ペン)	裸デザイン(A)	コ	蛾室内人物		印刷・彩色	
ク	パピエ・コレ	コンポジション	水	少		コンテ	
ク	ク	道化	墨	少		墨	
ク	墨(ペン)	デザイン(B)	鉛	ギニョールをする少女		墨(ペン)	
ク	水	裸	ク	オーケストラ		ク	
ク	墨(ペン)	ク	ク	窓辺の女		水	彩
ク	ク	ク	ク	ボスタ		ク	
ク	ク	ク	ク	裸		ク	

美術展覧会(9月)

岩瀬富士雄近作展 4—9 文芸春秋画廊
 8回氏家秀之進展 4—9 中公丸ビル画廊
 稲田三郎エッチング展 4—9 養清堂画廊
 小川原修個展 4—9 資生堂ギャラリー
 画廊五周年記念展 4—9 スルガ台画廊
 並木金一郎個展 4—9 昭和画廊
 三人展(土井豊、石毛壮岳、高田宏) 4—9 全線画廊
 小倉欣世個展 4—9 模画廊
 新田陽子個展 4—9 サエグサ画廊
 びしょっぶ靖子個展 4—9 大倉画廊
 佐藤亘宏個展 4—9 一方堂画廊
 寺島竜一デッサン展 4—9 みゆき画廊
 石山庄一新作ガッシュ展 4—9 あかね画廊
 九月会展 4—9 丸の内サエグサ画廊
 出水徹個展 4—9 ギャラリー新宿
 ネオ・フォルム4人展 4—9 ときわ画廊
 新世紀展 4—9 銀座ヤマト画廊
 新宮晋作品展 4—10 日比谷画廊
 小栗正個展 4—10 文芸春秋画廊
 落合久美子個展 4—10 夢土画廊
 真山豊個展 4—10 京都・画廊紅
 荒平典子個展 4—10 銀芳堂画廊
 神近昭個展 4—10 おぎくぼ画廊
 金子国義個展 4—12 青木画廊
 小島信明個展 4—23 東京画廊
 イタリア三人展(ダッシュ、アセット、ガレリー) 4—23 日本画廊
 鱗竜之助個展 5—9 丸善画廊
 小林巢居人日本画展 5—10 三越
 狩野寿一油絵展 5—10 三越
 ヒロシマ原爆展 5—10 松坂屋
 牧進日本画展 5—10 松坂屋
 山田新一近作展 5—10 高島屋
 佐藤秀夫彫刻展 5—11 秋山画廊
 デュフィ展 5—15 日動画廊

出品目録

アープの停車 油 彩 1893 場

ムールの漁師たち 油 彩 1908
 二人の人物がいる城 〃 1924
 海 〃 1925
 ニースの窓(アンジェルの散歩) 〃 1927
 ミシュルの像 〃 1933
 か り い れ 〃 1935
 ノルマンディの麦畑 〃 1938
 汽車が走る風景 〃
 バ ン ス 水 彩 1924
 海 涙 〃 1927
 マラケッシュ(モロッコ) 〃
 水 浴 〃 1927
 レ ダ 〃 〃
 小 舟 〃 1929
 城 〃 1933
 犬 〃 1934
 サント・アドレス 〃 1935
 ノルマンディ 〃 〃
 電気物語 〃 1937
 〃 〃 〃
 風景 〃 〃
 マドレーヌ寺院 〃 1945
 バ ン ス 〃 1948
 風景 〃 〃
 コンコルド広場 〃 〃
 焼絵ガラスの窓 〃 1948
 レ ス ト ラ ン 〃 1950
 花 〃 〃
 田 園 〃 〃
 丘 〃 〃
 か り い れ 〃 〃
 プロバンス風景 〃 〃
 海 〃 〃
 城 〃 〃
 裸 婦 鉛 筆 〃
 風景 〃 〃
 海 港 〃 〃
 エ プ ソ ン 〃 〃
 観 客 〃 〃
 田 園 〃 〃
 街(ベニス) 〃 〃
 船 〃 〃
 裸 婦 エッチング 〃
 マルチニクの女 〃 〃
 二人の女 〃 〃

憩 い エッチング 〃
 レ ダ 〃
 電気物語 (1) リトグラフ 〃
 〃 (2) 〃
 〃 (3) 〃
 〃 (4) 〃
 〃 (5) 〃
 〃 (6) 〃
 〃 (7) 〃
 〃 (8) 〃
 〃 (9) 〃
 〃 (10) 〃
 貝 が ら 〃
 海 〃
 豚 〃
 鳩 小 屋 〃
 つ り 〃
 ダ ン ス 〃
 愛 〃
 デュフィ展 ルイ・カレ画廊 ポスター 1953
 装丁と版画展 〃 〃
 回顧展 〃 1954
 回顧展「ニースの町」 〃 〃
 時代の証人画家展 〃 〃
 デュフィ展 トゥールーズ・ロートレック美術館 〃 1955
 フランス絵画の10年展 〃 1956
 サロン・デ・チュイルリー 〃 1957
 デュフィ展 〃 1959
 発見・プラネタリウム 〃
 植松真治個展 5—23 第七画廊
 清水晴夫・中込武彦2人展 7—12 東和画廊
 4人の版画展(オノサト・トシノブ、鰐唄、池田満寿夫、磯辺行久) 7—20 壺番館画廊
 山喜多二郎太遺作小品展 7—10月 10 東邦画廊
 異色大家秀作展 8—13 大丸
 小林草月南画展 8—13 白木屋
 ガラス彫刻・高木茂展 8—13 松屋
 グループ・あ第一回展(生田翠子、桜井順子、田中敦子、米光和子) 8—13 椿近代画廊
 二宮正憲・増谷直樹2人展 8—13

美術展覧会(9月)

椿近代画廊
ムサシノ・アート選抜展 8—13
ルナミ画廊
新制作油絵会員展 8—14 日動サ
ロン
油絵3人展(伊藤悌三、秋保正三、
佐々木孔) 8—20 小田急
秋の特別展—日本の抒情 9—11月
12 サントリー美術館
二人展(幸坂勇夫、田中隆敏) 10—
15 ヤマト画廊
岡本省吾個展 10—15 ヤマト画廊
畑勇隆個展 10—15 ヤマト画廊
高橋遊子個展 10—16 ギャラリー
磯谷
小松章三「白い夢」展 11—16 養清
堂画廊
堤史子個展 11—16 文芸春秋画廊
戸嶋靖昌個展 11—16 サエグサ画廊
3回中村貞夫個展 11—16 大阪・
梅田画廊
1回松任谷国子個展 11—16 資生
堂ギャラリー
3回山下宏個展 11—16 スルガ台
画廊
九州派女性群展(大黒愛子、長頼子、
野田紀美子、田部光子) 11—16
樺画廊
葦満展 11—16 全線画廊
相良文雄水彩個展 11—16 大倉画
廊
後藤和個展 11—16 文芸春秋画廊
鈴木武志個展 11—16 一方堂画廊
能登房之油絵展 11—16 みゆき画
廊
松原鉄之個展 11—16 あかね画廊
矢野利隆個展 11—16 ときわ画廊
新芸術協会5人展 11—16 梅花亭
ギャラリー
鎌形照夫個展 11—17 夢土画廊
辻勘之個展 11—17 京都・画廊紅
本村博之個展 11—17 銀芳堂画廊
鈴木幹夫個展 11—17 おぎくぼ画
廊
松永敏太郎油絵展 11—22 日本橋
画廊
松本光司・桜井達之2人展 11—23
昭和画廊
芝章一個展 11—23 サトウ画廊
アキル・ペリリ展 11—10月10 フ
ジ・アート・ギャラリー帝劇店

石本泰子個展 12—17 巴里画廊
三井淳生版画作品展 12—17 高島
屋
那須日都夫滞欧作品展 12—17 高
島屋
山下大五郎油絵展 12—17 三越
大内青園彫塑展 12—17 上野・松
坂屋
小野木学個展 12—18 秋山画廊
野中ユリ個展 12—23 シロタ画廊
メキシコ美術展 12—24 三越
北川民次近作展 12—24 本間美術
館
柳瀬俊雄個展 13—17 ギャラリー・
アルカンシェル
佐藤美智子個展 14—19 東和画廊
高松広道・岡田耕治2人展 14—19
ルナミ画廊
寺門晃個展 14—19 椿近代画廊
発言者展 14—19 椿近代画廊
皆川泰蔵染色美術展 15—20 大丸
坂本益夫個展 15—21 日動サロ
ン
佐々木邦彦日本画展 15—21 名古
屋・丸栄
中村直人展 15—26 西武
古九谷名品展 15—27 白木屋
墨の国展 15—27 白木屋
女子美術画廊開設記念展 15—30
女子美術画廊
3回堂本印象作品展 15—12月17
堂本美術館
浅井昭個展 16—21 村松画廊
斎藤寧個展 16—21 村松画廊
6回新協選抜展 16—21 銀座ヤマ
ト画廊
高野真美近作油絵展 16—21 紀伊
国屋画廊
高橋節子個展 16—21 村松画廊
細木茂子個展 16—21 村松画廊
倉林信江個展 16—21 村松画廊
5回丹砂会洋画展 16—22 伊勢丹
福沢一郎素描展 16—22 伊勢丹
梶山俊夫どうぶつ戯画展 17—23
ギャラリー磯谷
3人展(久萬和男、たかしまゆう、
正林真) 18—22 サエグサ画廊
2回嵐薫個展 18—23 竹川画廊
岩田藤七回顧展 18—23 資生堂ギ
ャラリー
小出旬子個展 18—23 あかね画廊
黒沢悟郎個展 18—23 中央公論画

廊
セルマ・レーマン作品展 18—23
養清堂画廊
高林和作個展 18—23 大阪・梅田
画廊
萩原敏夫・桜井正興2人展 18—23
ときわ画廊
日野耕之祐「東京百景」淡彩素描展
18—23 千代田画廊
藤田忠夫油絵個展 18—23 サエグ
サ画廊丸の内店
137 回現代版画展 18—23 わたな
べアート・サロン
西野和治個展 18—23 樺画廊
竹翠会南画展 18—23 大倉画廊
ぐる一ふもく展 18—23 いとう画
廊
神崎民生水彩展 18—23 みゆき画
廊
9人の画家展 18—23 南天子画廊
群駿会展 18—23 スルガ台画廊
杉森憲之個展 18—23 おぎくぼ画
廊
松本広司個展 18—23 昭和画廊
現代油絵新鋭展 18—23 梅花亭ギ
ャラリー
御正伸素描展 18—24 ギャラリー・
アルカンシェル
吉永正個展 18—24 銀芳堂画廊
安形恵喜助個展 18—24 銀芳堂画
廊
3人展(松田博、阿部慎蔵、杉原玲
子) 18—24 夢土画廊
3人展(オオミ・ダイゾー、吉野雅
俊、石橋行雄) 18—30 日本画廊
児島善三郎「花と壺」展 18—30 彩
壺堂
高井貞二小品展 18—30 フォルム
画廊
明器にみる中国古代のくらし 18—
'68 1月30 天理ギャラリー
10回東宝日本画展 19—24 三越
7回彩々会油絵展 19—24 高島屋
11回田村耕一作陶展 19—24 高島
屋
下村勢津子個展 19—24 一方堂画
廊
4回甲斐サチ個展 19—25 秋山画
廊
デュフィ展 19—27 大阪・日動画
廊

植月正紀個展 20—25 ルナミ画廊
堤清個展 20—25 椿近代画廊
長沢昭朗個展 20—25 銀座画廊
もーぶ展 20—25 銀座画廊
宮島資雄個展 21—26 東和画廊
丸山正夫個展 21—26 東和画廊
桶渡渭二個展 21—26 東和画廊
深沢幸雄銅版画個展 21—30 日本橋画廊
井上一郎個展 21—30 ポール・ギャラリー
重田良一個展 21—10月4 老番館画廊
小野安治油絵作品展 22—27 京王梅田画廊
粲々会彫刻展 22—27 京王
小泉元生油絵新作展 22—27 大丸
田崎昭作個展 22—27 村松画廊
竹上義治個展 22—27 村松画廊
井上成一郎個展 22—28 村松画廊
横尾靖個展 22—27 村松画廊
藤沢典明近作油絵展 22—27 松屋
坂口日出樹個展 22—27 小田急
世良臣絵滯欧作品展 22—28 日動サロン
31回新制作協会展 22—10月10 都美術館
会員出品目録
日本画
仮面会議 菊地 養之助
夜の構図 〃
出口のない空間 朝倉 摂
輪廻 上野 泰郎
北辺 I 小野 具定
〃 II 〃
オアシス 大河内 正夫
裂かれた魚 渡辺 学
霧立つ原野 黒沢 吉蔵
北辺山湖 〃
夏 堀 文子
横臥舞妓 石本 正矩
苦力 秋野 不人
来り去る時雨 山本 丘人
朝 上村 松篁
擬容 向井 久万
冰流 稗田 一穂
仲間 広田 多津
茫涯 麻田 鷹司
初月屏風 加山 又造
湖水 信太 金昌一
奥村 厚一

磯壁 沢 宏 観
蝶の階段 工藤 甲人
えぼしこくちや 西村 昭二郎
く 太田 正弘
暁海 竹山 博
幽 近藤 弘明
秋 菊池 隆志
芽 吉台 貢
飛 ぶ き 精
〃 兆 〃
樹 響 平川 敏夫
海と騎馬 毛利 武彦
夕映の池 上原 卓
油絵
四つの『夜』・1 深尾 庄介
〃 ・2 〃
〃 ・3 〃
〃 ・4 〃
四つの作品 渡辺 恂三
K先生 桑田 道夫
作 品 玉置 正敏
One day (Un-returned love)
A report of Angels 〃
THE FOUNDER '67—111 鶴見 雅夫
THE FOUNDER '67—110 〃
いくさ語り 寺戸 恒晴
熊の祭り 〃
HIPPIES AND AHA- 丸山 正三
OUS OF ALAMO SQUARE
5TH STREET, LOS ANGELS 〃
堤 西村 元三朗
環 〃
デリカテッセン 脇田 和
カシミールの織子 〃
回歸する姿 3 石阪 春生
〃 4 〃
トレド 風間 完
ポルトガル風景 〃
パリ風景 〃
ノートルダム 〃
心質図 福島 誠
心相図 〃
村 田中 修
屋 根 〃

洛 角 浩
秋 〃
祭(ドンキ・ホーテ) 〃
海 辺 岡田 正二
九月の間 〃
海辺の化石 〃
影 1 荻 太郎
〃 2 〃
なぞ問答 赤穴 宏
都会の困惑 〃
暗い火 内田 武夫
首のない裸婦 中尾 進
エレガンス 〃
核の日 〃
少女 〃
男(習作) 伊勢 正義
山湖立秋 石川 滋彦
白い椅子 小磯 良平
祭の装 鈴木 誠
黒い着物 〃
エジプトの鷹 三岸 節子
2羽の鳥 中島 節子
3羽の鳥 〃
浜 竹谷 富士雄
浜の人 〃
北野町グラッシー邸 小松 益喜
山本通風景 〃
街 大国 章夫
〃(1・2・3) 〃
飛遊(A) 合田 小三郎
〃(B) 〃
なかま 松田 稜
ぶらんこ 〃
農村にて 〃
村祭 糸田 芳雄
赤の領域 〃
四角のある風景 〃
青い風土 〃
青 瀬島 好正
正 〃
黄 〃
箱根初夏 小関 利雄
箱根初景 〃
少女の座像 関口 俊吾
パリカフェードームにて 〃
プロフィール 〃
色と形の物語 坂井 範一
赤い花 〃
黒い花 〃

美術展覧会(9月)

群鳥の景色	伊藤 忠
暮秋の村	藤田 〃
山の骨組	安保 健二
冬の漁船	〃
風景 A	加藤 金一郎
〃 B	〃
〃 C	〃
くろいきもの	鎌田 正蔵
あかいきもの	〃
みどりともどり	〃
礼光	若松 光一郎
寂光	〃
漠光	〃
帳	〃
7月の想ひ A	大住 閑子
〃 B	〃
〃 C	〃
〃 D	〃
〃 E	〃
触擁	小林 義範
図式絵巻「宴」其一	飯田 四郎
〃	〃
其二	〃
〃	〃
其三	〃
人間ドラマ A	宮脇 公実
〃 B	〃
〃 C	〃
彫刻	
鬼	久保孝雄 遺作
ジャマイカの首	〃
私の像	〃
留学生 M	〃
絶作立像	〃
貯金箱	〃
十字架 II	小坂 圭二
五輪	〃
連立の十字架	〃
切断の十字架	〃
時	〃
十字架による十字架の道行	〃
十字架 I	〃
千木と十字架	〃
対話	〃
カーヴングへの執念 A	阿部 米蔵
〃 B	〃

カーヴングへの
執念C
壁 —67
斜 の 塔
平 な 塔
銅板打出しレ
ーフ
審 判 A
転 化
審 判 I
承
作 品 67—1
影 の 像
水牛とカウボー
イ
ユ リ
男 の 像
オ フィ ス
田 地
像
ダックスフンド
剣 持 さ ん
スプリンター
遺 跡 “祭殿”
ク “内陣”
ク “圓”
裸 婦
若い女の顔
若 者
兄弟(アフリカ)
昇 る 太 陽
相 32—4
ク 32—5
フサホロホロ
クジャクバト
馬 碑
N 先生像
原 生の譜
旧作(アンリエ
ット)
裸 習 作
ま も る 人
と き
ポリモルフォ
No. 2
チャックモール
の目
タツコ (試作)
首 A
ク B
少年とトキ
握手する人
ひ な つ

阿部米藏	濱岡登美子	大國丈夫
	〃	
	〃	
城田孝一郎		
〃		
篠崎明雄		
伊藤礼太郎		
竹田京一		
〃		
加藤昭男		
岩野勇三		
〃		
西常雄		
〃		
山本恪典		
寒川二美		
〃		
伊東忠		
佐藤		
田畑一芳		
五富孝三		
〃		
山本常一		
〃		
本川明		
早郷巍一郎		
高田博厚		
〃		
芥川永郎		
村勝		
高橋清		
〃		
舟越保次		
武田勝四郎		
〃		
村土一		
谷色邦彦		

波童女立姿	一色邦彦
果神	吉田大
MASK 67U	石場清四郎
ク VI	澄川喜一
ク 67G	ク
飛遊	山中
罌	内井
処刑台	ク
LE・COUPLE	岡本庄三
の石台	田村興造
作品 N	ク
ク	ク
作品	本間紀男
アブカリプス	掛井五郎
武	菅原安男
母と子	郡司和男
建築	
生活パッケージ・シズニット	池辺陽
作品	川島甲士
29回一水会展	22—10月10 都美術
館	
13回一陽会展	22—10月10 都美術
館	
会員出品目録	
絵画	
郷愁 67—1	浅井一介
ク 67—2	ク
ジブラルタル	長谷川三千春
廃港	ク
農場への道 I	堀内千里
ク II	ク
白糸	萩原楽一
山中湖	ク
生命よバンザイ	片柳忠男
青春のよろこび	ク
車中の人々	小出泰弘
父娘	ク
コンスタンチヌスの門	国本克己
河口の街(釧路)	勝一晃
花の村	ク
色メガネと外界	北山泰斗
A	ク
ク	ク
B	ク
那智滝	米良道博
富嶽	ク
灌木に覆われた足摺岬	森 由太郎
潮騒を聞く足摺岬の丘	ク

風俗棟方寅雄	幼児と母	八重垣逸郎	秘色窯の花瓶
大寺	ヨメガサ	川田首	○初代 諏訪蘇山
裸婦	ヒザラ	〃	鳳凰の耳つきの青磁の花瓶
御所風景	彫刻		象嵌をほどこした青磁の花生
対話	四角い涙F	郷悦三	鳳凰を浮彫りにした青磁の花瓶 1919
屠場より	コスモス	加藤博二	練りあげの菓子器
収穫	偶	〃	牡丹を浮かし模様にした青磁の花入
雪中喫煙	水平線と垂直線の多い作品	金田忠	紅魚の花瓶
来島水道仲度島付近	軸と焦点	宮川和博	鳳凰の耳つきの花瓶
能島水道	P神父像	森川正之	東福寺香炉
作品A	脱ぐ女	〃	香炉
〃B	モンゴル人馬	中村輝	仏塔飾壺
SING. SING	立像	根本勲	青磁の香炉
ポンテベッキョ	供物	櫛山勝力	○板谷波山
アムステルダム	美濃窯の老陶工	植木力	朝陽色の鶴首の花瓶 1938
北海抒情(1)	小さん像	〃	椿をえがいた茶碗
〃(2)	C氏像	〃	牡丹模様の淡黄色の磁器花瓶
盛岡市県立図書館	少子女子	〃	桔梗をえがいた水指 1953
やぐらI	童	山崎猛	あじさいをえがいた水指 1959
〃II	童女	〃	かぶら形の青磁の花瓶 1940
回想	生	〃	天目茶碗
作品青の群	元元元	横沢英一	白天目の茶碗
作品赤の群	吉崎道治油絵展	23-30 伊勢丹	草花をえがいた花瓶 1921
燈台のある街	近代日本の工芸	23-10月22 京都	瑞果を彫り模様にした白磁の花瓶
新緑の山	国立近代美術館		蓮の水指
白日蝶	出品目録		窯変の磁器花瓶 1930
〃左	陶芸		○5代 清水六兵衛(六和)
東名高速道路	○初代 宮川香山		花瓶 1937
Time perspective-V	牡丹を浮かし模様にした青磁の花瓶		信楽の焼しめ平水指 1948
Time perspective-S	梅花模様の色絵の花瓶		燿星の花瓶 1935
海	蟹を浮彫りにした色絵の水鉢		バラ模様の花瓶 1929
〃A	梅花模様の染付の花瓶		橙をえがいた染付の花瓶 1922
〃B	游魚の図飾壺		紅梅の水指 1919
古壁	浪玕釉の花瓶		新雪窯の花瓶 1949
陋屋	楕円彫刻の盛器		魚鱗文の天目の茶碗 1933
火焰I	菊模様の窯変釉の大花瓶		飛びぐすりの花瓶 〃
〃II	染付の鳳凰形花入		線模様の青磁の花瓶 1937
機関車	○3代 清風与平		鼈蓋の茶碗 1939
停車場	蝶と牡丹を浮かし模様にした白磁の花瓶		金彩のわらび模様の角皿 1931
怪人(伯)	飛黒の青磁の花瓶		○北大路魯山人
〃(黄金)	雲芝を浮かし模様にした白磁の花瓶		文字をかいた染付の壺 1949
作品G・S(黄)	桜をえがいた旭彩の花瓶		緋だすきの備前の大鉢 1953
〃B・H(赤)	牡丹をえがいた瑠白磁の花瓶		まないた形の織部の盤 1949
忘却の祖国	雲竜模様の窯変天目の花瓶		筋模様の中皿 1950
夜のコーラス	花模様の染付の花瓶		鳥模様の織部の角鉢 1951
画室の憩い	そば釉の花瓶		総織部の大深鉢 1949
人台のある部屋	牡丹をえがいた壺式の花瓶		備前の大手桶 1958
公害			信楽の水盤 1956
			雲錦手の大鉢 1949

美術展覧会(9月)

雪もち笹をえがいた方形の皿	1951	千羽鶴の銀花瓶		唐草模様の銅製の花瓶	1925
双魚をえがいた銀彩の皿	1958	神馬と仕丁の片切彫りの手板	1894	○北原千鹿	
染付の扁壺		夏山水の片切彫りの手板	〃	黄銅の壺	1941
信楽の手桶		牡丹図の片切彫りの手板	〃	鶉模様の金彩の壺	昭和 初年
銀彩の鉢		鷹に鷺の片切彫りの手板	〃	双魚	1951
○富本憲吉		鹿に虎の片切彫りの手板	〃	鹿模様の金彩の壺	1939
白磁の壺	1933	環のついた和合形の銀花瓶	〃	溪流模様の誘し彫りの手篋	昭和 初年
魚と貝を染付と銅彩でえがいた大鉢	1935	○海野勝珉		蛙観音	1934
白磁の角瓶	1962	還城楽の図の額	1893	甲冑の置物	
金銀でいろどった羊歯模様の小篋	1960	松と雲芝図の花瓶		竹に水禽模様の水指	
金銀でいろどった四弁花模様の八角飾篋	1958	柳と馬の図の巻煙草入	明治 末期	水瓶「霜」	1925
金銀の色絵と染付の飾大皿	1959	波に鶴の図の手板		芽生模様の金彩の銀壺	
羊歯模様を金でいろどった飾壺	1961	秋草図の手板		壁飾蛙	
金銀でいろどった菱形の四弁花模様の飾壺	〃	布袋図の手板		銀の皿	
金銀でいろどった四弁花模様の飾篋	〃	蘭陵王の置物		朝霧	
芦模様に詩句をかけた飾皿	〃	おぼろ銀製の盆		漆工	
あざみ模様の染付の文篋		○香取秀真		○柴田是真	
あざみ模様の色絵の角鉢	1938	獅子のつまみと耳のついた香炉		蓮に鴨の図をあらわした蒔絵の額	
赤更紗模様の六角の飾篋	1941	瑞獸模様の花瓶		桃果図の蒔絵の煙草入	
金銀でいろどった羊歯模様の角飾篋	1960	鳳凰形の香炉		鳥と鷺の図の蒔絵の菓子器	
色絵けし図の陶板	1941	銅印		露に小鳥の図の蒔絵の額	
○河井寛次郎		群がる鶴模様の亀甲釜		鶉と籠の蒔絵の文箱	
草花をえがいた鉢	1943	みみづくの香炉	1948	画帖	
青磁の花瓶	1922	深口釜	昭和 初年	○川之辺一朝	
三彩の喰籠	1923	瑞鳥模様の八稜鏡形の喰籠	〃	藤と牡丹図の蒔絵の手篋	
いろどった茶碗	1965	風炉釜一式		石山寺図の蒔絵の文台と硯箱	
〃	〃	獅子のつまみのついた唐草模様の香炉		鳩図の蒔絵の丸額	
草花をえがいた蓋もの	昭和 初期	○津田信夫		懷石具	
丸紋をえがいた呉須の篋	1938	鷹の置物		○白山松哉	
呉須と辰砂で笹をえがいた鉢	1931	白熊の置物		梅模様の蒔絵の硯箱	
青磁の花瓶	c. 1921	北辺夜猫子	1941	鳥模様の螺鈿の菓子器	
草花図の壺	1935	鬱憂の婦人	1900	なつめ「稲」	
花模様の菱形の扁壺	1939	銅製の軍鶏の置物		○六角紫水	
草模様の辰砂の扁壺	1936	夕暗	1927	アルマイトの刀筆の額盆	
刷毛目の辰砂の扁壺	1937	孔雀		岩に鶴鴿図の額	1904
笹と喜の字をえがいた鉄ぐすりの鉢	1935	黄初平像		芦刈図の刀筆の硯箱	1949
陶板「不美不在」	1955	○清水南山		銀平文の不動尊像軸盆	1943
花と手をえがいた陶板	1951	獅子模様の小篋	1928	○赤塚自得	
陶彫「桃手」	1965	獅子図の衝立	1939	竹林図の蒔絵の硯箱と文台	1923
辰砂の扁壺	1966	梅花図の鍍金の印櫃	1929	硯箱「舞鶴」	昭和 初年
緑釉の扁壺	〃	赤童子図の硯箱	1931	桜花模様の香篋	大正 時代
金工		腕相撲の図の硯屏	1936	唐草模様の香炉の台	〃
○加納夏雄		獅子図の額	1944	○植松包美	
月に雁の図の額	1893	○佐々木象堂		金蒔絵の硯箱	
群がる鷺の図の額		蠟型銅製の香炉「蕾」	1961	みだれ箱「千歳」	〃
		蠟型銅製の置物「瑞鳥」	1957	梅図の蒔絵硯箱	〃
		〃「采花」	1959	四季草花模様の銘々盆	
		〃「三禽」	1960		

○磯井如真
 蒔醬の竜と鳳凰模様の八角香盆 1955
 蒔醬の草花模様の八角喰籠
 蒔醬の竜模様の香盆
 蒔醬の香盆
 蒔醬の喰籠
 蒔醬の梅花模様の香盆
 蒔醬のアカシヤの図の筆筥
 蒔醬の洋菊の香盆
 蒔醬の竹林図の飾棚

染 織
 ○初代 野口彦兵衛
 江戸小紋づくし
 友禪模様づくし
 友禪模様十二カ月
 友禪 けしと野菊
 ○2代 川島甚兵衛
 試験 織 裂
 裂地 変り 紋
 〃 牡丹と鳥
 〃 浪花津
 唐錦 百花
 裂地 節 句
 〃 松と 蔦
 〃 遠 山
 〃 トルコ文
 〃 群 孔雀
 〃 桐 鳳
 〃 立 樹
 〃 鉾 杉
 〃 トルコ文
 〃 鶏 頭
 ○3代 川島甚兵衛
 綴織 春效鷹狩 秋庭観楓 1923
 ○初代 竜村平蔵
 天地逆旅の図壁掛
 試験 織 断片
 ○広川松五郎
 露草図の小屏風
 壁 掛
 野草の図の風炉先屏風
 花の図の草染めの衝立
 菜 果 図
 文武模様の壁掛
 ○小合友之助
 上 雲 1963
 樹 1960
 雨
 滝
 峠

風 景
 〃
 ○稻垣次郎
 型染 青楓の図の屏風 1950
 型染の壁掛 東寺の縁日 1952
 紙地型染 ねずみ草紙 1956
 もめん地に野草・笹・正田模
 様を型染めした着物 1955
 着 物「風」 1953
 着 物「竹林」 1958
 野草飛模様の着物 1961
 もみじ模様の着物 〃
 野草模様の着物 1958
 松と流水図の着物 1956
 平家物語図屏風 1959
 竹取物語図壁掛 1962

竹 工
 ○飯塚琅玕斎
 家 づ と 花 籃
 花籃「あんこう」
 〃 「久寿玉」
 〃 「織姫」
 〃 「万歳」
 〃 「蓬萊」
 〃 「富貴」
 〃 「寿」
 平竹の掛花生
 白竹の平炭斗
 七 宝
 ○並河靖之
 花蝶模様の七宝の花版
 菊花模様の七宝の花版
 楼閣山水図の七宝の香炉
 四季花鳥模様の七宝の花版
 ○濤川惣助
 七宝の富嶽図の額
 小 鳥 図 の 盆
 徳川期の画家たち展(九州篇) 23—
 10月22 神奈川県立近代美術館
 1 回インド・トリエンナーレ国際美
 術展国内展示会(菅井汲、田渕安
 一、元永定正、渡辺恂三、桑山忠
 明、木村賢太郎、江口週、若林
 奮) 24—26 セントラル美術館
 奥山修子個展 24—30 梅花亭ギ
 ラリー
 桜田精一個展 25—30 資生堂ギ
 ラリー
 彼末宏油絵個展 25—30 サエグサ
 画廊
 網干啓四郎展 25—30 ときわ画廊

福地靖銅版画展 25—30 養清堂ギ
 ャラリー
 内山昌子油絵展 25—30 兜屋画廊
 石川美奈子・三輪春樹二人展 25—
 30 一方堂画廊
 吉永邦治個展 25—30 大阪・中宮
 画廊
 鈴木俊行個展 25—30 樺画廊
 佐藤章個展 25—30 大倉画廊
 森慶文個展 25—30 文芸春秋画廊
 織田雅嗣油絵展 25—30 みゆき画
 廊
 新構造会員小品展 25—30 あかね
 画廊
 渡辺章人個展 25—30 昭和画廊
 斎藤満智子個展 25—30 スルガ台
 画廊
 日野謙夫個展 25—10月1 文芸春
 秋画廊
 3 回鈴蘭会油絵展 25—10月1 ギ
 ャルリ・アルカンシェル
 大熊徳衛個展 25—10月1 銀芳堂
 画廊
 原恵子淡彩画展 25—10月1 銀芳
 堂画廊
 瀬高政良個展 25—10月1 夢土画
 廊
 楽山正幸個展 25—10月1 おぎく
 ぼ画廊
 達川英二個展 25—10月1 シロタ
 画廊
 金枝会 25—10月5 アオイ画廊
 戸島甲喜個展 25—10月7 画廊ク
 リスタル
 大島清個展 25—10月7 サトウ画
 廊
 19人のシュールレアリスト展(エン
 リコ・バイ、ハンス・ベルメー
 ル、ビクター・ブローネル、サ
 ルバドール・ダリ、ポール・デル
 ボー、マックス・エルンスト、ウ
 イフレッド・ラム、フェリックス
 ・ラビス、ルネ・マグリット、マ
 ン・レイ、アンドレ・マッソン、
 ロベルト・マッタ、ジョアン・ミ
 ロ、岡本太郎、フランシス・ピカ
 ビア、クルト・シュヴィタース、
 マックス・ワルター・スワンベル
 グ、イヴ・タンギー、ヴォルス)
 25—10月14 東京画廊
 木村賢太郎彫刻個展 25—10月24

美術展覧会(9月)

ギャラリー・キューブ

相場秀夫個展 26—10月1 椿近代
画廊

加藤三男個展 26—10月1 ルナミ
画廊

里見勝藏近作油絵展 26—10月1
三越

3回新秋会版画展 26—10月1 高
島屋

八見会展 26—10月1 銀座・松坂
屋

チベット秘宝展 26—10月1 上野
・松坂屋

彫刻3人展(郡山鉄郎、住谷正巳、
木下宏) 26—10月2 秋山画廊

14回日本伝統工芸展 26—10月8
三越

出品目録

陶芸

灰釉大鉢 鉢 浅井茂幸
草文角皿 鉢 浅野野陽
灰釉鉢 鉢 東野憲
鉄絵壺 鉢 石黒宗磨
〃 鉢 〃 〃
備前緋襷壺 伊勢崎満
緑地鹿図皿 今泉今右衛門
色鍋島笹文鉢 今泉善詔
塩釉柳文壺 岩淵重哉
練上手角組皿 上田恒次
信楽茶碗 上田紘一
吹墨色絵螺文皿 江崎一生
灰釉鉢 鉢 岡野法世
灰釉銅羅鉢 鉢 奥川忠右衛門
白磁輪花鉢 鉢 加藤賢司
抜絵天目壺 鉢 加藤春鼎
鉄釉鉢 鉢 加藤道明
備前七角大鉢 鉢 川瀬満之
青白磁鉢 鉢 木村盛伸
油滴天目釉壺 鉢 木村盛伸
櫛目灰釉壺 鉢 熊谷紅陽
上野茶入 鉢 近藤潤三
灰釉鉢 鉢 近藤悠三
蒔染付壺 鉢 近藤豊
墨流し果物セッ
ト
濁手草花文蓋物 酒井田祐右衛門
萩焼茶碗 坂倉新兵衛
井戸茶碗 坂高麗左衛門
油滴天目蓋物 佐々木正
瑠璃大鉢 篠田義一
青瓷盤 清水卯一

青瓷壺 青 末松喜一
白磁壺 末松喜一
志野大皿 鈴木蔵
鉄釉鉢 〃
鉄絵黍之図角皿 鈴木清夫
織部壺 玉置保夫
〃 鉢 〃
鉄釉野草文大皿 田村耕一
鉄釉花器 〃
青白磁大皿 塚本快示
黄唐津叩き壺 中里太郎右衛門
掛合釉面取方瓶 浜田庄司
灰釉白打茶碗 〃
灰釉壺 林孝太郎
斑唐津鉢 平野トシ子
赤絵花壺 藤本能道
備前窯変花入 藤原啓健
備前緋襷鉢 藤原健吉
鉄釉線文壺 牧勇吉
備前壺 松井与之
備前壺 松田華山
灰釉皿 水野英夫
白萩茶碗 三輪休雪
紅萩茶碗 〃
色絵捻文鉢 宮川哲治
備前鉢 山本秀一
〃 鉢 山本雄隆
赤絵草花文扁壺 吉田隆
染織
織成袋帯「雲海」 赤松存
袖地訪問着「群芳」 荒井照太郎
型糊染「樹陰模様」 伊砂久二雄
蒔繪着物「待月」 伊藤優二
着物「五彩の韻」 上野清夫
〃「真」 上野忠夫
型染組紐模様袖 大矢季世
着物
変り地絞り染訪 小倉建亮
問着「古城」 尾崎良三
訪問着「残雪」 〃
着尺「阿寒辺境」 〃
龍型茅原小花文 鎌倉芳太郎
長着「秋」 川島信房
九重帯 河上峰仙
訪問着「この君」 〃
〃「梨地浜」 〃
帯「幻影」 北村武資
唐組帯「袖道」 木下和子
訪問着「蘭」 木原生長
変織縮緬着物 木村雨山
「ばらの花」

清水卯一
末松喜一
鈴木蔵
〃
鈴木清夫
玉置保夫
〃
田村耕一
〃
塚本快示
中里太郎右衛門
浜田庄司
〃
林孝太郎
平野トシ子
藤本能道
藤原啓健
藤原健吉
松井与之
松田華山
水野英夫
三輪休雪
〃
宮川哲治
山本秀一
山本雄隆
赤松存
荒井照太郎
伊砂久二雄
伊藤優二
上野清夫
上野忠夫
大矢季世
小倉建亮
尾崎良三
〃
鎌倉芳太郎
川島信房
河上峰仙
北村武資
木下和子
木原生長
木村雨山

精好仙台平
「永祥」
〃「正元」
佐賀錦平合財
江戸小紋「蔦」
〃「四ッ目」
木版染着物「響」
着物「清韻」
長板染着物
「蜀光竜紋様」
袖織着物「露」
組織着物
「藍量し」
訪問着「春の潮」
越後上布
「亀甲文」
型絵染着物
「山芹紋」
〃「草文」
〃「笠間風物」
訪問着「潮騒」
〃「かがよひ」
〃「北国」
草木染「蓬菜」
〃「紫の扉」
訪問着「菊綴」
縹緋染三彩帯
精華織小紋角丸
通し
高麗組帯
「瑞雲」
刺繍訪問着
「雅楽」
一越縮緬黒留袖
「七宝に鱗文」
重ね帯「涼」
佐賀錦帯「秋」
長板中形
「四ッ目菱」
藍型染着物
「群翔」
斜織帯
「斑鳩の曙」
袖格子着物
訪問着「早春」
〃「錦越」
〃「光」
伊予簾手金襴
一房花文
訪問着「和」
越後上布友禪着
物「柳」
袖着物「黄昏」
訪問着「潤」
八寸名古屋帯
「花障」

甲田栄佑
古賀フミ
小宮康孝
〃
小山哲男
品川恭子
清水幸太郎
志村ふくみ
〃
末田泰子
鈴木亨紡庵
鈴木照次
関口信男
高村柳治
田島比呂子
田中種水
出口直美
〃
寺谷巖
徳岡絹栄
中儀延
中内祥雄
中島政子
中村勝馬
細見華岳
松野汀留子
松原利男
松原与七
宮島勇
宗広力三
森口華弘
〃
森口邦彦
森村百兔
山科春宣
山田貢
〃
吉田弘
鷲猪越三五郎

紬着物「星空」

漆芸

杵造朱溜金彩重
草花文キンマ箱
乾漆キンマ草文
水指
彩漆キンマ文筥
炎文菓子器
キンマ墨流文香
盆
沈金梅飾箱
キンマ色紙箱
乾漆梅花盆
蒔絵箱
キンマ茶入
木地キンマ喰籠
平文小簞筒
彫漆玉瓜香盒
蒔絵盆
彫漆手箱
乾漆輪花重喰籠
乾漆菊形高棗
乾漆水指
「こうほね」
彫漆蝸牛文茶器
堆漆角皿
彫漆水指
堆漆砵形茶器
鉢
乾漆キンマ草花
文箱
平文寶石箱
赤漆四稜蓋物
蒔絵盛器
乾漆蒔絵盤
籃胎キンマ香盆
乾漆鉢
乾漆盛器
蒔蒔盆
漆皮飾箱
キンマ線文茶箱
乾漆木瓜型盆
華文茶入鉢
方華平鉢
鎌倉彫菓子器
乾漆芙蓉盛器
蒔絵水辺文盤
草花文小筥
蒔絵檜文飾箱
挽目水紋盛器
描きキンマ
竹林文卓
草花文平棗

渡辺彰子
赤地友哉
浅田真水
新井房司
伊賀彰三
伊志良博
磯井正美
板谷光治
植田秀子
植田翠鳳
江端俊亨
太田加津子
太田場松魚
岡部敬象
小川祥二
小川忠泉
〃
音丸耕堂
〃
音丸淳
〃
音丸寛
小野次雄
川窪和一
北村謙秋
黒田辰芳
小佐々木英
佐々木文夫
塩多慶四郎
〃
白川喜策
新高撰吉
高橋静道
高橋康子
高田信光
田所哉雄
田中敏太郎
出坂作太郎
寺井直次
磯長宗齊
難波秀嶺
仁齋

乾漆切抜絵飾箱
乾漆溜キンマ箱
乾漆籃胎盛器
乾漆盛器
朱溜塗六角鉢
青海波盆
片切沈金鶴文箱
〃花文箱
沈金みづひき草
文小箱
菱華文八角筥
乾漆喰籠
沈金「緑の山」
盛器
竹文朱漆椀
張貫玉虫中次
華文盆
六角華文乾漆茶
入
「水畔花」蒔絵箱
白桔梗文盛器

金工

銀象嵌面取鑄銅
花瓶
鍛鉄「鶉」置物
鑄銅花瓶「蕾」
真形四方釜
砂張銀梨地水指
砂張一輪花入
首飾「猷香童子」
笹舟釜
龍銀流水文水滴
「亀」金具
銅水注
黄銅龍銀吹分花
瓶
布目象嵌鑄銅花
器
「西瓜」金具
四方形銀瓶
砂鉄肩衝釜
鑄銅流金文壺
鑄銅魚耳花筒
銀線花形香炉
彫金小箱
「筥」金具
奎目銅壺
彫金打出親子蛙
銀の花器
箱
はぎ合せ皿
はぎ合せ花瓶

根本曠子
野田霞堂
蓬井霞外
比古田宏
尾留川観
福田静
藤井井
前大
増田昌
増村益
松井芳
松田樞
村瀬玄
むろせ春
山下楊
山田夜
六角大
有栖美
井尾敏
池田逸
伊藤鎌
魚住安
魚住幸
大谷春
角谷一
鹿島盛
桂取正
香〃
金森栄
鴨下春
河内光
菊地幸
北村一
木村朗
高坂雄
後藤水
下田学
進藤聖
介川比
鈴芳古
須木秀
関戸幸
谷四郎

「ほろほろ鳥」金
具
鑄銅花瓶「三和」
樹枝図飾箱
茶壺
鑄銅花瓶
銀龜甲花瓶
銀流線文筥
金彩銅小壺
鶉菊茶器
青銅線文花瓶
蘭菊文四方盆
鉄爛鍋
杼鉢付撫肩釜
青銅花瓶
銀象嵌鉄鳴文箱
金彩銀水鷄文壺
鶴首錫花入
鑄銅菱文花瓶
方円釜
長芋形鉄火箸
鍛金群舞文花瓶
青銅花瓶
「延びる」
鑄銅線文壺

木竹工

漆緑金彩八角盆
煤竹組茶籠
神代樺造り小棚
千筋盛器
拭漆樺盛器
拭漆文欄木硯筥
花林造盆
桜皮細工
「抹茶入」
みぞれ茶入
樺皮角形網代茶
入
あらら木木瓜形
小筥
鉄刀木八角盆
潮音盛器
麻ノ葉八角茶入
拭漆桑盛器
一位木文机
盛器「清風」
唐松砂磨短冊箱
桑造八稜之盒
木象嵌飾箱
樺拭漆香盆
古竹花籃
花籃「秋風」

高島春芳
高野良市
高橋たけし
田上川雲
立田中善二
内藤光輝
〃
長島正義
中村美一
二橋美衡
根来実三
昌春齋
堀田如真
増三男
〃
松喜山
八望舟
山口壽雄
米弘安
米沢呆人
米田博俊
渡辺正
池田巖
池田飄阿
加藤芳山
川北良造
黒田乾吉
資田辰秋
小崎清人
小柳金太郎
斎藤吉郎
佐藤省洲
佐藤豊樵
篠原如雪
篠原傑
〃
須田桑月
〃
柏木白雲
氷見晃齋
〃
前田康夫
水上莊詠
八木沢蒼珣
柳下昌珣

美術展覧会(9・10月)

盛人形	横田峰	青	三枝子
惜別	青山	信子	
桐壺漆彩「消雲」	秋山	信子	
桐壺紙布貼「恩婦」	明地	春海	
桐壺紙貼「朝焼」	雨宮	英子	
桐壺紙布貼「蒲公英」	市橋	とし子	
おとうと	黒川	和江	
木心桐壺彩色「講中」	桑折	秀子	
木彫布貼「南国」	小松	康城	
桐壺紙布貼「りんご園の午後」	佐藤	よし子	
木彫胡粉彩色「瑞鳥」	芹川	英子	
乾漆「荒事」	谷岡	芳枝	
桐壺紙貼「ふたごの星」	橋本	公恵	
張子人形「樹下」	平中	歳子	
木目込「千木宮」	堀柳	女	
木彫彩色「草の宿」	野口	園生	
御所人形「太陽の子」	野口	光彦	
その他			
風字硯	雨宮	静軒	
硝子茶碗「うばたま」	岩田	藤七	
硝子水指「花扇」	斎田	梅亭	
截金波頭文飾篭	斎田	梅亭	
截金茶入菱かさね十字文	斎田	梅亭	
めのう鉢「茜」	宅間	正一	
截金彩色香の匣「みくまの」	西出	大三	
七宝花瓶	早川	義一	
硯	山川	佳山	
七宝菓子皿	山村	遙子	
浸蝕硝子渦文花瓶	山本	曠	
象牙染付撥鏤かんざし	吉田	文之	
20回私の推薦美術展 26—10月10			
本間美術館			
早川重章個展 26—10月14 第七画廊			
立秀会展 28—10月3 東和画廊			
成田良行個展 28—10月3 村松画廊			
藤本豊久個展 28—10月3 村松画廊			
林正人個展 28—10月3 村松画廊			
SAI展 28—10月3 村松画廊			

羽山登個展 28—10月4 紀伊国屋画廊			
朔日会同人展 29—10月4 松屋			
小品彫刻展 29—10月4 京王梅田画廊			
フランス・チャンセラーミニアチュール展 29—10月4 松屋			
春日部洋個展 29—10月5 日動サロン			
岡本太郎展 30—10月2 横浜市民ギャラリー			
今井善一郎新作展 30—10月5 巴里画廊			
桑端久子個展 30—10月5 竹川画廊			

10 月

丹桂会日本西洋画大家展 1—8			
伊勢丹			
プリミティブ美術展 1—10 西村画廊			
19回具体美術展 1—14 セントラル美術館			
近代洋画名品展 1—18 名古屋・名鉄百貨店			
出品目録			
百万塔と鯉袖 高橋 由一 1877頃			
鰯 梅花 〃 1877頃			
少女像 川村 清雄 明治初年			
I氏少年時代の像 五姓田義松 1882			
春 畝 浅井 忠 1889			
グレー風景 〃 1901			
農家室内(水彩) 〃 1887			
イタリアの兵士 松岡 寿 1886			
裏庭 原田直次郎 1886			
老人 原 撫松 1906			
牝牛 黒田 清輝 1991—2			
雪(平河町にて) 〃 1923			
台湾の舞妓 藤島 武二 1935			
黒潮 〃 1931			
少女像 岡田三郎助 1934			
伊豆山風景 〃 1935			
風景 満谷国四郎 1919			
蠟燭をもつ自画像 熊谷 守一 1909			
雨の日のセヌ河畔 山下新太郎 1908			

わだつみいろこの宮(下絵)	青木 繁 1907
牛	坂本繁二郎 1915
馬(壁画下絵)	〃 1943
鬼	有島 生鳥 1914
初恋	竹久 夢二
日傘の裸婦	万 鉄五郎 1913
筆立のある静物	〃 1916
私の夢	藤田 嗣治 1945
七面鳥	横井 礼以 1940
自画像	中村 彝
老母像	〃 1924
毛糸の束	小出 楠重 1926
フランス人形(ガラス絵)	〃 1929
承德喇嘛廟	安井曾太郎 1938
紫禁城	梅原竜三郎 1942
田端変電所	長谷川利行 1926
麗子五歳の像	岸田 劉生 1918
蕪図	〃 1925
ムゼオの一隅	須田国太郎 1932
牛のいる風景	国吉 康雄 1924
立てるソニア	児島善三郎 1926
静物	中川 一政 1921
大地	北川 民次 1939
サーカス	古賀 春江 1933
女	里見 勝蔵 1936
プチ・ジャン	高畠達四郎 1928
自画像	村山 槐多 1914—5
赤帽の少女	前田 寛治 1928
映画館	清水 登之 1925
踊子	林 武 1935
カフェ・テラス	佐伯 祐三 1927
町はずれの寺	〃 1928
よき料理人	福沢 一郎 1930
滞船	岡 鹿之助 1927
白いブラウス	伊藤 廉 1928
姉弟	関根 正二 1918
浴後	鬼頭鍋三郎 1940
空港	北脇 昇 1937
フレンチ・カンカン	野口弥太郎 1932
風景	荻須 高德
海と射光	三岸好太郎 1934
北海道風景	鳥海 青児 1946
芸	海老原喜之助 1935
蝶の軌跡	長谷川三郎 1937
鳥	鱈 光 1940
古ローマの旅	山口 薫 1937
都会	野田 英夫 1934
立てる像	松本 竣介 1942

ジャック・ピュッス展 1—21 ギ
ャラリー磯谷

2回現代日本彫刻展 1—11月5
宇部市野外彫刻美術館

出品目録

MU—S81 ブロンズ吾妻兼治郎
存 在 真 鎰 飯田善国
番 人 ポリエス
テル・う五十嵐芳三
るし・金
組 曲 アルミ 石井厚生
霞 ケ 浦 樹 脂 一色邦彦
負の球L—1 アクリル 伊藤隆康
わ く アルミ・
アクリル 井上武吉
シャドウ・ス
トラクチャー プラスチ
ック 今井祝雄
天気予報 鉄 梅本アキラ
空間への二つ
の弧 木 江口 週
ヤコブの梯子 真 鎰 尾川 宏
上方の翼 ステンレ
ス 小田 襄
時満てるマリ
ヤ ブロンズ 掛井五郎
腕をくむ女 プラスチ
ック 菊池一雄
風の祭典 ステンレ
ス 岸田克二
カラスとトー
テム 鉄 河野道生
碑(いしぶみ) 白色セメ
ント・コン
クリー
ト 昆野 恒
KANA プラスチ
ック(他) 栄 利秋
緑色の空間 ガラス・
ステンレ
スサッシ
ユ 阪本正治
単子の風笛 鉄 塩見哲郎
あるポーズ6 プラスチ
ック 桜井祐一
星の計算機 木・鉄 新宮 晋
碧 67 石 菅原二郎
MASK 67u 樟 澄川喜一
像 石 高木辰夫
ポリモルホ
No.1 ブロンズ 高橋 清
しるし—IV 石 滝 徹
チラチラの命 鉄 竹田光幸
ORGAN—
BOX アルミニ
ウム 建昌覚造
Constitute
of white 鉄 田中栄作
Heart のモビ
ール ステンレ
ス・アル
ミニウム 田中信太郎

オレンジ・ブ
ルー 鉄・ポリ
エステル 寺尾悦示
作品 66—7 石 土谷 武
和(核と分子) ク 富樫 一
作品三十番 ク 成田武羅

Foot—Light
'67 ポリエス
テル・ア
クリル・
ガラス・
ベニヤ 野村久之

凹の記録 石 野水 信
GOCCO 32 木 橋本典子
作品 66—G 鉄 林 利根
他 鎮 金 属 広井 力

Pink Balloon ポリエス
テル 福岡道雄

The rose 木・プラ
スチック 福島敬恭

揺 車 ポリエス
テル 藤本美弘

水に濡れた台
の上の影 乾 漆 堀 義雄

EAR 鉄・プラ
スチック 三木富雄

LIGHTS IN
BRASS
REEDS
302—1 ガラス 宮脇愛子

タラップ
(いろは……) 金属ほか 村岡三郎

ミュートはひ
とつ ポリエス
テル 村松達也

無 題 鉄 モクボ明

イエフキャ
No. 67 木 森本紀久子

まのい—4 木 柳 新也
高 原 石 山本正道

作 品 鉄・クロ
ームメッ
キ 湯原和夫

Just Curve
'67 プラスチ
ック・ス
テンレス
ほか ヨシダ
ミノル

聖マントヒヒ
中の犬 ブロンズ 淀井敏夫

えくぼのある
正六面体 鉄 若林 奮
ブロンズ 堀内正和

木下幹一個展 2—7 昭和画廊

尾田竜個展 2—7 中村画廊

赤岩賢三個展 2—7 養清堂画廊

阿井次郎個展 2—7 ルナミ画廊

沢村美佐子個展 2—7 資生堂ギ
ャラリー

7回白鳳会 2—7 ハクホウ画廊

黒田秀方油絵新作品展 2—7 一方
堂画廊

斎藤真成展 2—7 大阪・梅田画

廊

北条聰個展 2—7 樺画廊

遠藤昭吾個展 2—7 全線画廊

野町祥太郎個展 2—7 サエグサ
画廊

沢野岩太郎個展 2—7 大倉画廊

飯田三吾遺作展 2—7 みゆき画
廊

徳山義個展 2—7 ときわ画廊

グループ「ごいす」展 2—7 椿
近代画廊

林道夫個展 2—7 ギャラリー新
宿

高須芝山個展 2—7 中央公論丸
ビル画廊

具象6人展 2—7 サエグサ画廊
丸ビル店

青の会展 2—7 あかね画廊

蒼究会展 2—7 梅花亭ギャラリ
ー

田中三省・堀田信雄2人展 2—7
美松書房画廊

石森順子・本田亘子2人展 2—8
シロタ画廊

滝とも子個展 2—8 文芸春秋画
廊

11回知求会展 2—8 文芸春秋画
廊

長与善郎遺作展 2—8 精美堂画
廊

佐野正雄個展 2—8 銀芳堂画廊

武田せつ子個展 2—8 銀芳堂画
廊

桜井文比古個展 2—8 夢土画廊

佐伯義郎油絵個展 2—8 スルガ
台画廊

画廊企画版画展 2—8 おぎくぼ
画廊

二紀会清秋展 2—11 ギャラリー・
アルカンシェル

岩間正男個展 2—13 ムサシ画廊

1回美術環展(原精一、今関一馬、
今井善一郎、菊地精二、増田誠、
長岡忠三郎、中間冊夫、大野五郎、
里見勝蔵、武田範芳、鳥居敏文、
寺田政明、吉井忠) 2—14 日本
画廊

村上善男展 2—14 南天子画廊

野中ユリ版画展 2—21 美術出版
社ロビー

新作油絵展 2—28 新橋画廊

美術展覧会(10月)

三虹会油絵展 3—8 三越
 炎展 3—8 銀座・松坂屋
 飯野江個展 3—8 石田画廊
 おおぞら展 3—8 下村画廊
 加藤一画展 3—9 秋山画廊
 尾川宏紙のフォルム展 3—17 現代彫刻センター
 閑雅会展 4—9 銀座ヤマト画廊
 今村信夫個展 4—9 村松画廊
 秋葉年男個展 4—9 村松画廊
 加藤道治個展 4—9 村松画廊
 川月良夫個展 4—9 村松画廊
 小林邦二個展 4—12 京橋画廊
 島内きみ個展 4—14 日本橋画廊
 玄展 5—10 東和画廊
 渡辺明節個展 5—11 壱番館画廊
 松木重雄新作油絵展 5—14 兜屋画廊
 青木木米名品展 5—22 大和文華館
 金子茅代個展 6—10 紀伊国屋画廊
 伊谷賢蔵自選展 6—11 京王梅田画廊
 版画2人展 6—11 京王
 永原織治日本画展 6—11 小田急
 吉岡堅二トルコ素描展 6—11 松屋
 渡辺文平新作日本画展 6—11 大丸
 小野寺英吾個展 6—11 巴里画廊
 石井弥一郎個展 7—12 丸善画廊
 山水花鳥画展 7—25 根津美術館
 伊庭伝治郎遺作展 8—12 京都府ギャラリー
 日下部浜江個展 8—13 椿近代画廊
 3回渡辺武個展 8—13 ルナミ画廊
 15回染彩画展 8—13 銀座画廊
 田中正憲個展 8—13 椿近代画廊
 上条静光日本百景展 8—14 造形ギャラリー
 伊藤善近作展 9—14 資生堂ギャラリー
 9回宮崎喜三画展 9—14 サエグサ画廊
 長南要展 9—14 中央公論画廊
 内間安理新作版画展 9—14 養清堂画廊
 橋本陽子個展 9—14 大倉画廊

4回流木会展 9—14 美松書房画廊
 渡辺玉花作品展 9—14 全線画廊
 斎藤正治個展 9—14 大阪・梅田画廊
 野上祗磨個展 9—14 樺画廊
 猪浦良子個展 9—14 文芸春秋画廊
 芝田耕個展 9—14 みゆき画廊
 濁川迪孝個展 9—14 あかね画廊
 前林章司水彩画展 9—14 昭和画廊
 3人展(朝岡、鈴木、吉羽) 9—14 ときわ画廊
 千田高詩個展 9—14 ギャラリー新宿
 島田鮎子油絵個展 9—14 スルガ台画廊
 山本圭吾展 9—15 京都・画廊紅
 ろくにん展 9—15 銀芳堂画廊
 サイト亭個展 9—15 文芸春秋画廊
 鈴木伸武個展 9—15 シロタ画廊
 青柳三郎個展 9—15 おぎくぼ画廊
 青木洋個展 9—21 サトウ画廊
 千葉勝個展 9—21 いとう画廊
 加藤清志個展 10—15 村松画廊
 1回滝田依子個展 10—15 下村画廊
 津田青楓日本画展 10—15 三越
 森清次郎油絵展 10—15 三越
 14回稲星会 10—15 高島屋
 興人会日本画展 10—15 松坂屋
 ブシュケ展 10—15 銀座ヤマト画廊
 グループ起展 10—15 村松画廊
 今井美恵子個展 10—15 村松画廊
 板津邦夫木彫展 10—16 秋山画廊
 日動展 10—18 日動画廊
 田中繁一画展 10—21 村松画廊
 大ネルソン展 10—22 三越
 金山康喜遺作展 11—25 彩畫堂
 小松章三版画作品展 11—11月10 風月堂
 6回宇都宮備個展 12—15 西村画廊
 加藤吉正個展 12—17 東和画廊
 2人展(山根正子、浦上糸子) 12—17 巴里画廊

後藤歌子個展 12—18 紀伊国屋画廊
 住吉武川子個展 12—18 壱番館画廊
 35回独立展 12—30 都美術館

会員出品目録

コンポジション	江川平三
鱸とたらひ	故小出三郎
人	〃
リズム A	大内のぶ子
リズム B	〃
楽園	岡村芳男
八大風景	〃
白いカスベ	高森明
魚	〃
アムステルダム A	西田藤次郎
アムステルダム B	〃
夜道を行く	妹尾正彦
華麗なるテーブル	〃
寓話	狭間二郎
虚空	故田中佐一郎
辺土・エスキース	〃
裸婦三像	〃
雪の妙高	空野八百蔵
古代の詩	〃
白の詩 A	山中馨
白の詩 B	〃
夜明け	小原稔
夜に	〃
寓話 B	狭間二郎
苔寺 A	和気史郎
苔寺 B	〃
川村カネトアイヌ一家	野口弥太郎
三人のアイヌ	〃
白の二人座婦	中山巍
窓	〃
花菖蒲 A	小原雄二
花菖蒲 B	〃
オーベル古寺	高昌達四郎
ニースの冬	〃
半影の首と	田中行一
緑陰の母子	〃
炎	尾崎良二
熱砂	〃
漁村	矢崎牧広
外房漁村	〃
仮縫	島村三七雄
廊下	〃
トレドの驢馬	鈴木亜夫
籐椅子に寄る	〃

美術展覧会(10月)

チューリップ畑A	斎藤求	花樹A	鳩川誠一	窓辺A	堀之内一誠
ク B	ク	樹間1	西山舜之助	潮岬	妹尾正雄
夏の静物	志村計介	樹間2	ク	早春伊予久万	ク
花坐像	ク	断(マレーシア)1	西野久子	67 ~ 10	森兵五
浜舟の	宇根元警	断(マレーシア)2	ク	作品A	坂本善三
秋山	小林和作	与論について	松崎真一	作品B	ク
海辺	ク	与論から見た沖縄	ク	作品MRC	岡部繁夫
赤富士	林武	と	高間惣七	祭壇	奎田たけを
裸婦	ク	ががく・ぱっとう	池島勘治郎	秘儀	ク
夜明けの薔薇	鈴木保徳	ががく・なそり	ク	平均的肥満体	松本英一郎
群居	ク	表面NO2	宮崎精一	平均的肥満体	ク
ドン・キホーテ2	安田謙	表面NO1	ク	甲羅とハサミ	森通
ドン・キホーテ1	ク	作品(二枚舌)	江田豊助	蟹	ク
ひと	中間冊夫	作品A	山道栄	赤とうがらし	奥谷博
早春の庭	小島善太郎	作品B	ク	室内	ク
桃	ク	ク	中村善種	そそりたつけ	桜井浜江
秘園の春	大久保泰	陽の影	針生鎮郎	が果樹園の肖像	ク
サン・ポール	ク	展望	山本貞実	七面鳥	芝田米三子
貝	今井憲一	夕霧	山田貞	飛ぶ	ク
花	ク	空蟬	ク	鳥の群れB	斎田武夫
神樹(メタセコイア)	中村節也	エーゲ海	赤星孝清	鳥の群れA	ク
裸女	熊谷登久平	シチュアションA	水島誠一	桐紫	古賀猛
木の間	ク	花奥秩父村	鳩川長三	作品'67・夏の終り	河尻隆次
光を求むる群	横地康国	峡の	井上寛信	作品'67・夏	ク
光をたたえる人々	ク	陽讃	松島鈴子	ヴィ67-18-め	松山幾三郎
伊豆多賀	鳥居敏文	陽行楽	ク	ヴィ67-19-マド	ク
碎石所と若者たち	ク	花ひまわり	沢村美佐子	室内	枅内忠男
けやき	佐川敏子	大御接	赤星信子	くう(空)	ク
日没けやき	ク	作品SV1	ク	ダム工事	久保一雄
秋村	中尾三彰	作品SV2	藤岡良	小さなタワーのある港	ク
牛	白鳥正幸	ETERE	江口	海人B	砂田友治
サン・エチエンヌ・ド・モン	松島	ETERE	富士本昇	海人A	ク
サン・クルー	ク	作品2	林敬二	カリブの海(II)	高須観子
巴里のフーテンA	飯田実雄	作品1	ク	カリブの海(I)	ク
巴里のフーテンB	ク	残った夏の構図	来栖重郎	喜劇喜劇	竹内晟
ロマネスクの彫刻によるA	加藤陽	ピカドール	仲村一男	悲劇悲劇	ク
ロマネスクの彫刻によるB	ク	飛ばされた闘牛士	ク	樹のある街	芝田耕春
二人	中間冊夫	滝(袋田)	清水鍊徳	風に萌える	青柳
木心の出た塑像	鳥海青児	滝(袋田)	ク	霧	ク
南の国	海老原喜之助	窓辺B	堀之内一誠	山の石仏たち	入江一子
横浜風景	樋口加六	ク	ク	里の地藏さん	ク
マドリット	ク	ク	ク	クスコの市にて	米原二郎
新宿の屋根	伊藤彪	ク	ク	プーノの市にて	ク
浅草の見える風景	ク	ク	ク	ヨットハーバー	末永胤生
水門	緑川広太郎	ク	ク	ヨットプール	ク
裸婦	菊地精二	ク	ク	団地の人	松樹路人
壺を持つ女	ク	ク	ク	父と母と子	ク
		ク	ク	ヨットの風景	小林数雄
		ク	ク	真鶴半島	ク

美術展覧会(10月)

網走の樹 A 斎藤 紅一
網走の樹 B 〃
牛 下川 都一郎
牛 〃

21回二紀展 12—30 都美術館

会員出品目録

絵画

作品 B 島田 しず子
作品 A 〃
人間 1 小川 智
人間 2 〃
如来 森本 健二
四天王 〃
街の人 佐野 繁次郎
青いオヘン (ファム) 〃
赤い糸 高井 貞二
SHOU HOU—42 山口 操助
ASUKA—67 〃
紋 小笠原 誠次
提灯 〃
サグラダ・ファミリア教会 B 吉野 純
サグラダ・ファミリア教会 A 〃
道化師たち 鈴木 博
S駅オープン 西村 功
今度は写真です 〃
太陽と鳥 金田 辰弘
月と鳥 〃
北大農場 小島 真佐吉
襟裳岬 〃
黄色い道標 加藤 敏子
エンゼルの誕生 〃
朝の市 児玉 幸雄
パリーの市場 〃
砂丘止め垣のある砂丘 佐々木 孔
鎮魂祭の河(夜) 〃
祭 小島 謙
乾杯 〃
かのこゆり 佐伯 米子
海浜の室内プール 〃
モンマルトル 坂本 益夫
サンジェルマンデブレ 〃
燈下のくだもの 鍋井 克之
神戸東遊園地噴水 〃
ついで晴れの鏡 黒田 重太郎
容池 〃
薔薇バイナッブル 〃
などのある静物 〃
郊外風景 中川 紀元

隅田川 中川 紀元
西ノ京の民家 大兼 実
初冬の野道 〃
海岸 星崎 孝之助
路傍 藪野 正雄
閉ざされた家 〃
五月の風 峯岸 義一
野道 〃
黒い髪の子 宮本 三郎
鏡の前 〃
シシリー風景 田村 孝之介
葉山のヨット 成井 弘
房州花畑 〃
スターチス 津田 周平
魚 〃
北国の原野 中野 安次郎
秋の山肌 〃
fév — 67 鳥居 雅隆
コムポーゼ 〃
古典(赤) 岡田 登志男
古典(青) 〃
ピアノを弾く 牧 ハルナ
マルセーユ港A 熊野 俊一
〃 B 〃
巨像のまわり 市野 長之介
窓 〃
礫 青木 寿
哭 〃
馬狩の寺(白川郷) 久野 修男
合掌造りの家 〃
喪失 宮嶋 美明
リュドゲーテ (モンパルナス巴里A) 〃
〃 (〃 B) 〃
昼下りの街 北村 脩
暮色の街 〃
野火(蟻) 坂 宗一
ベニスの幻想 中原 英彦
彫刻 〃
黄色の女 小島 弘
白色の女 〃
座っている女 矢形 勇
風の樹 松村 外次郎
位相(トコロジ) 〃
踊子 長谷川 八十
二つの星座 水野 欣三郎
連続(位相空間) 長野 隆業
果 坂上 政克
作品 67—Q 邑田 五郎
私に何をおしえたいの 堀 義雄

単 八柳 恭次
双 〃
「華苑団子」(日本シリーズNo.3) 新谷 秀雄
作品 北川 薫
話合いましょう 村上 丙
平和への努力 〃
誰がために死ぬ 〃
残存——一連 木津 一夫
システム4—B 伊東 昭義
裸婦 菅沼 五郎
16 真鍋 忠
はたち 滝川 美一
T氏の像 〃

31回自由美術展 12—30 都美術館

会員出品目録

絵画

くろんぼう 長谷川 匠
夜 〃
肯定的風景 大野 修
K高原を後にして 〃
発生 尾方 利男
二人の言い分 石井 久子
死の商人 川上 茂昭
小さなトルソ 本田 洋子
待つ(2) 〃
待つ(3) 〃
画家の部屋 大成 飄吉
性的人間 青山 嘉靖
不自由人間 〃
陽影の風景 西 八郎
肖像 〃
人間 〃
人間 〃
人 〃
人 〃
茫 〃
冥 〃
勧告 東宮 不二夫
メモをとる人 〃
古墳 正田 徹
雨期 園 房江
ちいさいはか 〃
暁の幻想 上野 省策
夕の幻想 〃
黒 浦久保 義信
かろのなかで② 増田 暢士
侵される絆 〃
南ベトナム心像(銃殺) 市川 秀光
南ベトナム心像(銃殺された人) 〃
森 (44) 彦 阪 浅男

森列人像人し望見する黒い生失日或女の野瞳記ト静橋平和対祭芸二被強赤い静物	(45) 間1魚し人で物題足人とのしごと念撮影ラン物	彦山池幸長谷久八上藤伊関佐青永団赤守西吉灰横内鶴井調一宇片井	阪田丸辰部幡原沢藤木田屋中見谷尾田岡上宮都伯上	浅千一末昇弘二平春力勇輝清博治夫茂耕男子雄蔵マリ勝三郎美彦	男秋門昇二平春力勇輝清博治夫茂耕男子雄蔵マリ勝三郎美彦	肉化野邊の送列旗と品B品B品B信号流羊エスカレーター3埋葬窓風景わが家のキリストかえらぬ青春二人分A変電所のある風景がいしのある風景モビールのある静物離漁民争戦洪い顔の造物主新聞をよむ人物A人前向きの像ある終列車迷える勇士にんげん一族にんげん女戦争の原形Purge人間図式一兵隊人間図式一死アカデシアの花々家の風景1帰風景人木刻は女たちニューヨーク・ママ疎外された風景	質身り列旗と品B品B品B信号流羊エスカレーター3埋葬窓風景わが家のキリストかえらぬ青春二人分A変電所のある風景がいしのある風景モビールのある静物離漁民争戦洪い顔の造物主新聞をよむ人物A人前向きの像ある終列車迷える勇士にんげん一族にんげん女戦争の原形Purge人間図式一兵隊人間図式一死アカデシアの花々家の風景1帰風景人木刻は女たちニューヨーク・ママ疎外された風景	尾崎谷市金土器比田石川伊森森藤山信高沢藤山新見福寿大沢山下鶴飼久杉原大成沢田小佐	正義重義力臣子史一博平亘喜久稔人一匠男孝史来三衛勲三喜男愛子清子郎夫輔孝	飢人間の芽静海の犠牲の火ベトナム踊池のぞき仮面のあつまり枯赤い花ある土地の会話Aある土地の会話B吟作休塩しま病入ヘロデの地地基重お作作月よみが作作焼身自殺のコンポジション昼耕勝負はYマダム・ノアノア	No.4 物者風家火1967り見花会話A会話B1品品憩害そう樹種殺12地間穴3品沙漠時間A品B食品はじめ氏転風景	梅穴児吉伊大久保にしお松丸山西倉溝田賀井岡川広白水久野小河中浅平高清古近鈴佐々峰あきひろ・くまがや小俣井西千	暉清晃誠子太郎子男きだ子憲夫ユトエ亮三郎実郎二承汜も子助之浩一孝一勲敏子倫夫芳リッ子球晃郎
--------------------------------------	----------------------------	--------------------------------	-------------------------	-------------------------------	-----------------------------	--	---	--	--------------------------------------	---	--	--	---

美術展覧会(10月)

卓上風景 千原三郎
大地 I 青木健真
女の子 田原史
作品 67B 西垣清
作品 67A 〃
華 19 大門清広
告げる者 サイトー・トシオ
スペインのツボ 磯野新次郎
売り 乙葉子 統
黒いモニュマン 金子茂吉
作品 品 池内茂吉
標的シリーズIV 豊島綱明
華 A 〃
華 B 〃
像 1 脇藤波正人
冬 眠 佐藤清弘
SHINKEI 分裂 坂口清一
衣 帯 細口俊一
森の異変 B 〃
森の異変 A 〃
燃える森 柿手春三
集(しゅう) 川村晃夫
ネオンの顔 境野一之
もう来るころ 加古松雄
赤い女体 三田耕之
作品 品 江見崇里
Vの家族 B 神田千弘
女 浜田弘康
不吉な予感 〃
山陰 栄永大治良
犬 B 江原和足
彫刻
酸酵 1 安丸行
酸酵 2 〃
偶の碑 松本光司
実 〃
燭 台 板津邦夫
古式 安藤青史
新聞をよむ 小村春来
人物 B 〃
人物 A 〃
人 福寿一三
前向きの像 毛内義衛
霧 笛 米坂ヒデノリ
叫び 千葉精一
追憶の歌 〃
67-16 池田宗弘
(曲芸・ハシゴ)
67-17 〃
(曲芸・自転車)
N 女 高野寛
裸婦(習作) 〃

或る工場主 大村清隆
秋 〃
立像 佐藤範夫
開拓の人々 新田実
和の道標 中島一雄
立像 A 垣内治雄
M 一 19 中谷唯一
ちいさな獲もの 峯孝
人蓄乗車禁止 田島義朗
作品(切) 富樫一
作品(切) 〃
餓鬼 島田忠恵
近世洋風画名作展 12-11月5 神
奈川県立博物館
青山熊治展 13-18 京王梅田画廊
中野淳滯欧作品展 13-18 大丸
無礙会日本画展 13-18 京王
星野尚月展 14-19 椿近代画廊
杉原莞爾個展 14-19 ルナミ画廊
5人展(秋山静、安久一郎、小川阿
屋子、白木建男、関谷一夫) 14-
25 ムサシ画廊
中村彝展 14-11月3 新宿ステ-
ーションビル
出品目録
父の肖像画 明治40年
裸婦 〃41年
雪 〃
帽子を被る自画像 〃42年
巖(御物) 〃
静物 〃42年頃
白壁の家(海辺の村) 〃43年
りんごと瓶のある静物 〃
静物 〃
女 〃44年
麦藁帽子の自画像 〃
自画像 大正元年
自画像 〃
自画像 〃
静物 〃
風景 〃
牛乳瓶のある静物 大正2年
婦人像(未完成) 〃
I氏母堂の肖像 〃
少女習作 大正3年
少女 〃
少女(未完成) 〃
大島風景 大正4年
大島風景 〃
大島風景 〃
アネモネ 大正4年頃

田中館博士像 大正5年
自画像 〃
裸体 〃
落合のアトリエ 〃
バラ 大正5年頃
静物 大正6年
静物 〃
ルノアール風景画模写 大正6-7年
鳥籠のある庭の一隅 大正7年
婦人像 大正8年
目白風景 〃
静物 〃
静物 〃
静物 大正8年頃
エロシェンコ氏像 大正9年
シスレー模写 〃
ブリーズを着た自画像 〃
ルノアール泉の模写 〃
花 大正9-10年
自画像 大正10年
婦人像 大正11年頃
自画像 大正12年
髑髏のある静物 〃
カルピスの紙のある静物 大正13年
老母像 〃
静物(絶筆) 〃
花 大正13年頃
自画像 〃
大島風景(ペン画) 大正4年
自画像(ペン画) 〃
海辺(ペン画) 大正4年頃
自画像(ペン画) 大正6年頃
静物(パステル) 大正7年
二人の裸婦(鉛筆) 大正7-8年
母子像(パステル) 大正8年頃
血を吐く男(コンテ) 大正10年
自画像(木炭) 〃
友人T像(デッサン) 〃
中原悌二郎像(木炭) 大正11年
自画像(鉛筆) 〃
髑髏を持てる自画像(デッサン) 大正12年
女の顔(デッサン) 〃
パリの23人展 15-23 西武
今日の作家'67年展(篠田守男、福岡
道男、澄川喜一、尼野和三、池田
満寿夫、片山未加、斎藤寿一、野
中ユリ、大島哲以、中村正義、佐
藤亜土、饅頭、飯塚八朗、横尾忠
則、福島敬恭、岡田博、田中信太
郎) 15-26 横浜市民ギャラリー

中川一政近作展 15—30 吉井画廊
山畑利次彫刻展 16—21 中央公論
画廊

5人の会展(中谷泰、中村徳三郎、
村山密、藤井令太郎、南大路一)
16—21 資生堂ギャラリー

関野準一郎銅版画展 16—21 養清
堂画廊

塩見栄一画展 16—21 サエグサ画
廊

シーズンオフ展 16—21 下村画廊
138回現代版画展 16—21 わたなべ
アート・サロン

安井藤三郎油絵展 16—21 此花画
廊

柏健画展 16—21 文芸春秋画廊
阿部中夫洋画小品展 16—21 中央
公論丸ビル画廊

吉本忠彦画展 16—21 樺画廊
森本三郎・光子2人展 16—21 ヤ
マト画廊

三浦勝治画展 16—21 ヤマト画廊
樺尾正次画展 16—21 村松画廊

岡田徹画展 16—21 村松画廊
八田豊画展 16—21 村松画廊

平間文子画展 16—21 村松画廊
水野英夫画展 16—21 大倉画廊

後藤よ志子画展 16—21 みゆき画
廊

村山正彦画展 16—21 あかね画廊
集団視線展 16—21 ときわ画廊

郭仁植画展 16—21 ギャラリー新
宿

系の会詩画展 16—21 スルガ台画
廊

日根美代子画展 16—21 サエグサ
画廊丸の内店

林田久子個人展 16—22 文芸春秋
画廊

福井喜代子画展 16—22 おぎくぼ
画廊

鬼子展(張谷一保、三浦絃善、染川
英輔、小山茂一、鴨剛、荒井孝)

16—22 ギャラリー・セブン
長宗我部友子画展 16—22 京都・
画廊紅

梅田博之画展 16—22 銀芳堂画廊
町田京子画展 16—22 シロタ画廊

視覚展 16—22 夢土画廊
グループ・イーゼル展 16—22
梅花亭ギャラリー

大内広新作油絵展 16—25 兜屋画
廊

佐々木英夫画展 16—25 ポール・
ギャラリー

尾崎良二画展 16—26 フォルム画
廊

シュールレアリストの版画展 16—
28 東京画廊

田中佐一郎遺作展 16—28 日本画
廊

和田三造遺作版画展 16—28 千代
田画廊

木下純寛画展 16—28 昭和画廊
女子美祭記念教授作品展 16—30
女子美画廊

小川博史近作展 17—22 高島屋
1回瓷玄会陶芸展(荒川豊蔵、石黒
宗磨、加藤土師萌、金重陶陽、楠
部弥式、近藤悠三、浜田庄司、宮
之原謙) 17—22 高島屋

清川泰次画展 17—22 松坂屋
鍋井克之油絵展 17—22 三越

巧友会日本画展 17—22 三越
泉会洋画展 17—22 上野・松坂屋

二紀具象10人サムホール展 17—22
石田画廊

岩村守彫刻展 17—23 秋山画廊
五月女幸雄画展 17—28 画廊クリ
スタル

久保晃画展 17—11月4 第七画廊
黒田清輝画展 17—11月9 北海道
立美術館

出品目録
油 彩

田 舎 家 1888 東京国立文
化財研究所

羊を抱ける少女 1888 〃

自 画 像 1889 〃

祈 禱 1889 〃

画室にての久米
氏 1889

画室の一隅 1889 東京国立文
化財研究所

裸体習作 女 1889 〃

裸体習作 女 1889 〃

裸体習作 男 1889 〃

裸体習作 男 1889 〃

原 (グレー) 1889 〃

グレー水車場 1889 東京国立文
化財研究所

パリー風景 1889 〃

少女の顔(グレー)1890 〃

編 物 1890頃 東京国立文
化財研究所

台 所 1891 〃

ブレハ島にて 1891 〃

七 面 鳥 1891~
1892 〃

枯 野 原 1891頃 〃

海 岸 1891頃 〃

赤 髪 の 少 女 1892 〃

風 景 (グレー) 1892 〃

残 雪 (グレー) 1892 〃

横浜本牧の景 1894 〃

昼 寝 1894 〃

美人散歩図 1895 東京国立博
物館

昔 語 り 構 図 1895 東京国立文
化財研究所

昔語り下絵 僧 1896 〃

昔語り下絵 男 1896 〃

昔語り下絵舞妓 1896 〃

昔語り下絵舞妓 1896 〃

昔語り下絵草刈 1896 〃

昔語り下絵 清閑寺景 1896 〃

漁 舟 着 岸 1897 〃

自 画 像 1897 〃

湖 畔 1897 東京国立文
化財研究所

母 子 1897 〃

犬 1897 〃

大磯海水浴 1897 〃

森の中(パステル)1907 〃

花 野 1907~
1915 〃

婦 人 肖 像 1912 〃

瓶 花 図 1912~東京国立博
物館

裸 体 習 作 1913 東京国立文
化財研究所

も る る 日 影 1914 〃

自 画 像 1914 〃

農 婦 1914 〃

葡 萄 1914 〃

海 辺 1914 〃

秋 景 色 1915 〃

風景(小壺の夕・
菜の花・初更の
田舎) 1915~
1916 〃

風景(夕の梨畑・
夕の原・暮雲) 1916~
1919 〃

風景(風景・平河
町の庭・鎌倉に
て) 1917~
1918 〃

栗 拾 い 1917~
1918 〃

冬 枯 1919 〃

美術展覧会(10月)

嵐 1919 東京国立文化財研究所
 案山子 1920 〃
 しやくなぎ 1921 〃
 山つつじ 1921 〃
 稲荷神社 1922 〃
 蕎麦 1923 〃
 挹芳園 1923 〃
 紅葉(平河町にて) 1923 〃
 雪(平河町にて) 1923 〃
 梅林 1924 〃
 素描
 西洋婦人の顔(木炭) 1890 東京国立文化財研究所
 厨房(木炭) 1890 〃
 編物する女(木炭) 1890頃 〃
 雪景(木炭) 1890頃 〃
 傘をもつ女(手)(木炭) 1892 〃
 傘をもつ女(木炭) 1892 〃
 臥す女(木炭) 1892 〃
 帽子を冠る女(木炭) 1896 〃
 昔語り下絵(草刈り娘)(木炭) 1896 〃
 昔語り下絵(舞妓)(木炭) 1896 〃
 婦人像(木炭) 1897 〃
 婦人肖像(木炭) 1898 〃
 花野図画稿(木炭) 1907 〃
 野辺図画稿(木炭) 1907 〃
 坐す女(木炭) 1907 〃
 彫刻
 黒田清輝胸像 高村光太郎作
 参考出品
 写生帳・日記・書簡・その他
 リラの会作品展 18—24 竹川画廊
 古城宏一個展 19—24 東和画廊
 富川潤一個展 19—25 壺番館画廊
 鶴岡八幡宮展 19—11月19 鎌倉国宝館
 依田英和・若林茂熙2人展 20—25 椿近代画廊
 1回白紅会展(合田累子、衛藤玲子、大石英子、河井裕子、国枝茂子、鈴木委也、立花京子、鳥居鹿次郎、中村恵子、中村速夫、横山てるひ) 20—25 椿近代画廊
 新興秋季展 20—25 銀座画廊
 椎の会油絵展 20—25 松屋

道南美術展 20—25 松屋
 羅茵新作展 20—25 大丸
 林忠正個展 20—25 ルナミ画廊
 桂川寛展 20—28 不忍画廊
 重山和子洋画展 20—30 小田画廊
 3回美鳩会展 20—31 京王梅田画廊
 吉田芳夫彫刻展 20—31 現代彫刻センター
 白土会展 21—29 愛知県美術館
 近代日本画名作展(前期) 21—11月5 山種美術館
 鎌田洋子個展 22—27 村松画廊
 3回二元展 22—28 ハットリホール
 正倉院展 22—11月5 奈良国立博物館
 9回野火会展 23—26 兼素洞
 井上和個展 23—27 丸善画廊
 和田徹作品展 23—28 養清堂画廊
 米良道博個展 23—28 日動サロン
 1回矢谷長治展 23—28 中央公論画廊
 石版画による「顔」展(その1) 23—28 ギャラリー・ボワン5丁目店
 小林清栄個展 23—28 大倉画廊
 8回森治樹個展 23—28 資生堂ギャラリー
 1回集団・版展(秋山静、稲田三郎、稲田年行、風間照市、金子哲男、鯉淵健治、富張広司、深沢史朗、福田利秋、福室利一、松田ハルミ、谷田川卓) 23—28 ときわ画廊
 1回中川弘昭油絵展 23—28 此花画廊
 池下昌徳個展 23—28 ギャラリー新宿
 有実会展 23—28 サエグサ画廊
 滝波長子個展 23—28 サトウ画廊
 鈴木政夫石彫刻展 23—28 文芸春秋画廊
 西山舜之助個展 23—28 いたう画廊
 恩田秋夫版画展 23—28 一方堂画廊
 藤田慎治個展 23—28 みゆき画廊
 水崎信太郎個展 23—28 中央公論丸ビル画廊
 小松清個展 23—28 樺画廊
 堀内義夫個展 23—28 サエグサ画廊

廊丸の内店
 河野和子個展 23—29 夢土画廊
 金木功政個展 23—29 銀芳堂画廊
 植木真男個展 23—29 銀芳堂画廊
 金子千恵子個展 23—29 文芸春秋画廊
 白石陽一個展 23—29 シロタ画廊
 遠矢政己個展 23—29 おぎくぼ画廊
 加藤博司・古賀正敏2人展 23—29 スルガ台画廊
 岡田徹油絵個展 23—31 名古屋・納屋橋画廊
 竜淵純一個展 23—31 ギャラリー磯谷
 秀島由己男個展 23—11月4 南天子画廊
 国松登個展 24—28 フォルム画廊
 入江しげる個展 24—28 東洋美術館画廊
 3回飛鳥会展 24—28 孔雀画廊
 12回斎藤清版画展 24—29 三越
 杉本健吉油絵展 24—29 三越
 渡辺泰我水墨画展 24—29 三越
 林鶴雄個展 24—29 高島屋
 染川鉄之助鋳金工芸展 24—29 高島屋
 水本富美子個展 24—29 竹川画廊
 水島裕日本画展 24—29 上野・松坂屋
 尾越勝之助個展 24—29 巴里画廊
 伊藤勝敏彫刻展 24—30 秋山画廊
 鈴木雄三個展 25—30 あかね画廊
 後藤純男日本画近作展 25—31 伊勢丹
 関山慶丸個展 25—11月4 日本橋画廊
 秋の名品展 25—11月26 大和文華館
 赤川勲個展 26—31 椿近代画廊
 長森聰彦仏油絵展 26—31 伊勢丹
 三上登・宮前光春2人展 26—31 ルナミ画廊
 寺田春之新作油絵展 26—11月4 兜屋画廊
 立山崇個展 26—11月6 ムサシ画廊
 沢田政広展 27—11月1 松屋
 二紀会5人展(宮本三郎、鍋井克之、中川紀元、田村孝之介、佐伯米子) 27—11月1 大丸

全日肖東京特別展 27—11月1 東
急

進藤蕃個展 27—11月1 京王梅田
画廊

村井正誠・菅井汲版画2人展 27—
11月1 京王

森口宏一個展 27—11月8 荏番館
画廊

武田範芳近作展 28—11月2 ヤマ
ト画廊

宮崎精一展 28—11月2 村松画廊
近代日本画大家展 28—11月5 横
浜・高島屋

現代イタリア美術展 28—11月26
京都国立近代美術館

鑑光・関根正二展 28—12月10 鎌
倉近代美術館

出品目録

関根正二

油彩

少年像 1917

チューリップ 1918

チューリップ ♫

婦人像 ♫

真田吉之助夫妻像 ♫

姉弟 ♫

信仰の悲しみ ♫

神の祈り ♫

子供供 1919

三星 ♫

三人の顔

一本杉の風景

デッサン

永遠の春 ペン 1915

座る女 ♫ 1916

深川菊川橋 ♫ ♫

群像 木炭 ♫ ♫

銚子風景 ペン ♫ ♫

自画像 ♫ ♫

婦人像 ♫ ♫

野娘 ♫ 1917

男の顔 ♫ ♫

寝る少年 ♫ 1918

壺とガーベラ ♫ ♫

女の顔 ♫ ♫

少女の顔 ♫ ♫

空かける裸婦 クレパス ♫

信仰の悲しみ パステル

大黒天像 墨 1918頃

花 クレパス

女と子供 ♫

少女 クレパス

子供と木登り 木炭

裸婦 ♫

裸婦 ♫

男の顔 ペン

自画像 ♫

少女像 ♫

田園風景 ♫

裸像 ♫

太陽と女 ♫

立像 ♫

女の立像 ♫

裸婦 ♫

男の顔 ♫

女の立像 ♫

男の顔 ♫

祈り 鉛筆

母の顔 ♫

燐光

油彩

屋根の見える風景 1929

洋傘による少女 1929—30

あざみ 1932

石神井附近 ♫

満州風景 1935

公主嶺 ♫

岩手山 1935頃

枯木(きつつき) ♫

シシ 1936

ライオン ♫

ライオン ♫

ライオン ♫

佐伯卓造氏像 1936頃

佐伯氏夫人像 ♫

佐伯氏母堂像 ♫

肖像(貴婦人像) 1938 4月10日

馬 1938

目のある風景 ♫

かりん 1939 1月

鳥 1940

静物(魚の頭) ♫

花園 ♫

花(やまあらざ) 1941

静物(雉) ♫

蝶 ♫

警察病院風景 ♫

静物(からすうり) 1942

富山氏像 ♫

富山夫人像 ♫

柘榴 ♫

花(やまあらざ) ♫

静物(梨のある) 1942

静物(切った果物のある) ♫

花(アネモネ) ♫

ばら ♫

蝶 ♫

洋梨 ♫

壺に入った花 ♫

花 1943

波 ♫

魚(ひもの) ♫

静物(柿) ♫

花(グラジオラス) ♫

ばら ♫

ばら ♫

ばら ♫

魚(かます) ♫

帽子をかむる自画像 ♫

植物園風景 ♫

百合 ♫

ばら ♫

花(枯れたグラジオラス) ♫

窓への花(百合) 1944

ひろ子の像 ♫ 5月3日

棺のある自画像 1944

花(グラジオラス) ♫

坂木氏像 ♫

坂木氏像 ♫

自画像 ♫

風景(屋根と木立) ♫

(絶筆)

素描、水彩、グワッシュ

父の像 鉛筆 1917頃

養父の像 墨 1920頃

祖母の像 木炭 1923

ラオコン ♫ 1925頃

ラオコン ♫ ♫

ラオコン ♫ ♫

キリスト グワッシュ 1932頃

キリスト ユ、墨 ♫

盲目の音楽家 グワッシュ 1934

馬 水彩 ♫

女 A グワッシュ ♫

女 B ♫ ♫

鰻 ♫ ♫

でべら ♫ ♫

魚 ♫ ♫

編物をする女 クレオン・グワッシュ ♫

美術展覧会(10月)

岡村氏の像	墨	1936頃	ドニエプロ水力発電所建設	油彩・キャンバス	1930	○カバチェック		
蓮と太陽	〃	1938-9	○プロドスキー			マラシェンコ羊飼班	油彩・キャンバス	1961
おこぜ	〃	〃	デモ	〃	1930	○カンディンスキー		
雉	〃	〃	○チュイコフ			不	安	〃 1917
鳥 A	〃	〃	夕べの想い	〃	1957	白い楕円形	〃	1919
鳥 B	〃	〃	黒いマドンナ	〃	1962	○カーレフ		
鳥 C	〃	〃	○デネカ			ネヴァ河	〃	1934
鳥 D	〃	〃	パリ娘	〃	1935	○カールスイニ		
鳥図長巻	〃	〃	焼けた村	〃	1942	波止場にて	〃	1945
かぶと虫	〃	〃	ペトログラード防衛	〃	1964	ドゥンテ付近の海辺	〃	1959
鶯	〃	〃	○ドマシニコフ			○カッツマン		
魚	〃	1940	たそがれ	〃	1961	コロメンスキー工場の突貫作業隊	パステル・水彩・紙	1931
花	紙本著彩	〃	旅の印象	〃	1966	○クレバフ		
瓶花(ダリヤ)	〃	〃	○エルイシェフ			リガのキーロフ公園	油彩・キャンバス	1962
蝶	墨	〃	我ら永遠に	〃	1967	祭の前	〃	1963
百合	紙本著彩	1941	○ファリク			夜景	〃	1965
へちま、きうり、つゆ草	墨	1942	赤い衣裳をきた婦人	〃	1918	○コンチャロフスキー		
末広一の像	紙本著彩	〃	白いターバンをつけた女	〃	1923	トランクのある静物	〃	1919
畠山雅介の像	〃	〃	ザゴルスク町・霜	〃	1956	○コーリン		
娘	〃	〃	赤い壺のある静物	〃	1956	わが祖国	〃	1928
次男大三の像A	墨	〃	○フレンツ			アカデミー会員・ゼリンスキー像	〃	1940
自画像	グワッシュ	〃	荷馬車の集まる所	〃	1922	イグムノフ教授像	〃	1941—43
二重像	墨	〃	冬宮奮闘	〃		○コルマシヨフ		
作品A	〃	〃	○ガヴリロフ			タリン市	〃	1965
作品B	〃	〃	楽しい3月	〃	1960	花びんのある静物	〃	1966
作品C	〃	〃	○ゲラシモフ			○クリモフ		
作品D	カーボン	〃	コルホーズ市場	〃	1938	冬の景色	〃	1920年代
梨(色紙)	水彩	1941頃	塔のある風景	〃	1940	タルサの夏の日	〃	1939—40
ばら(色紙)	グワッシュ	〃	○ゴレンビェフスカヤ			○クプリン		
蝶	墨	1942	ウクライナの壺	〃	1960	しゃぼてんと果物	〃	1918
次男大三の像B	鉛筆	1942頃	○グラバリ			彫刻のある静物	〃	1919
船長の像	水彩	1943	緑の布の上の梨	油彩・カルトン	1922	静物	〃	
自画像	鉛筆	〃	画家の娘	油彩・キャンバス	1933	○クストディエフ		
満州風景	〃	1943頃	○グレコフ			お茶をのむ商人の妻	〃	1918
ソ連絵画50年展	28—12月10 東京		ノヴォチエルカスクからの白軍の逃走	〃	1926	ウリツキー広場のデモ	〃	1921
国立近代美術館			○グレクー			○クズネツォフ		
出品目録			コルホーズの女	油彩・カルトン	1964	セヴァン湖	〃	1930
○アブドゥラエフ			○ゲーディン			母	〃	1955
1941年6月	油彩・キャンバス	1962—65	鹿の島	油彩・キャンバス	1962	○レベデフ		
カラバハにて	〃	1964	北の国境で	〃	1964	女優ナデジディナの像	〃	1927
○アガポフ			○イワノフ			○レントッロフ		
シベリア建設にて	〃	1959	家	族	〃 1965			
○アルヒーポフ								
腕をくんだ赤い着物の娘	〃	1925						
○ベルジン								
パンと太陽	〃	1962						
○ボガエフスキー								

バイオリンを持った自画像	油彩・キャンバス	1924	コスランの上空で	油彩・キャンバス	1967	ソルボンヌ大学 生アヴィテシャ ンの像	油彩・キャンバス	1960
午後	〃	1928	〇ラストルゲーエフ			〇ザゼルスカヤ		
〇レヴィティン			青 春	〃	1957	静 物	〃	1964
暖 い 日	〃	1957	〇ロジェストヴェンスキー			青 春	〃	1967
〇ルチーシキン			ウズベックの茶・静物	〃	1926	古代イタリア美術展	28—12月17	
スキーヤー	〃	1926	〇ルイロフ			東京国立博物館		
風船が飛んだ	〃	1926	トスノ河の秋	〃	1920	出品目録		
〇マレーヴィッチ			〇サラホフ			先史美術 1—4		
くしをさした女	〃	1932	修 理 工	〃	1960	シチリアとマグナ・グレキアの美術		
自 画 像	〃	1933	カスピ海にて	〃	1966	5—86		
〇マシコフ			〇サモフヴァロフ			スラーゲ美術 87—90		
扇のある静物	〃	1922	スポーツシャツの娘	油彩・テンペラ・キャンバス	1932	エトルリア=イタリア美術 91—153		
〇メスヒゼ			〇サリヤン			ローマ美術 154—277	カタログ番号による	
パ バ	〃	1965	秋 の 花	油彩・キャンバス	1939	京都の美術工芸 100 年 29—11月26		
〇ミルザシヴィリ			〇セロフ			京都市美術館		
試 合	テンペラ・カルトン	1961	レ ニ ン 像	〃	1956	池田浩彰油絵個展 30—11月 4 下		
羊 飼	テンペラ・紙	1961	〇シャタリン			村画廊		
トッシニ(グルジアの少数民族)	テンペラ・カルトン	1966	戦 闘 任 務	〃	1960	加藤登美子スケッチ展 30—11月 4		
〇モイセーエンコ			〇シェヴァンドロノヴァ			此花画廊		
ナ タ ー シ ャ	油彩・キャンバス	1963	村の図書館で	〃	1954	末永胤生滞欧作品展 30—11月 4		
同 志	〃	1963—64	〇シェフチェンコ			日動サロン		
〇ネステロフ			洗たく女のいる風景	油彩・カルトン	1917	ガストン・ブチィ版画展 30—11月 4	養清堂画廊	
自 画 像	〃	1928	娘 の 像	油彩・キャンバス	1920	藤川叢三彫刻展 30—11月 4	資生堂ギャラリー	
彫刻家シャドルの像	〃	1934	〇シュワジャス			日本画とは……15人展 30—11月 4	梅花亭ギャラリー	
〇ニキチ=クリリチエフスキー			夕 ベ	〃	1966	古代高義個展 30—11月 4	櫟画廊	
アトリエにて・織物	油彩・キャンバス	1965	橋	〃	1966	不二竹心個展 30—11月 4	養清堂画廊	
椿・静 物	〃	1965	〇スモーリン			若林広個展 30—11月 4	いとう画廊	
〇ニスキー			極地探険隊員	〃	1961	藤田謹三個展 30—11月 4	いとう画廊	
モスクワ郊外	〃	1947	〇ソコロフ			宮地俊一郎個展 30—11月 4	みゆき画廊	
〇オプロソフ			4 月	〃	1966	戸津勇作個展 30—11月 4	昭和画廊	
つるこけもも(野生果実)	〃	1966	〇ストジャロフ			後藤芳仙個展 30—11月 4	巴里画廊	
馬 と 少 女	油彩・カルトン	1967	パ ン	〃	1956	東邦美術展 30—11月 4	中公丸ビル画廊	
〇ペトロフ=ウォトキン			ショトヴァ丘	〃	1964	グループ楔彫刻展 30—11月 4	とさわ画廊	
自 画 像	油彩・キャンバス	1918	〇トイジェ			日本画新鋭展 30—11月 4	梅花亭ギャラリー	
にしんのある静物	〃	1918	カヘティア地方バタルゼウリ村	〃	1966	白田輝四郎個展 30—11月 4	サエグサ画廊	
警 報	〃	1934	秋	〃	1966			
〇ピメノフ			〇ウガロフ					
重工業を建設しよう	〃	1927	レニングラードの人たち	〃	1961			
新しいモスクワ	〃	1960	〇ヤブロンスカヤ					
〇プラストフ			春 の 陽	〃	1964			
まぐわを持った女	〃	1957	〇ユオン					
〇ボポフ			新 し い 惑 星	テンペラ・カルトン	1921			
			〇ザルダリヤン					
			ドヴィン(アルメニアの古都)	油彩・キャンバス	1955			

美術展覧会(10・11月)

中嶋つとむ個展 30—11月4 竹川
画廊
中条源油絵個展 30—11月5 文芸
春秋画廊
佐藤照雄個展 30—11月5 文芸春
秋画廊
魚田元生個展 30—11月5 スルガ
台画廊
藤真浩個展 30—11月5 一方堂画
廊
余人展 30—11月5 銀芳堂画廊
斎藤釜太郎個展 30—11月5 シロ
タ画廊
浅里圭個展 30—11月5 夢土画廊
梅林文夫個展 30—11月5 おぎく
ぼ画廊
現代フランス作家新作展(前期) 30
—11月8 日本画廊
浜田泰介個展 30—11月8 ポール
・ギャラリー
創立二周年記念展 30—11月11 大
倉画廊
塚田康介個展 30—11月11 サトウ
画廊
豊秋半次日本画展 31—11月5 三
越
猪原大華個展 31—11月5 高島屋
伊本淳彰刻展 31—11月5 高島屋
中川弥弥作品展 31—11月6 秋山
画廊
上村賀子日本画展 31—11月6 紀
伊国屋画廊
11回酒田市民美術展 31—11月8
本間美術館

11 月

原健個展 1—6 椿近代画廊
ひまになはたか展 1—6 椿近代
画廊
柳田昌和個展 1—6 ルナミ画廊
佐藤真一画展 1—7 大阪・梅田
画廊
5回現代名匠陶芸展 1—9 伊勢
丹
現代洋画家デッサン8人展 1—9
伊勢丹
ギアマン展 1—10 日動画廊
柏原えつとむ個展 1—11 画廊ク
リスタル
光琳と乾山の装飾絵画展 1—15

電通恒産画廊
高橋信一版画展 1—20 美術出版
社ロビー

カトラン展 1—30 吉井画廊
10回日展 1—12月6 都美術館

出品目録

日本画

穀 機 加倉井 和 夫
風 に 往 く 堂 本 元 次
夕 陽 桑 原 清 明
牛 米 陀 寛
葉 師 寺 の 塔 山 崎 忠 明
薫 苑 小井土 昇
月 と 花 小 栗 裕 潮
竹 生 島 宇 田 裕 彦
月 雪 村 山 崎 之 男
峠 道 篠 崎 浩 浩
静 映 川 島 本 知 克
白暮の波止場 山 本 所 根 万 東 乙 彦
椿 の 庭 羽 藤 松 田 山 忠 閑 定 晃 申 英 明 辨 次 清 税 夫 彦 魁 丘 三 巳 虎 象 喬 楊 邨 望 陵 華 雄 邨 甫
千 手 観 音 道 芒 鶴
最 涯 の 道
光 真 幼 童 曼 陀 羅
窓 椿 樹
白 い 道
皎 倅 梯 優 虹
繁 女 夕 霞 花 背 峠 物 段
静 階 沼 仔 星 架 曠 野
執 着 の 離 脱
池 森 の 人 た ち
五 月 雨
観 智 神 瀧 ぶ
那 智 飛
月 に 飛
う し
明 星
苑

ひ と と き
樹 鯉
双 石
寿 鼓
長 百 齡
寿 白根の森(日光)
巖 曉 流 群 磨 橋 游 川
アンデスの冬
光悦寺の茶室
燦 潮 藏 塔 夕
長椅子による
靄 青 草 砂 湖 残 霞 蘊 洗 杉 潮 庭 尾 凍 月 汐 踊 遙 夕 楽 丘 待 画 岩 粧 鳥 祝
と き 鯉 石 鼓 百 齡 白根の森(日光) 巖 曉 流 群 磨 橋 游 川 アンデスの冬 光悦寺の茶室 燦 潮 藏 塔 夕 長椅子による 靄 青 草 砂 湖 残 霞 蘊 洗 杉 潮 庭 尾 凍 月 汐 踊 遙 夕 楽 丘 待 画 岩 粧 鳥 祝
寺 沢 島 紫 明
野 田 文 臣
浜 月 春 江
望 島 青 茲
野 立 石 春 美
大 岩 沢 原 重 夫
杉 松 浦 山 錦 成
昌 山 田 正 夫
浦 山 口 吉 三
山 梶 輪 喜 一
三 川 崎 晃 久
川 黒 光 春 彦
黒 石 川 茂 樹
三 浦 白 響
高 橋 澄 秀
秋 葉 長 生
梶 勝 田 翠 光
福 大 野 村 日 射 世
大 野 嶋 谷 代 野 合 縄 野 田 一 自 正 草 健 士 圭 慶 韶 映 大 元 辰 魁 万 寧 燿 昭 十 糸 子 雄 子 拍 羅 純 平 夫 雄
中 河 長 谷 水 東 白 猪 奥 高 東 杉 伊 下 三 渡 三 鈴 堂 山 三 高 関
韻 椿 漸 簞 る 達 春 女 礮 家 と 礮 福 の 日

春水バ阿秋い古少フ月舞竹青苑暮泉阿茶秋落秋五雉秋応丘山	日ナかるがの利レー林幽ののみ嵐富接問の峽	野辺ナ蘇塔根女ム妓趣宮樹鳥娘客ず葉山士炎女達人物帽髭祭女雪り春像(黒川能)漁秋秋鷄水の屋海原	矢中野々大尾水中加煤松堀白生秋笠樋遠川鈴森山山根亀木加大笹辻柳朝南井中森山小平高森奥日鶴金浮佐宮樽常	野田内塚山野野藤崎元井井田元原口藤上木戸本口上割村藤平鹿村瀬奈手村田下川瀬光田田野飼岩田川崎松重	鉄晃良深蒼晨洙道香烟節可富桑拙朱国紅玲富斯美代華八五郎雄雄善通二子平史功也茂三祐雄隆躬金進利昶	山陽樹明幟草穹明雀夫坡嵩女郎雄呂珠以雀次雲瀝治隆光三泉彪郎雄雄善通二子平史功也茂三祐雄隆躬金進利昶	教会へのだ苑スヘンベインの音池秋山湖初秋スパニッシュ・コスチュームアンボアーズの虐殺室の裸婦橋和妹モレナフラメンコ若い人た手瀑(層雲峽早春)ノートルダム寺院丘(神戸西代)落様夏ゆの池犬妓マジョリカ壺代池と鶏舞鏡朝庭奈良公園に薔薇光乱睡I秦洋静裸赤花	中三安小浅清杉笹大内寺西光日藤岩西平安伊永角山尾有長谷川小山寺部頭島村沢野保絲道下野原野井井橋通木	谷上武島井原村岡田島村安原本下尾松藤藤田山口崎馬川山寺部頭島村沢野保絲道下野原野井井橋通木	竜芳清光啓了茂竜屋浩東三善信精猛正三斗昇三吉鈞郎馬永一助三郎繁則之郎男一郎治男重	一浩男雄男一惇一士一一定行晃良四積讓哉正二卓彦章枝昇三吉鈞郎馬永一助三郎繁則之郎男一郎治男重	集港青わ夜の草噴水スペイン天平古寺(海竜王寺)婦残雪の石狩湾の椅子親丘青鳶の浜道裸婦灯山牧杏花器人花咲く晩支初南モン・サン・ミッシェル晚オリブ(牛)むま夏式音古マンドリンあ娘余静	い春の寺葉庭風景(海竜王寺)像白馬の丘の人達碧風景像翔騷晴村楽物辺山娘秋服夏海(窓)としく夏家橋を持店香物	幸緒伊渡橋新大納刑安奥川中山奈深田大井塗桜桜菊辻三倉大土高田鈴田江岡村佐柚弦飯鈴庄石大野池田秋	嶋方藤辺原保津富部宅瀬島村田岡谷中沼上師井田池上員沢佐田崎木村藤田岡竹木田田木司本島村辺原元	重亮清武健兵鎮番英理善新正繁静祥慶精健知辰海豊広千一純又三平德久英弥良榮秀士光一輝子	雄平永夫三郎雄進人雄三郎策一夫徹吉巖武一郎治一蔵朗治雄藏夫誠助馬男平三郎藏德太郎生三吉雄一司郎輝子
-----------------------------	----------------------	--	--	--	---	---	--	---	---	--	--	---	---	---	--	--	---

美術展覧会(11月)

最雪壁蔵鏡那メコ	上界寺の残王のあるコン・デル	川仏の照静智の春市つ	妻像前物智の春市つ	真松溝藤菅渡堀福胡江守足風竹梅本岡村石泉	下田江野辺田田沢藤屋代野沢津間崎田河村田橋木宅本坂延本田中破谷堀田泉川淵方坂口藤崎本里田中	治一二三治生人哲之郎雄基郎子次藏男彦久義雄太郎雄雄雄一作実章介進農淳弘聖功雄郎久友花明尚弥	路室新巫イソラ・ティベパリの或る小像風景朝根色庭娘子形人ヨット輪鵲研究室の西田先生街川雪日浅照内こ泳O女殿れ女門猫月のし服の草い中カーディガ唐招提寺金堂像坐像物れ良(食堂)の二人	鉄の一戸風木是くの路の転法(ドライブ)鵲研究室の西田先生街川雪日浅照内こ泳O女殿れ女門猫月のし服の草い中カーディガ唐招提寺金堂像坐像物れ良(食堂)の二人	屋隅涼女路像風景朝根色庭娘子形人ヨット輪鵲研究室の西田先生街川雪日浅照内こ泳O女殿れ女門猫月のし服の草い中カーディガ唐招提寺金堂像坐像物れ良(食堂)の二人	有遠西根森中島兼足高矢辻田草高大川鶴安岩安桜堀水斎水丸渡塚松鈴広宮家小藤藤山田柳松広武上村吉藤	馬山岡岸条田行立橋島中光宮歳端田達船藤井上藤戸山辺本木木本地永林井代沢浦本永島上田川	義義桂利武真庸堅利実信一敏謹吾真太郎三治悦義雄雄助一郎夫雄郎丸亨三郎夫門子良七郎章了雄司郎慶次	侃春一敬一茂一郎男士平一成榮秋次郎三治悦義雄雄助一郎夫雄郎丸亨三郎夫門子良七郎章了雄司郎慶次	黒ダビメキン浜パピ聖浴室彫ち大立良寛のMichio子像女戦柳像人紫路のま金時女畔ブ子風照て程男情塔態女樹猿人入り	女の売りの娘さ大ド妻堂女内る行く女達'67挑のる代者女畔ブ子風照て程男情塔態女樹猿人入り	鶴手桐野江田井口中沼見齋雨黒熊太高小長片横岡佐倉原山一富長川橋古宮松赤橋矩阿遠高南斎宮瀬真佐三伊神佐坂	島節茂達雄清金三素治嘉幸良邦武義豐錦藏新敏五朝義普次順辰喜信堅太郎成基吉夫作郎庸治郎信一雄衛司坦	甫貢雄人海男一郎六次巖郎治太郎平剛夫四郎介朋治芳八郎男郎堂起照郎三兒郎平太郎成基吉夫作郎庸治郎信一雄衛司坦
----------	----------------	------------	-----------	----------------------	---	---	---	--	---	---	--	---	--	--	--	---	--	---

望清郎伸芳	雄明三郎高之平	佐平也	選生作郎山二彦	雄子水緒鏡郎盛已伸景一平夫鳳造人斧郎弘稔山德実甫周一
西頭三	恒泰健文重清治	為宏実	景正栄立栄友南	不志保芳麻喜芳正朴正金忠英匡章真美正嘉督秀重榮
村藤田藤月	下野智味藤藤木本田子	賀浦石村崎所田上出口谷問田崎木藤山石母保西川合田端田倉合川合坪風		
北加浜内柚	山森越五加加鈴松宮真	大須三寺喜山談安川北二彼張飯宮榎明木久大小河岡東飯勝岡横河西河大松		
茫ソ嫁音天	芸 花 生 統 作 来 土 面 瓶 岐 壺 面 翼 曲 潭 景 道 想 安 文 陽 棚 鳥 盤 影 壺 炎 洗 朝			
風ル	工 器 方 壺 立 つ 伝 習 額 花 都 長 二 蒼 風 幻 踏 影 針 銅 の すい			
原ト花観昇	草花精猷織部方壺輪創鑄スクと壁去凍岩喚翔線保彩水比松彫青鳥古渺無鳥明雷大蒼彫雲牛羅牧響草潮貝す白			
行央智邦彦子昂平璃至郎一信正雄忠郎太吉弘淳夫彦也夫一朗宣田石子五三朗尚示吉三二記穀昭清直龜幸お弥徹子				
弘金礼正寅小枝喜瑠武二阿正舜一國司広敬基泰晶晋文五節青珂濤修藤太叔秀惠進塊三博五延す録敬				
辺里内脇地紫原村辺田畑村野山城引瀬野木宮子田村山野能野村野原山下浦村田垣野川山中田村藤島藤江辺宮				
渡花木山宮羽石中池石蛭山北藤浦今綿市平鈴雨仏本中横中得星中簡久横羽杉杉吉中笹堀長根田石中伊木佐長渡雨				
珠我皮ンツ磁像のちり啓火光桔				
真無脱ビ岐路伸の裸像に生るきど天園業陽極心光未間像腰黎華耀青陽腕をあげた女N朝女く)婦徒子紙像る土女ト観使紋衣女る				
忘明治昂雄三男光光三男秀秀弘二昇郎禧松之治力示三昂三重讓三郎德一寛清彦広樹雄一洲繁象男剛樹一郎夫藏雄治				
不義喜素行判達親夜睿幸伍珪高周治武尚順多勝孝義勇耿秀健稚政大忠清六円一金直宗孫次郎夫藏雄治				
内川形野井野野崎野張野田間村本田村藤田部賀水鏝川沼藤手山坂野藤口川本田木賀藤船下野村田永本波山島谷下				
竹立尾中浅矢堤館岸草戸松西昼木橋安北進松分大清円長佐坂西三矢恵溝中山沢佐古後水木森野和富杉難違大長日				
逅夢つ像像た像K海つ牛象ち夜ソ波婦婦好生文象像鳴女ばと人ブぶ華り婦女華む婦禪心鹿秋女				
遯女白高裸母渚あ青う荒立牡心わ白ト光想想裸裸友創繩望立海腰わな佇二ヨ蝶虎庄散燭裸虎汎太黒老座草親立歩				

美術展覧会(11月)

青銅盤 丸谷端堂
翔西村一忠
萌黄釉角瓶
蒼墟 潭
冥精 想
山 羊
蠟型鑄造「花・鳥」
彫金蝶紋花瓶
日本神話より「海・山譚」
木芸パネル「陽光のしらべ」
ゆらぐの譜
上 古
彫 蒼
赤い四方器
彫金壺「人形劇の魔法使い」
聖吉羊華徒
晨花 盤
深 い 雪
白 弦
布目象嵌鉄皿
クリスタル花器
壺「回想」
古い種子は記憶している
鳥とRADAR
陶 壺「溪」
穹
青銅鳥瓶
壺
瑞鳥瓶
彩若三手壺
飴釉「鳥文」壺
ふくろ姉妹
三彩手付花瓶
和のくれた壺
猴
双耳赫壺
花たち、鳥たち
鶏 壺
妬器花挿
陶 華
懸 垂 瓶

盛籃「方田」
緑釉赤黒花器
金欄手春光
黒孔雀の瓶
宙 日
聖地青 壺
鉄紅扁壺
扁壺
銀飾 穰
漆 飾 河
高村先生像
彫漆「あけぼの」
漆水辺屏風
胡砂の旅陶製額
面時 限
山白染彩遊猿
爽樹間漆二曲屏風
天馬ベガス
桂 たそがれ
迅海春群とんぼ
赤都会憂愁
都化石譚
空 魚紋花瓶
茲環 風
朔 手織錦壁掛
關 遭
人間連作の六「業」
童女と亀
青い森
二曲屏風「彩層」
廻映
転夕カ ラ
嵌鉄釉壺
牡丹の屏風
き も の

飯塚小珥齋
森野嘉光
河村山洋
信田治男
井上鉄之助
井藤舜陶
加藤卓男
加藤春男
松原忠夫
中原直樹
横山抱
伊藤口正
小福沢健
北出塔次郎
三番浦国民
皆川友三郎
佐野猛夫
小林尚光
小皆泰藏
三倉蒲一
青木芳舟
海岸野建
内藤竹史
帖高美治
佐橋節郎
清水崎正
山崎兵衛
楠部弥
井上清
辻 光
山脇洋
般若二
角野弘
大久保久
中村光哉
寺本美茂
小川欣二
加藤月
来野平 利太郎

青銅花器「合流」
乾漆飾壺
菊花の宴飾盆
第二獅子香炉
青銅朱班銅芽生
朝 暎 花 器
鑄銅四方口環耳
花瓶
鑄銅花器
山 婦 来 筥
染色パネル「黎」
庭園の裝飾「梟」
花容「家禽郡遊」
ポーズする女
囁
鑄銅花生寿恵広
蠟型鑄銅花器
「虚」
秋 飭 皿
遙
加賀象嵌金彩花
器
パネ「和」
白 珠
漆屏風「彩苑」
器「耐」
豊 象「游」
刻 華
虹 慈
花 碧
ま っ っ
4人展(小林勝史、川添善郎、西川完司、中田芳治) 2-7 東和画廊
棟方志功展 2-8 日本橋・東急
版画3人展(高岡徹、石和道則、和田吉史) 2-8 ギャラリー磯谷
大倉集古館所蔵品展 2-12月4 大倉集古館
美術文化選抜1967年展 3-8 村松画廊
香月泰男淡彩画展 3-8 松屋
現代名匠作品展 3-8 大丸
静々会日本画展 3-8 小田急
五島美術館名品展 3-15 渋谷・東急
日本民芸館展 3-26 日本民芸館
デュフィ回顧展 3-12月17 国立

中結三田丸中伊北可本成津浅板浜豊須徳川高平井藤城伊小田村鶴中谷村
条城山島東原西間竹田藏坂田賀田原橋石木波本秀裕俊吉三重良博
青哲自不保陶三泰葬登茂永五十辰達勝正八十和介晃健唯秀裕俊吉三重良博
香雄芳忘美山佳三華男寿吉治也秋佐夫州祥司志肇男雄生郎利三三

西洋美術館			ル・アーヴルの	油	彩	1926	裸婦と赤い鉢	油	彩	1942
出品目録			浜と棧橋	カンヴァス		頃	板			頃
(印象主義の継承 1898—1904)			女の肖像 青の地 (モリ夫人)	〃		1927	画架のそばの裸婦	〃		1942頃
自 画 像	油	彩	クロード・ロラン	〃		1927	サント・マクシムの大樹	油	彩	1942頃
自 画 像	〃		海で泳ぐ女と貝	〃		1925-1927頃	ルノワール作《ムーラン・ドラ・ギャレット》による習作	油	彩	1943頃
パリのサン・ジェルヴェー聖堂	〃		埠頭のカジノ	〃		1927	イエールの庭園	油	彩	1943頃
夕暮れのル・アーヴル港	〃		装飾・花とルーヴル	〃		1929頃	片腕をあげて立つアトリエの裸婦	油	彩	1942-1944
サント・アドレスの棧橋	〃		ル・アーヴルのアトリエでの画家とモデル	〃		1929	(晩 年 1944—1953)			
港			デュフィ夫人の肖像	〃		1930	ヴァンスのアトリエ	油	彩	1945
マルティグのカフェのテラス	油	彩	ニースの五月	〃		1930頃	脱穀 青と赤	〃		1945頃
サント・アドレス海岸の風景	油	彩	サン・トロペのホテル・シュブ	〃		1930頃	二つの窓と黄色の飾り机	〃		1948
ル・アーヴルの旗に飾られたヨット	〃		三連画 ポート競争 競馬 ノルマンディー風景	〃		1933頃	オーケストラ	油	彩	1948頃
(フォーヴィスムの時代 1905—1907)			ラ・ヴィ・アン・ローズ	〃		1933	オーケストラ	油	彩	1948頃
ル・アーヴルの競艇の出発	油	彩	ビニュー坊や	〃		1938	自 画 像	油	彩	1948
旗に飾られた街	〃		貝がらをもつ裸婦	〃		1933	アピラ風景	〃		1949
村の通り	〃		トゥルーヴィルの港の入口	〃			闘 牛	〃		1949頃
花の中のジャンヌ	〃		電気の精のためのエスキス	〃		1937	田園で楽を奏する人びと	油	彩	1948頃
(キュビスムの過渡期 1908—1919)			シャイヨー宮のための装飾	〃		1937	田園の音楽家たち	油	彩	1949頃
二つの赤い鉢と彫像	油	彩	装飾のための習作 セーヌとその支流	〃		1937頃	虹とキオスク	〃		1949頃
エスタックの樹々	〃		探 険 者 た ち	〃		1938	陸橋と麦の束	〃		1949頃
エスタックのアーケード	〃		学 者 た ち	〃		1938	キオスクと虹	〃		1949頃
バラ色の衣裳の夫人	〃		ランゲルでの刈入れ	〃		1938頃	コンポジション キオスクと帆船	〃		1949頃
赤い回教寺院	〃		兵 士 の 行 進	油	彩	1938頃	風 景	〃		1949頃
三つの積藁	〃		赤い長椅子のあるアトリエ	油	彩	1939	赤い彫刻のある画家のアトリエ	油	彩	1949
カジノ「マリー・クリスティーン」とル・アーヴルの浜	〃		ル・バンの種畜場	〃		1939頃	黒い貨物船	〃		1950頃
廃 園	〃		ヴァイオリンをもった緑と白のアルルカン	〃		1940頃	黒い貨物船	〃		1950頃
庭のある家	〃		ヴァイオリンをもった赤と白のアルルカン	〃			ヴァイオリンのある静物 パッハ頌	〃		1952
(色調の体系の成熟と形態からの分離 1919—1944)			二つの赤い鉢と彫像	油	彩	1942以前	クロード・ドビュッシー頌	〃		1952
サン・クルー	油	彩	アトリエの裸婦	〃		1942頃	アンフィトリテ	〃		1953-1953
ル・アーヴルの海祭	〃						グワッシュと水彩			
魚と果物	〃						イエールの公園	水	彩	1913
							紙			

美術展覧会(11月)

ボワレのための習作	水彩	彩	1920頃
夏のための衣裳	〃		1920
ル・アーヴルの海	〃		1924-1925
モロッコの門	グワッシュ紙		1925
マントンのサン・ミシエル聖堂前庭	水彩	彩	1927頃
ニースのベ・デザンジュ	〃		1927頃
騎手の計量	水グワッシュ	彩	1930頃
クイーン・メアリ号	水彩	彩	1937
空の習作	グワッシュ紙		1937頃
波	〃		1937頃
海	芋水紙	彩	
麦	グワッシュ紙		
麦畑又は刈入れ	水彩	彩	
ヴェネツィアサン・ジョルジョ・マジョーレ	〃		1938
ペルピニャンのサン・ジャン墓地	〃		1942頃
農家の中庭	〃		1943頃
ヴァンスのアトリエの裸婦	グワッシュ紙		1943頃
ムステイエ焼のスープ容れ	水彩	彩	1943頃
ペルピニャンのカーニヴァルI	〃		
ペルピニャンのカーニヴァルII	〃		
ペルピニャンのカーニヴァルIII	〃		
アビラ風景	〃		1949
楽	〃		
テレビジョン・スタジオ	〃		
ニューヨークの海兵隊の分列行進	〃		1950頃
アメリカの看板広告	ペン紙	水彩	1950頃
展覧会	鉛筆紙	水彩	
デッサン			
リチャット・カヌードの肖像	黒紙	鉛	1914頃

兵士	ペン紙		1914頃
ポール・クロデルの肖像	墨によるラヴィ紙		1921
デュフィ夫人	鉛筆紙		1920頃
デュフィ夫人	色鉛筆		
物思う女	クレヨン紙		
ギュスターヴ・コキオの肖像	鉛筆紙		1924
水瓶と裸婦	〃		
立てる裸婦	墨紙		1929
裸婦	黒鉛紙		
裸婦	ペン紙		1930頃
後向きの裸婦	黒鉛紙		
画家とモデル	青インク紙		
海	景コンテ紙		
海	景	〃	
帆船と貨物船	鉛筆紙		
マルセーユの貨物船	〃		
軍艦	〃		
梨の籠	〃		
プロヴァンスの村	〃		
村	〃		
犬	筆墨紙		
木立ち	鉛筆紙		
海	芋白	墨	
市場にて	黒鉛紙		
麦	ペン紙		
麦	ペン紙		
鳥	ペン紙		
ラ・サルダースI	鉛筆紙		
ラ・サルダースII	〃		
葡萄の苗木	鉛筆紙		
田舎の街道	〃		
ベンチ	〃		
木立ち	〃		
コマンジュの脱穀	黒紙	鉛	1943
コマンジュの脱穀	黒鉛	淡彩	1943
コマンジュの脱穀	インク	単	1943
コマンジュの脱穀	黒紙	鉛	1943
コマンジュの脱穀	黒紙	鉛	1943
オルジュヴィル	墨紙		

タオルミーナ	鉛筆紙		
マルセーユ港と市役所	ペン紙		
聖堂内部	サン・ト・マリー(?)	黒鉛筆紙	
霊柩車	筆墨紙		
ドーヴィル	鉛筆紙		
ドーヴィルの港	〃		
ヴィレルヴィル	墨紙		
招待日	ペン紙		
楽隊と騎士	〃		
庄延機	墨紙		
ペルピニャンのアラゴ広場	鉛筆紙		
アトリエ	筆墨紙		
車椅子置場	ボールペン紙(紙ナブキン)		1950頃
テレビ・カメラ	ボールペン紙		
談話	ボールペン紙		
研究生と舞台裏	ボールペン紙		
メキシコの音楽師たち	鉛筆紙		
版 画			
浴女	木版		1906
ダンス	〃		1910
愛	〃		1910
漁り	〃		1910
《動物誌》連作	〃		
竖琴《動物誌》のための挿絵	〃		1910
西洋南瓜《動物誌》のための挿絵	〃		1910
オルフェ《動物誌》のための挿絵	〃		
鷺	〃		
いるか	〃		
孔雀	〃		
連合軍	色彩木版		1915頃
ノートル・ダーム・ド・ボンヌ・シャンス	〃		1915頃
国際連盟(自由と権利の勝利のために)	〃		1915頃
大戦の終り	〃		1915
フランス軍の制服	木版		1916頃
浴女	石版		1918頃

クロード・ドビュッシーの墓 石 版 1920
 海 辺 の 馬 〃 1925
 髪を結う女 エッチング 1930 頃
 タビスリー
 パ リ 羊毛と絹 1937
 美 し き 夏 タビスリー (毛織) 1941
 二つの赤い針と彫像 〃 1942
 田 園 の 奏 楽 〃
 プリント布地
 海軍長官のレセプション プリント布 地 1925
 カジノでのブリッジあそび 〃 1925
 陶 器
 黒地にバラ色の浴女の壺 陶 器 1925
 貝がら模様の壺 〃
 陶板 デュフィ夫人の肖像 〃
 陶 板 貝 〃 1925
 陶板 二人の裸婦 〃
 陶板 二人の浴女 〃
 陶板 ソディアックの魚 〃
 陶板 浴女 〃 1926
 アパールの庭 〃
 伊藤玄作画展 4—8 ヤマト画廊
 抒情派展 5—10 巴里画廊
 清水源可個展 5—10 竹川画廊
 17回禮会展 6—11 資生堂ギャラリー
 高松健太郎近作展 6—11 文芸春秋画廊
 秋山いわお版画展 6—11 養清堂画廊
 小寺健吉個展 6—11 日動サロン
 2回土展 6—11 ときわ画廊
 川上尉平油絵展 6—11 昭和画廊
 7回河上一也個展 6—11 丸善画廊
 空野八百蔵個展 6—11 大阪・ハクホウ画廊
 1回画廊選抜絵画展 6—11 大阪・国道画廊
 和光美術展 6—11 和光
 多田栄二個展 6—11 新橋画廊
 浜野英夫・西田忠重2人展 6—11 全線画廊

高岸昇個展 6—11 樺画廊
 伊藤美智子・星野福枝2人展 6—11 サエグサ画廊
 5回具現東京展 6—11 いう画廊
 坂本保個展 6—11 みゆき画廊
 田川文恵個展 6—11 ヨコヤマ画廊
 赤星三郎・中西新太郎2人展 6—11 下村画廊
 尚美展 6—11 壺中居
 田沢茂個展 6—11 スルガ台画廊
 川島余音子水彩画個展 6—11 中央公論ビル画廊
 シルバーノ・ベラルディネリ個展 6—11 ギャラリー新宿
 小川イチ近作展 6—12 文芸春秋画廊
 2回原健爾個展 6—12 あかね画廊
 岸田悦雄個展 6—12 銀芳堂画廊
 馬場一美個展 6—12 シロタ画廊
 椿操個展 6—12 夢土画廊
 岩井喜一個展 6—12 銀芳堂画廊
 衛藤佳功個展 6—12 おぎくぼ画廊
 関頼武個展 6—15 兜屋画廊
 吉原則雄個展 7—11 ギャラリー新宿
 橋本三郎個展 7—11 フォルム画廊
 小谷英紀個展 7—12 ルナミ画廊
 白士会展 7—12 セントラル美術館
 鈴木信太郎個展 7—12 三越
 ジャネット・リーチ作陶展 7—12 三越
 岡信孝個展 7—12 高島屋
 17回丹楓会 7—12 高島屋
 松下貞之個展 7—12 椿近代画廊
 新進版画家10人展 7—12 銀座・松坂屋
 立花みどり個展 7—12 ムサシ画廊
 鬼頭敏郎・三輪孝光日本画2人展 7—12 石田画廊
 森山哲和個展 7—13 梅原画廊
 谷村敬八郎石彫展 7—13 秋山画廊
 岡崎克彦個展 7—14 椿近代画廊
 6回国際形象展 7—19 三越

出品目録

花	油彩	ボール・アイズピリ
ベニスの夕暮	〃	〃
静物 A	〃	〃
静物 B	〃	〃
静物 C	〃	〃
ば ら	〃	朝井閑右衛門
小鳥と遊ぶピエロ	〃	〃
上 陸	〃	〃
口笛のロベルト	〃	〃
東方への旅	〃	〃
町 回 り	〃	〃
宵 月 A	〃	〃
宵 月 B	〃	〃
春 A	〃	〃
春 B	〃	〃
人	〃	麻生 三郎
バレアレス島の港	〃	ウージェーヌ・バブレーヌ
パ リ	〃	〃
漁 船	〃	〃
青 い 壺	〃	〃
多彩なコロシント	〃	〃
白 い 巨 石	〃	ギュスターフ・ボリン
花咲くリンゴの木	〃	〃
ル・コレポールの街	〃	〃
松 の 木	〃	〃
アルビーユ風景	〃	〃
パリのマロニエ	〃	〃
リュクサンブール	〃	〃
岩	〃	〃
舟 あ そ び	〃	ドニーズ・ブールドゥー
休 息 A	〃	〃
青 い 日 傘	〃	〃
陽を浴びて	〃	〃
海 辺	〃	〃
海 岸 に て	〃	〃
赤 い 日 傘	〃	〃
休 息 B	〃	〃
赤 い テ ン ト	〃	〃
海 岸	〃	〃
散 歩 A	〃	〃
砂 浜 の 散 歩	〃	〃

美術展覧会(11月)

パ ラ ソ ル 油彩	ドニーズ・ブ ウルドワー	髪をとかす二人 の少女	油彩	レオナルド ・フジタ	少 花	女 油彩	林 武
散 歩 B	ク	雪の中の二人の 生徒	ク	ク	静 物	ク	ク
テントの下	ク	果物のある静物	ク	ク	風 景	ク	フランソワ ・オルメ
桜 並 木	ク	木のある風景	ク	福井良之助	花	ク	ク
花	ク	赤い屋根	ク	ク	う さ ぎ	ク	ク
川の 小 舟	ク	田 園	ク	ク	アンチーブ A	ク	樋口 加六
ルベロン風景	ク	セイト市場にて	ク	ジャン・フ サロ	ラナンキュラス	ク	ク
秋 草	ク	タウン湖畔の人 々	ク	ク	アンチーブ B	ク	ク
白い服の女	ク	ラングドックの 秋	ク	ク	弾 く 人	ク	広瀬 通秀
灰色の服の女	ク	はたんきょうの 木	ク	ク	ト レ ド	ク	今関 一馬
庭	ク	公 園	ク	ク	夜のカテドラル	ク	ク
花	ク	朝 の 屋 根	ク	ク	母 子	ク	フェリ・イ スカン
花 瓶	ク	釣 人 たち	ク	ク	裸 婦 A	ク	ク
コップと籠のあ る静物	ク	農 村 の 祭	ク	ク	裸 婦 B	ク	ク
いちごのある静 物	ク	中央市場の屋根	ク	ク	運 河	ク	ジャン・ジ ヤンセム
木 心 塑 像	ク	港 の 入 口	ク	ク	ベ ニ ス	ク	ク
果 樹 園	ク	浜 遊 び	ク	アレクサン ドル・ガル ベル	椅 子 など	ク	金子 徳衛
シシリー島にて	ク	宮 殿	ク	ク	七 タ A	ク	春日部 洋
黒服のソフィー	ク	満 ち 潮	ク	ク	七 タ B	ク	ク
リントン港	ク	灯 台	ク	ク	ウエスト・エン ド通り	ク	香月 泰男
茂 み の 花	ク	堤	ク	ク	ヌムール風景	ク	木村 忠太
四月の花	ク	海 浜 の 人 々	ク	ク	冬のマルヌ川	ク	ク
祭	ク	ダ リ ア	ク	ルネ・ジェ ニー	マルヌ川の運河	ク	ク
森 の 樹	ク	ひ な げ し	ク	ク	鏡 の 中	ク	木村 克朗
ブレットン港	ク	貝 が ら	ク	ク	す が た み	ク	ク
太 陽	ク	ブイゾーの麦畑	ク	ク	りんごの園	ク	北川 民次
カラントックの海	ク	風 景 A	ク	ジル・ゴリ チ	陶工の家族	ク	小林 和作
漁 船	ク	花 物 皿	ク	ク	海 国 の 春	ク	ク
サクレクールの窓	ク	風 景 B	ク	ジル・ゴリチ	北 国 の 春	ク	ク
ベニスの運河	ク	花 B	ク	ク	ビーナス	ク	小松崎邦雄
ベルイルの漁船	ク	裸 婦	ク	ポール・ギ アマン	ノートルダム	ク	ク
帽子をかぶった 女	ク	夢 見 る 女	ク	ク	北アフリカの家	ク	ク
婦 人 像	ク	猫	ク	ク	テラスよりの眺 め	ク	ク
静 物 水彩	ク	男 と 女	ク	羽生 出	公 園	ク	ク
阿 蘇 油彩	ク	男 室	ク	ク	窓から見た公園	ク	ク
三人の少女	ク	静 女	ク	ク	草 原	ク	ク
	ク	赤い衣	ク	原 精一	冬 の 庭	ク	ク
	ク	青い衣	ク	ク	セース河岸A	ク	ク
	ク	スペインの坂道	ク	ク	セース河岸(ジ ヤンダーク橋)	ク	ク
	ク	石 廊 崎	ク	林 武	花	ク	ク
	ク	富 士 山	ク	ク	イ ポ ー ル	ク	ク
	ク		ク	ク	ルーアン風景	ク	ク
	ク		ク	ク	白 梅	ク	三雲祥之助

月と海と人	油彩	三雲祥之助
鳥と紅梅	〃	〃
三つの桃	〃	〃
月と海梨	〃	〃
二つの梨	〃	〃
並木道	〃	南大路 一
用水	〃	〃
二人像	水彩	ヘンリー・ムア
シャトー・ギヤール	油彩	村山 密
ラ・ロッシュ・ギュイヨン	〃	〃
腰かける	〃	中間 冊夫
人 A	〃	〃
人 B	〃	〃
いづみ	〃	中根 寛
うみべ	〃	〃
早春風景	〃	野口弥太郎
アイヌの熊祭	〃	〃
門司風景	〃	〃
海峽風景	〃	〃
蜚の市の酒場	〃	織田 広喜
グントル・ドスキルセン(ウィーン)	〃	〃
見物席(オペラ座)	〃	〃
花市	〃	〃
橋のある風景(サンドニ)	〃	〃
少女	〃	〃
見物席(スペイン)	〃	〃
スペイン風景	〃	〃
彫刻のある静物	〃	荻 太郎
子供	〃	〃
鳥	〃	〃
街角	〃	荻須 高徳
パリ郊外	〃	〃
運河	〃	岡 鹿之助
城	〃	〃
田舎の礼拝堂	〃	岡田又三郎
山路	〃	〃
横たわる女	〃	小此木桂作
小さな湖	〃	〃
独活と鰯	〃	奥谷 博
海星	〃	〃
夢の花園	〃	アネット・オリバリー
エキゾティックな花	〃	〃
海辺の子供	ガッシュ	〃

パ ラ ダ イ ス	ガッシュ	アネット・オリバリー
野原の少年	〃	〃
白い鳥	〃	〃
独理想	油彩	小野 末
修道僧	〃	〃
青い像	〃	大沢 昌助
プロフィール	〃	〃
白い家	〃	〃
葉のはえた頭	水彩	ジョン・パイク
作品 A	〃	〃
作品 B	〃	〃
作品 C	〃	〃
作品 D	〃	〃
作品 E	〃	〃
作品 F	〃	〃
花のある構図	フレスコ	ブルーノ・サエッティ
バラのある構図	〃	〃
太陽のある構図	〃	〃
緑の中の村	油彩	斎藤 長三
奥 秋 父	〃	〃
山に入る路	〃	〃
材 木 山	〃	〃
エベレスト	〃	清野 恒
シェルパの祭	〃	〃
パリ風景	〃	志邨 武久
裸婦坐像	〃	〃
赤壁の見える漁村	〃	〃
ニース旧港	〃	高畠達四郎
月 明	〃	鷹山 宇一
不二	〃	〃
舟 泊 り	〃	竹谷富士雄
帰 舟	〃	〃
新聞売り A	〃	田中阿喜良
新聞売り B	〃	〃
朝 風	〃	田中 岑
マン トン 風景	〃	コスチア・テレスコピッチ
酒瓶のある静物	〃	〃
モンパルナス	〃	手代木克信
暗い窓	〃	〃
ロワレ風景	〃	ピエール・トリッチ
春	〃	〃
河岸の家	〃	〃
アムステルダム港	〃	ジャック・トラフィムス
青空のスタンド	〃	〃

海 辺	油彩	ジャック・トラフィムス
黄色いマーガレット	〃	〃
群 像	ガッシュ	脇田愛二郎
男と鳥籠	油彩	脇田 和
後向きの裸婦	パステル	クロード・ワイズバッシュ
曲馬師 A	油彩	〃
曲馬師 B	〃	〃
曲芸師	〃	〃
女横たわる	〃	山川 輝夫
電 灯	〃	〃
サン・マルコ	〃	山下 充
コルシカ	〃	〃
光をたたえる	〃	横地 康国
勝本富士雄個展	7—25	第七画廊
近代日本画名作展(後期)	7—26	山種美術館
吹田文明・勝呂忠2人展	8—12	大阪・梅田画廊
吉岡康幸個展	8—14	紀伊国屋画廊
中野和高回顧展	8—19	都美術館
三輪雄之助個展	8—22	日本橋画廊
20代のMOB	9—14	村松画廊
坂田武総・鈴木善雄2人展	9—14	東和画廊
杉ノ芽会展	9—14	銀座ヤマト画廊
現代フランス作家新作展(後期)	日	本画廊
井上三綱展	9—14	壱番館画廊
寺田春式展	10—15	松屋
鈴木充朗個展	10—20	ポール・ギャラリー
三彩素描展	10—25	サエグサ画廊
丸の内店		
星崎孝之助個展	10—30	東邦画廊
朝倉響子彫刻展	10—12月9	ギャラリー・キューブ
高山無双甲斐路展	11—16	竹川画廊
2回渡辺不二根日画展	11—16	竹川画廊
児玉幸雄個展	11—19	京王梅田画廊
斎藤義重個展	11—12月2	東京画廊
加藤登美子スケッチ展	11—12月10	

美術展覧会(11月)

風月堂		椿近代画廊		堀	割	1927
1 回山内任木版画展 13—18 養清堂画廊		新志彰 5 人展 13—18 椿近代画廊		海 辺 風 景		1928
村山武久・折原久義習作 2 人展 13—18 中央公論画廊		グループ「CYCLONE」展 13—18 ギャラリー新宿		運 河		1927
7 回芝田米三個展 13—18 サエグサ画廊		8 回 F M (フレスコ・モザイク) 展 13—19 文芸春秋画廊		入 江		1929
桐野江節雄個展 13—18 日動サロン		塚本惇個展 13—19 銀芳堂画廊		城		1931
五十嵐二郎個展 13—18 日動サロン		鈴木瑞穂個展 13—19 銀芳堂画廊		城 積	雪	1933
3 回伊藤一路個展 スルガ台画廊		稲熊万栄個展 13—19 あかね画廊		聖 堂		1935
小島福次個展 13—18 画廊クリスタル		三井泉個展 13—19 シロタ画廊		魚		1938
酒井勝久・能登原弘芳 2 人展 13—18 ルナミ画廊		2 人展(笹井進・東谷喜芳) 13—19 夢土画廊		地藏尊のある雪の山		1939
桜庭彦治油画個展 13—18 ギャラリー・セブン		坂本辰雄個展 13—19 おぎくぼ画廊		干 柿		1943
独立美術代表作家展 13—18 千代田画廊		加賀谷武個展 13—25 サトウ画廊		水 源 地		1944
11 回ナガハマ重太郎個展 13—18 下村画廊		1 回大塚亜紀展 14—18 いとう画廊		橋		1949
野間伝治銅版画展 13—18 大倉画廊		秋野卓美個展 14—18 フォルム画廊		橋		〃
進藤蕃個展 13—18 大阪・梅田画廊		清水六兵衛作陶展 14—19 三越		花・窓 外 雪		1950
新居田郁夫個展 13—18 梅花亭ギャラリー		5 回潮田暗哉彫刻展 14—19 三越		燈 台		〃
秋場洋二グループ小品展 13—18 新橋画廊		19 回白寿会絵画展 14—19 高島屋		観 測 所		1951
安藤育宏・平賀とくじ 2 人展 13—18 全線画廊		文晴会展 14—19 上野・松坂屋		遊 蝶 花		〃
松本百司個展 13—18 櫟画廊		原武典彫刻展 14—20 秋山画廊		灯 台		1953
小田忠個展 13—18 中林画廊		7 回刊彫刻展 15—20 ヤマト画廊		と ん ね る		〃
玉井徳太郎個展 13—18 文芸春秋画廊		原初会展 15—20 村松画廊		三 色 す み れ		〃
小林千枝個展 13—18 みゆき画廊		筒井年男個展 15—20 村松画廊		堀	割	〃
コンテ展 13—18 銀座画廊		山内成美個展 15—20 村松画廊		壊されなかった礼拝堂		〃
永田力個展 13—18 南天子画廊		久保田すみ子個展 15—20 松村画廊		三 色 す み れ		1954
北川金治個展 13—18 昭和画廊		秋耕会油絵展 15—23 ギャラリー・アルカンシェル		三 色 童		〃
藤井孝次朗個展 13—18 ムサシ画廊		岩崎鐸スケッチ展 15—30 ギャラリー・オカベ		波 止 場		〃
土方久功水彩小品展 13—18 此花画廊		白石保之個展 16—21 東和画廊		川 の ほ と り		〃
坂野三郎個展 13—18 造形ギャラリー		佐藤規子油絵新作展 16—22 兜屋画廊		鉄仙花とカラジウム		1955
木村光江個展 13—18 中央公論丸ビル画廊		渡辺貞雄版画展 16—30 フランネル・ギャラリー		祝 い の 花 籠		〃
北村善平人体デッサン展 13—18 ときわ画廊		長谷川潔・駒井哲郎銅版画展 17—21 松屋		雪 の 発 電 所		1956
3 人展(横島・大住・隠地) 13—18		丹阿弥吉個人展 17—22 日本橋・東急		発 電 所		〃
		5 回丹風会洋画展 17—23 伊勢丹		雪 の 牧 場		1957
		岡鹿之助展 17—29 東急本店		山	麓	〃
		出品目録		献 花		1958
		自 画 像 1924		風 景		〃
		信 号 台 1926		石 造 り の 家		1960
		滞 船 1927		望 楼		〃
		ピレネー山麓 〃		粉 ひ き 場		1961
		礼 拜 堂 〃		城		1962
				家 屋 再 建		〃
				城		〃
				群 落(B)		〃
				粉 ひ き 場		〃
				廃 墟		〃
				群 落(C) 雪		〃
				古 村 の 一 角		〃
				群 落(A)		〃
				風景(工場風景)		〃
				城		〃
				さぼてんの花		〃
				信 号 台		1962—3

丘(林間の城) 1963
 村 落
 赤 い 花
 水 上 の 館
 丘 陵
 城
 グロキシニアとあざれあ
 林
 た き 火
 聖 堂
 花
 1964
 村の発電所
 献 花
 無線中継所
 か わ は ぎ
 魚
 1965
 礼 拜 堂
 水のある城
 堀割のある城
 塔
 小村の礼拝堂
 海 辺 孤 城
 群落(廃墟のある)
 砦
 城
 城
 粉 ひ き 場
 1966
 花 と 廃 墟
 風 景(城)
 僧 院
 城 塞
 三 色 す み れ
 献 花
 三色スミレ(金地)
 1967
 雪の無線中継所
 三 色 ス ミ レ
 燈 台
 三 色 す み れ
 信 号 台
 風 景
 三 色 す み れ
 水谷光江デッサン展 18—24 紀伊
 国屋画廊
 小室富司作品展 18—24 椿近代画
 廊
 長沢久敏個展 18—25 瑞穂画廊
 山川コレクションと所蔵品展 18—
 24 石川県立美術館
 2回寿松木忠勝個展 19—24 ルナ
 ミ画廊
 下田悌二郎個展 19—24 ムサン画

廊
 プラスアルファ展 19—24 椿近
 代画廊
 狩野絃信個展 19—25 スルガ台画
 廊
 稲山豊一画展 19—12月2 画廊ク
 リスタル
 2回志村ふくみ作品展 20—25 資
 生堂ギャラリー
 田中三朗画展 20—25 日動サロン
 鹿江恭夫画展 20—25 養清堂画廊
 箕口博・桶谷京子2人展 20—25
 此花画廊
 139回現代版画展 20—25 わたな
 べアート・サロン
 北八代小品展 20—25 飛鳥画廊
 六彩会展 20—25 梅花亭ギャラリ
 ー
 森島忠夫画展 20—25 新橋画廊
 田中米吉画展 20—25 樺画廊
 藤井哲画展 20—25 サエグサ画廊
 青令会 20—25 大倉画廊
 造形集団「新層」展 20—25 いと
 う画廊
 寺島竜一画展 20—25 みゆき画廊
 小林恒火子画展 20—25 あかね画
 廊
 山口吉旺画展 20—25 ヨコヤマ画
 廊
 三谷長博画展 20—25 昭和画廊
 武者小路実篤画展 20—25 壺中居
 七人会展 20—25 丸善画廊
 関みちこ画展 20—26 文芸春秋画
 廊
 児玉彦三展 20—26 文芸春秋画廊
 上野尚子画展 20—26 銀芳堂画廊
 福田嘉和・後藤隆夫2人展 20—26
 シロタ画廊
 若槻菊枝画展 20—26 夢土画廊
 山領マリ画展 20—26 おぎくぼ画
 廊
 原田政雄画展 20—26 ときわ画廊
 八木伸子画展 20—30 楡の木画廊
 5人の日本画家(大島哲也、水谷勇
 夫、三上誠、中村正義、星野真吾)
 20—12月2 日本画廊
 同時代秋季展 20—12月2 南天子
 画廊
 4回長岡現代美術賞展 20—1月30
 長岡現代美術館
 出品目録

負 の 球 伊 藤 隆 康
 Heart の モビール 田 中 信 太 郎
 11月 今 井 祝 雄
 Pink Balloon 福 岡 道 雄
 作品 Work 三 木 富 雄
 ジュンジュン 最 上 寿 之
 作品 Work 湯 原 和 夫
 作品 Work 山 口 勝 弘
 枇 杷 デビット・アネ
 ズリー
 空の住民のため アンソニー・ベン
 のマント ジャミン
 Casb 3'67 バリ・フラナガ
 ン
 色を吹きつけた キ ム ・ リ ム
 銅 フランシス・モ
 A ・ B ・ C ーランド
 Y デリック・ウッ
 ドハム
 す ず め 蛾 マイケル・サン
 ドル
 尚美日本画展 21—25 中央公論画
 廊
 国際形象展 21—26 大阪・大丸
 紅土会展 21—26 三越
 宇田荻邸日本画展 21—26 三越
 麻田辨次ミニアチュール展 21—26
 高島屋
 4回雄展 21—26 村松画廊
 24回サロン・ド・ジュワン展 21—
 26 ヤマト画廊
 10回青星会水彩展 21—26 下村画
 廊
 9回爆光会展 21—26 銀座・松坂
 屋
 茅同人グループ展 21—26 石田画
 廊
 米坂ヒデノリ彫刻展 21—27 秋山
 画廊
 フォルム7人展 21—12月2 フォ
 ルム画廊
 勝一晃油絵展 22—27 西村画廊
 3回グループ赤トンボ展 23—28
 巴里画廊
 佐川敏子油絵展 23—28 竹川画廊
 秋田健三画展 23—28 東和画廊
 晨松会日本画展 23—29 松屋
 堀内規次画展 23—29 京王梅田画
 廊
 日本画巨匠新作展 23—29 小田急
 福井良之助画展 23—12月5 日本
 橋画廊

宮下貞之介新作油絵展 24—29 大丸
 彩光会日本画展 24—29 大丸
 1 回いぶき会展(橋本勝、西村駿一、小沢政雄、金子太郎、加藤泰子、加藤正明、中原史人、有賀温、阿部武、佐々木功、小島善太郎) 24—30 壱番館画廊
 下地一丸水彩・ペン画展 24—30 ギャラリー・アルカンシェル
 大森翔衛油絵新作展 24—12月3 兜屋画廊
 アラン・ダーカンジェロ展 24—12月9 南画廊
 渡辺真弥・坂中功一郎2人展 25—30 ルナミ画廊
 鈴木善久油絵個展 25—30 銀座画廊
 伴勝雄個展 25—30 ムサシ画廊
 グループ「だん」展 25—30 椿近代画廊
 グループ展(田淵隆三他) 26—12月2 紀伊国屋画廊
 小野政吉個展 27—12月1 丸善画廊
 5 回レアリテ展 27—12月2 日動サロン
 山崎隆夫身辺小品展 27—12月2 みゆき画廊
 張替正次個展 27—12月2 文芸春秋画廊
 1 回大東読画展 27—12月2 中央公論画廊
 9 回朱青会展 27—12月2 資生堂ギャラリー
 15 回江藤哲個人展 27—12月2 サエグサ画廊丸の内店
 田代雪江・晴子母子展 27—12月2 養清堂画廊
 上田臥牛個展 27—12月2 大阪・日動画廊
 滝川嘉子展 27—12月3 文芸春秋画廊
 モリヤカナメ個展 27—12月3 ギャラリー・セブン
 塚谷政義個展 27—12月2 梅花亭ギャラリー
 設楽章個展 27—12月2 全線画廊
 武留井義男個展 27—12月2 樺画廊
 野村克己個展 27—12月3 銀芳堂

画廊
 7 展 27—12月2 ヤマト画廊
 竹内三郎個展 27—12月2 ヤマト画廊
 近藤知康個展 27—12月2 村松画廊
 エコール・ド・N展 27—12月2 村松画廊
 小穴竹豊個展 27—12月2 サトウ画廊
 大田真雅個展 27—12月2 東金堂ギャラリー
 村田瑞枝個展 27—12月2 大倉画廊
 青本憲一画展 27—12月2 いう画廊
 御正伸水墨展 27—12月2 あかね画廊
 松本曼版画展 27—12月2 シロタ画廊
 三宅すゝ個展 27—12月2 昭和画廊
 グループVIO展 27—12月2 下村画廊
 吉城弘滞欧作展 27—12月2 中林画廊
 森田英二個展 27—12月2 村松画廊
 山田三千子個展 27—12月3 夢土画廊
 小野政吉個展 27—12月1 丸善画廊
 高島文彦彫刻展 27—12月2 ときわ画廊
 藤井律子個展 27—12月2 スルガ台画廊
 藤田武個展 27—12月3 おぎくぼ画廊
 片岡球子日本画展 28—12月3 三越
 日下賢二版画展 28—12月4 秋山画廊
 現代絵画小品展 28—12月25 第七画廊
 日本画小品展 28—12月10 石田画廊
 グループ壁12回展 29—12月4 竹川画廊
 グループあみ展 30—12月5 東和画廊

12 月

岩間正男個展 1—5 盛岡・エフワン画廊、岩手教育会館
 1 回火山展 1—6 日比谷画廊
 10 回彩光会日本画展 1—6 大丸
 弘田曉子個展 1—6 ルナミ画廊
 8 回森下小枝子個展 1—6 京王・梅田画廊
 大嶋英子・小田切ようこニカワエ展 1—6 椿近代画廊
 野人画会展 1—6 椿近代画廊
 6 回新鋭作家日本画展 1—7 伊勢丹
 日本ガラス絵協会展 1—10 ギャラリー・アルカンシェル
 16 回なにわ会展 1—10 大阪・梅田画廊
 福井良之助個展 1—11 日本橋画廊
 関根京子個展 1—11 檜の木画廊
 高野譲ヨーロッパスケッチ展 1—15 お茶の水・画翠レモン
 日本画こころ 1—24 山種美術館
 フランス近代美術展 1—20 東急本店
 中本達也展 1—13 壱番館画廊
 有海庄門油絵個展 2—7 丸善画廊
 勅使河原蒼風の彫刻展 12月3—24 京都国立近代美術館

出品目録

クロイカズチ 木・鉛 1953
 アマツカミ ク 1953
 ホノイカズチ 木・しんちゅう 1955
 ククノチ 木 1955
 カリ 木・鉄 1955
 オトヒメ 木・しんちゅう 1956
 ヤヒロ 鉄 1955
 ウズメ 1957
 オロチ 木・しんちゅう 1957
 イズモ しんちゅう 1959
 アシハラ 木・しんちゅう 1959
 マガタ 木 1959
 タチ 木・しんちゅう 1959
 クモ 木・銅 1960

ム サ シ 鉄 1960
 タ ギ ツ 木・しんち 1960
 ゅう
 ト ヨ タ マ 木・アルミ 1960
 ニウム
 カ グ ヤ 木 1960
 ス サ ノ オ ク 1960
 ア マ ツ ヒ 木・鉄・し 1960
 んちゅう
 イ ハ ツ チ 木 1961
 イ カ ズ チ 木・しんち 1961
 ゅう
 ヤ エ ガ キ 木 1961
 ア シ ナ ズ チ しんちゅう 1961
 ア マ ツ ヒ 石 1961
 イ ナ バ しんちゅう 1962
 サ オ ビ コ 木 1962
 イ ザ ナ ギ 木・しんち 1962
 ゅう
 ヤオヨロズのカ ミガミ(六体) 木 1967
 ト リ カ ミ 木・しんち 1967
 ゅう
 イ ワ ヤ 木・鉄・し 1967
 んちゅう
 ヤ ク モ 木 1962
 ミ コ ト ク 1962
 ヤ ガ メ 木・しんち 1963
 ゅう
 ツ ク ヨ ミ 木 1962
 ネ ノ ク ニ 木・アルミ 1963
 ニウム
 オオイカズチ 木・しんち 1963
 ゅう・石
 ホ コ しんちゅう 1963
 ツ マ ゴ メ 木・卵の殻 1964
 ミ マ キ 木 1964
 ホ ホ デ 木・しんち 1964
 ゅう
 コ ダ ネ しんちゅう 1964
 ハ ニ ヤ マ 木・しんち 1964
 ゅう
 カ ツ ラ 木 1965
 ヤ チ ホ コ 鉄 1965
 ハ ニ ヤ ス ク 1965
 ミ コ ブロンズ 1965
 チ ギ リ ク 1966
 ヤオヨロズ 鉄・しんち 1966
 ゅう
 コ ロ モ 木 1966
 カ ガ セ オ ブロンズ 1966
 フ エ ク 1966
 ト ド ロ キ 木・しんち 1966
 ゅう
 ミ タ マ ブロンズ 1966
 ハ ハ 木・しんち 1966
 ゅう

ツ マ ゴ メ ブロンズ 1966
 ク ク リ ク 1967
 カ ズ ラ ク 1966
 ク ナ ト 木・しんち 1966
 ゅう
 フ ナ ト ク 1966
 ネ サ ク しんちゅう 1966
 ク サ ナ ギ ブロンズ 1967
 ヤオヨロズのカ ミガミ(六体) 木 1967
 ト リ カ ミ 木・しんち 1967
 ゅう
 イ ワ ヤ 木・鉄・し 1967
 んちゅう
 新世紀仲間の会 3—8 ヤマト画廊
 TRY展 3—8 村松画廊
 奥村貞宏・水口普介2人展 4—9
 みゆき画廊
 福沢一郎スケッチ展 4—16 ギャ
 ラリー・おかべ
 仁戸部弓彦・鈴木森繁2人展 4—
 10 シロタ画廊
 彫刻4人展 4—10 夢土画廊
 松尾登志個展 4—9 中央公論丸
 ビル画廊
 神野八左衛門個展 4—9 サエグ
 サ画廊丸の内店
 莫美術展 4—10 紀伊国屋画廊
 小松崎広子、佐伯正夫、本間一文3
 人展 4—9 スルガ台画廊
 村田高詩個展 4—10 おぎくぼ画廊
 斎藤三郎個展 4—10 銀芳堂画廊
 福島義秋、相葉昇、一瀬洋3人展
 4—10 銀芳堂画廊
 グループ「のい」展 4—10 梅花
 亭ギャラリー
 新井美恵子個展 4—9 美松書房
 画廊
 村上嘩人版画展 4—9 養清堂画廊
 中村琢二個展 4—9 日動サロン
 昆野恒作品展 4—9 ときわ画廊
 銀泥油絵展 4—9 ギャラリー・
 セブン
 河合弥展 4—9 昭和画廊
 刑部人新作展 4—9 千代田画廊
 上田初生油絵個展 4—9 ギャラ
 リー新宿
 女流木版新人2人展(稲垣朱実・福
 井三知) 4—9 村上画廊
 石原和夫バタノスコープ展 4—9
 画廊クリスタル
 相原猛人南国作品展 4—9 此花

画廊
 ミノ・ユキエ個展 4—9 あかね
 画廊
 「顔」展(その2) 4—9 ギャラ
 リー・ポワン5丁目店
 藤田金之助・難波香久3人展 4
 —10 文芸春秋画廊
 西田梁川近作展 4—10 大阪・梅
 新画廊
 永田力個展 4—12 南天子画廊
 曾宮一念新作油絵展 4—13 兜屋
 画廊
 近藤文雄個展 4—16 日本画廊
 山森元亀個展 4—9 新橋画廊
 手塚昇個展 4—9 全線画廊
 吉田公個展 4—9 樺画廊
 伍伸会展 4—9 サエグサ画廊
 高山晃個展 4—9 サトウ画廊
 山田尚時個展 4—9 大倉画廊
 西嶋俊親個展 4—10 文芸春秋画
 廊
 朝倉響子個展 4—16 ギャラリー
 ・キューブ
 グループ・ル・モン展 4—16 い
 とう画廊
 岡田肇彦個展 5—10 竹川画廊
 16回芝英会 5—10 高島屋
 浜田庄司作陶展 5—10 三越
 風霜会日本画展 5—10 三越
 現代彫刻デッサン展 5—11 秋山
 画廊
 大島哲以個展 5—12 西村画廊
 日動画廊40年の蔵払い 5—25 日
 動画廊・藤島サロン
 柘榴会日本画展 5—10 上野、松
 坂屋
 石原宏策個展 5—9 フォルム画
 廊
 加藤東一新作展 6—9 兼素洞
 鈴木まどか個展 7—12 椿近代画
 廊
 羽田二郎展 7—12 椿近代画廊
 糸川裕志個展 7—12 ルナミ画廊
 峯梨花個展 7—12 東和画廊
 7回風神会 8—13 丸善画廊
 1回佐藤土筆日本画展 8—13 小
 田急
 中川一政書展 8—13 松屋
 バルビゾンの画家達 8—15 大丸
 関野準一郎版画展 8—15 伊勢丹
 阿刀運涯個展 8—22 フランネル

美術展覧会(12月)

ギャラリー

*愛のシリーズ。もり・まなぶ版画展 9—11 熊谷市民ホール
7回玉之内満雄個展 9—14 銀座ヤマト画廊
7回律動展 9—14 村松画廊
31回大潮会展 10—26 都美術館
杉田五郎個展 10—16 スルガ台画廊
140回現代版画展 11—16 わたなべアート・サロン
クロイワ・カズ第2回MAN画個展 11—16 ギャラリー・ポワン5丁目店
並河恵美子個展 11—16 画廊クリスタル
小山富士夫作陶展 11—16 壺中居
斎藤武木版画個展 11—16 養清堂画廊
島田四郎個展 11—16 高島屋
瀬下妙子個展 11—16 サエグサ画廊
横地康国個展 11—16 日動サロン
富田克個展 11—16 樺画廊
地主佛助油絵個展 11—16 資生堂ギャラリー
長山義一個展 11—16 日動サロン
中央公論秋季展 11—16 中公画廊
三谷幸雄個展 11—17 京都・画廊紅
安倍安人第3回油絵個展 11—21 此花画廊
ボルドー・ル・ベック小品展 11—25 吉井画廊
不思議の国のアート展 11—26 東京画廊
アイコン展 11—30 吉井画廊
富成忠夫油絵個展 11—17 ギャラリー・アルカンシェル
都民美術展 11—17 東京都労務福祉会館
原極個展 11—20 ポール・ギャラリー
佃武昭、中村徳次郎2人展 11—23 新橋画廊
戸野正二郎個展 11—17 銀芳堂画廊
内藤圭介個展 11—23 サトウ画廊
小泉政春個展 11—23 大倉画廊
太田満個展 11—16 みゆき画廊
高橋幸也、亜伊染徳太郎兄弟展 11

—20 あかね画廊
小作青史版画展 11—17 シロタ画廊
冲竜一、冲保洋兄弟展 11—17 夢土画廊
斎藤昇個展 11—16 昭和画廊
佐々木真夫油絵展 11—16 中央公論ビル画廊
遠藤和彦個展 11—16 サエグサ画廊丸の内店
高橋周個展 11—16 ときわ画廊
モノマニア展 11—20 ギャラリー新宿
鷺見哲彦個展 11—20 おぎくぼ画廊
グループ「エコーズ」展 11—16 竹川画廊
孔雀会日本画展 12—16 孔雀画廊
三彩会展 12—16 日本橋画廊
玉村柘也作品展 12—17 養清堂画廊
土屋瑞穂、尾沢正毅彫刻展 12—18 秋山画廊
有名コレクション展 12—20 大阪・梅田画廊
町田京子個展 12—21 楡の木画廊
オール新人具象1000名選抜巴里画廊祭展 12—22 巴里画廊
響会洋画展 12—17 上野・松坂屋
古賀文子個展 12—16 フォルム画廊
青山襄、佐々木利栄2人展 12—18 紀伊国屋画廊
三人展(森田真澄・加藤三男・久保田益男) 13—18 ルナミ画廊
村井曉平個展 13—18 椿近代画廊
辻晋堂、八木一夫2人展 14—23 老番館画廊
永田精二渡欧作品展 14—19 松屋
小さな花の絵展 14—30 東和画廊
斎藤博之個展 14—23 日本橋画廊
小泉繁新作展 14—19 丸善画廊
3回西村鉦利個展 15—20 村松画廊
二紀会12人展 15—21 小田急
小沢徳彦展 15—24 兜屋画廊
20回勤労者美術展 15—24 都美術館
東本光博個展 15—20 ヤマト画廊
斎藤勝三個展 15—20 村松画廊
WHO展 15—20 村松画廊

原きよみ個展 15—21 ポール・ギャラリー
神奈川県立近代美術館収蔵作品展 16—27 神奈川県立近代美術館
11回安井賞候補新人展 16—68年1月21 東京国立近代美術館
小沢徳彦個展 16—25 兜屋画廊
京都伝統陶芸家協会作陶展 17—21 高島屋
坂本正治「緋色の研究」展 17—23 画廊クリスタル
佐藤正男個展 18—23 サエグサ画廊
栗原良個展 18—23 サエグサ画廊丸の内店
現代イタリア彫刻家2人展 18—23 資生堂ギャラリー
小松原勝市個展 18—23 中林画廊
サミュエル・メイティン版画展 18—23 養清堂画廊
モダンアート木版新人3人展 18—23 村上画廊
上田三朗作品展 18—24 ギャラリー・アルカンシェル
田中祥三個展 18—24 日動サロン
田中実個展 18—24 文芸春秋画廊
茂木英子個展 18—24 文芸春秋画廊
利根山光人スケッチ展 18—29 ギャラリー・おかべ
洛風会日本画展 18—24 上野松坂屋
グループ・エボケ展 18—23 樺画廊
梅田英俊個展 18—23 銀芳堂画廊
木村茂版画展 18—23 フォルム画廊
綱谷義郎個展 18—28 大阪・フォルム画廊
正投象展 18—24 シロタ画廊
深見公道個展 18—23 昭和画廊
19人展 18—24 夢土画廊
塙賢三個展 18—23 ときわ画廊
増村寛個展 18—23 スルガ台画廊
斎藤逸郎展 19—25 秋山画廊
3人展(大胡田・小田木・豊田) 19—24 ルナミ画廊
13回百二会展 20—26 兼素洞
5回鳳会日本画展 20—26 孔雀画廊
工藤和男個展 21—26 銀座ヤマト

画廊
 松田ヨシオ・モスクワ展 21—26
 銀座ヤマト画廊
 グループQUN展 21—29 ギャラ
 リー新宿
 篠崎輝夫新作油絵展 22—26 大丸
 森田茂油絵展 22—26 三越
 植田寛治個展 22—27 サエグサ画
 廊丸の内店
 今井ロチン油絵個展 24—28 スル
 ガ画廊
 第1回火山展小品デッサン展 24—
 28 池袋東電サービス・センター
 白日会2人展 25— 新橋画廊
 鈴木昶個展 25—29 文芸春秋画廊
 坂本昌紀個展 25—30 ルナミ画廊
 現代洋画展 25—31 ギャラリー・ア
 ルカンシェル
 相葉一博スケッチ展 25—30 みゆ
 き画廊
 現代女流展 25—29 一方堂画廊
 氏家秀之進個展 26—30 丸善画廊

〈古 美術〉

1 月
 神奈川の歴史展 3—8 有隣堂ギ
 ャラリー
 「名所絵」展 3—2月26 サント
 リー美術館
 東西文化交渉資料展 16—5月15日
 天理ギャラリー
 日本古美術展 20—2月19日 琉球
 政府立博物館
 2 月
 平安朝名筆百種展 24—25 東京美
 術倶楽部
 中尊寺秘宝展 26—3月21 京都市
 立美術館
 3 月
 ユーゴスラビア・アイコン展 3—31
 東京国立博物館 4月8—5月7
 京都国立博物館
 「長崎」展 4—5月7 サントリ
 ー美術館
 明治大帝と伊藤・乃木・東郷展 7
 —12 名古屋 松坂屋
 日本の武将展 11—6月11 伏見桃
 山城
 戦国武将と築城展 14—19 広島
 福屋百貨店

富山県百宝展 15—30 富山県民会
 館
 古代出雲展 17—22 西武百貨店
 熊野三山の秘宝展 18—4月16 大
 阪市立博物館
 かながわ名宝展 22—4月9 神奈
 川県立博物館
 日中陶磁と茶道名宝展 24—4月5
 徳島 丸新百貨店
 4 月
 大和文華館名品展 1—16 石川県
 美術館
 初期京焼展 1—30 根津美術館
 全国善光寺如来展 10—5月20 信
 濃美術館
 北斎展 11—23 日本橋 高島屋
 埼玉円空展 11—5月28 埼玉会館
 美術にみるいけばなの歴史展 14—
 5月14 大和文華館
 徳川美術館展 18—30 大阪 大丸
 国宝源氏物語絵巻と絵巻名宝展 18
 —5月7 岡山美術館
 近衛家陽明文庫名宝展 18—6月4
 五島美術館
 室町時代仏像展 22—5月21 奈良
 国立博物館

室町時代仏像展出品作品一覧

(○印は重要文化財 ○印は重要美術品)

尊 名	作 者	所 在
地藏菩薩立像	康俊・康成	奈良 長弓寺宝光院
○四天王像	康俊・康成	大分 永興寺
普賢延命菩薩像	康俊	佐賀 竜田寺
十一面観音立像	奈良	柳観音堂
普賢菩薩坐像	性慶	滋賀 志那神社
文殊菩薩騎獅像	奈良	東大寺
○南無仏太子像	院勢	広島 浄土寺
○吉祥天倚像	寛慶	奈良 興福寺
弥勒菩薩坐像	秀弁	滋賀 櫛野寺
大日如来坐像	康普	栃木 遍照寺
○文殊菩薩五尊像	康俊	宮崎 大光寺
地藏菩薩坐像	藤原信光	京都 正法寺
薬師如来坐像	康成	奈良 金峯山寺
○四天王立像	寛慶	奈良 法隆寺上堂
四天王立像	奈良	霊山寺
○釈迦如来坐像	院全	京都 法園寺
十一面観者立像	行成	奈良 松尾寺
薬師如来坐像		埼玉 永明寺
不動明王立像	康俊	兵庫 福祥寺
○不動明王三尊像	清玄	奈良 東大寺三月堂

○弘法大師坐像	慶秀	奈良 法隆寺
文殊菩薩騎獅像	南都津波居	広島 浄土寺
地藏菩薩坐像	若狭法眼浄宏	埼玉 法光寺
魍魎鬼人像		滋賀 西明寺
地藏菩薩立像		奈良 光明寺
阿弥陀如来像	同阿弥	三重 西光寺
伽藍神倚像	朝祐	神奈川 覚園寺
阿弥陀如来坐像		
愛染明王像	覚伝	京都 西正寺
南無仏太子像		奈良 松尾寺
愛染明王坐像	椿井丹波公	奈良 海竜王寺
○十二神将立像		奈良 栄山寺
虚空蔵菩薩坐像		三重 真生寺
不動明王坐像		三重 大福田寺
弘法大師坐像		奈良 大福寺
金剛力士像	富樫兼政	和歌山 高山寺
十王像及び俱生神像	珍慶	奈良 常念寺
大日如来坐像		三重 大日堂
大日如来坐像		三重 大日堂
十一面観音立像	尊弘・学専	奈良 般若寺
聖観音坐像	院祐	滋賀 百済寺
如意輪観音坐像	院祐	滋賀 百済寺
十一面観音立像	舜慶	奈良 慈明寺

美術展覧会(古美術)

阿弥陀如来立像	三重	大福田寺	地藏菩薩立像	宿院仏師	奈良	元興寺極楽坊
大黒天立像	仙算	奈良	西大寺	実清	奈良	西光院
婆薮仙像	下野弘円	東京	観音寺	滋賀	竜潭寺	
十一面観音立像	奈良	観音寺	阿弥陀如来坐像	源衛門尉他	奈良	橘原薬師堂
地藏菩薩立像	仙算	奈良	西大寺	十王像	源三郎	奈良
毘沙門天立像	宗賢	奈良	毘沙門堂	十一面観音立像	源次	奈良
愛染明王立像				竜王及び雨宝童子像	源衛門尉他	奈良
矜迦羅童子立像	円真	奈良	密門隆範氏	千手観音立像	宗久・源三郎	奈良
地藏菩薩立像	奈良	称名寺	地藏菩薩立像	源次	奈良	薬師寺
十一面観音立像	実清	奈良	西念寺	阿弥陀如来坐像	源次・源三郎	奈良
薬師如来坐像	実清	奈良	薬師堂	阿弥陀如来坐像	奈良	阿弥陀寺
阿弥陀如来三尊像	楠井次郎	奈良	杉並享氏	〇十一面観音像	楠井大仏師式部	奈良
役行者・前鬼・後鬼像	楠井次郎	奈良	観音寺	十一面観音像	奈良	寂静院
〇地藏菩薩像	奈良	浄徳寺	薬師如来坐像	奈良	池田公民館	
薬師如来三尊像	楠井次郎	奈良	金勝寺	釈迦如来坐像	宗貞	奈良
大黒天立像	実清	奈良	徳融寺	奪衣婆像	民部卿	奈良
大日如来坐像	奈良	浄国寺	大黒天立像	奈良	子島寺	
釈迦如来坐像	源次・源三郎	奈良	薬師堂	薬師如来坐像	楠井浄春	奈良
薬師如来坐像	空阿弥	奈良	薬師堂			
地藏菩薩像	三重	金剛証寺				

メソポタミア展 22—5月31 東京
国立博物館

近世初期風俗画屏風展 23—5月7
鳥根県立博物館

刀—外装の美—展 23—5月28 大
阪市立博物館

備前池田家と岡山美術館名宝展 25
—5月7 札幌 丸井今井百貨店
5月9—5月14 函館 丸井今井
百貨店

富山県美術刀剣展 26—5月5 富
山県民会館

宗達光琳派名作展 29—5月14 福
岡県文化会館

5 月

藤田美術館名品展 9—17 名古屋
丸栄

紫式部と源氏物語展 9—21 東武
百貨店

名将・勇将の面影をしのぶ「兜百頭」
展 12—17 広島 天満屋

白鶴春季展「古赤絵金襴手」12—25
白鶴美術館

絵巻物展 12—31 宮崎県立博物館

「戦国武将の絵」展 13—6月30
サントリー美術館

日本洋画のあけぼの・秋田蘭画展
19—6月18 大和文華館

国宝の日本刀展 20—28 大阪市立
博物館

香川の名宝展 25—6月18 香川県
文化会館

伝統工芸資料展 25—6月25 京都
府立総合資料館

南蛮美術展 26—6月18 高岡市美
術館

桃山の茶道名宝展 30—6月4 銀
座 松坂屋

6 月

初期京焼展 3—7月2 徳川美術
館

備前池田家と岡山美術館名宝展 3
—13 西武百貨店

瀬戸のやきもの展 3—7月9 石
川県美術館

中国陶芸と茶道名宝展 6—11 函
館 丸井今井百貨店 13—18 札
幌 丸井今井百貨店 27—7月2
旭川 丸井今井百貨店

破門の芸術 英一蠟展 6—18 本
間美術館

国宝経塚出土品展 6—7月16 五
島美術館

伊達家の名宝展 8—27 致道博物
館

国宝源氏物語絵巻と茶道名宝展 10
—20 福山 天満屋

加賀百万石国宝と茶道名宝展 10—
22 京都 丸物

日本画250年展 27—7月2 大阪

大丸
7 月

加賀百万石陣羽織と百工比照展 15
—8月20 石川県美術館

近代日本画の150年展 15—8月27
神奈川県立近代美術館

「藍のうつわ(日本・中国・オラン
ダ)」展 15—9月3 サントリー
美術館

8 月

古代豪族の遺宝展 6—9月30 大
阪市立博物館

足利水墨画展 15—31 本間美術館

剣美展「明治天皇と明治の愛刀家達」
18—30 名古屋 名鉄百貨店

名刀と甲冑展 26—9月17 石川県
美術館

美の美展 29—9月3 三越本店

9 月

日本名刀展 8—20 銀座 松屋

「日本の抒情」展 9—11月12 サ
ントリー美術館

日本美術刀剣展 15—17 大和高田
市体育館

紫式部と源氏物語展 15—10月1
茨城県立美術館

上杉名宝展 15—10月11 秋田市美
術館

東京五島美術館名宝展 15—10月15
石橋美術館

「明器にみる中国古代のくらし」展
18—1月30 天理ギャラリー
会津ゆかりの名刀展 22—28 会津
若松市公民館
備前池田家と岡山美術館名宝展 23
—10月8 石川県美術館
東京国立博物館・日本古美術巡回展
24—10月10 富山県民会館 10月
14—29 石川県美術館 11月2—
19 NSB新潟美術館
日光東照宮展 27—10月2 熊本
鶴屋百貨店
鎌倉から幕末まで・日本刀の彫刻展
29—10月4 阿倍野 近鉄百貨店
10 月
歴史を語る日本名刀展—武將とその
愛刀— 1—22 信濃美術館
「近代国家への歩み」展 1—11月
5 山口博物館
青木木米名品展 5—22 大和文華
館
徳川期の画家たち展(九州篇) 5—
22 神奈川県立近代美術館
元禄文化展 6—11 阿倍野 近鉄
百貨店
旅の風俗展 8—11月3 大阪市立
博物館
桃山之美—蒔絵—展 8—11月5
大阪城天守閣
室町時代的美術展 10—11月5 京
都国立博物館
南蛮美術秘宝展 12—17 大阪 阪
神百貨店
日本古美術展特別展観 14—29 石
川県美術館
古今集の名品展 17—12月10 五島
美術館
絵巻名品展 21—11月5 徳川美術
館
出品作品
(◎印 国宝 ◎印 重要文化財)
1◎過去現在絵因果経1巻 京都
上品蓮台寺蔵 2◎源氏物語絵巻
3巻 愛知徳川美術館蔵 3◎伴
大納言絵詞3巻 東京酒井忠博氏
蔵 4◎信貴山縁起1巻 奈良朝
護孫子寺蔵 5◎鳥獣戯画2巻
京都高山寺蔵 6◎葉月物語絵巻
1巻 愛知徳川美術館蔵 7◎粉
河寺縁起1巻 和歌山粉河寺蔵
8◎病草紙5面 愛知関戸有彦氏

蔵 9◎病草紙1幅 神奈川松永
記念館蔵 10◎餓鬼草紙1巻 京
都国立博物館蔵 11◎地獄草紙1
巻 奈良国立博物館蔵 12◎紫式
部日記絵詞6面 東京五島美術館
蔵 13◎紫式部日記絵詞1幅 東
京大倉基氏蔵 14◎西行物語絵巻
1巻 愛知徳川美術館蔵 15◎過
去現在絵因果経1巻 東京根津美
術館蔵 16◎北野天神縁起(承久
本)1巻 京都北野天満宮蔵 17
◎北野天神縁起(弘安本)3幅
東京五島美術館蔵 18◎住柄天神
縁起3巻 東京前田育徳会蔵 19
御物春日権現霊験記1巻 20◎山
王靈験記1巻 静岡日枝神社蔵
21◎当麻曼茶羅縁起2巻 神奈川
光明寺蔵 22◎一遍聖絵2巻京都
歙喜光寺蔵 23◎華嚴縁起2巻
京都高山寺蔵 24◎親鸞上人絵伝
2巻 千葉照願寺蔵 25◎法然上
人絵伝2巻 京都知恩院蔵 26◎
法相宗秘事絵詞2巻 大阪藤田美
術館蔵 27◎東征絵伝2巻 奈良
唐招提寺蔵 28◎慕帰絵詞2巻
京都西本願寺蔵 29◎稚児観音縁
起1巻 兵庫村山長孝氏蔵 30◎
長谷寺縁起1巻 愛知徳川美術館
蔵 31◎破来頓等絵詞1巻 愛知
徳川美術館蔵 32 御物絵師草紙
1巻 33◎平治物語絵巻1巻東京
国立博物館蔵 34◎前九年合戦絵
巻1巻 神奈川溝口康子氏蔵 35
◎後三年合戦絵巻3巻 東京国立
博物館蔵 36 御物蒙古襲来絵詞
2巻 37◎結城合戦絵詞1巻 大
阪細見良氏蔵 38◎紀長谷雄草紙
1巻 東京細川護立氏蔵 39◎
奈与竹物語絵巻1巻 香川金刀比
羅宮蔵 40◎住吉物語絵巻1巻
東京国立博物館蔵 41 狭衣物語
絵巻1幅 東京国立博物館蔵 42
◎掃墨物語絵巻2巻 愛知徳川美
術館蔵 43◎天狗草紙1巻 東京
根津美術館蔵 44◎十二因縁絵巻
1巻 東京根津美術館蔵 45◎十
二類絵巻1巻 京都堂本四郎氏蔵
46◎祭礼草紙1巻 東京前田育徳
会蔵 47◎伊勢新名所歌合絵巻1
巻 三重神宮司庁蔵 48 源氏物
語絵詞1巻 愛知徳川美術館蔵

49◎豊明絵草紙1巻 東京前田育
徳会蔵 50 尹大納言絵詞2巻
神奈川松永記念館蔵 51◎天皇撰
関御影2巻 愛知徳川美術館蔵
52 御物天子撰関御影3巻 53◎
三十六歌仙絵(佐竹本)小大君像
1幅 奈良大和文華館蔵 54◎三
十六歌仙絵(佐竹本)小野小町像
1幅 大阪藤田三氏蔵 55◎三
十六歌仙絵(佐竹本)藤原敏行像
1幅 愛知某氏蔵 56◎三十六歌
仙絵(佐竹本)清原元輔像1幅
東京五島美術館蔵 57◎三十六歌
仙絵(佐竹本)源宗子像1幅 愛
知某氏蔵 58◎三十六歌仙絵(上
置本)小大君像1幅 東京小林中
氏蔵 59◎三十六歌仙絵(上置本)
紀貫之像1幅 東京五島美術館蔵
60◎三十六歌仙絵(上置本)源宗
子像1幅 京都堂本四郎氏蔵 61
◎三十六歌仙絵(上置本)大伴家
持像1幅 大阪藤田美術館蔵
正倉院展 22—11月5 奈良国立博
物館
茶道美術展 28—11月5 長崎県立
美術博物館
謙信公愛刀展 28—11月7 上杉神
社稽照殿
越前真宗資料展 28—11月16 福井
県立岡島美術記念館 28—11月16
茶席墨宝展 28—11月17 根津美術
館
古代イタリア美術展 28—12月17
東京国立博物館
11 月
靈宝館落成記念特別展 1—10 朝
護孫子寺靈宝館
サントリー美術館名品展 7—12
札幌 丸井今井百貨店
煎茶道文化・黄葉遺墨展 10—15
日本橋 東急百貨店
印刷文化展 11—16 静岡 松坂屋
目でみる日本刀の歴史展 15—28
島根県立博物館
国宝源氏物語絵巻展 19—12月3
根津美術館
近代日本の夜明け展 21—12月12
小田急百貨店
中国西域の美術展 30—1月28 大
和文華館

美術展覧会(古美術)

12 月

日本の名槍展 15—30 小田急百貨店

長曾祢虎徹名作展 18—24 日本橋東急百貨店

受賞一覧

●一陽展 (第13回)

＜一陽賞＞森芳雄、松本進＜青麦賞＞安藤節雄、今井由緒子＜会友賞＞中村亮一郎＜特待賞＞大場吉美、井上正義、天野赫二郎、島本芳伸、竹中昭、山田茂夫、岩波勇渡会意士、森島昭道、斎藤純子

●一水会展 (第29回)

＜会員優賞＞寺井重三、津田正毅
本山唯雄＜会員佳作賞＞鈴木睦美
栗林忠男、巻島友治、前田正夫、
菱田義宣、佐藤進＜一水会賞＞三
木辰夫、豊島輝彦、金子蒼子＜安
井奨励賞＞長谷川定邦＜石井奨励
賞＞樋口哲＜山下奨励賞＞伴野敏
夫＜佳作賞＞篠原昭登、市川清太
池田誠、久保田辰男、千頭和夫、
松井吉信、中村博、河西昭治、安
藤茂人、栗本一郎、土野秀信、田
村雅保

●一線美術会展 (第17回)

＜文部大臣賞＞巽郁夫 ＜上野山
賞＞日下常由＜一線美術文化賞＞
坪井鶴吉＜一線美術賞＞堀江祐造
＜一線美術委員努力賞＞小池政治
川上幸吉、石上泰三、中林松太郎
＜一線美術委員奨励賞＞長谷川漸
豊田伝、三浦定雄、石野世紀雄、
梶川正男、蜂谷久雄＜一線美術新
人賞＞木暮光孝、倉沢康、五十嵐
聖一、藤尾栄、安藤久孝＜一線美
術会員努力賞＞阿部大＜一線美術
会友努力賞＞川端静夫、岩瀬直美
＜一線美術女流奨励賞＞露谷佐和
子、村岡優子＜東京都知事賞＞柳
林卓、山下儔、小林秀江＜伊藤徳
衛奨励賞＞高山英三＜資生堂賞＞
山崎光子、浅山ときわ ＜文房堂
賞＞佐野正雄、清水照子＜プール
プー賞＞高橋弘樹、三谷哲夫＜日
本石油賞＞山田忠直 ＜昭和石油
賞＞田中久雄、黒田オサム＜出光
興産賞＞山岡秀雄、新井盛治＜丸
善石油賞＞石田正幸、露谷勝敏
＜ゼネラル物産賞＞渡辺喜一、岩
本光庸＜世界堂賞＞飯塚吉光、平

井栄三郎＜日魯漁業賞＞上岡陽子
上野尚子＜画廊きのくに賞＞児
玉勝次＜東洋美術商事賞＞中山久
也、小出宏＜昭和産業賞＞町田国
男、本村テルヨ、柴田卓三

●旺玄会展 (第33回)

＜牧野賞＞森川貢太郎＜奨励賞＞
西川秀夫、谷長静枝、佐々木得治
＜努力賞＞上田寿弥、菊地最子
＜新人賞＞野田典男、野田秋人
＜美術報知賞＞木村三智夫＜Y氏
賞＞勝保睦＜K氏賞＞内藤敏雄
＜船岡賞＞根来春雄、久保桃太郎
＜日文賞＞尾関艶子 ＜クサカベ
賞＞麻植明夫＜マツダ賞＞宮井悌
一＜プールプー賞＞永井栄一＜彩
美堂賞＞大島郁太郎＜ギター賞＞
栗原美茂

●形象派展 (第15回)

＜形展特賞＞青野裕彦、京田寛
＜形展賞＞堀口達雄、萩原文美子
片岡福光、片岡福光＜NDI賞＞
小林正、藤谷みづえ＜愛知県知事
賞＞白沢影則＜名古屋市長賞＞犬
飼正道＜中日賞＞島本美千子＜新
人賞＞増田正己、榎本孝敏、石黒
一久＜さくら賞＞山本邦代、内藤
美奈子＜ギターペイント賞＞福田
定夫

●現代美術家協会展 (第23回)

＜会員賞＞高橋英生、富士井盛文
佐藤一二三、尾崎キクオ、小山重
之＜準会員賞＞湯浅昭二、小田原
速見＜会友賞＞中山茂、森田肇、
北上貞夫＜新人賞＞森田茂、当間
久夫、生駒勝治、佐藤俊文

●行動美術展 (第22回)

＜行動美術賞＞下高原進、中島裕、
小林陸一郎＜新人賞＞田中仁三
郎、小林佳年雄＜会友賞＞辻司大
森重夫、大熊峻、星野和雄、新名
陸男、岸田克二、川崎千足＜奨励
賞＞小林幸子、栄村健史、田代和
子、林道夫、畠中秀子、藤田豊
内弘、風間大輪＜創立賞＞高橋進

●光風会展 (第53回)

＜光風会員賞＞三宅次郎 ＜中沢
賞＞佐川忠金＜寺内賞＞藤田孝屯
＜光風会友賞＞大橋広治、伊藤正
規＜光風賞＞木村賢吾＜桜賞＞横
尾正夫、山本満＜船岡賞＞山之内
弘、小柳晟＜クサカベ賞＞浅野昇
三、酒巻和世＜松田賞＞加藤直子
血矢昌之＜ホルベイン賞＞堀井健
美、菱村寿々雄＜プールプー賞＞
酒井英安

●光陽会展 (第15回)

＜光陽会15周年記念賞＞島田良也
＜光陽会賞、船岡賞＞酒井俊幸
＜光陽会会長賞＞吉川俊之、曳野
豊重＜文部大臣奨励賞、向井賞＞
井上光輝 ＜光陽奨励賞、文房堂
賞＞新井秀一郎＜光陽会努力賞＞
峰岸隆＜前国務大臣賞＞管波清一
＜向井賞＞伊藤太＜船岡賞＞小野
道子＜マツダスーパー賞＞滝川啓
三、長尾純＜マツダホワイト賞＞
橋本房夫、山根巖、神原孟爾、武
内重夫＜文房堂賞＞阿部隆行＜サ
クラ賞＞小林博美、麻原健＜ホル
ベイン賞＞川嶋勘一郎、本間勝太
郎＜クサカベ賞＞島根清、細川利
昭＜彩美堂賞＞丸畑豊＜地球堂
賞＞田沼和夫＜R賞＞俵繁徳＜笹
山賞＞高橋敬＜プールプー賞＞広
井良昌、瀬戸仁＜ターナー賞＞高
石国夫、木村恵清、佐藤紀夫＜松
本賞＞大前博士＜文化堂賞＞松永
進＜PIM賞＞土本巖＜マリア
賞＞吉川俊夫、宮城ヒロ恵

●国画会展 (第41回)

＜サントリー賞＞藤田吉香＜会友
優作賞＞川田清＜国画賞＞山本正
彦、加賀美勲、鶴岡洋、岩下硯通
＜新人賞＞松森史朗、羽生出、長
曾我部友子、佐藤陽子、黒崎彰、
大成浩、花田正雄＜野島賞＞安富
信也、峯田敏郎＜プールプー賞＞
和田義彦＜O氏賞＞吉沢栄敏、福
士勝男

●朔日会展 (第36回)

＜朔日会賞＞羽藤恒郎＜英賞＞大

津博<船岡賞>上野久<ホルベイン賞>梶金幸男<プールブルー賞>渡辺玲子<努力賞>岡村昇<岡本賞>岩井滋郎<文房堂賞>海川博一<クサカベ賞>野口一男<マツダ賞>秋元達生<奨励賞>吉田貴美江

●三軌会展 (第19回)

<三軌会賞>国井澄<新人賞>市川正三<日経賞>鈴木雅彦<委員努力賞>三保憲司<会員努力賞>竹永留次<中央画材賞>守屋久道<ヨコヤマ画廊賞>今井退蔵<船岡賞>浜野信雄<クサカベ賞>宗像昇<上松賞>武田弘<ホルベイン賞>長沼敏子<ブランシェ賞>大熊栄子<マツダ賞>佐藤事

●示現会展 (第20回)

<石川賞>山本吉雄<20周年記念賞>青木純子、上橋薫、内藤定昭、山川浩<示現会賞>武田靖夫<奨励賞>青沼茂男、林伸一<佳作賞>石井邦光、青木美弥子、奥村正徳、工藤紀司、佐竹泰次郎、高野達、高木良信、津田玉之栄、成田禎介、畠山新治、丸山美智子

●自由美術展 (第31回)

<自由美術賞>一本平蔵、八幡健二、中島一雄<鑑光賞>西八郎

●主体美術展 (第3回)

<佳作賞>島田威郎、前田進

●朱葉会展 (第47回)

<三井ジャーナル賞>的場和子<奨励賞>直江幸子、五十嵐しづ子、甲斐映子、国府安子<プールブルー賞>戸田のり子<会員賞>真砂澄子

●春陽展 (第44回)

<研究賞>園田純介、木村信之、古谷久子、田中英明、山崎秀夫、柳田三千子、二見彰一、竹田和子、船坂芳助

●女流画家協会展 (第21回)

<日航賞>深沢紅子<O氏賞>糸田玲子<Y夫人賞>小寺明子<ホルベイン賞>森田律<クサカベ賞>石橋幸子<花椿賞>鎌田登代子<H夫人賞>馬越陽子<船岡賞>内柴静子<バラ賞>河村芙蓉、平田周子<マツダ賞>原佑子、芝田藤子

●新槐樹社展 (第11回)

<文部大臣賞>西川哲三<都知事賞>斎藤良夫、獅子吼真、松岡艶子<新槐樹社賞>田中三郎<努力賞>中谷幸太郎、井草弘行<奨励賞>伊藤進<美術報知賞>松下忠雄<船岡賞>横山孝子、小林もと子<彩美堂賞>中村麗子<地球堂賞>和田典子<モリシゲ賞>綿貫ひろ子<森賞>藤本陽二<上松賞>上原政隆<クサカベ賞>忠岡知子、石井操子<ブランシェ賞>塚越寛子<マツダ賞>海老原昭治<ペンテル賞>小坂与一<プールブルー賞>高山敏子<さくら賞>碓井優子、柴田キヨ子<ホルベイン賞>吉川清、杉崎稔

●新協美術会展 (第10回)

<新協賞>田谷行平<新人賞>寺村日出男、沼田喜代子、島崎洋二<北田賞>箕輪弘<K氏賞>岸本喬夫、蔵本利彦、岡みち子<久栄賞>北村輝夫、大畑政雄<伊坂賞>大塚サナエ、細田和子、有田豊<ホルベイン賞>原繁、植田俊夫、中島英機<プールブルー賞>野津茂、武重元吾<E氏賞>西沢爽<A氏賞>遠所定雄<ドビー賞>若杉早苗<ヒロ賞>金田寛二<努力賞>白井敬介、大塚勇<藤山賞>佐藤昭<新協大賞>高橋閑夫<新協10周年記念賞>西岡茂八郎

●新興美術院展 (第17回)

<新興美術院第3賞>吉田貞典、関辰男<準会員努力賞>皆川実、瀬尾徳司<準会員佳作賞>吉川重光、石川栄一、杉本巴都美<日経新人賞>金子治男<美術報知社賞>浜中利男<奨励賞>河部マユ子、池田神島、伊藤道子、境野大樹<Y氏賞>高橋章<Y氏賞>O氏賞<金成久美子<佳作賞>野口義男、岡田忠男、五十川競子、中村千里、星野一郎、鈴木忠実、土手内始男、岡田誠也

●新象作家協会展 (第10回)

<10回記念展賞>遠山征男<奨励賞>島実、工藤武四<佳作賞>高橋棋六、中村英、宮崎利行、城間喜宏、木村明男、石山昇、谷イサオ、奥川稔、大和功、木水洋子

●新世紀美術協会展 (第12回)

<黒田賞>清水晶一<紅珠賞>大島士一<新人賞>三好和雄<渡辺賞>藤沢光二<会員特賞>熊谷明子、藤田豊<会員努力賞>小林末蔵、高橋清和<ポーラ中央賞>吉沢の美、土屋貢<新世紀美術協会奨励賞>森本英敏<新世紀美術協会奨励賞>島田四郎、渡辺恵美子<プールブルー賞>小巻康治<船岡賞>中村繁夫、武田洋司<マツダ賞>稲葉元英、安藤葉子<クサカベ賞>高木勝子、今井知文<美術報知賞>前田整一郎

●新制作展 (第31回)

<協会賞>岡崎紀、橋本武、麻田浩<新作家賞>佐々木裕久、有田守成、パオロ・リアニ、黒田能勝、岡崎陽子、大山鎮、児島義一、山本正道、大森運夫、石踊紘一、大里光春、樫田伸也、和田真澄、塩見仁朗、佐野ぬい、筒井明、池田幹雄、山内秀臣、渡辺隆根、吉田正浪、尾崎幸雄、堀越保二

●水彩連盟展 (第26回)

<みづえ賞>近藤央<スター賞>小柴悦子<さくら賞>木村敏夫<ミュージズ賞>会川久陸、渋谷澄子<船岡賞>太田昭<MO賞>斎藤喜美枝<プールブルー賞>山村淑子<ホルベイン賞>猪瀬文子、水谷仁美<べんてる賞>大久保正義<六光社賞>斎藤芳彦<美術報知賞>穂積節子<婦人画報賞>杉浦務<週刊平凡賞>宮本勲<服装賞>沼田紀代美<週刊女性賞>田屋英子<ADセンター賞>栗田美奈子<装苑賞>高柳佐知子<女性自身賞>窪村紀子<若い女性賞>佐治直子<婦人公論賞>山本さく子<平凡パンチ賞>佐伯ときじ<女性セブン賞>蔦健三<六光社賞>吉本宣子

●創元会展 (第26回)

<会員新人賞>工藤和男<準会員賞>梅原宏治、麻生蓉子<創元会次賞>宮崎美智子、山岸忠彦<パイロット賞>矢野欣二<美術報知賞>江田康夫<船岡キャンパス賞>守屋順吉、衛藤玲子<文房堂賞>大上敏男<クサカベ賞>タカ

ヤマ賞>林正伸<深谷頼椽賞>久保春江<彩美堂賞>鈴木和美<ホルベイン賞>タカヤマ賞>竜房枝

●創造美術会展 (第20回)

<20周年記念賞>岩月賞>鈴木伴造、菊地友一<東京都知事賞>・大東賞>中野敏<会員努力賞>石野正太郎、石川健治<銀賞>・ホルベイン賞>宮本法子<銅賞>・クサカベ賞>藤田瑞穂、宮林明治、小坂修平<プルブルー賞>・クサカベ賞>福田正宏、田口亜美<会員努力賞>・大東賞>安部信雄<銀賞>・江戸一賞>宮本和郎、野原貞夫<新人賞>・江戸一賞>中島洋子 <新人賞>大塚均、永井郁子、才木青雲<会員努力賞>・岩月賞>白倉静子<銀賞>・大東賞>成岡千鶴子<銅賞>・クサカベ賞>島村斐子<新人賞>・クラフト賞>山田美敏

●第一美術協会展 (第38回)

<第一美術賞>楽山正幸 <奨励賞>坂本誠、山田安、片岡猛雄、河野利雄、伊藤静、井坂澄子、水野博、飯野初男、内山正春、小林政夫、菅田七郎、久保田公子、日吉智、岡部鉄五郎、安藤治夫、村山隆司、富川多喜子、村田久雄、矢倉京一、山本享、布施雅子、山田豊子、橋詰乾二<文部大臣賞>・A氏賞・東京三洋賞>高橋亮<会員努力賞>杉浦巴<利友会賞>山岡テル枝<扶桑会賞>日高紀美子<H氏賞>立石寿子<R氏賞>石井時江<岬土舎賞>石川泰男<キクチ賞>谷井清<谷井賞>神山高治<T・K賞>村岡竹子

●大潮会展 (第30回)

<文部大臣奨励賞>吉元正明、榊田勝子<大潮会賞>伊芸和彦、福明義生、水上八重子<日本教育新聞社賞>相良昌子、森正樹 <特選>西沢清光、清野茂、渡辺丞、末広麻信、武内実、小松原絹子、石橋良平、菅沼東作、宮下衛幸、林和緒、熊田桜屋、末永光司、阿保清秀、佐治康生、金子静子、福地秀樹、小沢功、清水光男、永田庸子、紙谷幸司、大阿久ゆうこ、高橋武郎、柏木けい子、松井吉昭、大条幸子、林達雄、細田竹、飯田

栄子、上条南生、大野千文<会員努力賞>豊千里、西岡義、佐々木福基、大徳幸雄、津島初穂、斎藤克己

●大調和展 (第6回)

<大調和賞>大内次 <会員努力賞>庄司徳之助、柴田徳良、加藤勝重、桜間道雄、住谷磐根<努力賞>岡部直宜、今野高、内田滋子、松崎寛<佳作賞>辻野典代、須藤清彦、杉本正子、浜島玲子、木村桂子、木村光甫、三浦幸子、高村草樹<新人賞>戸田英彰、金枝新二、植原成二、高増徑草、森本遙

●太平洋美術展 (第63回)

<藤井記念賞>高橋虎之助、三沢寛<文部大臣奨励賞>高橋春子<太平洋美術会賞>志良以巖<太平洋美術会奨励賞>伊藤勲志、森口茂<I氏賞>飯田洋一、瀬戸剛若林盛治、鈴木武義<船岡賞>坂田康二、坂井君恵<クサカベ賞>奥野茂清、桑原四郎、佐田昌治、松尾寿子<ホルベイン賞>桜井一関理一郎、難波輝男<プルブルー賞>船山清次、脇田治男

●東光会展 (第33回)

<東光会賞>松本孝之<奨励賞>磯崎俊光、京極正男、小林愛子、杉原紘捷、田上雅康、武井時男、鶴田英昭、乗田貞勝、平井久子、本堂清、本田等、水村喜一郎、依田瑤子<彩美堂賞>大久保克子、玉目利保<船岡賞>小管康恵<クサカベ賞>徳永哲雄、宮崎靖夫<ホルベイン賞>杉谷恒夫<マツダ賞>下平武敬、藤井孝博、福田定夫<プルブルー賞>宇家節子<美術報知賞>飯塚一雄 <丸菱賞>江本美千代<T氏賞>長岡強

●独立展 (第35回)

<独立賞>福島瑞穂、絹谷幸二、高崎文夫、松村薫、森崎幸、湯沢正臣、今井信吾、水野恭子、横山紀子、堀口千鶴雄<奨励賞>広瀬通秀、飯田健治、原光子、後藤耕平、上出穂美、三浦洋一

●二科展 (第52回)

<二科金賞>伊庭新太郎、菅原二郎<二科銀賞>内藤幸子、図師晴子、西川利夫<二科特選>長谷川

正義、伊藤昭蔵、石村五十子、栗原喜依子、松田陽子、西田竜子、佐久川和夫、立山崇、登丸秀男、高野諤、能山宗忠、久保田晴彦、島田紘一郎、建部恵蔵、岡本三千穂、藤原市三郎<ローマ賞>熊谷善正<会員努力賞>猪田七郎、春田安喜子、大城皓也、吉田正雄、中村直人<青児賞>大沢昌助<総理大臣賞>鷹山宇一

●二紀会展 (第21回)

<文部大臣賞>佐伯米子、小島弘<二紀賞>伊藤昭義<佳作賞>小林千枝、清水正和、伊藤晴宣、三浜善直、山崎照彦<奨励賞>キタキミカユウ、鶴岡純代、富田啓介、西村美代子、森貞之、薮野健<褒賞>新井アロク、小林強、谷田頼郎、埜谷己代子、古賀勝、長谷川総一郎<同人優賞>黒沢三郎<新人大賞>高瀬善明<同人努力賞>白銀功、山本貞、山本文彦、八柳雅一、米林雄一<同人賞>植田彰子、クガ・マリフ、須磨とおる、住吉重雄、根来恒子、松井叔生、山本直治、久保田忠和、新谷沢子、島野重人、山根顕一

●日展 (第10回)

<内閣総理大臣賞>伊東万燿、佐竹徳、水船六州<文部大臣賞>下保昭、中村全策、進藤武松<菊華賞>川崎鈴彦、大宮俊興、河合健二、浅井光男、庄司栄吉、真下慶治、山本日子土良、山崎敏男、中垣秀吉<特選>石川響、大日躬世、川島浩、篠崎之男、田所浩、野々内良樹、三浦白鷗、有馬侃、桐野江節雄、島田利一、遠山義春、塗師祥一郎、守屋千之、山田茂人、山本吉雄、吉田民尚、雨宮淳、鈴木基弘、橋本堅太郎、蛭田二郎、宮崎辰児

●日本水彩展 (第55回)

<文部大臣奨励賞>板倉力蔵<会友奨励賞(篠原氏賞)>米津福祐<会友奨励賞(美術報知社賞)>二瓶大三<石井氏賞>富田正夫<三宅氏賞>白江正夫<真野氏賞>藤野平蔵<白滝氏賞>栗田口聡<奨励賞>山口哲夫、石井博、増田英一、三原実、佐藤勲、桐生郁夫、

受賞一覧

原田敬造、児嶋昌子、三原康男、北野太郎

●67年度日本宣伝美術会展

＜日本宣伝美術会賞＞長友啓典、加納典明＜特選＞辰巳四郎、大橋利樹、松永真、中河原暉明、森島紘、横山明＜奨励賞＞上原昌、宮田識、上村二基、太田ハジメ、高橋稔、藤尾勝治郎、上条喬久、小西啓介、岡田豊、宮内ハルオ、青木一男、森崎厚二、山元清重

●日本版画協会展（第35回）

＜日本版画協会展賞＞日和崎尊夫、堀井英男＜新人賞＞高部多恵子、鈴木力、野田哲也＜奨励賞＞いわた・きよし、西巻茅子、小畑勉、ウィリアム・ベイデン

●日本美術院展（第52回）

＜日本美術院賞・副賞大観賞＞岡本弥寿子＜奨励賞・副賞白寿賞・G賞＞森田暎平、後藤純男、小栗正、常盤大空、下田義寛、番場春雄、小島丹彦、今井珠泉、松岡政信、長井亮之

●日本表現派展（第10回）

＜文部大臣奨励賞・日本表現派第2賞＞菅原洗人＜日本表現派第3賞＞稲熊万栄＜10周年記念賞＞上原達原＜奨励賞＞堀内不死男、小林垣火子、中島薫火、鈴木雄三

●日本現代工芸展（第6回）

＜現代工芸大賞＞鈴木治平＜現代工芸賞＞力丸卓司、亀井勝、角偉三郎、宮崎芳郎＜外務大臣賞・会員賞＞鈴木貫爾＜文部大臣賞・会員賞＞安田友彦

●日本伝統工芸展（第14回）

＜文化財保護委員会委員長賞＞佐々木正＜日本工芸会会長賞＞鈴木蔵、中島政子、井尾敏雄、堀如真川北良造＜日本工芸会総裁賞＞音丸淳＜東京都教育委員会賞＞北村一郎＜朝日新聞社賞＞柳下昌軒

●白日展（第43回）

＜白日賞＞永沢睦子、斎藤喜美枝田代勝＜準会員奨励賞・副賞・美術報知賞＞増山弘志＜副賞・大内賞＞大野健治＜副賞・ブルー賞＞川村正男＜副賞・船岡賞＞加藤明彦＜会友奨励賞・副賞・船岡賞＞鬼頭克治＜副賞・ス

ター賞＞木下昂＜副賞・六光社賞＞白沢菊夫＜中沢賞＞平松諒＜彩美堂賞＞天野きい子、大崎隆生＜クサカベ賞＞小林昌郎、大野孝泰、奥村憲＜スター賞＞吉高神靖典＜日文賞＞榊ふみ、横山省三＜Y氏賞＞成岡千鶴子＜ブルー賞＞岡山明＜吉野賞＞山内誠美＜ホルベイン賞＞大津スミ、山田光子

●美術文化展（第27回）

＜美術文化協会賞＞横山敏明＜奨励賞＞大宮健児、岡本唯嗣＜新人賞＞藤井英美子＜努力賞＞岡田恭男、大谷神爾＜新人努力賞＞青山清輝、柳瀬義一、松谷紀夫＜S氏賞＞植田峻弘＜O氏賞＞兵藤桂子＜K氏賞＞桜井幹夫＜ブルー賞＞柴田孝子、長野弥生＜船岡賞＞山口郁夫、宮脇清吉＜文房堂賞＞竹田甫、中島博司＜マツダ賞＞中村秀夫＜クサカベ賞＞浦田顕磨＜さくら賞＞中村一樹＜ホルベイン賞＞中川善夫＜べんてる賞＞上野理男

●モダンアート展（第17回）

＜協会賞＞飯沼志珪夫＜優秀賞＞増井和弘＜新人賞＞蓮見幸夫、住谷正巳、草野昭治＜奨励賞＞赤石吉正、浅見静子、柏原つとむ、中谷有逸、朝倉直巳、佐藤芳夫＜会友努力賞＞出水徹

その他

●第57回日本学士院賞

＜学士院賞＞秋山光和（東大文学部教授）「平安時代世俗画の研究」

●第23回日本芸術院賞

＜芸術院賞＞（日本画）上村松篁「樹下幽禽」ならびに業績、佐藤太清「風騒」（洋画）島村三七雄「異橋」ならびに業績（陶芸）浅見隆三「爽」および一連の作品（建築）佐藤武夫・建築界につくした業績

●芸術選奨（美術関係）

池田満寿夫

●文化勲章（美術関係）

林武

●日本国際美術展（第9回）

＜大賞＞吉原治良＜国立近代美術館賞＞荒川修作＜神奈川県立近代

美術館賞＞高松次郎＜ブリヂストン美術館賞＞小島信明＜大原美術館賞＞ヨシダ・ミノル＜日本国際美術振興会賞＞三木富雄

●シェル美術賞（第11回）

＜一等＞管木志雄＜二等＞鈴木慶則、山本圭吾＜三等＞安藤勝康、桑原盛行、高間夏樹

●高村光太郎賞（第10回）

建昌堂造

●1967年ADC賞

＜金賞＞亀倉雄策＜銀賞＞中村誠村瀬秀明、横須賀功光、早川良雄植松国臣、佐野幸義、国房魁、向秀男、宮永磐夫＜銅賞＞細谷敏、安斎吉三郎、信田富夫、宮永磐、武下朗、岸田甫、佐藤弘、勝岡重夫、篠山紀信、松本達、松本はるみ、山城隆一、深瀬昌久、柳町恒彦、萩原正美、水野卓史、多比羅孝、西宮正明、石岡瑛子、横須賀功光、下山竜三、志村和信、吉田忠雄、大橋正、永井一正、後藤一之、高梨豊、横尾忠則、田中一光植松国臣、矢崎泰久、和田誠、葛上周次、森隆司郎、金子秀之、杉山登志、荒牧正＜特別賞＞伊坂芳太郎

●毎日商業デザイン賞

＜特選＞河添宗輔、国井秀隆

●毎日工業デザイン賞

＜特選＞1席・安間康男 2席・斎藤共永

●おぎろ画廊賞（第7回）

松本百司

●昭和会賞（第2回）

福本章

●長岡現代美術館賞（第4回）

バリ・フラナガン

●サンパウロ・ビエンナーレ（第9回）

＜版画部門＞吹田文明

●パリ青年ビエンナーレ（第5回）

＜留学賞＞高梨豊＜佳作＞高松次郎、三木富雄

●現代日本彫刻展（第2回）

＜大賞＞岸田克二＜宇部興産賞＞土谷武＜毎日新聞社賞＞湯原和夫＜宇部野外彫刻美術館賞＞新宮晋＜神奈川県立近代美術館賞＞若林奮＜長崎県立美術館賞＞高橋

受賞一覧

清<福岡文化会館賞>一色邦彦

<K氏賞>福岡道雄

●国際青年美術家展賞(第4回)

<大賞>前田斉<外務大臣賞>フ

ランク・ロス<文部大臣賞>互林

睦生<国際美術家展賞>ジョン・

アルトーン<ストライム優秀賞第

一席>阪本文男<ストライム優秀

賞>一席・正田嬢 二席・大野増

穂、加賀谷武<クリティック賞>

ヘクター・レオナルド<日本文化

フォーラム賞>金光松美、奥田善

己<読売新聞社賞>ジェロルド・

C・パレイン<美術出版社賞>高

橋由明

●67年日本建築学会賞

磯崎新、坂倉準三建築設計研究所

昭和40年・41年・42年度 文化財保護委員会、国立博物館、美術館、新収品目録

東京国立博物館

(40年度)

絵画

三美人おどり図	1幅	菱川師宣筆	紙本着色	江戸時代
美人図	1幅	菱川師直筆	紙本着色	江戸時代
遊女と禿図	1幅	宮川長春筆	絹本着色	江戸時代
万歳図	1幅	宮川長春筆	絹本着色	江戸時代
若衆図	1幅	宮川長春筆	絹本着色	江戸時代
遊女立姿図	1幅	宮川春水筆	紙本着色	江戸時代
三美人図	1幅	宮川長龜筆	紙本着色	江戸時代
湯上り美人と猫図	1幅	勝川春英筆	紙本着色	江戸時代
合せ鏡図	1幅	勝川春暁筆	絹本着色	江戸時代
双六を遊ぶ三美人図	1幅	勝川春好筆	絹本着色	江戸時代
本を読む母と若主人図	1幅	勝川春好筆	絹本着色	江戸時代
遊女図	1幅	勝川春亭筆	絹本着色	江戸時代
西行と遊女図	1幅	奥村政信筆	絹本着色	江戸時代
碁ならべ図	1幅	無款(奥村風)	紙本着色	江戸時代
桜花美人図	1幅	無款(奥村風)	紙本着色	江戸時代
舟中美人図	1幅	無款(鈴木春重風)	絹本着色	江戸時代
美人愛猫図	1幅	碓田湖庵筆	四方赤良賛 絹本着色	江戸時代
桜花談笑二美人図	1幅	窪俊満自画	絹本着色	江戸時代
桜花美人図	1幅	水野盧朝筆	紙本着色	江戸時代
吉原花見太夫図	1幅	山東京伝自画	紙本着色	江戸時代
葉玉図	1幅	鳥山石燕筆	紙本着色	江戸時代

きぬぎぬの別れ図	1幅	別人歌麿筆	紙本淡彩	江戸時代
芸妓図	1幅	2代喜多川歌麿筆	十返舎一九賛 絹本着色	江戸時代
姫君図	1幅	墨亭月磨筆	絹本着色	江戸時代
三味線持てる芸妓図	1幅	喜多川秀磨筆	絹本着色	江戸時代
手をふく美人図	1幅	喜多川式磨筆	紙本着色	江戸時代
三味線を引く美人図	1幅	墨川亭雪磨筆	十返舎一九賛 絹本着色	江戸時代
芸妓図	1幅	無款(歌麿風)	紙本着色	江戸時代
立美人図	1幅	喜多川藤磨筆	紙本着色	江戸時代
遊女立姿	1幅	細田栄之筆	絹本着色	江戸時代
文読み美人図	1幅	細田栄之筆	絹本着色	江戸時代
立美人図	1幅	豊川栄深筆	紙本着色	江戸時代
花見二美人図	1幅	弄春斎栄江筆	讃あり 紙本着色	江戸時代
花の吉原図	1幅	蹄斎秋皴筆	蜀山人賛 紙本着色	江戸時代
太夫愛猫図	1幅	桃源斎栄舟筆	絹本着色	江戸時代
京美人夏化粧図	1幅	祇園井特筆	紙本着色	江戸時代
京一力芸妓文読み図	1幅	祇園井特筆	絹本着色	江戸時代
徒然草画帖	1帖	住吉具慶筆	絹本着色	江戸時代
花卉図	双幅	張莘筆	紙本着色	清時代
元旦試筆	2幅	江川坦庵筆	紙本墨書	江戸時代
精華	1面	吉田博筆	カンヴァス・油彩	(弘誓ひで氏寄贈)
芭蕉翁像	1幅	青木夙夜筆	紙本淡彩	(吉田ふじを氏寄贈)
墨竹図	2幅	張士文筆	紙本墨画	江戸時代
書跡				
鳥丸光広筆詠草	1幅	紙本墨書		江戸時代
米万鍾筆・草書題画七言絶句軸	1幅	紙本墨書		

明時代			
王鐸筆・行書五言律詩軸	1幅	統本墨書	明・清時代
周亮工筆・行書秦淮詩軸	1幅	統本墨書	清時代
宣重光筆・草書五言律詩軸	1幅	統本墨書	清時代
康熙帝御筆・臨米芾書軸	1幅	統本墨書	清時代
清拙正澄墨跡「南院国師忌拈香偈」	1幅	紙本墨書	鎌倉・南北朝時代
江川坦庵筆七言絶句	1幅	紙本墨書	江戸時代
(弘誓ひで氏寄贈)			
烏丸光広筆東行記	1巻	彩牋墨書	江戸時代

彫 刻

男 神 像	1軀	石造 11世紀 インド、ラジャスタン州カジュラホ周辺出土
観音菩薩立像	1軀	銅造鍍金

金 工

銅製宝珠杵	1箇
獅子鎖柄香炉	1柄

陶 磁

色絵草花文向付	5箇	讃窯	江戸時代
(以下9件小倉安之氏寄贈)			
染付龍文双耳瓶	1箇	讃窯	江戸時代
染付硯屏	1箇	讃窯	江戸時代
黄釉薬苞鉢	1箇	讃窯	江戸時代
黒楽鶴絵茶碗	1箇	讃窯	江戸時代
楽焼雀香合	1合	讃窯	江戸時代
附 染付楊子入	1箇	讃窯	
楽焼虎形手炉	1箇	讃窯	江戸時代
素焼灰器	1箇	讃窯	江戸時代
讃窯資料	1括		

御献上陶器控帳 1冊 天保四年堤次兵衛筆

高府迎陶器数控帳 1冊 天保五年精奇堂筆

御用陶器職人日補留 1冊

御用陶品算用帳 1冊

磁器伝法目録 1枚

讃窯命名記 1枚

讃窯記、讃窯絵図 1巻

木 印 7顆

型 6箇

陶 印 2箇

仁阿弥道入他消息 2巻

仁阿弥道八筆絵画 5点

加彩花文壺 1箇 唐時代

漆彩瓜文鉢 1箇 豊助作 江戸時代

(以下4件伊藤甲子之助氏寄贈)

漆彩帆船図鉢 1箇 豊助作 江戸時代

漆彩急須 1箇 豊助作 江戸時代

漆彩葛文手鉢 1箇 豊助作 江戸時代

染 織

縞地藤模様無紅唐織	1領
打 掛	白綸子地花車模様 1領
小 袖	黒綸子地水辺風景鷺模様 1領
帷 子	茶地源氏車花模様 1領
掛 下 帯	浅葱緞子地花束蝶模様 1条
小 袖	紫地匹田紋 1領
女物紋附着物	1領
女物紋附着物	1領
女物紋附着物	1領
女物紋附着物	1領
打 掛	1領
下 着 及 帯	1領
女物着物	1領
女物紋附着物	1領
女物紋附着物	1領
打 掛	1領
女物紋附振袖着物	1領
打 掛	1領
茶地御召女物着物	1領
段染田植模様女物着物	1領
小紋女物着物(襲附き)	1襲
紋附女物着物(襲附き)	1襲
紋附女物着物(襲附き)	1襲
紋附女物単衣着物	1領
紋附振袖着物	1領
女 帯	1条
縞御召女物単衣着物	1領
鼠地小紋女物綿入着物	1領
鼠地小紋女物綿入着物	1領
縞織女物綿入着物	1領
打 掛	1領
紋附女物着物(襲附き)	1襲
小紋染紋附女物着物(襲附き)	1襲

考 古

鉢形土器	1箇	長野県下水内郡豊田村出土 縄文時代
銅 鐸	1箇	兵庫県神戸市東灘区本山町森字坂下町14出土 弥生時代 青銅製(文化財保護委員会より管理換) 昭和33年7月発見 袈裟文
銅 鐸	1箇	兵庫県三原郡緑町倭文字庄田笹尾694の1出土 弥生時代 青銅製(文化財保護委員会より管理換) 昭和34年8月発見 流水文
壺形土器	1箇	青森県八戸市大字松館字淵助沢14出土 縄文時代

昭和40年・41年・42年度 文化財保護委員会、国立博物館、美術館、新収品目録

(文化財保護委員会より管理換)				号填出土	
銅	鉦	1箇	佐賀県唐津市久里久里小学校敷地出土 弥生時代	素文鏡 1面	出土地同前
			青銅製 第2号甕棺出土(文化財保護委員会より管理換)	金製竜文透彫方形板 1箇	出土地同前
銅	戈	1箇	佐賀県唐津市久里久里小学校敷地出土 弥生時代	金製耳飾 1対	出土地同前
			青銅製 第2号甕棺出土(文化財保護委員会より管理換)	金製耳飾 1対	出土地同前
			佐賀県唐津市久里久里小学校敷地出土 弥生時代	金製腕輪 1箇	出土地同前
			青銅製 第2号甕棺出土(文化財保護委員会より管理換)	銀製腕輪 2箇	出土地同前
碧玉製管玉		9箇	佐賀県唐津市久里久里小学校敷地出土 弥生時代	歩 揺 1括	出土地同前
			第2号甕棺出土(文化財保護委員会より管理換)	金製指輪 2箇	出土地同前
			佐賀県唐津市久里久里小学校敷地出土 弥生時代	金製指輪 2箇	出土地同前
			第2号甕棺出土(文化財保護委員会より管理換)	金製指輪 1箇	出土地同前
銅	鉦	1箇	佐賀県唐津市久里久里小学校敷地出土 弥生時代	銀製指輪 1箇	出土地同前
			(文化財保護委員会より管理換)	銀製指輪破片 1括	出土地同前
			佐賀県唐津市久里久里小学校敷地出土 弥生時代	勾 玉 4箇	硬玉製 出土地同前
			(文化財保護委員会より管理換)	勾 玉 1箇	滑石製 出土地同前
碧玉製管玉		4箇	佐賀県唐津市久里久里小学校敷地出土 弥生時代	切子ガラス碗 1箇	出土地同前
			(文化財保護委員会より管理換)	緑ガラス皿 1箇	出土地同前
			佐賀県唐津市久里久里小学校敷地出土 弥生時代	白 滑石玉 1括	滑石製
			(文化財保護委員会より管理換)	雁 木 玉 2箇	出土地同前
甕 棺 破 片		1括	佐賀県唐津市久里久里小学校敷地出土 弥生時代	金箔入ガラス玉 1箇	出土地同前
			(文化財保護委員会より管理換)	ガラス丸玉 7箇	出土地同前
土 偶		1箇	青森県西津軽郡木造町亀ヶ岡出土 縄文時代	ガラス丸玉 1括	濃緑色 出土地同前
内行花文鏡		1面	岡山県四御神と湯迫との境車塚出土(以下49件文化財保護委員会より管理換)	ガラス小玉 1括	出土地同前
			青森県西津軽郡木造町亀ヶ岡出土 縄文時代	金の空玉 2箇	出土地同前
			岡山県四御神と湯迫との境車塚出土(以下49件文化財保護委員会より管理換)	銀の空玉 1括	出土地同前
			青森県西津軽郡木造町亀ヶ岡出土 縄文時代	金銅製帯金具 1括	出土地同前
			岡山県四御神と湯迫との境車塚出土(以下49件文化財保護委員会より管理換)	鉄刀破片 3口分	出土地同前
面文縁吾作銘重列式神獸鏡		1面	出土地同前	漆盤残欠 1括	出土地同前
三角縁画像帯竜虎鏡		1面	出土地同前	木棺残欠 1括	出土地同前
三角縁陳氏作神獸車山鏡		1面	出土地同前	土 器 1括	出土地同前
三角縁陳氏作神獸車馬鏡		1面	出土地同前	銀装圭頭大刀 1口	愛媛県周桑郡小松町大日山出土
三角縁陳氏作四神二獸鏡		1面	出土地同前	鋳銅製経筒 1口	(一号出土品) 以下24件 埼玉県大里郡妻沼町妻沼小学校出土<文化財保護委員会より管理換>
三角縁陳氏作四神二獸鏡		1面	出土地同前	土師小壺 1箇	(〃)
三角縁国作銘二神六獸鏡		1面	出土地同前	鉄製短刀 7口	(〃)
三角縁新作銘四神四獸鏡		1面	出土地同前	山吹双雀文鏡 1面	(二号出土品)
三角縁「天王日月」銘獸文帯重列式神獸鏡		1面	出土地同前	須恵器甕残欠 1括	(〃)
三角縁「天王」銘飛禽文帯四神四獸鏡		1面	出土地同前	鉄鋳銅製経筒 1口	(三号出土品)
三角縁画像帯五神四獸鏡		1面	出土地同前	経巻残塊 1括	(〃)
三角縁波文帯六神四獸鏡		1面	出土地同前	藤花文鏡 1面	(〃)
鉄剣身破片		2箇	出土地同前	草花双雀鏡 1面	(〃)
鉄刀身破片		1括	出土地同前	素文鏡 1面	(〃)
短冊形鉄斧		1口	出土地同前	雛菊花鳥文鏡 1面	(〃)
鉄斧破片		1箇	出土地同前	菊花双鳥文鏡 1面	(〃)
鉄鎌破片		1括	出土地同前	草花鳥文鏡 1面	(三号出土品)
棒状鉄器		1括	出土地同前	金銅製花瓶 1口	(〃)
柄付銅製皿		1箇	奈良県橿原市川西町千塚 126	鉄製短刀残塊 1括	(〃)
				陶 片 1括	(〃)

昭和40年・41年・42年度 文化財保護委員会、国立博物館、美術館、新収品目録

檜 扇 残 欠	1括 (〃)	
木 製 品	1箇 (〃)	
草花尾長鳥文鏡	1面 (四号出土品)	
松に双鶴文鏡	1面 (〃)	
青白磁合子	1口 (〃)	
檜 扇 残 欠	1括 (〃)	
陶 片	1括 (〃)	
鉄製短刀残塊	1括 (〃)	
須恵器甕残欠	1括 (〃)	
小 判 金	103枚 (慶長小判20枚、元禄小判183枚) 東京都大島大島町岡田勝崎沖合発見 江戸時代 (文化財保護委員会より管理換)	
一 分 金	63枚 (慶長一分金62枚、元禄一分金1枚) 発見地同前 (文化財保護委員会より管理換)	
鋳銅製経筒	1口 無銘 以下3件山形県山形市大森山山頂出土 鎌倉時代 (文化財保護委員会より管理換)	
陶製外筒	1口 須恵質	
経巻残欠	1括	
蓋 石	1箇 安山岩質 平板状平石	
鋳銅製経筒(康和五年在銘)	1口 以下7件山梨県東山梨郡勝沼町柏尾出土 平安時代 (文化財保護委員会より管理換)	
銅板製経筒	2口	
陶製外筒	2口 (須恵質1口、土師質1口)	
経軸残欠	8本	
経巻残塊	1括	
玉 類	1括	
木炭残塊	1括	
鉄製短刀	1口	
宝篋印塔形骨蔵器	附火葬骨 1口 新潟県小千谷市大字千谷字岡林出土 鎌倉時代 (文化財保護委員会より管理換)	

(41年度)

絵 画		
牡丹孔雀図	1幅	益頭峻南筆 絹本着色 明治42年作(益頭尚道氏寄贈)
松磯独釣軸	1幅	顧大申筆 絹本墨画 清時代
竹石図	1幅	藍瑛外筆 明時代
老松図	1幅	金湜筆 絹本墨画 明時代
田舎楽図	1幅	湯貽汾筆 絹本淡彩 清時代
平沙落雁図	1幅	関思筆 紙本淡彩 明時代
涪溪図巻	1巻	王宸筆 紙本墨画 清時代

四君子図冊	1帖(12面)	虚谷筆 紙本墨画 清時代
小景十幀冊	1帖	查士標筆 紙本墨画 清時代
山水精品図冊	12帖(12面)	李世倬筆 紙本着色 清時代
花卉画冊并賛跋	1帖	釈竹堂筆 紙本墨画 清時代
扇面花卉美人図	11枚	陳曼生他筆 各面作者=顧洛2枚 費丹旭3枚 戴瀾1枚 陳鴻寿1枚 趙之琛2枚 葛樽2枚
芦葉達磨図	1幅	越溪筆 紙本墨画 江戸時代 <望月芳江氏寄贈>
三番叟図	2幅	雛屋立圃筆 紙本墨画 江戸時代 <長谷川巳之吉氏寄贈>
瀑布図	1幅	陸鵬筆 絹本淡彩 清時代
中国風景図	10枚	筆者不詳 紙本着色 清時代 <長谷川巳之吉氏寄贈>

書 跡

伝紀貫之筆寸松庵色紙	1幅	紙本墨書 平安時代
浜村藏六 <初代~五代> 刻印・印譜資料		
手島右卿筆幽人雪月	1幅	紙本墨書 現代
蘇軾・懷素自叙巻	1巻	紙本墨書 北宋時代
田能村竹田筆書巻	1巻	紙本墨書 江戸時代
伝小大君筆 香紙切	1幅	彩箋墨書 平安時代
頼山陽筆大江広元論稿	1幅	紙本墨書 江戸時代

彫 刻

菩薩頭部	1個	石造
------	----	----

陶 磁

織部手附鉢		桃山時代 <簗進氏寄贈>
五彩金襴手鉢		明時代 <広田松繁氏寄贈>
褐釉六角壺	丹波焼	江戸時代 <反町十郎氏寄贈>
色絵呉須赤絵写皿	華中亭道八作	江戸時代 <佐藤助庵氏寄贈>
片口形鉢		平安時代末 <近藤金吾氏寄贈>
白磁竜濤文盃		明時代

漆 工

南天漆塗絵盆	2枚	江戸時代 <伊藤甲子之助氏寄贈>
白粉刷毛蒔絵鞍轡	1具	江戸時代

染 織

唐織寿老図掛幅	1幅	
---------	----	--

昭和40年・41年・42年度 文化財保護委員会、国立博物館、美術館、新収品目録

半襟	127点	
いざり織機	1具	<鈴木寅重郎・一ノ谷タカ氏寄贈>
鞭	1本	<日本美術刀剣保存協会寄贈>
赤絹子地総四田振袖	1領	<豊田満子氏寄贈>
鎧下着	1	<青木金蔵氏寄贈>
赤地松鶴模様振袖	1領	
納戸地二重菱二飛鶴模様小袖	1領	
浅葱地波海模様小袖	1領	
考古		
石器	13個	神奈川県横浜市南区上大岡十王堂免出土 縄文時代早期 礫器 7 個 局部 磨製石斧 5 個
磨石	1個	<小島一郎氏寄贈>
土器破片	10個	神奈川県横浜市南区上大岡十王堂免出土 縄文時代早期 胴部 4 個 底部 2 個 <小島一郎氏寄贈>
石器	6個	神奈川県横浜市磯子区磯子町紅取出土 縄文時代早期 前期 礫器 5 個 局部磨製石斧 1 個 <小島一郎氏寄贈>
金錯越王銅戈	1柄	中国安徽省寿县出土 戦国時代
注口土器	1個	青森県十和田市大字大不動字瀬沢出土 縄文時代後期
岩偶残欠	1個	青森県三戸郡南部町小向出土 縄文時代晩期
土偶	1個	青森県三戸郡田子町野面平出土 縄文時代晩期
土製熊	1個	青森県弘前市十腰内出土 縄文時代後期
鐸形土製品	1個	青森県西津軽郡森田村富士山出土 縄文時代後期
鐸形土製品	1個	青森県弘前市十腰内出土 縄文時代後期
注口土器	1個	岩手県二戸郡一戸町蔭前出土 縄文時代晩期
香炉形土器	1個	岩手県二戸郡一戸町元蛭業試験所敷地出土 縄文時代晩期
壺形土器	1個	岩手県二戸郡金田一村金田一川出土 縄文時代晩期
脚付皿形土器	1個	岩手県二戸郡金田一村金田一川出土 縄文時代晩期
皿形土器	1個	岩手県二戸郡金田一村金田一川出土 縄文時代晩期

(42年度)

絵画		
博物館中央	1面	杉本健吉筆 カンバス・油彩 昭和17年 明時代
売貨郎図	1幅	絹本着色 <石島護氏寄贈>
芦鶉図	1幅	林良筆 絹本墨画 明時代
那智灘瀑図	1幅	池大雅筆 紙本淡彩 江戸時代
元旦試題図	1幅	盛茂輝筆 絹本淡彩 明時代
山水図	1幅	樊圻筆 絹本墨画 清時代
山水図	1幅	沈士充筆 絹本墨画 明時代
橋本雅邦縮図	2冊	橋本雅邦筆 紙本淡彩 明治時代 <塩崎逸陵氏寄贈>
横浜神風楼之図	3枚続	歌川国松筆 紙本版画 大判錦絵 <浅野長武氏寄贈>
幕末明治風俗図	96枚	歌川国松筆 絹本着色 <浅野長武氏寄贈>
諸葛亮図	張風筆	紙本墨画 朱文方印「張風之印」 清時代 <繭山順吉氏寄贈>
書跡		
貝葉經	1冊	<池尻頼三氏寄贈>
尊円親王筆庭訓往来	1巻	紙本墨書 南北朝時代 <秋野光広氏寄贈>
明治天皇宸翰古歌	1巻	紙本墨書 明治時代 <秋野光広氏寄贈>
賀茂真淵・本居宣長筆書状	1巻	紙本墨書 江戸時代 <秋野光広氏寄贈>
高山右近筆書状	1幅	紙本墨書 桃山時代
徳川家康筆書状	1幅	紙本墨書 桃山時代
彫刻		
壁面二菩薩図	1面	ベゼクリク出土 土壁彩色
壁面釈迦像	1面	キジル千仏洞出土 土壁彩色
塑造菩薩首	1個	塑造彩色
塑造菩薩首	1個	クムトラ出土 塑造彩色
塑造菩薩首	1個	塑造彩色
塑造菩薩首	1個	クムトラ出土 塑造彩色
木製金箔舍利容器	1個	木造金箔押
壁面漢字経文断面	1面	土壁彩色墨書
壁面漢字経文断面	1面	土壁彩色墨書
壁面千体仏断面	1面(2片)	ベゼクリク出土 土壁彩色
壁面漢字経文断簡「大唐云々」	1面	土壁彩色
壁面漢字経文断簡「登云々」	1面	土壁彩色
塑造破片	1個	塑造彩色
彩色木製宝相華文飾首	1個	木造彩色
木心彩色土偶婦女首	1個	木心塑造彩色

彩色土偶庶人男子首 1個	木心塑造彩色	石彫仏坐像 1体	石造彩色
木心彩色土偶武人小像 1個	木心塑造彩色	石彫仏坐像 1体	石造彩色
方磚彩色墓碑銘「延昌廿九年云々」 1枚	ブラシャール 発見	石彫石狗破片 1個	石造
陶製彩色飾壺 1個	トユック発見 陶土製	石彫腕破片 1個	石造彩色
陶製彩色飾高杯 1個	トユック発見 陶土製	石彫半円形飾板 1個	石造
石造彩色三尊仏 1体	石造彩色	青玉板 1個	青玉製
塑造菩薩上半身 1体	竹芯塑造彩色	石器各種 6個	石製
塑造如来立像 1体	コータン出土 塑造彩色	石斧 3個	石製
テラコッタ共命鳥小像 1体	コータン周辺出土 テラ コッタ製	石球 1個	石製
テラコッタ水瓶頸部破片 1個	コータン周辺出土 テ ラコッタ製	石碑破片 2個	石製
		丸形石 1個	石製
		圓石 2個	石製
		埴塼形 4個	石造
古銭各種 35枚		陶製青釉広口壺 1個	陶製
彩色木片(画仏板等) 4個		陶製緑釉圀 1個	陶製
彩色長形木片 2個		陶製緑釉圀 1個	陶製
木簡断片(西域文字あり) 13個	木造素地彩色墨書	陶製黄彩圀 1個	陶製
木簡及金箔破片 2個		陶製褐釉獸帶壺 1個	陶製
木製品(匙様のもの) 6個	木製素地	陶製緑釉獸帶壺 1個	陶製
木製品(餓鬼上半身ほか) 9個	アスタナ出土	白磁内邱窯壺 1個	白磁製
木製品破片(杏木形ほか) 8個	クムトラ出土	塑造羅漢像 2体	塑造彩色
目皿及化粧品 8個	伝トルファン出土	壁画経文断面(西域文字あり) 1面	ムルトック壁画断 面 土壁彩色
石製品及獸牙(亜灰板ほか) 5個		壁画経文断面(中国文字あり) 1面	ムルトック壁画断 面 土壁彩色
塑造千体仏及飛天 7個		壁画持幢菩薩立像 1面	ベゼクリク出土 土壁彩色
彩色木片 2個	トルファン出土	壁画持盤菩薩跪像 1面	ベゼクリク出土 土壁彩色
櫛筒及化粧品 2個	アスタナ出土	壁画衆人奏楽図 1面	ベゼクリク出土 土壁彩色
塑造蓮座破片その他 6個		壁画千体仏断片 1面	土壁彩色
塑造花形彩色 11個		有翼天使像 1面	ミラン出土 砂壁彩色
塑造破片(菩薩上半身ほか) 6個	カラシャール出土	木製布貼彩色舍利容器付 1個	蛇文石製念珠 1連 スパン出土
塑造破片(塔形ほか) 8個		仏頭部 15個	塑造 クシャーナ王朝時代
各種破片(陶製西藏仏ほか) 10個		仏坐像 2軀	片造製 クシャーナ王朝時代
テラコッタ小像及破片 55個	コータン周辺出土	仏坐像 8軀	塑造 クシャーナ王朝時代
テラコッタ板仏及陶片 11個		仏上半身 1軀	片岩 クシャーナ王朝時代
印章類各種その他 39個	ヨトカン出土	菩薩頭部 3個	片岩 クシャーナ王朝時代
金銅小像その他 25個	クムトラ(ヨトカン)出土	菩薩頭像 3軀	塑造 クシャーナ王朝時代
金属製利器 5個		菩薩立像 1軀	片岩 クシャーナ王朝時代
木心土偶破片その他 3個		菩薩立像 1軀	塑造 クシャーナ王朝時代
塑造破片 9個	クムトラ出土	浮彫貴人上半身 1軀	片岩 クシャーナ王朝時代
塑造彩色板破片 1枚	コータン・ダングンウィリク 出土 土壁彩色	菩薩上半身 1軀	片岩 クシャーナ王朝時代
方軀(雷文) 1枚		供養者(頭部欠) 1軀	片岩 クシャーナ王朝時代
方軀(蓮華文) 1枚	トユック出土	供養者頭部 2個	片岩 クシャーナ王朝時代
方軀(宝相華文) 1枚	トユック出土	供養者頭部 8個	塑造 クシャーナ王朝時代
長方軀(蓮華文) 1枚	トルファン南方荒城内出土	供養者上半身 1軀	片岩 クシャーナ王朝時代
長方軀(晋威寧三年銘) 1枚		供養者上半身 1軀	塑造 クシャーナ王朝時代
瓦当破片 5個		供養者像 1軀	片岩 クシャーナ王朝時代
軀破片各種 20個		パンチカ坐像 1軀	片岩 クシャーナ王朝時代
石彫仏台座(四方菩薩浮彫あり) 1個	石造	ハリーティ坐像 1軀	片岩 クシャーナ王朝時代
石彫仏台座(楮達良造銘) 1個	石造	パンチカとハリーティ坐像 2軀	片岩
石彫仏坐像 1体	石造彩色		
石彫三尊仏立像 1体	石造彩色		

昭和40年・41年・42年度 文化財保護委員会、国立博物館、美術館、新収品目録

ヤクシャ立像	2 軀	片岩	クシャーナ王朝時代	仏 頭 部	1 個	テラコッタ	クシャーナ王朝時代
アトラス坐像	2 軀	片岩	クシャーナ王朝時代	仏 頭 部	1 個	塑造	クシャーナ王朝時代
アトラス坐像	2 軀	塑造	クシャーナ王朝時代	供養者頭部	1 個	塑造	クシャーナ王朝時代
獅子	1 軀	塑造	クシャーナ王朝時代	供養者頭部	1 個	塑造	クシャーナ王朝時代
牛	2 個	塑造	クシャーナ王朝時代	仏上半身	1 軀	片岩	クシャーナ王朝時代
浮彫ガーランドをかつぐ天使	2 個	片岩	クシャーナ王朝時代	菩薩頭部	1 個	片岩	クシャーナ王朝時代
浮彫ヤクシニー	1 個	片岩	クシャーナ王朝時代	菩薩上半身	1 軀	片岩	クシャーナ王朝時代
浮彫供養者	1 個	片岩	クシャーナ王朝時代	供養者頭部	1 個	片岩	クシャーナ王朝時代
浮彫断片	1 個	片岩	クシャーナ王朝時代	アトラス坐像	1 軀	片岩	クシャーナ王朝時代
浮彫ヤクシャ	1 個	片岩	クシャーナ王朝時代	仏伝浮彫「三宝の礼拝」	1 個	片岩	クシャーナ王朝時代
仏伝断片	1 個	片岩	クシャーナ王朝時代				クシャーナ王朝時代
海神のついた装飾板	1 個	片岩	クシャーナ王朝時代	仏伝浮彫「酒を飲む男女群像」	1 個	片岩	クシャーナ王朝時代
浮彫法輪をささえるヤクシャ	1 個	片岩	クシャーナ王朝時代				クシャーナ王朝時代
浮彫ストッパ	1 個	片岩	クシャーナ王朝時代	浮彫断片「供養者列像」	1 個	片岩	クシャーナ王朝時代
浮彫仏・菩薩・羅漢	1 個	石灰岩	クシャーナ王朝時代				クシャーナ王朝時代
柱 頭	3 個	片岩	クシャーナ王朝時代	浮彫「ヤクシニーと供養者」	1 個	片岩	クシャーナ王朝時代
柱	1 個	片岩	クシャーナ王朝時代	浮彫「仏菩薩像」	1 個	片岩	クシャーナ王朝時代
羅漢頭部	1 個	片岩	クシャーナ王朝時代	浮彫「ガーランドをかつぐ天使列像」	1 個	片岩	クシャーナ王朝時代
浮彫のあるストッパ建築材	7 個	石灰岩	クシャーナ王朝時代				クシャーナ王朝時代
浮彫断片	4 個	片岩	クシャーナ王朝時代	浮彫柱頭「菩提樹と供養者」	1 個	片岩	クシャーナ王朝時代
仏像断片	7 個	塑造	クシャーナ王朝時代	柱頭「アカンサス」	1 個	石灰岩	クシャーナ王朝時代
浮彫獅子	1 個	テラコッタ	クシャーナ王朝時代	柱頭「アカンサスと仏坐像」	1 個	石灰岩	クシャーナ王朝時代
化粧皿	1 個	片岩	クシャーナ王朝時代	柱頭「アカンサスと仏上半身」	1 個	石灰岩	クシャーナ王朝時代
舍利容器(内容物つき)	1 個	青銅製	クシャーナ王朝時代	柱頭「アカンサス・菩薩・天使・馬」	1 個	片岩	クシャーナ王朝時代
地 母 神	1 個	テラコッタ	B. C. 2 世紀	舍利容器(金属製内箱内容物つき)	1 個	片岩	クシャーナ王朝時代
女神上半身	1 個	テラコッタ	クシャーナ王朝時代				クシャーナ王朝時代
獅子かざりつき土器蓋	1 個	焼成土器	クシャーナ王朝時代	金 工			
タイル 土器づくり	1 個		クシャーナ王朝時代	二枚胴具足	金箔押栄螺型兜付	1 領	桃山時代
土器 把手	6 個		クシャーナ王朝時代	銅 水 瓶	1 口	響銅鑄製	高麗時代
猿 二 匹	1 個	テラコッタ	クシャーナ王朝時代	陶 磁			
ラ ン プ	5 個		イスラーム時代	染付山水文水注			江戸時代
土 器	5 個		イスラーム時代			<ジョン・A・ポーブ夫妻寄贈>	
ガラス製円板飾板	2 枚		イスラーム時代	青花楼閣人物文大壺			明時代
タ イ ル	24 個		イスラーム時代			<谷村庄平氏寄贈>	
土 器 片	1 括		クシャーナ時代～	青花六果文壺			明時代初期
			イスラーム時代	青磁八角有蓋壺			元時代
仏 頭 部	1 個	片岩	クシャーナ王朝時代			<蘆山順吉氏寄贈>	
仏 頭 部	1 個	塑造	クシャーナ王朝時代	漆 工			
仏 頭 部	1 個	塑造	クシャーナ王朝時代	黒漆輪花盆	2 枚		宋～元時代
仏 頭 部	1 個	塑造	クシャーナ王朝時代	紙胎漆塗彩絵華籠	1 個		鎌倉時代

染	織		
小紋染着物	1領	＜小宮康孝氏寄贈＞	
合羽	1領	＜深田宏氏寄贈＞	
帯	3条	＜菊地歳子氏寄贈＞	
刺繍長襦袢	1領	＜原口喜美子氏寄贈＞	
帯	1条	＜原口喜美子氏寄贈＞	
半襟	20枚	＜高島与一郎氏寄贈＞	
絨緞(コーカサス・カザック)	1枚		
絨緞(コーカサス・カザック)	1枚		
絨緞(コーカサス・カザック)	1枚		
絨緞(コーカサス・ゼイシュール)	1枚		
絨緞(コーカサス・カピスタン)	1枚		
髪飾具	1,244点	＜山口清三氏寄贈＞	
黒地四季花見幕模様留袖	1領	＜木村信三郎氏寄贈＞	
紺地縞御召着物	1領	＜川崎好之助氏寄贈＞	
髪飾具	11点	＜川崎好之助氏寄贈＞	

考	古		
台湾パイワン族首飾	1連		
台湾パイワン族首飾	1連		
台湾パイワン族首飾	1連		
台湾パイワン族首飾	1連		
台湾パイワン族首飾	1連		
台湾パイワン族首飾	1連		
台湾パイワン族首飾	1連		
台湾パイワン族首飾	1連		
台湾パイワン族首飾	1連		
台湾パイワン族首飾	1連		
台湾パイワン族首飾	1連		
台湾パイワン族首飾	1連		
台湾パイワン族首飾	1連		
台湾パイワン族装身具	1連		
台湾パイワン族装身具	1連		
＜以上15点 藤江志津氏寄贈＞			
磨製石斧	1個	フリント製	デンマーク出土
新石器時代			
重要美術品	土版	1個	茨城県結城市矢畑出土
縄文時代晩期			
陶	棺	1個	岡山県津山市河辺出土
古墳時代(7～8世紀)			

奈良国立博物館

(40年度)

絵	画	
聖徳太子絵伝	三幅	

彫刻

降三世明王像	1軀
大威徳明王像	1軀
木造彩色羅漢像	1軀
夢違観音立像(模造)	1軀

工	芸	
緑釉陶製三重小塔	1基	
白磁三重小塔	1基	
銅孔雀文磬	1面	
金銅塔鈴	1口	
銅造宝篋印塔	1基	
銅板法華経残欠	1面	

考古

瓦	塔	三ヶ日町出土	1基
瓦製五輪塔地輪部			1個
古	瓦		4点
平	瓦		2点

染

伎楽復元衣装(婆羅門)	1組
-------------	----

(41年度)

絵	画	
山王曼荼羅図	1幅	

彫刻

木造不動明王坐像	1軀
----------	----

工芸

金銅五銖明王鈴	1口
金銅山王十社御正体	1面

考古

銀製墓誌	陶製骨蔵器	1組
銅	銚	1点
勾玉	鎔	1点
銅	鐸	1点
銅製経筒	1括	奈良市中山町出土
天神山古墳出土品	1括	和歌山県粉河町出土
珠城山第三古墳出土品	1括	
二塚古墳出土品	1括	
猫塚古墳出土品	1括	
字	瓦	1点
古	瓦	6点
平	瓦	2点

書跡

経	巻	2巻
---	---	----

(42年度)

絵	画	
春日地藏曼荼羅図	1幅	
胎蔵界・金剛界曼荼羅	2幅	

彫刻

木造出山釈迦像 1 軀

工 芸

柱 杖 2 本
螺 鈿 卓 1 脚
懸 仏 19面
金 銅 金 剛 盤 1 面
百 萬 塔 1 基
鉄 釣 燈 籠 1 基

考 古

鏡 瓦 1 箇
古 瓦 5 点
古 瓦 2 点

国立近代美術館

(40年度)

絵 画

草 上 の 小 憩 石井柏亭
海 古賀春江
オルレアン街道の雨 長谷川三郎
アブストラクション 〃
鉄 工 場 の 裏 長谷川利行
惜 春 賦 小糸源太郎
姑 娘 梅原竜三郎
犬 須田国太郎
作 品 山本敬輔
遊 ぶ 岡本太郎
作 品 オノサト・トシノブ
荒れた小さい菱形の沼 山口薫
作 品 2 斎藤義重
作 品 II 高井貞二
妻 と 私 と 宮本三郎
ま た ぐ 山下菊二
Entrance (A) 猪熊弦一郎
セ ゴ ビ ア 野見山曉治

彫 刻

C 娘 の 像 金子九平次
女 の 顔 木内克
俊 寛 石井鶴三
フーロン夫人像 高田博厚
生 長 の 形 態 昆野恒
作 品 毛利武士郎
立 像 豊福知徳
三 味 線 試 作 新海竹蔵
平 面 N 堀内正和

(41年度)

日 本 画

星 五 位 上村松篁 1958

紙本彩色 額

失われた世界 大島哲以 1966

紙本彩色 額

雨 の 輪 小島鼎子 1957

紙本彩色 額

風 除 け 〃 1959

紙本彩色 額

水芭蕉曼陀羅 佐藤多持 1966

紙本淡彩 6 曲半双

穹 杉山 寧 1964

紙本彩色 額

吹 く 関川 都 1965

紙本彩色 額

堅田の一夜 平福百穂 1929

紙本淡彩 軸

虎穴図屏風 水越松南 1952

紙本水墨 2 曲半双

収 穫 山喜多二郎太 c. 1962

紙本淡彩 額

残 雪 〃 1963

紙本淡彩 額

夏 山口蓬春 1965

紙本彩色 額

油 絵

眼のある風景 巖 光 1936 油彩・キャンバス
戒厳状態 石井茂雄 1956 〃
戒厳状態 〃 1957 〃
彫 刻 家 石橋和訓 1911 〃
焚木はこび 岩崎勝平 1937 〃
美学・アメリカ 岩崎 鐸 1965 アルミ板・コラージュ
春遠からじ 岩船修三 1966 油彩・キャンバス
Work 1963.8.1.A 因藤 寿 1963 〃
雨 の 日 海老原喜之助 1963 〃
コンカルイの城壁 金山平三 〃
和井内の四月 〃 〃
こ ち 〃 油 彩・板
筒石の海岸 〃 油彩・キャンバス
下曾我の午後 〃 〃
ベニス(A) 木村忠太 1965 〃
豚 坂本繁二郎 1915 〃
白への幻想 島田しづ 1965 〃
渡洋爆撃行 島村三七雄 〃
蕨 菜 須田国太郎 c. 1931 〃
連続の溶解 64—10 堂本尚郎 1964 〃
流れる星(白) 土橋 醇 1965 〃
南紀海岸の梅林 鍋井克之 1961 〃
狩 猟 萩原英雄 1966 〃
裸婦と小鳥 長谷川昇 1951 〃
若者たち 浜田泰介 〃
女 (I) 間所紗織 1955 油 彩・綿布
女 (B) 〃 1955 〃
神話 神々の誕生 〃 1956 〃
神話より(作品B) 〃 1956 〃
黒 と 茶 〃 1962 油彩・キャンバス
スフィンクス 〃 1964 〃
見世物芸人 宮崎 進 1966 〃
牛・人・秋 山喜多二郎太 1964 〃
暎 劉 生 容 1966 〃

水 彩

海と牡牛 井上三綱 1956 岩彩その他・ボード板
崖 〃 1958 〃

障子	井上三綱	1960	岩彩その他・ボード板	作品 43	日下賢二	1966	木版・紙
作品	上村次敏	1961	水彩・紙	作品 46	〃	〃	〃
作品	〃	1961	〃	作品 47	〃	〃	〃
作品	〃	1964	〃	作品 48	〃	〃	〃
相州真鶴附近風景	後藤工志	1918	〃	作品 50	〃	〃	〃
小雨降る山村			〃	人それと呼んで反歌という	駒井哲郎	1966発行	
作品	沢田哲郎	1965	〃				版画集(銅版)
歌麿心中	山下菊二	1966	〃	母子手帖	斎藤寿一	1967発行	版画集(銅版)
				童子騎虎	谷中安規	1939	木版・紙
版 画				春の自転車	〃		〃
渠の人々	石井茂雄	1959	銅版・紙	ドラゴンズドリーム			〃
使者	〃	1959	〃	作品			〃
影	〃	1960	〃	挿 絵			〃
人工山脈	〃	1960	〃	壺	富本憲吉		〃
タレント達B	〃	1960	〃	風景	永瀬義郎	1916	〃
華の墓標	〃	1961	〃	お伽の国 No.1	萩原英雄	1966	〃
虜 囚	〃	1961	〃	ニューヨーク上空を飛ぶ	長谷川潔		銅版・紙
作品	〃	1962	〃	窓と鏡C	日和崎尊夫	1967	木版・紙
タレント達A		1962	〃	石の唇B	〃	〃	〃
山 岳	石井鶴三		木版・紙	窓と鏡D	〃	〃	〃
鳥 B	稲田年行	1964	石版・紙	作品—67	〃	〃	〃
鳥 A	〃	1966	〃	夜の鳥	福沢一郎	1957	石版・紙
惑 星	〃	1954	〃	男	〃	1960	〃
彷徨	〃	1964	〃	二つの顔	〃	1950	〃
作品	〃	1966	〃	顔	〃	1957	〃
作品(3点1組)恩地孝四郎		1912	木版・紙	メキシコ人	〃	〃	〃
母と子	〃	1916	〃	巴里の冬	間部時雄	1916	銅版・紙
水 浴	〃	1916	〃	房州の海	山本 鼎	1919	〃
Nude	〃	1925	木版・紙	山 鳩	〃		石版・紙
浴 後	〃	1926	〃	サンマルタンにて	〃		木版・紙
人体考察(4点1組)		1927	〃	ブルターニュの小湾	〃		〃
白い菱形	勝本富士雄	1966	銅版・紙	支那の女	〃		〃
映された椅子	加藤清美	1964	〃	海岸の子供	〃		〃
薄暮の碑I	〃	1966	〃	鳥	吉原英雄	1965	石版、銅版・紙
歩む人	〃	1959	〃	Lady II	〃	1967	〃
花 I	〃	1962	〃	裁断師の夢	〃	1966	〃
鏡 I	〃	1965	〃	北 北 西	〃	〃	〃
瞑 想	〃	1965	〃	Event	〃	〃	〃
Reflection I	〃	1966	〃	作 品	ホアン・ミロ	c.1960	銅版・紙
かがむ裸婦	木内 克	1952	石版・紙	彫 刻			
地面に手をついた裸婦	〃	1957	〃	モノビジョン(I)	大橋 泰	1965	木・ガラス・鉄など
坐る裸婦	〃	1952	〃	少女像	金子九平次	1966	ブロンズ
アザミと裸婦	〃	1957	〃	Organ No.12	建畠覚造	1965	金 属
地面に腰をおろした裸婦	〃	1957	〃	貌	〃	1955	セメント
作品 C	日下賢二	1963	木版・紙	歩く壁 辻 晋堂	1966		鉄
作品(層)	〃	1965	〃	煌めく嫉妬	戸張孤雁	1924	ブロンズ
作品 15—B	〃	〃	〃	作品 I	豊福知徳	1964	〃
作品 18	〃	〃	〃	作品 II	〃	1964	〃
作品 29	〃	〃	〃				
作品29B	〃	〃	〃				
作品 42	〃	1966	〃	工 芸			

壺(人物模様) ホアン・ミロ 1966 陶土・緑釉 タブロー 253 フランシス・ファレラス コラージュ

(42年度)

日本画

黄 鐘 調 井上三綱 1966 紙本墨画屏風 6 曲半双
飛 瀑 狩野光雅 1933 絹本彩色 額
極 楽 井 小林古径 1912 紙本彩色 軸
作 品 下村良之介 1959 紙本墨画 額 4 面
出 山 高山辰雄 1962 紙本彩色 額
北 国 〃 1966 〃 〃
裸 婦 戸張孤雁 絹本彩色 軸
日暮里の新緑 〃 〃 〃
伊豆山の手 〃 紙本彩色 軸
執 着 堂本印象 1963 紙本墨画 額
臥 竜 梅 丸本位里 1961 紙本墨画屏風 4 曲半双

油 絵

婦 人 像 跡見 泰 c.1926 油彩・キャンパス
Alphabet Skin No.3 荒川修作 1967 〃
奈 良 榎戸庄衛 1967 〃
針 千 本 奥谷 博 1965 〃
港 の 女 黒田重太郎 1922 〃
シャルボン 佐伯米子 1925—6 〃
母と子のスペース 島田章三 1967 〃
エウローパ 〃 1967 〃
女・とり・サイコロ 下高原千歳 1967 〃
裸婦立像 鈴木亜夫 1926 〃
夏 の 朝 須田国太郎 1933 〃
算 盤 関根美夫 1965 〃
輪 廻 高井貞二 1959 〃
火 の 鳥 〃 1960 〃
赤いライン 〃 1963 〃
グ ラ ス 〃 1967 〃
赤の構図 〃 〃
坐 像 寺島竜一 1967 〃
陽 明 門 時田幸彦 1967 〃
華厳の滝 〃 1967 〃
作 品 富ノ井政文 〃
作 品 〃 〃
残された壁(男と女B) 中本達也 1967 〃
五人の裸婦 藤田嗣治 1923 〃
Perspective in Blue "W" 三尾公三 1967 〃
Perspective in Blue "B" 〃 1967 〃
司令部跡の階段 三輪勇之助 1967 〃
火 山 吉原治良 1943 〃
雨乞い祭 若松光一郎 1967 油彩・水彩・キャンパス
作 品 カズヤ・サカイ 1965 油彩・キャンパス
作 品 〃 1965 〃
作 品 〃 1965 〃
作 品 〃 1965 〃
重力解放の速度 ホアン・ホセ・トラッツ 〃

水 彩

七月の間(海辺) 岡田正二 1967 水彩・紙
菊花とダリア 小山良修 1940 〃
千住大橋 戸張孤雁 〃
雷 心 山口正城 1959 〃

素 描

作 品 山口正城 インク・紙

版 画

白いスペースの中で—22 勝本富士雄 1966 銅版・紙
Rising Sun B 〃 1967 併用技法・紙
Rising Sun D 〃 1967 〃
小田原妓楼 戸張孤雁 木版・紙
女 の 顔 〃 〃
海 岸 アーサー・フローリー 1967 石版・紙
So ? 〃 1967 〃

書

作品 63—1 比田井南谷 1963 墨・紙
空間の叫び No.1 柳 頼雅 1967 〃
空間の叫び No.2 〃 1967 〃
天 意 No.1 〃 1968 〃
天 意 No.2 〃 1968 〃
幽 玄 〃 1968 〃

彫 刻

立てる女 戸張孤雁 ブロンズ
壺 〃 〃
作品 No.90 樋口シン 1967 木
運行不息 楊 英風 1967 金属

工 芸

黒 牡 丹 岩田藤七 1964 ガラス
黒 陶 環 八木一夫 1967 陶器

国立西洋美術館

(40年度)

絵 画

花を持つ婦人像 ビッシェール、ロジェ 1922 油彩
女 の 顔 モディリアニ、アメデオ 鉛筆
小雨降る池 モネ、クロード 1899 油彩
踊 り 子 フォラン、ジャン・ルイ 鉛筆
北極の鳥 ビターディ、ゲリボア 1964 石版
北極の夜1 〃 〃 〃
フォーリー・ベルジュールのポスター：ロイ・ファラー
シェレ、ジュール 〃
ピロシケへの讃歌 バロン・ルヌワール、フランソワ
1963 油彩

作 品 シュネイデル, ジェラール 1963 油彩

(41年度)

絵 画

石化した森 エルンスト, マックス 油彩
 ご婦人のからだ デュビュッフェ, ジャン 1950 〃
 永 遠 エルバン, オーギュスト 1959 〃
 黒い流れ ボロック, ジャクソン 1951 カンバス
 ホワイト・ペインティング フランシス, サム
 1952 油彩
 青い空と赤と鶏 レジェ, フェルナン 1953 〃
 絵 画 ミロ, ホアン 〃 〃
 ピアニストの肖像 マティス, アンリ 1924 木炭
 サルタンバンク ピカソ, パブロ 1905 銅版
 積みわら モネ, クロード 木炭
 ベリールの海 〃 1886 〃

彫 刻

作 品 ヴァイアンクール, アルマン 木
 弓をひくヘラクレス ブールデル, アントワーヌ
 1909 ブロンズ
 ヴィクトル・ユゴー ロダン, オーギュスト
 1883 〃

(42年度)

彫 刻

ヴィクトル・ユゴー習作 ロダン, オーギュスト
 ブロンズ
 アルモニー(頭部) マイヨール, アリスティード
 1940~1944 〃
 輪 一 森 アルプ, ジャン 1961 〃

新指定国宝一覧

(国宝目録第20集)

美術工芸品の部

(昭和42年3月31日決定)

新指定

絵画の部

名 称	員 数	所 有 者
絹本着色山水屏風 六曲屏風	1 隻	京都府京都市右京区梅ヶ畑高雄町 神護寺
附 絹本着色同模本 六曲屏風	1 隻	

彫刻の部

名 称	員 数	所 有 者
木造普賢菩薩騎象像	1 軀	東京都港区赤坂葵町3 財団法人 大倉文化財団
銅造仏頭 (旧山田寺講堂本尊)	1 箇	
木造千手観音立像 (旧食堂安置) 像内に睿満大法師、尼定阿弥陀仏、 僧定増法師、祇徳丸等の名がある	1 軀	奈良県奈良市登大路町 興福寺
附 像内納入品		
1. 木製五輪塔	1 基	
1. 梵字千手観音小咒鏡 蓮台付 (秋草双雀鏡)	1 基	
1. 銅造観音菩薩立像	1 軀	
1. 銅造千手観音立像	1 軀	
1. 銅造千手観音立像	1 軀	
1. 紙本墨書大般若經卷第五百七十八・ 千手千眼陀羅尼經	合1冊	
安貞二年恵円書写奥書		
1. 紙本墨書般若心經	3 卷	
建保五年より嘉禄三年まで堯俊等毎 月書写		
1. 紙本千手観音摺仏	1 括	
内一枚安貞二年記		
1. 紙本毘沙門天印仏	1 括	
承久四年より安貞二年まで毎月押印		
1. 版本千手千眼陀羅尼	43 卷	
寛喜元年記		
1. 紙本墨書奉加結縁交名	1 卷	

名	称	員 数	所 有 者
木造毘沙門天立像 (金堂安置)	吉祥天	2 軀	奈良県生駒郡斑鳩町法隆寺

工 芸 品 の 部

名	称	員 数	所 有 者
舟橋時絵硯箱	本阿弥光悦作	1 合	国 (東京国立博物館保管)
八橋時絵螺鈿硯箱	尾形光琳作	1 合	

書 跡 の 部

名	称	員 数	所 有 者
古今和歌集卷第十二残卷 (本阿弥切本)		1 卷	国 (文化財保護委員会保管)
宋版漢書 (慶元刊本)		61冊	山形県米沢市南堀端町35
宋版後漢書 (慶元刊本)		60冊	
熊野御幸記	藤原定家筆 建仁元年十月	1 卷	東京都港区西麻布3ノ4ノ1 三井八郎右衛門
世説新書卷第六残卷		1 卷	京都府京都市左京区下鴨北園町78 神田喜一郎
紙背 金剛頂蓮花部心念誦儀軌			大阪府大阪市都島区網島町40 財団法人 藤田美術館
大般若經 (葉師寺經)		387卷	

考 古 の 部

名	称	員 数	所 有 者
金銀錯狩獵文鏡		1 面	東京都文京区目白台1ノ1ノ1 細川護立

重要文化財を追加して国宝の名称および員数を改めたもの

○印は追加物件を示す

書 跡 の 部

名	称	員 数	所 有 者
智証大師関係文書典籍			滋賀県大津市園城寺町 園 城 寺
俗姓并僧位関係	六種		
円珍俗姓系図	円珍加筆	1 卷	
度縁	天長十年三月廿五日、同四月十五日	1 卷	
位記 (四通)		1 卷	
伝燈大法師位位記	嘉祥三年六月十六日		
伝燈法師位位記	承和十三年十二月廿六日		

新指定国宝一覧

名	称	員 数	所 有 者
伝燈満位位記	承和十年七月五日		
伝燈住位位記	承和四年七月廿二日		
伝燈大法師位位記(綾本)(中務位記)	嘉祥三年六月廿二日	1 卷	
法眼和尚位位記并勅書案	(元慶七年三月)	1 卷	
真言学頭補任状	承和十三年七月廿七日	1 卷	
入唐関係文書	五種		
祈禱卷数写(仁寿元年、同二年)	文永四年九月十五日書写奥書	1 卷	
祈禱転経牒状写(仁寿二年四月十三日)	建久九年三月日書写奥書	1 卷	
請台州公驗牒案(四通)	大中十二年閏二月、三月、四月円珍加筆	1 卷	
最澄台州明州公驗写(貞元廿一年二月、五月)	大中十二年閏二月十四日	1 卷	
円珍台州公驗請狀案	円珍加筆		
越州都督府過所	大中九年三月十九日	1 卷	
尚書省司門過所	大中九年十一月十五日		
求法目錄	五種		
開元寺求法目錄	大中七年九月廿一日 円珍加筆	1 卷	
福州温州台州求法目錄	円珍筆	1 卷	
卷首	大中八年九月二日円珍朱書		
青龍寺求法目錄	大中九年十一月十五日	1 卷	
卷末	法全加筆証明		
国清寺求法目錄	大中十一年十月日 円珍加筆	1 卷	
国清寺外諸寺求法惣目錄	大中十二年十月十五日	1 卷	
伝法関係	十種		
円珍請伝法公驗奏狀案		2 卷	
草本	貞觀五年三月七日 円珍加筆		
自筆本	貞觀五年十一月十三日		
太政官給公驗牒	貞觀八年五月廿九日 卷末 円珍手記	2 卷	
先本			
後本(時原春風筆)			
官宣旨案(貞觀十一年五月一日)		1 卷	
卷末	円珍手記		
太政官牒案(貞觀十三年九月九日)		1 卷	
卷末	円珍手記		
授遍照阿闍梨位奏狀案并官牒案(貞觀十五年正月、二月、四月)		1 卷	
別当和尚行状(殘欠)		1 卷	
貞觀十六年十二月二日座主并三綱証判			
延曆寺奏狀案(貞觀十六年十二月廿一日)		1 卷	
延曆寺牒案(貞觀十六年十二月廿五日)		1 卷	
○文書目錄	円珍筆	1 卷	

名	称	員 数	所 有 者
円珍公驗文書目録等		1 卷	
将米經典等	八種		
梵夾 (十九葉)		1 夾	
三弥勒經疏		3 卷	
寛平二年閏九月十一日円珍追記			
金光明經文句	中下	2 卷	
大中十一年八月十三日円珍勘過奥書			
縁生論		1 帖	
大中十二年正月六日円珍勘過奥書			
大毗盧遮那成仏經	卷第四	1 卷	
九月廿九日円珍勘了奥書			
華嚴經隨疏演義鈔	卷第二下	1 卷	
円珍疑問		3 卷	
自筆本	一		
○ 写本 (卷末円珍手記)	二		
唐人送別詩并尺牘 (十八通)		2 卷	
自筆本	三種		
制誡文	仁和四年十月十七日	1 卷	
議定文		1 卷	
病中言上書		1 卷	
付法印信関係其他	九種		
大唐国日本国付法血脈図記	会昌四年二月九日	1 卷	
貞観十六年十一月四日円珍加筆奥書			
三聚浄戒示 (八通)		1 卷	
徳円印信之類	円珍加筆	1 卷	
徳円付嘱円珍印信	承和九和五月十五日	1 卷	
感夢記、上智慧輪三蔵書		1 帖	
伝教大師略伝 (元慶八年五月十九日)		1 卷	
弘仁九年比叡山寺僧院等之記		1 卷	
慶耀状		1 卷	
弥勒上生經宗要		1 卷	
元慶二年七月十日円敏交了奥書			

現状変更により国宝の員数を改めたもの

絵 画 の 部

(昭和42年4月18日付変更)

名	称	員 数	所 有 者
(旧名称及び員数)			
紙本金地著色風俗図 (彦根屏風)	6 枚		滋賀県彦根市松原町515 井 伊 直 愛
(新名称及び員数)			
紙本金地著色風俗図 (彦根屏風)	6 面		

新指定国宝一覧

建 造 物 の 部 (昭和42年3月31日決定)

新 指 定

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所有者の住所	所在の場所
1	法隆寺 綱封蔵	1棟	桁行九間、梁間三間、一重、高床、寄棟造、本瓦葺	法 隆 寺	奈良県生駒郡斑鳩町大字法隆寺	奈良県生駒郡斑鳩町大字法隆寺

国宝に未指定物件を附として追加し、構造及び形式を改めたもの

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所有者の住所	所在の場所
1	東照宮本殿、石の間及び拝殿 本 殿 石 の 間 拝 殿	1棟	桁行五間、梁間五間、一重、入母屋造、背面向拝一間、銅瓦葺 附 旧妻戸 2枚 桁行三間、梁間一間、一重、両下造、銅瓦葺 桁行九間、梁間一間、一重、入母屋造、正面千鳥破風附、向拝三間、軒唐破風附、銅瓦葺 附 箱入大工道具 1具 鉋一、曲尺二、墨芯二、墨壺一 箱蓋裏に寛永十三年丙子四月八日の記がある	東 照 宮	栃木県日光市山内	栃木県日光市山内
2	慈照寺 東求堂	1棟	桁行6.9メートル、梁間6.9メートル、一重、入母屋造、檜皮葺 附 棟札 1枚 寛保式壬戌陰十一月廿二日の記がある	慈 照 寺	京都府京都市左京区銀閣寺町	京都府京都市左京区銀閣寺町
3	興福寺 北円堂	1棟	八角円堂、一重、本瓦葺 附 旧内陣小壁 8組 銘札 1枚 修覆嘉永二己酉年十月の記がある	興 福 寺	奈良県奈良市登大路町	奈良県奈良市登大路町

国宝の構造および形式を改めたもの

(昭和42年6月15日付変更)

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所有者の住所	所在の場所
1	犬山城 天守	1棟	三重四階、地下二階附、本瓦葺、南面及び西面附櫓 各一重、本瓦葺	成瀬正勝	東京都渋谷区幡ヶ谷笹塚町1の25番地	愛知県犬山市大字犬山
2	海住山寺 五重塔	1基	三間五重塔婆、初重もこし附、本瓦葺、もこし銅板葺	海住山寺	京都府相楽郡加茂町大字例幣	京都府相楽郡加茂町大字例幣
3	太山寺 本堂	1基	桁行七間、梁間六間、一重、入母屋造、銅板葺	太 山 寺	兵庫県神戸市垂水区伊川谷町	兵庫県神戸市垂水区伊川谷町

新指定重要文化財一覧

(重要文化財目録第25集)

美術工芸品の部

(昭和42年3月31日決定)

新指定

◎印は重要美術品等認定物件から(認定物件の一部に未指定物件追加、統合を含む)重要文化財指定の決定があつたものを示す。

絵画の部

名	称	員数	所有者
収蔵 浅井忠筆1890年 油絵 麻布		1面	国(東京芸術大学保管)
鮭 高橋由一筆 油絵 紙		1面	
絹本金地著色弱法師図 下村観山筆 六曲屏風		1双	国(東京国立博物館保管)
海の幸 青木繁筆 油絵 麻布		1面	東京都中央区1ノ1 財団法人 ブリヂストン美術館
紙本金銀泥四季草花図 下絵和歌巻 依屋宗達筆 書 本阿弥光悦筆		1巻	東京都港区芝白金猿町67 財団法人 昌山記念館
絹本墨画生々流転図 横山大観筆 大正十二年八月の款記がある		1巻	東京都文京区目白台1ノ1ノ1 細川護立
◎ 紙本著色四季耕作図 久隅守景筆 六曲屏風		1双	石川県 (石川県美術館保管)
絹本著色親鸞上人絵伝		3幅	愛知県豊田市大字力石 如意寺
絹本著色普賢延命像		1幅	広島県尾道市土堂町 持光寺
絹本著色細川成之像		1幅	徳島県徳島市丈六町 丈六寺
絹本著色法華曼荼羅図		1幅	香川県三豊郡大野原町萩原 萩原寺

彫刻の部

名	称	員数	所有者
銅造光背(法隆寺献納) 附 銅造光背 4面		33面	国(東京国立博物館保管)
銅造光背(法隆寺献納) 裏面に甲寅甲寅年三月廿六日弟子王延孫敬造釈迦像一軀の刻銘がある		1面	
女 荻原守衛作 石膏原型		1箇	
木造大日如来坐像(本堂安置)		1軀	北海道函館市住吉町 高野寺
(木造薬師如来立像 1 木造十一面観音立像 1 (本堂安置) 本造菩薩立像 1		3軀	福井県小浜市多田 多田寺

新指定重要文化財一覧

名 称	員 数	所 有 者
木造観音菩薩坐像	1 軀	福井県小浜市堅海 長 慶 院
木造馬頭観音坐像 (本堂安置)	1 軀	福井県大飯郡高浜町中山 山 寺
木造釈迦如来坐像 像内に天仁二年十月廿三日造立の銘がある	1 軀	京都府天田郡夜久野町大字直見小字宮垣 区
塔本釈迦八相像残欠		奈良県奈良市西ノ京 葉 師 寺
東塔塑像心木	160個	
附 塑像断片	1 括	
木像残欠	25箇	
西塔塑像断片	52箇	
附 土塔	1 箇	
和同開珎残片	2 箇分	
硬石丸玉	1 箇	
木造文殊菩薩騎獅像 (本堂安置) 膝前短面及び蓮花天板裏面に元亨四年三月七日金剛仏子珠音、大仏師康俊、小仏師康成等の銘がある	1 軀	奈良県奈良市般若寺町 般 若 寺
木造観音菩薩不動明王毘沙門天像 (本堂安置)	3 軀	香川県丸亀市本島町 正 覚 院

工 芸 品 の 部

名 称	員 数	所 有 者
法隆寺裂		国 (東京芸術大学保管)
1. 楽天刺繍幡残欠 紫平絹地	1 枚	
1. 楽天刺繍幡残欠 赤平絹地	1 枚	
1. 蜀江錦幡残欠 赤地獅子鳳凰円文 (緑) 赤地小格子連珠華文	1 枚	
1. 蜀江錦 赤地格子連珠華文	1 枚	
1. 問道錦 平地山菱浮文	1 枚	
1. 問道錦 赤地立涌文経綬	1 枚	
1. 毬代残欠 赤平絹地藤纈双鳥唐草文	1 枚	
萩螺鈿鞍	1 背	国 (東京国立博物館保管)
金銅装菱 背面に永享二暦庚戌二月日、羽州慈恩寺禪定院の漆銘がある	1 背	山形県山形市七日町1ノ4ノ12 慈 光 明 院
山金造波文蛭巻大太刀 中身無銘 (号祢々切丸太刀) 1口		栃木県日光市山内 二 荒 山 神 社
山金造黒漆蛭巻大太刀 中身無銘 (号柏太刀) 1口		
織部角形鉢	1口	東京都目黒区東が丘1ノ1 芥 川 比 呂 志
梵鐘 嘉禄三年丁亥正月廿一日、大勧進秀毫、大壇那源信綱、大工源吉国の鋳出銘がある	1口	神奈川県高座郡座間町座間入谷 星 谷 寺
黒漆机	1脚	京都府京都市右京区梅ヶ畑尾町 高 山 寺

名	称	員 数	所 有 者
金銅柄香炉		1 柄	大阪府大阪市都島区網島町40 財団法人 藤田美術館
金銅密教法具			
火舎	4 口		
花瓶	5 口		
六器台皿付	24 口		
飲食器	1 口		
金剛盤	1 面		
五鈷鈴	1 口		
五鈷杵	1 口		
三鈷杵	1 口		
独鈷杵	1 口		
灑水器	1 口		
塗香器	1 口		
附 四櫬	四本		
金銅装獅子宝相華文説相箱	1 口		
錦幡	赤地蓮花蝶文	3 旒	
綾張竹華籠		12 枚	
附 赤漆曲物筥	1 合		
{ 黒漆彩色華形大壇 (愛染堂所在)	1 基		奈良県奈良市西大寺町
{ 黒漆箱形礼盤	1 基		西 大 寺
金銅装犀角刀子		1 口	
梵鐘		1 口	香川県高松市屋島東町
貞応二年 ^{癸未} 十月廿六日、勸進聖人蓮阿弥陀仏、 師土師宗友の鑄出銘がある			屋 島 寺
太刀 銘兼氏		1 口	香川県高松市観光通1ノ2ノ13 常盤ビル内 岸 田 明

書 跡 の 部

名	称	員 数	所 有 者
日蓮自筆遺文		56 卷 4 冊 1 帖 3 幅	千葉県市川市中山町 法 華 経 寺
法華取要抄	1 卷		
四信五品抄	1 卷		
始聞仏乗義	1 卷		
卷末 建治四年二月廿八日日蓮 (花押)			
大田禅門許御書 ^{上下}	2 卷		
下卷末 下春十日日蓮 (花押)			
災難興起由来 ^并 対治之事	1 卷		
正元二年二月上旬勘定日蓮識語			
災難退治抄	1 卷		
法鑑坊御書	1 卷		
卷末 文永五年四月五日日蓮 (花押)			
寺泊御書	1 卷		
卷末 十月廿二日日蓮 (花押)			

新指定重要文化財一覧

名	称	員 数	所 有 者
真言諸宗違目抄	1 卷		
卷末 五月五日蓮 (花押)			
法花行者逢難事	1 卷		
卷末 文永十一年正月十四日日蓮 (花押)			
聖人知三世之事	1 卷		
不可親近謗法抄	1 卷		
卷末 八月廿三日蓮 (花押)			
龍泉寺申状	弘安二年十月日	1 卷	
聖人度々御難事	1 卷		
卷末 十月一日蓮 (花押)			
稟極出界抄	1 卷		
卷末 十月一日蓮 (花押)			
十章抄	1 卷		
法門可被申様之御書	1 卷		
大田金吾入道殿御書	1 卷		
卷末 正月廿四日日蓮 (花押)			
治病抄	1 卷		
卷末 六月廿六日日蓮 (花押)			
諸経与法花經難易之事	1 卷		
卷末 五月廿六日日蓮 (花押)			
大田女房御書	1 卷		
卷末 七月二日日蓮 (花押)			
問注之時可存知由事	五月九日日蓮 (花押)	1 卷	
三人宛			
大師講御書	1 卷		
御衣布	井 九月廿八日日蓮 (花押)	1 卷	
井 單衣			
御衣布	井 單衣御書	1 卷	
井 單衣			
転重輕受抄	文永八年十月五日日蓮 (花押)	1 卷	
大田殿他宛			
期靈山浄土御書	卯月十日日蓮 (花押)	1 卷	
土木殿宛			
富木殿御返事	七月六日日蓮 (花押)	1 卷	
土木殿宛			
貞当御書	九月十九日日蓮 (花押)	1 卷	
井殿尼御前宛			
富木殿御書	二月七日日蓮 (花押)	1 卷	
尼御前御書	日蓮 (花押)	1 卷	
尼こそん宛			
妙一尼御書	五月日日蓮 (花押)	1 卷	
妙一尼御前宛			
忘持經之事	富木入道殿宛	1 卷	
尼殿御書	三月二十七日蓮 (花押)	1 卷	
尼こそん宛			
道場神守護事	十二月十三日日蓮 (花押)	1 卷	
金珠女事	卯月十二日日蓮 (花押)	1 卷	
乘明聖人宛			
御文給候御書	四月十一日日蓮 (花押)	1 卷	
慈覚大師之事	正月廿七日日蓮 (花押)	1 卷	
大田入道殿宛			
富木殿御返事	十一月廿九日日蓮 (花押)	1 卷	
富木殿宛			
八幡之事	十二月十八日日蓮 (花押)	1 卷	
ちめう房宛			

名	称	員 数	所 有 者
鷺目御消息	卯月十日蓮 (花押) 富木入道殿宛	1 幅	静岡県富士宮市上条 大 石 寺
土木殿老病之上		1 幅	
秀句十勝抄	上中下	3 卷	
広五時図		1 卷	
略五時図		1 卷	
日月之事		1 卷	
下方他方旧住菩薩事		1 卷	
小乗小仏要文		1 卷	
恒河七種衆生事		1 卷	
玄義要文		1 卷	
花厳法相三論天台真言元祖事		1 卷	
涅槃經疏要文		1 卷	
迦葉付属事		1 卷	
一代勝劣諸師異解		1 卷	
真言經等要文		1 卷	
天台肝要文集	上 紙背 文書	1 冊	
四教略名目		1 冊	
雙紙要文 (無外題)	紙背 文書	1 冊	
破禪宗	紙背 文書	1 冊	
要文雙紙 (無外題)		1 帖	
木画二像之御書断簡		1 幅	
日蓮自筆遺文		26 卷	
諫曉八幡抄 (後半)		1 卷	
三三蔵祈雨事		1 卷	
滅劫御書		1 卷	
衆生身心之御書		1 卷	
閻浮提中御書		1 卷	
三論宗御書		1 卷	
春之祝御書		1 卷	
迦葉尊者御書		1 卷	
南条兵衛七郎殿御書	後三月廿四日	1 卷	
宝輕法重抄	五月十一日日蓮 (花押) 西山殿宛	1 卷	
食物三徳之御書		1 卷	
芋一駄御書	八月十四日日蓮 (花押)	1 卷	
上野賢人殿御返事	十一月六日日蓮 (花押) 上野賢人殿宛	1 卷	
白米一駄之御書	十二月廿一日日蓮 (花押)	1 卷	
白米一俵之御書		1 卷	
上野殿御返事		1 卷	
上野殿御返事	九月六日日蓮 (花押) 上野殿宛	1 卷	
重須殿御返事	正月五日日蓮 (花押) をもんす殿宛	1 卷	

新指定重要文化財一覧

名	称	員 数	所 有 者
上野尼御前御返事	正月十三日日蓮 (花押) 上野尼御前宛	1 卷	
蓮三枚御書		1 卷	
上野母御前御返事	十二月八日日蓮 (花押) 上野殿母御前宛	1 卷	
木火土金水御書		1 卷	
華嚴經等要文		1 卷	
法師品云御書		1 卷	
無量義經云御書		1 卷	
理即御書		1 卷	
宋版一切經		3,752帖	岐阜県郡上郡白鳥町長滝 長 滝 寺
白氏文集	卷第三、第四	2 卷	京都府京都市左京区下鴨北園町78 神 田 喜 一 郎
	嘉承二年五月五日藤原茂明書写(卷第三)、天永四年三月廿八日同加點奥書		
瑜伽師地論		81帖 1 卷	同 京都市東山区新橋通大和路東入ル3 丁目林下町 知 恩 院
順次往生講式		1 卷	
	紙背 礼仏懺悔作法 (建久三年三月廿五日書写奥書) 倭漢朗詠注上		
念仏式		1 卷	同 京都市下京区堀川通花屋町下ル 竜 谷 大 学
	長承乙卯(四)歳暮春丁酉書写奥書		
修善講式殘簡	覚超筆 正暦二年九月九日	1 卷	大阪府和泉市仏並町 池 辺 弘
	附 古写副本 1 卷		
金光明最勝王經註釈	卷第五、第九	2 卷	奈良県奈良市雜司町 東 大 寺

考 古 の 部

名	称	員 数	所 有 者
弥生式壺形土器		1 箇	国 (東京国立博物館保管)
愛知県名古屋市長久寺区高蔵町出土			
弥生式台付壺形土器		1 箇	
愛知県名古屋市長久寺区高蔵町出土			
弥生式壺形土器		1 箇	神奈川県小田原市板橋 財団法人 松永記念館
長崎県壱岐郡勝本町立石唐神出土			
摂津四天王寺境内出土瓦			大阪府大阪市天王寺区元町 四 天 王 寺
1. 鍍 瓦	135箇		
1. 宇 瓦	130箇		
1. 牡 瓦	8 箇		
1. 牝 瓦	9 箇		
1. 鬼 瓦	6 箇分		
1. 雁振瓦	1 箇		
1. 鳥 衾	1 箇		
羽黒山御手洗池出土銅鏡		40面	同 泉大津市助松松ノ浜 細 見 亮 市
大和唐古遺跡出土弥生式土器			奈 良 県 (大和歴史館保管)

新指定重要文化財一覧

名	称	員 数	所 有 者
1. 壺形土器	28箇		
1. 甕形土器	3 箇		
1. 鉢形土器	1 箇		
1. 高杯形土器	1 箇		
1. 水差形土器	4 箇		
1. 器台形土器	2 箇		
1. 蓋形土器	1 箇		
弥生式水注形土器		1 箇	
奈良県橿原市一町出土			
大和般若寺石造十三重塔内納置品			奈良県奈良市般若寺町 般 若 寺
{ 金銅舍利塔	1 基		
{ 金銅五輪塔	1 基		
{ 水晶五輪塔	4 基		
	以上第1重		
{ 宋版細字法華經(一部七卷) (外箱共)	1 帖		
外箱 建長五年卯月八日納入記等墨書			
{ 宋版細字法華經(一部七卷) (外箱共)	1 帖		
外箱 願文等墨書			
宋版細字法華經(一部七卷)	1 帖		
	以上第4重		
{ 銅造如来立像	1 軀		
{ 木造大日如来坐像	1 軀		
{ 銅造十一面觀音立像	1 軀		
{ 木造地藏菩薩立像	1 軀		
{ 赤地蓮池水禽文錦打敷	1 枚		
	以上第5重		
{ 法華經開結共	10卷		
{ 梵網經	2 卷		
	以上第8重		
{ 仏像	21軀		
{ 經卷類	6 卷 1 幅		
{ 舍利容器	2 合		
附 { 納入文書目録等	3 通		
{ 外箱	4 合		
{ 摺仏	1 幀・2 幅・6 冊		
弥生式壺形土器		1 箇	福岡県福岡市大濠町3ノ22 沢 田 藤 一 郎
福岡県福岡市城ノ原出土			
弥生式台付角形土器		1 箇	熊本県下益城郡城南町 小 林 麟 也
熊本県下益城郡城南町宮地出土			

重要文化財に未指定物件を追加して名称・員数を改めたもの

○印は追加物件

絵 画 の 部

名 称	員 数	所 有 者
○ 絹本着色金剛薩埵像	1 幅	徳島県三好郡三庄村中庄 長 善 寺
○ 絹本着色般若菩薩像	1 幅	

書 跡 の 部

名 称	員 数	所 有 者
猿投神社漢籍		愛知県豊田市大字猿投 猿 投 神 社
○春秋経伝集解 序隠公第一、桓公第二	1 卷	
○論語集解 卷第三、第七、第十 康安二年十月、十一月甚海書写奥書	3 卷	
○論語集解 卷第三		
○論語集解 卷第四		
○史記集解 卷第三十一、第三十三、第三十四、 第三十五、第三十六、第三十七、 第三十八、第四十	4 卷	
○帝範 卷上	1 卷	
○臣軌 卷下	1 卷	
元亨四年卯月廿五日書写奥書		
○文選 卷第一	1 卷	
弘安伍年十月廿六日書写奥書		
○文選 卷第一	1 卷	
正安四年七月上旬一校奥書		
白氏文集 卷第三	1 帖	
貞治二年五月十九日澄豪書写奥書		
白氏文集 卷第三	1 卷	
貞治四年三月晦日澄豪書写奥書		
白氏文集 卷第三	1 卷	
貞治六年六月廿三日永範書写奥書		
白氏文集 卷第三	1 卷	
観応三年大簇中甸千若丸書写奥書		
白氏文集 卷第四	1 卷	
文和二年七月中旬千若丸書写奥書		
白氏文集 卷第四	1 卷	

重要文化財の一部（猿曳図壁貼付一面）の指定を解除して、その名称・員数を改めたもの

絵 画 の 部

名 称 及 び 員 数	所 有 者
方丈障壁面 狩野探幽筆 83画 禅会図中に寛永十八年七月江月宗玩の銘記がある 紙本墨画山水図 48 （雲門庵前室襖貼付八、室中襖貼付十六、上 間二之間襖貼付十二、下間二之間襖貼付十二） 紙本墨画禅会図 6 （雲門庵塔所壁貼付六） 紙本墨画竜虎図 2 （雲門庵内陣壁貼付二） 紙本墨画竹林禽鳥図 10 （雲門庵内陣壁貼付一、仏壇之間襖貼付八、下 間一之間襖貼付一） 紙本墨画梅柳禽鳥図 8 （雲門庵内陣襖貼付二、下間一之間襖貼付二、 仏壇之間襖貼付四） 紙本墨画隠士図 4 （上間一之間襖貼付四） 紙本墨画猿曳図 1 （上間一之間壁貼付一） 紙本墨画芦雁図 4 （下間一之間襖貼付四） 附 { 紙本墨画山水図 8面 （知客寮襖貼付四、副司寮襖貼付四） 紙本墨画鳳凰図衝立 (所在塔所) 1基	京都府京都市北区紫野大徳寺町 大 徳 寺

重要文化の名称を改めたもの

書 跡 の 部

旧 名 称 及 び 員 数	新 名 称	員 数	所 有 者
紫紙金字金光明経巻第六	紫紙金字金光明最勝王経巻第六	2巻	東京都豊島区目白町4ノ42 財団法人 徳川黎明会
紫紙金字金光明経巻第七	紫紙金字金光明最勝王経巻第七	1巻	神奈川県鎌倉市腰越691 今 沢 せ っ
細字金光明経	細字金光明最勝王経	2巻	京都府京都市北区西賀茂神光院 町 神 光 院
細字金光明経 自巻第六 至巻第十	細字金光明最勝王経 自巻第六 至巻第十	1巻	奈良県奈良市雑司町 東 大 寺

建 造 物 の 部 (昭和42年3月31日決定)

新 指 定

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所有者の住所	所在の場所
1	赤神神社五社堂 (中央堂)内厨子	1基	一間厨子(屋根を造らず)	赤 神 社 社	秋田県男鹿市 船川港門前	秋田県男鹿市 船川港門前
2	慶応義塾三田演 説館	1棟	木造、建築面積191.2平方メートル、 2階建、棧瓦葺	学校法人 慶応義塾	東京都港区芝 三田2丁目2 番地	東京都港区芝 三田2丁目2 番地
3	鶴岡八幡宮末社 丸山稲荷社本殿	1棟	一間社流造、銅板葺	鶴岡八幡宮	神奈川県鎌倉 市雪ノ下	神奈川県鎌倉 市雪ノ下
4	旧新潟税関庁舎	1棟	木造、建築面積373.4平方メートル、 1階建、中央部塔屋附、棧瓦葺 附 棟札 1枚(覆板附) 上棟明治二 ^巳 年八月廿一日の 記がある	国(大蔵省)	新潟県新潟市 緑町3,437番 地	新潟県新潟市 緑町3,437番 地
5	藤津比古神社本 殿	1棟	三間社流造、板葺 附 棟札 2枚 造栄元禄十五歳八月五日の記 があるもの 1 造栄元禄十五歳八月十日の記 があるもの 1 棟札残欠 1枚分 元正廿二年 ^{丙子} 十月二日の記が ある	藤津比古神 社	石川県鹿島郡 中島町字藤瀬	石川県鹿島郡 中島町字藤瀬
6	旧睦沢学校校舎	1棟	木造、建築面積189.2平方メートル、 2階建、中央部塔屋附、棧瓦葺	甲 府 市	山梨県甲府市 古府中町2611 番地	山梨県甲府市 古府中町2611 番地
7	園 城 寺 唐 院 大 師 堂 唐 門 灌 頂 堂 四 脚 門	4棟	桁行三間、梁間二間、一重、宝形造、 檜皮葺 一間一戸向唐門、檜皮葺 桁行五間、梁間四間、一重、入母屋 造、檜皮葺 四脚門、切妻造、檜皮葺	園 城 寺	滋賀県大津市 園城寺町	滋賀県大津市 園城寺町
8	園 城 寺 鐘 楼	1棟	桁行二間、梁間一間、一重、切妻造、 棧瓦葺			
9	長 命 寺 鐘 楼	1棟	桁行東面二間、西面三間、梁間二間、 袴腰附、入母屋造、檜皮葺 附 上棟用木槌 1個 棟札 2枚 屋根得興貞享四 ^{丁卯} 年七月吉 祥日の記があるもの 1 上尊元文五 ^{庚申} 歳五月吉日の 記があるもの 1	長 命 寺	滋賀県近江八 幡市長命寺町	滋賀県近江八 幡市長命寺町
10	長 命 寺 護 摩 堂	1棟	桁行三間、梁間三間、一重、宝形造、 檜皮葺			

新指定重要文化財一覧

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所有者の住所	所在の場所
11	衡 梅 院 本 堂	1 棟	桁行18.8メートル、梁間11.9メートル、一重、入母屋造、棧瓦葺 附 棟札 2枚 上棟慶長第九甲辰閏八月廿一日辰刻の記があるもの 1 修普貞享二年乙丑三月の記があるもの 1	衡 梅 院	京都府京都市 右京区花園妙心寺町	京都府京都市 右京区花園妙心寺町
12	退 蔵 院 本 堂	1 棟	桁行16.9メートル、梁間10.9メートル、一重、入母屋造、棧瓦葺 附 玄関 1棟 桁行二間、梁間一間、一重、前後唐破風造、棧瓦葺 棟札 1枚 経営宝暦七丁丑歳冬十月の記がある	退 蔵 院	京都府京都市 右京区花園妙心寺町	京都府京都市 右京区花園妙心寺町
13	竜 安 寺 本 堂	1 棟	桁行21.0メートル、梁間18.0メートル、一重、入母屋造、こけら葺 附 玄関 1棟 桁行二間、梁間一間、一重、前後唐破風造、こけら葺	竜 安 寺	京都府京都市 右京区竜安寺御陵ノ下町	京都府京都市 右京区竜安寺御陵ノ下町
14	東 福 寺 偃 月 橋	1 基	木造廊橋、橋脚五基 廊 桁行十一間、梁間一間、一重、切妻造、棧瓦葺 附 棟札 1枚 再造寛慶長第八癸卯年十月日の記がある	東 福 寺	京都府京都市 東山区本町15丁目	京都府京都市 東山区本町15丁目
15	箱 木 家 住 宅 (兵庫県神戸市 兵庫区山田町)	1 棟	桁行20.7メートル、梁間9.8メートル、一重、入母屋造、茅葺	箱 木 勇	兵庫県神戸市 兵庫区山田町 衝原字ケナカイチ23番地の1	兵庫県神戸市 兵庫区山田町 衝原字ケナカイチ23番地の1
16	歓 喜 院 聖 天 堂	1 棟	三間社流造、棧瓦葺	歓 喜 院	兵庫県美郷郡 吉川町毘沙門	兵庫県美郷郡 吉川町毘沙門
17	永 富 家 住 宅 (兵庫県揖保郡 葦保川町) 主 屋 長 屋 門 粗 納 屋 大 蔵 乾 蔵 内 蔵 味噌蔵 東 蔵	8 棟	桁行26.1メートル、梁間18.1メートル、一重、一部二階、入母屋造、本瓦葺、西北突出部 二階建、入母屋造、本瓦葺 桁行13.3メートル、梁間4.0メートル、一重、東端入母屋造、西端榎納屋に接続、本瓦葺 桁行13.8メートル、梁間5.9メートル、一重、東端切妻造、西端入母屋造、本瓦葺 土蔵造、桁行9.6メートル、梁間5.8メートル、一重二階、切妻造、妻入、本瓦葺 土蔵造、桁行7.0メートル、梁間4.1メートル、一重二階、切妻造、本瓦葺 土蔵造、桁行6.0メートル、梁間4.0メートル、一重二階、切妻造、本瓦葺 土蔵造、桁行5.0メートル、梁間4.1メートル、一重二階、切妻造、本瓦葺 土蔵造、桁行5.0メートル、梁間4.0メートル、一重二階、切妻造、本瓦葺 附 板絵図 1枚	東亜産業株式会社	(東京都中央区八重洲5丁目3番地1)	兵庫県揖保郡 葦保川町新在家字横田337番地上

新指定重要文化財一覧

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所有者の住所	所在の場所
18	御形神社本殿	1棟	三間社流造、檜皮葺 附 棟札 4枚 菅替享和三年 ^{癸亥} 天五月吉祥 日の記があるもの 1 本殿内作事文政 ^{辛巳} 四載 ^第 天 秋七月 ^{ヨリ} 九月四日までの記 があるもの 1 菅替文政十一 ^子 歳六月廿八日 の記があるもの 1 菅替嘉永 ^{癸丑} 年四月吉祥日の 記があるもの 1	御形神社	兵庫県宍粟郡 一宮町森添	兵庫県宍粟郡 一宮町森添
19	古井家住宅 (兵庫県宍粟郡 安富町)	1棟	桁行14.0メートル、梁間8.3メー トル、一重、入母屋造、茅葺	古井徳治	兵庫県宍粟郡 安富町皆河 236の1	兵庫県宍粟郡 安富町皆河 236の1
20	旧織田屋形 大書院 玄 関	2棟	七疊半(床、棚、附書院附)、十疊、 十五疊、九疊、十二疊、九疊(床附)、 入側、縁等より成る、一重、入母屋 造、棧瓦葺 二十疊(床附)、十二疊、八疊、六疊、 入側、玄関式台、内玄関等より成る、 一重、入母屋造、棧瓦葺	榎原神宮	奈良県橿原市 久米町	奈良県橿原市 久米町
21	霊 台 橋	1基	石造単アーチ橋、高欄附 附 石碑残欠 4個	砥 用 町	熊本県下益城 郡砥用町大字 清水	熊本県下益城 郡砥用町大字 清水

重要文化財に未指定物件を追加して、その名称、員数並びに構造及び形式を改めたもの

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所有者の住所	所在の場所
1	新 発 田 城 門 表 旧二の丸隅櫓	2棟	脇戸附櫓門、入母屋造、本瓦葺 附 板札 1枚 慶応三卯年八月の記がある 二重二階隅櫓、入母屋造、本瓦葺 附 棟札 1枚 修文政十三庚寅年七月廿九 日 ^{ヨリ} 十月吉日皆出来の記があ る	国(文部省)	新潟県新発田 市本丸	新潟県新発田 市本丸
2	善光寺本堂	1棟	桁行十一間、梁間七間、二重一階、 撞木造、妻入、正面向拜三間、軒唐 破風附、両側面向拜各一間、銅板葺、 軒唐破風檜皮葺 附 厨子 1基 一間厨子、入母屋造、妻入、 軒唐破風附、本瓦形板葺 棟札 2枚 天明五年乙巳秋八月二十五日 上棟の記があるもの 1 上棟寛政元 ^{己酉} 年九月二十五 日の記があるもの 1	善 光 寺	山梨県甲府市 善光寺町	山梨県甲府市 善光寺町
3	妙 心 寺 仏 殿	13棟	桁行三間、梁間三間、一重もこし附、 入母屋造、本瓦葺 附 廊下 1棟 桁行五間、梁間一間、一重、 唐破風造、本瓦葺	妙 心 寺	京都府京都市 右京区花園妙 心寺町	京都府京都市 右京区花園妙 心寺町

新指定重要文化財一覧

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所有者の住所	所在の場所
	法 堂		桁行五間、梁間四間、一重もこし附、入母屋造、本瓦葺 附 廊下 1棟 桁行七間、梁間一間、一重、正面唐破風造、背面寝堂に接続、本瓦葺			
	山 門		五間三戸二階二重門、入母屋造、本瓦葺、両山廊 附山廊 各桁行二間、梁間二間、一重、切妻造、本瓦葺			
	浴 室		桁行五間、梁間正面五間、背面三間、一重、切妻造、妻入、本瓦葺			
	経 藏		桁行一間、梁間一間、一重もこし附、宝形造、本瓦葺、八角輪藏附			
	勅 使 門		四脚門、切妻造、檜皮葺			
	南 門		三間薬医門、切妻造、本瓦葺 附 棟札 1枚 上梁慶長十五庚戌十月二十二日の記がある			
	大 方 丈		桁行29.5メートル、梁間21.7メートル、一重、入母屋造、檜皮葺			
	玄 関		桁行五間、梁間一間、一重、唐破風造、檜皮葺			
	寝 堂		桁行三間、梁間三間、一重、入母屋造、本瓦葺			
	小 方 丈		桁行15.9メートル、梁間10.0メートル、一重、入母屋造、こけら葺 附 廊下 1棟 桁行四間、梁間一間、一重、唐破風造、檜皮葺			
	庫 裏		桁行25.8メートル、梁間18.0メートル、一重、切妻造、妻入、棧瓦葺 附 廊下 1棟 桁行東面五間、西面四間、梁間一間、一重、切妻造、棧瓦葺			
	北 門		三間薬医門、切妻造、本瓦葺 附 棟札 1枚 上梁慶長十五庚戌十一月二十三日の記がある			
4	賀茂御祖神社	33棟	東 本 殿 三間社流造、檜皮葺 西 本 殿 三間社流造、檜皮葺 祝 詞 舎 桁行五間、梁間一間、一重、北端唐破風造、南端幣殿に接続、檜皮葺 幣 殿 桁行七間、梁間二間、一重、入母屋造、正面中央軒唐破風附、檜皮葺 東 西 廊 東廊 桁行四間、梁間一間、一重、兩下造、幣殿及び東御料屋に接続、檜皮葺 西廊 桁行七間、梁間一間、一重、兩下造、幣殿及び西御料屋に接続、檜皮葺	賀茂御祖神社	京都府京都市左京区下鴨泉川町	京都府京都市左京区下鴨泉川町
	東西御料屋		各桁行四間、梁間三間、一重、入母屋造、檜皮葺			
	又 蔵		桁行三間、梁間三間、校倉、入母屋造、妻入、本瓦葺			
	四脚中門		四脚門、切妻造、檜皮葺			
	東西楽屋		各桁行三間、梁間一間、一重、切妻造、檜皮葺			

新指定重要文化財一覧

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所有者の住所	所在の場所
	中門東西廻廊		東廻廊 桁行折曲り十四間、梁間一間、一重、両下造、東御料屋及び東楽屋に接続、檜皮葺 西廻廊 桁行五間、梁間一間、一重、両下造、預り屋及び西楽屋に接続、檜皮葺			
	預り屋		桁行五間、梁間三間、一重、入母屋造、檜皮葺			
	西唐門		一間一戸向唐門、檜皮葺 附 左右透塀 2棟 各一間、檜皮葺 附 末社印社本殿 1棟 一間社流造、檜皮葺 末社一言社本殿 2棟 各一間社流造、檜皮葺 末社二言社本殿 2棟 各一間社流造、檜皮葺 末社三言社本殿 3棟 各一間社流造、檜皮葺 透塀 1棟 延長三間、板葺			
	舞殿		桁行四間、梁間三間、一重、入母屋造、妻入、檜皮葺			
	神服殿		桁行五間、梁間四間、一重、入母屋造、檜皮葺			
	橋殿		桁行四間、梁間三間、一重、入母屋造、妻入、檜皮葺			
	細殿		桁行五間、梁間二間、一重、入母屋造、向拝一間、檜皮葺			
	供御所		桁行九間、梁間三間、一重、入母屋造、檜皮葺			
	大炊所		桁行五間、梁間三間、一重、切妻造、本瓦葺 附 井戸屋形 1棟 桁行二間、梁間一間、一重、切妻造、妻入、棧瓦葺			
	楼門		三間一戸楼門、入母屋造、檜皮葺			
	楼門東西廻廊		各行十六間、梁間一間、一重、一端楼門に接続、他端切妻造、檜皮葺			
	摂社出雲井於神社本殿		一間社流造、檜皮葺 附 岩本社本殿 1棟 一間社流見世棚造、檜皮葺 橋本社本殿 1棟 一間社流見世棚造、檜皮葺			
	摂社三井神社本殿		三棟、各一間社流造、檜皮葺			
	摂社三井神社拜殿		桁行二間、梁間一間、一重、入母屋造、妻入、檜皮葺			
	摂社三井神社棟門		一間薬医門、切妻造、檜皮葺			
	摂社三井神社東西廊下		東廊下 桁行四間、梁間一間、一重、両下造、檜皮葺 西廊下 桁行五間、梁間一間、一重、両下造、檜皮葺 附 三井神社末社本殿 3棟 諏訪社、小杜社、自願社、各一間社流見世棚造、檜皮葺			
	賀茂別雷神社	36棟				
	本殿		三間社流造、檜皮葺			
	権殿		三間社流造、檜皮葺			

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所有者の住所	所在の場所
5	本殿権殿取合廊		桁行一間、梁間一間、一重、唐破風造、檜皮葺	賀茂別雷神社	京都府京都市 北区上賀茂本 山町	京都府京都市 北区上賀茂本 山町
	本殿東渡廊取合廊		桁行一間、梁間一間、一重、西端唐破風造、東端切妻造、檜皮葺			
	西 渡 廊		桁行三間、梁間一間、一重、東端唐破風造、西端西御供所に接続、檜皮葺			
	透 廊		桁行三間、梁間一間、一重、南端唐破風造、北端切妻造、檜皮葺			
	渡 廊		桁行折曲り三間、梁間一間、一重、両下造、透廊及び直会所に接続、檜皮葺			
	祝 詞 舎		桁行五間、梁間二間、一重、東端唐破風造、西端透廊に接続、檜皮葺			
	塀 中 門		一間塀中門、板葺			
	摂社若宮神社本殿		一間社流造、檜皮葺			
	東 渡 廊		桁行六間、梁間一間、一重、切妻造、東端東御供所に接続、檜皮葺			
	四 脚 中 門		四脚門、切妻造、檜皮葺 附 末社棚尾社本殿 1棟 一間社流造、檜皮葺			
	御 籍 屋		桁行八間、梁間二間、前面一間通り庇附、一重、東端入母屋造、西端切妻造、庇葺きおろし、檜皮葺			
	神 宝 庫		桁行三間、梁間二間、一重、切妻造、檜皮葺			
	唐 門		一間薬医門、唐破風造、檜皮葺 附 左右袖塀 2棟 各二間、檜皮葺			
	東 御 供 所		桁行五間、梁間二間、一重、切妻造、檜皮葺			
	直 会 所		桁行八間、梁間二間、前面一間通り庇附、一重、東端切妻造、西端薬所に接続、庇葺きおろし、檜皮葺			
	楽所及び西御供所		桁行八間、梁間二間、一重、北端切妻造、南端直会所屋根をこえて入母屋をつくる、檜皮葺			
	幣 殿		桁行四間、梁間三間、一重、入母屋造、檜皮葺			
	忌 子 殿		桁行四間、梁間三間、一重、入母屋造、檜皮葺			
	幣殿忌子殿取合廊		桁行二間、梁間一間、一重、切妻造、檜皮葺			
	高 倉 殿		桁行六間、梁間二間、一重、入母屋造、檜皮葺			
	楼 門		三間一戸楼門、入母屋造、檜皮葺			
	廻 廊		東西各桁行九間、梁間一間、一重、一端切妻造、他端楼門に接続、檜皮葺 附 摂社須波神社本殿 1棟 一間社流造、檜皮葺 玉橋 1基 木造反橋、高欄附 末社杉尾社本殿 1棟 一間社流見世棚造、檜皮葺 末社土師尾社本殿 1棟 一間社流見世棚造、檜皮葺			
	摂社新宮神社本殿及び拝殿		本殿 一間社流造、檜皮葺 拝殿 桁行一間、梁間一間、切妻造、妻入、檜皮葺			

新指定重要文化財一覧

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所有者の住所	所在の場所
	<p>摂社片岡神社 本殿及び拝殿</p> <p>片 岡 橋</p> <p>拝殿(細 殿)</p> <p>舞殿(橋 殿)</p> <p>土屋(到着殿)</p> <p>楽 屋</p> <p>外 幣 殿</p> <p>北神候所 (庁屋)</p>		<p>本殿 一間社流造、檜皮葺</p> <p>拝殿 桁行一間、梁間一間、一重、切妻造、妻入、檜皮葺</p> <p>木造廊橋、桁行一間、梁間一間、唐破風造、檜皮葺</p> <p>桁行五間、梁間二間、一重、入母屋造、檜皮葺</p> <p>桁行六間、梁間一間、一重、入母屋造、檜皮葺</p> <p>桁行五間、梁間二間、一重、入母屋造、檜皮葺</p> <p>桁行三間、梁間二間、一重、切妻造、檜皮葺</p> <p>桁行五間、梁間三間、一重、入母屋造、檜皮葺</p> <p>桁行十三間、梁間四間、一重、入母屋造、檜皮葺、奈良神社拝殿附属する</p>			
6	<p>石清水八幡宮 本殿及び外殿</p> <p>幣殿及び舞殿</p> <p>楼 門</p> <p>東 門</p> <p>西 門</p> <p>廻 廊</p>	8棟	<p>本殿 桁行十一間、梁間二間、一重、切妻造、檜皮葺</p> <p>外殿 桁行十一間、梁間二間、向拝三所、一重、流造、檜皮葺</p> <p>相の間を含む 附 摂社武内社本殿 1棟 一間社切妻造、檜皮葺</p> <p>瑞籬 一周延長四十七間、銅板葺</p> <p>門二所及び關伽棚附属</p> <p>幣殿 桁行正面一間、背面三間、梁間一間、一重、切妻造、檜皮葺</p> <p>舞殿 桁行三間、梁間一間、一重、切妻造、背面幣殿に接続、檜皮葺</p> <p>一門一戸楼門、入母屋造、正面拝所桁行二間、梁間一間、一重、向唐破風造、檜皮葺</p> <p>一間一戸門、梁間三間、拝所一間、流造、本瓦葺</p> <p>一間一戸門、梁間三間、拝所一間、流造、本瓦葺</p> <p>楼門東門間 桁行十三間、梁間二間、外面一間通り</p> <p>庇附、一重、入母屋造、本瓦葺</p> <p>楼門西門間 桁行十三間、梁間二間、外面一間通り</p> <p>庇附、一重、入母屋造、本瓦葺</p> <p>背面 桁行二十八間、梁間二間、外面一間通り庇附、一重、入母屋造、本瓦葺、神庫 桁行三間、梁間三間、高屋根、入母屋造、本瓦葺</p>	石清水八幡宮	京都府綴喜郡八幡町八幡	京都府綴喜郡八幡町八幡
7	<p>日御碕神社 日沉宮(下の宮)</p> <p>本 殿</p> <p>幣 殿</p> <p>拝 殿</p>	14棟	<p>桁行正面三間、背面五間、梁間五間、一重、入母屋造、檜皮葺</p> <p>桁行三間、梁間一間、一重、後面唐破風造、前面拝殿に接続、檜皮葺</p> <p>桁行五間、梁間六間、一重、入母屋造、向拝一間、唐破風造、檜皮葺</p>	日御碕神社	島根県簸川郡大社町大字日御碕	島根県簸川郡大社町大字日御碕

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所有者の住所	所在の場所
	玉垣 禊所 廻廊 楼門 門客人社 神の宮(上の宮) 本殿 幣殿 拜殿 玉垣 宝庫 鳥居		<p>折曲り三十三間、檜皮葺 桁行六間、梁間四間、一重、入母屋造、妻入、檜皮葺、配膳所を含む</p> <p>折り曲四十一間、切妻造、檜皮葺 三間一戸楼門、入母屋造、こけら葺二棟、各一間社入母屋造、向拝一間、檜皮葺</p> <p>桁行三間、梁間三間、一重、入母屋造、檜皮葺</p> <p>桁行二間、梁間一間、一重、両下造、後面唐破風造、前面拜殿に接統、檜皮葺</p> <p>桁行三間、梁間三間、一重、入母屋造、向拝一間、唐破風造、檜皮葺</p> <p>折曲り二十五間、檜皮葺 桁行正面三間、背面二間、梁間二間、一重、寄棟造、向拝一間、檜皮葺</p> <p>二基、各石造明神鳥居 附 日御碕御建立絵彩色塗金物 1冊 出雲国日御碕造宮銀子請取同入用高帳 1冊 日御碕社殿地割図 19枚 日御碕社殿の図 1巻 石燈籠 5基 各竿に寛永二十一年甲申年秋七月吉日の刻銘がある</p>			
8	伊佐爾波神社 本殿 申殿及び廊下 楼門 廻廊	4棟	<p>内陣 桁行九間、梁間二間、一重、切妻造、檜皮葺 外陣 桁行九間、梁間二間、向拝三所、一重、流造、檜皮葺 合の間を含む 附 透塀 1棟 一周延長三十三間、本瓦葺</p> <p>申殿 桁行一間、梁間一間、一重、切妻造、棧瓦葺 廊下 桁行三間、梁間一間、一重、両下造、妻入、後端申殿に接統、棧瓦葺</p> <p>一間一戸楼門、入母屋造、向拝一間、向唐破風造、本瓦葺</p> <p>桁行延長五十七間、梁間一間、一重、入母屋造、南門及び北門部向拝一間、向唐破風造、本瓦葺 附 末社高良玉垂社本殿 1棟 一間社流見世棚造、檜皮葺 末社常盤社新田靈社本殿 1棟 一間社流見世棚造、檜皮葺 石燈籠 2基 各竿に寛文七丁未年五月十五日の刻銘がある 棟札 1枚 重造寛文丁未秋八月十有五日の記がある</p>	伊佐爾波神社	愛媛県松山市道後湯之町	愛媛県松山市道後湯之町

新指定重要文化財一覧

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所有者の住所	所在の場所
9	宗像神社辺津宮 本殿	1 棟	五間社流造、こけら葺 附 棟札 9 枚 天正六年 ^{戊寅} 六月朔日の記があるもの 4 造営元文元年七月の記があるもの 1 葺替寛政十一 ^{己未} 年九月の記があるもの 1 修理文政三年 ^辰 二月の記があるもの 1 修造嘉永五 ^{壬子} 三月の記があるもの 1 葺替嘉永五 ^子 四月吉日の記があるもの 1	宗 像 神 社	福岡県宗像郡 玄海町大字田島	福岡県宗像郡 玄海町大字田島
10	宗像神社辺津宮 拜殿	1 棟	桁行六間、梁間正面一間、背面三間、 一重、切妻造、妻入、こけら葺 附 棟札 1 枚 再建安永九 ^{庚子} 年の記がある			

重要文化財の名称、員数並びに構造及び形式を改めたもの

(昭和42年3月31日決定・昭和42年6月15日付変更)

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所有者の住所	所在の場所
1	羽黒山正善院黄 金堂	1 棟	桁行五間、梁間四間、一重、宝形造、 向拝一間、茅葺形銅板葺	羽黒山正善 院	山形県東田川 郡羽黒町大字 手向	山形県東田川 郡羽黒町大字 手向
2	勝常寺薬師堂	1 棟	桁行五間、梁間五間、一重、寄棟造、 茅葺形銅板葺 附 厨子 1 基 三間厨子、入母屋造、妻入、 板葺	勝 常 寺	福島県河沼郡 湯川村大字勝 常	福島県河沼郡 湯川村大字勝 常
3	西蓮寺仁王門	1 棟	三間一戸楼門（二階を欠く）、寄棟 造、とち葺形銅板葺	西 蓮 寺	茨城県行方郡 玉造町大字出 沼	茨城県行方郡 玉造町大字出 沼
4	雷電神社末社八 幡宮稲荷神社社 殿	1 棟	二間社入母屋造、向拝二間、銅板葺	雷 電 神 社	群馬県邑楽郡 板倉町大字板 倉	群馬県邑楽郡 板倉町大字板 倉
5	慈光寺開山塔	1 基	宝塔、とち葺	慈 光 寺	埼玉県比企郡 幾川村大字西 平	埼玉県比企郡 幾川村大字西 平
6	石堂寺本堂	1 棟	桁行四間、梁間三間、一重、寄棟造、 向拝一間、茅葺形銅板葺	石 堂 寺	千葉県安房郡 丸山町石堂	千葉県安房郡 丸山町石堂
7	旧加賀屋敷御守 殿門（赤門）	1 棟	三間薬医門、切妻造、本瓦葺、左右 繋扉及び離番所附 繋扉 左右各 4.1 メートル、本瓦葺 番所 左右各桁行三間、梁間二間、 一重、前後唐破風造、本瓦葺 附 左右袖扉 2 棟 左 27.3 メートル、海鼠扉、本 瓦葺 右 29.2 メートル、海鼠扉、本 瓦葺	国(文部省)	東京都文京区 本郷7丁目東 京大学構内	東京都文京区 本郷7丁目東 京大学構内
8	瑞竜寺法堂	1 棟	桁行十一間、梁間九間、一重、入母 屋造、銅板葺、向拝、桁行二間、梁 間一間、一重、向唐破風造、銅板葺	瑞 竜 寺	富山県高岡市 関	富山県高岡市 関

新指定重要文化財一覧

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所有者の住所	所在の場所
9	小松天満宮 本殿、石の間、幣殿及び拝殿 本 殿 石 の 間 幣 殿 拝 殿 神 門	2 棟	桁行三間、梁間二間、一重、入母屋造、銅板葺 桁行二間、梁間三間、一重、両下造、銅板葺 桁行二間、梁間三間、一重、後面切妻造、前面拝殿に接続、銅板葺 桁行七間、梁間二間、一重、入母屋造、正面千鳥破風附、向拝三間、軒唐破風附、銅板葺 四脚門、切妻造、銅板葺	小松天満宮	石川県小松市上牧町	石川県小松市上牧町
10	旧小倉家住宅 (石川県石川郡白峰村)	1 棟	桁行16.0メートル、梁間8.5メートル、正面底附、一重二階、切妻造、妻入、とち葺	白 峰 村	石川県石川郡白峰村大字桑島口13番1の甲	石川県石川郡白峰村大字桑島口13番1の甲
11	中山寺本堂	1 棟	桁行五間、梁間五間、一重、入母屋造、檜皮葺 附 厨子 1基 一間厨子、軒唐破風附（屋根を造らず）	中 山 寺	福井県大飯郡高浜町中山	福井県大飯郡高浜町中山
12	善光寺山門	1 棟	五間三戸楼門、入母屋造、銅板葺 附 棟札 1枚 上棟明和四年龍次丁亥閏九月十二 ^{癸卯} 日の記がある	善 光 寺	山梨県甲府市善光寺町	山梨県甲府市善光寺町
13	北口本宮富士浅間神社西宮本殿	1 棟	一間社流造、檜皮葺	北口本宮富士浅間神社	山梨県富士吉田市上吉田諏訪内	山梨県富士吉田市上吉田諏訪内
14	高野家住宅 (山梨県塩山市上於曽)	1 棟	桁行24.8メートル、梁間10.9メートル、背面底附、一重三階、切妻造、茅葺形銅板葺	高野みゆき	山梨県塩山市上於曽 1,651番地	山梨県塩山市上於曽 1,651番地
15	松尾寺本堂	1 棟	桁行三間、梁間三間、一重、寄棟造、銅板葺	松 尾 寺	長野県南安曇郡穂高町大字有明	長野県南安曇郡穂高町大字有明
16	旧大戸家住宅 (旧所在 岐阜県大野郡白川村)	1 棟	桁行21.1メートル、梁間12.3メートル、一重三階、切妻造、茅葺、東面前庇及び北面水屋附属、こけら葺 附 棟札 1枚 天保四年巳ノ二月十四 ^二 相改の記がある	下 呂 町	岐阜県益田郡下呂町柿ヶ平	岐阜県益田郡下呂町柿ヶ平
17	滝山東照宮 本 殿 拝 殿 幣 殿 中 門 鳥 居 水 屋	5 棟	桁行三間、梁間二間、一重、入母屋造、向拝一間、銅瓦葺 附 厨子 1基 一間厨子、入母屋造、妻入、板葺 桁行三間、梁間二間、一重、入母屋造、向拝一間、銅瓦葺 桁行二間、梁間一間、一重、背面切妻造、前面拝殿に接続、銅瓦葺 一間一戸平唐門、銅板葺 石造明神鳥居 桁行一間、梁間一間、一重、切妻造、銅板葺、水盤を含む	滝山東照宮	愛知県岡崎市滝町	愛知県岡崎市滝町

新指定重要文化財一覧

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所有者の住所	所在の場所
			附 石欄 6所 中門東方折曲り延長24.1メートル、中門西方折曲り延長26.5メートル、幣殿裏東西二所折曲り延長各5.1メートル、拝殿西方折曲り延長22.4メートル、拝殿南及び東方折曲り延長57.6メートル 銅燈籠 2基 各竿に慶安元年 ^{戊子} 四月十七日の刻銘がある 棟札 1枚 修営天保四 ^{癸巳} 九月二十六日の記がある			
18	北野天満宮 本殿、石の間、 拝殿及び楽の間 石の間 拝殿 楽の間 中門 廻廊 後透塀 東門	8棟	桁行五間、梁間四間、一重、入母屋造、右側面三間庇附、檜皮葺 桁行三間、梁間一間、一重、両下造、檜皮葺 桁行七間、梁間三間、一重、入母屋造、正面千鳥破風附、向拝七間、軒唐破風附、檜皮葺 東西各桁行正面二間、背面三間、梁間二間、一重、一端入母屋造、他端拝殿に接続、檜皮葺 四脚門、入母屋造、前後千鳥破風及び軒唐破風附、檜皮葺 附 左右袖塀 2棟 各延長三間、檜皮葺 左右各桁行折曲り延長十六間、梁間一間、一重、切妻造、檜皮葺、潜門一所を含む 一間 一戸平唐門、檜皮葺 左透塀 折曲り延長十四間、檜皮葺、潜門一所を含む 右透塀 折曲り延長十六間、檜皮葺 附 棟札 6枚 再興慶長十二曆十二月吉日の記があるもの 1 上棟寛文九年己酉二月吉日の記があるもの 1 上棟元禄十三年庚辰十二月己丑十三日辛未の記があるもの 1 元文元年丙辰八月吉祥日の記があるもの 2 修造明和七年庚寅七月吉祥日の記があるもの 1 四脚門、切妻造、銅板葺	北野天満宮	京都府京都市 東山区馬喰町	京都府京都市 東山区馬喰町
19	竜吟庵表門	1棟	桁行一間、梁間一間、一重、切妻造、妻入、こけら葺	竜吟庵	京都府京都市 東山区本町15丁目	京都府京都市 東山区本町15丁目
20	竜吟庵庫裏	1棟	桁行10.0メートル、梁間11.0メートル、一重、切妻造、妻入、銅板葺、下屋及び廊下を含む			
21	如意寺阿弥陀堂	1棟	桁行三間、梁間三間、一重、入母屋造、とち葺形銅板葺	如意寺	兵庫県神戸市 垂水区檀谷町	兵庫県神戸市 垂水区檀谷町

新指定重要文化財一覧

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所有者の住所	所在の場所
22	円 教 寺 食 堂	1 棟	桁行十五間、梁間四間、一重二階、入母屋造、本瓦葺	円 教 寺	兵庫県姫路市書写	兵庫県姫路市書写
23	金刀比羅宮奥書院	1 棟	六疊(床、棚、附書院附)、三疊、八疊、十疊、四疊半、三疊、六疊、十九疊(床附)、十疊(床附)、入側、縁、土庇等より成る、一重、入母屋造、本瓦葺、庇銅板葺	金刀比羅宮	香川県仲多度郡琴平町	香川県仲多度郡琴平町
24	風 浪 神 社 本 殿	1 棟	三間社流造、檜皮葺	風 浪 神 社	福岡県大川市大字酒見	福岡県大川市大字酒見
25	風浪神社五重塔	1 基	石造五重塔 正平十年 ^{乙未} 十月日の刻銘がある			
26	普 門 院 本 堂	1 棟	桁行三間、梁間三間、一重、宝形造、向拜三間、本瓦葺	普 門 院	福岡県朝倉郡把木町大字志波	福岡県朝倉郡把木町大字志波
27	英彦山神社銅鳥居	1 基	青銅製明神鳥居 寛永第十四丁丑年八月吉日の刻銘がある	英彦山神社	福岡県田川郡添田町大字英彦山	福岡県田川郡添田町大字英彦山
28	細川家舟屋形	1 棟	桁行三間、梁間軸面一間、鱧面二間、一重二階、切妻造段違、板葺 附 旧足隠板 8 枚	細 川 護 貞	(神奈川県鎌倉市乱橋材木座22番地)	熊本県熊本市本丸町熊本城天守内
29	那 須 家 住 宅 (宮崎県東臼杵郡椎葉村)	1 棟	桁行25.1メートル、梁間8.6メートル、一重、寄棟造、茅葺形銅板葺、東面庇附属	那 須 正 敏	宮崎県東臼杵郡椎葉村下福良1818番地	宮崎県東臼杵郡椎葉村下福良1818番地

重要文化財の附の一部を解除し、その員数並びに構造及び形式を改めたもの

(昭和42年3月31日決定・昭和42年6月15日付解除)

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所有者の住所	所在の場所
1	英彦山神社奉幣殿	1 棟	桁行七間、梁間五間、一重、入母屋造、向拜一間、こけら葺 附 棟札 14枚 建立元和貳年 ^{丙辰} 九月吉祥日の記があるもの 1 修葺寛文五 ^{乙巳} 年五月吉辰日の記があるもの 1 修葺享保八 ^{癸卯} 年九月吉辰日の記があるもの 1 修葺宝暦十三 ^{癸未} 年秋七月吉祥日の記があるもの 1 修葺嘉永六 ^{癸丑} 年十月吉祥日の記があるもの 1 人名その他の記があるもの 9	英彦山神社	福岡県田川郡添田町大字英彦山	福岡県田川郡添田町大字英彦山

「物故者」 ページ (140～152 ページ)

個人情報保護のため非公開

Pages of the Articles of the Deceased (pp.140-152)

Cut for protection of the personal information

美術文献目録

(昭和42年)

凡 例

- ここに採録した文献は昭和42年中にわが国において発行された単行図書、定期刊行物、および諸新聞に掲載されたものである。ただし雑誌により年度外が含まれることもある。
- 単行図書の形で刊行されたもののうち多数の論文を集録したものは単行図書としてあげたほか、その内容を定期刊行物中にも組み入れた。
- 現代美術文献目録は明治以後の美術に関するものを、外国美術文献は西洋を主として集めたが、東洋やその古美術に関するものも現代に関わりをもつ限りこれを採録した。
- 建築ならびに工芸の範囲は本文最初の凡例に記した範囲にとどめた。
- 各項目内の配列は特記したほかは、内容別順とした。なお主題記載については、見出し易くするため多少変更している事がある。(例えば作家欄において作家名を先に出す等のこと。)
- 雑誌の号数は主として通巻番号を採用した。なお 747～749 には 747号、748号、749号にわたることを示し、14・15は14号と15号の合併号を示す。9. 1, 3, 6 は昭和42年9月1日、3日、6日の新聞を示す。(5)は昭和42年5月号を示す。

目 次

〔定期刊行物所載文献〕		絵 画	199
現代美術・西洋美術		彫 刻	202
総 説	154	書 蹟	204
絵 画	156	建築・庭園	205
彫 刻	158	工 芸	206
工芸・デザイン	159	陶 磁 工	207
建 築	161	漆 工	209
作 家 (人名別音順)		木工・その他	209
日 本	163	金 工	208
外 国	174	染 色 工	210
美術関係者 (人名別50音順)		玉・ガラス工	210
時評・その他	179	考古学関係	210
展覧会批評 雑誌(50音順)		歴史関係・その他	211
新聞(紙別、50音・日付順)	185		
東洋古美術		〔単行図書〕	
総 記	188	現代美術・西洋美術・東洋古美術	212

定期刊行物所載文献

現代美術・西洋美術文献

総 説

イメージの発見	今井 清	美 学	70
造形空間と場	井村 陽一	美術史研究	5
造形芸術における描写対象について	石田 正	京都市立美術大学研究紀要	12
造形に於ける実空間と虚空間について	郡山 正	女子美術大学紀要	1
技術と芸術の交錯 2—現代技術と美学的諸問題—	今道 友信	美 学	68
美術の機能	多木 浩二	デザイン批評	1
政治と芸術・上	荒 正人	読 売	3.7
「表現の自由」と芸術・上下	滝口 修造	朝日夕刊	8.21, 22
技術時代の美術	大岡 信	中央公論	8
文明の意識と芸術	中原 佑介	S D	29
伝統断絶の美学	宗 左近	芸術生活	220
機械の着想—現代美術覚書—	岡田 隆彦	季刊芸術	1の3
イメージの問題—美術概論—	山内 得立	ア ー ト	15の1
鏡の前の幻想—美意識について—	坂崎 乙郎	季刊芸術	1の3
芸術の恐怖—構成主義再評価の動向に触れて	中原 佑介	国際建築	34—2
日本の美学	加藤 周一	世 界	11
自然の背後	植田 寿蔵	美 学	68
世界における日本文化 上・中・下	谷川 徹三	東京夕刊	1.5—1.7
民族的個性と伝統	平山 郁夫	みづゑ	753
特集・遊びと遊びの空間		S D	30
座談会—遊びを語る—	栗津潔, 磯崎新, 泉真也, 加藤秀俊, 中原佑介, 山口勝弘		
遊びの相の下に	栗田 勇		
賭博師—遊戯者の緊張—	寺山 修司		
遊びを知らぬ空間	篠原 一男		
遊び車の思想を	真鍋 博		
芸術と遊び—危機の接点	岡本 太郎		
座談会・芸術表現に於ける単純化とは	谷川徹三, 水尾比呂志, 高階秀爾	芸術生活	219

現代において芸術とはなにか	山崎 正和	中央公論	(7)
現代のリリスム	大岡 信	芸術新潮	215
現代芸術への疑問	坂崎 乙郎	S D	36
現代のデザイン	栗津 則雄	芸術新潮	216
特集・現代の芸術創造を享受の意味		S D	37
くたばれ小市民的芸術観	岡田 隆彦		
ふたたび現代芸術への疑問	坂崎 乙郎		
シンポジウム・現代芸術	東野芳明, 高階秀爾他	季刊芸術	1
現代芸術と美のゆくえ—座談会—	大岡 信, 東野 芳明, 水尾比呂志	展 望	(9)
戦後美術20年の回想	菊地 明子	美術グラフ	16の1
現代美術の新世代 上・下	土方 定一	朝日夕刊	3.21, 22
未来を建設する人間の創造	川添 登 朝	日	9.28
天才だけが天才的に剽窃する	瀬木 慎一	芸術新潮	214
謎の芸術と芸術の謎	中原 佑介	〃	209
「自然」この未知なるもの	〃	〃	212
現代の個性	山崎 正和	〃	207
現代の最尖端	東野 芳明	芸術新潮	205
美術と教育	井島 勉	京都夕刊	11.23
特集・マクラーハン理論と現代芸術	日向あき子	芸術手帖	291
電気情報時代の芸術	〃	〃	〃
マクラーハンの著書ガイド	〃	〃	〃
「機械の花嫁」	〃	〃	〃
グーデンベルグ星雲	東野 芳明		
メディアの理解	後藤 和彦		
メディアはマッサージである	宮川 淳		
特集・ポップアート	〃	〃	288
現代の図像	宮川 淳		
アメリカ的きわもの	藤枝 晃雄		
エロティシズム	日向あき子		
純粋芸術が宙に浮いた時代	会田 雄次	芸術生活	212
第三芸術の成立	瀬木 慎一	読売夕刊	11.27
誰が宇宙をデザインしたか	小松 左京	デザイン批評	2
死体化粧師のいる風景—イメージ, デザイン, がん具—	関根 弘	デザイン批評	3
イメージの所有について	中原 佑介	〃	〃
イメージ・アナロジー, 構造	中村雄二郎	〃	〃

美のはかなさ	稲垣 足穂	本の手帖	61	現代詩とキュビズム	飯島 耕一			
〃	〃	〃	62	忿怒(幻想の美学2)	瀬木 慎一	現代美術	10	
〃	〃	〃	64	近代美術を語る	河北倫明, 隈元謙次郎, 土方定一, 松下隆章	月刊文化財	49	
〃	〃	〃	65					
見るとは心をつかむわざ	秦 秀雄	芸術生活	210	近代日本美術の諸特性				
異民族文渉について4	堀田 善衛	〃	211	1 文学的発想「表現の土着化」	岡田 隆彦	S D	26	
アフリカの影 5	〃	〃	212	2 人工学識の導入「表現の土着化」	〃	〃	27	
西洋の誘惑 12~23	中山 公男	芸術新潮	205~216	3 裸体の描写が招くもの	〃	〃	28	
青年像	三島由紀夫	〃	206	4 線による幻想の表現	〃	〃	29	
コットン・ゲネシスの主題判定	辻 佐保子	美術史	66.67	5 装飾と写実の融合	〃	〃	30	
トランプをする人たち 1, 2 主題と変奏	坂崎 乙郎	三 彩	210, 211	6 構築的なレアリスム	〃	〃	31	
画家のアトリエ 1, 2 主題と変奏	〃	〃	212, 213	7 明澄な空間の表現	〃	〃	32	
死の舞踏 1, 2 主題と変奏	〃	〃	214, 217	8 近代彫刻の黎明	〃	〃	33	
ルネッサンスの光と闇				9 生を蕩尽してゆく表現	〃	〃	34	
三美神 2	高階 秀爾	〃	210	10 前衛芸術と政治への関心	〃	〃	35	
キューピッド	〃	〃	211	11 耽美主義的幻想	〃	〃	36	
春 2.	〃	〃	213	12 危機に直面した表現	〃	〃	37	
春 3.	〃	〃	214					
二人のヴィナス 1	〃	〃	215	日本画と現代<美術概論>	井島 勉	アート	15の2	
18, 19	〃	〃	218, 220	権力統制と暗黒の谷間で<座談会>	麻生三郎, 宮本三郎, 吉岡堅二	みづゑ	753	
幻想の耽美派	坂崎 乙郎	みづゑ	745	「プロ美術」と「プロレタリア美術」のこと	まつやま・ふみお	本の手帖	70	
特集・ウィーン一伝統との相剋		S D	32	戦争画批判の今日的視点	針生 一郎	みづゑ	753	
伝統と革新	坂崎 乙郎			芸術家にとって抵抗とはなにか	〃	芸術生活	219	
転換期ウィーンの建築	阿部 公正			斜視的美術史・近代日本の百年 1~12	竹田道太郎	国際写真情報	192~203	
装飾と罪悪	アドルフ・ロース			女と石—美の根源の東と西—	吉村 貞司	三 彩	213	
イメージの魅惑<ルーフ>「魅惑的なイメージと超現実」>	宮川 淳	現代芸術	10	日本美術の伝統とはなにか「剽窃のすすめ」	田中 穰	みづゑ	751	
世紀末芸術	大沢 武雄	美術史研究	5	アメリカと日本現代美術—ドサ廻り講演記—	東野 芳明	美術手帖	280	
セザンヌ空間の構造—「サント・ヴィクトワール山」連作を中心に—	末永 照和	美術学	71	日本美術の底辺	柳 亮 朝 日	2, 10		
Cubism and Japanese Conception of Art	TAKASHI NA, Shuji	国立西洋美術館年報	2	国際画壇をめざす新世代	乾由明, 東野芳明	みづゑ	753	
特集・キュビズムとその時代		S D	29	現代抽象についての疑問	尾上 豊穂	アート	15の3	
<座談会>キュビズムとその時代	秋山邦晴, 岡田隆彦, 黒川紀章, 高階秀爾, 東野芳明			生きている前衛				
キュビズムの空間意識	高階 秀爾			1 物体との出会い	山口 勝弘	美術手帖	278	
構成主義との接点	高見堅志郎			2 裁断	〃	〃	279	
ユーゲントシュテール以後	坂崎 乙郎			3 増殖	〃	〃	280	
解体と構築の理論	原 広司							
ルネッサンス期のキュビズム	新井 慎一							

定期刊行物所載文献

4 新しい素材の発見	山口 勝弘	美術手帖	281	具象画のスキヤンダル	アンドレ・マソン, 大槻鉄男訳	本の手帖	61
5 無重力	〃	〃	282	新しい具象絵画	河北 倫明	朝 日	2.6
6 奇装時代	〃	〃	283	具象画のこれから	原精一, 大森明衛, 森通, 宗左近	日本美術	44
7 イリュージョン	〃	〃	285	具体美術の15年	乾 由明	みづえ	754
8 H ₂ O	〃	〃	286	季節と文明—日本画私観—	大岡 信	三 彩	213
9 接続	〃	〃	287	日本画の運命<文化ジャーナル>		朝日ジャーナル	8.6
10 感覚の解放	〃	〃	288	現代日本画擁護論	栗田 勇	〃	221
11 映像の氾濫	〃	〃	289	日本画をこう考える(アンケート)	〃	〃	〃
12 仕掛け	〃	〃	291	水彩と素描の意味	本間 正義	みづえ	752
新具象と西部美術研究会<戦後の美術運動・9>	中野 淳, 福田恒太, 山野 卓	美術グラフィック	16の2	東洋のエクセントリック画派 1~3	吉村 貞司	〃	750~752
秋のヨーロッパ美術界 上・下	中原 佑介	朝日夕刊	11.9.10	法隆寺金堂壁画の模写	服部 雄三	芸術新潮	207
アメリカ美術の百年	高階 秀爾	芸術生活	218	法隆寺金堂の壁画を焼失前の姿に再現		萌 春	152
<対談>現代文明のなかのアメリカ美術	C. グリーンバーク, 針生一郎	世 界	2	法隆寺金堂の壁画を再現		朝 日	1.8
ラブソディ・イン・アメリカ<アメリカ現代美術の背景について>	赤塚 行雄	現代美術	10	「法隆寺金堂壁画」再現の意味	石田 茂作	朝日夕刊	1.17
現代イタリア美術の展望	井関 正昭	みづえ	752	金堂壁画焼失の思い出	矢代 幸雄	〃	1.26
批評家、画家、作家の関係—現代イタリア美術—	本間 正義	芸術新潮	214	東照宮の壁画の復元		東京夕刊	5.15
イタリア美術二つの顔	岡田 譲	日 経	11.29	近代絵画の洋風写生	村田慶之輔	萌 春	160
芸術の地方性と国際性—ドイツ現代美術にみる—	針生 一郎	美術手帖	289	長崎派美術の流れ	越中 哲也	〃	154
特集・モントリオール万国博				シーボルトと周辺の画家たち	小野 忠重	みづえ	754
環境芸術としての万国博	磯辺 行久	S D	33	北斎の油絵—洋画研究と油絵「魚貝静物図」について—	尾崎 周道	美術手帖	285
ハプニングとは何か		美術手帖	282	横浜絵	檜崎 宗重	芸術生活	220
<対談>新しい素材と造形	岡田 隆彦, 山口 勝弘	〃	284	重要文化財になった明治の洋画	桑原 住雄	芸術新潮	209
西洋美術にみる画題の図象 1~12	三輪 福松	〃	278~291	明治洋画史 24~33	外山卯三郎	美術グラフィック	16の1
				「戦争絵画」を考える<文化ジャーナル>		朝日ジャーナル	9.10
				明治百年記念特集			
				1 明治天皇御一代(聖徳記念館収蔵作品で回顧)		国際写真情報	192
				2 錦絵と明治時代		〃	193
				3 石版画に偲ぶ明治		〃	194
				4 教育		〃	195
				5 演劇の歩み		〃	196
				6 スポーツの歩み		〃	197
				7 明治の油絵		〃	198
				8 風俗		〃	199
				9 明治の日本画		〃	200
				10 明治の建築		〃	201
				11 宗教の流れ		〃	202
				12 産業の発達		〃	203
近代日本における洋画摂取の受容形態の一考察	栗原 良	東洋学術研究	6—1				
現代日本画の問題	河北 倫明, 土方定一, 今泉篤男, 鈴木 進	三 彩	221				
日本画の可能性について(苦言)	岡本謙次郎	〃	〃				
日本のフォーヴ考	原田 実	萌 春	153				
特集・デザインを内容とした絵画	東野 芳明	芸術新潮	218				
現代絵画の古さと新しさ	中原 佑介	芸術生活	213				
具象絵画の変貌	小川 正隆	〃	220				

明治前半の日本画諸派 (明治絵画史10)	細野 正信	萌 春	151	カッパドキヤ壁画 ＜発掘＞13	柳 宗玄	芸術新潮	205
明治前半の日本画諸派 4～5	〃	〃	152～154	中世トルコ洞窟壁画 —鑑賞席—	〃	朝日ジャーナル	7.30
幕末～明治の作品 2・3	〃	〃	155	イタリアに於けるピエタ像の成立	浅井 明子	美術史研究	5
幕末～明治の新資料 2	〃	〃	156	ルネッサンスの聖歌楽譜	皆川 達夫	みづゑ	746
明治半ばまでの諸展観	〃	〃	157	絵画の宝石＜ミニアチュール＞上・中・下	〃	日 経	2.9～2.11
洋画の受難期	〃	〃	158	ボッティチェルリー プリマヴェーラ「春」	辻 茂	みづゑ	745
大正期と異端の系譜 (対談)	土方 定一 寺田 透	みづゑ	155	ドイツルネッサンスの画家たち	土方 定一		
ヒューザン会前に (座談会)	清宮彬 他	三 彩	217	9 職人時代のグリユーネヴァルト		みづゑ	744
新制作展の古典研究	河北 倫明	芸術新潮	216	10 グリユーネヴァルトの自画像		〃	745
評価の変わった戦争画		S D	34	11 デューラとグリユーネヴァルト			746
戦争絵画の周辺	織田 達朗	三 彩	219	12 イーゼンハイムの祭壇画		〃	747
楽之軒・八説 日本のテクニク (解説)	泉 宏尚	芸術新潮	207	13 アルドルファーとドナウ派		〃	748
那智の滝	栗田 勇	三 彩	218	14 バーゼルのハンス・ホルバイン		〃	749
明山水図小考	小山 清男	萌 春	159	15 傭兵隊書記・ニコラウス・マヌエル		〃	750
美人画の美学	栗田 勇	三 彩	216	16 デューラー以後とマニエリスム		〃	751
近代の美人画	久富 貢	〃 〃	〃	Leonardo da Vinci 「絵画論」	柏木 隆夫	大手前女子大学論集	1
日本の美人画と西洋	坂崎 二郎	〃 〃	〃	ヴェネツィア画派の栄枯盛衰について	堀田 善衛	芸術生活	217
美人画を語る	鎗木 清方 北川 桃雄 藤本 韶三	〃 〃	〃	グレコの秘密	瀬戸 慶久	みづゑ	747
美人画主要作品年表	多田 信一	〃 〃	〃	新発見のリュウベンス・真贋39	嘉門 安雄	芸術新潮	207
長崎26聖人殉教図 (クエルナバカ寺院)	本間 正義	日 経	3.16	二つの絵画作風の出会について—ブッサンとルーベンスを中心に—	野口 栄子	美 学	70
江戸の洋画家	小野 忠重			ジョルジュ・ドゥ・ラ・トゥールの画風変遷の一考察—細部描法の比較検討による—	田中 英道	美術史	64
12 亜吹堂田善		三 彩	210	「イリュミナシオン」と印象主義の絵画	宇佐美 斎	人文論究	18—2
13 雷洲ほか		〃	211	ダウソンの詩とピアズリーの挿画	関川左木夫	学 燈	64の11
14 蓮杖と芳柳		〃	212	マダム・エドヴァルダ	ジョルジュ・バターユ 大島辰雄訳	三 彩	213
15 ワーグマン		〃	213	ユトリロの道	宇佐見英治	みづゑ	746
16 梅南ほか		〃	214	現代絵画の贋作＜真贋＞44		芸術新潮	212
17 横山松三郎		〃	215	ロシアの近代絵画	嘉門 安雄	学 燈	64の12
18 南蛮と紅毛		〃	219				
19 紅毛画のかたち		〃	220				
飛泉頌	細野 正信	〃	218				
虎日本の象徴	宗 左近	芸術生活	215				
「春」の名画	富永 惣一	〃	213				
月の絵画の歴史	鷲塚 泰光	三 彩	220				
三つの要素の分裂—児童文学とイラストレーション—	上笙 一郎	京 都	10.8				
灰の中からよみがえった「秘儀荘」＜発掘＞17	辻 茂	芸術新潮	209				
ボンペイの壁画	高階 秀爾	S D	31				
聖画像と教義	クルト・ブラッシュー	みづゑ	747				
イコンの芸術	吉川 逸治	朝 日	2.28				
イコンにみる母性愛	辻 左保子	〃	3.4				

定期刊行物所載文献

ソヴェート絵画の歩み	岡本 唐貴	現代の眼	156
現代ソヴェート絵画について	ガリーナ・イワノワ、レオニード・ガバチュック、ヴェチェスラフ・チトフ、ゲルマン・ネドシビン	〃	〃
サリヤンをたずねて	吉田 耕三	〃	156
ソ連絵画の現状と将来への展望	ゲルマン・ネドシビン	〃	157
ソビエト絵画の今日の段階について<ソ連絵画50年展>	松谷 彌	美術グラ	16の10
ルーヴルの科学調査<真贋>45	村木 明	芸術新潮	213
イタリアの漫画界	滝谷 節雄	朝日夕刊	10.10
政治漫画について	那須 良輔	毎日夕刊	10.2
のらくろとアトム(対談)	田河水泡、手塚治虫	国際写真情報	199
肉筆浮世絵の再評価	針生 一郎	芸術生活	217
明治をしのぶ石版画	吉田小五郎	日 経	10.10
明治の石版画	吉田小五郎	学 燈	64の12
明治・大正・昭和の版画	岡 畏三郎	現代の眼	151
版画を支えるもの	小野 忠重	〃	〃
版画の工房と頒布会<美術ノート>	野間 正	〃	〃
お化けの版画を集めて	ロバート・コート	芸術新潮	211
日本創作版画協会発足の項	石井 鶴三	みづゑ	750
版画その過去と現在	瀬木 慎一	京 都	9.16
水準の高い日本版画	久保貞次郎	読売夕刊	10.11
日本の版画 挫折から飛躍へ	小川 正隆	芸術生活	214
<版画への招待>オリジナルとエスタンプ	久保貞次郎	みづゑ	744
2 オリジナル・署名・番号	〃	〃	747
3 署名と番号	〃	〃	750
4 版画の蒐集	〃	〃	753
水墨画へのさそい2~5	坪内節太郎	三 彩	218~220
水彩のたのしさ<美術ノート>	小山 良修	現代の眼	152
特集・クロッキーのポーズ	東京芸大油絵教官研究室	アトリエ	482
特集・静物画を始める人へ	藤本東一郎、深沢紅子、耳野卯三郎他三名	〃	481
特集・風景画の実技	大兼実、大津鎮雄、中谷泰他三名	〃	480

特集・木炭・鉛筆・石膏デッサン―見方・描き方・考え方―	東京芸大油絵研究室	アトリエ	478
特集・フォルム―デッサンの実技	東京芸大教授共同執筆	〃	484
特集・版画の技法―銅版・石版・木版―	東京芸大版画研究室	〃	484
特集・人物画を始める人へ	伊藤悌三他	〃	487
特集・あなたにもできるスケッチの描き方	西村 暦定	〃	486
特集・油絵のいろいろな描き方	小泉繁・吉井忠他	〃	489
特集・花のスケッチ描法	荻野 康児	〃	490
特集・海の描き方異形	大石俊彦他 山本 太郎	〃 芸術新潮	483 212

彫 刻

現代日本の彫刻	土方 定一	毎 日	3.23
空間・時間・光・音響―'60年代の日本の彫刻	三木 多聞	みづゑ	745
明治彫塑と長沼守敬	中村伝三郎	学士会会報	697
「収租院泥塑群像」のこと<中国の新しい空の下で>	杉森 久英	読売夕刊	5.26
抽象彫刻以後―アメリカ現代彫刻の繁栄をめぐる―	藤枝 晃雄	美術手帖	286
ファンク・アート	清水 俊彦	みづゑ	751
ブルグンドと留金	北原 一也	〃	744
ランゴバルドの装飾彫刻	〃	〃	745
ランゴバルドの人像彫刻	〃	〃	746
アスチュリアスの建築彫刻	〃	〃	747
前期ロマネスク彫刻	〃	〃	748
後期ロマネスク彫刻	〃	〃	749
パルテノン時代のアッティカの浮彫について	千葉 昌樹	文 化	31-2
モンレアーレ本寺大門扉の浮彫―ピサ本寺<Porta di S. Ranieri>との関連について―	浜谷 勝也	美術史研究	5
権威の座を揺がされたギリシャ彫刻の至宝	森 洋子	芸術新潮	216
特集・彫塑を始める人へ	岩野勇三他	アトリエ	485
新しい素材の基礎的加工法		美術手帖	248
1 アルミニウムによる鋳造	伊藤 隆康		
2 ステンレス鋼の加工	小田 要		

3 F・R・P (ガラス繊維強化ポリエステル)	村井 浩	
4 ポリエステルの注型	尾川 宏	
5 アクリルの板加工	多田 美波	

工芸・デザイン

単純化とデザイン	田中 一光	芸術生活	219
エッフェル塔の華麗なる運命	栗津 潔	〃	〃
デザイン・建築・都市 (対談)	丹下 健三 川添 登	デザイン批評	1
現代デザインの変身 = 神との対話	川添 登	〃	〃
方法についての考察	原 広司	〃	〃
ものみなマネで始まる	栗津 潔	〃	〃
体験的遊びのデザイン	福田 繁雄	〃	2
方法と表現について — トータル・デザイン考 —	栗津 潔	〃	3
今日の美術とデザイン (芸術の窓・美術)		季刊芸術	3
デザイン化と絵画化	中原 佑介	〃	〃
日常性の芸術化—バウハウス以後	日向あき子	〃	〃
デザインの思想	栗津 潔	〃	〃
手工芸の伝統とインダストリアル・デザイン	水尾比呂志	S D	26
特集・現代生活の中の金属<座談会>			
1 現代の造型意識と金属	伊藤隆道, 篠田守男, 他	〃	36
2 金属と現代生活	出原栄一, 泉真也他	〃	〃
エアボーンの家	松本 哲夫	〃	36
生活の中のデザイン ・ デザインの中の生活	万 令太郎	〃	29
ガラス素材の空間への主張	長谷川 栄 萌 春		151
現代工芸の創造へ	吉田 耕三	読売夕刊	5.16
日本的とは何か<伝統とデザイン>	柳 宗理	毎日	9.4
デザインの創造と盗作	永井 一正	朝日夕刊	9.13
デザインに科学性を	中井 幸一	〃	9.28
暮らしとデザイン	朝倉 摂	毎日	9.4
グッド・バイ・グッド・デザイン	泉 真也	デザイン批評	1
音をデザインする <ストリップソディ>	秋山 邦晴	美術手帖	291
G・Dの空間性	早川 良雄	芸術生活	219
モデル・チェンジを支えるもの	伊藤ていじ	朝日夕刊	5.15

空腹感覚の必要	安藤 紀男	デザイン批評	3
デザイナーというものの	渡辺 力	芸術生活	214
特集流行 夢と実在 (ガバッと引き裂かれて消え行くデザイナーの秘事)	横尾 忠則	デザイン批評	4
わが国における唐草模様の成立	西村 兵部	カラーデザイン	13の7
〃 (続)	〃	〃	13の8
世界紡織 7000 年史 (1)~(4)			13の8~10, 12
エトルリアの鏡	三輪 福松	古美術	18
近世英国とフランスの更紗模様<伝統染色文様の研究 3>	佐野 正男	カラーデザイン	13の2
ルネッサンスの染色文様<伝統染織文様の研究 4>	友部 直	〃	13の3
18世紀のフランスの染織文様における東洋の影響< 5>	北村 哲郎	〃	13の4
中部ヨーロッパの民族模様< 6>	中田 満雄	〃	13の5
北ヨーロッパの民族模様< 7>	中村 信子	〃	13の6
バラカス・ナスカの伝統染織< 8>		〃	13の7
オリエント風のロココ染織	(渡辺)	〃	13の2
アンデスの鳥文	〃	〃	13の3
イランの華文14~17世紀	〃	〃	13の5
桐の文様	〃	〃	13の6
アール・ヌーボー	〃	〃	13の4
ジュイの更紗18世紀	〃	〃	13の7
ウィリアム・モリス (更紗・壁紙)	〃	〃	13の8
メラネシアの木彫・彩絵	〃	〃	13の9
ビクトリアン・チンツ	〃	〃	13の10
アラベスク	〃	〃	13の12
ガラス工芸の黎明	内山 武夫	萌 春	151
日本のデザイン(1)~(2)	伊藤ていじ	東京夕刊	6.29~7.13
啓蒙期以後のグラフィックデザイン(1)(2)	永井 一正	デザイン批評	1.2
トプカビィ・サライの中国磁器 1 <染付>	三杉 隆敏	みづゑ	745
トプカビィ・サライの中国磁器 2	〃	〃	746
茶入「猿蓑」の謎 <真贋37>	白崎 秀雄	芸術新潮	205
四日市の明治万古	杉野 瑛月	陶 説	167
日本近代における工芸の性格と動向—工芸論を中心として—	遠藤 元男	東洋学術研究	6—1

定期刊行物所載文献

伝統織物搜し求めて	富山 弘基	日 経	7.14	12. 陶芸家・小山富士夫	芸術新潮	216
歴史をいろどる“西陣五百年”		毎 日	9.10	特集・現代工芸の新世代(アンケート)	美術グラフィック	16の7
黄八丈の里<東京レポート>		ク	2.28	清水裕詞, 今井政之, 三橋国民, 関稔, 飯田美郎, 大須賀選, 河合匡造, 三田村秀雄, 堀友三郎, 三浦景生		
伊勢型紙<日本の年輪>	三田 正道	朝 日	7.23	対談・染色工芸の今後の指標	般若 侑弘, 菊地芳一郎	16の1
輪島塗<ク>	村田重五郎	ク	1.29	明治初期工芸の量産美術・工芸の未分化・技術と自然観に關して	長谷川 栄	ミュージアム 198
京焼管見	満岡 忠成	萌 春	158	鈴木縁園一秋田万古の巧匠一	小野 正人	陶 説 169
古九谷<石筆>	本多 静雄	東 京	3.8	ボドニとそのタイプ・デザインに關する一考察	田中 正明	女子美大紀要 1
有田焼<日本の年輪>	虫明 弘光	朝 日	6.18	内側からの発想<鑑賞席>	原 広司	朝日ジャーナル 4.23
和紙<ク>	梶田 隆史	ク	3.5	陶製オコゼの在り方	青柳 瑞穂	展 望 (7)
民具<鑑賞席>	中村 精	朝日ジャーナル	2.5	日宣美展の出遅れた新人達へ	森 啓	デザイン批評 1
虚心を刻む・伊勢型紙彫	児玉 博	芸術生活	213	不妊娠の運動母胎一日宣美中央委員会殿一	栗津 潔	ク 2
古代の心に生きる老木地師	松永 伍一	ク	215	政党の選挙ポスター	山城 隆一	朝日夕刊 1.24
越前墨流し	駒 敏郎	ク	217	日本のデザイン(国産車に思う)	渡辺 力	朝 日 7.25
郷土を離れた佐賀錦織	鴻 みのる	ク	218	デザイン学生は燃えているか	福田 繁雄	芸術新潮 208
飛騨一位一刀彫	駒 敏郎	ク	219	カラー・テレビの受像機	亀倉 雄策	芸術生活 218
最後の生粋江戸っ子職人	藤 昇一	ク	220	家具ユニットの蜂記(名鉄バスターミナルビル批評)	栄久庵洋二	デザイン批評 4
郡上つむぎの里<地方工芸に生きる1>		国際写真情報	192	インテリアデザインの追求—中島邸—<ワンポイント住宅訪問>	中島重雄, 剣持勇, 朝倉響子	芸術生活 213
備前窯の人たち<ク 2>		ク	193	ララースの風変りな家具		国際写真情報 193
紙郷黒谷の女たち<ク 3>		ク	194	デヴィット卿と推朱	広田不孤斎	芸術新潮 215
南部鉄瓶の誕生<ク 4>		ク	195	シモース・ソファ	関口 正己	S D 33
会津塗・うるし<ク 5>		ク	196	オールド・ファッション	清家 清	芸術新潮 205
京扇子<ク 6>		ク	197	1. 温故而知新	ク	ク
戸隠の竹細工<ク 7>		ク	198	2. トーネット	ク	ク 206
有松しほり <ク 8>		ク	199	3. チャイナ	ク	ク 207
世界に誇る貴石加工のまち <ク 9>		ク	200	4. 異人館	ク	ク 208
箱根細工<ク 10>		ク	201	5. 手摺	ク	ク 209
越前墨流<ク 11>		ク	202	6. 唐草模様	ク	ク 210
伊勢型紙<ク 12>		ク	203	7. ロープワーク	ク	ク 211
現代の陶器				8. ログ・キャビン	ク	ク 212
1. 河井寛次郎	芸術新潮		205	9. グラフィック	ク	ク 213
2. 瀬戸の陶工	ク		206	10. プレ・インダストリアル・デザイン	ク	ク 214
3. 常滑の復活	ク		207			
4. 備前の伝統と新風	ク		208			
5. 信楽のクラフト	ク		209			
6. 萩の茶陶	ク		210			
7. 唐津の意匠	ク		211			
8. 有田の磁器	ク		212			
9. 京焼の余香	ク		213			
10. 九谷の新世代	芸術新潮		214			
11. 京の前衛陶器	ク		215			

11. ケロシンランプ	清家 清	芸術新潮	215	メガロポリス論(1), (2), (3)	L・マイア	S	D	26, 28, 30
12. クーフティンバ	ク	ク	216	特集・シカゴ派—その 文明史的背景		ク		27
特集・レタリングの 学び方	東京芸術大 学V.D研究 室, 高田正 二郎	別冊アト リエ	90	シカゴ派建築の成立	小林 文次	ク		
特集・デザインのため の鉛筆デッサン・ 表現とまとめかた	女子美術大 学造形芸術 研究会編	ク	91	シカゴの有名な建 築他	神代雄一郎			
特集・デザイン実技 ・鉛筆画の描き方	東京芸術大 学V.D研究 室, 高田正 二郎	ク	92	特集・パレス・ゾー ンの将来像		ク		28
グラフィック・デザ インの基礎実技	お茶の水美 術学院V.D 研究室	ク	93	座談会・パレス・ゾ ーンの将来像をめぐ って	芦原 義信 川上 秀光 菊竹 清訓 八十島義之 助 山本 学治 吉阪 隆正 平良 敬一			
建 築				特集・メキシコ文明 を貫くもの		ク		31
都市像の変遷(上), (中), (下)	前川 国男	朝日夕刊	1. 11, 12 13	古代メキシコの神 殿と都市	増田 義郎			
アンデス発掘調査を 終って(上)	泉 靖一	朝日夕刊	1. 13	メキシコ曼陀羅	利根山光人			
ク (下)	増田 四郎	ク	2. 1	メキシコの色感	吉田 穂高			
移転進むアブ・シン ベル神殿		朝 日	2. 13	メキシコの現代建 築の都市, 他	鈴木 恂			
人間尊重の団地設計 を	黒川 紀章	ク	3. 29	都市と人間	星野 郁美	ク		33
伝統と創造	伊藤ていじ	ク	4. 6	知識と人間の未来	マーシャル ・マクルー ハン, 日向 あき子訳	ク		34
帝国ホテル問題をめ ぐって	池辺 陽	ク	5. 9	特集・コンクリート の可能性と建築家 の思想		ク		ク
建築家ライト生誕百 年に寄せて	谷川 正己	ク	5. 20	アメリカのコンク リート建築はどこ へ行く, 他	山本 学治			
都市を作る(1)―(6)		朝日夕刊	5. 22~27	特集・続コンクリ ートと建築家の思想		ク		35
対談・都市美をどう 守る	山田 正男 市浦 健	朝 日	26. 2	われわれにとって コンクリートはど んな存在か	大谷 幸夫			
新しい都市設計を	川添 登	ク	7. 11	日本の空間を支え る基本的なもの	大高 正夫			
帝国ホテルについて 一私の見方	清水 一	朝日夕刊	7. 31	コンクリートは環 境素材となりうる か	菊竹 清訓			
米国の都市再開発	浅田 孝	ク	8. 22	古代インカ都市マ チュ・ピクチュの遺跡	D・スワン	ク		36
超高層時代(1)―(4)		朝 日	9. 28~ 10. 1	西洋建築における 空間構造の変遷	吉川 逸治	学	燈	64—1
ドイツの希望新大学 建設	池辺 陽	朝日夕刊	10. 13	天上のイエルサレ ム	ク	ク		64—2
帝国ホテルとライト	稲垣 栄三	ク	10. 30	芸術と歴史の遺産— 帝国ホテル保存問題	奥村 昭雄	京	都	11. 3
月面都市・ブラジ リア<特派員の目>	浜田 隆	朝 日	11. 23	特集・現代建築への 凝視				
超高層ビルの意味	前川 国男	朝日夕刊	12. 20	現代建築はどう進 展するか—丹下健 三への四つの質問				
特集・日本の空間 —その起源の謎		S	D	26				
古代建築史の焦点 を探る	太田博太郎 渡辺 保忠							
出雲大社成立の秘 密	鳥越憲三郎							
20万都市—平城宮 ・その出現の謎	坪井 清足							
平城宮の復原模型	工藤 圭章							
石による造形空間 の系譜	平良 敬一 平山 忠治							

定期刊行物所載文献

現代建築の課題 TOKYO	黒川 紀章 丹下 健三 磯崎 新 大谷 幸夫 池辺 陽 吉阪 隆正 菊竹 清訓 黒川 紀章 横 文彦 高 正人			画一性からの脱出 —新制作座集団住居 ＜ク・4＞	植田 一豊	芸術生活	219
				セカンド・ハウス— 軽井沢N氏邸＜ク5＞	〃	〃	220
				歌よみの屋根葺師	松永 伍一	〃	218
				城に結晶させた真と 美	井上 宗和	〃	〃
起爆空間の論理	林 泰蔵	建築文化	244	都市空間の機能と変 身	黒川 紀章	〃	219
再び「住宅の未来像 をめぐって」	宮脇 檀	〃	245	明治洋風建築	桐敷真次郎	月刊文化 財	49
世界の住宅1945~66 その傾向と分析		〃	〃	特集・新東京国立近 代美術館		現代の眼	153
コミュニケーション の場としての空間	丹下 健三	〃	246	新東京国立近代美 術館の設立につい て	小林 行雄		
モントリオール万国 博診断	〃	〃	247	設計者としての所 感	谷口 吉郎		
現代建築への方法 —装置論の展開	河辺 聡	〃	〃	ピーター・コリンズ 近代建築思潮1750~ 1950 (1~VI)	中村 敏男 訳・編	国際建築	34-1~6
メタポリズムの方法 と展開	黒川 紀章	〃	253	環境主義者としての F・L・ライト	レイナー・ バンハム 横山正訳編	〃	34-2
多様化と標準化—住 居デザインに対する 提案—	池辺研究室	〃	〃	特集・フィンランド 建築		〃	〃
逆転劇の演出者たち —国内にみる作家と 作品	宮内 康	〃	254	アアルト以後—フ ィンランド建築界の 新世代	武藤 章		
マスとしてのコミュニ ティ—世界の動向 をめぐって	池辺 陽	〃	〃	特集・デザイン・サ ーヴェイの理論と 実践		〃	34-3
アンコールの遺跡群 ＜発掘・14＞	峯村 敏明	芸術新潮	206	デザイン・サーヴ ェイ方法論考	伊藤ていじ		
マザタの碧＜ク16＞	イガエル・ ヤディン	〃	208	奈良・白豪寺の集落 倉敷の古いセンター			
タウトの家の思い出	石橋 佳念	〃	210	帝国ホテル—近代建 築の命運		〃	34-5
帝国ホテル保存無用 論	アントニン ・レイモン ド	〃	214	私はこう考える 天野 太郎 他14氏			
ジャングルに隠され た大都市コパン＜発 掘・22＞	利根山光人	〃	214	近代建築の評価と 都市空間の構造的 把握	横山 正		
芸術家協力の未路	神代雄一郎	〃	216	特集・ブラジル現代 建築		〃	34-6
生きのびた兄の作品	岡田捷五郎	〃	〃	特集・「のりこえ」 のイデオロギー		〃	〃
座談会・東京に調和 美はあるか	加太こうじ 岡本 太郎 菊竹 清訓	芸術生活	211	前川国男論—合理 主義の承譜	山本 学治		
完成された彫刻作品 ＜ワンポイント住宅 訪問・3＞	生田 勉 朝倉 響子 佐々木基一	〃	212	思想としての都市 計画	馬渡 敏		
豊かな感情の表出 —小池邸＜ク・5＞	波多江健郎 朝倉 響子	〃	214	全体性の美学—丹 下健三と私たちの 未来	原 広司		
道具論による未来の 住宅＜ク・6＞	栄久庵憲司 朝倉 響子	〃	215	想起すべき住宅問題	唐崎 健一		
共存の美学	黒川 紀章	〃	〃	根拠地の思想	宮内 嘉久		
形式をもつ住宅—石 原慎太郎氏邸＜住居 の表情・1＞	植田 一豊	〃	216	信濃美術館		国際写真 情報	192
伝統の演出—立教高 校教官住宅＜ク2＞	〃	〃	217	龍生会館		〃	193
都市住宅への提案 —H氏邸＜住居の表 情・3＞	〃	〃	〃	発掘された文化都市 —ボンベイ＜世界を 知ろう＞		産 経	1.29

鉄とセメントの都市という「自然」	三 彩	213	聖地巡礼—磯崎新の作品について	永田 洋明	デザイン批評	2
建築明治100年	新 建 築		現代建築はどこへ行く(1), (3)	原 広司	〃	2, 3
第7章 様式論の系譜	村松貞次郎	42—1	機能複合体の建物—山梨文化会館	井上 耕一	〃	3
第8章 建築運動の系譜	小能林宏城	42—2	未来は突然にやってくるか	黒川 紀章	〃	〃
第9章 転換期に立つ建設業	村松貞次郎	42—3	建築の誕生(1), (2)	川添 登	〃	3, 4
第10章 期待される建築家像	小能林宏城	42—4	特集・流行		〃	4
第11章 建築と鉄の100年	村松貞次郎	42—5	現代建築における「流れ行き」の構造と流行	藤井正一郎		
第12章 脱工業化社会への展望	小能林宏城	42—6	生々しいマヤ遺跡	持田 信夫	日 経	6. 8
第13章 100年の住文化(1)	〃	42—7	アーヘン王宮とザンクト・ガレン修道院	前川 誠郎	美 学	69
第14章 100年の住文化(2)	〃	42—9	超都市の誕生	川添 登	毎 日	1. 6
第15章 工場建築と建築家の100年	村松貞次郎	42—10	来日したアフリカの建築家・エルビディオ・オリンビオ夫妻<十字路>		毎日夕刊	7. 31
第16章 座談会・明治100年をどう受けとめるか	村松貞次郎 岩下 秀男 野村 豪 円堂 政嘉 杉山 英男 小能林宏城	42—11	超高層ビルへの疑問	川添 登	〃	11. 15
都市景観形成と「美観地区」	足達富士夫	〃 42—7	アンデス調査に参加して	寺田 和夫	読売夕刊	6. 16
住宅論	篠原 一男	〃 〃	帝国ホテル取りこわしを嘆く<視点>	遠藤 楽	読 売	11. 23
現代の理想住宅	西山 卯三	〃 〃	作 家 (日本)			
ライトの建築の現代における意味(2)	樋口 清	〃 〃	薔 嘔<現代絵画の12人>	高階 秀爾	中央公論	7
特集・EXPO'67		〃 42—8	薔 嘔のこと	飯島 耕一	三 彩	210
子供の施設—その環境形成への指針	稲塚 二郎	〃 42—9	絵画を拒否する<この人の意見>	薔 嘔	朝日ジャーナル	1. 22
帝国ホテル旧館第3次保存運動	沖 種郎	〃 〃	杜絶した画家薔光の足跡	朝日 晃	〃	223
開発と保存	黒川 紀章	〃 42—10	レアリスムに喰い殺された男—薔光と昭和10年代の画家たち	麻生 三郎	芸術新潮	216
建築とデザインポリシイ	佐々木 宏	〃 〃	関根正二・薔光展<鑑賞席>	〃	朝日ジャーナル	12. 17
トポロジカルな空間—山形ハイドリウムランドをみて	川添 登	〃 42—11	青木繁<日本近代美術史ノート・3>	高階 秀爾	季刊芸術	13
人間解放のために	吉阪 隆正	〃 42—12	青木繁「わだつみのいろこの宮・下絵」<絵で見る明治百年・8>	河北 倫明	芸術生活	215
特集・帝国ホテル		〃 〃	青木繁と蒲原有明<二人の出会い>	岡田 隆彦	三 彩	211
帝国ホテルを考える	天野 太郎 稲垣 栄三 遠藤 楽 斎藤 寅郎 清水 義也 田上 二郎 星島		わが友・青木繁<絵を描くところ・3>	坂本繁二郎	毎 日	7. 28
新帝国ホテルと建築家の使命	F・L・ライト 遠藤 新訳		雑感<私の個展>	青木 純子	日本美術	44
アッサンブラージュの建築	井上 耕一	デザイン批評	青木大乗の近作	北川 桃雄	ア ー ト	15—2
方法についての考察	原 広司	〃 〃	青木大乗の芸術	山田 竜平	〃	15—3
対談・デザイン、建築、都市	丹下 健三 川添 登	〃 〃	亜欧堂田善	小野 忠重	三 彩	210
			明石信道<ふろふいる>		東 京	12. 2
			古備前種壺 <茶の間>	赤地 友哉	毎日夕刊	9. 13
			龜月明一影をえがく水墨画家		三 彩	214

定期刊行物所載文献

秋野不矩<人とモチーフ>		京 都	4.22	猪原大華<人とモチーフ>		京 都	8.5
曼殊院の石造大黒天像<美のこころ>	秋野 不矩	京都夕刊	7.5	山・神の国	石井 鶴三	読 売	8.13
浅井忠「旅順戦後の搜索」<絵で見る明治百年・3>	河北 倫明	芸術生活	210	小山正太郎<折り折りの人・1>	〃	朝日夕刊	12.14
姉・摂と一族交歓	朝倉 響子	東京夕刊	1.17	佐藤朝山<〃2>	〃	〃	12.15
素朴な一室空間—福沢邸<ワンポイント住宅訪問・1>	朝倉 響子 清家 清	芸術生活	210	横山大観<〃3>	〃	〃	12.18
岬について	麻田 鷹司	三 彩	218	上司小剣<〃4>	〃	〃	12.19
列車の乗りかた<茶の間>	畦地梅太郎	毎日夕刊	8.31	宗不早 <〃5>	〃	〃	12.20
自問自答の姿	新井 豊	日本美術	47	中原悌二郎<〃6>	〃	〃	12.21
画窓雑念	荒木 賢治	〃	44	戸張孤雁<〃7>	〃	〃	12.22
制作日誌	荒谷直之介	〃	45	高村光太郎<〃8>	〃	〃	12.23
台湾の旅	有馬 生馬	中央公論	2	石井柏亭<〃9>	〃	〃	12.25
紙道家元栗津実さん<好人好日>		京 都	3.3	岩本素百<〃10>	〃	〃	12.26
東京百年	安西 啓明	日本美術	44	石川義氏<人とモチーフ>		京 都	7.8
像・安東勝男		S D	36	雨の戦場ヶ原	石崎 昭三	日本美術	44
飯田善国と西ベルリンの記念碑	小川 正隆	三 彩	220	石橋和訓「美人読詩図」<美の美>	隈元謙次郎	日 経	3.1
飯田善国氏制作の「見張る者」		朝日夕刊	9.7	石本正<人とモチーフ>		京 都	5.20
竹芸雑記(一、二)	飯塚小珣齋	日本美術	44, 47	洛北冬の一	伊谷 賢蔵	京 都	2.6
池下昌徳論	遠藤 太郎	三 彩	218	節分	井手 宣通	日 経	1.29
池田満寿夫<アトリエ訪問>	白石かずこ	美術手帖	280	カスミ網<茶の間>	〃	毎 日	2.11
像・池田満寿夫		S D	28	伊藤嘉朗君の生涯をたたえて	吉田 謙吉	京 都	4.3
池田満寿夫の感覚<文化往来>	(U)	日 経	1.20	如是我間に寄せて	伊藤三喜庵	萌 春	154
池田満寿夫<ある生活>		毎 日	2.19	伊東深水さん<朝・昼・晩>	安井 収蔵	毎日夕刊	1.24
版画家・池田満寿夫<文化ジャーナル>		朝日ジャーナル	2.5	清親のことなど	伊東 深水	萌 春	156
ついでに男—池田満寿夫<文化往来>	(D)	日 経	3.21	K先生の思い出	伊藤 応久	日本美術	44
池田満寿夫<好日好題>		日本美術	44	ルノアールの魅力	伊藤 清永	美術グラフ	16—8
故郷に錦を飾れなかったの記	池田満寿夫	中央公論	3	伊藤隆道氏—異色新鋭はばたく	勝見 勝	毎 日	12.7
私の現代美術論(上)(下)	〃	朝日夕刊	1.13	EXPO '67 の造形と空間	伊藤 隆道	みづゑ	754
私のベルリン手帖(1)~(5)	〃	〃	1.14	たばこ<茶の間>	伊原宇三郎	毎日夕刊	7.3
池田幹雄論	細野 正信	萌 春	151	井上武吉 <作家登場>	桑原 住雄	みづゑ	750
池田道夫<人とモチーフ>	(杉)	京 都	1.21	醍醐寺五重塔の水煙<美のこころ>	今井 憲一	京都夕刊	4.11
池田遙邨	田中日佐夫	三 彩	212	コレクションから見たヨーロッパ近代美術館	今井 俊満	芸術新潮	214
幼い頃の絵のおもいで	池田 遙邨	〃	〃	ギリシア神話<私の個展>	今井 久司	日本美術	45
池田遙邨個展	松村 廣	ア ー ト	15—1	声	岩崎 鐸	みづゑ	751
月のおもいであれこれ	池田 遙邨	三 彩	220	要塞地帯・秋田美術館	〃	芸術新潮	214
吾が道を行く<私の個展>	池田 淑人	日本美術	44	反抗としての現実—日本表現派十周年展に際して	岩崎 巴人	日本美術	45
				愚痴一言	岩船 修三	日本美術	45
				私の履歴書(1)~(2)	岩田専太郎	日 経	8.1~22
				宇佐美圭司<現代絵画の12人>	東野 芳明	中央公論	2
				宇治山哲平の世界	江川 和彦	三 彩	219

祇園のお茶屋の構え ＜美のこころ＞	宇田 荻邨	京都夕刊	11.18	狸々だるま ＜茶の間＞	大須賀 喬	毎 日	8.29
白梅＜茶の間＞	上田 臥牛	毎 日	2.16	真物、贋物	大塚 達夫	日本美術	47
鮎倉島にて	〃	日本美術	44	ほめられたけど	大野 忠男	芸術新潮	212
上村松園＜女性明治百年＞	草柳 大蔵	東 京	12.17	大橋正＜時の人＞	読 売	12.7	
上村松篁＜芸術院賞受賞のよろこび＞		京 都	4.7	私の歌無伎絵	大森 啓助	日本美術	45
しずこころなく	上村 松篁	中央公論	6	大森運夫 ＜好日好題＞	〃	47	
上原卓＜人とモチーフ＞		京 都	7.29	岡鹿之助さん＜朝・昼・晩＞	安井 収蔵	毎日夕刊	11.3
牛島憲之 ＜作家登場＞	桑原 住雄	みづゑ	752	岡田謙三	土方 定一	毎 日	1.1
辺境を歩く	内田 如風	日本美術	47	もうれつに生きる	岡本 太郎	東京夕刊	6.22
初東風	内山 考	〃	44	万国博への抱負と構想	〃	朝日夕刊	8.5
若き日の麦唄	内山 武夫	萌 春	161	「べらぼうさ」の美学	〃	京 都	8.8
声	海上 雅臣	みづゑ	755	人類の将来に不安感	〃	朝 日	10.4
梅原龍三郎氏＜朝・昼・晩＞	安井 収蔵	毎 日	1.1	対談・冒険の精神を	岡本 太郎 桑原 武夫	朝日ジャーナル	10.22
梅原龍三郎「桜島」＜美の美＞	本間 正義	日 経	1.31	中南米の旅から(上)(下)	岡本 太郎	朝日夕刊	11.13
絵を贈る喜び	梅原龍三郎	朝日夕刊	3.30	コイノボリとの対話—岡田久春の周辺—	前田 暁	日本美術	45
磨崖仏	浦田 正夫	日 経	6.18	奥村厚一＜人とモチーフ＞		京 都	4.8
海老原喜之助の陶刻	桑原 住雄	三 彩	218	荻原守衛・人と作品(1)～(9)	林 文雄	美術グラフィック	16—1～11
ルーヴルをみる	海老原喜之助	芸術新潮	215	夢二と恩地孝四郎	小野 忠重	本の手帖	62
画室での闘い	榎戸 庄衛	三 彩	218	乾隆ガラス ＜茶の間＞	各務 敏三	毎 日	3.13
パリ点景	〃	日 経	2.5	ガンの方療＜〃＞	笠置 季男	〃	2.3
阿美の踊り子	遠藤 桑珠	〃	7.23	お洒落とエスプリ	風間 完	中央公論	(8)
貝コレクターとの旅	小川 哲郎	日本美術	44	36階のビルの上から	〃	読 売	6.15
小川千麿の画境	北川 桃雄	三 彩	217	浅草から	風間 完	〃	6.22
放縦無頼の芸術	吉村 貞司	〃	〃	神田の書店街で	〃	読売夕刊	6.29
千麿さんの書	岡部 蒼風	〃	〃	梶喜一＜人とモチーフ＞		京 都	4.1
小川先生のこと	中村 桃生	〃	〃	太夫さんの髪飾り＜美のこころ＞	梶原耕佐子	〃	10.7
自分のことを少々	小川 千麿	〃	〃	香月泰男のシベリア・シリーズ	佐々木静一	三 彩	215
小野具定 ＜好日好題＞		日本美術	48	香月泰男のシベリヤ＜文化ジャーナル＞		朝日ジャーナル	5.7
ルーヴルをみる	オノサト・トシノブ	芸術新潮	215	香月泰男の戦争画—二つの戦争画展—	長谷川四郎	芸術新潮	214
大原野・民家の煙出しと鬼瓦＜美のこころ＞	小野 竹喬	京都夕刊	5.19	ピカソ碗の茶会	香月 泰男	〃	215
対談・この人この道	小野 竹喬 今泉 篤男	日本美術	45	山口薫と香月泰男—相反する二つの個展—	三宅正太郎	ア ー ト	15—3
織田広喜 ＜好日好題＞		〃	47	吉田さんと銅印と鐘	香取 正彦	日本美術	48
独自の楽しみ＜私の個展＞	尾越勝之助	〃	45	北斎に富士がなかったら	山口 源	芸術新潮	210
尾崎愛明の作品	赤塚 行雄	現代美術	10	川原慶賀と北斎	河北 倫明	朝日夕刊	9.23
写楽・光琳・宗達など＜絵を描くこころ・4＞	坂本繁二郎	毎 日	7.26	達人＜茶の間＞	堅山 南風	毎日夕刊	11.22
足摺岬	大内田茂士	日 経	8.6	日光鳴龍を画いて	〃	ア ー ト	15—2
ソウルの郷愁(上)(下)	大久保 泰	東京夕刊	4.24, 25	勝見勝＜ときの人＞	堀 利貞	毎 日	8.7
大島哲以	白石かずこ	三 彩	210	佐藤隆道氏—異色の新鋭	勝見 勝	〃	12.7

定期刊行物所載文献

アフリカ探検旅行で自信<元気です>	桂 ユキ子	読 売	1.29	河合健二<人とモチーフ>		京 都	6.3
鳥獣戯画<石筆>	〃	東 京	2.16	玉堂と栖鳳	鈴木 進	萌 春	159
むすこく < 〃 >	〃	〃	2.23	私の人生劇場(1)~(3)	川上 澄生	東 京	8・29~31
洋画志願< 〃 >	〃	〃	3.23	川上冬崖	小野 忠重	三 彩	214
にせものづくり< 〃 >	〃	〃	4.6	ローマのスリ師	川口 雄男	日本美術	44
「石筆」の画家・桂ユキ子さん<筆者をたずねて>		〃	5.4	踊り	川島理一郎	日 経	2.12
八月の花ヒマワリ	桂 ユキ子	京都夕刊	8.7	早春の桃山	川島 浩	京 都	3.20
ぶどう	〃	日 経	9.10	川原慶賀と北斎	河北 倫明	朝日夕刊	9.23
若もの・私のイメージ・実力で着実に	〃	朝日ジャーナル	9.17	川端龍子<日記帳>	三浦一郎選	東京夕刊	6.30
対談・女ひとりの海外旅行	桂 ユキ子 森繁 杏子	国際写真情報	200	龍子と青児<文化往来>	(D)	日 経	1.13
加藤栄三さんの作風	河北 倫明	三 彩	222	声	瓦林 睦生	みづゑ	752
加藤さんのこと	竹田道太郎	〃	〃	青木繁と蒲原有明<二人の出会い>	岡田 隆彦	三 彩	211
加藤栄三の考えていること	中村 溪男	〃	〃	贋作・モナリザの微笑	神原 泰	文芸春秋	5
加藤栄三訪問	藤本 韶三	〃	〃	仮設空間との戦い—菊竹清訓論	宮内 康	デザイン批評	3
対談・東は東、西は西	加藤 栄三 佐々木静一	〃	〃	いまだに夢に見る失策<予選と私・甲子園大会>	菊地 一雄	朝 日	7.11
加藤栄三年譜		〃	〃	「仮面」について	菊地養之助	日本美術	44
やきものに親しもう<私の助言>	加藤 舜陶	朝 日	10.1	劉生と実篤<二人の出会い>	岡田 隆彦	三 彩	218
雑草の美しさ<茶の間>	加藤 東一	毎日夕刊	6.20	岸田克二 <ときの人>	堀 利貞	毎 日	10.8
焰—この計算できぬもの	加藤唐九郎	芸術生活	213	私の個展について	岸本 清子	現代美術	10
火を噴く唐九郎火山		毎 日	12.4	実力文化使節<茶の間>	北岡 文雄	毎日夕刊	6.13
加納夏雄資料3—越後長谷川家と加納夏雄	長谷川 栄	ミュージアム	12.4	間抜けな贋作事件	北川 民次	芸術新潮	214
像・加納光於		S D	31	北出典三郎の模様芸術	平沢 正夫	芸術生活	215
明治絵画の巨峰—狩野芳崖<ひととこま伝記>	原田 伴彦	朝 日		私の好きな絵画作品	北村ひとし	日本美術	45
カナヤマのこと	野見山曉治	みづゑ	755	北山泰斗の作品	赤塚 行雄	現代美術	10
美的感覚と絵画の技能	金子 寛	日本美術	47	吉川霊華の「藐姑射處子」	中村 溪男	三 彩	211
89才で自伝を完成—鍋木清方画伯		朝 日	9.15	吉川霊華—追憶断片	鍋木 清方	〃	〃
鍋木清方著「続こしかたの記」	河北 倫明	東京夕刊	10.25	霊華遺文—伝統の意義縦横論		〃	〃
鍋木清方<絵で見る明治百年・3>	〃	芸術生活	212	木村茂<作家登場>	桑原 住雄	みづゑ	754
吉川霊華—追憶断片	鍋木 清方	三 彩	211	今は昔の前衛騒動	木下秀一郎	芸術新潮	209
下保昭<人とモチーフ>		京 都	2.11	木曾の禅師 <交遊抄>	木下 義謙	日 経	8.17
犬養養子<茶の間>	亀倉 雄策	毎 日	1.14	木村莊八「パンの会」<絵で見る明治百年・11>	河北 倫明	芸術生活	218
無理<石筆>	〃	東 京	1.20	木村直道のユーモラスな彫刻—ジャンク・アニマル誕生	関谷 正昭	美術手帖	291
文化財保護< 〃 >	〃	〃	1.27	マンガ家の美術批評(1)~(12)	草森 紳一	〃	278~291
三人の女性< 〃 >	〃	〃	2.3	ろくろ三昧<名人に聞く>	楠部 弥式	日本美術	45
亀倉雄策<顔のこころ>	新見 博	〃	7.8	国吉康雄「牛と小さなジョー」<美の美>	嘉門 安雄	日 経	10.12
横山操と加山又造の競作	生野 幸吉	芸術新潮	205	熊谷九寿とその作品	田近 憲三	三 彩	213
				良寛さんと芭蕉さん	熊谷登久平	日本美術	45

長谷川利行<天才の画家>	熊谷登久平	日本美術	47	小山正太郎<折り折りの人・1>	石井 鶴三	朝日夕刊	12. 14
熊谷守一<作家登場>	桑原 住雄	みづゑ	747	個展寸感<私の個展>	小柳 勇児	日本美術	48
熊谷守一<折り折りの人・3>	鍋井 克之	朝 日	2. 16	中国農村にて	畔柳 赫	〃	44
道産子の体臭を画布に	熊谷 善正	日本美術	44	雲隠れしたニューヨーク・ビエンナーレ展	近藤 竜男	芸術新潮	211
大石神社の手水鉢<美のこころ>	熊倉 順吉	京都夕刊	6. 20	ハワイの日本芸術見本市	〃	〃	215
東欧共産国の記念碑をみる	倉田 三郎	美術手帖	279	鳥海山	今野 忠一	日 経	9. 17
庫田毅<好日好題>		日本美術	48	郷倉千鶴訪問	藤本 韶三	三 彩	215
栗原信<折り折りの人・9>	鍋井 克之	朝 日	2. 23	金明竹<茶の間>	郷倉 千鶴	毎日夕刊	9. 16
黒川紀章氏の二作品		朝日夕刊	8. 22	合田佐和子個展		三 彩	214
黒田清輝<日記帳>	三浦一郎選	東京夕刊	8. 11	五姓田義松「清水の富士」<美の美>	隈元謙次郎	日 経	3. 30
黒田清輝<絵で見る明治百年・4>	河北 倫明	芸術生活	211	五姓田芳柳	小野 忠重	三 彩	212
黒田清輝	高階 秀爾	季刊芸術	2	余閑雑録	後藤又兵衛	日本美術	45
黒光茂樹<人とモチーフ>		京 都	6. 17	お布施<茶の間>	斎藤 清	毎日夕刊	12. 4
豊国神社の石垣<美のこころ>	桑田 道夫	〃	10. 30	斎藤清<作家登場>	桑原 住雄	みづゑ	755
二十代の思い出	桑原 実	日本美術	44	円山・左阿弥の布袋人形<美のこころ>	斎藤 真成	京都夕刊	7. 26
桑山タグスキーの場合		芸術新潮	205	斎藤義重<アトリエ訪問>	大辻 清司	美術手帖	278
縄文式土器はどこにもある	剣持 勇	〃	207	斎藤義重の証言「絵画はダ・ヴィンチで終わった」		芸術新潮	213
玄々堂、松本保居	小野 忠重	三 彩	211	星に憑かれて	酒井 邦夫	日本美術	45
河野鷹思<ぶろふいる>		東 京	11. 19	柿右衛門	萌 春	デザイン批評	3
サービス<茶の間>	河野 鷹思	毎 日	2. 9	頭の話	坂本 正治		
ミツバチ< 〃 >	古賀 忠雄	毎日夕刊	6. 28	対話閑話・自然を見つめる<絵を描くこころ・1>	坂本繁二郎	毎 日	7. 26
チョウに魅せられた彫刻家—芸術院会員古賀忠雄さんの余技	加藤 喜教	読 売	6. 4	熱気こもる明治画壇< 〃 ・ 2 >	〃	〃	7. 27
不動尊を描き続けて	児玉 希望	〃	10. 15	わが友・青木繁< 〃 ・ 3 >	〃	〃	7. 28
児玉画伯の「不動尊」を読んで	中道 等	〃	11. 19	写楽・光琳・宗達など< 〃 ・ 4 >	〃	〃	7. 29
小島信明<現代絵画の12人>	東野 芳明	中央公論	9	永遠なものへ< 〃 ・ 5 >	〃	〃	7. 30
小島信明論	石子 順造	現代美術	10	青年会議所の坂本画伯	加藤 暢	芸術新潮	212
小出檐重と宇野浩二<二人の出会い>	岡田 隆彦	三 彩	213	坂本繁二郎氏の痛烈な現代絵画批判		毎 日	5. 20
意識と無意識の美<茶の間>	小杉 二郎	毎日夕刊	12. 15	櫛簀邨	小野 忠重	三 彩	214
風懷	小林巢居人	日 経	3. 5	櫛原始更<人とモチーフ>		京 都	3. 18
清親のことなど	伊東 深水	萌 春	156	見下した弓ヶ浜	笹鹿 彪	日本美術	45
小林古径「清姫」<美の美>	吉田 耕三	日 経	10. 19	殉教者—佐伯祐三	朝日 晃	三 彩	210
小林和作訪問	藤本 韶三	三 彩	223	佐伯祐三・米子<折り折りの人・5>	鍋井 克之	朝 日	2. 18
小林和作教祖と信徒たち	村田 弘之	芸術新潮	210	手製のキャンバス—佐伯祐三のこと	鈴木 誠	みづゑ	744
鉄斎と父<茶の間>	小山 敬三	毎 日	4. 19	佐伯祐三<悲喜こもごも・1>	曾宮 一念	東京夕刊	3. 27
鉄斎と仁氏家範と小山家	〃	日本美術	45	佐々木邦彦<人とモチーフ>		京 都	8. 26
高原の朝露<夏三題>	〃	京 都	7. 27				

定期刊行物所載文献

ある日ある時	佐々木邦彦	日本美術	45	旅は気儘に	下川都一郎	日本美術	44
沖縄先島紀行	佐田 勝	三 彩	217	東北を歩いて	荘司 福	〃	〃
与那国島紀行	〃	中央公論	7	白井晟一現代デザインについて語る一人	原 広司	デザイン批評	3
佐藤朝山<折り折りの人・2>	石井 鶴三	朝日夕刊	12. 14	間・物質・建築	〃	〃	〃
佐藤敬氏 <作家訪問>	小倉 忠夫	現代の眼	150	オリエントの旅で思ったあれこれ	白川 一郎	萌 春	152
宇環	佐藤 太清	日 経	4. 30	冒険の記録(1)~(6)	白髪 一雄	美術手帖	285~291
佐藤太清	永井 信一	萌 春	151	新宮晋の「風の造型」	中原 佑介	S D	35
虚心<茶の間>	佐藤 太清	毎日夕刊	8. 16	新道繁	多田 信一	三 彩	211
佐藤大寛の芸術	高橋誠一郎	アート	15-2	真道黎明<人とモチーフ>	〃	京 都	9. 16
佐藤大寛の人と芸術 —10年ぶりの個展を見て	三宅正太郎	〃	〃	菅井汲<現代絵画の12人>	中原 佑介	中央公論	4
誰も知らなかった大寛画伯	平木 杏介	芸術新潮	211	強い意志が美しさを創る	菅井 汲	世 界	4
佐藤晴行<人とモチーフ>	〃	京 都	6. 24	鈴木信太郎<折り折りの人・7>	鍋井 克之	朝 日	2. 21
佐分真と30年後の遺作展	小倉 忠夫	美術手帖	278	鈴木信太郎さん<朝・昼・晩>	安井 収蔵	毎日夕刊	10・24
沢宏観<人とモチーフ>	〃	京 都	2. 4	伊豆下田付近	鈴木信太郎	日 経	10. 8
沢野文臣<人とモチーフ>	〃	〃	5. 6	メキシコ旅行とトトナカ文化の拓本	杉山 丈夫	日本美術	44
原点の碑 <私の個展>	鹿江 恭夫	日本美術	44	素朴な一室空間—福沢邸<ワンポイント住宅訪問・1>	朝倉 郷子 清家 清	芸術生活	210
書の舞台を海外に—篠田桃紅さん	〃	毎日夕刊	11. 15	関根正二「信仰の悲しみ」<絵で見る明治百年・12>	河北 倫明	〃	219
篠田守男<作家の主張>	みづ 点	754	関根正二・鑑賞展<鑑賞席>	麻生 三郎	朝日ジャーナル	12. 17	〃
篠原有司男<アトリエ訪問>	森 秀人	美術手帖	282	佐伯祐三<悲喜こもこも・1>	曾宮 一念	東京夕刊	3. 27
特集・流行—いかに売りだすか	篠原有司男	デザイン批評	4	小泉清<〃2>	〃	〃	3. 28
十字路からの発想	篠原有司男	芸術生活	220	浜田耕作<〃3>	〃	〃	3. 31
篠原佳尾の作品	大岡 信	現代美術	10	津田左右吉<〃5>	〃	〃	〃
篠原佳尾銅版画展<美術時評>	飯島 耕一	三 彩	214	中原悌二郎<〃8>	〃	〃	4. 20
農家の庭	芝田 米三	京 都	2. 9	たのしい人々(上)<〃9>	〃	〃	4. 22
妙心寺・大鵬軒の飛び石<美のこころ>	〃	京都夕刊	10. 12	たのしい人々(下)<〃10>	〃	〃	4. 24
島田章三<ふろふいる>	〃	東 京	12. 17	枯草と冬の庭(互井開一の作品)	坂崎 乙郎	美術グラフ	16-5
島田章三<時の人>	〃	読 売	〃	きびしい米画壇に生きる	高井 貞二	日 経	8. 22
春四月	島村三七雄	日 経	4. 16	高井貞二 <ときの人>	沢開 進	毎 日	9. 12
皮革工芸家・清水喜美の世界	大島 隆一	芸術生活	213	13年ぶりの日本	高井 貞二	東京夕刊	〃
清水崑<日本人物山脈・9>	近藤日出造	国際写真情報	200	声	〃	みづ 点	752
空也上人 <人物曼陀羅>	清水 崑	京都夕刊	9. 18	高井貞二 <作家登場>	桑原 佳雄	〃	753
モニターマン<茶の間>	清水多嘉示	毎日夕刊	7. 31	13年ぶりに帰国した高井貞二に訊く	日野耕之祐 山崎 一芳	日本美術	45
清水多嘉示制作「東郷平八郎元帥銅像」の除幕式	〃	国際写真情報	198	独語雑話	高沢 七郎	〃	47
神の造形	〃	京 都	8. 13	高田博厚さん<朝・昼・晩>	高瀬 善夫	毎日夕刊	1. 8
下岡蓮枝	小野 忠重	三 彩	212	インドと救ライ・センター(上),(下)	高田 博厚	毎 日	2. 28
				東洋と西洋のちがいを	〃	京都夕刊	4. 6

生と死<茶の間>	高田 博厚	毎 日	4.24	夢二の思い出	淡谷のり子	本の手帖	62
演劇私観	〃	芸術生活	214	「草一」栄次郎君のこと	守屋 東	〃	69
四代目高橋松山の周辺	松永 伍一	〃	214	夢二と私	翁 久允	〃	〃
迷案<茶の間>	高橋 節郎	毎日々刊	12.23	断片数片	宇留河泰呂	〃	〃
旅のスケッチから (上), (下)	高橋 忠弥	東京夕刊	4.17 4.18	夢二をめぐる娘たち	福田 蘭童	〃	〃
パリの日本人画家たち	〃	美術手帖	282	夢二と私	神近 市子	〃	〃
高橋由一	高階 秀爾	季刊芸術	1	机辺断章	竹久 夢二	〃	〃
南仏画信 (上), (中) (下)	高畠達四郎	朝 日	2.6~8	竹久夢二追想	加藤 一雄	日本美術 工芸	350
ヨーロッパかけある記	〃	読売夕刊	11.11	夢二の絵	河村幸次郎	〃	〃
私と作品	高間 惣七	三 彩	220	古代のにしきを復元 する竜村平蔵さん	加藤 喜教	読 売	4.2
趣味にこる	〃	日 経	1.6	建畠覚造 <作家登場>	桑原 住雄	みづゑ	748
世界拡大計画—不在 性についての試論 (概説)	高松 次郎	デザイン 批評	3	建畠覚造<人>	朝 日	3.9	
高村光太郎<折り折 りの人・6>	小林 勇	朝 日	3.18	彫刻の役割	建畠 覚造	〃	6.3
高村光太郎<〃・8>	石井 鶴三	朝日夕刊	12.23	ながれ<日曜画廊>	建畠 大夢	産 経	1.21
高山辰雄のデモン	山本 太郎	芸術新潮	211	パリのモデルたち	館 慶一	芸術新潮	214
高山辰雄の作品にふ れて	小川 正隆	三 彩	215	田中阿喜良<作家登 場>	桑原 住雄	みづゑ	751
高山辰雄 <作家登 場>	桑原 住雄	みづゑ	749	われ君子たらん—故 田中佐一郎先生を憶 う	空野八百蔵	日本美術	48
都市の間取り<茶の 間>	高山 英華	毎日々刊	9.12	田中岑 <私の自画 像>	岡部千葉男	〃	47
けんらんたる寂しさ <旅情>	多賀谷伊徳	朝日ジャ ーナル	10.22	イスラエルのことど も	田中 忠雄	東京夕刊	6.12
この道31年の画家武 井武雄さん<家庭>	〃	朝 日	1.4	長谷川路可さんの偉 大さ	〃	〃	7.6
竹内栖鳳「斑猫」 <美の美>	青木 勝三	日 経	10.21	海と船の画家生活	田辺 穰	日 経	8.2
玉堂と栖鳳	鈴木 進	萌 春	159	田淵安一<現代絵画 の12人>	中原 佑介	中央公論	8
二条城の米倉の鍵 <美のこころ>	竹中 三郎	京都夕刊	9.29	声	田淵 安一	みづゑ	755
竹久夢二展	瀬戸内晴美	京 都	4.4	八丈島に玉置びんさ んを訪ねて	菅原 康	芸術生活	213
夢二とわたし	堀内 清	京都夕刊	4.5	旅の画帳から(1)~(4) 故郷のことなど<私の 個展>	田村孝之介	読 売	10.5
夢二とわたし	田中 緑紅	〃	4.6	像・丹下健三	田屋 幸男	日本美術	45
夢二とわたし	河村 北星	〃	4.10	西洋館の旅	近岡善次郎	S D	29
夢二とわたし	寺尾 愛子	〃	4.12	消えゆく都電	〃	毎日々刊	10.13
夢二とわたし	稲田 秀爾	〃	4.13	塚原哲夫論	大島 清次	萌 春	153
夢二とわたし	平林 あい	京 都	4.14	「時」に感あり<茶 の間>	辻 光典	毎日々刊	6.23
竹久夢二「思い出ぐ さ」	〃	読売夕刊	6.22	辻光典<好日好題>	〃	日本美術	44
竹久夢二展	〃	三 彩	214	香氣	〃	〃	45
竹久夢二著作目録	長田幹雄編	本の手帖	62	辻協<ある生活>	〃	毎 日	7.16
竹久夢二略伝	〃	〃	〃	北野・西方寺の濡れ 縁<美のこころ>	津田 周平	京都夕刊	10.11
夢二の墓地と詩歌碑	塚本栄次郎	〃	〃	土田麦麿「髪」<絵で 見る明治百年・10>	河北 倫明	芸術生活	217
「夢二亜流」論	秋山 清	〃	〃	麦麿の「明粧」と大 観の「ある日の太平 洋」に寄せて	飯島 勇	萌 春	155
夢二と恩地孝四郎	小野 忠重	〃	〃	若き日の麦麿	内山 武夫	〃	161
宵待草の発生地	長田 幹雄	〃	〃				
夢二のこと	浅見 淵	〃	〃				
臨終の夢二	堀内 清	〃	〃				

定期刊行物所載文献

家康画像制作の苦心	筒井 清隆	日本美術	45	私の歩む絵画の道 ＜中川一政展より＞	中川 一政	国際写真 情報	195
裸婦・素描・挿絵	都竹 伸政	〃	〃	中川一政の絵＜〃＞	武者小路実 篤	〃	〃
平野画人・恒友＜水墨 画へのさそい＞	坪内節太郎	三 彩	217	スペイン国立舞踊団 を見て	中川 一政	朝日夕刊	6.13
勅使河原蒼風の彫刻	今泉 篤男	朝日夕刊	12.13	薪寺＜うちそと・ (上), (下)＞	〃	朝 日	7.9,23
ディズニー＜私の人 生劇場・4＞	手塚 治虫	東 京	11.3	書について＜講演会 から＞	〃	〃	12.21
虫プロ＜蒸し風呂 ＜〃・5＞＞	〃	〃	11.4	青い景色	中川 紀元	朝日夕刊	5.2
夢の翼＜〃・6＞	〃	〃	11.5	羽ばたき	中谷 泰 日 経	8.20	
出口扇雄讃抄	今 東光	ア ー ト	15—3	カサド夫人 ＜交遊 抄＞	仲田 好江	〃	8.1
出口扇雄近作	猿 仙	〃	〃	中西夏之個展＜美術 時評＞	飯島 耕一	三 彩	214
流行	寺島 紫明	日 経	1.8	能煩野	中庭 煥華	ア ー ト	15—2
鑑賞に耐える絵画 ＜私の個展＞	寺島 竜一	日本美術	44	中原悌二郎＜折り折 りの人・6＞	石井 鶴三	朝日夕刊	12.21
還暦＜茶の間＞	寺田 竹雄	毎 日	5.2	中村錦平陶芸展	神代雄一郎	三 彩	223
寺田政明＜私の自画 像＞	岡部千葉男	日本美術	48	中村研一さんを憶う	藤本 韶三	〃	220
東郷青児 ＜作家登 場＞	桑原 住雄	みづゑ	746	中村研一さん	小寺 健吉	〃	〃
東郷青児 ＜人と意 見＞	北村 由雄	〃	753	中村研一氏をいたむ	今泉 篤男	東京夕刊	8.29
東郷青児の芸術	嘉門 安雄	ア ー ト	15—1	和田三造、中村研一 の死＜文化往来＞	(L)	日 経	9.1
東郷青児の才知一画 業50年記念展を見て	三宅正太郎	〃	〃	中村研「エロシエン コ氏の像」＜絵で見 る明治百年・13＞	河北 倫明	芸術生活	220
東郷青児画業50年 によせて	宮本 三郎	毎日夕刊	1.4	画家中村研君の思い 出	井野 碩哉	日 経	10.13
龍子と青児＜文化往 来＞	(D)	日 経	1.13	中村研「大島風景」 ＜美の美＞	本間 正義	〃	10.14
ぼかん楼一哲学	藤松 博	芸術新潮	216	信濃路＜夏のスケッ チ＞	中村 直人	読売夕刊	8.2
堂本阿岐羅＜人とモ チーフ＞	〃	京 都	9.30	中村直人の芸術	河北 倫明	〃	9.13
徳岡神泉論	藤森 成吉	萌 春	157	青い論証	中村 秀雄	日本美術	44
徳岡神泉訪問	多田 信一	三 彩	210	魂は表現できるか— 「慰霊の泉」批判	中村 宏	デザイン 批評	4
金地院東照宮の欄間 の彫刻＜美のこころ＞	徳岡 神泉	京都夕刊	7.1	吹米・メキシコの旅	中村 善種	日本美術	44
戸張孤雁＜折り折 りの人・7＞	石井 鶴三	朝日夕刊	12.22	男のバーゲンモード —いかすカッパ	長沢 節	京都夕刊	10.26
孤雁と片山潜＜二人 の出会い＞	岡田 隆彦	三 彩	220	絵と随筆(9)～(17)	永田 春水	美術グラ フ	16—1～ 11
戸田浩堂の個展	〃	萌 春	156	菅橋彦＜折り折りの 人・1＞	鍋井 克之	朝 日	2.13
マヤの神秘	利根山光人	世 界	5	宇野浩二＜〃・2＞	〃	〃	2.14
鉄斎と父＜茶の間＞	小山 敬三	毎 日	4.19	熊谷守一＜〃・3＞	〃	〃	2.16
鉄斎と仁氏家範と小 山家	〃	日本美術	45	実川延若＜〃・4＞	〃	〃	2.17
鉄斎雑記	中田 豊	〃	〃	佐伯祐三・米子＜〃 ・5＞	〃	〃	2.18
鉄斎の偽物と戦う	小高根太郎	芸術新潮	210	水上勉＜〃・6＞	〃	〃	2.20
富田溪仙とクロード ル＜二人の出会い＞	岡田 隆彦	三 彩	214	鈴木信太郎＜〃・7＞	〃	〃	2.21
豊秋半次芸術断抄— 35年の歩み展によせ て	小森 盛	ア ー ト	15—2	三上於菟吉・長谷川 時雨＜〃・8＞	〃	〃	2.22
豊秋半次＜人とモチ ーフ＞	〃	京 都	2.18	栗原信＜〃・9＞	〃	〃	2.23
豊秋半次論	鈴木 進	萌 春	151	渋谷天外＜〃・10＞	〃	〃	2.24
豊秋半次の「山」	山田 竜平	〃	161				
中川一政の画業＜文 化ジャーナル＞	〃	朝日ジャ ーナル	3.5				

抽象の求道の人—難波田龍起	田近 憲三	三 彩	211
黄金の聖書展によせる—ヨハネ黙示録	難波田龍起	〃	217
石と陶板	〃	日 経	5.28
一艘のソリ<私の個展>	難波田史男	日本美術	45
鳩川誠一の人と芸術	柳 亮	三 彩	215
早春の散歩道	西内 利夫	京 都	3.23
虹の世界—西村進氏の作品と思想	徳田 俊三	カラーデザイン	13—12
落人の弁	西山舜之助	日本美術	44
地中海のイビザ島<夏のスケッチ>	西山 英雄	読売夕刊	4.26
野口謙蔵について	田近 憲三	三 彩	217
わか母を語る	野口弥太郎	読 売	1.3
新しい地下道<茶の間>	〃	毎 日	2.20
長崎の初夏	〃	日 経	6.4
野口瑠璃 <ある生活>	〃	毎 日	6.25
一日二食主義で<元気です>	野田 九浦	読 売	6.18
野田好子 <好日好題>	〃	日本美術	45
海の神秘	野間 仁根	東京夕刊	1.9
秘かなカリカチュール	野見山曉治	三 彩	213
カナヤマのこと	〃	みづゑ	755
アブダクション絵画<私の個展>	能登 房之	日本美術	48
橋本春光の作品	佐々木勇蔵	ア ー ト	15—3
橋本春光との対話	猿 仙	〃	〃
底辺<茶の間>	橋本 龍美	毎 日	3.9
ミコノス島のペリカン<夏のスケッチ>	橋本 明治	読売夕刊	8.7
長谷川潔<人>	〃	朝 日	8.5
長谷川利行<天才の画家>	熊谷登久平	日本美術	47
鐘は上野か浅草か—長谷川利行の追憶	矢野 文夫	〃	48
長谷川昇<名匠ききき>	〃	産経夕刊	1.7
長谷川昇	藤本 韶三	三 彩	212
長谷川春子さんのこと	宮田 重雄	東 京	5.8
チビタベキアの日本教会—長谷川路可とチビタベキア	東 珠樹	国際写真情報	200
長谷川路可さんの偉大さ	田中 忠雄	東京夕刊	7.6
長谷川路可さんのこと	森田 沙伊	三 彩	219
釜座の鉄水がめ<美のこころ>	秦 蔵六	京都夕刊	11.30
こどもの夢をそだてる初山滋さん	〃	京都夕刊	2.4
罪の画人—英一蝶	添田 達嶺	萌 春	152

浜口陽三さん<朝・昼・晩>	安井 収蔵	毎日夕刊	2.14
東京夜想片ペン	浜口 陽三	芸術新潮	208
浜口陽三 <作家登場>	桑原 住雄	みづゑ	745
杉坂にて	浜田 昇児	京 都	4.3
浜田台児の近作	河北 倫明	三 彩	214
戦争・軍隊・死	浜田 知明	朝 日	8.13
林武氏<朝日賞の人びと・2>	〃	〃	1.5
林武の仕事<文化ジャーナル>	〃	朝日ジャーナル	1.22
波と岩<夏のスケッチ>	林 武	読 売	7.29
林武<この人>	田中 穰	〃	10.12
林武さんの画業	河北 倫明	東京夕刊	10.28
林武氏	坂崎 坦	朝日夕刊	11.1
中心点をつかむ	林 武	三 彩	217
林武小論—朝日賞授賞に際して	矢野 文夫	ア ー ト	15—1
林武<作家登場>	桑原 住雄	みづゑ	744
温い想い出—文化勲章の日の林武夫妻	山本 太郎	日本美術	48
速水御舟<近代日本美術の文献紹介>	吉田 和子	現代の眼	148
速水御舟「炎舞」<美の美>	河北 倫明	日 経	8.24
原精一の風景画	田中日佐夫	三 彩	223
万国博アフリカ館<茶の間>	原 弘	毎日夕刊	7.28
芸・いろいろ	〃	〃	8.4
原撫松「画家ヘンリーの像」<美の美>	隈元謙次郎	日 経	1.27
馬場彬と吉仲太造論	日向あき子	現代美術	10
吉野絵手飯次<美のこころ>	番浦 省吾	京都夕刊	9.9
雪の道	稗田 一穂	日 経	1.22
「自然と人生」に感動<思い出の本>	東山 魁夷	朝 日	9.29
秋の大和路—奈良の家	〃	朝日夕刊	10.16
東山魁夷<この人>	田中 穰	読 売	11.30
滝について	東山 魁夷	三 彩	218
日本画を描く	〃	萌 春	157
紅型幻想	樋口富麻呂	京 都	11.11
山・エスプリ・風土	久富 金之	日本美術	44
菱田春草<絵で見る明治百年・7>	河北 倫明	芸術生活	214
皇太子との奇遇	平賀 亀祐	芸術新潮	208
ベギー・グッゲンハイムの娘の自殺	平賀 敬	〃	209
三宅島の記	平松 譲	日本美術	44
岩船寺	平山 郁夫	日 経	1.5
奈良・白毫寺村<秋を探る>	〃	読 売	9.14
根室・風蓮湖<〃>	〃	〃	9.21

定期刊行物所載文献

民族的個性と伝統	平山 郁夫	みづゑ	753	花とフジタ<文化往来>	(G)	日 経	7.8
楽之軒の画説	〃	芸術新潮	207	聖母堂にこもる藤田嗣治の祈り	熊田特派員	東京夕刊	11.11
大和スケッチ随想	〃	三 彩	218	フジタの祈り	江原 順	芸術新潮	206
平山郁夫<好日好題>		日本美術	45	レオナルド・藤田の異常な人気	安井 収蔵	〃	213
山道	広瀬 功	〃	44	フジタの礼拝堂	平野 誠	美術手帖	281
広田多津<人とモチーフ>	(杉)	京 都	1.14	ランスにフジタを訪ねる	鈴木 進	みづゑ	744
高砂族の少女	福王寺法林	日 経	5.21	セビリヤとスルバラ	藤田 吉香	美術手帖	278
福岡道雄<作家の主張>		みづゑ	754	マドリードとゴヤ	〃	〃	279
オーストラリア画信	福沢 一郎	読 売	7.6	来る春	細木 成実	京 都	3.21
裸族<夏のスケッチ>	〃	読売夕刊	7.31	恋しい水	〃	〃	5.23
ルーヴルをみる	〃	芸術新潮	215	堀内正和<作家の主張>		みづゑ	754
素朴な一室空間—福沢邸<ワンポイント住宅訪問・1>	朝倉 郷子 清家 清	芸術生活	210	ブールデル展をみて	本郷 新	〃	750
福島敬恭<作家の主張>		みづゑ	754	前田寛治と福本和夫<二人の出会い・7>	岡田 隆彦	三 彩	217
福田繁雄<ときの人>		毎 日	1.20	前田常作<現代絵画の12人>	大岡 信	中央公論	3
福田翠光<人とモチーフ>	(杉)	京 都	3.4	技巧の勝利—装飾的メタフィジック	前田 常作	芸術新潮	206
病める葦	福田豊四郎	三 彩	220	ルーヴルをみる	〃	〃	215
太公望画伯のアユ談義—福田平八郎氏<ズバリ対談>	山田 竜平	京都夕刊	6.10	イメージと幕本版画	〃	芸術生活	219
北野天満宮拝殿の蓑股<美のこころ>	福田平八郎	〃	6.17	法隆寺壁画模写と取組んで	前田 青郁	朝 日	11.26
藤岡一の作品	赤塚 行雄	現代美術	10	像・榎文彦		S D	32
藤川勇造「プロンド」<日曜画廊>		産 経	1.29	牧墨櫻	小野 忠重	三 彩	211
藤沢梅南	小野 忠重	三 彩	214	曲子光男<人とモチーフ>		京 都	8.12
藤島武二展から「蝶」<美の美>	隈元謙次郎	日 経	4.28	バりに生きる画家—増田誠の世界	大山 広光	芸術生活	214
藤島武二展から「ベルサイユの秋」<〃>	〃	〃	4.29	ドラク観賞	益田 義信	三 彩	212
藤島武二展から「チョチャラ」<〃>	嘉門 安雄	〃	5.2	松尾冬青<人とモチーフ>		京 都	4.29
藤島武二展から「室戸岬遠望」<〃>	〃	〃	5.5	金色堂の螺鈿	松田 権六	芸術新潮	210
藤島武二「黒潮」<〃>	隈元謙次郎	〃	7.25	松田尚之<時の人>		読 売	12.2
藤島武二「明治天皇東京帝大行幸図下絵」<〃>	〃	〃	8.16	松田尚之<この人>		京 都	12.3
藤島武二展の魅力<文化ジャーナル>		朝日ジャーナル	5.28	松村外次郎<元気です>		読 売	11.12
藤島武二先生のこと	西脇順三郎	みづゑ	749	松本百司の作品	石子 順造	現代美術	10
藤島武二「ボンベイ」<絵で見る明治百年・9>	河北 倫明	芸術生活	216	松本英一郎論	野村 太郎	〃	〃
藤島武二<近代日本美術家の文献紹介>	隈元謙次郎	現代の眼	152	像・真鍋博		S D	26
藤島武二展をみて	原田 実	美術グラフィ	16—7	人間未来像—万国博で考える	真鍋 博	デザイン批評	4
生誕百年記念藤島武二展	岩佐 新	三 彩	215	置きみやげ	丸木 俊	京 都	5.4
藤田慎治と宮地俊一郎	植村鷹千代	三 彩	223	5万円<はたちのこころ>	〃	朝 日	7.16
				丸木位里、丸木俊<時の人>		読 売	10.17
				丸木位里、俊夫妻の帰国談		〃	12.13
				三木富雄<アトリエ訪問>	藤枝 晃雄	美術手帖	285
				三木富雄<現代絵画の12人>	東野 芳明	中央公論	6

像・三木富雄		S	D	36	葦平さん<交遊抄>	向井 潤吉	日 経	8.12
明治生まれ	三岸 節子	中央公論		9	道楽	〃	三 彩	219
三岸節子<顔のこころ>	新貝 博	東京夕刊		7.4	向井潤吉の民家の美	(K)	ア ー ト	15—2
亡夫が生きた美術館	三岸 節子	日 経		8.16	棟方志功さん<朝・昼・晩>	高瀬 善夫	毎日夕刊	5.26
むこうみず<はたちのころ>	〃	朝 日		12.3	邑田五朗論	ヨシダヨシエ	現代美術	10
私の休日	三谷 吾一	日本美術		45	建築いまむかし<対談閑話・(1)~(8)>	村野 藤吾	毎 日	11.11~19
ヨーロッパ風景画展<私の個展>	三橋兄弟治	日本美術		44	いずこに…故村山槐多の「乞食と女」		京 都	8.20
対談閑話・萩の七化け<職人に徹したい〃1>	三輪 休雪	毎 日		5.5	抽象絵画論	米良 道博	日本美術	44
名器遍歴の旅<〃・2>	〃	〃		5.7	最上寿之<作家の主眼>		みづゑ	754
緑はゆる休雪白<〃・3>	〃	〃		5.9	望月春江<名匠ききかき>		産経夕刊	1.31
伝統と革新<〃・4>	〃	〃		5.10	テープで売る抽象画	森 省一郎	芸術新潮	207
マツの炎の味<〃・5>	〃	〃		5.11	春の朝	森 芳雄	日 経	3.12
三輪良平<人とモチーフ>		京 都		7.1	森芳雄<アトリエ訪問>	宮川 寅雄	美術手帖	279
人生のひき出し<私の人生劇場>	宮尾しげを	東 京		12.31	長谷川路可さんのこと	森田 沙伊 三	彩	219
雑誌抜萃	宮崎 精一	日本美術		45	平野画人・森田恒友<水墨画へのきそい>	坪内節太郎	〃	217
第十回安井賞を受けた宮崎進<時の人>		読 売		1.29	気まゝに暮らして<元気です>	森田 元子	読 売	8.6
田舎も骨董ブーム	宮沢 四郎	芸術新潮		215	具象作家の見たもの	〃	芸術生活	218
藤田慎治と宮地俊一郎	植村鷹千代	三 彩		223	森田元子の壁画	坂崎 乙郎	S D	35
長谷川春子さんのこと	宮田 重雄	東 京		5.8	城南宮拝殿の棟瓦<美のこころ>	森野 嘉光	京都夕刊	8.14
バリ美術散歩	宮原 明良	日本美術		44	八木一舛氏<好人好日>		京 都	6.30
東郷青児画業50年によせて	宮本 三郎	毎日夕刊		1.4	ガーデンプール<世相拝見>	八木 一夫	京都夕刊	8.12
私の読書法	宮本 三郎	朝 日		3.30	安井曾太郎「化粧する女」<週のはじめに>		朝 日	3.20
宮本三郎さん<朝・昼・晩>	加藤 貞雄	毎日夕刊		7.19	法隆寺壁画随談	安田 鞆彦	朝 日	3.12
フローレンス<わたしの海外旅行>	宮本 三郎	京都夕刊		8.4	安田雷洲	小野 忠重	三 彩	211
江ノ島海岸<夏のスケッチ>	〃	読売夕刊		8.5	山岸純<人とモチーフ>	(杉)	京 都	2.25
皇居前夜曲	〃	〃		12.25	生きている前衛・(1)~(12)	山口 勝弘	美術手帖	279~291
浅草寺羽子板市	〃	〃		12.26	山口勝弘 <人と意見>	北村 由雄	みづゑ	744
花と裸婦を描く	〃	三 彩		218	山口薫と香月泰男一相反する二つの個展	三宅正太郎	ア ー ト	15—3
宮本三郎<日本人物山脈・8>	徳永 栄一 竹田道太郎	国際写真情報		199	山口薫の人と作品	村井 正誠	三 彩	218
宮脇愛子<ふろふいる>		東 京		12.10	山口薫「紐」<美の美>	本間 正義	日 経	5.11
宮脇愛子<人>		朝 日		12.14	桃山障壁画の技法について	山口 蓬春	萌 春	154
絵画の躍進	美作 七朗	日本美術		47	山崎覚太郎<人と意見>	北村 由雄	みづゑ	752
アテネの居酒屋<冬のヨーロッパ・1>	御正 伸	読売夕刊		1.30	小さな自然 <夏三題>	山崎覚太郎	京 都	8.3
ローマのカメオ売り<〃・2>	〃	〃		2.3	排泄物<私の個展>	山下 宏	日本美術	48
泥の都<〃・3>	〃	〃		2.6	山城隆一<ふろふいる>		東 京	4.5
個展寸感	深山 鎮男	日本美術		47				

定期刊行物所載文献

都城(宮崎) <ふる さとのうた>	山田 新一	京都夕刊	11. 27
比良と琵琶湖	〃	ア ー ト	10—2
天の橋立	〃	京 都	3. 16
向日神社の本影の牛 <美のこころ>	〃	京都夕刊	5. 31
山本紅雲<人とモチ ーフ>		京 都	9. 1
山本知克< 〃 >		〃	5. 27
山本芳翠「臥裸婦」 <美の美>	隈元謙次郎	日 経	7. 4
船キチガイ	柳原 良平	文芸春秋	12
柳瀬正夢<折り折りの 人・3>	中野 重治	朝日夕刊	11. 22
横尾忠則の壁画	栗津 潔	S D	32
あるイラストレータ ーの伝記、または横 尾忠則讃歌	和田 誠	デザイン 批評	1
さいころ、ハブニン グ<たのしい造形>	横尾 忠則	美術手帖	278
横山大観「山路」<美 の美>	飯島 勇	日 経	7. 18
横山大観「桜に雉子 図」< 〃 >	谷 信一	〃	10. 10
横山大観「屈原」 < 〃 >	今泉 篤男	〃	10. 17
横山大観「山窓無月」 < 〃 >	山口 誓子	〃	10. 18
横山大観「御物、飛 泉」< 〃 >	飯島 勇	〃	10. 20
横山大観「宇治川絵 巻」<美の美>	今泉 篤男	〃	11. 10
横山大観「野の花」	中村 貞以	〃	
横山大観<折り折りの 人・3>	石井 鶴三	朝日夕刊	12. 18
横山大観「屈原」<絵 で見る明治百年・6>	河北 倫明	芸術生活	213
大観画伯の滯米余録 と独山和尚の故事由 縁	金嶺・内田 勇次	日本美術	47
横山大観(3)~(13)	横川毅一郎	萌 春	151~161
麦煙の「明粧」と大 観の「ある日の太平 洋」に寄せて	飯島 勇	〃	155
大観の思い出	浅野 長武	〃	157
横山大観筆「喜撰山」	栗田 勇	三 彩	212
特集・横山大観			
大観の歩み	飯島 勇	〃	219
生々流転雑感	中村 溪男	〃	〃
横山大観画業の盛衰	竹山 道雄	芸術新潮	212
横山松三郎の門流 —江戸の洋画家		三 彩	215
東京摩天楼	横山 操	読 売	11. 2
青梅の道	〃	〃	11. 3
宅地造成	〃	〃	11. 16
千葉の海	〃	〃	11. 23
横山操と加山又造の 競作	生野 幸吉	芸術新潮	205

十三回目の個展<私の 個展>	吉城 弘	日本美術	44
若老同権<茶の間>	吉田 謙吉	毎日夕刊	10. 21
頭上に御注意	吉田五十八	芸術生活	218
不当の批判を恐るる なかれ…ロダン<勇 気あることば>	〃	毎 日	1. 22
馬場彰と吉仲太造論	日向あき子	現代美術	10
吉野辰海の作品	石子 順造	〃	〃
吉原治良<アトリエ 訪問>	乾 由明	美術手帖	283
吉原治良 <ときの 人>	徳永 真一	毎 日	5. 22
帝国ホテル旧館<茶 の間>	吉村 順三	毎日夕刊	9. 21
楽焼十四代	楽吉左衛門	日 経	2. 8
ラゲザ「日本の大 工」<美の美>	隈元謙次郎	〃	6. 9
若林奮論	酒井 忠康	三 彩	217
初秋の山路	脇田 和	日 経	8. 27
和田三造氏の業績		毎日夕刊	8. 23
和田三造さんのこと	今泉 篤男	京 都	8. 24
和田三造画伯をいた む	河北 倫明	東京夕刊	〃
和田三造、中村研一 の死<文化往来>	(L)	日 経	9. 1
和田隆の宝石アクセ サリー	村越 襄	芸術生活	220
渡辺玉花さんの世界	寿岳 文章	ア ー ト	15—2
リスボンに邯鄲	綿引 宏介	芸術新潮	207
海外であった若手日 本人作家たち	久保貞次郎	みづゑ	751

作 家 (外国)

アルトドルファーと ドナウ派<ドイツ・ ルネッサンスの画家 たち・13>	土方 定一	みづゑ	748
アンディー・ウォー ホル論	石崎浩一郎	現代美術	10
ヴァザルリー	日向あき子	芸術生活	214
ヴィーンボームのス テンドグラス	高階 秀爾	S D	34
ヴェラスケスの仕事 場に私の派遣したス バイ	堀田 善衛	芸術生活	215
リュンアシ・ヴォジ ェールとガセット・ デュ・ボン・トン	益田 祐作	美術史研 究	5
ヴォルスの町	坂崎 乙郎	世 界	11
ヴォルス<画家のこ ころ・13>	栗津 則雄	みづゑ	748
二人の出合ひ(9) エブシュタインとT. E. ヒューム	岡田 隆彦	三 彩	219
<特集>ルイス・カ ーンの世界		国際建築	34—1
デ・キリコ<画家の こころ>	栗津 則雄	みづゑ	744

イヴ・クライン—あるいはI. K. B航海誌	東野 芳明	みづゑ	748
クルヴェルリ作《ある僧正の像》	佐々木英也	国立西洋美術館年報	1
世界画壇のトップ・レディ5 クリッサ	東野 芳明	美術手帖	286
職人時代のグリュネウァルト<ドイツ・ルネッサンスの画家たち・9>	土方 定一	みづゑ	744
グリュネウァルトの自画像<ドイツ・ルネッサンスの画家たち・10>	〃	〃	745
イーゼンハイムの祭壇画<ドイツ・ルネッサンスの画家たち・12>	〃	〃	747
クールベのレアリズム	大島 清次	三 彩	219
クレー<II><画家のこころ・19>	栗津 則雄	〃	755
クレーとリルケ	岡田 隆彦	〃	212
パウル・クレー<画家のこころ・18>	栗津 則雄	みづゑ	754
グレコの名画—スペイン美術館を観て—	佐藤観次郎	日本美術	47
近代美術の巨匠(7)		美術手帖	285
ゴーガン・その生涯のエピソード	高階 秀爾		
ゴーガン—その言葉—	岡谷 公二(編)	〃	〃
ゴーガン技法—量と空間を暗示する原色の平面—	小山田二郎	〃	〃
ゴーキーの世界	大岡 信	世 界 (3)	
近代美術の巨匠(9)		美術手帖	287
ゴッホ、その生涯のエピソード	高階 秀爾		
ゴッホの技法—確実な素描と波動と波動する光のなかの色	片岡 球子	〃	〃
ゴッホ—その言葉	栗津 則雄	〃	〃
ゴヤ論(3)~(12)	アンドレ・マルロー	芸術新潮	205~216
ザッキン氏と日本(文化往来)	K	日 経	1.5
ザッキンの死(コア)		毎日夕刊	11.30
オシップ・ザッキンのこと	山口 長男	三 彩	223
サムとアントニオ	檀 一雄	芸術新潮	205
世界画壇のトップ・レディ・1 ニキ・ドサンファール—HON(彼女)の誕生—	東野 芳明	美術手帖	281
やっと開かれたメキシコでのシケイロス回顧展	ダヴィット・クーン	みづゑ	754
大壁画にとりくむシケイロス	利根山光人	芸術生活	220

香港の女流画家一章 尚璞	内山 雨海	日本美術	48
ジャスパー・ジョーンズ	東野 芳明	世 界 (9)	
ジャスパー・ジョーンズの版画	〃	S D	33
ハンフリー・ボガードとジャスパー・ジョーンズ	飯島 耕一	三 彩	219
世界画壇のトップ・レディ・2 エレーヌ・スターツヴァント	東野 芳明	美術手帖	282
スワンベルグ	飯島 耕一	みづゑ	754
アントニオ・セギと暴力	江原 順	〃	750
近代美術の巨匠(3)			
ポール・セザンヌ—その生涯のエピソード—	高階 秀爾	美術手帖	279
ポール・セザンヌの技法—そのシステマティックな追求—	藤井令太郎	〃	〃
セザンヌ—その言葉	伊藤 康編	〃	〃
セザンヌの画室(茶の間)	内山 雨海	毎日夕刊	10.14
セザンヌとゾラー二人の出会い(6)一	岡田 隆彦	三 彩	125
タウトと軸	篠田 英雄	本の手帖	1・2
シンキチ・タジリ—アトリエ訪問—	愛甲 健児	美術手帖	286
タンギーとブルトン—2人の出会い(1)一	岡田 隆彦	三 彩	210
イヴ・タンギー	前田 常作	みづゑ	753
美しい夢を求める人<ディズニー>	手塚 治虫	文芸春秋	5
マルセル・デュシャン(1)	栗津 則雄	みづゑ	746
マルセル・デュシャン(2)	〃	〃	747
ラウル・デュフィ、フランスの画家	ドリヴァル 穴沢一夫訳	国立西洋美術館年報	291
近代美術の巨匠(12)			
デュフィ—その生涯のエピソード	高階 秀爾	美術手帖	291
デュフィ—その言葉—色と記号による自然の解析	千足 伸行	〃	〃
デュフィ—その技法—色面で奇蹟をつくる魔術師	角 浩	〃	〃
デューラーとグリュネウァルト<ドイツ・ルネッサンスの画家たち・11>	土方 定一	みづゑ	746
デューラー以後とマニエリスム<ドイツ・ルネッサンスの画家たち・16>	〃	〃	751
ボードレールとドラクロワ	富永 惣一	本の手帖	8

定期刊行物所載文献

ロベルト・ドローネ —(1)＜画家のこころ 14＞	栗津 則雄	みづゑ	749	バーゼルのハンス・ ホルバイン(子)＜ド イツ・ルネッサンス の画家たち・14＞	土方 定一	みづゑ	749
〃 (2)＜ 〃 15＞	〃	〃	750	ホルバインの「大使 達」について	千足 伸行	国立西洋 美術館年 報	2
世界画壇のトップレ ディ7・ニーヴェル ソン—女王の子宮	東野 芳明	美術手帖	289	晩年のボナール	福島金一郎	芸術生活	219
ベン・ニコルスン	中山 公男	世界	(8)	近代美術の巨匠(10)	高階 秀爾	美術手帖	289
エミール・ノルデ	坂崎 乙郎	みづゑ	748	ボナールその生涯 のエピソード	仲田 好江	〃	〃
ピアツリー	矢野 峰人	学 燈	64—5	ボナールの技法— 南仏の陽ざしをそ のままに映した色—	中山公男編	〃	〃
ピカソ「夢」＜美の美＞	植村鷹千代	日 経	8.10	ボナール—その言 葉—	藤松 博	みづゑ	749
ピカソの作られた偉 大さ	香月 泰男	みづゑ	745	ジャクソン・ポロ ック	S D	33	
最近のピカソ	瀬木 慎一	毎日夕刊	11.21	(像)ジオ・ボンティ ルネ・マグリット	洪沢 龍彦	みづゑ	752
王様はお人好しだ ＜ピカソ＞	〃	文芸春秋	(5)	マグリットの語るマ グリット	大島辰雄 訳	〃	755
近代美術の巨匠(8)				具象画のスキヤン ダル(対話IX)	アンドレ・ マソン 大槻鉄男訳	本の手帖	61
ピカソ青春時代の エピソード	高階 秀爾	美術手帖	286	アンリ・マチスのお もかげ(〃X)	〃	〃	63
ピカソ技法—生涯 の輪郭を決めた青 春時代の変貌—	渡辺 恂三	〃	〃	スペイン(〃XI)	〃	〃	64
ピカソ—その言葉 —芸術と人生につ いて	神原 泰編	〃	〃	アメリカ合衆国 (〃)	〃	〃	68
ピカソ彫刻展—文化 ジャーナル—		朝日ジャ ーナル	11.19	ジョルジュ・マチウ	中山 公男	世界	(12)
ピカソ大回顧展—ピ カソへのオマージュ 展より—	高橋 忠弥	美術手帖	279	アンリ・マチス	北原 一也	みづゑ	750
パリのピカソ85歳記 念大回顧展をみて	福島 慶子	みづゑ	745	マチスの版画JAZZ	高階 秀爾	三 彩	213
ピカソ評判記	宮川 淳	芸術生活	213	庸兵隊書記・ニクラ ウス・マヌエル	土方 定一	みづゑ	750
ジョルジュ・ピゴ ーの諷刺画	佐々木静一	本の手帖	1.2合併号	エミール・ゾラの肖 像(エドワード・マ ネ作)	嘉門 安雄	毎 日	2.5
フォンタナの「穴」 空間について	蔭山 恭一	現代美術	10	アルベール・マルケ の芸術	宮本 三郎	芸術生活	218
チゾムの「フェノ ロサ」を中心として	久富 貢	本の手帖	1.2 合併 号	マレーヴィッチ	仲田定之助	みづゑ	755
ランスにフジを訪 ねる	鈴木 進	みづゑ	744	＜特集＞アルフレッ ド・マンズフェルド		国際建築	34—5
ブラック「最後のメ ッセージ」	江原 順	芸術新潮	213	ミケランジェロの素 描とアレティーノの 執念	堀分 一弘	現代の目	152
世界画壇のトップレ ディ・3 ヘレン・ フランケンサラー	東野 芳明	美術手帖	283	パリのヘンリー・ミ ラー	久保貞次郎	読売夕刊	11.4
画家ダヴィット・フリ ードリヒの運命＜発 掘(5)＞	高橋 巖	芸術新潮	207	訪日後のミロ画伯	松原特派員	毎 日	5.9
ブルデルとアナト ール・フランス	高階 秀爾	国立西洋 美術館年 報	1	近代美術の巨匠(6)			
優雅なエロチスム ＜ハンス・ベルメー ル＞	飯島 耕一	現代美術	10	モディリアニ・そ の生涯のエピソ ード	高階 秀爾	美術手帖	283
ボッシュ論争—文化 ジャーナル—		朝日ジャ ーナル	4.23	モディリアニ技法— 大胆な構図と繊 細な筆さばき—	中村 直人	〃	〃
春(1)—ボッティチェ リと「宇宙的オク ターブ」	高階 秀爾	三 彩	212	モディリアニ—そ の言葉—	矢内原伊作編	〃	〃
				世界画壇のトップレ ディ・4 マリソール ・エスコパール	東野 芳明	〃	285

日本所在のクロード・モネの作品	中山 公男 黒江 光彦	国立西洋美術館年報	2	フェルナン・レジェ(2)〈画家のこころ17〉	栗津 則雄	みづゑ	752
近代美術の巨匠(1)				マーカ・レリーのこ	坂崎 乙郎	世 界	(7)
クロード・モネ その生涯のエピソード	高階 秀爾	美術手帖	278	夜想の画家ジョルジュ・ド・ラ・トゥール〈発掘・24〉	池上 忠治	芸術新潮	216
モネの技法—イラストリックからピトレスクへ	宮本 三郎	〃	〃	レオナルド・ダ・ヴィンチの謎	王 茂雄	みづゑ	748
モネ—その言葉—	辻 邦生編	〃	〃	発見されたレオナルド・ダ・ヴィンチの手稿	裾分 一弘	朝日夕刊	3.27
近代美術の巨匠(5)				レオナルドの手稿〈発掘19〉	〃	芸術新潮	211
ユトリロ その生涯のエピソード	高階 秀爾	〃	282	ダ・ヴィンチ終焉の地	笹本 駿二	世 界	(11)
ユトリロ技法—白い時代を中心として	麻生 三郎	美術手帖	282	レンブラントを掴んだハーヴァード大学〈発掘23〉	新藤 武弘	芸術新潮	215
ユトリロ晩年の疑惑 天へ登る階段	東 珠樹	三 彩	214	近代美術の巨匠(10)			
ユトリロ作「コタン小路」について	〃	〃	〃	ロートレック—その生涯のエピソード	高階 秀爾	美術手帖	288
ユトリロの悲しみ〈ユトリロ展より〉	〃	国際写真情報	196	ロートレックの技法—自己の醜さの冷酷な観察者—	横尾 忠則	〃	〃
ユトリロの夢	宗 左近	日本美術	45	ロートレック—その言葉—	田近憲三編	〃	〃
ユトリロとその母バードン		毎日夕刊	2.22	アルビにて陸上軍艦とロートレック	堀田 善衛	芸術生活	218
ユトリロの人物	小島 信夫	朝日夕刊	4.22	コーネル・ワイルドとの対決	田中 峯	〃	212
ユトリロの「白」	大岡 信	芸術新潮	208	チャールズ・ワーグマンの周辺	陰里 鉄郎	本の手帖	1.2 合併号
優美なリリシズム—李純曼作品展を見て	植村鷹千代	日本美術	45	異色の幻想画家バット・ヨセフ	前田 常作	〃	283
陶芸に結んだ東と西(バーナード・リーチ・人と作品)	武者小路実篤	国際写真情報	193	世界画壇のトップレディ・6ブリジット・ライリー 見るということ	東野 芳明	〃	278
バーナード・リーチ〈特集〉アアルノ・ルウスヴォーリ	中村 精	本の手帖	1.2 合併号	世界画壇のトップレディとその条件(座談会)	桂 ユキ子 野中 ユリ 東野 芳明	〃	291
ル・コルビュジエ〈交遊抄〉	吉阪 陸正	日 経	9.5	ワーグマン・キョソーネ、フォンタネージのこと	匠 秀夫	本の手帖	1.2 合併号
ルドン「帆般国」	柳 亮	三 彩	211	絵筆に謳うパリ・ロルジウ、ラリュエ、アイズビリ他		国際写真情報	195
近代美術の巨匠(3)				下町こそ真のパリ	岡 鹿之助		
ルドン—生涯のエピソード—	高階 秀爾	美術手帖	280	パリとわたし	東郷 青児		
ルドンの黒と色彩	清宮 質文	〃	〃	三人のユダヤ人画家	大島 辰雄	本の手帖	11
ルドン—その言葉—	栗津則雄編	〃	〃	美術関係者			
ルノワール	嘉門 安雄	みづゑ	751	ソ連雑感	青木 勝蔵	現代の眼	157
近代美術の巨匠(4)				展覧会じいさん	青木 外司	芸術新潮	210
ルノワール—その生涯のエピソード—	高階 秀爾	美術手帖	281	対談閑話			
ルノワール技法—パリ女にギリシアの神性を	大久保 泰	〃	〃	あるコレクターの告白(1), (2)	青柳 瑞穂	季刊芸術	2.3
ルノワール—その言葉—	柳 亮編	〃	〃	幼き日から〈古美術の世界・1〉	浅野 長武	毎 日	10.15
ルノアールの魅力	伊藤 清永	美術グラフィ	16—8				
埋もれていたルーベンスの絵〈海外トピックス〉		芸術生活	210				
レジェ(1)〈画家のこころ16〉	栗津 則雄	みづゑ	751				

定期刊行物所載文献

祖父長勲のこと ＜ク・2＞	浅野 長武	毎 日	10. 17	軍人・考古学者の六 十年	大山 柏	芸術新潮	212
博物館の仕事 ＜ク・3＞	〃	〃	10. 18	岡倉天心		毎 日	2. 21
保護と修理 ＜ク・4＞	〃	〃	10. 19	岡倉天心著「東洋の 理想」＜百年の名著＞	安藤 更生	朝 日	5. 25
私の掘出し物 ＜ク・5＞	〃	〃	10. 20	嘉門安雄 ＜人と意 見＞	北村 由雄	みづゑ	746
鑑賞について ＜ク・6＞	〃	〃	10. 22	乾山会の出来事	加瀬 藤園	芸術新潮	216
欧州の美術館 ＜ク・7＞	〃	〃	10. 24	金子孚水＜人＞		朝 日	11. 7
海外流出の文化財 ＜ク・8＞	〃	〃	10. 25	何初彦＜ぶろふいる＞		東 京	4. 9
作家気質の今昔 ＜ク・9＞	〃	〃	10. 26	ぼくの日録(1)～(10)	北川 桃雄	三 彩	210～220
出版界に望むこと ＜ク・10＞	〃	〃	10. 27	古都西安	〃	ア ー ト	15—1
秋山光和＜ときの人＞	〃	〃	3. 23	猫の病氣＜茶の間＞	〃	毎 日	4. 6
クレタの迷宮	東 珠樹	国際写真 情報	192	いろは歌留多＜ク＞	蔵田 蔵	毎日夕刊	9. 8
ある日の日記＜現代 のことば＞	井島 勉	京 都	2. 1	版画の楽しみと小コ レクター運動につい て	久保貞次郎	現代の眼	146
夢の入学試験＜ク＞	〃	〃	3. 7	青い竹ざお ＜茶の 間＞	小池岩太郎	毎 日	9. 11
雲助が来た＜ク＞	〃	〃	8. 29	小池新二 ＜ときの人＞	堀 利貞	〃	5. 7
美術の秋＜ク＞	〃	京都夕刊	10. 16	百年祭と遺伝	小林 行雄	毎日夕刊	11. 10
イラクの旅	石田 尚豊	東京夕刊	10. 26	平安朝伝来の白氏文 集と三跡の研究＜私 の一冊＞	小松 茂夫	毎 日	9. 24
対談閑話				老後の初心―道楽が 本職に	小森 松菴	芸術新潮	211
国立近代美術館 ＜美神と事業・1＞	石橋正二郎	毎 日	3. 15	陶芸家・小山富士夫 ＜現代の陶器・12＞		芸術新潮	216
青木繁と坂本繁次 郎＜ク・2＞	〃	〃	3. 16	楽焼から赤絵まで― 小山富士夫さん		毎日夕刊	11. 16
藤島武二の思い出 ＜ク・3＞	〃	〃	4. 18	佐和隆研 ＜ときの人＞	芦田 定男	毎 日	6. 8
収集あれこれ ＜ク・4＞	〃	〃	4. 19	大徳寺興臨院の猿猴 の鈴＜美のこころ＞	佐和 隆研	京都夕刊	6. 2
造園と工場建設 ＜ク・5＞	〃	〃	4. 20	「神の島」バリ島の 美術	〃	毎日夕刊	9. 15
理想を求めて ＜ク・6＞	〃	〃	4. 21	沖繩紀行(上),(下)	坂元 正典	萌 春	151, 152
尊敬する人々 ＜ク・7＞	〃	〃	4. 22	卑弥呼＜新日本史の 人間像＞	坂本 太郎	東 京	1. 15
稲田清助 ＜人と意 見＞	北村 由雄	みづゑ	749	15年ぶりに里帰りし て	薩摩治郎八	読売夕刊	4. 5
芸術の交わり	今泉 篤男	日 経	1. 3	15年ぶりの里帰り	〃	東京夕刊	4. 29
みどり好み ＜茶の 間＞	宇野 雪村	毎 日	3. 8	イラク考古総局発掘 部長ファド・サファ ール＜ぶろふいる＞		東 京	4. 22
梅原末治 ＜好人好 日＞		京 都	2. 24	新村先生を悼む	石黒 修	朝 日	8. 19
梅原末治さん＜朝・ 昼・晩＞	青山 茂	毎日夕刊	3. 15	新村出先生の思い出	岡 満男	毎日夕刊	〃
江上波夫＜ぶろふい る＞		東 京	1. 20	見直される日本の庭 園	重森 完途	東 京	2. 9
退職金で若手学者に 奨学金―江上元東大 教授		〃	4. 17	古美術の再指定＜茶 の間＞	菅原 通済	毎 日	5. 30
国宝修理所徒弟奉公 の一年	榎本 栄一	芸術新潮	209	忘れ得ぬコレクター ふたり(田村泰次郎 山本発次郎)	洲之内 徹	芸術新潮	212
陶器のおけいこ	小高根太郎	〃	213	転地＜茶の間＞	関野 克	〃	5. 16
勇気あることば	小野 勝年	毎 日	3. 19	古都との対話	田近 憲三	東京夕刊	1. 14

切下げ時代<茶の間> 像・高階秀爾	田近 憲三	毎日夕刊	7.18
高橋誠一郎さん <朝・昼・晩>		S D 35	
私の履歴書(1)~(30)	高橋誠一郎	毎日夕刊	1.9
パリ・急がない町	高橋 文子	日 経	1.2~2.6
「錦とボロの話」の 龍村平蔵氏<わたしの 本>		〃	8.6
尊敬する人 <交遊 抄>	谷 信一	日 経	5.19
西陣五百年 <茶の間>	谷 庄一郎	毎日夕刊	11.7
博物館の仕事<私の 履歴書>	谷川 徹三	日 経	12.31
松永さんの見識一名 器借出しの苦労	谷村 庄平	芸術新潮	214
大磯の巻<但馬太郎 治伝・83>	獅子 文六	読 売	7.10
アメリカ走り書き一 フィリップ・ジョン ソンの地下美術館を 訪ねる	富山 秀男	現代の眼	150
ライフ・ワーク	土居 次義	京 都	10.19
デュフィ展のために 来日したベルナル ・ドリバル氏<十字 路>		毎日夕刊	11.6
名取堯<元気です>		読 売	11.5
内藤虎次郎<折り折 りの人・6>	吉川幸次郎	朝 日	9.18
中原佑介 <人と意 見>	北村 由雄	み づ ゑ	745
ほんものにとせもの	蓮実 重康	京 都	5.26
長谷川仁 <人と意 見>	北村 由雄	み づ ゑ	755
対談・銀座の社長さ ん	長谷川 仁 羽間 乙彦	毎 日	11.14
針生一郎 <人と意 見>	北村 由雄	み づ ゑ	751
針生一郎氏<新しい 批評家>		東京夕刊	2.21
安宿の話<茶の間>	針生 一郎	毎 日	5.22
土方定一 <人と意 見>	北村 由雄	み づ ゑ	754
文化の保存<しかる ・ほめる>	藤岡 由夫	産 経	1.5
古建築再現の弁	藤島亥治郎	学会会 報	697
日本家屋と彫刻収集	藤田 一暁	芸術新潮	210
フェノロサの功罪	小倉 忠夫	み づ ゑ	751
ボンベイ古代美術展 のため来日したデ・ フランシシス<時 の人>		読 売	3.31
古都との対話	ハインツ・ ブラッシュ	京都夕刊	3.18
ユトリロ展のため来 日したポール・ペト リデス<十字路>		毎日夕刊	3.27

ポール・ペトリデス <人と意見>	北村 由雄	み づ ゑ	748
長岡現代美術館賞展 の収獲	ネツロ・ポ ネンテ	芸術生活	211
蘆山順吉 <人と意 見>	〃	〃	747
生き返ったテーブル	三輪 福松	日 経	1.10
再生したマンローの 旧宅	三上 次男	朝日夕刊	6.30
美術周縁記(1)~(8)	水沢 澄夫	三 彩	218~220
曲りくねった遠い道	〃	萌 春	154~160
「碧桃」のころ<交 遊抄>	宮川 寅雄	日 経	1.11
対談・ヨーロッパの 日本美術	矢代 幸雄 バーゼル・ グレイ	朝日ジャ ーナル	1.8
古代の深求(1)~(9) <対談閑話>	八幡 一郎	毎日	5.13~ 5.23
五年ぶりに日本に帰 って	山崎 始子	日本美術	48
第9回日本国際美術 展審査員をつとめた ヤッシャ・ライハー ト女史<十字路>		毎日夕刊	5.26
ラゲザお玉<女性 の明治百年>	草柳 大蔵	東 京	4.23
脇本楽之軒の読画術	鈴木 進	芸術新潮	206
楽之軒の画説	平山 郁夫	〃	207

時評・その他

「コブラ」回顧展 <文化ジャーナル>	朝日ジャ ーナル	1.1
海外にある日本の古 美術<文化ジャー ナル>	〃	1.15
林武の仕事<文化ジ ャーナル>	〃	1.22
法隆寺金堂壁画の模 写<文化ジャーナル>	〃	1.29
版画家・池田満寿夫 <文化ジャーナル>	〃	2.5
具象絵画の新転機 <文化ジャーナル>	〃	2.19
国際展への参加方式 <文化ジャーナル>	〃	2.26
中川一政の画業<文 化ジャーナル>	〃	3.5
道路と建築物<文化 ジャーナル>	〃	3.19
国際青年美術展<文 化ジャーナル>	〃	3.26
国際交流の政策欠如 <文化ジャーナル>	〃	4.2
ボッシュ論争<文化 ジャーナル>	〃	4.23
米国のグラフィック アート<文化ジャー ナル>	〃	4.30
香月泰男のシベリヤ <文化ジャーナル>	〃	5.7

定期刊行物所載文献

藤島武二展の魅力 ＜文化ジャーナル＞	朝日ジャーナル	5.28	虚の美術化—エンバ イラメントマルクー ハンの理論	日向あき子	S	D	34
シドニーオペラハウ スの波乱＜文化ジャ ーナル＞	〃	6.11	さかんな近代日本美 術の回顧	〃	〃	〃	〃
「クワドラム」廃刊 ＜文化ジャーナル＞	〃	7.9	千円札事件をめぐつ て	坂崎 乙郎	〃	〃	35
国際的な日本のデザ イン＜文化ジャーナ ル＞	〃	7.30	ふたたび千円札事件 をめぐって	〃	〃	〃	36
日本画の運命＜文化 ジャーナル＞	〃	8.6	坂崎乙郎氏に答え る	赤瀬川原平	〃	〃	〃
“メタボリズム”批判 ＜文化ジャーナル＞	〃	8.27	編集部への手紙	滝口 修造	〃	〃	〃
中途半端な海外作家 展＜文化ジャーナル＞	〃	9.3	千円札事件をめぐつ ての反論に答える	坂崎 乙郎	〃	〃	〃
「戦争絵画」を考え る＜文化ジャーナル＞	〃	9.10	またもめた芸術見本 市	藤枝 晃雄	芸術新潮	208	〃
日宣美展に望む＜文 化ジャーナル＞	〃	9.17	衰頹したヨーロッパ の美術活動	富永 惣一	芸術生活	211	〃
現代イタリア美術展 への反応＜文化ジャ ーナル＞	〃	10.8	万国博における創造 的なもの	泉 真也	〃	212	〃
インド・トリエンナ ーレの意味＜文化ジャ ーナル＞	〃	10.22	建築界は落ち着いた か	清家 清	〃	〃	〃
「売るポスター」展 ＜文化ジャーナル＞	〃	10.29	ウィーンに寄せる期 待	坂崎 乙郎	〃	〃	〃
鎖国時の美術の国際 交流＜文化ジャーナ ル＞	〃	11.5	印刷絵画のすすめ	小川 正隆	〃	213	〃
ピカソ彫刻展＜文化 ジャーナル＞	〃	11.19	現代美術よもっと変 れ	中原 佑介	〃	214	〃
エコール・ド・パリの 再認識＜文化ジャ ーナル＞	〃	12.10	東京国際版画ビエン ナーレ展の今後の問 題点	現代の目	146	〃	〃
賞の公開審査＜文化 ジャーナル＞	〃	12.17	たとえば愛媛のこと ＜美術時評＞	飯島 耕一	三 彩	210	〃
新具象の環境美術 ＜文化ジャーナル＞	〃	12.31	砂漠にオアシスを ＜ 〃 ＞	〃	〃	211	〃
帝国ホテルの保存	福田 晴虔	6.4	エロシズムの偏執 ＜ 〃 ＞	〃	〃	212	〃
真贋論争の背後—西 洋美術館の買入れ絵 画をめぐって—	編集部	〃	鉄とセメントの都市 という「自然」 ＜ 〃 ＞	〃	〃	213	〃
紙幣虚構論と国家の 衝突）千円札模造事 件）＜今週の社会観 察＞	〃	7.9	金管楽器からはじま って＜ 〃 ＞	〃	〃	214	〃
明治美術の文化財指 定—問題をはらむ指 定基準と美術行政—	編集部	〃	芸術家と職業＜ 〃 ＞	〃	〃	215	〃
皇居前美観論争＜今 週の社会観察＞	〃	10.15	二つの現代文明評 ＜美術時評＞	〃	〃	217	〃
愚かしき＜丸の内美 観問題＞論争	河野 鷹思	〃	ハンフリー・ボガー トとジャスパー・ジ ョーンズ＜ 〃 ＞	〃	〃	218	〃
都市美観論争と高速 道路	泉 真也	S D 26	八月十五日前後 ＜ 〃 ＞	〃	〃	219	〃
＜美観＞を語って欲 しくない	大岡 信	〃 28	時代錯誤の精神を ＜ 〃 ＞	〃	〃	220	〃
日本美術の海外への 紹介	〃	〃 30	若林奮の彫刻＜ 〃 ＞	〃	〃	221	〃
流行は思想を表現し 得るか	高階 秀爾	〃 33	見るものを閉じこめ る絵と開く絵＜ 〃 ＞	〃	〃	223	〃
			デザインする人とデ ザインされたもの	佐藤 雄介	デザイン 批評	4	〃
			物質と言葉（デザイ ン誌の在り方）	原 広司	〃	〃	〃
			美術の平和＜美術時 評＞	宗 左近	日本美術	44	〃
			芸術議員上願張れ ＜美術時評＞	〃	〃	47	〃

観念のなかの灰色の霧<問題と視点>	林 文雄	美術グラ フ	16-1	大詰にきた「模型千円札」裁判<今月の焦点>	石子 順造	美術手帖	285
「金堂壁画」復元の是非<問題と視点>	井上長三郎	〃	16-2	近代版画の流れの一断面< 〃 >	三木 多聞	〃	〃
この責任< 〃 >	菊地芳一郎	〃	16-4	フェノロサと日本近代美術< 〃 >	木村 重信	〃	〃
安井賞のことなど< 〃 >	日野耕之祐	〃	16-5	改革をせまられる日本芸術院< 〃 >	北村 由雄	〃	286
渡欧ブーム< 〃 >	菊地芳一郎	〃	16-6	若い世代にみる国際性< 〃 >	大岡 信	〃	〃
再燃した芸術院問題< 〃 >	〃	〃	16-7	近代日本画 150年の道程< 〃 >	朝日 晃	〃	〃
再燃芸術院問題の伏線< 〃 >	〃	〃	16-8	コンピューター・アート誕生< 〃 >	中原 佑介	〃	〃
芸術院改革への一試案< 〃 >	〃	〃	16-9	明日の芸術のゆくえ・モントリオール万国博覧会と現代美術	磯辺 行久	〃	286
院賞・会員問題にふれて< 〃 >	〃	〃	16-10	日本万国博は“遊び”でゆく<今月の焦点>	北村 由雄	〃	287
美術誌への批判< 〃 >	〃	〃	16-11	大観生誕百年記念展の意味< 〃 >	吉沢 忠	〃	〃
東京は美術の中心になるか?<今月の焦点>	東野 芳明	美術手帖	278	気をはく関西勢の若手< 〃 >	乾 由明	〃	〃
第10回安井賞とその10年の功績< 〃 >	奥 英了	〃	280	世代交替を迫られる美術外交< 〃 >	瀬木 慎一	〃	〃
日本洋画商の商法診断< 〃 >	安井 収蔵	〃	〃	日動画廊40年の歩み< 〃 >	柳 亮	〃	228
香川県の建築・都市開発に毎日芸術賞<今月の焦点>	伊藤ていじ	〃	280	上野の森に新美術館誕生<今月の焦点>	千沢 楨治	〃	〃
法律は観念を幻想を裁きうるか?< 〃 >	中原 佑介	〃	281	日宣美展のヌエの光景< 〃 >	石子 順三	〃	〃
中世・古代の異色美術展二つ(ユーゴのマケドニア・イコンとメソポタミアの造形に秘めるもの)< 〃 >	桑原 住雄	〃	〃	二つの「戦争画」< 〃 >	針生 一郎	〃	〃
パリの詩情歌うユトリロ展< 〃 >	清野 久英	〃	〃	万国博七曜広場の空間造型< 〃 >	東野 芳明	〃	289
国際展参加には“批判”の確立を< 〃 >	瀬木 慎一	〃	〃	「帝国ホテルを守る会」発足< 〃 >	桐敷真次郎	〃	〃
新人はどこにいる? シェル賞・国際青年美術家展賞・安井賞をめぐる新人を待望	針生 一郎	〃	〃	条件つき「表現の自由」< 〃 >	川仁 宏	〃	〃
灰に埋れた古代社会<今月の焦点>	佐々木英也	〃	282	初の芸術家国費留学< 〃 >	北村 由雄	〃	〃
新国立近代美術館の建設計画< 〃 >	本間 正義	〃	〃	アンディ・ウーホルの映画< 〃 >	金坂 健二	〃	291
関西戦後派に“新しい波”台頭< 〃 >	中原 佑介	〃	〃	足で集めた「関根と鑑光」展< 〃 >	朝日 晃	〃	〃
「肉筆浮世絵」の映画化< 〃 >	佐藤 重臣	〃	〃	ソ連絵画 56 年展< 〃 >	河北 倫明	〃	〃
春の団体展にみる“国際性”< 〃 >	桑原 住雄	〃	283	コンピューター・アート研究会開催< 〃 >	幸村真佐男	〃	291
グラフィック・アート USA展	藤枝 晃雄	〃	〃	見破られた日本現代美術の模倣性	佐藤愛一郎	みづゑ	746
転機に立つ東京ビエンナーレ< 〃 >	安井 収蔵	〃	〃	東京ビエンナーレの行方	円 道助	〃	750
生誕百年記念「藤島武二展」< 〃 >	柳 亮	〃	〃	ビエンナーレ展への疑問	田中 記者	読売夕刊	3. 22
日本洋画のあけぼの秋田蘭画< 〃 >	成瀬不二雄	〃	〃	国際展への姿勢	(D) 日 経		3. 24
				価値づけ、もっと大胆に	高階 秀爾	読売夕刊	4. 19

定期刊行物所載文献

芸術院問題の焦点	(R)	日 経	6.8	洋画巨匠の偽作が横行		毎日夕刊	4.12	
近代建築の保存と開発	池辺 陽	朝日夕刊	6.15	日本美術と桜<歴史の流れの中での転変>	吉川 博	京 都	4.13	
シュル美術賞の性格	(T)	日 経	6.19	古都保存・海外の実状	萬編集部長	〃	4.26	
文化財は守られているか	崎川 範行	京 都	6.26	私財を投じ「原爆の図」美術館		東京夕刊	5.2	
美術館の問題	矢内原伊作	日 経	6.26	芸術院の改革について(上)	山崎覚太郎 麻生 良方	〃	5.10	
芸術見本市	(D)	〃	6.28	裸体画裁判	藤村記者	読 売	5.14	
現代美術の問題点 一流行と思想の喪失	高階 秀爾	読売夕刊	〃	ハッピーニングの可能性	ヨシダ・ミ ノル	京 都	6.3	
人間的でありたい “日本の万博”	真鍋 博	京 都	7.4	モントリオール万国博を見て	福田 繁雄	朝日夕刊	6.6	
現代芸術アレルギー症	東野 芳明	読売夕刊	7.4	こどもや学生的美術活動について	井島 勉	京都夕刊	6.7	
予備校化する芸大開放講座	高 見	毎日夕刊	7.28	南ベトナム解放戦線の芸術家たち	岡村 昭彦	毎日夕刊	6.13	
芸術院の改革について	柳 亮 河盛 好蔵	東京夕刊	8.11	21世紀へのビジョン 一京都の果たす役割	小林 博 大西国太郎	京 都	6.19	
地震は人災	川添 登	朝日夕刊	8.31	自然との対話を	西山 卯三	〃	7.2	
美術シーズンの反省	(D)	日 経	9.13	ヨーロッパ美術界見て歩き(1)~(7)	安井収蔵記 者	毎日夕刊	7.3~5.7 10・13・14	
文化財保護運動	伊藤ていじ	読 売	10.12	関西の前衛美術を見る		朝日夕刊	7.8	
文化財の尊重	(暴羊)	東 京	11.6	大分市丹生のキリスト ン遺物	片岡 弥吉	朝 日	8.1	
万国博のビジョン	川添 登	読売夕刊	11.14	柳宗悦の「朝鮮民 芸」評価<コア>		毎日夕刊	8.14	
近代化遠い日本画の 世界<コア>		毎日夕刊	11.21	戦争画と画家		朝日夕刊	8.15	
シュル美術賞の変容	(竜)	京 都	12.4	ミロのビーナス作戦		毎日夕刊	8.22	
美術輸出-国際市場 価格を考えよ-		毎日夕刊	12.6	記録画としての戦争 美術	土方 定一	〃	8.23	
現代の南面を生み出 せ	(竜)	京 都	1.14	古都攻防実戦記	井上 禅定	〃	9.6	
洋画商界は体質改善 期		毎 日	1.17	鐔の収集	千田 正	日 経	9.17	
オリエン特研究十年 の成果	東大イラク ・イラン遺 跡調査団	東 京	1.20	美術書と複製写真	大岡 信	朝 日	9.29	
法隆寺金堂四天王の 鬼(フォトエッセー)	上野 照夫	毎 日	1.22	埋蔵文化財と考古学	八幡 一郎	毎日夕刊	〃	
奇妙な絵の値段		読 売	1.29	岩戸出土の旧石器石 偶	芹沢 長介	朝日夕刊	10.6	
東京芸大の能研テス ト返上		読売夕刊	1.31	都市造りと遺跡保護	多摩の文化 と自然を守る 会討論から	読 売	10.10	
安井賞の意義	(T)	日 経	〃	パリとの対話…前衛 芸術(海外通信)	パリ…松原 俊郎特派員 モスクワ… 谷畑良三支 局長	毎 日	10.22	
道風神社神額(民族 と信仰)	川口 謙二	読 売	2.19	ゼロの会		京 都	10.27	
水禍から五ヶ月フィ レンツェを訪れて		毎日夕刊	3.2	「能面」その美しさ の秘密(対談)	北沢 渡会	如意 恵介	京都夕刊	10.28
カンと精魂金箔づく り	作田 勝治	日 経	3.3	古仏像の“肉体”鑑定	小原 二郎	日 経	11.18	
最新の科学的鑑定法 あれこれ<科学サロ ン>		東 京	3.7	「ニセ絵画事件」そ の後	峯村敏明記 者	毎日夕刊	12.5	
急増する洋画家志望 立ち上がるフィレン ツェ	広田 耕司	日 経	3.22	絵具づくりの半生	橋本 兵蔵	日 経	12.6	
「流出」か「進出」か はたちの本間美術館	鈴木 進	京 都	4.1	ことしの回顧「ベス ト5」	土方 定一 河北 倫明 佑介	朝日夕刊	12.11	
宗教からみたメソポ タミア	本間 祐介	日 経	4.4					
宗教からみたメソポ タミア	矢島 文夫	東京夕刊	4.10					
フランスの漫画ブー ム<世界の窓>	瀬戸口特派 員	朝 日	4.13					

ことしの美術界	柳 亮	東京夕刊	12. 14	パリに通じなかった「重盛像」	水野敬三郎	芸術新潮	208
目立った現代美術の若手		京 都	12. 16	トウキョウ・前衛芸術散歩	ミシェル・ビュートル	〃	208
美術この一年		毎日夕刊	12. 20	クリスティーの二百年	土方 定一	〃	〃
新潟の現代美術家集団「GUN」		〃	12. 26	春峯庵プロデューサーの死	白崎 秀雄	〃	〃
思考・感覚は環境が規定	中原 佑介	京 都	〃	リヒテンシュタイン公園が売ったダ・ヴィンチ	脇村義太郎	〃	209
法隆寺の壁画	嘉治 隆一	学 燈	64-2	橋本凝胤と月光菩薩事件	請川良太郎	〃	〃
McGraw-Hill のカラースライドについて	坂崎 乙郎	〃	63-3	美は存在しない—贋作を作らせるのは誰か—	安藤 孝行	〃	〃
コネサンス・デザール編フランス金属工芸の巨匠たち	友部 直	〃	〃	パリの国際偽作組織「X」—西洋美術館にドランを売ったルグロー〈真贋42〉	大島 辰雄	〃	210
C. Fregnac, P. Fauchaux 編フランス邸宅建築傑作集	桐敷真次郎	〃	64-3	モントリオール万国博の美術作戦	桑山タダスキー	〃	〃
故宮藏瓷	長谷部楽爾	〃	〃	画廊商法・日本とアメリカ	神代雄一郎	〃	〃
帝国ホテルの消滅に思う	谷川 正己	〃	64-5	東京ビエンナーレ受賞の理由		〃	211
都市と人間〈シンポジウム〉	山口 勝弘 菊竹清訓他	季刊芸術	1	国立美術館のへたな買いもの		〃	〃
〃 < 〃 >	山口勝弘他	〃	2	問題のドラゴン・デュフィは贋作である	江原 順	〃	212
音と言葉〈 〃 〉	園部三郎, 栗津潔, 戸田邦雄, 江藤淳, 別宮貞雄, 高階秀爾, 篠田一士, 遠山一行(司会)	〃	3	180億の美術品寄付	藤枝 晃雄	〃	〃
ローカル・ミュージアム		芸術新潮		美術品は財産たりうるか	白崎 秀雄	〃	〃
礪山美術館		〃	205	プラハの古城の宝〈発掘20〉	ヴラスタ・チハコヴァ	〃	〃
畠山記念館		〃	206	利休のポップ・アート精神	J・ランド・キャストイル	〃	213
神戸市立南蛮美術館		〃	207	ピカソをつかまえたユダヤ画廊	大島 辰雄	〃	〃
会津八一記念館		〃	208	思わぬ損得—古美術収集滑稽譚—	金田嘉一郎	〃	〃
串本「応挙雪雪館」		〃	209	欺された奈良朝の礎石	細見古香庵	〃	214
関雪コレクション		〃	210	海外流出を免れた立山神像	吉田 実	〃	215
一白沙村荘—		〃		無冠の林武文化勲章の内幕	鈴木 恵	〃	216
石橋美術館		〃	211	紅衛兵と中国古美術	西園寺雪江	〃	〃
陸奥の兄弟コレクション		〃	212	新ジャンルへの芸術運動出発	秋山 邦晴	芸術生活	210
一蟹仙洞と掬粋工芸館—		〃		欧米のイラストレーター	日向あき子	〃	〃
神奈川県立博物館		〃	213	週刊誌「サタデー・レビュー」〈あちらの雑誌〉	藤原 恒太	〃	〃
長岡現代美術館		〃	214	天壇をめぐる第三回	堀田 善衛	〃	〃
藤井有鄰館		〃	215	出光美術館	小川 正隆	〃	〃
醍醐寺霊宝館		〃	216	シスコの東洋美術館		〃	211
山中商会盛衰記	桑原 住雄	〃	205	アヴェリー・ブランデー・コレクション		〃	
「泥の都」フィレンツェの被害報告	井関 正昭	〃	206				
ある古美術即売展	平木 杏介	〃	〃				
版画コレクションのすずめ	三木 多聞	〃	〃				
棟方板画のにせもの事件〈真贋38〉	海上 雅臣	〃	〃				
裏から見た名画	黒江 光彦	〃	207				
ピカソの贋作	瀬木 慎一	〃	208				

定期刊行物所載文献

美観について	安岡章太郎	芸術生活	211	写真はデザインか	福島 辰夫	デザイン批評	1
本のモニュマン—百万ドルの黙示録—	宗 左近	〃	〃	映像の原点—東松照明	多木 浩二	〃	2
「かるた」の文化史	加藤 秀俊	〃	212	＜われらをめぐる海＞の美学写真と環境の思想	〃	〃	3
黙示録について	堀田 善衛	〃	213	暗黒を探究する自由（千円札事件第一審の記）	赤瀬川原平	〃	4
骨董と私	津田 騰三	〃	〃	晩像の逆説（奈良原一高論）	多木 浩二	〃	〃
FETE GALANTE	堀田 善衛	〃	214	くたばれ日宣美（君の行く道は希望へと続くか）	安藤 紀男	〃	〃
能面の旅	渡会 恵介	〃	215	十年間に日本画壇はどう変った？（座談会）	田近 憲三 清水 鍾徳 中村 正義 木村 正義 日野 東介 耕之祐 山崎 一芳	日本美術	47
楽園追放アダムとイヴ	堀田 善衛	〃	216	画人談々記	宣原 宏一	〃	〃
世界的名画はいくらで買えるか	村木 明	〃	〃	世論はかく考える—芸術院問題＜アンケート＞	〃	〃	〃
コレクター層の拡充を	三木 多聞	〃	216	東京国立博物館（東京にある古美術の宝庫・2）	香取 忠彦	〃	48
デザインと設備技術	菊竹 清訓	〃	〃	画人談々記	宣原 宏一	〃	〃
ポップアートの役割	田中 一光	〃	〃	関西の前衛8～18	高橋 亨	日本美術 工芸	340～346 348～351
ピラミッドの嘆き	水沢 澄夫	〃	217	バクダッドとメソポタミアの美術	白川 一郎	〃	280
熱海美術館	荒川 浩和	〃	〃	ベシャワールとガンダーラの美術	〃	〃	281
ぼくのなかの＜生きた美術館＞	秋山 邦晴	〃	218	台北のまろと故宮博物院の名宝	朝日 晃	〃	282
La Douce France	堀田 善衛	〃	219	壁面の回転する地下ギャラリー	明石 乃武	〃	〃
美わしフランス	南部 あき	〃	〃	韓国の野の呪物—九州島の偶石木と長柱	任 東 権	〃	283
ヒザ上20センチの美学	坂崎 乙郎	〃	〃	ナポリとポンペイ	小川 正隆	〃	〃
美術展への疑問	安井 収蔵	〃	220	芸術の環境化と環境の芸術化	中原 佑介	〃	〃
美術賞の性格と審査の接点	堀田 善衛	〃	〃	ルポルタージュ・日本万国博覧会—現代芸術はどのように参加する？—	〃	〃	〃
美しきもの見し人は	吉田 穂高	〃	〃	特集・裁かれる今日の芸術	〃	〃	287
メキシコのアート・デ・メヒコ＜あちらの雑誌＞	中山 公男	〃	〃	ロンドン＝銀座つと内容	ヤシャ・ライハルト	〃	〃
訳かれて困るはなし	現代の目	148		ニューヨーク＝トップレス「チェロ演奏会」事件	秋山 邦雄	〃	〃
安井賞の諸問題（アンケート）安井収蔵・生尾慶太郎・岡本謙次郎・山崎省三・小川正隆・佐々木静一・針生一郎	藤井 久栄	〃	152, 153	東京＝模型千円札事件模型千円札事件公判記録＝判決文	中原 佑介	〃	〃
フランスの美術行政と美術館活動（1）（2）	〃	〃	155	現代の尖鋭—新人の条件—	乾 由明	〃	288
ローマ国立近代美術館について・ジョルジョ・デ・マルキス氏に聞く	富山 秀男	〃	〃	特集・芸術の地下エネルギー＝日本のアンダーグラウンド	〃	〃	289
ローマの画廊とび歩き	国際写真情報	199					
「原爆の図」ここに安住—丸木美術館—	国立西洋美術館年報	1					
絵画修復について	黒江 光彦	界	(6)				
殷周青銅器の謎	藤田 国雄	〃	(10)				
見る者の運命	針生 一郎	中央公論	(12)				
お粗末な地方美術館＜東風西風＞	展 望	(6)					
現代観衆論	東野 芳明						

ゲリラ作家の鉾脈をさぐる	羽永 光利			
芸術の地景変動—EXPO からヒッピースーまで	刀根 康尚			
ベリシルマ溪谷を探索	柳 宗玄	みづ ゑ	744	
ベルリン<都市と美術1>	坂崎 乙郎	〃	〃	
美術業界誌《美の裏方たち》	田中 穰	〃	〃	
月評家《 〃 》	〃	〃	745	
ニューヨーク<都市と美術2>	藤枝 晃雄	〃	〃	
日本洋画商協同組合《美の裏方たち》	田中 穰	〃	746	
モスクワ<都市と美術3>	永田 力	〃	〃	
画家夫人《美の裏方たち》	田中 穰	〃	747	
明治百年ムード文化財指定について	宮川 寅雄	〃	〃	
ミラノ<都市と美術4>	上松 正直	〃	〃	
ルーブル美術館での日本名画展評判記	松下 亮吉	〃	〃	
古代マヤ美術の象形文字(1)~(3)	野尻 抱影	〃	747~749	
ウィーン<都市と美術5>	ベーター・リンドル	〃	748	
新聞社企画部員《美の裏方たち》	田中 穰	〃	〃	
芸大新入生と語る(座談会)	奥 英了	〃	〃	
画家教師《美の裏方たち》	田中 穰	〃	749	
パリの偽造絵画取扱事件	峯村 敏明	〃	〃	
チューリッヒ<都市と美術6>	阿部 公正	〃	〃	
ロンドン< 〃 7>	岡本謙次郎	〃	750	
アメリカに飛び火したルグロ事件	峯村 敏明	〃	〃	
贋物をしめだす法案は有効か	〃	〃	751	
マドリッド<都市と美術8>	藤田 吉香	〃	〃	
マン・レイー測量のたのしみ—	中原 佑介	〃	752	
アムステルダム<都市と美術9>	池上 忠治	〃	〃	
壮観/バーンズ・コレクション	富山 秀男	〃	753	
ローマ<都市と美術10>	井関 正昭	〃	〃	
ミュンヘン< 〃 11>	森 洋子	〃	754	
パリ< 〃 12>	北原 一也	〃	755	
北ヨーロッパ諸国の名画切手から	山下 武夫	萌 春	151	
アメリカの名画切手の中から	〃	〃	152	

古都冬日帖	永井 信一	萌 春	152
ある技法書	瀬戸 慶久	〃	153
パナマ・キューバ・コスタリカの名画切手	山下 武夫	〃	〃
小石原紀行	井垣 春雄	〃	〃
芸術院賞受賞者決る		〃	154
感覚(就中味覚)について	藤森 成吉	〃	155
美術教育の先覚者	吉野 正孝	〃	〃
太平洋地域諸国の名画切手		〃	〃
芸大校庭の白浜徴先生の像は合作		〃	156
平野政吉美術館	武埴林太郎	〃	〃
美術師範科の裏ばなし	吉野 正孝	〃	158
ルノアールの作品と切手	山下 武夫	〃	〃
東京府美術館で鑑賞画展開かる	吉野 正孝	〃	159
続・ルノアールの作品と切手	山下 武夫	〃	160
モナリザのコピーを抱いて名画犯人捕縛のホテルに投宿	吉野 正孝	〃	〃
地図と旅行記	瀬戸 慶久	〃	〃
東京美術学校騒動(1)	細野 正信	〃	〃
日展日本画部特選受賞者		〃	161
東京美術学校騒動(3)と日本美術院の創立	細野 正信	〃	〃
軍部佐世保市に文化聯盟を設立	吉野 正幸	〃	〃
展覧会批評(雑誌)			
仙厓<鑑賞席>	クルト・ブラッシュ	朝日ジャーナル	1.1
東京国際版画ビエンナーレ展<鑑賞席>	浜口 陽三	〃	1.8
ルネサンスのミニアチュール<鑑賞席>	柳 宗玄	〃	2.12
ユーゴスラビア・アイコン<鑑賞席>	辻 佐保子	〃	3.12
ボンベイの壁画<鑑賞席>	三雲祥之助	〃	4.16
人間くさい北斎<鑑賞席>	宮川 寅雄	〃	5.7
メソポタミア展<鑑賞席>	藤田 国雄	〃	5.14
現代美術の可能性<鑑賞席>	井上 武吉	〃	6.11
洗練と野性味<鑑賞席>	久保 守	〃	7.2
素直な魅力 <鑑賞席>	水尾比呂志	〃	7.16
近代日本の水彩と素描<鑑賞席>	柳原 義達	〃	8.20
現代イタリア美術展<鑑賞席>	井関 正昭	〃	10.8

定期刊行物所載文献

現代日本彫刻展<鑑賞席>	堀内 正和	朝日ジャーナル	11.5	絵画性への傾斜 国際性と国民性	坂崎 乙郎 高階 秀爾		
古代イタリア美術展<鑑賞席>	摩寿意善郎	ク	11.12	第9回国際現代美術展		季刊芸術	2
ソ連絵画50年展<鑑賞席>	坂崎 乙郎	ク	12.10	トーキョー・ビエンナーレ・1967	ミシエル・ラゴン 高階秀爾訳		
第34回独立展をみて	山田 竜平	アート	15の1	芸術の場を阻むもの	オノサト・トシノブ		
第9回日展の日本画	上野 照夫 三宅正太郎 小森 盛	ク	ク	明日への賭け	小川 正隆		
第9回日展の工芸	藤田 猛	ク	ク	百万円の白(3回長岡現代美術館賞展)	中原 佑介	芸術新潮	205
東郷青児展・画業50年によせて	有島 生馬 川口松太郎 川端 康成 今 東光 早川 雪州	ク	ク	現代アメリカ展に不満のアメリカ人		ク	ク
第2回日春展	小森 盛	ク	15の2	第10回安井賞候補新人展		現代の目	147
第16回五都展	ク	ク	ク	第10回安井賞授賞作品選考の経過	久富 貢		
第1回東方美術協会展		ク	ク		河北 倫明 田中 岑三 芝田 米三 野見山 曉治 田中 安男 中本 達也 西村 功隆 深見 善次郎		
第52回二科展の絵画と彫刻	三宅正太郎	ク	15の3	安井賞の10年アンケート	ア		
第52回院展	田近 憲三	ク	ク				
ルチオ・フォンタナ陶展	長谷川 堯	S	D 26		宮崎 進		
安東早苗タピストリー展	渡辺 力	ク	27	受賞のことば			
七色の世界(観覧展)	東野 芳明	ク	ク	「グラフィックアートUSA展」について	小川 正隆	ク	149
ルネッサンスのミニヤテール	柳 宗玄	ク	28	「グラフィックアートUSA展」をみて	観覧者諸氏	ク	150
池田満寿夫展	瀬木 慎一	ク	ク	現代イタリア美術展		ク	154
ハンス・ベルメール個展	渋谷 竜彦	ク	29	イタリアの近代美術	中山 公男		
人間回復機(第11回京都市アンデパンダン展)	中原 佑介	ク	30	現代イタリア美術の流れ	井関 正昭		
現代アメリカ・ポスター展	横尾 忠則	ク	ク	イタリア作家とび歩き	本間 正義		
加納光於版画展	大岡 信	ク	31	第4回国際青年美術展をみて	北 一郎	現代美術	10
(黄金の聖書)展	日向あき子	ク	32	個展・グループ展評	大淵 武雄 赤塚 行雄	ク	ク
<現代美術の動向>展	ク	ク	34	第9回日展特集		国際写真情報	192
前衛美術展<第21回>	ク	ク	ク	日展の日本画・洋画	田近 憲三		
シエル美術賞	ク	ク	35	日展の彫塑	木内 克		
日宣美展	永井 一正	S	D 35	日展の工芸	北川 桃雄		
触覚の日宣美展	河原 淳	ク	ク	東京国際版画ビエンナーレ展	土方 定一	ク	193
中村直人展	坂崎 乙郎	ク	36	地下に眠った1900年<ボンベイ古代美術展>		ク	197
現代イタリア美術展	長谷川 堯	ク	ク	ボンベイの美術品	三輪 福松		
中村彝遺作展	小倉 忠夫	ク	ク	ボンベイの恐怖	東 珠樹		
ルネッサンス・ミニチュア展を見る	吉川 逸治	学 燈	64の3	国展・春陽展評	田近 憲三	ク	198
グレコとイコン・ユーゴスラビア・イコン展を見て	ク	ク	64の4	女流画家協会展評	ク	ク	ク
ボンベイ展を見て	ク	ク	64の5	ルノワール展より晩年のルノワール	東 珠樹	ク	201
第5回東京国際版画ビエンナーレ		季刊芸術	1				

院展評	北川 桃雄	国際写真情報	202	グラフィック・アート USA 展 (美術メモ)	江川 和彦 三 彩	215
二科・行動展評	田近 憲三	〃	〃	織部展 (美術メモ)	井口 堯	〃 〃
一水会・新制作・一陽会評	〃	〃	203	インターナショナルとは一東京ビエンナーレの反省	針生 一郎	〃 217
独立・二紀会・自由美術評	土方 定一	〃	〃	近代日本の版画<国立近代美術館> (美術メモ)	小倉 忠夫	〃 〃
「文展の名作」展を見て	加藤 一雄	三 彩	210	日本洋画のあけぼの・秋田蘭画<大和文華館> (美術メモ)	田中日佐夫	〃 〃
八木一夫<壺>展 (美術メモ)	海上 雅臣	〃	〃	女流展の人とその作品 近代日本画の名作展	田近 憲三	〃 218
生活の美術展 (美術メモ)	井口 勇	〃	〃	<京都国立近代美術館> (美術メモ)	乾 由明	〃 〃
蓮田脩吾郎金工展 (美術メモ)	田近 憲三	〃	〃	大倉集古館五十年記念展 (美術メモ)	(K)	〃 〃
日本画の新春展<山種美術館> (美術メモ)	平 径次	〃	211	第17回日宣美展 (美術メモ)	(T)	〃 219
第5回東京国際版画ビエンナーレ展 (美術メモ)	小倉 忠夫	〃	〃	院展評	多田 信一	〃 220
日本画名品展 (パブリック・ループル美術館) (美術メモ)	東 珠樹	〃	〃	二科展・行動展評	江川 和彦	〃 〃
ルネッサンス・ミニチュア展を見て	三輪 福松	〃	212	デュフィ展<日動画廊> (美術メモ)	(K)	〃 〃
第10回安井賞候補新人展 (美術メモ)	小倉 忠夫	〃	〃	「日本の秋」展<山種美術館> (美術メモ)		〃 〃
武士の装身具展 (美術メモ)	平 径次	〃	〃	第2回現代日本彫刻展<宇都市常盤公園> (美術メモ)	中村伝三郎	〃 221
中村宏展 (美術メモ)	織田 達朗	〃	〃	徳川期の画家たち展・九州篇<鎌倉近代美術館> (美術メモ)	副島三喜男	〃 〃
羽子板とうんすんかるた展<滴翠美術館> (美術メモ)	田中日佐夫	〃	〃	19人のシュールレアリスト展 (美術メモ)	大島 辰雄	〃 〃
オリエント七千年展 (美術メモ)	平 径次	〃	213	日展の日本画	久富 貢	〃 223
春の特別展・長崎<サントリー美術館> (美術メモ)	井口 堯	〃	〃	日展の洋画	田近 憲三	〃 〃
ポーランド現代版画展 (美術メモ)	針生 一郎	〃	〃	日展3科 (彫塑)	中村伝三郎	〃 〃
ボンベイの壁画-ボンベイ古代美術展より	中山 公男	〃	214	日展の工芸	五十里京平	〃 〃
竹久夢二展<京都市美術館> (美術メモ)	田中日佐夫	〃	〃	日展の書道	田宮 文平	〃 〃
中国陶磁名宝展シリーズ第11回赤絵(2)清時代<五島美術館> (美術メモ)	井口 堯	〃	〃	独立・二紀展評	植村鷹千代	〃 〃
ミリアム・バット・ヨセフ展 (美術メモ)	大島 辰雄	〃	〃	自由展評	山岸 信郎	〃 〃
合田佐和子展 (美術メモ)	麻井 久	〃	〃	ソ連絵画50年展をめぐって	木村 浩	〃 〃
春陽展・国展	田近 憲三	〃	215	中村錦平陶芸展をみて	神代雄一郎	〃 〃
日春展	中村 溪男	〃	〃	藤田慎治と宮地俊一郎の個展	植村鷹千代	〃 〃
生誕百年記念・藤島武二展	岩佐 新	〃	〃	二つの彫刻展-木村直道作品展・伊本淳個展 (美術メモ)	中村伝三郎	〃 〃
メソポタミア展をみて	水沢 澄天	〃	〃	展覧会月評 (日本画)	多田 信一	〃 210~212
日本版画協会展・モダンアート協会展	織田 達郎	〃	〃	〃 (〃)	松原 叔	〃 213~223
円心展のこと	田近 憲三	〃	〃	〃 (日本画・洋画・彫刻)	三宅正太郎	〃 210~223
				〃 (洋画・日本画)	田近 憲三	〃 〃
				〃 (洋画)	織田 達郎	〃 210, 215 ~ 223

定期刊行物所載文献

展覧会月評(洋画)	真木 忍	三 彩	211~214	吉原英雄個展	岡田 隆彦	美術手帖	281
〃 (彫刻)	中村伝三郎	〃	211	ハンス・ベルメール展	〃	〃	〃
〃 (〃)	野村 太郎	〃	215~223	寺田武弘個展	〃	〃	282
〃 (書道)	田宮 文平	〃	210~223	伊藤隆康個展	〃	〃	〃
〃 (京阪の美術)	田中日佐夫	〃	〃	中西夏之個展	〃	〃	283
ユトリロの平和—ユトリロ展—	なだ・いなだ	中央公論	(6)	宮脇愛子個展	〃	〃	〃
メソポタミア展	桂 ユキ子	〃	(7)	堀義雄個展	〃	〃	〃
ジャスパー・ジョーンズ版画展	羽仁 進	〃	(9)	高橋罔夫個展	〃	〃	285
政治の季節を生きた画家たち「ソ連絵画50年展」	木村 浩	〃	(12)	加納光於個展	〃	〃	〃
自己崩壊の神話<空間から環境へ>展評	針生 一郎	デザイン批評	2	吉原治良個展	〃	〃	〃
ユーゴスラビア・アイコン展		日本美術	45	特集 第9回日本国際美術展	〃	〃	〃
抽象芸術の光源 メソポタミア展—美術の誕生	香取 忠彦	〃	〃	世界のヤンガー・ジェネレーション=四つの焦点	東野 芳明		
中川一政回顧展		〃	〃	東京=現代美術の最前線をゆく世代	針生 一郎		
律動展の新しい行き方	萩森 久朗	〃	〃	ニューヨーク=鮮烈なボーカー・フエイス	東野 芳明		
日本表現派の十周年展	三宅正太郎	〃	〃	ケルン=尖鋭な実験芸術の国際空港	秋山 邦晴		
	東山 魁夷	〃	〃	ロンドン=ミニスカートとモズ・ルックの世代	中原 佑介		
第10回日展(座談会)	鈴木 翠軒	〃	〃	小田真個展	岡田 隆彦	〃	286
	有馬 生馬	〃	〃	岡部繁夫個展	〃	〃	〃
	山崎 寛太郎	〃	〃	池田竜雄個展	〃	〃	287
	斎藤 素巖	〃	〃	樋口シン個展	〃	〃	〃
	中村 溪男	〃	〃	瓦林睦生個展	〃	〃	〃
白土会展を見て	竹田道太郎	萌 春	151	香月泰男個展	〃	〃	288
ミニチュール展を見て	坂崎 乙郎	〃	153	「戦争」展	〃	〃	〃
メソポタミア展を見て	支部 直	〃	155	野中ユリ個展	〃	〃	289
日本国際美術展雑感	細野 正信	〃	〃	金子国義個展	〃	〃	〃
日本美術院展にみる新しい波	〃	〃	159	19人のシュールレアリスト展	〃	〃	291
第31回新制作展(日本画)	永井 信一	〃	160	レヴュ/個展評	三木 多聞 みづゑ		744
第10回日展の日本画	田近 憲三	〃	161	森省一郎、桑山タダスキー、岡崎和郎、高山尚、小島福次、飯田昭二	〃	〃	745
第10回日展日本画評	永井 信一	〃	〃	レヴュ/個展評	〃	〃	746
	陰里 鉄郎	〃	〃	芝田米三、奥谷博、福井良之助、志賀健蔵、鬼頭正人、阪本文男、山村昌明、渡辺隆次、藤田武、関川都、原武典、御園唯雄、Shadow Space、響響、富田克、熊坂兌子、青木洋、矢島甲子夫	〃	〃	746
	細野 正信	〃	〃	堀内正和、井手則雄、堀川恭、井上平八郎、富樫一、島村三男、稲葉治夫、北村益、因藤寿、松本陽子、島	〃	〃	746
	本誌・猪木	〃	〃				
第10回日展の工芸美術をみて	北村 由雄	〃	〃				
現代イタリア美術展	林 紀一郎	美術グラフィ	16の9				
第10回日展・今年の日本画	菊地芳一郎	〃	16の11				
栄利秋個展	岡田 隆彦	美術手帖	278				
東真美個展	〃	〃	〃				
渡辺隆次個展	〃	〃	279				
森省一郎個展	〃	〃	〃				
藤田武個展	〃	〃	〃				
山村昌明個展	〃	〃	280				
馬場彬にもかかわらず微笑む展	〃	〃	〃				

田章三、難波田史
男、木村嘉子、季
純晏、池田満寿夫、
馬場彬、吉仲太造
川口精六、柳瀬正
代

レヴュ／個展評 三木 多聞 みづゑ 747

吉村益信、伊藤隆
康、岡田博、杉全
直、渡辺恂三、吉
岡弘昭、能仲ヤツ
ヲ、吉野辰海、吉
原英進、藤沢アイ
寺田武弘、中村宏
駒込繁芳、山本蘭
村

レヴュ／個展評

宮脇愛子、森本紀久子、田中稔之、松本宏、平松輝子、尼野和三、篠原佳尾、五十嵐芳三、李世得、小川阿屋子、辻岡道彦、臼田宏、渡辺昌明、内田信、村上泰造	カ	カ	748
---	---	---	-----

レヴュ／個展評
加納光於、吉原治
良、中西夏之、山
本貞、上野実、三
岸黄太、石橋幸子
福島瑞穂、山口牧
生、菅原二郎、柳
新也、司修、能仲
ヤツチ、赤坂三好
バット・ヨザフ

レ ヴェ／個展評

白根光夫、高橋由明、榎戸庄衛、佐藤亜土、前山忠丸、本耕、大沢昌助、香月泰男、大歳克衛、高橋遼夫、市瀬竹土、若松光一郎、池下昌徳、大村義信、柏原えつとむ、永原達郎、片山未加、鈴木実久保孝雄遺作展、ハリイ・アルパート・ハボ、福島忠

レ ヴェ／個展評

小田 襄	岸田 克二	〃	〃	751
村松 達也	和田 義正			
加藤 昭男	橋本 正司			
田中 阿喜良	岡田 竜男			
福井 昭雄	部 繁夫			
佐藤 陽子	古賀 猛			
牛島 憲一	齋藤 寿一			
松村 之	岩崎 鐸			
津田 亜紀	定 育			
射影 空間展				

レヴュ／個展評

庫田姦、宮崎進、 中根寛、小松崎邦 雄、進藤蕃、瓦林 腔生、桑山忠明、 山本圭吾、飯塚八 郎、下田悌二郎、 山内秀臣、新国喜 代子、高木康夫、	〃	〃	752
--	---	---	-----

内田信、阪本基義
古賀喜久男、樋口
シン、関敏、川田
清、栃木順子、中
林忠良、稲田年行

レヴュ／個展評 三木 多聞 みづゑ 753

高井貞二、桑田道夫、浅野弥衛、杉全直、シエル美術展、管木志雄、鈴木慶則、吉岡弘昭、山本一郎、斎藤智中村善種、某団個展、VAVAグループ展、秋山静、富張広司、矢嶋美枝子、彫刻8月展

レヴュ／個展評

小島信明、小野木
学、野中ユリ、細
木茂子、藤沢典明
神近昭、植松貞治
落合久美子、深沢
幸雄、稲田三郎、
甲斐サチ、木村茂
福地靖、新宮晋、
金子園義、石井義
雄、山田彊一、飯
田昭二、前田守一
鈴木慶三

レヴェ／個展評 755

早川重章、千田高詩、岩間正男、清川泰次、秀島由己男、森口宏一、田中繁一、村上善男、八田豊、樫尾正次、久保晃、沢村美佐子、藤川濃三、五月女幸雄、宮崎精

芸術化された光「芸術・光・芸術」展を
みて 中原 佑介 745

東京国際版画ビエンナーレ展への提言
＜座談会＞

久保貞次郎
萩原 英雄
油田満寿夫

745

2つの古代美術展を
みる 江上 波夫 748

三つの国際美術展 〃 755

サンパウロ・ピエ
ンナーレ 久保貞次郎

'67 グッゲンハイム国際展 中原 佑介

パリ青年ビエンナーレ 江原 順

展覽會批評（主要新聞）

東京版画ビエンナーレ展 小川 記者 朝日夕刊 1.10

フォンタナ新作展
一動的な表現に捨て
がたい魅力—

朝 日 1.25

「ルネサンス・ミニ
アチュール」展を見 三輪 福松 々 2.1

フィンランド建築展	々	2.4
-----------	---	-----

定期刊行物所載文献

斎藤寿一の銅版画 —力強い奔放さ—	朝	日	2.9	宮本三郎作品展など	朝日夕刊	6.9
吉原英雄の石版画— 明快な自己の告白	〃	〃	〃	小田裏個展	〃	6.12
熊谷守一個展	〃	〃	2.13	田中阿喜良個展	〃	〃
東方美術協会展—新 しい方向を探る—	〃	〃	〃	三つの絵画個展「橋 本、池田、仲田」	朝	日 6.15
現代ポーランド版画 展—内省的なイメー ジ—	〃	〃	2.18	トルコ洞窟教会壁画 展	朝日夕刊	6.16
中川一政展	〃	〃	2.20	海老原喜之助—力強 い生命感—	〃	6.20
ドラム展—ふっくら した情感—	〃	〃	2.23	木内克展—適度な装 飾性—	〃	〃
杉全直個展	〃	〃	3.4	山口薫展—青春への 挽歌—	〃	〃
吉村益信展	〃	〃	〃	牛島憲之助近作展	〃	6.23
ユーゴスラビア・イ コン展によせて—生 きているアイコン	柳 宗玄	〃	3.9	エミリオ・グレコ展	〃	〃
五十嵐芳三彫刻展	〃	〃	3.10	清流会展から	〃	6.29
日本現代彫刻展	〃	〃	〃	互林睦生個展から	〃	7.7
「ユーゴスラビア・ アイコン展」を見て	三雲祥之助	朝日夕刊	3.15	太陽展	〃	7.11
岡鹿之助の素描—強 固な構力—	朝	日	3.16	ジャスパー・ジョー ンズ版画展	〃	7.14
浜口陽三展—静かで 密度の高い表現—	〃	〃	〃	ブルーノ・サエッテ ィ展	〃	〃
アメリカ・モダンア ート展	〃	〃	3.30	庫田發油絵個展	〃	7.18
ロダン素描展	〃	〃	〃	管井汲石版画展	〃	7.18
郷愁そそる福田豊四 郎の個展	〃	〃	3.31	大観芸術の見どころ	久富 貢	7.20
連翹会展	〃	〃	〃	植木茂彫刻展	〃	7.22
木内克彫刻展	〃	〃	4.5	樋口シン展	〃	7.22
クーチュリエ彫刻展	〃	〃	〃	桑山忠明展	〃	8.2
日本版画協会の版画 展	〃	〃	4.12	「ピントーリ作品展」 から	〃	8.5
日春展	〃	〃	4.18	杉全直のカラージュ 展	〃	8.12
加納光於展	〃	〃	4.24	杉浦非水の遺作展	〃	8.19
吉原治良展	〃	〃	〃	新樹会展	〃	8.26
「ボンベイ古代美術 展」を見て	三輪 福松	〃	5.1	モンテリオール万国 博の美術展を見て	富永 惣一	9.1
春陽・国画会の版画 と彫刻	〃	〃	5.4	高井貞二個展	〃	9.2
藤島武二展を見て	河北 倫明	〃	5.8	フランス画家の作品 展から—音楽的なデ ュフィ・生命力あふ れるフサロー	〃	9.9
二つの作品展—高田 博厚、新保兵次郎油 絵展—	〃	〃	5.9	秋の公募展から「二 科・行動美術」	〃	9.12
大沢昌助個展	〃	〃	5.16	金子国義個展	〃	9.16
高橋由明個展	〃	〃	〃	小島信明個展	〃	〃
黄金の聖書展	〃	〃	5.19	野中ユリ個展	〃	〃
日本国際美術展—現 代の空間意識に迫る—	小川 記者	〃	5.25	イタリア現代美術展 によせて	本間 正義	9.20
久保孝雄遺作展	〃	〃	5.29	深沢幸雄の銅版画	〃	9.23
ブールデルの造形力 「ブールデル展」	〃	〃	〃	秋の公募展から「新 制作協会・一陽会」	〃	9.29
パリ画壇展から	〃	〃	6.2	秋の公募展から 新 制作・一水会・一陽 会	〃	10.3
パリ青年ビエンナー レ展	〃	〃	6.5	スマートな具体美術 協会展	〃	10.4
				14回日本伝統工芸展	益田 義信	10.6

第9回サンパウロ国際展に参加して	益田 義信	朝日夕刊	10.7	H・ベルメート展 —描写の確かさ—	寺田 記者	東京夕刊	2.10
木村賢太郎個展		〃	10.11	熊谷守一近作展	〃	〃	〃
島内きみ個展		〃	〃	オリエント七千年展 の名品—多彩刻線花 文鉢	小山富士夫	〃	2.13
村上善男個展		〃	〃	オリエント七千年展 の名品—彩文土器深 鉢	岡田 譲	〃	2.14
金山康壽遺作展		〃	10.14	オリエント七千年展 の名品—帝王獅子狩 図銀製皿	深井 晋司	〃	2.17
千葉勝個展		〃	〃	オリエント七千年展 の名品—一切子装飾の ある瑠璃碗	白川 一郎	〃	2.18
中川一政近作展		〃	10.21	中川一政展	寺田 記者	〃	2.21
鍋井克之個展		〃	〃	オリエント七千年展 の名品—彩文のある 高杯	曾野 寿彦	〃	2.24
宇部の現代日本彫刻 展		〃	10.23	オリエント七千年展 の名品—青銅製コブ 牛小像	城山 三郎	〃	2.28
秋の公募展から「独 立・自由美術」		〃	10.24	野見山曉治展	寺田 記者	東 京	3.10
40年の歩み「岡鹿之 助展」		〃	10.25	第4回国際青年美術 家展—モード展さな がら		東京夕刊	〃
秀島由己男個展		〃	10.28	マチス版画展	寺田 記者	〃	3.17
「近代日本の夜明け 展」をみて	大仏 次郎	〃	10.29	ロダン水彩素描展	〃	〃	〃
伊本淳彫刻展		〃	11.4	第9回アントワープ 国際彫刻ビエンナー レ国内展	〃	〃	3.24
森口宏一個展		〃	〃	日本の四季シリーズ 「春」展	〃	〃	〃
国際形象展		〃	11.11	福田豊四郎個展	〃	〃	3.31
秋の公募展から日展		〃	11.18	座談会・江 上波夫・岡 田譲・田中 澄江・三上 次男・本郷 新	東 京	4.7	
井上三綱個展		〃	〃	イラク訪問の思い出 (メソポタミア展に よせて)	三笠宮崇仁	東京夕刊	4.10
斎藤義重個展		〃	〃	メソポタミア展から (1)~(25)		東 京	4.10~ 5.15
日英の彫刻公開審査 「長岡現代美術鑑賞 展」		〃	12.1	光風会展	柳 亮	東京夕刊	4.13
革命後のソ連絵画	河北 倫明	〃	12.2	創元会展	〃	〃	〃
朝倉響子個展		〃	12.6	モダンアート展	〃	〃	〃
中本達也個展		〃	〃	オリエント七千年展に ふれて—完成された 抽象芸術の世界—	村松 剛	〃	4.23
福井良之助個展		〃	〃	「ボンベイ古代美術 展」をみて	宮本 三郎	〃	4.27
ダーカンジェロ個展		〃	12.6	高山辰雄・香月泰男 展	寺田 千壘	東 京	4.28
「古代イタリア美術 展」によせて	摩寿意善郎	〃	12.8	国展	〃	東京夕刊	5.4
フランス近代絵画展 の印象	嘉門 安雄	〃	12.9	春陽展	〃	〃	〃
辻晋堂・八木一夫展		〃	12.11	メソポタミアの美術	深井 晋司	東 京	5.6
安井賞候補新人展		〃	12.23	高田博厚彫刻展	寺田 千壘	東京夕刊	5.12
岩田順三個展	(杉)	東 京	1.14	向井潤吉油彩展	寺田 千壘	東京夕刊	5.12
グループ「レール展」	〃	〃	〃	「メソポタミア展」 をみて	谷川 徹三	〃	5.13
萩森公馨個展	〃	〃	〃				
ピカソ版画展	寺田 記者	東京夕刊	〃				
堀内正和彫刻展	〃	〃	〃				
5回東京国際版画ビ エンナーレ展を見て	坂崎 乙郎	〃	1.16				
風景で技量競う「パ リ展」	寺田 記者	〃	1.19				
川口精六個展	〃	〃	1.20				
二つの池田満寿夫展	〃	〃	〃				
小野彦三郎個展	〃	〃	1.27				
疑問を残すフォンタ ナ展	〃	〃	〃				
10回安井賞候補新人 展	〃	〃	2.3				
ルネサンス・ミニア チュール展	〃	〃	2.3				

定期刊行物所載文献

藤島武二展	寺田 千壘	〃	5.19	独立・二紀・自由美術展をみて	坂崎 乙郎	〃	10.24
メソポタミアの逸品 —絵文字に魅力—	朝井 閑右衛門	〃	5.22	田中佐一郎遺作展	寺田 千壘	〃	10.27
第9回日本国際美術展をみて	坂崎 乙郎	東京	5.25	中村彝展	〃	〃	〃
久保孝雄遺作展	寺田 千壘	東京夕刊	5.26	吉田芳夫彫刻展	〃	〃	〃
ブールデル展	〃	〃	〃	近代日本画名作展	〃	〃	11.9
メソポタミア展に考える	村松 剛	〃	5.29	ソ連絵画年50展	〃	〃	〃
金子徳衛個展	寺田 千壘	〃	6.2	カトラン展	〃	〃	11.10
パリ画壇展	〃	〃	〃	第17回檀会展	〃	〃	〃
第17回未更会展	〃	〃	6.9	第6回国際形象展	〃	〃	〃
宮本三郎個展	〃	〃	〃	井上三綱展	〃	〃	11.17
岩崎鐸個展	〃	〃	6.17	カシニヨール個展	〃	〃	〃
仲田好江個展	〃	〃	〃	芝田米三個展	〃	〃	〃
海老原喜之助展	〃	〃	6.20	日展の工芸と書をみて	岡田 裏	〃	11.21
山口薫展	〃	〃	〃	デュフィ回顧展から	宮本 三郎	〃	11.23
田中阿喜良展	〃	〃	6.25	朝倉響子個展	寺田 千壘	〃	11.24
原勝郎遺作展	〃	〃	6.30	岡鹿之助展	〃	〃	〃
ブリノー・サエッティ展	〃	〃	6.30	関根正二・輝光展 —重圧感をもつ異色の画風—	寺田 千壘	〃	12.2
第4回太陽展	〃	東京	7.7	藤田金之助展—失明画家が氣力の制作展	〃	〃	12.7
庫田登個展	〃	東京夕刊	7.12	福井良之助個展	寺田 千壘	〃	12.8
野口謙蔵遺作展	〃	〃	〃	地主徳助油絵個展	〃	〃	12.15
互林睦生個展	〃	〃	7.14	フランス近代絵画展	〃	〃	〃
大観生誕100年展	〃	〃	7.28	長谷川昇回顧展	田近 憲三	日 経	1.20
宮崎進個展	〃	〃	〃	イタリア・ミニアチュールの真価	辻 茂	〃	1.21
近代日本画の150年展	〃	〃	8.4	熊谷九寿展—男性的な明るさ—	田辺 憲三	〃	2.17
小山正太郎水彩展	〃	〃	〃	森会展—新鮮な作品ぞろい—	〃	〃	〃
十一会展	〃	〃	8.11	中川一政展	〃	〃	2.21
ルノワール展	〃	〃	〃	二つの東西交流展 「オリエント七千年展・東西文化交渉資料展」	(R)	〃	3.1
堀口泰造展	〃	〃	8.18	杉全直展—快活な語りかけ—	田近 憲三	〃	3.4
杉浦非水遺作展	〃	〃	〃	南画院展—回復した情熱—	〃	〃	〃
畦地梅太郎版画展	〃	〃	8.22	新世紀展	〃	〃	3.11
第21回新樹会展	〃	〃	〃	美術文化展	〃	〃	〃
現代イタリア美術展をみて	坂崎 乙郎	〃	9.19	示現会	〃	〃	3.24
中村直人展	寺田 千壘	〃	9.22	日本版画協会展	〃	〃	4.8
メキシコ美術展	〃	〃	〃	モダンアート展	〃	〃	〃
墨の国展をみて	田辺 憲三	〃	9.25	日春展	〃	〃	4.12
児島善三郎「花と壺」展	寺田 千壘	〃	9.29	国画会展	〃	〃	4.28
一陽会展	植村鷹千代	〃	10.5	春陽会	〃	〃	5.2
新制作展	〃	〃	〃	東光会	〃	〃	〃
一水会展	〃	〃	〃	河井寅次郎遺作展	(R)	〃	5.5
木村賢太郎石彫展	寺田 千壘	〃	10.6	メソポタミア展	曾野 寿彦	〃	5.20
島内きみ個展	〃	〃	〃	「日本国際美術展」をみて	植村鷹千代	〃	5.23
森清治個展	〃	〃	10.13				
金山康喜遺作展	〃	〃	〃				
五人の会展(中谷泰、中村徳三郎、村山密、藤井令太郎、南大路一)	〃	〃	10.20				
中川一政近作展	寺田 千壘	東京夕刊	10.20				

ソ連で「近代日本画名作展」開く	井沢特派員	〃	6.7	熊谷守一近作展	安井 記者	毎 日	2.16
太平洋美術展	田近 憲三	日 経	6.8	中川一政個展		〃	2.21
女流画家協会展	〃	〃	〃	安井賞候補新人展		毎日夕刊	2.22
宮本三郎作品展	〃	〃	6.10	ルネサンス・ミニアチュール展		毎 日	3.1
主体美術展	〃	〃	6.14	吉村益信とアン・トルーイット展	安井 記者	〃	3.6
新興展	〃	〃	〃	ユトリロ展への招待	川口松太郎	毎日夕刊	3.20
海老原喜之助展	植村鷹千代	〃	6.21	〃	文野 朋子	毎 日	3.24
山口薫展	〃	〃	〃	〃	開高 健	〃	3.25
「近代日本画名作展」に出席して	河北 倫明	〃	6.29	〃	角田 房子	〃	3.27
奇妙な *里帰り展、	(D)	〃	7.12	ユーゴスラビア・アイコン展	高階 秀爾	〃	〃
十一会展評	田近 憲三	〃	8.11	ユトリロ展への招待	今道 潤三	〃	3.28
ルノワール展	高階 秀爾	〃	8.15	〃	森 英恵	〃	3.30
立軌展	田近 憲三	〃	8.18	〃	町 春草	〃	3.31
近代日本画の150年展		〃	8.22	中西夏之個展	安井 記者	〃	4.7
新樹会展	田近 憲三	〃	8.26	宮脇受子個展	〃	〃	〃
独立十人の会展	〃	〃	〃	ユトリロ芸術の周辺	柴田南雄・浅利慶太・安井収蔵記者	毎日夕刊	4.8
行動美術展	〃	〃	9.7	日春展一組織にしばられる日本画一	安井 記者	毎 日	4.11
二科展	〃	〃	〃	「人間国宝新作展」によせて	杉原 信彦	毎日夕刊	4.14
院展	〃	〃	9.9	酔っ払いユトリロ	高原 四郎	毎 日	4.16
デュフィ展二つ	(G)	〃	9.12	川上澄生展		〃	4.21
現代イタリア美術展	井関 正昭	〃	9.15	鍋井克之展		〃	4.27
新制作展評	田近 憲三	〃	9.30	ユトリロとモンマルトルの今昔 下	荻須 高德	毎日夕刊	5.2
一水会展・一陽会展	〃	〃	10.3	円の芸術・吉原治良展	安井 記者	毎 日	5.4
近世洋画名作展	(R)	〃	〃	河井寛次郎遺作展によせて	浜田 庄可	毎日夕刊	〃
独立美術展	田近 憲三	〃	10.20	国画展評	土方 定一	〃	5.6
二紀・自由美術展	〃	〃	10.24	春陽会展評	〃	〃	〃
ソ連絵画50年展	座談会・ネドシビン・イワノフ・カバチエツク・宮本三郎・林武・木村浩	〃	11.2	9回日本国際美術展から (1)	真鍋 博	毎 日	5.8
古代イタリア美術展	(T)	〃	11.14	〃 (2)	飯沢 匡	〃	5.9
日展(洋画・彫刻)	田近 憲三	〃	11.15	新保兵次郎展		〃	〃
日展(工芸)	田近 憲三	〃	11.16	大沢昌助展	安井 記者	〃	5.10
フランス近代絵画展	(T)	〃	12.19	9回日本国際美術展から (3)	岩田 藤七	〃	5.11
第5回東京国際版画展によせて	嘉門 安雄	毎 日	1.10	〃 (4)	羽仁 進	〃	5.12
美術の都を描く「パリ展」		〃	1.18	〃 (5)	芝木 好子	〃	5.13
よき時代の風物一「パリ展」	安井 収蔵記者	〃	〃	〃 (6)	秋山 邦晴	〃	5.15
ルチオ・フォンタナ展	安井 記者	〃	1.24	〃 (7)	篠田 桃紅	〃	5.16
小野彦三郎個展	〃	〃	1.26	〃 (8)	剣持 勇	〃	5.17
島田省三個展	〃	〃	〃	日本国際美術展を見る (1)	富永 惣一	〃	5.19
豊田一男個展	〃	〃	〃	〃 (2)	瀬木 慎一	〃	5.20
ユトリロ展 パリの詩と心	安井 収蔵記者	毎日夕刊	1.30	〃 (3)	久保貞次郎	〃	5.22
2回昭和会展		毎 日	2.7	第9回日本国際美術展一受賞の人々と作品一	土方 定一	〃	〃
東西文化交渉資料展(画廊)		〃	2.8				

定期刊行物所載文献

日本国際美術展を見る (4)	河北 倫明	毎 日	5.23	パリの荻須高德近作展		毎日夕刊	11.1
日本の美術界の印象 —国際美術展三人の 外国審査員—	ミシェル・ ラゴン、ヤ ッシャ・ラ イハート、 モールス・ クックマン	毎日夕刊	5.30	伊本淳彫刻展	安井 記者	〃	10.26
鈴木治個展		毎 日	6.5	霞光・関根正二展 —西洋の近代絵画—		〃	11.9
宮本三郎個展	嘉門 安雄	〃	6.6	古代イタリア美術展 をみて	谷川 徹三	〃	11.14
近代日本の版画展		〃	6.9	デュフィ回顧展		〃	11.15
近作40点 田中阿喜 良個展		毎日夕刊	6.13	秋の公募展から「日 展」		〃	11.16
海老原喜之助展		〃	6.23	第6回国際形象展	安井 記者	〃	〃
ジャスパー・ジョー ンズ展	安井 記者	〃	7.18	岡鹿之助画業50年記 念展		〃	11.17
野口謙蔵遺作展		〃	7.22	日展散歩 日本画・ 洋画・彫刻評	土方 定一	〃	〃
木彫の「樋口シン展」	加藤 記者	〃	7.26	斎藤義重展—アバン ギャルド作家のせつ ない現実—		〃	11.28
ガエタニエッロ彫刻 展	安井 記者	〃	7.27	デュフィの「心の遠 近法」	穴沢 一夫	毎 日	11.29
宮崎進展		〃	7.28	12年ぶり「朝倉響子 展」	安井 記者	毎日夕刊	11.30
ルノワール展		〃	7.31	片岡球子展	〃	〃	12.1
ピントーリ作品展	安井 記者	〃	〃	日展の工芸	〃	〃	12.4
ルノワール展への招 待 ①	荒木 道子	〃	8.5	デュフィの魅力—そ の回顧展から—	中山 公男	〃	12.5
〃 ②	水原秋桜子	〃	8.7	アラン・ダーガンジ ェロ展	安井 記者	〃	12.7
香月泰男の回顧展		〃	〃	フランス近代絵画展		〃	12.8
ルノワール展への招 待 ③	大竹 省二	〃	8.9	「生活の中の美」展 (画廊)		〃	12.13
〃 ④	遠山 慶子	〃	8.10	不思議な国のアート 展	安井 記者	〃	12.19
〃 ⑤	清水多嘉示	〃	8.11	辻晋堂・八木一夫展	〃	〃	12.21
ルノワール展に寄せ て	大島 辰雄	〃	8.14	池田満寿夫の展覧会 二つ	(丈)	読売夕刊	1.16
近代日本の水彩と素 描展	安井 記者	毎 日	8.22	豊田一男展	(丈)	〃	23
大観生誕百年展	〃	毎日夕刊	8.25	難波田史男個展	(丈)	〃	〃
高井貞二展	高階 秀爾	〃	8.31	国際青年美術家展 —大賞候補作しほ る—		〃	1.25
デュフィ展	安井 記者	〃	9.12	二元会展		〃	2.7
二人のリヨン派展		〃	9.13	低調な新人賞展	(丈)	〃	2.8
日本美術・二科・行 動美術展評	土方 定一	〃	9.16	あやしい魅力ベルメ ール展	(丈)	〃	2.11
岩田藤七回顧展		〃	9.19	熊谷守一近代作展	(丈)	〃	〃
中村直人展	安井 記者	〃	9.20	4 回国際青年美術家 展に寄せて	東野 芳明	〃	2.18
重田良一展	〃	〃	9.23	中川一政展	(丈)	〃	2.21
木村賢太郎展	〃	〃	9.30	ドラム展—変容しつ づけた画家—	(丈)	〃	2.28
新制作協会・一陽会 ・一水会展評	土方 定一	〃	10.2	ボンベイ古代美術展 によせて	呉 茂一	〃	2.6
光と音と動く造型 「具体美術展」	安井 記者	〃	10.13	第4回国際青年美術 家展	(丈)	〃	3.7
現代イタリア美術展	〃	〃	10.14	ユーゴスラビア・イ コン展—力強い初期 作品		〃	3.13
第2回現代日本彫刻 展をみて	三木 多聞	〃	10.17				
千葉勝個展	安井 記者	〃	〃				
小川博史展	〃	〃	10.20				
独立・二紀・自由美 術展評	土方 定一	〃	10.23				

よみがえるポンペイ 「ポンペイ古代美術 展」	高階 秀爾	読売夕刊	3.20 ~22・27 ~29・31	ソ連展をみて	野々村一雄	読売夕刊	6.7
ユトリロ展	(丈)	〃	4.1	宮本三郎作品展	(丈)	〃	6.9
ポンペイ古代美術展		読 売	3.31	田中阿喜良展	〃	〃	6.12
幻のうたげ「ポンペ イ展」	1 富永 惣一	読売夕刊	4.3	海老原喜之助展	〃	〃	6.20
〃	2 中川 一政	〃	4.4	山口薫展	〃	〃	〃
〃	3 川口松太郎	〃	4.5	ブルーノ・サエッテ ィ展	〃	〃	6.30
〃	4 大仏 次郎	〃	4.6	互林睦生個展	〃	〃	7.5
クーチュリエ彫刻展	(丈)	〃	4.7	ジャスパール・ジョン ズ版画展	〃	〃	7.10
バット・ヨセフ展	〃	〃	〃	管井汲の「石版画」 展	〃	〃	7.17
宮脇愛子展	〃	〃	〃	フランス「19世紀の 巨匠展」	〃	〃	〃
幻のうたげ「ポンペ イ展」	5 生方たつえ	〃	4.8	庫田毅個展	〃	〃	7.21
〃	6 三上 次男	〃	4.10	寺田竹雄近作展	〃	〃	〃
〃	7 江藤 淳	〃	4.11	香月泰男展	〃	〃	8.14
〃	8 杉森 久英	〃	4.12	ルノワール展	〃	〃	8.18
〃	9 谷川 徹三	〃	4.13	1967年「日宣美展」	〃	〃	8.21
〃	10 木内 克	〃	4.14	高井貞二展	〃	〃	9.1
日春展	(丈)	〃	4.17	高間惣七油絵展	〃	〃	〃
北斎展	〃	〃	〃	秋の団体展	田中 記者	〃	9.9
グラフィック・アー ト・USA展	栗津 潔	〃	4.22	デュフィ展	(丈)	〃	9.11
美術界二話題 寺崎 武男展と戦没者慰霊 碑		〃	4.25	メキシコ美術展	〃	〃	9.16
加納光於展		〃	4.26	祭々会展		〃	9.18
吉原治良展一門の連 作	(丈)	〃	〃	中村直人展	坂崎 乙郎	〃	9.20
	座談会 A ・デ・フラン チシース、 田中美知太 郎、井上靖、 穴沢一夫、 平山文化部 長 他	〃	4.29	現代イタリア美術展	中原 佑介	読 売	9.21
ポンペイ展をどう見 るか		〃	〃	深沢幸雄銅版画個展		読売夕刊	9.26
アボカリプス 黙示録と現代(黄金 の聖書展に寄せて)	遠藤 周作	〃	5.6	藤沢典明近作油絵展		〃	〃
佐藤大寛氏が作品展		〃	5.10	里見勝蔵近作展	(丈)	〃	9.29
「黄金の聖書展」を みて	大岡 信	〃	5.13	チベットの秘宝展を 見る	中村 哲	読 売	10.2
*ミクロの世界、を 楽しむ二つの展覧会 「ミクロの芸術展・ ちいさなちいさな展 覧会」		〃	5.22	「団体展」第二陣か ら一水会・新制作・ 一陽会	(丈)	読売夕刊	10.3
ポンペイ展をみて	永井 路子	〃	5.23	第19回具体美術展	〃	〃	10.10
第9回の「日本国際 美術展」	(丈)	〃	5.26	金山康喜遺作展	〃	〃	10.17
鈴木治個展	(丈)	〃	5.29	中野淳滯欧作品展	〃	〃	〃
ブールデル展	〃	〃	〃	中村彝遺作展		読 売	10.19
桃山の茶道名宝展を みて	林屋 晴三	〃	6.2	独立・二紀・自由美 術展	(丈)	読売夕刊	10.21
異色の試み「日本の 素描」展	(丈)	〃	6.6	中川一政近作展		読 売	10.26
「近代日本の版画」展	〃	〃	〃	幻の戦争名画展	(丈)	読売夕刊	10.27
				伊本淳彫刻展		〃	11.1
				秀島由己男個展		〃	〃
				国際形象展	(丈)	〃	11.11
				四つの美術展をみて 「ソ連絵画50年展、デ ィフィ展、古代イタ リア展、ソ連公開記 念近代日本名作展」	坂崎 乙郎	読 売	11.16
				異色の個展三つ「勝 本富士雄、星崎孝之 助、井上三綱」	(丈)	読売夕刊	11.17
				岡鹿之助展	〃	〃	11.21
				第10回日展から	〃	〃	11.29

定期刊行物所載文献

ダーカンジェロ展 一都市の無限感と空 虚感—	(丈)	読売夕刊	12.4	福沢忠夫個展	京 都	3.18
フランス近代絵画展	〃	〃	12.7	藤本建直個展	〃	〃
朝倉響子個展	〃	〃	12.8	モーリス・ユトリロ 展によせて	植村鷹千代	〃
中本達也展	〃	〃	〃	飯田教子個展	〃	3.25
池田遙邨個展	(童平)	京 都	1.21	瀬間高角個展	〃	〃
日展(日本画部)を しのぐ出品総数「京 都日本画総合展」	〃	〃	〃	和田三造個展	〃	〃
二つの画廊企画展	(杉)	〃	〃	信春時代を中心とす る長谷川等伯展	〃	3.26
石原薫個展	〃	〃	2.4	等伯と伝説—長谷川 等伯展—(1)~(5)	京都夕刊	3.28 ~4.3
田代幸俊個展	〃	〃	〃	石原薫個展	京 都	4.1
東京国際版画ビエン ナーレ展をみて	(童)	〃	〃	古代文化と新しい美 —中国の拓本展と近 代日本の絵画と工芸 展—	〃	〃
毎日選抜美術展から	(杉)	〃	〃	自由美術京都サーク ル展	〃	〃
河口竜夫個展	〃	〃	2.11	橋本典子個展	〃	〃
安井賞候補新人展を みて	(藤)	〃	〃	本郷宣彦個展	〃	〃
中尊寺秘宝展に寄せ て	今 東光	〃	2.17	長谷川等伯展	武田 恒夫	〃
第5回彩紅会展をみ て	(童平)	〃	2.18	近藤直行個展	(杉)	4.4
谷イサオ個展	〃	〃	〃	堀内正和個展	(杉)	4.8
中院紀子個展	〃	〃	〃	夢二とわたし「竹久 夢二」	陌間欣三郎	京都夕刊
「東方美術協会」旗 上げ展	〃	〃	〃	夢二展	京 都	4.10
古津三男個展	〃	〃	〃	いけばなの歴史「大 和文華館春の特別 展」	〃	4.15
平泉文化の周辺(1)~ (6)(中尊寺秘宝展)	〃	〃	2.23 ~3.14	新制作春季日本画展	〃	〃
大淵陽一個展	(藤)	〃	2.25	第14回青陶会展	〃	〃
9回牧人社作品展	(童平)	〃	〃	日本の女シリーズ	〃	〃
坂爪厚生個展	(杉)	〃	〃	平松輝子個展	〃	4.22
「第20回京都工芸美 術展」をみて	(蔵)	〃	〃	ポーランド現代版画 展に寄せて	木村 重信	〃
浜田泰介個展	(杉)	〃	〃	戴内宏一画展	〃	〃
ルネサンス・ミニア チュール展—イタリ アの中世芸術—	〃	〃	〃	第19回「京展」	〃	4.29
山田彌一画展	(杉)	京 都	〃	橋本清個展	〃	〃
「位双展」の新しき	(童)	〃	2.28	宮永理吉個展	〃	〃
「中尊寺秘宝展」を 拝観して	保田与重郎	〃	3.3	近世源氏絵展	京都夕刊	5.6
河井寛次郎コレクシ ョン「民芸展」	〃	〃	3.4	新富英典個展	〃	〃
現代アメリカのリビ ングアート展をみて	(童平)	〃	〃	東方美術協会の旗上 げ展	〃	〃
白崎明個展	〃	〃	〃	東丘社展開く	〃	〃
橋口一画展	〃	〃	〃	富樫実個展	〃	〃
村田吉男個展	〃	〃	〃	オリエント七千年展 〈調査十年の成果に ついて〉	深井 晋司	京 都
山田新一新作個展	(童)	〃	〃	秋田蘭画展	(杉)	〃
アンデパンダン展の ゆくえ	〃	〃	3.11	小田垣覚個展	〃	5.13
実験版画展	(杉)	〃	〃	榊原始更個展	(童)	〃
第2回悠采会日本画 展	(童)	〃	〃	田中吉之介図案展	〃	〃
林道夫個展	(杉)	〃	〃	鶴岡政男展	(杉)	〃
				東方美術協会旗上げ 展	(童平)	〃
				24回東丘社展	(杉)	〃

第53回光風会展	(竜平)	京 都	5.20	深尾博三個展	(竜)	京 都	7.8
萩駿個展	(杉)	〃	〃	近代日本の水彩と素描展	(F)	〃	7.14
早川勝己個展		〃	〃	第12回青塔社展	(竜平)	〃	〃
福田翠光鷹十題展	(蔵)	〃	〃	第1回光陽会全関西展		京都夕刊	〃
井上治男東京で個展 クリフトン・マク セスニー個展	(F)	〃	5.27	森口宏一個展	(杉)	〃	〃
斎藤光保個展	(杉)	〃	〃	森嶋攻個展		〃	〃
渋谷和子個展	〃	〃	〃	工藤洋司個展	(明)	京 都	7.22
19回京都陶芸家クラ ブ展	(竜平)	〃	〃	第3回主体美術展	(竜平)	〃	〃
19回モダンアート展	(杉)	〃	〃	第7回グループ生展	(竜)	〃	〃
山田新一洋画展	(蔵)	〃	〃	松村達也個展	(杉)	〃	〃
文明のあけぼの「オ リエント七千年展」		京都夕刊	5.29	現代美術の動向展	〃	〃	7.29
文明のあけぼの 20 「オリエント七千年 展」	近藤 悠三 保田与重郎 吉田 光邦	〃	6.2	杉本泰子・山本広 二人展	〃	〃	〃
内伊久個展		〃	6.3	二紀京都作家展	(竜)	〃	〃
「近代日本画の名作」 展		〃	〃	五十嵐彰雄個展		〃	8.5
第11回「全美展」	(竜)	〃	〃	第2回「関西国展」	(竜平)	〃	〃
西井正樹個展	(杉)	〃	〃	自由美術連合展	(竜)	〃	8.12
吉竹弘陶彫個展		〃	〃	高野基夫個展		〃	〃
「近代日本画の名作」 展	(竜)	〃	6.10	マーガレット・リッ グ作品展	(杉)	〃	〃
光風会京都作家展	(杉)	〃	〃	異色の近代画家たち 展		〃	8.19
関雪素描展		〃	〃	西山喬個展		〃	〃
第9回朴土グループ 展	(竜)	〃	〃	八田豊個展		〃	〃
村上内彫刻展	(竜平)	〃	〃	三津田隆子個展		〃	〃
山本正彦個展	〃	〃	〃	「異色の近代画家た ち」展		〃	8.26
池川司郎版画展		〃	6.17	奥村考個展	(杉)	〃	〃
勝田哲日本画展	(竜)	〃	〃	木代喜司個展	〃	〃	〃
第9回衣笠会日本画 展		〃	〃	グループ・グレー展	〃	〃	〃
第9回日本国際美術展 杉田		〃	〃	第21回市民美術展	(竜平)	〃	〃
野村久之個展		〃	〃	竹中三郎個展	(蔵)	〃	〃
バリ・ガザード個展		〃	〃	藤本忠彦個展	(杉)	〃	〃
岡本庄平個展	(杉)	〃	6.24	養和田益二水墨展	(竜)	〃	〃
金田辰弘個展	(竜)	〃	〃	下垣内末春個展	(杉)	〃	9.1
第20回晨鳥社展をみ て	(竜平)	〃	〃	下店莊八個展	(竜)	〃	〃
真野岩夫個展		〃	〃	1967年の日宣美展	(K)	〃	〃
和田義正個展		〃	〃	中島光明個展	(杉)	〃	〃
下高原進個展	(杉)	〃	7.1	武藤彰、東京で初個 展	(藤)	〃	〃
第2回京都市美術館 平常陳列	(竜平)	〃	〃	下津三保子個展	(杉)	〃	9.9
奈良・平安時代の壁 画展		〃	〃	第11回シェル美術賞 展	(竜平)	〃	〃
西岡義一個展		〃	〃	鉄鶏会8人の個展	(竜)	〃	〃
福田芳子個展		〃	〃	二科、行動、院展を みて	(藤)	〃	〃
漆芸四人展	(杉)	〃	7.8	野島佳浩個展	(杉)	〃	〃
奈良・平安時代の壁 画展	(明)	〃	〃	楠田信個展	〃	〃	9.16
				辻勘之個展	〃	〃	〃
				森俊三個展		〃	〃
				世界の巨匠名作展か ら「ルオー」		京都夕刊	9.19

定期刊行物所載文献

寺岡岳個展	京 都	9.30	文化財の保存と修復のための科学的研究	関野 克	月刊文化財	47
松本正司の空間展	〃	〃	うちたてコンクリート箱内に於て美術品の材料がうける影響	登石 健三 見城 敏子	保存科学	3
松本文子個展	〃	〃	文化財保存環境としての各地の大気汚染度の測定結果—大気汚染の文化財に及ぼす影響5	江本 義理 門倉 武夫	〃	〃
伊東一信個展	〃	10.14	国宝修理綺譚(真贋46)	安藤 更生	芸術新潮	214
第22回行動展をみて(竜平)	〃	〃	文様史についての覚え書1,2	吉田 光邦	被服文化	104, 105
松原祐一個展	〃	〃	文様史序説3	吉田 光邦 木村 重信 元井 能	〃	103
山本雲溪木画作品展	〃	〃	わが国における唐草模様成立1,2	西村 兵部	カラーデザイン	13—7, 8
山本圭吾個展	〃	〃	江戸時代の文様	吉村 元雄	日本美術工芸	342
伊庭伝治郎遺作展(竜平)	〃	10.17	桐の文様	中村 直勝	カラーデザイン	13—6
内田邦夫クラフト展(竜)	〃	〃	駒形	渡 辺	日本美術工芸	342
野村耕個展(杉)	〃	〃	イランの華文	〃	カラーデザイン	13—5
三尾公三個展	〃	〃	アラベスク	〃	〃	13—12
めずらしい木版画展	〃	〃	日本	〃	〃	〃
第25回パンリアル展(竜平)	〃	10.27	美術史の「発展」ということ	中野 忠明	史迹と美術	380
伊谷賢蔵自選展(竜)	〃	11.4	日本の美術史13~23	保田与重郎	芸術新潮	205~211 213~216
須田国太郎の遺作展	〃	〃	日本古代美術史序説	下店 静市	帝塚山大学紀要	2—2
第31回新制作展(竜平)	〃	〃	白鳳と天平の時代—文化史的通史への叙述の試み—	笠井 昌昭	文化学年報	16
第52回二科展(竜)	〃	11.11	薬師寺論争の経緯	町田 甲一	大和文化研究	114
宇田萩郎個展	〃	11.18	藤原時代の美術家たち 上、下	下店 静市	史迹と美術	371, 372
清水六兵衛展(F)	〃	〃	浄土教の普及とその美術	関 忠夫	月刊文化財	50
第52回二科展(竜)	〃	〃	鎌倉時代の禅宗文化	〃	〃	51
二紀自由美術展(杉)	〃	〃	室町文化とその文化財	中村直勝	〃	45
第35回独立展	〃	11.22	東山御物の美学	水尾比呂志	芸術新潮	208
赤石逸三個展	〃	11.25	町衆と武将の芸術—その葛藤と消長—	〃	古美術	16
市村実個展	〃	〃	徳川武士の芸術論—定信の「花月草紙」にみる倫理と美学	高橋 富雄	被服文化	105
30回を迎えた「老泥社」展(杉)	〃	〃	日本美術における秋草の表現	源 豊宗	帝塚山学院大学研究論集	1
早川幾忠個展	京都夕刊	12.2	「李朝実録」の美術史料抄録5	赤沢 英二	国 華	898
岡田義之輔個展	〃	〃				
第35回独立展(竜)	〃	〃				
橘昭信個展(杉)	〃	〃				
辻三郎個展	〃	〃				
辻浩個展	京 都	12.9				
勅使河原蒼風の彫刻展(竜平)	〃	〃				
三宅多喜男個展(杉)	〃	〃				
武者小路実篤近作展	〃	〃				
田中良平個展	〃	12.16				
富田敬介個展	〃	〃				
三谷幸雄個展	〃	〃				
第10回日展京都展 山田 竜平	〃	12.23				

東洋古美術文献

美術総記

美の東西 13~24	原 随園	日本美術工芸	340~351
「文化財」の由来	矢代 幸雄	月刊文化財	43
文化財の模写・模造	松下 隆章	〃	44
文化財と写真測量	牛川 喜幸	〃	50
文化財の写真記録2	登石 健三	保存科学	3

正倉院曝涼と四通の曝涼目録	栗原 治夫	大和文化研究	105
七大寺修行要略は大江の親通の撰に非ず	たなかしげひさ	仏教芸術	65
板木供養	中村 直勝	日本美術工芸	343
栃木県の文化財	渡辺 竜瑞	月刊文化財	42
赤城山	尾崎喜佐雄	〃	51
武田氏と文化財		〃	40
福井県の文化財	武藤 正典	〃	50
有田川筋の文化財	和高 伸二	〃	44
岡山県の文化財	神野 力	〃	48
香川県の文化財	杉浦 正一	〃	43
高知県の文化財総合調査	山本 信吉	〃	47
佐賀の文化財	木下 之治	〃	46
永福寺二階堂の本尊について	斗鬼 信男 鎌 倉	16	
東大寺と興福寺の復興	関 忠夫	月刊文化財	49
唐招提寺関係美術文献目録	岩本 次郎	仏教芸術	64
古市の西林寺の興亡と変貌	田中 重久	古代学	14—1
大乘寺—古寺巡礼—	橋本 綾子	仏教芸術	65
おのみち浄土寺とその周辺	財間 八郎	古美術	18
出雲の鯛淵寺	佐藤 昭夫	〃	19
相見香雨翁回想録 1, 2	山内長三編	〃	18, 20
中国・その他			
新中国に見た古典芸術と現代—美術と工芸について—	佐野 猛夫	京都市立美術大学研究紀要	12
スマトラ美術調査紀行	佐和 隆研	仏教芸術	66
冥想と造形—インド美術における一つの基礎概念—	肥塚 隆	南都仏教	20
パーラ時代の美術概感	山本 智教	密教文化	79
東パキスタンの仏教遺跡	村主 恵快	仏教芸術	65
1965年イラン・アフガニスタン・パキスタン学術調査予報	同調査隊	東方学報(京都)	38
メソポタミアの美術	杉山 二郎	月刊文化財	44
メソポタミア文明の起源について	曾野 寿彦	ミュージアム	193
紀元前後のメソポタミア	深井 晋司	〃	〃
メソポタミアの古代都市	堀内 清治	〃	〃

メソポタミアにおけるイスラム文化	黒田 和彦	ミュージアム	193
メソポタミア遺跡地図		〃	〃
メソポタミア考古学文献解題—メソポタミア美術を理解するために—	松谷 敏雄	〃	〃
抽象芸術の光源—美術の誕生—メソポタミア展	香取 忠彦	日本美術	45
二つの古代美術展を見る—ボンベイ展とメソポタミア展—	江上 波夫	みづゑ	748

絵 画

古美術用語解説絵画篇2, 3	鶯塚 泰光	古美術	16, 17
月の絵画の歴史	〃	三 彩	220
飛泉頌	細野 正信	〃	218
墨松	衛藤 駿	日本美術工芸	340
墨竹	金沢 弘	〃	〃
日本			
剽窃のすすめ—日本美術の伝統とはなにか—	田中 穰	みづゑ	751
ポール・ゴーガンと日本絵画—ゴーガンの所有せるジャボネズリー数種の紹介に関連して—	池上 忠治	美術史	65
在米日本古美術傑作抄	鈴木 進	芸術新潮	210
室町時代の日本人は中国絵画をどのように受けとめたか—素描的な見透し—上、下	蓮実 重康	美学	68, 69
室町時代の山水画	山岡 泰造	〃	71
墨梅—室町水墨画の梅図について—	中村 溪男	日本美術工芸	340
桃山時代の町絵と琳派様式の形式	村重 寧	美術史研究	5
近世絵画の洋風写生	村田慶之輔	萌 春	160
金沢文庫本「諸尊佛像集」について	浜田 隆	金沢文庫研究	139
唐招提寺の仏画について	佐和 隆研	仏教芸術	64
高野山*聖衆来迎図*の歴史的背景—常行三昧から聖衆来迎へ	浜田 隆	ミュージアム	191
弥勒来迎図 解説 浅田長平氏蔵	宮 次男	美術研究	250
仁平三年銘の持光寺蔵普賢延命菩薩絵像	柳沢 孝	〃	254
鹿島市誕生院の什宝二例—八字文殊像—	岡崎 譲治 平田 寛	大和文化研究	112

定期刊行物所載文献

新出の大威徳明王像	高崎富士彦	古美術	20	国宝山水屏風	浜田 隆	ミュージアム	196
熊野曼荼羅と修験信仰	鈴木 昭英	仏教芸術	66	日月山水図小考	小山 清男	萌 春	159
法隆寺金堂壁面の模写	服部 雄三	芸術新潮	207	四季耕作図屏風に	橘崎 宗重	国 華	899
有田浄明寺多宝塔の壁面について	和高 伸二	大和文化研究	115	四季花鳥図屏風	武田 恒夫	〃	909
				洛中洛外図屏風	〃	〃	906
宇治橋姫物語絵巻住吉如慶筆	橘崎 宗重	国 華	907	吉野山花見図屏風	鷲塚 泰光	古美術	20
餓鬼草子一卷	切畑 健	古美術	16	扇面流し	武田 恒夫	日本美術工芸	347
賀茂競馬絵巻について	山口桂三郎	浮世絵芸術	〃	南禅寺本坊障壁面に	山根 有三	国 華	902
北野天神縁起の史実とフィクション	坂本 太郎	月刊文化財	41	関する従来の研究とその問題点	小林 忠	〃	〃
伊保庄本北野天神縁起	宮 次男	古美術	18	南禅寺本坊大方丈障壁面の現状と復元	辻 惟雄	〃	903
華嚴絵巻	白洲 正子	〃	16	南禅寺本坊大方丈障壁面の様式および筆者について	水尾比呂志	〃	〃
本学所蔵源氏物語絵詞について	玉上 琢弥	女子大国文	19	南禅寺本坊小方丈の障壁面について	山口 蓬春	萌 春	154
後三年合戦絵巻	宮 次男	日本美術工芸	348	桃山時代の障壁面の技法について	菊地 貞夫	国立博物館ニュース	242~247
後三年合戦絵巻をめぐる二・三の問題上、下	〃	美術研究	251, 254	浮世絵の作家1~6	江馬 務	浮世絵芸術	16
後三年合戦絵巻とその思想	河野 秀男	日本歴史	228	肉筆浮世絵の再評価	針生 一郎	芸術生活	217
信貴山縁起絵巻と鳥羽僧正覚猷の問題	笠井 昌昭	人文学	100	合巻の美術1, 2	鈴木 重三	都立日比谷図書館報	85, 86
信貴山縁起絵巻・尼公の巻。の考察—統一飛倉の巻。のモチーフについて—	〃	文化史学	22	民衆版画考	小野 忠重	東京芸大美術学部紀要	3
金沢文庫本「善財童子縁起」	真保 亨	金沢文庫研究	140	大津絵考	塩見 青嵐	茶道雑誌	31—11
東征伝絵について	切畑 健	仏教芸術	64	長崎派美術の流れ	越中 哲也	萌 春	154
徳川美術館蔵「はいずみ物語絵巻」の詞書について	寺本 直彦	青山学院大一般教育部会論集	8	洋風画の背景 上—朱子学における窮理の思想を中心として	横田 博因	ミュージアム	195
平治絵巻六波羅合戦巻詞書の断簡について—併せて現存三巻の書蹟に及ぶ—	田村 悦子	美術研究	252	シーボルトとその周辺の画家たち	小野 忠重	みづゑ	754
「病草紙」の医学的価値	平沢 正夫	芸術生活	217	江戸の洋画家	〃	三 彩	210
装飾経	白畑 よし	月刊文化財	47	亜欧堂田善	〃	〃	211
歌仙絵の二断簡	森 暢	国 華	899	雷洲・墨僊・玄々堂	〃	〃	212
称名寺律祖像に寄せて—四分律宗の宋風導入と造塔の方向	大森 順雄	金沢文庫研究	136	蓮杖と芳柳	〃	〃	213
守屋家本伝足利尊氏像の研究 上、下	荻野三七彦	国 華	906, 907	或満先生とその周辺	〃	〃	214
栗田山庄障子絵と和歌と漢詩—恵慶集と江吏部集—	熊本 守雄	国語と国文学	44—7	梅南・冬崖・篁邨	〃	〃	215
				横山松三郎の門流	〃	〃	219
				南蛮と紅毛	〃	〃	220
				紅毛画のかたち	〃	〃	904, 905
				雲谷派の人と作品 (補訂1~3)	田中 助一	国 華	907
				鳥文斎栄之筆美人図解説	橘崎 宗重	〃	905

天隠竜沢賛伝花溪蔵主山水図について	田中 一松	古美術	17	大雅の金碧山水画一蓬萊方丈図一	鈴木 進	古美術	20
鶴亭筆富嶽図	小林 忠	国華	898	池大雅筆蘭亭曲水西園雅集図屏風解説	吉沢 忠	国華	899
京伝黄表紙覚え書2~5	森 鉄三	都立日比谷図書館報	83~86	日根対山の画風と作品	冠 豊一	日本美術工芸	351
桑山玉州筆山水図屏風	吉沢 忠	国華	904	田代忠国筆の絵馬	脇田秀太郎	月刊文化財	50
写本「画苑鄙言」と「絵事鄙言」	小林 忠	ミュージアム	197	椿椿山筆蓮池遊魚図解説	吉沢 忠	国華	906
乾山筆紅梅立葵図屏風	中村 溪男	古美術	16	長谷川等伯画攷	土居 次義	〃	900
司馬江漢の消息(日本の手紙19)	菅瀬 正	〃	19	等伯の画業と法華宗一能登の妙成寺と京都の本法寺一	林屋辰三郎	〃	〃
尾形光琳 1,2	添田 達嶺	アート	15-2,3	等伯の信仰と日通上人像	橋本 綾子	〃	901
桔梗に薄波図团扇絵尾形光琳筆	中村 溪男	古美術	19	等伯・信春同人説回顧	土居 次義	三彩	215
狩野山雪と竜虎図	土居 次義	茶道雑誌	31-11	年譜	水尾比呂志	国華	901
渡辺始興筆秋冬山水図屏風	水尾比呂志	国華	899	信春画の構図について	中村 溪男	三彩	215
若冲一西福寺の襖絵を中心に一	土居 次義	日本美術工芸	342	等伯の二作品	田中 一松	国華	901
信行寺の天井絵と伊藤若冲	〃	アート	15-2	山水図襖解説 隣華蔵院	水尾比呂志	〃	900
深草の伊藤若冲	〃	茶道雑誌	31-6	山水図襖解説 円徳院・榮家蔵	武田 恒夫	〃	〃
伊藤若冲筆雪芦鴛鴦図	辻 惟雄	国華	898	山水図屏風解説 旧三島家蔵	土居 次義	〃	〃
東洲斎写楽	瀬木 慎一	古美術	20	松林図屏風解説 東京国立博物館蔵	辻 惟雄	〃	〃
これも写楽か(真贋43)	〃	芸術新潮	211	巖浪図解説 禅林寺蔵	水尾比呂志	〃	〃
周文様式の成立	源 豊宗	大和文華	46	松に黄蜀葵図解説 智積院蔵	〃	〃	〃
四季山水の変容一静嘉堂本伝周文四季山水図屏風の成立期をめぐって一	中島 純司	ミュージアム	191	竹鶴図屏風解説 入江京子氏蔵	山岡 泰造	〃	〃
浦上春琴筆崖下雉子図解説	吉沢 忠	国華	904	老松猿猴捉月図襖解説 金地院蔵	辻 惟雄	〃	〃
曾我蕭白筆群仙図屏風解説	辻 惟雄	〃	905	枯木猿猴図解説 竜泉寺蔵	武田 恒夫	〃	〃
聖興寺の蕭白一族の墓および過去帳の記載について	〃	〃	〃	長谷川信春筆恵比須大黒花鳥図三幅対解説	土居 次義	〃	907
住吉如慶筆宇治橋姫物語絵巻	橋崎 宗重	〃	907	松に童子図襖解説 両足院蔵	〃	〃	901
雪舟系花鳥図屏風研究	中島 純司	ミュージアム	199	樹下仙人図屏風解説 壬生寺蔵	山岡 泰造	〃	900
雪舟等楊における落款印章の研究	飯島 勇	東京国立博物館紀要	2	竹林七賢図屏風解説 両足院蔵	土居 次義	〃	901
雪村画の意想	衛藤 駿	大和文華	46	四愛図襖解説 如庵蔵	原田佳世子	国華	901
喜多川相説筆四季草花図	辻 惟雄	古美術	19	商山四皓覬子猪頭図襖解説 真珠庵蔵	土居 次義	〃	901
慶長末元和期の宗達扇絵の構図美一宗達絵光悦書夕顔図扇面	村重 寧	〃	16	商山四皓覬宗祖師図襖解説 天授庵蔵	〃	〃	〃
宗達の画梅	辻 惟雄	〃	20	十六羅漢図屏風解説 智積院蔵	小林 忠	〃	〃
乾山会の出来事	加瀬 藤圃	芸術新潮	216	大宝円鑑国師像解説 三玄院蔵	山川 武	〃	〃
高橋草坪筆暮山烟雨図解説	小林 忠	国華	908	妙法尼寿像解説 本法寺蔵	橋本 綾子	〃	〃
依屋宗理筆紅楓図屏風解説	橋崎 宗重	〃	904				

定期刊行物所載文献

利休居士像解説 正木家蔵	山川 武 国 華	901
利休居士像解説 表千家蔵	〃 〃 〃	〃
祇園南海論 上、下	野口 武彦 文 学	35—1, 2
調馬図巻	宮 次男 古 美術	20
燕村の山水図屏風	鈴木 進 〃	19
高芙蓉筆山水画帖	吉沢 忠 国 華	905
酒井抱一筆藤原俊成山水図三幅対解説	水尾比呂志 〃	908
北斎展ノート	鈴木 進 三 彩	214
葛飾北斎肉筆画の秘密	林 竜三郎 みづゑ	749
北斎における波濤の系譜—北斎芸術の一考察	由良 哲次 浮世絵芸術	16
北斎の油絵—洋画研究と油絵「魚貝静物図」について	尾崎 周通 美術手帖	285
北斎魚介図	鈴木 重三 浮世絵芸術	16
青木木米略年譜	〃 大和文華	47
山陽著賛の木米作画	菅沼 貞三 〃 〃	〃
木米の書簡	伊藤 敏子 〃 〃	〃
久閑守景筆四季耕作図屏風	吉沢 忠 国 華	898
長沢芦雪筆遊狗図横絵	中村 溪男 古 美術	18
長沢芦雪と大月光興	益本 芦月 刀剣美術	126
中国・その他		
何斎蔵石の拓本1, 2	西川 寧 書 品	179, 185
六朝碑墓壁刻画竹林七賢図について	原田 淑人 月刊文化財	48
敦煌画阿弥陀浄土図	秋山 光和 美術研究	252
中国の文人画	堂谷 憲勇 日本美術工芸	349
東洋のエクセントリック画派1~3	吉村 貞司 みづゑ	750~752
荆浩の筆法記を読む	矢代 幸雄 大和文華	46
女史箴図巻 上、下	古原 宏伸 国 華	908, 909
十六羅漢像(東博本)の様式的研究	高崎富士彦 東京国立博物館紀要	2
仲黙筆懸崖双清図解説	戸田 禎佑 美術史	65
大理国張勝温画梵像について 下	関口 正之 国 華	898
陳洪綬試論 下	古原 宏伸 美術史	64
沈周画二種一夜坐図	米沢 嘉圃 国 華	904
倣大巖山水図	〃 〃 〃	〃
陸信忠筆十王図	鈴木 敬 金沢文庫研究	136

彫 刻 附石造美術

日本

寄木造彫刻の性質	中野 忠明 史迹と美術	375
仏像の衣相	福岡 隆聖 大和文化研究	107
ほとけたち 上、下	三枝 充憲 国学院雑誌	68—11, 12
仏顔鬼面	中村 直勝 日本美術工芸	345
群に群して群て群せず	〃 〃	347
日本上代彫刻史における天平後期彫刻の位置	清水 善三 大手前女子大論集	1
貞観彫刻の美	永井 信一 萌 春	158
十世紀彫刻の諸相—彫刻における「立体感」と「量感」の問題から—	清水 善三 仏教芸術	65
平安在銘彫刻資料		
16 正法寺十一面観音立像・西音寺薬師如来坐像	水野敬三郎 ミュージアム	197
17 三千院阿弥陀三尊像	佐藤 昭夫 〃	198
18 黒石寺僧形坐像・毘沙門堂十一面観音立像	水野敬三郎 〃	199
19 鞍馬寺吉祥天立像	佐藤 昭夫 〃	200
道長の銀仏造頭修理と四天王寺の銀光背	田中 重久 古代学	13—3・4
中尊寺壇上諸仏私見	西川 新次 〃	195
川崎市能満寺の仏像について	波江 二郎 三浦古文化	2
横須賀の仏像彫刻 上、下	上杉 孝良 〃	2, 3
東寺講堂の諸尊とその密教的意義	高田 修 美術研究	253
東寺草創期の彫像	久野 健 〃	〃
唐招提寺金堂の諸尊像	小林 剛 仏教芸術	64
唐招提寺講堂の木彫像—特に伝衆宝王菩薩像について—	上原 昭一 〃	〃
横須賀における鎌倉地方仏師の事蹟について	上杉 孝良 鎌 倉	16
仏師年表—康慶・運慶・湛慶	江村 正文 史迹と美術	378
仏師経円の木製懸仏	久野 健 羽陽文化	74
仏師弘円について	三山 進 美 学	71

大仏師乗円とその造像について	佐藤 昭夫	金沢文庫研究	134	福井県丹生郡朝日町八坂神社牛頭天王像について	西川 新次	美術史	64
清水隆慶遺聞	杉山 二郎	ミュージアム	191	神像彫刻	西川杏太郎	月刊文化財	41
「円空」あれこれ	清 信重	月刊文化財	40	出羽の神像彫刻 2	武田 好吉	羽陽文化	76
金銅四十八鉢仏考 1,2	千沢 楨治	〃	189, 201	伽藍神像考—鎌倉地方の作品を中心に—	三山 進	ミュージアム	200
四十八鉢仏—その系譜について	松原 三郎	古美術	19	肖像彫刻の顔—高僧像の場合—	永井 信一	女子美術大学紀要	1
定印阿弥陀如来像をめぐる諸問題	田村 隆照	仏教芸術	65	京都常楽院十大弟子像解説	猪川 和子	美術研究	250
出羽の善光寺式三尊像 13	武田 好吉	羽陽文化	73	京都常楽院の十大弟子像と鎌倉地方の十大弟子像	〃	金沢文庫研究	131
下野那須専称寺の善光寺如来	渡辺 竜瑞	月刊文化財	50	武士俗体肖像彫刻について	三山 進	三浦古文化	3
元興寺町有の釈迦涅槃像	菊竹 淳一	大和文化研究	107	墓股脚間の蛭子大黒	山田七太郎	史迹と美術	375
「丹波国夜久野町薬師堂の天仁二年在銘釈迦如来坐像」補訂	中野 玄三	美術史	64	毛筆彫刻の実例追加	〃	〃	380
和田天養院の薬師三尊像	渋谷 二郎	三浦古文化	3	能面の旅	渡会 恵介	芸術生活	215
白鳳時代に光を与へた仏頭（発掘18）	久野 健	芸術新潮	210	浮嶋八幡・八幡石垣社・八幡竜門神社の仮面「あまえご」について	小野 一郎	大分県立芸術短大研究紀要	6
摂津宝満寺大日如来像考	和高 伸二	甲南大文学会論集	34	かしら	斎藤清二郎	日本美術工芸	341
摂津宝満寺大日如来坐像	甲南大古美術研究会	大和文化研究	105	橘派石大工とその作品	川勝政太郎	史迹と美術	379
東大寺大仏鑄造の問題点 上、下	香取 忠彦	ミュージアム	200, 201	みちのくの磨崖仏	佐藤宗太郎	古美術	20
盧舎那仏奉獻考	川副 武胤	南都仏教	20	春日山滝坂文永二年磨崖仏	太田 古朴	史迹と美術	373
重文弥勒菩薩立像称名寺蔵	前田 元重	三浦古文化	2	新発見藤原末期の二石仏と大和の石造四方仏	〃	〃	372
神光寺の聖観音立像	田中 善隆	史迹と美術	375	狛太	中村 直勝	日本美術工芸	340
祝園常念寺の聖観音と石塔	川勝政太郎	〃	371	石灯笼通説 71	川勝政太郎	茶道雑誌	31—7
妙高庵観音菩薩坐像について	三山 進	鎌倉	16	石の塔	関 忠夫	月刊文化財	41
若狭中山寺の馬頭観音像 附多田寺・長慶院の彫像	田中 義恭	ミュージアム	196	青石塔婆形式の源流上、下	藤原 良志	史迹と美術	371, 372
斑鳩寺の日光月光像	毛利 久	大和文化研究	107	宝篋印塔の二つの系列試論	川勝政太郎	〃	374
「地天鳥毘沙門」像の新研究 1~3	たなかしげひさ	史迹と美術	375~377	川勝政太郎博士の「宝篋印塔の二つの系列試論」を読んで	田岡 香逸	〃	377
北成り島・比叡山寺両毘沙門堂のトバツ天群像の関係	〃	日本歴史	234	銀金塗塔のこと—川勝博士「宝篋印塔の二つの系列試論」を読んで—	藪田嘉一郎	〃	〃
関の西と東の「地天鳥毘沙門」像	〃	金沢文庫研究	134	壇上積み式基礎考	田岡 香逸	〃	380
毘沙門天像	井上 正	国華	907	越前式宝篋印塔基礎について	増永 常雄	〃	371
弘仁寺蔵不動明王像—宿院仏師源次の作品紹介—	高井 良教 松根 孝雄	大和文化研究	111	近江宝篋印塔補遺附裝飾的系列補説	川勝政太郎	〃	380
蔵王権現像と金剛童子像	猪川 和子	美術研究	252	祝園常念寺の聖観音と石塔	〃	〃	371
三仏寺蔵王権現と胎内納入文書	猪川 和子	〃	251	和泉市妙泉寺石造多宝塔	天岸 正男	〃	378

定期刊行物所載文献

慶安元年織田長好逆 修石造宝塔—紀伊高 野山金石遺記 6—	天岸 正男	史迹と美 術	380
紀伊藤白峠地蔵寺の 石造宝篋印塔	田中 重雄	〃	379
備中清水寺の宝塔と 備前円城寺の宝篋印 塔	田岡 香逸	〃	373
宗像と京の阿弥陀経 石	景山 春樹	〃	378
埼玉県における図像 板碑の新事例につい て	石村 喜英	〃	379

中国・その他

新羅石仏の系譜—特 に新発見の軍威石窟 三尊仏を中心として	松原 三郎	美術研究	250
北魏の石仏	〃	古美術	17
唐咸亨元年銘の碑像 と地蔵像	三上 次男	古美術	18
飛来峰の華嚴仏会像 —新発見盧遮那像の源 流—	石田 尚豊	ミュージ アム	197
プラムバナンのブラ フマン像	佐和 隆研	仏教芸術	66
アンコールの遺跡群 (発掘14)	峯村 敏明	芸術新潮	206
マハーラーシュトラ の仏教 1—窟院の 形成に関連して—	塚本 啓洋	仏教史学	13—3
ガンダーラ仏教美術 の展開	小谷 伸男	史 林	50—1
ガンダーラにみられ る土偶の年代	桑山 正進	仏教芸術	66
仏伝図のある装飾石 版	杉山 二郎	古美術	18
バーミヤーンN洞発 見報告	柏瀬清一郎	名大文学 部研究論 集	45
再発見のニムルド出 土ティグラト・ビレ セル三世—武人像浮 彫断片	深井 晋司	古美術	20

書 蹟

文字の生いたち 1—10	藤枝 晃	日本美術 工芸	341—347 349—351
文字の変相	堀江 知彦	ミュージ アム	199
文字の変相	堀江 知彦	かな研究	27
書の鑑賞 89—93	綾村 垣園	茶道雑誌	31—2, 5 6, 10, 11
書のリズム—禅林高 僧の書—	堀江 知彦	芸術生活	216
一休和尚筆心字和歌	田山 方南	古美術	20
聖一国師の一行物	近藤 喜博	〃	17
大灯国師	田山 方南	墨 美	165

春屋国師墨跡 金甬 道号偈	小田 栄一	陶 説	47—170
琦楚石墨跡の出現	田山 方南	古美術	17
断溪妙用禅師の墨跡	〃	〃	19
南浦紹明墨跡の露頭	〃	〃	18
芝靈石の墨跡と虚堂	〃	大和文華	46

日本

日本船山古墳出土の 大刀銘文について	金 錫亭	朝鮮學術 通報	4—2
造酒司木簡について	横田 拓実	大和文化 研究	107
最近出土した平城京 の木簡	井上 光貞	月刊文化 財	42
法隆寺献納宝物梵夾 (第一葉)の解説に ついて—梵字資料の 調査研究 1—	真鍋 俊照	大和文化 研究	111
手鑑	春名 好重	墨 美	170
近衛家の大手鑑	〃	〃	166
墨美手鑑 1—3	〃	〃	170—172
「古筆」の語義	春名 好重	墨 美	170
古筆の内容 25—28	久曾神 昇	かな研究	26—29
古筆の名称と解説 23—25	西本 支星	〃	26, 28, 29
古筆の料紙	春名 好重	墨 美	172
古筆の効用	〃	かな研究	26, 27
古筆随想	堀江 知彦	月刊文化 財	40
藤原行成筆本能寺切 本阿弥切本古今和歌 集巻第十二残巻の発 見	春名 好重	かな研究	29
熊野懷紙を中心とす る鎌倉初期書道の研 究	古谷 稔	ミュージ アム	196
平治絵巻六波羅合戦 巻詞書の断簡につい て—併せて現存三巻 の書跡に及ぶ	〃	墨 美	169
世尊寺流書考26—29	田中 塊堂	かな研究	26—29
続三筆小考—文献に みる空海の能書活動 並びにその遺墨—	角井 博	ミュージ アム	194
明恵上人の手紙(日 本の手紙16)	景山 春樹	古美術	16
日蓮上人の書状—貞 当御書と鷲目御消息 (日本の手紙18)	近藤 喜博	〃	18
扇絵の構図美—宗達 絵光悦書夕顔図扇面	水尾比呂志	〃	18
光悦の書—和歌色紙 帖—	堀江 知彦	〃	20
光悦書画巻の断簡に ついて	相見 香雨	〃	16

新出の十五通一巻の 光悦手紙	小松 茂美	ミュージ アム	195
光悦の消息	植村 和堂	かな研究	27
非常人北島雪山	後藤 是山	墨 美	168
大愚良寛の人と芸術	木俣 修	芸術生活	218
解良家と良寛	原田 勘平	墨 美	167
良寛—未発表資料2	〃	〃	174
亀田鵬斎の北遊と良 寛	杉村 英治	書 品	179
巻菱湖の人と書	北川 博邦	国学院雑 誌	68—9
江戸時代の唐様と貫 名菰翁	中田勇次郎	墨 美	173
貫名菰翁「唐詩帖」	〃	〃	〃
豪潮の書のことなど	永松 譲一	〃	168
秋山玉山の人と書	松本 雅明	〃	〃

戦国武将の印章と思 想	荻野三七彦	金沢文庫 研究	135
----------------	-------	------------	-----

中国・その他

匋斎蔵石の拓本 1,2	西川 寧	書 品	179, 185
北魏元洛神墓誌銘	伏見 冲敬	〃	184
北魏孝文帝弔比干文	伏見 冲敬	書 品	186
東魏李顕族造像記	籀 頤	〃	181
唐張希古墓誌銘	〃	〃	183
鑑真和上の書状につ いて(日本の手紙17)	安藤 更生	古 美術	17
宋人書写の大般若經 —広島県三原市正法 寺の場合—	近藤 喜博	ミュージ アム	190
張即之杜甫詩巻	伏見 冲敬	書 品	182
鮮于枢行書詩賛	〃	〃	181
解縉自書詩巻	〃	〃	185
金冬心とその手書金 剛經	〃	〃	180
金冬心臨華山廟碑	〃	〃	183
趙之謙書潘曾綬墓誌 銘	〃	〃	178
楊沂孫書龐公伝	〃	〃	179

唐末期の毛筆資料に ついての考察	井上 徹	美術史研 究	5
---------------------	------	-----------	---

建築・庭園

建築の誕生 1,2	川添 登	デザイン 批評	3,4
建築と工芸	谷口 吉郎	月刊文化 財	40
門	鈴木 嘉吉	〃	44
窓	中村 直勝	日本美術 工芸	341

屋根の「高い」もの の優位について	土田 充義	日本建築 学会論文 報告集	号外
入側について	平井 聖	〃	〃
多項式による肘木曲 線の表示について	井上 充夫 村田正太郎	〃	〃
中世建築における丸 桁の反りと斗拱の関 係	浜島 正士	〃	131
伏見宮御所にみる 「場」の考察	鈴木 亘	〃	号外
実隆公記に現れた貴 族住宅の作事	永井 規男	〃	136
相国寺松泉軒の作事 について	〃	〃	141
大工頭中井家文書 5,6	中井 信彦 高橋 正彦	史 学	39—4 40—1
大棟梁甲良豊後宗広 の生涯	大河 直躬	大 日 光	28

歴史時代における都 市空間 2	小寺 武久	建築史研 究	37
--------------------	-------	-----------	----

日本古代の敷地計画 に関する若干の考察	山岡 義典	日本建築 学会論文 報告集	号外
------------------------	-------	---------------------	----

寺内町の形成—吉崎 と山科—	西川 幸治	仏教芸術	66
-------------------	-------	------	----

「享保十四年名護屋 絵図」について	大野 耕嗣	日本建築 学会論文 報告集	号外
----------------------	-------	---------------------	----

鳥取城下絵図につ いて	油浅 耕二	〃	〃
----------------	-------	---	---

平城宮内裏北半分の 調査	横田 義章	大和文化 研究	106
-----------------	-------	------------	-----

平城宮跡第38次調査 発見の埴積基壇遺物	山沢 義貫	〃	108
-------------------------	-------	---	-----

平城京的門推定東側 の地域調査	森 郁夫	〃	109
--------------------	------	---	-----

平城宮の地割につ いて	〃	〃	〃
----------------	---	---	---

1 平城宮の大きさ	村上 詔一	〃	111
-----------	-------	---	-----

2 内裏内部の地割	宮沢 智士	〃	112
-----------	-------	---	-----

平城京建物の復原模 型	細見 啓三	〃	115
----------------	-------	---	-----

多賀城附寺遺跡につ いて	坂田 高島 松村 成術 優	日本建築 学会論文 報告集	号外
-----------------	---------------------	---------------------	----

安土城炎上	中村 直勝	日本美術 工芸	344
-------	-------	------------	-----

まぼろしの伏見城— 桃山建築おぼえがき (真贋41)	内藤 昌	芸術新潮	209
----------------------------------	------	------	-----

豊臣秀吉築造大坂城 の復元的研究	宮上 茂隆	建築史研 究	37
---------------------	-------	-----------	----

仙台東照宮建築考	坂田 泉	東北大学 建築学報	12
----------	------	--------------	----

神社建築としての東 照宮の性格	〃	〃	〃
--------------------	---	---	---

定期刊行物所載文献

東北地方における民俗芸能舞台について 1 黒川春日神社拝殿能舞台の形式	坂田 泉	東北大学建築学報	12	くるみ館の発掘—秋田県北秋田郡の古代建物調査	奈良 修介	月刊文化財	50
日光建造物の昭和修理	森 政三	月刊文化財	43	関東地方における縄文前期の竪穴住居について	村田 文夫	考古学雑誌	53—3
蒔絵原と大工道具		大 日 光	28	竪穴住居の設計計画 上、下一八王寺市中野町遺跡の鬼高住居址について—	梶 国男	〃	52—4 53—2
地方神社拝殿の機能について—とくに芸能空間として—岐阜県郡上郡北部の場合	高村 正一	名大文学部研究論集	45	墨俣宿の本陣について 1, 2	橋本敬治郎 中谷 勉	日本建築学会論文報告集	号外
厳島神社の仁安造営について	太田博太郎	大和文化研究	110	奈良県に於ける街道沿いの町屋遺構について	林野 全孝 富崎 正	〃	〃
奈良時代における寺院の柱徑について	岩橋 保	日本建築学会論文報告集	号外	河内長野市民家の編年に関する一考察	林野 全孝 横山 泰昇	〃	〃
坐臥を有する禅宗仏殿について	横山 秀哉	東北大学建築学報	12	河内長野市民家の平面の変遷について	林野 全孝 吉野 郁夫	〃	〃
国宝中尊寺金色堂に発生した礎と建築用材	江本 義数	保存科学	3	河内長野市龍畑の民家	林野 全孝 沢田 清	〃	〃
北関東の古建築—特に木造塔を中心にして	中西 亨	史迹と美術	377	鳥取県の民家 1, 2	藤原 勉 浜田 五郎 鈴木 久恵	〃	〃
下野国分尼寺跡第二次発掘調査について	大和久震平	考古学雑誌	53—1	書院造立面の比例について	岩岡 文彦	〃	〃
下総国分僧寺跡の発掘調査	熊野 正也	大和文化研究	105	修学院離宮の明と暗—建築—	中村 昌生	日本美術工芸	346
相模国分寺跡の発掘調査	大岡 実	月刊文化財	44	茶室における遠州の作風について 2	〃	茶道雑誌	31—3
相模国分寺跡を掘る鎌倉大宝寺と伝蔵の近世絵図	岡田 茂弘 三浦 勝男	古 美 術 三浦古文化	18 3	幕末の洋風建築	伊藤三千雄	ミュージアム	190
信濃国分寺の遺跡	内藤 政恒	古 美 術	17	庭園の鳥	佐々木利三	日本美術工芸	349
唐招提寺の造営と伽藍配置	工藤 圭章	仏教芸術	64	こんな遠州の庭もある—大池寺蓬萊園庭園—	松本富太郎	芸術新潮	216
唐招提寺の金堂	浅野 清	〃	〃	修学院離宮の明と暗—庭園—	中根 金作	日本美術工芸	346
唐招提寺講堂	沢村 仁	〃	〃	九州の庭	重森 三玲	古 美 術	17
薬師寺の六重塔	鈴木 圭吾	美術史研究	5	「童子口伝書つき山水并野形図」校刊下 「童子口伝書つき山水図」考 補遺	江上 綏	美術研究	250 251
法隆寺の雲形斗拱について—法隆寺様式におけるバロック的なもの—	上原 和	美 学	70	工 芸			
法隆寺中門、五重塔の幾何学的比例	飯田須賀斯 山森 芳郎	東北大学建築学報	12	建築と工芸	谷口 吉郎	月刊文化財	40
国宝法隆寺綱封蔵	鈴木 嘉吉	ミュージアム	196	唐招提寺の工芸	守田 公夫	仏教芸術	64
檜原庵寺跡の発掘調査概要	杉山 信三 佐藤 興治	仏教芸術	66	上代器仗料考	関根 真隆	大和文化研究	113
但馬国分尼寺跡と水上遺跡の発掘調査について	多淵 敏樹	日本建築学会論文報告集	号外	日本の鞍	鈴木 治	日本美術工芸	345
太山寺(兵庫)本堂の再建年代について	野地 修左	〃	〃	「類聚雜要抄」とその調度	岡田 譲	東京国立博物館紀要	2
播磨の鷗尾上、下	井内 功 井内 潔	史迹と美術	376, 377	桃山の工芸と織部の意匠	中川 千咲	陶 説	170
民家集落の形態的研究 2	篠原 一男 他	日本建築学会論文報告集	号外				

古田織部 1~6	桑田 忠親	〃	170~173 175, 177
二つの織部灯籠	岡田 宗淑	〃	171

台北中央研究院の殷墟遺宝	佐藤 雅彦	古美術	18
宋代の工匠とその組織	古林 森広	東方学	33

陶 磁 工

彩釉陶器制作技法の伝播	檜崎 彰一	名大文学部研究論集	44
続茶碗抄 1~12	加藤義一郎	日本美術工芸	340~351
茶盃 19~29	佐々木三味	淡交	240 242~251
天目茶碗 1~6	伊東 祐淳	陶説	168~173
宮王釜と宮王肩衝	杉本 捷雄	茶道雑誌	31~5
蓮弁文壺における蓮弁文様	池上 年	陶説	172
内藤匡氏追悼		〃	167

日本

日本の焼物の謎	佐藤 雅彦	日本美術工芸	340
江戸の陶芸 4~9	林屋 晴三	国立博物館ニュース	236~241
日本の色絵やきもの	小山富士夫	陶説	177
須恵器の技術	横山 浩一	日本美術工芸	343
古代窯跡の形態	大川 清 坂詰 秀一	考古学雑誌	52~4
陶邑の古窯址発掘記	田辺 昭三	日本美術工芸	343
完全な須恵器窯	山本 貞彦	陶説	169
「美濃国」施印須恵器について	岩野 見司	考古学雑誌	52~3
伊勢小町塚出土の瓦経一早大会津記念室蔵一	奥村 秀雄	〃	53~2
静岡県引佐郡三ヶ日町宇志山中発見瓦塔の復原について	稲垣 晋也	〃	53~1
奥海印寺瓦窯跡発掘調査概報	吉本 桑山 中村 堯俊 正進 徹也	史 林	50~5
地方記者と奈良三彩壺 (発掘21)	阪口 三次	芸術新潮	213
古窯巡礼	村上 正名	陶説	198~176
常滑焼、須江から熊野、姫谷焼、木野の			

かわらけ窯、丹波焼
唐津から伊万里へ、
信楽焼、保命酒徳利

茶の古窯 1~12	満岡 忠成	淡交	240~251
五城目焼のこと—中世産業への仮説	小野 正人	陶説	166
江戸今戸焼考	水島 一耀	〃	174, 175
北陸の古陶展	〃	〃	174
越前古窯	水野九右衛門	日本美術工芸	351
越前古窯	〃	陶説	174
古越前と珠洲焼—中世窯業の二形態—	檜崎 彰一	〃	〃
古九谷	佐藤 雅彦	日本美術工芸	341
古九谷の精絵皿	渡辺 武	古美術	16
藍九谷と百軒窯	今泉 吉郎	陶説	172
織部という陶器	北大路魯山人	〃	170
織部と京焼	満岡 忠成	〃	〃
初代長次郎の交趾三彩と織部	磯野風船子	〃	〃
弥七田織部	黒田 領治	〃	〃
牡丹文様壺	田中作太郎	古美術	17
古瀬戸の天目台	若杉 敬	陶説	176
古瀬戸水注考	〃	〃	168
茶入「猿若」の謎 (真贋37)	白崎 秀雄	芸術新潮	205
春岱小伝	戸田 紋平	陶説	170
晩年の春岱	水野 善郎	〃	172
大高焼を求めて	猪飼 英一	〃	177
伊勢天目新資料	磯野風船子	〃	175
新解釈による万古焼—その歴史と本質	水谷 英三	〃	167
万古焼—弄山から四日市万古まで	林 純之介	〃	〃
古万古の銘印	〃	〃	〃
新説伊賀焼通史1~6	桂 又三郎	茶道雑誌	31~1, 3 5, 7, 9, 11
京焼 1~4	佐藤 雅彦	日本美術工芸	344~347
京焼管見	満岡 忠成	萌 春	158
初期京焼を語る (座談会)	伊東 祐淳 田中作太郎 満岡 忠成 奥田 直栄	陶説	171
初期京焼展から学ぶもの	十和田湖月	茶道雑誌	31~6
織部と京焼	満岡 忠成	陶説	170
「承応七十九造」釘彫仁清印振出しと御室焼極猪口について	杉本 捷雄	〃	174
陶聖初代尾形乾山3	添田 達嶺	アート	15~1
「国華」掲載の陳謝文 (真贋47)	白崎 秀雄	芸術新潮	215
乾山やり梅向付	満岡 忠成	古美術	16
木米の作陶	〃	大和文華	47

定期刊行物所載文献

楽代々 12, 13	磯野風船子	陶 説	166, 167	銅鐸について一特に時代によりどころについての試論一	三木 文雄	日本歴史	228
初代長次郎の交趾三彩と織部	〃	〃	170	銅鐸形式分類の研究 上、下	佐原 真	考古学雑誌	53—2, 3
兵庫の古陶の美一服平、三田、明石焼を見直す	青木 重雄	茶道雑誌	31—4	内凸帯のない新出土の銅鐸とその類型について	三木 文雄	〃	52—4
備前焼の時代と資料	桂 又三郎	月刊文化財	48	類似銅鐸と尾張氏	田中 巽	神戸商船大学紀要第一類	15
初期尾戸焼 1, 2	丸山 和雄	陶 説	176, 177	栃木県小山市田間出土の小銅鐸	三木 文雄	ミュージアム	196
肥前磁器の様式美上、下	永竹 威	日本美術工芸	344, 345	栃木県小山市田間発見の銅鐸について	野口 義麿	考古学雑誌	52—4
初期伊万里赤絵の解明 1, 2	山下 朔郎	陶 説	175, 176	伝佐山古墳出土金製耳飾	村井 富雄	ミュージアム	196
酒井田内西と柿右衛門一資料の読解とその吟味	松田 修	〃	171	那智山経塚と「那智山龍本金経門縁起」	神山 登	仏教芸術	66
シャロットテンブルグの柿右衛門	井垣 春雄	萌 春	158	奈良時代の鏡 正倉院文書「東大寺鈔鏡用度文案」について 1, 2	中野 政樹	ミュージアム	190, 192
色絵菊折枝文蓋物 柿右衛門	田中作太郎	古 美術	20	岐阜市瑞竜山山頂出土の古鏡について	桧崎 彰一 山田 友二	考古学雑誌	53—1
高取焼始祖の墓を掘る	古木 二郎	陶 説	168	鹿島市誕生院の什宝二例（五鈷鈴）	岡崎 譲治 平田 寛	大和文化研究	112
高取八山の墓	高取 静山	〃	〃	梵鐘	坪井 良平	月刊文化財	51
現川・八代・小代他	佐藤 雅彦	日本美術工芸	342	梵鐘 東漸寺蔵	郷家 忠臣	三浦古文化	2
中国・その他				備中湯山清水寺の梵鐘	坪井 良平	史迹と美術	373
中国の陶磁 5～13	長谷部楽爾	日本美術工芸	340～342 344 346～349 351	厳島神社外宮地御前社鐘	〃	〃	371
故宫博物院の陶磁	佐藤 雅彦	〃	343	日向に残る唯一の古鐘	〃	〃	378
トブカビイサライの中国陶磁 1, 2	三杉 隆敏	みづゑ	745, 746	重文に指定された金銅笈	武田 好吉	羽陽文化	74
青磁の鑑定	井上健太郎	陶 説	169	糸割符仲間献上の唐銅灯籠	太田 勝也	大 日 光	28
長沙の陶器一唐・五代の瓦渣坪窯とその周辺	長谷部楽爾	ミュージアム	190	宮王釜と宮王肩衝について	杉本 捷雄	茶道雑誌	31—5
越州窯青磁丸壺	〃	国 華	907	刀のツバ	辻本 直男	月刊文化財	48
砧青磁浮牡丹香炉	小山富士夫	古 美術	17	鐙の二重露出銘について	栗林王寿太郎	刀剣美術	123
白搔落七宝文深鉢	長谷部楽爾	〃	18	柵屋（ひいらぎや）なる呼び名についての考察	若山 泡沫	〃	126
元代染付考 上、下—14世紀中葉の元青花と元曲	斎藤菊太郎	〃	18, 19	二子山則亮について 少しく	〃	〃	124
明中期の染付について	長谷部楽爾	陶 説	173				
宣徳染付枇杷文大皿	〃	古 美術	17				
金網手への夢	青木 重雄	茶道雑誌	31—8				
五彩花蝶文有蓋大盃	林屋 晴三	古 美術	19				
遼三彩壺	小山富士夫	〃	〃				
高麗のやきもの1～3	岡田 宗叡	陶 説	174, 175 177				
安南赤絵果鳥文皿	林屋 晴三	国 華	909				
	金 工						

森如件	若山 泡沫	刀剣美術	130	豊後刀工の再研究 11~15	久野 繁樹	刀剣美術	121~123 130~131
父畑直鏡と子塚田秀鏡	〃	〃	131				
羊の小道具	益本 芦月	〃	120	水戸徳川齊昭卿の甲冑の製作奨励について—幕末における水戸の甲冑界の情勢	長谷川 武 他	〃	128
芸大の後藤文書について	関戸 健吾	〃	121				
後藤祐乗の遺篋及び剣巻篋について1~3	〃	〃	123, 124 125				
惣赤銅茄子の小柄考—後藤程乗の誤鑑についての考察—	〃	〃	122	朝鮮における金属器の起源問題	西谷 正 史 林		50—6
起竜斎宗珉	若山 泡沫	〃	128	韓国江原道襄陽郡出土細形銅剣細文鏡について	金 元 竜	〃	50—2
土屋昌親	〃	〃	121	金錯狩猟文銅筒	前田 泰次 国 華		906
拾勇士図 土屋正現の縁頭	松本 正利	〃	129	楽浪出土馬面考—とくにツインバルカ古墳出土の馬面との関連について—	相馬 隆	ミュージアム	201
大森英秀について	若山 泡沫	〃	122				
長沢芦雪と大月光興	益本 芦月	〃	126	国宝金銀錯狩猟文鏡	藤田 国雄	〃	196
				呉の周仲鏡について上、下	高坂 好	日本歴史	225, 226
「本阿弥光徳」雑記	辻本 直男	月刊文化財	43	青銅製の羊頭形リュトンおよび神像を彫刻した青銅製装飾板について	三上 次男	古美術	16
正平年紀に就ての研究	渡辺 善盛	刀剣美術	123	塗金銀製植物文装飾台つき鉢	深井 晋司	〃	〃
津輕刀工小史	三上 登	〃	129	三花馬・五花馬の起源について	〃	東洋文化研究所紀要	43
会津ゆかりの名刀展の中から	佐藤 寒山	〃	130				
埋忠明寿と忠広について	阿部 昭忠	〃	129				
大坂新刀の研究について	中宮 敬堂	〃	126				
大坂新刀鍛冶河内守国助考	小笠原信夫	ミュージアム	197				
播磨物の研究	小山 三枝 松本 金波 啓助 勉	刀剣美術	124~127	日本の朱—朱漆塗	荒川 浩和	日本美術工芸	340
室町時代の備前刀工について	広井 雄一	〃	120	法隆寺と玉虫厨子1~3	上原 和	国 華	904~906
刀工多田正利	多胡 昭夫	〃	121	本誌 904 号の「法隆寺と玉虫厨子1」における上原和君の論に答う	町田 甲一	〃	908
津山藩工多田金利	〃	〃	127	玉虫厨子	上原 和	古美術	17
女刀工国重お源	岡崎 譲	〃	129	玉虫厨子の漆絵について	松田 権六	〃	〃
戦国武将の献上刀管見—山内首藤家について	藤井 美典	〃	124	玉虫厨子の文様	鼓 常良	日本美術工芸	350
長銘国徳の奉納太刀薙刀について	筆脇健太郎	〃	124	法隆寺の「資財帳」に記された「宮殿像」と「檀像」についての疑問	町田 甲一	日本歴史	232
筑後守国房の研究1, 2	末光 高義	〃	127, 128	平安時代漆芸技法資料 1	中里 寿克 石川 陸郎 立田 三郎	保存科学	3
山城守源国道	〃	〃	121	蒔絵	岡田 譲	月刊文化財	43
伊予大洲藩抱岡本刀工の研究 上、下、続	〃	〃	123~125	蒔絵螺鈿南蛮小簞筒	〃	古美術	20
宿毛の刀工桑山助秀について 1, 2	橋田 庫欣	〃	125, 126	春慶塗に関する調査研究	六角 颯雄	東京芸大美術学部紀要	3
左行秀の新研究3~6	〃	〃	120~123				
橋田庫欣氏の「左行秀の新研究」を読んで	鈴木 哲哉	〃	126				
筑前国宇佐美実阿の研究	池辺 善盛	〃	129				
筑前国博多談議所国吉法師西蓮に就いての研究	〃	〃	127	木工・その他			
				平城宮出土の古墳時代木器	町田 章	大和文化研究	113

定期刊行物所載文献

平城京跡出土の「ひとがた」について	本村 豪章	〃	110
木画師小考	平田 寛	仏教芸術	66
葛箱について—法隆寺献納宝物葛箱を中心に	郷家 忠臣	ミュージアム	194
金銅荘犀角刀子、綾張竹華籠、赤漆曲物筥	木内 武男	〃	196

染織工・附服飾

奈良時代の布の一考察	関根 真隆	立正史学	30
上代裂の染色に関する化学的研究 3	上村 六郎 高木 豊	書陵部紀要	19
山羊文の綴錦	太田 英蔵	古美術	17
古今名物類聚 名物切之部解説	桑田 忠親	被服文化	107
刺繡仏	西村 兵部	日本美術工芸	348
お国染「加賀紋」について	花岡 慎一	ミュージアム	198
紅花雑記	鈴木 孝男	被服文化	108
インド東南アジアの染織	北村 哲郎	茶道雑誌	31—7
民族文明の象徴としての服装	杉本 正年	被服文化	106
風土と色彩感覚—服装の色彩と模様—	会田 雄次	〃	〃
服飾史料としての延喜式	虎尾 俊哉	〃	108
平安時代上流社会の被服の考察	松井 和哥 藤本 やす	東京家政大学研究紀要	7
南蛮バテレンの服装	松田 毅一	被服文化	106
シーボルトの見た日本人の服装など	斎藤 信	〃	105
近世以降に於ける農民服飾の研究—被服工作上よりみた労働着 1	鷹司 倫子	和洋女子大学紀要	12
近世女性結髪変遷における一考察4~8	前田 求恭	被服文化	103~107
漢代の服飾 1, 2	杉本 正年	〃	107, 108
唐代の服飾とその美意識—様式の成立—	武内 和子	帝塚山短大紀要	4

玉・ガラス工

万華ガラスについて	佐藤潤四郎	古美術	16
日本のガラス	吉田 光邦	日本美術工芸	347
縄文時代前期飾玉生産の一考察	寺村 光晴	和洋女子大学紀要	12
奈良時代のガラス玉について—興福寺・元興寺・法隆寺のガラス玉の調査	小田 幸子	ミュージアム	192
玻璃の勾玉	梅原 末治	古美術	20

楊貴妃の玉簪	小田 幸子	月刊文化財	47
新たに知られた古代の若干の玻璃容器	梅原 末治	ミュージアム	192
正倉院の紺瑠璃壺について	由水 常雄	美術史	66・67(合)
位紀官符宣命箱七宝止め金具	吉村 元雄	古美術	16
中国の珧	高山 純	古代学	13—3・4(合)

考古学

日本

稲作文化伝来に関する諸問題	江坂 輝弥	考古学雑誌	52—4
縄文晩期農耕文化に関する一問題	賀川 光夫	〃	〃
押型文文化の諸問題—土器文様を中心としての研究—	上野 佳也	〃	53—3
縄文式土器・縄文文化の起源について	鎌木 義昌	岡山理科大学紀要	2
花積下層式土器の諸問題	村田 文夫	立正史学	30
山城における弥生式文化の成立—畿内第一様式の細別と雲ノ内遺跡出土土器の占める位置	佐原 真	史林	50—5
栃木県出流原遺跡出土の土師式土器	熊野 正也	駿台史学	20
越後緒立遺跡の古式土師器	上原甲子郎 永峯 光一 磯崎 正彦	考古学雑誌	52—3
松戸市殿平賀貝塚調査報告	村上 俊嗣	〃	52—4
油壺遺跡について	浜田 勘太	三浦古文化	2
東信濃鳥羽山洞穴における古代祭祀遺跡	関 孝一	考古学雑誌	52—3
岐阜県沢遺跡調査予報	大野 政雄 佐藤 達夫	〃	53—2
平遺跡	考古学研究室	帝塚山大学考古学シリーズ	1
鹿児島県屋久島一湊遺跡の発掘調査概報	国分盛園 重久 直一 尚孝 十郎	考古学雑誌	53—2
直弧文の分類について 同補論	伊藤 玄三	考古学雑誌	53—1 53—3
装飾古墳の直弧文	〃	文化	31—2
装飾古墳と水銀文化	松田 寿男	古代学	13—3・4(合)
装飾古墳の修理—熊本県釜尾古墳—	乙益 重隆	月刊文化財	49
大和と九州の横穴式古墳石室の構築法について	広瀬 鎌二 三沢 博昭	日本建築学会論文報告集	号外
福岡かつて塚古墳調査報告	児島 隆人	考古学雑誌	52—3

熊本市浦山横穴群 上野 辰男 〃 53—3

中国・その他

屈浦文化に関するその後の消息について 都金 鄭 有 勇 浩 男 徳 考古学雑誌 53—1

新中国での原始社会の究明—仰韶文化をめぐるいくつかの問題 秋山 進午 史 林 50—1

中国家羊に関する二三の問題 増田 精一 考古学雑誌 52—3

デリーに現存するサルタナット時代のバーオリーの遺跡について—サルタナットの首都デリーとその遺跡に関する歴史学的研究 荒 松雄 東洋文化研究所紀要 44

歴史関係・その他

日本文化小史 7～18 村井 康彦 日本美術工芸 340～351

日本文化論の理論的基礎—プロジェクト「日本民族性の比較文化論的研究」のために— 石田英一郎 日本文化研究所研究報告 3

鎌倉時代南都学芸の発達 永島福太郎 大和文化研究 114

東山殿義政私伝 38～47 中村 直勝 茶道雑誌 31—1, 2 4～11

聖霊会ノアレー室町戦国の太子信仰 林 幹弥 日本歴史 226

東インド会社と東洋趣味の流行 日比野丈夫 被服文化 105

大名文化の東北論理 高橋 富雄 〃 108

指五本

中村 直勝 日本美術工芸 346

金光明經の受用と飛鳥仏教 田村 円澄 史 淵 98

定額寺考 平岡 定海 大手前女子大論集 1

藤原道長の浄妙寺 1～5 波多野忠雅 史迹と美術 374～376 378, 379

日野法界寺に就いて 1～3 堀池 春峰 大和文化研究 106, 110 111

円融寺の成立過程 菊地 京子 史 窓 25

無動寺蔵本「鞍馬縁起」 西口 順子 〃 〃

金沢童華寺の成立—常州法雲寺涅槃像縁由をめぐる— 熊原 政男 金沢文庫研究 133

豊前国宇佐八幡社祭神考 筑紫 豊 大和文化研究 106

祇園祭 猪熊 兼繁 月刊文化貯 46

鎖国日本にきた「康熙図」—わが国近代地理学の前駆— 船越 昭生 東方学報(京都) 38

鎌倉の古版絵図 神田 茂 金沢文庫研究 135

都林泉名勝図会考 22～33 井口 海仙 淡 交 240～251

初期長崎地図に関する書誌学的考察 中村 質 日本歴史 235

古文書学の難儀 中村 直勝 大手前女子大論集 1

単行図書

総説

美学	川野 洋	東洋大学出版会
芸術はなぜ必要か	フィッシャー、エルンスト	法政大学出版局
芸術とは何か	ランガー、S・K、池上保太・矢野萬里訳	岩波書店
ヒューマニズムと芸術と哲学	ヒューム、T・E、長谷川鉦平訳	法政大学出版局
現代芸術の美学	竹内 敏雄	東京大学出版会
芸術現代論	山崎 正和	中央公論社
限界芸術論	鶴見 俊輔	勁草書房
芸術論ノート 1	佐々木基一	合同出版KK
芸術論集	加藤 周一	岩波書店
芸術論ノート	亀井勝一郎、臼井吉見編	文芸春秋
現代芸術の言葉	大岡 信	晶文社
鏡・空間・イマージュ	宮川 淳	美術出版社
美の終焉	水尾比呂志	筑摩書房
不定形美術ろん	山口 勝弘	学芸書林
絵画と音楽—光と音の世界—	八田 正文	三一書房
ザニューヴィジョン「ある芸術家の要約」	モホリ＝ナギ・大森忠行訳	ダヴィッド社
新しい芸術の誕生「現代芸術の技法と傾向」	ラゴン(M)、高階秀爾訳	紀伊国屋書店
ポップ・アート	リバー、ルーシー、R、宮川淳 訳	紀伊国屋書店
美の思索家たち	高階 秀爾	紀伊国屋書店
ガントナーの美術史学	中村二柄編訳	勁草書房
芸術及び芸術家の心理	霜田 静志	造形社
芸術家と作品の精神分析	ドラクエリデス(N.N)、中野久夫訳	岩波学術出版社
芸術空間の系譜	高階 秀爾	鹿島研究所出版会
幻想の画廊から	渋谷 竜彦	美術出版社
エロスの涙	バタイユ(ジョルジュ)森本和夫訳	現代思想社
母と子の美術館	坂崎 二郎	朝日新聞社
アブ・シンベル神殿	牟田口義郎	講談社
秘境のキリスト美術	柳 宗玄	岩波書店

カッパドキヤ	柳 宗玄	鹿島研究所出版会
異貌の神々「ゴシック・バロック・ガウディの空間」	栗田 勇	美術出版社
フランス「美の歴史の発見」	篠田浩一郎	〃
モナ・リザの秘密「ダ・ヴィンチの人間像」	加茂 儀一	日本経済新聞社
ミケランジェロ	会田 雄次	創元社
キリスト教美術の誕生	グラバール(アンドレ)辻佐保子訳	新潮社
南太平洋美術	ギャール(ジャン)岩崎力訳	〃
世界の美術	奥平 英雄、町田 甲一、佐々木剛三他編	学研
1. 日本・東洋	嘉門 安雄、摩寿意善郎監修	〃
2. 西洋	滝口修造編	角川書店
世界美術全集 18 戦後世界美術	浅野長武、小林行雄、細川護立監修	朝日新聞社
原色明治百年美術館	岡本 唐貴、松本 文雄	造形社
日本プロレタリア美術史	吉村 貞司	鹿島研究所出版会
日本美の特質	北川 桃雄	法政大学出版局
日本美の探求	梅原 猛	筑摩書房
美の宗教の発見「創造的日本人文化論」	吉川 逸治	講談社
世界の美術館	東京国立博物館 監修	〃
7. ローマ美術館	摩寿意善郎	〃
13. 東京国立博物館	吉川逸治編	〃
16. ウフィツィ美術館	前川誠郎編	〃
19. ブラド美術館	オーバーハンマー・吉川逸治・前川誠郎執筆	〃
20. ミュンヘン美術館	富永 惣一、谷川 徹三、西脇順三郎	エルミタージュ美術刊行会
21. ウィーン美術館	富永 惣一、谷川 徹三、西脇順三郎、マリー・ピーター、マリ・リンダ、大島清次他訳	〃
エルミタージュ美術館 バロックとロココの芸術		
フランドルとオランダの芸術		
西洋美術事典「ルネッサンス以降絵画・彫刻」		

高校生のための芸術小事典	佐々木基一編	三一書房	今日をひらく「太陽との対話」	岡本 太郎	講談社
新しい素材と技法	美術出版社編	美術出版社	画集シベリア 1943~1947	香月 泰男	求竜堂
日本美術年鑑 (41年版)	東京国立文化財研究所編	大蔵省印刷局	続こしかたの記	鏑木 清方	中央公論美術出版
現代美術宝典	山田 正道 油井 一二	美術年鑑社	絵の心	清川 泰次	美術出版社
美術人年鑑	美術評論社	日本美術振興会編	熊谷九寿画集	熊谷 九寿	〃
美術名典	芸術新聞社編	芸術新聞社	春雪秋霜	小林 和作	求竜堂
美術家名鑑	美術倶楽部出版部	美術倶楽部出版部	笹島喜平画文集	笹島 喜平	美術出版社
美術年鑑	美術年鑑社編	美術年鑑社	鳥海青児画集	鳥海 青児	三彩社
絵 画			版画随筆	徳力富吉郎	三彩社
絵の話	伊藤 廉	美術出版社	私の奇妙な友人たち	東郷 青児	山王書房
風景画論	クラーク (ケネス) 佐々木英也 訳	岩崎美術社	土橋醇作品集	土橋 醇	三彩社
ドイツ・ルネッサンスの画家たち	土方 定一	美術出版社	中川一政画集	中川 一政	朝日新聞社
近代画家論	L・ヴェン トゥリ・坂 本満・佐々 木英也・高 階秀爾訳	角川書店	美に生きる 風景との対話	林 武	講談社
現代絵画の解剖	木村 重信	鹿島研究所出版会	風景との対話	東山 魁夷	新潮社
日本の戯画「歴史の風俗」	宮尾しげを 篇	第一法規出版 KK	原爆の図	丸木位里・ 丸木 俊	田園書房
文明開化錦絵集「横浜絵と 開化絵」	野々上慶一 編	垂水書店	レオナルドとミケランジェ ロの素描	ベチールカ (ヤロミール)・浅野 徹訳	岩崎美術社
日本の石版画	小野 忠重	美術出版社	REMBRANDT	Munz(Lud- wig) 八代 修次 訳	美術出版社
マンガ芸術論「現代日本人 のセンスとユーモアの功 罪」	石子 順造	富士書院	ドラクロワ	坂崎 垣	朝日新聞社
マンガ考	草森 紳一	コダマプレス	ドーミエと仙厓	淡川 康一	マリア書房
子ども漫画論	藤川 治水	三一書房	ゴッホ「炎の人・太陽の画 家」	嘉門 安雄	旺文社
漫画でみる戦後史	まつやま・ ふみお	新日本出版社	モーリス・ユトリロ	為永清司編	毎日新聞社
黒田清輝日記 2・3	黒田 清輝	中央公論美術 出版	アメデオ・モディリアニ	Werner (Alfred) 宇佐見英治 訳	美術出版社
高島華宵名作画集	高島華宵・ 鹿野琢見・ 加藤謙一編	講談社	クレ	Grohman (Will)井村 陽一訳	〃
思い出ぐさ	竹久 夢二	竜星閣	世界美術全集		
中村彝	鈴木 秀枝	木耳社	1 ダ・ヴィンチ, ラフ アエロ	座右宝刊行 会 編	河出書房
長谷川嵐溪	長谷川貫一	図譜新社	2 ミケランジェロ, テ イツィアーノ	〃	〃
藤島武二	隅元謙次郎	日本経済新聞 社	4 ボッショ, ブリュ ゲル	〃	〃
山本鼎と倉田白羊「生涯と 芸術」	山崎軍司・ 磯貝静男写 真	筑摩書房	5 エル・グレコ, ペラ スケス, ゴヤ	〃	〃
池田満寿夫版画集	池田満寿夫	美術出版社	6 リューベンス, レン ブラント	〃	〃
小川千甕画集	小川 千甕	便利堂	8 アンゲル, ドラクロ ワ	〃	〃
			9 コロー, ミレー, ク ールベ	〃	〃
			10 マネ, モネ, ドガ	〃	〃
			14 ゴッガン, ロートレ ック	〃	〃
			15 モロー, ルドン, ル オー	〃	〃
			21 シャガール, デュフ イ	〃	〃

単行図書

22 モディリアーニ、ユ トリロ他	座右宝刊行 会 編	河 出 書 房
世界の名画		
2 アンゲル、ドラクロ ワ、コロロほか	富永 惣一 穴沢一夫・ 中山公男・ 高階秀爾編	三 一 書 房
3 ドーミエ、ミレー、 クールベ	〃	〃
4 マネ、ドガ、モネ、 ロートレック	三一書房編	〃
5 セザンヌ、ピサロ、 シスレー	富永 惣一 穴沢一夫・ 中山公男・ 高階秀爾編	〃
7 コーガン、スーラ、 シニャック	〃	〃
9 マティス、ピカソ、 ブラックほか	〃	〃

日本の絵画	田中一松、 小林秀雄監 修	筑 摩 書 房
日本の名画「国宝、現代」	集英社編	集 英 社
日本の絵画「日本画編」	座右宝刊行 会編	河 出 書 房
日本の絵画「洋画編」	〃	〃
近代日本画50人集	マリア書房 編	マリア書房
美人画の百年	三彩社編	三 彩 社
日本の名画家伝	佐藤 鶴子	青 蛙 房
現代の日本画 (あ〜か)	三彩社編	三 彩 社
戦後美術の名作(日本画編)	菊地芳一郎	時の美術社
静物を描く	堀内 規次	美術出版社
日曜画家の風景画入門	石川 滋彦	実業之日本社
四季の俳画春・夏	赤松 柳史	創 元 社
俳画「入門と制作」	内山 雨海	講 談 社
新しい南画と俳画の描き方	直原 王青	創 元 社
図画の事典	造型教育研 究会	金 園 社

彫 刻

自伝 上・下	チエッリニ 黒田正利訳	現代思潮社
ロダン	美術出版社 編	美術出版社
偉大な芸術家たち ロダン、ブルーデル、マ イヨール	高田 博厚	講 談 社
木彫70年	高村 光雲	中央公論美術 出版
藤川勇造作品集	藤川 勇造	中央公論美術 出版
新しい木彫	大内美絵子	三 秀 書 房
家庭の木彫	伊藤 隆一	婦人画報社

工芸・デザイン

民芸の美	水尾比呂志	河 原 書 房
人間国宝・伝統工芸	杉村恒・写 真 小川正 隆・文	美術出版社

京の工房	村松 寛	河 原 書 房
手仕事百態	加藤秀俊・ 文 白崎俊 次・写真	淡 交 新 社
現代陶芸図鑑1・2・3	黒田 領治	光 芸 出 版 開隆堂出版K K
土と火の造形「焼き物」	鳥羽 克昌	朝日新聞社
志野	荒川 豊蔵	筑 地 書 館
自選芹沢銈介作品集 上	芹沢 銈介	保 育 社
デザイン	小池 新二	美 術 出 版 社
デザインとはどういうもの か	パリ (デー ヴィット) 中村敏男訳	美 術 出 版 社
デザインと心理学	穂山 貞登	鹿島研究所出 版会
近代デザインの歩み	橋本太久磨	理 工 学 社
今日の装飾芸術	ル・コルビ ュジェ、前 川国男 訳	鹿島研究所出 版
危険なデザイン	河原 淳	三 一 書 房
カレンダーの研究	印刷時報社 編	印刷時報社
現代デザイン事典	H・Bデザ イン研究所 編	鳳 山 社
ハンド イラストレーショ ン	山田 寿男	美術出版社
英文字デザインの基礎	河原 英介	中央教育図書 KK
図案の事典	造型教育研 究会編	金 園 社

建 築

建築学入門	原沢 東吾	相 模 書 房
建築に何が可能か	原 広司	学 芸 書 林
現代建築の断面	浜口 隆一	近代建築社
現代建築の哲学	ドクシアデ イス、長島 孝一 訳	彰 国 社
都市と建築	川添 登	日本放送出版 協会
建築の美と技術	Nervi(pier Luigi)小泉 昇他訳	コ ロ ナ 社
建築史	藤岡通夫・ 渡辺保忠・ 桐敷真次郎	市ヶ谷出版社
西洋建築様式図集	太田 静六	理工図書KK
現代建築を創る人々	神代雄一郎 編	鹿島研究所出 版会
世界建築史の旅	平島 二郎	美術出版社
世界の建築ギリシア	マルタン (ローラン) 文 スティ ールラン (アンリ)・ 写真 高橋 栄一訳	美術出版社

単行図書

世界の建築

	ウルセル (レーモン) ・文・レイ エ (ジャック) ・写真 飯田喜四郎 訳	美術出版社	チョンマゲ大使海を行く 「百年前の万国博」	高橋邦太郎	人物往来社
ロマネスク			東京の博物館	東京都人文 博物館協議 会 編	木耳社
			東京の博物館	〃	東京都人文博 物館協議会
トルコ	フォークト ・ギョクニ ル、ヴィト メル (エド ワルド) ・ 写真 森洋 子 訳	〃	古代への情熱「発掘王シュ リーマン自伝」	シュリーマ ン (H) 佐藤牧夫 訳	角川書店
建築をめざして	ル・コルビ ュジェ 吉 阪隆正 訳	鹿島研究所出 版会	人間国宝「重要無形文化財 を保持する人々」	毎日新聞社 人間国宝編 集委員会 編	毎日新聞社
			追想大下正男	「追想大下 正男」編纂 委員会 編	美術出版社
ル・コルビュジェ	二川幸夫・ 写真 板倉 準二、磯崎 新・文	美術出版社	私の美術遍歴	亀井勝一郎	角川書房
			信仰の美の誘惑	〃	講談社
フランク・ロイド・ライト 1	二川幸夫・ 写真 浦辺 鎮太郎、天 野太郎・文	〃	日本の美	亀井勝一郎 臼井吉見 編	文芸春秋
			風景画帖	串田 孫一	あすなろ書房
イーロ・サーリネン	二川幸夫・ 写真 菊竹 清訓、穂積 信夫・文	〃	滝口修造の詩的実験 1927~1937	滝口 修造	思潮社
明治建築案内「現存する80 棟の西洋館」	菊池 重郎	井上書院	美術論集 8 「すずめ」	高橋 新吉	竹葉屋書店
西洋館の旅 関東・中部編	近岡善次郎	明治書房	世界の骨董遍歴	広田不孤斎	朝日新聞社
雪あかり日記	谷口 吉郎	雪華社	地中海歴史の旅	並河亮 並 河万里	集英社
内藤多仲博士の業績	「内藤多仲 博士の業績」刊行委 員会 編	鹿島研究所出 版会	美術の旅「日本縦断・国宝 ・文化財案内」	河北 倫明	小学館
山田守建築作品集	山田守建築 作品集刊行 会 編	東海大学出版 会	鎌倉の寺	永井 路子	保育社
総目録「建築雑誌論文報告 集研究報告」	日本建築学 会	明治書房	京都・美のこころ	京都新聞社 ・編 加登 藤信・写	鹿島研究所出 版会
その他			日本の伝統 1 「いけば な」	リチ (ドナ ルド) 伊 藤ていじ	淡交新社
著作権法の理論「芸術のた めの法と哲学」	フープマン (H) 久 々湊伸一 訳	中央大学出版 部	男女像	伊藤堅吉, リチー (ド ナルド) ・ 文	図譜新社
日本美術教育史	山形 寛	黎明書房	俗信芸術	伊藤 堅吉	〃
美術教育の構造	上 昭二, 上勝恵一郎	ダヴィッド社	いんよう石	〃	〃
美術教育の基礎	マックフェ (ジュン・ K) 武井 勝雄、糟谷 実 訳	造形社	民俗の仮面	山内登貴夫	鹿島研究所出 版会
美術教育大系「構想図」	湯川尚文 編	学芸書林	仮面の悪魔「その民族学的 ・演劇学的考察」	マックゴー ワン、ロー ゼ (ハーマ ン) 印南 喬 訳	校倉書房
版画教育の考え方と進め方 「池尾版画の体系」	伊藤弥四夫	開隆堂出版K K	世界の写真術	ゲルンシャ イム (ヘル チート), ゲルンシャ イム (アリ ン) 伊 藤逸平 訳	美術出版社
万国博	春山 行夫	筑摩書房	写真芸術論	重森 弘淹	〃
万国博物語	浜口隆一, 山口広	鹿島研究所出 版会			
万国博のすべて	日本経済新 聞社 編	日本経済新聞 社			

便覧

最近、町名変更や電話局の新設、編成替え等が多く、記載の町名や
電話の局名、番号に変動があることと思います。御了承下さい。

(昭和 43 年 12 月現在)

美術関係研究施設

東京大学史料編纂所

東京都文京区本郷7-3-1

電 (812) 2111 (内線2300)

史料編纂所は明治2年3月史料編輯国史校正局を旧和学講談所に設置したのに始まり、その後数度の改変を経て、明治28年4月史料編纂掛として帝国大学文科大学に置かれ、さらに昭和4年7月史料編纂所と改称した。同25年4月東京大学附置研究所に改組し、その後部門の増設があつて現在に至っている。「本邦に関する史料の研究・編纂及び出版」を目的とし、編年史料第一部～第三部、古文書部、古記録部、近世史料部・維新史料部、海外史料部、特殊史料部の9部門と事務局を置く。

〔所長〕 桃裕行、〔部長〕 (編年史料第一) 山中裕、(編年史料第二) 花田雄吉、(編年史料第三) 玉村竹二、(編年史料第四) 小野信二 (古文書) 稲垣泰彦、(古記録) 太田晶二郎、(近世史料) 小西四郎、(維新史料) 吉田常吉、(海外史料) 沼田次郎、(特殊史料) 桃裕行

東洋文化研究所

東京都文京区本郷7-3-1

電 (812) 2111 (代)

本研究所は昭和16年11月、東洋文化の総合的研究を目的として東京(帝国)大学に附置せられ、同大学附属図書館内に置いた。設立当初は哲学・文学・史学部門、法律・政治部門、経済・商業部門の三部門であったが、昭和24年、新たに3部門を加えて6部門となり、1. 哲学・宗教部門、2. 文学・言語部門、3. 歴史部門、4. 美術史・考古学部門、5. 法律・政治部門、6. 経済・商業部門を設け、同時に本拠を文京区大塚町56に移した。

ついで昭和26年度に至り、更に2部門の拡張が認められ、従来の第3部門と第4部門との間に、4. 文化人類学、5. 人文地理学を加えて8部門となり、昭和35年度さらに南アジア部門、昭和39年に東北アジア部門の増設が認められた結果10部門となった。昭和40年10月と41年6月に本郷構内に建物の新築にともない移転した。

勿論現在の規模をもって、かかる広汎な地域における各般の問題を同時に究明することは不可能であるから、各所員の専門に従い、重点的に課題を選んで、出来得限りの効果を収める方針をとっている。しかし如何なる場合にも各専門分野の孤立することを避け、常に研究者相互の連絡を図り、共通の問題意義を育てつつ、個別的には達成し難い組織的な総合研究の実を挙げるに努めている。殊に諸科学間の限界領域にあつては、何処でも取扱われぬ研究領域の開拓をも目指している。また過去の研究に際しては現在の実態を顧慮

し、現在の解明に当っては過去の歴史を尊重すると云う原則を堅持している。要するに東洋文化の諸要素が、互に緊密な関係にあることを自覚し、広い基盤に立ちつつ精深な専門的研究に従事せんとするものである。

〔所長〕 小口偉一〔教授〕 川野重臣、小口偉一、橋本秀一、窪徳忠、泉靖一、荒松雄、鈴木敬、佐伯有一、大野盛雄、月島謙三、〔助教授〕 松本善海、中根千枝、深井晋司、山崎利男、尾上兼英、関寛治、松井透

東京国立文化財研究所

台東区上野公園12番53号

庶務課、美術部 (828) 6811・6812・3613

芸 能 部 台東区上野公園内13番9号
東京国立博物館構内
(821) 4613

保 存 科 学 部 台東区上野公園内13番9号
東京国立博物館構内
(821) 6954・(822) 4209

本研究所は故黒田清輝の遺志に基づき、その遺産を以て開始されたもので、昭和5年開設の準備完了とともに政府に寄附移管された。初め帝国美術院附属として設置されたが昭和10年6月帝国美術院改革に伴い、あらたに美術研究所官制を制定、文部省所管、帝国美術院に附置され、ついで昭和12年6月官制改正の上文部省の直轄研究所となった。昭和22年国立博物館官制の成立とともに同館附置の研究所となり、さらに昭和25年8月文化財保護法制定により国立博物館より分離し、美術研究所として文化財保護委員会の附属となった。ついで同27年4月文化財保護法の一部改正に伴い東京文化財研究所が設置されるに及んで同研究所の美術部として芸能部、保存科学部と共に新発足し、さらに昭和29年7月文化財保護法の一部改正により、東京国立文化財研究所美術部となった。現在の内部組織は第1研究室(東洋及び日本の古美術の調査研究)、第2研究室(日本の近代及び西洋美術の調査研究)、資料室(図書、写真等基礎資料の蒐集の他、特殊写真による光学的研究)となっている。

また芸能部は無形文化財である芸能及びその保存について演劇研究室(演劇の調査研究)、音楽舞踊研究室(音楽及び舞踊の調査研究)、郷土芸能研究室(郷土芸能の調査研究)とがある。

保存科学部は文化財及びその保存について化学研究室(化学的及び分析的調査研究)、物理研究室(物理学的研究)、生物研究室(生物学的調査研究)、修理技術研究室(文化財の修理に関する科学的、技術的調査研究)とがある。尚、東京国立文化財研究所の人事と業務全般の事務的統括管理及び総合調整をする庶務

美術教育施設

課がある。

当所発行の定期刊行物としては「美術研究」「日本美術年鑑」があり、また「美術研究資料」や「研究報告」等を出版、その他随時講演会・特別展覧会を開催し、美術研究のために着実な基礎を提供すると共に文化財の保存活用に貢献している。なお所内には黒田記念室を設けその遺作を陳列、毎週木曜日午後公開している。

〔所長〕 関野克〔庶務課長〕 野島弥三郎〔美術部長〕 高田修〔第一研究室長〕 川上涇〔第二研究室長〕 岡畏三郎〔資料室長〕 中川千咲〔主任研究官〕 久野健・中村伝三郎〔芸能部長〕 浦山政雄〔演劇研究室長〕 (事務取扱) 浦山政雄〔音楽舞踊研究室長〕 横道万里雄〔郷土芸能研究室長〕 三隅治雄〔保存科学部長〕 (事務取扱) 関野克〔化学研究室長〕 岩崎友吉〔物理研究室長〕 登石健三〔生物研究室長〕 (事務取扱) 関野克〔修理技術研究室長〕 立田三朗〔主任研究官〕

江本義理

産業工芸試験所

通商産業省工業技術院

東京本所 大田区下丸子町313

電 (759) 0151

九州出張所 久留米市津福本町218

電 久留米 (2) 5238 (代)

わが国固有の技術である木工・金工・漆工その他各種工芸産業の発展を図るため、昭和3年商工省工芸指導所として仙台市に設置されたものである。昭和12年8月には官制の改正に依り業務範囲を工芸全般に拡大し、同14年8月には大阪江の子島に関西支所を置き、翌15年11月には商工省告示を以て工芸指導所本所を東京市に移転、また従来の仙台の施設を東北支所として機構の充実をはかった。戦時中は研究の方向転換を余儀なくされ、本所、関西支所は被災焼失した。昭和23年1月川崎市久地の元日本化学工場を借用して本所の再建を図ると共に同年8月久留米市に九州支所を設置、同24年4月には布施市に関西支所を新築した。昭和26年内外情勢の推移に伴い、工芸に関する研究指導のほか工業意匠の改善研究、包装に関する研究等を加えて研究諸施設の整備充実を図った。昭和27年3月本所を現在地へ移設、同年4月機構を改め、関西支所を布施市に移設し、九州支所を出張所に改めて業務を集約的に推進し、通商産業省工業技術院の管轄の下に名称も産業工芸試験所として工芸産業における意匠と技術の近代化という当初の目的に戻ると共に、包装技術に関する試験研究を開始した。昭和28年以後、欧米諸国における国際展への参加、東南アジアへの技術指導者の派遣、外国デザイナー招へい等技術交流を図る一方、輸出見本試作など貿易の振興にも一役を買い、ますます業務範囲は広がりつつある。なお昭和42年6月より東北支所は東北工業技術試験所(仙台市原町苦竹電(57)5211~5)として独立した。

組織と事務分掌は下記の通りである。

〔所長〕 藤井左内

〔意匠第1部〕 知久篤

人間工学課(内村喜之)―生体機能に関する人間工学の研究。意匠分析課(知久篤)―実験心理および工芸品、工業製品の意匠の基礎的要素の試験、研究、技術調査、機関誌の編集

〔意匠第2部〕 服部茂夫

意匠第1課(剣持仁)―社会心理、造形心理および機器、室内装備の意匠の試験、研究、設計。

意匠第2課(天野孝雄)―表面構成、造形の基礎および工芸品、工業製品の意匠の試験、研究、設計。

〔技術第1部〕 新庄晃

木工技術課(大野福也)―木材等の材料による工芸品の工作技術の試験、研究、試作。

金工技術課(村越康)―金属等の材料による工芸品の工作技術の試験、研究、試作。

〔技術第2部〕 小松和

試験課(久保田勝也)―工芸品の品質及び材料の試験、研究。

包装材料課(芦原晋)―包装に関する原料、材料及び印刷に関する試験、研究。

包装技術課(青木松三)―包装容器及び包装加工技術の試験、研究。

〔技術相談所〕(企画課長兼任) 工芸、意匠、包装に関する技術相談、講習会、講演会、展示、技術者の養成、指導。試作品参考品の貸与、譲与。

〔企画課〕(丸谷忠彦) 試験研究等の調整事業報告の作成、広報業務、特許出願業務。

〔庶務課〕(北村隆) 庶務、人事、会計年度、厚生。

〔九州出張所長〕 那賀清彦 工芸技術の指導、九州地方工芸事情の調査、工芸品の意匠、工芸材料の材質、加工技術の試験、研究、設計。

京都大学人文科学研究所

京都市左京区北白川東小倉町47

電 吉田 (771) 8111 (内線5003・5004)

本研究所は昭和14年8月、国家の必要に応じて東アジアに関する人文科学の総合研究を行うために設立されたが、その組織を中核とし、半官半民の東方文化研究所と社団法人西洋文化研究所を合併して、昭和24年1月にあらたに世界文化に関する人文科学の総合研究を行う研究所として発足した。創立の際は3部門であったが、合併により11部門に増加し、その後34年と39年とにそれぞれ一部門を増加、13部門となった。これを日本部、東方部、西洋部に分け、相互に協力して研究を推進している。「京都大学人文科学研究所紀要」その他、出版物、講演会による研究発表を行っている。昭和40年4月には、13部門のほかに附属研究施設として「東洋学文献センター」が設置された。

〔所長〕 藪内清〔教授〕(日本部) 坂田吉雄、井上清

(東方部) 貝塚茂樹、水野清一、森鹿三、藪内清、長
広敏雄、岩村忍、平岡武夫、小野川秀美(西洋部) 桑
原武夫、清水盛光、会田雄次

奈良国立文化財研究所

奈良市春日野町50

電 奈良 (22) 0474~6

昭和27年文化財保護法の一部改正が行われ、同法の
規定に基づき同年4月1日、奈良市に当研究所が設置
された。所内の組織は庶務課、美術工芸研究室(絵画・
彫刻・工芸品の有形文化財と工芸技術に関する調査研
究)、建造物研究室(建造物と庭園遺跡に関する調査研
究)、歴史研究室(考古、史跡、古文書に関する調査研
究)の三課3室からなり、さらに昭和38年度から12年計
画に基づく平城宮跡発掘調査部が併置され、昭和39年
度において正式な組織として認められて次の5室が置
かれた。第一調査室、第二調査室、第三調査室(第一
~三調査室は分担して発掘調査をする)、保存整理室
(遺構・遺物の保存整理と調査研究)、史料調査室(史
料の収集と調査研究)。次いで40年度に第四調査室が
設けられ平城宮跡発掘調査部は6室となる。〔所長〕

小林剛〔課長〕(庶務課) 石藤守勇〔室長〕(美術工芸
研究室) 守田公夫(建造物研究室) 伊藤延男(歴史研
究室) 田中稔、(平城宮跡調査部)〔部長〕坪井清足、
〔室長〕(第一調査室) 沢村仁、(第二調査室) 田中琢、
(第三調査室) 狩野久、(第四調査室) ⑩坪井清足、(保
存整理室) 横山浩、(史料調査室) ⑪田中稔。

黒川古文化研究所

芦屋市打出春日町34

電 芦屋 (2) 2396

本研究所は黒川家歴代の蒐集品をもとにし、理事長
故黒川幸七が京大名誉教授梅原末治指導の下に昭和25
年10月財団法人黒川古文化研究所として設立されたも
のである。主として東洋古文化の調査研究を目的と
し、資料及び研究成果の印刷物刊行、及び公開講演と
展覧を行っている。

〔理事長〕黒川いこ子〔常務理事兼研究員〕武藤誠、
柴田実(研究員兼務)〔理事〕有光次郎、内田幾助、辰
馬悦蔵、江口治郎、石崎喜兵衛〔監事〕木村徳兵衛、
西川源三〔主事〕石橋篤

美術関係学会 (50音順)

(括弧内は代表者)

京都大学美学会 京都市左京区吉田 京大文学部美学

美術史研究室内 電 (771) 8111 学内(2576)(井島勉)

芸文学会 港区三田2-15-45慶応義塾大学文学部研

究室 電 (453) 2111(佐藤朔) 機関誌「芸文研究」年
2回刊

古文化資料自然科学研究会 台東区上野公園、東京国

立文化財研究所保存科学部内 電 (821) 6954 (大岡
実) 機関誌「古文化財の科学」不定期刊

史学会 文京区本郷 7-3-1 東京大学文学部内(理

事長竹内理三) 機関誌「史学雑誌」各月発刊

東方学会 千代田区西神田 2-4-1 電 (261) 1061

(262) 7221 (代)(会長宇野哲人 理事長吉川幸次郎)
機関誌「東方学」年2回刊

Books and Articles on Oriental Subjects published
in Japan (年刊)、The Transactions of the Inter-
national Conference of Orientalists in Japan (年
刊)、Acta Asiatica (年2回刊)

東北美学美術史学会 仙台市片平丁 東北大学美術史研

究室内 電 仙台 (23) 5111 内線 2346(村田潔)

東洋学会 文京区本郷 7-3-1 東京大学東洋文化研

究室内 電 (812) 2111 (内) 7580 (川野重任) 機関
誌「東洋文化」年2回刊

日本建築学会 中央区銀座西 3-1 電 (535) 6511

~5 (高山英華) 機関誌「建築雑誌」年14回刊

日本考古学会 台東区上野公園 東京国立博物館内

電 (822) 1111~6 (原田淑人) 機関誌「考古学雑誌」
季刊

日本考古学協会 文京区本郷 7-3-1 東京大学文学

部考古学研究室内 (八幡一郎)「日本考古学年報」年刊

日本デザイン学会 八王子市元八王子町 3-2707 東

京造形大学内電 (0426) ④4401 (代)

日本美術教育学会 本部 京都大学文学部美学美術史

研究室 電 (771) 8111 内線70 事務局 京都市左京
区岩倉忠在地町京都市立明德小学校内 電 (781) 4874

機関誌「美術教育」発刊

日本民俗学会 世田谷区成城町 708 成城大学内 電

(482) 1181 (大藤時彦) 機関誌「日本民俗学会報」隔
月刊

美学会 文京区本郷 7-3-1 東京大学文学部美学研

究室内 電 (812) 2111 内線 2351 (竹内敏雄) 機関
誌「美学」季刊

美術教育学会 千代田区平河町 2-6 麹町中学校

電 (262) 0015 (竹上義治) 機関誌「美術教育学会研
究」季刊

美術史学会 台東区上野公園、東京国立文化財研究所

内 電 (828) 6811~2 (吉川逸治) 機関誌「美術史」
季刊

仏教史学会 京都市中京区東洞院三条上ル 449 平楽

寺書店内 電 (22) 0016 (塚本善隆) 機関誌「仏教史
学」発刊

文化史学会 京都市上京区烏丸今出川東入新北小路

美術教育施設

同志社大学文学部文化学科研究室 電 (21) 2311
(内)328 (秋山国三) 機関誌「文化史学」(同志社大学
文化学会・機関誌「文化学年報」、同志社大学人文学
会・機関誌「人文学」)

三田芸術学会 港区三田2-15-45 慶応義塾大学文
学部美術史学研究室 電 (453)2111(守屋謙二)

早稲田大学美術史学会 新宿区戸山町42 早稲田大学
文学部美術研究室 電 (203) 4111 美術研究室(小
杉一雄) 機関誌「美術史研究」

早稲田大学美学会 新宿区戸山町42 早稲田大学文学
部美術研究室 電 (203) 4111 美術研究室(青柳正
広)

美術教育施設

〔国立、公立〕

東京芸術大学美術学部

台東区上野公園

電 (828) 6111 (大代) —10

東京芸術大学美術学部の前身東京美術学校は明治20
年10月勅令を以て設置せられ、文部省専門学務局長浜
尾新が学校長事務取扱を命ぜられ、同22年2月授業を
開始した。同23年浜尾新に代って岡倉覚三が学校長と
なったが、同31年退官し、彼と共に教授橋本雅邦以下
多数の教授、助教授が辞職した。高嶺秀夫、久保田鼎
に次いで同34年正木直彦が学校長となり昭和7年和田英
作、同11年芝田徹心、同15年沢田源一、更に同19年6
月上野直昭が学校長に任ぜられた。昭和24年5月31日
法律第150号を以て国立学校設置法が公布され、東京
美術学校は東京音楽学校と共に新制大学に包括され、
東京芸術大学美術学部及び東京芸術大学東京美術学校
として共々発足した。初代の学長には上野直昭、美術
学部長には村田良策が任ぜられ、美術学校長は村田良
策の兼任となった。ついで昭和27年3月31日旧制課程
廃止により東京美術学校及び同校附属工芸技術講習所
は廃止された。

美術学部の学科は5学科だけとなり旧制師範科は昭
和27年3月31日官制を以て廃止された。昭和29年4月
には1年制の美術専攻科が設置され、これは34年4月
に2年制に改正された。38年4月には大学院美術研究
科修士課程が設置された。

学長には36年12月より小塚新一郎、美術学部長には
42年12月より摩寿意善郎が任ぜられ今日に至っている。

なお35年9月から奈良市に美術学部古美術研究施設
が開設された。

〔学部〕

絵画科 (日本画、油画)

彫刻科

工芸科

建築科

芸術学科

修業年限4年 授業料年額12,000円

入学資格

(1) 高校卒業者

(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者

(3) 高等学校卒業したものと同等以上の学力がある
と認められたもの

イ 外国において学校教育における12年の課程を
修了したもの

ロ 文部大臣の指定したもの

ハ 大学入学資格検定に合格したもの

ニ その他大学において相当の年齢に達し高等学
校を卒業したものと同等以上の学力があると認
められたもの

〔美術学部学生定員〕

絵画科 280名

彫刻科 80名

工芸科 240名

建築科 40名

芸術学科 80名

計 720名

〔大学院美術研究科〕

絵画専門課程

彫刻

工芸

デザイン

建築

芸術学

修業年限2年、授業料年額18,000円

入学資格

(1) 大学を卒業した者

(2) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると認
められた者 (詳細省略)

(3) 外国において学校教育における16年の課程を修
了した者

〔大学院美術研究科学生定員〕

合計 108名

なお、陳列館と正木記念館があり、随時展覧を
行い学生及び一般に公開している。

〔学長〕 小塚新一郎、〔学部長〕 摩寿意善郎、〔教
授〕 新規矩男、天野太郎、磯矢陽 (阿伎良)、小口
八郎、菊池一雄、久保守、暮田延美、小池岩太郎、
小磯良平、田中文雄 (青坪)、内藤四郎、西田正秋、
温品鳳治、舟越保武、前田泰次、三井安蘇夫、毛利

登、山本学治、山脇洋二、吉岡堅二、吉沢忠、吉村順三、淀井敏夫、山本正男、脇田和、末田利一、岩橋英遠、〔助教〕伊藤茂之(伊東傀)、岩橋英遠、上原之節、奥村昭雄、桑原実、小山清男、桜林仁、島村三七男、新村撰吉、菅原安男、鈴木信一(貫爾)、高田正二郎、田中芳郎、田村耕一、千野茂、寺田春式、中尾喜保、中村光哉、成川武夫、西村公朝、野口三千三、蓮田修吾郎、藤本能道、宮川ムツ(睦子)、茂木計一郎、六角頼雄、野見山曉治、〔講師〕浅野陽、稻次敏郎、澄川喜一、田中勇、中根寛、西大由、平山郁夫、藤木忠善、前野堯、三好二郎、山川武、山下恒雄、吉田左源二、手島有男、辻茂、杉下竜一郎、彼末宏、水野敬三郎

金沢美術工芸大学

金沢市出羽町 3-1

電 金沢 (62) 3531 (代)-2

昭和21年7月金沢美術工芸専門学校が設立され同年10月開校した。同25年金沢美術工芸短期大学(3年制)として発足、同30年さらに金沢美術工芸大学となり初代学長に森田亀之助が発令された。昭和39年初代学長森田亀之助が退職し、昭和40年に二代目学長に秋山光夫が発令された。なお昭和40年度から産業美術学科の中に工芸繊維デザイン専攻を増設した。

〔美術工芸学部〕

美術学科

日本画	62名
油 画	93名
彫 刻	53名

産業美術学科

商業デザイン専攻	128名
工業デザイン専攻	112名
工芸繊維デザイン専攻	31名

修業年限 4年 入学資格 高校卒

〔学長〕秋山光夫 〔教授〕天川維文、小竹武夫、原田太一、高光一也、矩幸成、米永嘉勝、長谷川八十吉、小松森作、竹沢基、瀬川重知、板坂辰治、米田重博

愛知県立芸術大学美術学部

愛知県愛知郡長久手村大字岩作字三ヶ峰 1-1

電 長久手 (2) 1180 (代)

中京地区における産業経済の著しい躍進と相まって、この地方に特色ある文化を振興することを目的として昭和41年4月に設立された。

初代学長に上野直昭、美術学部長に伊藤廉が就任。

〔美術学科定員〕

絵画専攻	30名 (日本画10名、油画20名)
彫刻専攻	10名
デザイン専攻	40名
計	80名

〔修業年限〕 4年

〔学長〕上野直昭 〔学部長〕伊藤廉 〔主要教員〕(教授)片岡球子、伊藤廉、山本豊、鬼頭鍋三郎、

野々村一夫、河野孝、由良玲吉 (助教授)堀川恭、片岡修、建畠嘉門 (講師)布施伸介、島田章三、笠井誠一、奥谷博、堀川恭、古島実、小町谷朝生、小町谷尚子、吉本弘、他

京都工芸繊維大学

本部 京都市左京区松ヶ崎橋上町

電 (781) 4141 (大代)

工芸学部 京都市左京区松ヶ崎御所海道町

繊維学部 京都市北区大將軍坂田町

明治35年3月設置された京都高等工芸学校は昭和19年4月官制改正により京都工業専門学校と改称、さらに昭和24年5月京都繊維専門学校と合併して京都工芸繊維大学工芸学部及び繊維学部となった。京都工業専門学校は昭和26年3月廃止された。

〔工芸学部〕 機織工芸学科、建築工芸学科、色染工芸学科、窯業工芸学科、意匠工芸学科 (昭和29年増設) 生産機械工学科 (昭和36年増設) 電気工学科 (昭和38年増設) 工業化学科 (昭和42年増設)

〔繊維学部〕 養蚕学科、製糸紡績学科、繊維化学科 学生定員は昭和33年4月改正となり〔工芸学部〕 (機織) 140名、(建築) 120名、(色染) 140名、(窯業) 120名、(意匠) 120名、(生機) 160名、(電気) 160名、(工化) 160名

〔繊維学部〕 各学科 160名とする。

〔学長〕藤木武助 〔工芸学部長〕増尾富士雄〔繊維学部長〕青木茂一 〔美術関係教授・講師〕河本敦夫、土居次義、福永俊吉、松尾秀郎、高橋秀雄、中村雄二郎、野口茂、大橋乗保、白石博三、中村昌生、竜村謙、芝田耕、佐藤辰三、松田尚之、赤沢鍼太郎、川端弥之助、神坂洋、矢野鉄夫、樋口治、柳原明彦、森本真佐男

京都市立美術大学

京都市東山区今熊野日吉町50

電 (561) 7141~3

明治42年3月京都市立絵画専門学校として創立され、大正15年現在地に移転した。昭和20年京都市立美術専門学校と改称、さらに昭和25年新制大学令によって京都市立美術大学となる。京都市立美術専門学校は昭和27年3月廃止された。

〔美術学部〕	日本画科	120名
	西洋画科	120名
	彫刻科	40名
	工 芸 科	

デザイン専攻	100名
陶磁器専攻	28名
塗装専攻	32名
染織専攻	60名

〔美術専攻科〕	日本画専攻	20名
	西洋画専攻	20名
	彫刻専攻	10名

美術教育施設

デザイン専攻	10 名
陶磁器専攻	6 名
塗装専攻	6 名
染織専攻	10 名

〔学長〕近藤雄三 〔教授〕重久篤太郎、岡本午一、寺田勇、佐和隆研、中田勇次郎、辻晋堂、堀内正和、奥村厚一、林司馬、今井憲一、太田喜久太郎、宮島久七、佐野猛夫、伊藤維郎、秋野ふく、鷹阪龍夫、三宅勇蔵、長崎盛輝、弘津友三郎、清水洋、満岡忠成

京都市立日吉ヶ丘高等学校美術工芸課程

京都市東山区泉涌寺山内町
電 (561) 4142. 710

明治13年京都府画学校が設立され、その後同24年に京都市美術学校、27年に京都市美術工芸学校、34年京都市立美術工芸学校と名称を変えたが、さらに昭和23年京都市立美術高等学校となり、同24年には京都市立日吉ヶ丘高等学校の総合制の中へ美術課程として併置された。

〔学科〕

日 本 画 科
西 洋 画 科
彫 刻 科
図 案 科
漆 芸 科
陶 芸 科
服 飾 科

〔校長〕三上四郎 〔職員〕天野大虹、川島浩、橋田二郎、松下明治、留岡彬、上村勉治、藤庭賢一、高橋慎吾、笠間嘉一郎、兼松貞、野村耕、水内杏平、平石晃洋、田代誠、江口滉、加藤英子、横山知世子、大橋幸子、遠藤剛潤、柴田篤男、和田俊三、宮島久雄、大森正一、山岡泰造

〔私立〕

育英高等専門学校

杉並区井草2—35
電 (390) 3166

昭和8年10月カトリック修道会サレジオ会により東京育英工芸学校として創立。その後数度にわたる学制改革あるいは学校名の変遷を経て、昭和38年に法制改定に基づく新しい5年制度の高等専門学校として発足した。本校においては各人の信仰は自由であって、大学同等の一般教養と2カ国語の外国語を修得し、単なる技能者でなく、研究や技術管理の能力をもつ技術者養成を目標とする。

〔美術関係学科〕印刷工学科 90名
工業意匠学科 45名

総定員1125名 修業年限5年 入学資格 中学卒

〔校長〕クロドヴェオ・タシナリ、教授17名、助教授13名、講師23名、助手17名、技術員7名

女子美術大学

杉並区和田1—49—8
電 (382) 2271—7

明治33年本郷弓町に女子美術学校として創立された。のち菊坂に移り、昭和4年専門学校に昇格し、女子美術専門学校と改称、同10年杉並に移転した。昭和24年4月新制大学として女子美術大学となった。

〔芸術学部〕

絵画科	洋画専攻 日本画専攻
産業デザイン科	デザイン専攻 工芸専攻
芸術学科	造形学専攻
修業年限	4 年

〔学長〕加藤成之 〔教員〕小瀬正吉、秋山謙蔵、宇都力、佐藤光二、三谷道磨、滝沢清人、松本栄一、竹田道太郎、松島道也、永井信一、雨宮政次、福田雄三、木下義謙、川島理一郎、黒田頼綱、森田元子、福沢一郎、岡鹿之助、中山巍、桜井悦、高須頼子、原光子、佐野ぬい、溝田コトエ、前田青郎、奥村土牛、三谷十糸子、川崎鈴彦、大塚和、鏡木きよ子、河野鷹思、池辺義敦、松井汲夫、笠井美恵子、田中正明、福田良一、松川添二、長野隆業、高尾みつ、池沢陽子、村井麗子、芦沢銑介、柚木沙弥郎、四本貴資、柳悦孝、宗宮昱子、乗松巖、郡山正、子安三喜男、田中四郎、林利根、佐々木四郎、後藤邦節、金子徳衛、春田安喜子、吉江麗子、平野拓夫、永山信子、久野健、中山公男、中尾喜保、小山清男、鈴木清、上原之節、麻生秀二、浮乗康、進藤蕃、田中岑、渡辺武夫、後藤伸三郎、片岡修、高木滋夫、鍵和田務、仲条正義、大田周夫、細野正信、芝田圭一、田中作太郎

女子美術短期大学

杉並区和田本町1—49—8
電 (328) 2271—7

昭和25年4月女子美術大学に2年制の短期大学が併置され、服飾科と造形科を設け、28年には1年制の別科を併設した。さらに38年4月から専攻科に設置した。

服飾科 (洋服、刺繍)

造形科 (グラフィックデザイン、ディスプレイデザイン、生活デザイン、テキスタイルデザイン、衣服デザイン、絵画、彫塑) 修業年限2年

別 科 (服飾、図案)

専攻科 (造形専攻、服飾専攻) } 修業年限1年

〔学長〕加藤成之 〔教員〕松井汲夫、佐々木四郎、奥田政徳、福岡健太郎、野口弥太郎、藤田栄一、田中正明、金井栄二、鈴木公子、小泉元治、吉本孝、渡辺万治、須藤駿、吉田令一、中島裕、工藤睦子、森妍子、高橋幸子、清水澄江、鶴毬、野村瑠子、八幡健二、加瀬富士子、桑原巨守、羽田弘、鹿野幸子、秦計以、杉井あつみ、市川美智子、塚越道子、土岐和子、田沢澄江、山口英子、高野楊子、貞方春野、木下艶

子、秋山光喬、金子百代、秋川貞子、長塩滋子、後藤邦節、岡田節子、高橋芙蓉、入江観、塙経亮、難賀清子、下田美保、久保益雄、池沢一明、江口週、天野三郎、藤田吉香、徳本立憲、阿方稔、金子篤司、松樹路人、村内哲二

多摩美術大学

世田谷区玉川上野毛町 213

電 (702) 1141(代)~5

昭和10年、北吟吉、牧野虎雄、杉浦非水、近藤清吾を設立責任者とし、多摩帝国美術学校として創設された。22年専門学校令による多摩造形芸術専門学校となり、25年さらに三年制短期大学を併設した。28年に至り新制多摩美術大学となり、39年大学院（修士課程）を開設した。

〔学科〕

絵画科（油画、日本画）

彫刻科

デザイン科（平面デザイン、立体デザイン、染・織デザイン）

〔学長〕 石田英一郎 〔理事長〕 村田晴彦

〔教授・助教授・講師〕 森白甫、島田訥郎、加山又造、横山操、上野泰郎、市川保道、福沢一郎、大沢昌助、斎藤義重、杉山直、末松正樹、鈴木誠、赤穴宏、高橋庸男、菊地精二、岡田謙三、川端実、宮本三郎、瀬島好正、勝呂忠、鶴見雅夫、岡崎紀、藤崎秀雄、中山正、駒井哲郎、早川巍一郎、円舘勝二、建昌覚造、田中栄作、竹田光幸、伊東寿太郎、伏見文男、佐々木美代子、寺門保夫、山下寛、馬場雄二、稻垣行一郎、神田昭夫、伊藤幸作、伊藤努、竹内成志、ダニエル・タムラング、咽原省三、萱場修、大谷四郎、楠原義一、山下勇三、脇リギオ、永田久延、高橋満寿男、清水宣夫、祐桑坊宣明、福田勉、大沢泰夫、後藤騎一郎、剣持勇、服部茂夫、畑正夫、新庄晃、漆原美代子、森崇、秋山貞輔、小林正己、岸武丈、川上信二、栗原宏、渡部裕子、佐々木静一、後藤狷士、松江智寿、斎藤彰爾、安達昭雄、国分康孝、遠藤太郎、野村太郎、五味充子、佐々木則之、塩山惇臣、大野信吾、奥野健男、瀬木慎一、吉田紀子、福井恵美子、伊藤ていじ、吉田研介、大淵武美、中原祐介、東野芳明、針生一郎、石井昭、小林薫、西尾忠久、安藤更生、大場磐雄、青柳正広、波多野通敏、藤田学、伊藤延男、鈴木嘉吉、吉沢忠、島崎三郎、小林孝輔、清岡卓行、小谷幸雄、宮内嘉久、重森弘淹、赤坂長義、石川弘義、坂崎乙郎、高階秀爾、穂積信夫、池原義郎、阪本一郎、堀松武一、熊本高工、中川武夫、岡井隆

武蔵野美術大学

吉祥寺校：東京都武蔵野市吉祥寺東町 3-3-7

電 (0422) ㊟ 8171(代)

鷹の台校：東京都小平市小川町 1-736

電 (0423) ㊟ 5011(代)

本学は昭和4年創立された帝国美術学校を母体とし、昭和23年武蔵野美術学校と改称。

昭和27年に通信美術部、同28年に文部省指定の図画工作教員養成科を併設。昭和32年短期大学を設立。昭和37年にこれまでの本科の課程を新制大学に移行させ現在に至る。

〔造形学部〕

定員：375名、修業年限：4年、入学資格：高卒、授業料：年額102,000円（昭和42年度）

美術科

日本画専攻

油絵専攻

彫刻専攻

産業デザイン科

商業デザイン専攻

工芸工業デザイン専攻

芸能デザイン専攻

建築科

基礎デザイン学科

〔別科〕〔実技専修科〕

油絵専修

定員：30名、修業年限：3年、入学資格：高卒、授業料：年額78,000円（昭和42年度）

〔短期大学部〕

定員：300名、修業年限：2年、入学資格：高卒、授業料：年額90,000円（昭和42年度）

美術科

油絵専攻

美術教育専攻

デザイン科

商業デザイン専攻

工芸デザイン専攻

芸能デザイン専攻

生活デザイン学科

通信教育部デザイン科・美術科

〔学長〕 有光次郎 〔理事長〕 田中誠治

〔主要職員〕

〔名誉教授〕 名取堯、川崎小虎

〔教授〕 五味保義、河竹繁俊、久保義三、宮本常一、星川進、堤秀夫、磯貝芳郎、竹内潔、専田秀夫、北島修一郎、吉富一、菊池庄吉、乾慶四郎、田澤坦、米沢嘉圃、土屋幸夫、豊口克平、芳武茂介、三林亮太郎、阿部公正、芦原義信、織本匠、中谷建次、福田豊四郎、塩出英雄、森芳雄、山口長男、三雲祥之助、土田文雄、中間冊夫、麻生三郎、横地康国、藤井令太郎、須田寿、田中忠雄、内田武夫、斎藤長三、清水多嘉示、原弘、佐々木達三、荒川清美、町田甲一

日本大学芸術学部

練馬区旭丘 2-42

電 (957) 3111

美術教育施設

大正10年法文学部内に美学科が設置されたのに始まり、昭和24年新制大学となり、大学院も併置している。

〔芸術学部〕

美術学科

音楽学科

文芸学科

演劇学科

写真学科

映画学科

放送学科

〔芸術学部長〕 渡辺俊平 〔美術学科主任教授〕 山脇巖 〔主要教員〕 野口弥太郎、柳原義達、湯川制、沢健太郎、中谷貞彦、渡辺信一、麻生三郎、穴沢一夫、糸園和三郎、植村鷹千代、川野洋、斎藤長三、桜林仁、高橋正年、武下朗、土谷武、中井幸一、中森義宗、西川駿、宮川謙一、高田秀三、山本正、吉村力郎、由良玲吉、鈴木男浪、奈良謙、草深幸司、五十嵐

芳三、江川銀蔵、後藤伸三郎、山脇迪子

大阪芸術大学

大阪府南河内郡河南町金剛台

電 (072) ② 3781

美術学科

絵画専攻・彫塑専攻

デザイン学科

建築学科・文芸学科

修業年限4年、入学資格：高卒

授業料：年額75,000円

〔学長〕 塚本英世 〔実技教授〕 清水茂郎、松井正、宮本浩二、胡桃沢源人、森本健二、鍋井克之、田中健三、加村耕二、山下明伸、池田均、中村真、印野春次郎、森淳、持田総章、岡本庄三、西脇友一、西尾直、矢野鉄山、田島信、早川良雄、金子徳次郎、木田梧楼、入江泰吉、永田登、岩宮武二、鈴木陽、本野東一他

美術観覧施設索引

(ア行)

愛知県文化会館美術館	237
秋田市美術館	227
朝倉彫塑館	231
熱海美術館	237
有田陶磁美術館	247
井伊美術館	238
池大雅美術館	240
石川県美術館	235
石橋美術館	246
逸翁美術館	241
出光美術館	232
蔵島神社宝物館	244
出雲大社宝物殿	243
茨城県立美術館	227
磐田市立郷土館	237
岩国徴古館(市立)	245
上杉神社稽照殿	227
上田市立博物館	236
浦和市郷土博物館	228
愛媛文華館	246
演劇博物館	231
大阪市立博物館	240
大阪市立美術館	240
大倉集古館	231
大原美術館	244
近江神宮歴史館	238
大山祇神社国宝館	246
岡山美術館	244
小笠原記念館	247

(カ行)

鶴林寺宝物館	241
鹿児島市立美術館	248
笠間市立美術館	227
鹿島神宮宝物館	227
春日大社宝物殿	243
神奈川県立金沢文庫	233
神奈川県立近代美術館	234
神奈川県立博物館	233
鎌倉国宝館	234
観世音寺宝蔵	246
観心寺霊宝館	241
掬粋巧芸館	227
菊池神社宝物館	247

贛山館	237
北野天満宮宝物館	240
北九州市立八幡美術館	246
忌宮神社宝物館	245
吉備考古館	244
吉備考古館別館	244
教王護国寺重要文化財収蔵庫 (東寺宝物館)	240
京都国立博物館	238
京都国立近代美術館	239
京都市美術館	239
京都大学文学部陳列館	239
京都府立総合資料館	240
郷土博物館(福井)	235
行田市さきたま考古館	228
玉堂美術館	233
錦水美術館	248
金鈴塚遺物保存館	228
串本応挙芦雪館	243
久能山東照宮博物館 (旧称宝物館)	237
熊野神宝館	243
熊本国際民芸館	247
倉敷考古館	244
倉敷民芸館	244
黒田記念室	230
耕三寺博物館	244
興福寺国宝館	242
神戸市立南蛮美術館	241
高知県懐徳館	246
高野山霊宝館	243
広隆寺霊宝館	239
国立西洋美術館	230
駒ヶ根博物館	236
駒場高校美術館	233
金刀比羅宮博物館	245
五島美術館	232

(サ行)

埼玉県立美術館	228
埼玉県立文化会館 附属郷土館	228
斎藤報恩会博物館	227
佐賀県文化館	246
佐野美術館	237
茶道美術館	235
サントリー美術館	232

滋賀県立琵琶湖文化館	240
織宝苑(タツララ・シルク・ マンション)	240
信濃美術館	236
芝山はにわ博物館	229
島根県立博物館	243
島根県史料博物館	247
書道博物館	231
常陽明治記念館	228
市立駒ヶ根博物館	236
市立函館博物館	226
神宮徴古館(農業館)	238
諏訪市美術館	235
善光寺大勧進宝物館	236
尖石考古博物館	236
仙台市博物館	226
総本山善通寺宝物館	246

(タ行)

対岳文庫	239
醍醐寺霊宝館宝聚院	239
高岡市美術館	235
高輪美術館	231
高松市立美術館	245
高山市立飛騨民俗館	237
玉作湯神社出雲玉作社 出土品収蔵庫	243
秩父民俗資料館	228
致道博物館	227
中尊寺讃衡蔵	226
長府博物館	245
鶴岡八幡宮宝物殿	234
津和野町立郷土館	243
滴翠美術館	241
天理大学附属天理参考館	242
天理ギャラリー	232
東京国立博物館	229
東京国立近代美術館	229
東京芸術大学 附属芸術資料館	230
東京都美術館	230
東京大学教養学部 附属美術博物館	233
堂本美術館	240
東洋美術陳列館	231
東洋民俗博物館	242
徳川美術館	238
徳島県博物館	245

美術観覧施設索引

徳島県立図書館	245
鳥取県立美術館	243
常盤山文庫	234
富山市立郷土博物館	235

(ナ行)

長岡現代美術館	234
長崎県立美術館	247
長崎市立博物館	247
長瀬総合博物館	228
名古屋城天守閣	238
奈良県立橿原公苑大和歴史館	242
奈良国立博物館	242
寧楽美術館	243
成田山史料館	229
南蛮文化館	240
二階堂浮世絵文庫	234
西陣織物館	240
西村博物館	245
二条城	239
日光東照宮宝物館	228
日本工芸館	240
日本民芸館	233
仁和寺霊宝館	240
根津美術館	231

(ハ行)

萩市郷土博物館	245
白鶴美術館	241
箱根美術館	234
箱根神社宝物館	234
畠山記念館	232
浜松市立郷土博物館	237
日田市立博物館	248
飛騨民俗館(高山市立)	237
平出遺跡考古博物館	236
琵琶湖文化館(滋賀県)	238
福井県立岡島美術記念館	235
福井市立郷土歴史館	235
福岡県文化会館美術館	246
藤井有鄰館	239
藤田美術館	241
布施美術館	238
二荒山神社宝物館	228
ブリヂストン美術館	232
別府市立美術館	248
豊国神社宝物館	239
防府天満宮文化財収蔵庫	245
法隆寺大宝蔵殿	242
北海道立美術館	226
北方文化博物館	234

本間美術館	227
本妙寺宝物館	247

(マ行以下)

牧野虎雄記念館 (駒場高等学校校美術館)	233
松浦史料博物館	247
松永記念館	234
松本市立博物館	236
丸木美術館	228
三重県立博物館	238
三嶋大社博物館	237
身延山宝物館	235
宮崎県立博物館	248
明治神宮聖徳記念絵画館	232
明治神宮宝物殿	233
山口県立山口博物館	244
山種美術館	232
大和文庫館	242
山本鼎記念館	236
祐徳博物館	247
陽明文庫	239
竜子記念会館	233
蔵山美術館	236
和歌山県立美術館	243

美術観覧施設

【北海道地方】

北海道立美術館

札幌市北1条西5丁目
電 札幌 (22) 0811

昭和42年9月3日開館。故三岸好太郎の作品(油彩61点、素描他159点)が遺族から寄贈されたのを機に旧道立図書館を改装して創設された。

〔館長〕 工藤欣弥

〔観覧日〕 月曜・祝日・年末年始休館

市立函館博物館

函館市青柳町17-1
電 0138 (23) 5480

明治12年5月開館。考古、土俗、民俗、資料など16,000点以上を収蔵。昭和41年改築。

〔館長〕 北風秀男

【東北地方】

中尊寺講堂蔵

岩手県西磐井郡平泉町
電 平泉 200~204

昭和30年5月3日竣工開館。一字金輪仏、大日如来、釈迦・阿彌陀・薬師の丈六仏、千手観音等の仏像を始め藤原4代の副葬品及び多数の経巻、工芸品、古文書類に至る国宝重文指定および現在保存修理中の国宝金色堂(昭和37~42年)御本尊、諸仏を収蔵展覧する。また同寺境内に金色堂(国宝)、旧覆堂(重文)、経蔵(重文)がある。

〔観覧日〕 4月—10月 8時—5時、11月—3月 8時半—4時半

〔観覧料〕 150円(但し5月1日より250円)

仙台市博物館

仙台市川内三の丸跡
電 (25) 2557

昭和36年10月開館。伊達家関係の資料約8000点を中心に、新資料も加えて収蔵展示する。

〔館長〕 戸沢大作

〔観覧日〕 9時—4時 月曜、祭日の翌日、12月28日—1月4日は休館

〔観覧料〕 30円

斎藤報恩会博物館

仙台市大聖寺裏門通3
電 仙台 (22) 4777

大正12年2月創立。大正12年文部省認可となり昭和8年に開館一般公開した。昭和20年戦災を受けたが23年修理再開した。東北地方の自然科学資料、文化史資料を陳列する。

〔館 長〕 斎藤養之助
〔観覧日〕 月曜は休館
〔観覧料〕 10円

秋田市美術館

秋田市千秋公園1の4
電 秋田 (2) 7575

昭和33年6月開館。鉄筋コンクリート平屋建、約90坪。特別展、郷土展など市民の美の教室として秋田市教育委員会の所管になっている。

〔館 長〕 北島震一
〔観覧日〕 10月—3月 9時半—4時半、4月—9月 9時—5時 月曜休館
〔観覧料〕 20円、特別展50円

本間美術館

山形県酒田市御成町7の7
電 酒田 (2) 1429・2564

昭和22年5月創立。地方文化に貢献するために旧本間家別邸を美術館として公開した。文書・陶器等東洋美術関係500点。洋画・版画等西洋美術関係100数点を有し、年25平均回展覧会を開いている。後援団体として酒田美術協会がある。昭和40年5月財団法人となった。

昭和41年10月16日着工の新館(延面積654 m^2)は昭和42年10月末完成、昭和43年5月開館。

〔館 長〕 本間祐介 〔理事長〕 本間順治
〔観覧日〕 9時—4時半 月曜休館
〔観覧料〕 100円、特別展は別。

致道博物館

山形県鶴岡市家中新町10番18号
電 鶴岡 (2) 1199

昭和27年3月創立。維新後、藩校致道館廃止と共に旧藩主酒井家邸内に図書研究所文会堂を設け、各種郷土資料の研究調査公開を行って来たが、昭和25年財団法人以文会の設立と同時にこれを継承、同27年博物館法により財団法人致道博物館になった。古文書600点、美術工芸品350点、考古学資料2300点、民俗資料2000点等を有し、美術展・文化史展等を開き、また民俗資料室、考古資料室を併設、常時公開している。

そのほか明治17年建造の初期洋風建築荘内文化会館(県有形文化財)と田麦俣多層民家を敷地内に移転し、保存している。

〔館 長〕 犬塚又太郎

〔観覧日〕 9時—5時
〔観覧料〕 100円

上杉神社稽照殿

山形県米沢市丸の内1丁目4番13号
電 米沢 (3) 3190

大正11年4月創立。上杉神社祭神謙信公二代景勝公及び十代鷹山公の遺品を収蔵。刀剣、甲冑、絵画、工芸品、服飾品及び文書約1000点、内国宝2点、重要文化財133点、重要美術品5点、山形県指定文化財8点。

〔観覧日〕 常時開館
〔観覧料〕 100円、特別展は別。

掬粋巧芸館

山形県川西町小松2911

昭和7年4月創立。財団法人組織。学術参考資料として支那、朝鮮及び日本の古陶磁約500点を陳列公開する。

〔館 長〕 井上庄七
〔観覧日〕 4.5.6.7.8.9.10.の7ヵ月間 9時—3時
〔定休日〕 毎週月曜日
〔観覧料〕 50円

【関東地方】

茨城県立美術博物館

水戸市千波町東久保697 県民文化センター内
電 水戸 (41) 1166

昭和22年5月創立。新憲法公布を記念して設立され、美術思想の普及向上を図る目的を以て展覧会・講演会等の事業を行っている。近代の日本画・洋画・彫刻・工芸など130点余りの所蔵品がある。昭和41年新築の県民文化センターに移転した。

〔館 長〕 村田正恭
〔観覧日〕 9時半—5時 年末年始休館
〔観覧料〕 平常展無料

笠間市立美術館

茨城県笠間市佐白山麓公園内
電 笠間 850

創立昭和25年11月。県内外に存在する国宝指定の仏像の複製(石膏)を保存し、また国宝仏像管理寺院の照会と参観視察の便宜を計る。複製仏像の所蔵約11点、他に随時絵画展なども行う。

〔館 長〕 榎並栄
〔観覧日〕 8時半—5時
〔観覧料〕 20円

鹿島神宮宝物館

茨城県鹿島郡鹿島町宮中
電 鹿島 1209

国宝直刀・鞍・甲冑・古文書等 鹿島神宮の宝物を陳列。
〔観覧日〕 9時—5時

美術観覧施設

〔拝観料〕 50円

財団法人常陽明治記念会

茨城県東茨城郡大洗町東光台

電 2276

昭和4年4月設立。田中光顯蒐集の明治維新の名士の遺品、遺墨を中心として、書蹟約350点、絵画約50点を所蔵して陳列する。

〔館 長〕 山野辺義智

〔観覧日〕 4月—10月 8時—5時、11月—3月 9時—4時

〔観覧料〕 50円

日光東照宮宝物館

栃木県日光市山内

電 日光 (4) 0114

大正4年5月東照宮500年祭記念事業として建設され、東照宮、二荒山神社、輪王寺所蔵の宝物類を陳列。徳川家康公の御遺愛品を中心に江戸時代の工芸品が多い。350年祭記念事業で新築し、42年8月竣工、43年3月に開館予定。

〔観覧日〕 4月—10月 8時—5時、11月—3月 8時—4時

〔観覧料〕 二社一寺の殿堂拝観料230円中に含まれ、本館のみのものはない。

二荒山神社宝物館

栃木県日光市中宮祠2484

電 中禅寺 (5) 0090

昭和32年7月創設。男体山頂祭祀遺蹟出土品を中心とするほか二荒山神社伝来の宝物を収蔵し陳列する。

〔館 長〕 喜田川清香

〔観覧日〕 9時—4時

〔観覧料〕 50円

埼玉県立美術館

埼玉県浦和市大字別所1005

電 (22) 4842

昭和32年6月開館

〔館 長〕 中沢敏一

〔観覧日〕 9時—5時 (但し冬期は9時—4時)

〔観覧料〕 無料

埼玉県立文化会館附属郷土館

埼玉県大宮市高鼻町4—219

電 (41) 0890・3782

昭和32年2月開館。縄文、弥生、古墳時代の郷土の発掘品を陳列。

〔館 長〕 大護八郎

〔観覧日〕 平日開館 9時—4時

〔観覧料〕 無料

浦和市郷土博物館

埼玉県浦和市別所4—12—10 (別所沼美術館内)

電 呼 (22) 4842

昭和34年3月創立。考古資料、民俗資料、美術工芸品、古文書等。

〔館 長〕 塚原千尋 (事務取扱)

〔観覧日〕 9時—4時 月曜 休館

〔観覧料〕 無料

財団法人丸木美術館

埼玉県東松山市下唐子1401—3

電 (04932) ② 3266

丸木位里、赤松俊子夫妻の原爆の図を常置陳列する。

〔館 長〕 安井 郁

〔観覧日〕 9時—5時半 (但し月曜休館)

〔観覧料〕 100円

秩父民俗資料館

秩父市久那巴川

電 秩父 828

秩父地方民俗資料約2000点のコレクション

〔館 長〕 田島凡海

〔観覧日〕 随時

〔観覧料〕 無料

長瀬総合博物館 (旧称汲古館)

埼玉県秩父郡野上町大字本野上424—1

電 野上 75

昭和32年4月創立。財団法人組織。塩谷覚三郎蒐集の考古、歴史参考資料、秩父古生層溪谷天然奇石ならびに化石を展覧する。

〔館 長〕 塩谷覚三郎

〔観覧日〕 無料 夏期8時—6時 冬期9時—4時

〔観覧料〕 30円

行田市さきたま考古館

行田市大字埼玉前玉神社境内地

昭和31年7月開館。石器時代、縄文式時代、古墳時代の遺物、埴輪などを陳列。

〔館 長〕 田島次郎

〔観覧日〕 4月—10月 9時—5時、11月—3月 9

時—4時 毎月曜日及び祭日休館

〔観覧料〕 20円

金鈴塚遺物保存館

木更津市太田 361

電 木更津 3676

昭和25年に発掘された木更津市内金鈴塚の出土品1200点余りを中心に貝塚出土品弥生期聚落 (菅生遺跡) の出土品及び新石器時代の石器類を蒐集陳列。

〔館 長〕 小山義雄

〔観覧日〕 9時—4時

〔休館日〕 毎週月曜日の午後及び火曜日、国民の祝祭日の翌日

成田山史料館（別称、成田山霊光館）

成田市成田山公園内

電 成田 (2) 0234

昭和22年5月設立。成田山関係の絵馬・浮世絵・彫刻及び下総地方の考古・民俗資料、古文書などを保管陳列する。

〔館 長〕 高田定吉

〔観覧日〕 9時—4時 月曜と7月7、8、9日、8月13、14、15日、12月26日—31日休館

〔観覧料〕 30円

芝山はにわ博物館

千葉県山武郡芝山町

電 芝山 4

昭和34年5月創設。殿塚・姫塚の遺物のうち、はにわ約60点を中心に展示する。他に約500点の郷土資料を展示する。

特に蕉門十哲の一人杉風の正流たる杉家飛鳥園関係の資料、また、日蓮不受不施派の資料が多い。

〔館 長〕 滝口 宏

〔観覧日〕 9時—4時半 休館月曜

〔観覧料〕 40円

【東京】

東京国立博物館

台東区上野公園

電 (822) 1111(大代)

創立は明治4年9月、湯島聖堂を陳列館として、古来の宝物、歴史的遺品を保存し、公衆の観覧に供する施設として発足した。のち千代田区内幸町に移した。はじめ文部省の所管であったが同8年に内務省の所管となり、ついで14年農商務省の所管するところとなった。この間、上野公園にあつた館を建設する議が成り寛永寺本坊跡に建築を始め、15年3月開館した。敷地32,000余坪、本館は煉瓦石造、2階建、陳列室は30室1,100余坪であった。19年官内省管理となり22年帝国博物館と改称し、歴史、美術、美術工芸、工芸、天産の5部を設け、33年東京博物館に改められた。天産部は大正14年文部省に移管された。大正天皇の成婚記念として造営された表慶館は明治41年に竣工した。陳列本館は震災で大破し、その後表慶館を列品陳列にあて昭和12年従来の歴史課、美術課を廃し列品課に改め、別に学芸課を新設した。今上天皇の即位記念事業である帝室博物館復興賛会の工事が昭和12年に竣工し、新築本館は同13年11月開館された。

昭和22年5月帝室博物館は文部省国宝調査室、同保存

修理室及び美術研究所と合併し、文部省の管轄の下に国立博物館として発足した。陳列課、事業課、調査課、保存修理課、資料課、監理課、附属美術研究所の6課1所制をとり、奈良帝室博物館は国立博物館奈良分館と称することとなった。ついで昭和25年8月文化財保護法が制定実施され、さきに国立博物館に合併された調査課、保存修理課は文化財保護委員会事務局保存部に入ることとなり再び博物館から離れ、美術研究所も分離し、博物館は文化財保護委員会の附属機関となった。その内部組織は館長、次長の下にあらたに庶務、学芸の2部を設け、庶務部には管理、会計、普及の3課、学芸部には美術、工芸、考古、資料の課をおき、また諮問機関として国立博物館評議員会を設置し、奈良分館には分館長の下に庶務、学芸、普及の3課が置かれたが、27年4月文化財保護法の一部改正にともない、東京国立博物館と改称され、さらに同年8月奈良分館は奈良国立博物館となって東京国立博物館から分離した。昭和37年11月敷地内に法隆寺宝物館が竣工（延坪513坪）。ここには明治11年法隆寺から皇室に献納された312点の美術工芸品などが収蔵、陳列される。

建物本館は、地上2階、地下2階、総面積6,522坪、鉄骨コンクリート造りの東洋風建築である。表慶館は建坪395坪、正面の長さ280尺、中央高樓尖頭まで高さ凡110尺、希臘羅馬の古代風を参酌した西洋式建築である。

また構内には九条道秀及び益田孝よりそれぞれ寄贈され、昭和11年開館された九条館と応挙館がある。前者はもと京都御所内九条邸にあったもので伝山楽、山雪筆の四季楼閣山水図の画かれた床張付、襖等があり、後者には円山応挙筆の壁張付、襖等がある。その他六窓庵、春草ろ、転合庵等の茶屋と校倉がある。

〔館長〕 浅野長武〔次長〕 河上邦治〔部長〕(総務) 森永徳弘、(学芸) 岡田 譲、〔課長〕(管理) 南条 源、(会計) 松木清風、(普及) 江口正一、(美術) (事務取扱) 岡田譲、(施設) 清水実、(工芸) 佐藤貫一、(考古) 三木文雄、(資料) 西川新次

〔評議員〕 有光次郎、石川一郎、石原周夫、宇佐美毅、上野直昭、河原春作、菊地豊三郎、酒井杏之助、坂本太郎、柴沼直、武内竜次、谷口吉郎、原田淑人、松本重治、松本栄一

〔観覧日〕 月曜日、年末年始を除き、3—10月 9時—4時半、11—2月 9時—4時 法隆寺宝物館は木曜のみ開館

〔観覧料〕 50円

東京国立近代美術館

中央区京橋3—11

電 (561) 0823—5

昭和26年、文部省社会教育局が中心となって準備が進められ、昭和27年8月1日創立、12月1日開館。建物は旧日活会館を買上げ、建築家前川国男に依頼して改装した。その後33年、36年の2回にわたる拡張工事が完成し

美術観覧施設

210の椅子席をもつ講堂が5階に新設された。近代日本における名作を常時陳列するほか特別企画展を年約10回開催。その他、美術講座、映画鑑賞講座などが随時開催される。なお、43年秋には千代田区北の丸3公園に新築する。昭和38年3月から京都分館が設置されたが、昭和42年6月1日独立して京都国立近代美術館となった。

〔館長〕 小林行雄〔次長〕 河北倫明〔庶務課長〕 福岡敏矩〔事業課長〕 本間正義

〔評議員〕 浅野長武、石橋正二郎、稻田清助、今泉篤男、大谷竹次郎、岡部長景、小森源太郎、小塚新一郎、斎藤知雄、高橋誠一郎、谷口吉郎、団伊能、司忠、富永惣一、林屋亀次郎、前田廉三、松田権六、村田良策

〔運営委員〕 飯島正、池田義信、植村鷹千代、牛原彦彦、大内秀邦、岡本謙次郎、岡田三郎、岡田譲、嘉門安雄、川喜多かして、清水晶、鹿海信也、島崎清彦、久富貢、土方定一、山田智三郎、和田新

〔観覧日〕 1月4日—12月28日 10時—5時

月曜休館

〔観覧料〕 50円

黒田記念室

台東区上野公園12—53
東京国立文化財研究所内
電 (828) 6811~2

故黒田清輝の遺志により、美術奨励のための機関として現在の建物で建設され、昭和15年政府に寄附された。以来同じく寄附行為による同所所蔵の黒田清輝作品（油絵125点、デッサン170点等）を随時陳列替えて公開するものである。

〔所長〕 関野 克

〔観覧日〕 毎週木曜 1時—4時 祭日、夏期、年末年始休館。

〔観覧料〕 無料

国立西洋美術館

台東区上野公園
電 (828) 5131~5

昭和26年4月サンフランシスコ平和条約会議に際し吉田首相と仏国シューマン外相との旧松方コレクション返還に関する会談が契機となって、同28年12月文部省に仮称フランス美術館設置準備協議会がおかれた。以後ル・コルビュジェに設計を依頼して美術館建設の準備が整い、昭和33年2月起工。昭和34年1月、フランス政府より日本政府に寄贈の正式調印が行われ、4月にコレクションが到着、6月に開館をみるに至った。当コレクションは松方幸次郎によって大正4、5年から昭和初年にかけて欧州で蒐集され、そのまま仏国に残されていた美術品で、第二次大戦によって敵国財産として仏国政府の管理に帰っていた絵画彫刻を中心とする。

敷地 7094.9平方メートル

建坪 本館4180.1平方メートル、講堂、事務庁舎：

1145平方メートル（鉄筋コンクリート造）

展示用壁画延長1202.5平方メートル（但し会議室壁画12.5平方メートルを含む。）

〔館長〕 山田智三郎〔次長〕 滝本邦彦〔庶務課長〕 岩田正一〔事業課長〕 穴沢一夫

〔評議員〕 富永惣一、石橋正二郎、上野直昭、小塚新一郎、坂倉準三、高橋誠一郎、司忠、寺中作雄、細川護立、松方三郎、松本重治、村田良策、矢代幸雄、小林行雄、谷川徹三

〔観覧日〕 9時半—5時 月曜および12月28日—1月4日休館

〔観覧料〕 50円

東京芸術大学附属芸術資料館

台東区上野公園内
電 (821) 6111(代)

陳列館は昭和4年5月設立。芸大所蔵の国宝、重要文化財を含む43,000点の新古の美術を学生に観覧させるため常時陳列し、一般にも公開している。

記念館は昭和10年10月設立。正木直彦校長を記念して建設されたもので、階上の和室には橋本雅邦、瀧和亭、香取秀真、高村光雲などの作品があり、階下には平櫛田中寄贈の同氏作品を中心に現代彫刻が陳列されている。

〔館長〕 毛利 登

〔観覧日〕 陳列館は大学開校期間中、正木記念館・平櫛田中記念室は不定期

〔観覧料〕 無料

東京都美術館

台東区上野公園 8—51
電 (821) 3726~8

大正10年平和博覧会記念事業期成実行会によって東京に永久的美術館の設立が建議され、佐藤慶太郎の100万円の寄附及び大正13年皇太子成婚に際し宮内省より現敷地約4,000坪の無償貸与によって、大正13年9月起工、同15年4月竣工した。5月聖徳太子奉讃美術展を開館記念として開催した。昭和4年東京府より約40万円を支出して別館を増築した。昭和18年旧称東京府美術館を東京都美術館と改めた。昭和32年5月東京都は25,000万円の予算をもって、2・3階増改築工事に着工、同33年3月竣工、総坪数5,337坪となった。

尚、佐藤慶太郎を記念するため一室を設け、ここに収蔵作品の絵画を随時陳列展覧している。

〔館長〕 今井治夫〔副館長〕 山田宏

〔顧問〕 伊東深水、奥村土牛、堅山南風、錦木清方、児玉希望、中村岳俊、野田九浦、東山魁夷、前田青邨、安田靉彦、山口蓬春、有島生馬、大久保次郎、川島理一郎、小山敬三、小森源太郎、田崎広助、辻永、東郷青児、長谷川昇、宮本三郎、耳野卯三郎、雨宮治郎、石井鶴三、北村西望、古賀忠雄、斎藤知雄、沢田政広、清水多嘉示、平櫛田中、井上良斎、岩田藤七、高村豊周、松

田権六、山崎覚太郎、鈴木翠軒、豊道春海、谷口吉郎、吉田五十八

〔運営審議会委員〕 岩橋英遠、奥田元宋、田中青坪、小寺健吉、小堀進、島村三七雄、田崎広助、松本弘二、宮本三郎、菊池一雄、藤野舜正、大須賀喬、安原喜明、金子鶴亭、山崎節堂、有光次郎、岡田譲、隈元謙次郎、谷口吉郎、寺中作雄

朝倉彫塑館

台東区谷中7-18-10
電 (821) 4549

昭和42年11月開館。故朝倉文夫の業績をつたえようと、故人の遺志に基づいて彫刻の発展のために開設されたもので、朝倉文夫の遺作約500点の所蔵品のうち随時約50点を陳列し、一般公開している。

〔理事長〕 高橋誠一郎

〔観覧日〕 土・日・月曜10時—16時

〔観覧料〕 大人50円、学生・子供30円、団体20円

書道博物館

台東区上根岸町 125
電 (874) 0688

昭和11年1月創立。財団法人書道博物館は故中村不折が40年に亘って蒐集した書道に関する参考品12,000余点を以て昭和11年11月開館した。重要文化財12点がある。

〔館長〕 中村丙午郎

〔観覧日〕 10時—4時 月曜休館

〔観覧料〕 100円

演劇博物館（早稲田大学坪内博士記念）

新宿区戸塚町1-647 早稲田大学内
電 (203) 4141（内線300）

昭和3年10月創立。坪内逍遙の古稀の賀およびシェイクスピア全集翻訳完成を記念して学界、芸能界其他有志数千名の拠出により創立、昭和3年10月開館した。西洋、日本の演劇に関する参考資料、文献を蒐集陳列して一般の観覧に供する一方、附属演劇図書館をもち、演劇研究及び調査の指導並びに受託など演劇文化の向上発展に資する目的としている。なお年数回随時特別展示会を開催する。早稲田大学の管理に属する公共機関として一般に無料で公開されている。季刊「演劇博物館」を発行。

〔館長〕 飯崎小平

〔観覧日〕 9時—4時 土曜は2時迄

休館は毎月曜及び祭日の翌日・年末年始の他8月。（冬期12月—3月は日曜休館、月曜開館）

東洋美術陳列館（早稲田大学附属、会津博士記念）

新宿区戸塚町、早稲田大学内
電 (203) 4141（内線384）

昭和9年会津八一により早稲田大学内恩賜記念館内に創立された。同20年戦局非となり、列品の大部分を疎開

したが、一部は疎開中戦災に遭った。23年図書館内の旧貴賓室に一部を陳列、29年10月学生会館隣設の新館に移り開館した。本学名誉教授会津八一の収集した各種美術品を陳列し、同氏の学芸に対する功績を記念する。中国各時代の名器最も多く、中国、日本の古代瓦・銅鏡・仏像・書道名蹟拓本等を主な収蔵品とする。本大学関係者及び特別希望者のみに無料で観覧させている。

〔館長〕 安藤更生

〔観覧日〕 開校中の火・木12時—3時、土曜10時—12時

〔観覧料〕 無料

大倉集古館（大倉文化財団）

港区赤坂葵町3
電 (583) 0781

大倉集古館は大正6年8月創立、昭和3年10月に現在の鉄筋コンクリート造銅板葺屋根の中国風建築で東洋古美術を展示してきたが、昭和35年12月より財団法人大倉文化財団と改称、その事業の一部として経営されることになった。

〔理事長・館長〕 大崎新吉〔常務理事〕 横田保〔理事〕 大倉喜六郎、竹内雄一、毛受信雄、西谷昇〔監事〕 青木茂〔評議員〕 本間嘉平、門野正二、伊藤勇二、荒井彦宗、成吉競、野田岩次郎、高木茂、沢栗清、大倉彦一郎、西本直民、各務勇、千代国一

〔観覧日〕 10時—4時 月曜、年末年始及び陳列替の時に休館

〔観覧料〕 50円

高輪美術館

港区高輪4-10-30
電 (441) 6363

故堤康次郎が多年にわたり収集した、絵画、彫刻、工芸品等300点の美術品を一般に公開するもので、昭和37年11月開館した。

〔館長〕 森田重郎

〔観覧日〕 9時—4時、日曜、祝祭日の翌日休館

〔観覧料〕 50円

根津美術館

港区南青山6-5-36
電 (400) 2536・2537

昭和15年11月創立。初代根津嘉一郎の蒐集になる東洋美術品と邸宅庭園を、翁の没後その遺志により寄附を受け財団法人根津美術館として設立し、翌16年11月開館第1回展を開いた。以後、春秋二季の特別展観と年数回の小展観を行ってきたが、第二次大戦により建物を焼失したので28年10月より早大教授内藤多仲、今井兼次の設計による鉄筋コンクリートの和風総面積647平方メートルの陳列館を新築、30年11月8日より常置陳列の美術館として開館。39年9月陳列室及び講堂333平方メートルを

美術観覧施設

増修築、主な収蔵品は仏画、水墨画、写経、茶器、中国古銅器等。

〔館 長〕 根津嘉一郎〔次長〕 菅原寿雄
〔観覧日〕 月曜日 祝日の翌日 年末年始及び8月中を除き毎日9時半—4時半
〔観覧料〕 100円

畠山記念館

港区芝白金猿町67
電 (447) 5787

昭和39年10月開館。株式会社荏原製作所の畠山一清会長が、多年に亘り収集した古美術品を展覧するもので茶道文化に関するものを主とする。

〔館 長〕 酒井千尋
〔観覧日〕 4月1日—6月15日・9月1日—12月15日
10時—4時。月曜休館
〔観覧料〕 200円

天理ギャラリー

千代田区神田錦町1—9
東京天理教館内
電 (292) 0501

昭和37年5月開館。天理大学附属参考館、図書館所蔵の考古・美術・民俗資料及び稀覯書、古文獻などを展覧する。

〔館 長〕 小泉顕夫
〔観覧日〕 9時—5時、土曜3時迄。日曜、祭日、年3回の陳列替えの期間は休館
〔観覧料〕 無料

サントリー美術館

千代田区丸ノ内1—10、パレスビル内
電 (221) 6936—7

生活美術を中心とした日本古美術の展覧。昭和36年11月創立。

〔館 長〕 佐治敬三
〔顧問〕 細川護立、高橋誠一郎、浅野長武、矢代幸雄
〔観覧日〕 10時—5時 月曜休館
〔観覧料〕 80円

出光美術館

千代田区丸ノ内3—12
電 (213) 3111

昭和41年10月創立。出光佐三の多年に亘って蒐集した美術品を収蔵展覧する。第1室は中国、日本の陶磁器他、第2室は仙居及び南画を常陳、第3室は陶器、絵画を随時陳列、資料室には日本、中国、オリエント各地にて発掘した陶片を展示している。

〔館 長〕 出光佐三
〔顧問〕 田中一松、杉村勇造、小山富士夫、三上次

男、古田紹欽

〔観覧日〕 10時—5時 月曜日休館
〔観覧料〕 200円

山種美術館

中央区日本橋兜町山種ビル内
電 (669) 4056

昭和41年7月開館。山崎種二蒐集の近代、現代の日本画を中心とした課題による展示。

〔館 長〕 山崎種二
〔観覧日〕 11時—5時 月曜休館
〔観覧料〕 100円

ブリヂストン美術館

中央区京橋1—1
電 (563) 0241(代)

昭和27年1月開館。石橋正二郎によりブリヂストンビルの二階に創設された常設美術館で、所蔵の西洋の古代の彫刻・壺、近代の絵画、彫刻および日本近代の油絵を主として陳列する。昭和34年改装。

〔館 長〕 石橋正二郎
〔顧問〕 細川護立、浅野長武、高橋誠一郎、上野直昭、大原総一郎、松方三郎、坂本繁二郎、矢代幸雄〔参与〕 松本栄一、久保貞次郎、秋山光夫〔運営委員長〕 団伊能〔運営委員〕 石橋幹一郎、伊原宇三郎、今泉篤男、富永惣一、河北倫明、谷信一、山田智三郎、朝吹三吉、岩佐新〔事業部長〕 嘉門安雄
〔観覧日〕 10時—5時半 月曜休館
〔観覧料〕 50円

明治神宮聖徳記念絵画館

新宿区霞丘町、明治神宮外苑
電 (401) 5179

明治天皇の業績を記念して大正15年建設された。当時の一流の画家76人が描いた明治天皇と昭憲皇太後の事跡をあらわした日本画、洋画各40点が壁画として陳列されている。昭和11年に全部が完成した。

〔観覧日〕 12月31日を除き9時—4時(夏期4時半)
〔観覧料〕 50円

五島美術館

世田谷区玉川上野毛町 111
電 (701) 5932・9945 (703) 0661

昭和35年4月創立。五島慶太が多年にわたり蒐集した美術品と土地の寄附を受け、これを中心に創立された。収蔵品は飛鳥時代から近世に至る多種類の美術品で、とくに古写経、書蹟、絵画、茶器類が根幹をなし、陶磁器、考古品、古鏡、刀剣などが追加収蔵された。事業は美術品の蒐集、調査、研究と保管陳列のほか、春秋二季に特別展を開き、また講習会、映画会を催し、出版物を刊行している。建物は、吉田五十八の設計になる鉄筋コ

ンクリート造平屋建。展示室、講堂、収蔵庫など総面積1,668.04㎡。なお昭和24年4月より財団法人大東急記念文庫が創設され、同30年4月より一般に無料公開されていたが、これが当美術館に併置されることになった。

〔館長〕伊藤日出登〔副館長〕西村清

〔観覧日〕9時半—4時半 月曜日、年末年始休館

〔観覧料〕100円（特別展は別に定める）

東京大学教養学部附属美術博物館

目黒区駒場町 865

電 (467) 1171(内線318)

昭和37年4月開設。東西の美術、工芸、歴史、考古に関する資料を整備陳列し、教職員、学生一般の教養の涵養に資するのを目的とする。主として考古資料が多い。なお年1～2回の特別展が開かれる。

〔館長〕木内信蔵

〔観覧日〕毎週木・金曜10時—4時

土曜10時—12時

一般の観覧者は原則として教職員の紹介を要す。

〔観覧料〕無料

財団法人日本民芸館

目黒区駒場 861

電 (467) 4527

昭和11年10月創立。柳宗悦の主宰による民芸品の蒐集と常置陳列を行い、地方民芸の指導と開発に当ることを目的とする。蒐集事業は大正15年に始められたが、昭和11年10月大原孫三郎の寄附によって建物が完成し、12月財団法人組織となった。

〔館長〕浜田庄司

〔観覧日〕月曜日を除き10時—4時 但し、1月・2月休館

〔観覧料〕100円

駒場高等学校美術館（牧野虎雄記念館）

目黒区上目黒8—660

都立駒場高校内

電 (466) 2481

昭和25年7月創立。牧野虎雄の遺作油絵73点、スケッチブック13冊、絵具一式、他関係資料数点、海外名画複製（19世紀から現代まで）約40点収蔵。特別展観の他は、生徒作品展をはじめ各種展覧会を開催。

〔観覧日〕日曜日は休館

明治神宮宝物殿

渋谷区代々木外輪町

電 (370) 0111 夜間 (370) 2509

大正10年11月開館。明治神宮祭儀部の所管で、明治天皇、昭憲皇太后の御物を保管陳列する。

〔観覧日〕無休 4月—9月 8時—5時、11月—3月 9時—4時

〔観覧料〕50円

竜子記念会館

大田区中央4—2—1

電 (772) 0680

昭和37年設立。青竜社創立35年記念のため、川端竜子の院展時代からの作品約150点を展覧する。1、7月に陳列替えを行う。

〔観覧日〕9時—4時 月曜休館

〔観覧料〕50円

玉堂美術館

東京都青梅市御岳

電 (0428) ⑦8335

昭和36年5月創立。この地に住んだ川合玉堂の作品を展示。随時特別展開催。

〔館長〕鈴木有哉

〔観覧日〕9時—4時 年末年始、月曜日休館

〔観覧料〕50円

【神奈川県】

神奈川県立博物館

横浜市中区南仲通5—60

電 (045) (201)0926

昭和42年3月開館。神奈川県を中心とした自然と文化の総合博物館で、建物は明治37年竣工の旧横浜正金銀行本店（県重要文化財）を増改築したものである。人文部門は、考古・中世・近世・近代・民俗の各室に分れ、鎌倉時代、開港期また庶民生活の様相に重点をおいた収蔵展観を行なっている。自然部門は地学・生物の2室からなる。ほか、特別展示、講演会、講座等を随時開催。

〔館長〕村田良策

〔観覧日〕9時—4時30分 月曜、祝日の翌日、年末・年始休館

〔観覧料〕50円

神奈川県立金沢文庫

横浜市区金沢区金沢町 217

電 横浜 (701) 9069

昭和5年8月再建。史蹟金沢文庫及び称名寺に収蔵する書籍その他の文化財を襲継し、また図書記録の類を蒐集保存して一般に観覧させる。金沢文庫は鎌倉中期北条実時が蒐集した和漢書を納めるために創建し、鎌倉末期迄4代に亘って経営された。その後一時称名寺によって保管されたが、昭和5年御大典記念事業として神奈川県が現在の文庫を再建した。一階を書庫・閲覧室にあて、二階を博物館として称名寺伝来の重要文化財その他の美術品の展示にあてている。

〔文庫長〕沓掛伊左吉

〔観覧日〕日曜日、祝祭日、年末年始、若干の臨時休館を除き毎日午前9時—午後4時半

美術観覧施設

〔観覧料〕 20円

神奈川県立近代美術館

神奈川県鎌倉市雪ノ下2-1-53
電 (2) 5000

昭和26年11月開館。建物は坂倉準三の設計による。近代美術だけでなく、あらゆる美術を新しい観点から展覧する。

〔館長〕 土方定一〔運営委員〕 伊東深水、小山富士夫、中村岳陵、坂倉準三、山口蓬春、山田智三郎、田辺至、高岡惣七、松下隆章、園田敬男、岡田譲、吉川逸治、教育長、県会議長、

〔観覧日〕 9時—4時 月曜、祭日の翌日休館

〔観覧料〕 30円

鎌倉国宝館

神奈川県鎌倉市雪ノ下2-1-1
電 (2) 0753

昭和3年4月創立。主に鎌倉を中心とする社寺及び個人寄託の古美術品を収蔵展覧する。年約4回特別展開催。

〔館長〕 渋谷二郎

〔観覧日〕 9時—4時半 祝祭日、月曜、年末7日間休館

〔観覧料〕 50円

鶴岡八幡宮宝物殿

神奈川県鎌倉市雪ノ下2-1-31
電 (2) 0315・4669

鶴岡八幡宮に伝来する神宝・刀剣・武具・工芸品等社宝の一般展覧をなす。

〔観覧日〕 8時—5時 但し、10月—3月 9時—4時 休館9月15日

〔観覧料〕 30円

常盤山文庫

神奈川県鎌倉市打越三貴園内
電 (2) 1828

昭和21年5月開館、同28年以来財団法人組織とした。菅原通济収集の宋、元、鎌倉時代の水墨画が主で、天竺画コレクションのほか平安時代の仏像がある。

国宝、重要文化財・重要美術品に指定されたもの47点。

〔館長〕 菅原通济

〔観覧日〕 土曜 1時—4時 日、祝10時—4時

〔観覧料〕 無料

二階堂浮世絵文庫

神奈川県鎌倉市二階堂93
電 (2) 7676

〔館長〕 広瀬寿郎

〔観覧日〕 9時—5時 土、日曜、祭日開館

〔観覧料〕 50円

松永記念館

神奈川県小田原市板橋
東京連絡所 (201) 7035

昭和34年4月開設。松永安左衛門収集の東洋古美術の保管と公開を目的とする。戦前埼玉県柳瀬文化館の収集品は土地建物とともに東京国立博物館に寄贈されたが、その後収集したものうち整理を終ったものを春秋二回無料公開する。

〔主事〕 有尾佐治

箱根神社宝物殿

神奈川県足柄下郡箱根町元箱根
電 箱根 (3) 6031・6194

明治40年6月創立。現在の建物は昭和9年に新設された。同社所蔵の古美術品、古文書等を展覧する。

〔観覧日〕 無料 4月—10月 8時—5時、11月—3月 9時—4時 (雨天の際は防湿上休むことあり)

〔観覧料〕 30円

箱根美術館

神奈川県足柄下郡箱根町強羅
電 箱根 (0460) (2) 2623

昭和27年6月創立。世界救世教教祖岡田茂吉によって設立され、財団法人東明美術保存会箱根美術館として広く美術品を蒐集し一般公開した。現在は陶磁器専門の美術館として、日本・中国その他の優れた陶磁器を常設し、併せて古窯跡から発掘された陶片並びに陶磁器の製作工程を解り易く展示する。毎年8月に箱根夏期美術講座開催。

〔館長〕 吉岡庸治

〔観覧日〕 4月—9月 9時—5時、10月—11月 9時—4時、木曜日12月—3月休館

〔観覧料〕 100円

【中部地方】

北方文化博物館

新潟県中蒲原郡横越村大字沢海
電 横越 1

昭和20年10月創立。旧伊藤文吉邸とその所蔵品を基として、財団法人組織により、美術・民俗・考古・郷土資料・農業資料等を展示公開する。なお新潟市に分館を、新発田市に清水園を管理公開している。

〔館長〕 伊藤文吉

〔観覧日〕 8時—5時 (年中無休 但し清水園及び分館は日曜日休館)

〔観覧料〕 100円、清水園80円、分館30円

長岡現代美術館

新潟県長岡市坂之上町2-1

電 長岡 (3) 4467

昭和39年8月開館。日本近代洋画及び世界の現代絵画計300点、日本画120点を収蔵し、展示する。

〔館 長〕 駒形十吉

〔観覧日〕 10時—5時

〔観覧料〕 50円

茶道美術館 (財団法人貞観園保存会附設)

新潟県刈羽郡高柳町大字岡野町

電 高柳 100

昭和15年4月設立。延宝年間の造園になる村山家の林泉および茶器その他の美術品多数を保存する。毎年数回の特別展を催す。

〔館 長〕 村山長吉朗

〔観覧日〕 休館中

高岡市美術館

富山県高岡市古城町1—5

電 高岡 (23) 2032

昭和26年8月創立。主として郷土出身作家の作品を所蔵陳列する外、地方展及び特別展を開催している。日本画、洋画、工芸、彫刻、書等現代美術約450点。

〔館 長〕 定塚武敏

〔観覧日〕 9時—5時 年末年始9日間休館

〔観覧料〕 通常無料、特別展は有料

富山市立郷土博物館

富山市本丸1—62

電 (21) 7911

昭和29年創立。城趾大手石垣上に建てられた富山城の内部が使用されている。展示室は3部門に分かれ、美術部(2階)では内外美術品の紹介特別展のほか、郷土新旧作家の作品展を常時行い、歴史部(3階)には富山藩時代の資料を展示している。なお、2階には県内産動植物標本の展示も行っている。

〔館 長〕 江尻 章

〔観覧日〕 9時—4時半 月曜日、12月28日—1月4日休館

〔観覧料〕 20円

石川県美術館

金沢市兼六町1—1(兼六園内)

電 金沢 (31) 7580

昭和34年10月開館。兼六園内の「成巽閣」に隣接して建設された。収蔵品は、加賀伝統の美術工芸品が最も多く、なかでも九谷焼、金工品、漆器類が大部分を占める。谷口吉郎の設計になる鉄筋コンクリート2階建、展示室4室、延総面積1,593.6 m^2 。

〔館 長〕 高橋 勇

〔観覧日〕 月曜、国民の祝日(但し文化の日を除く)、12月28日—1月4日及び展示替え期間中休館 9時

—4時半

〔観覧料〕 常設展80円、特別展100—200円

福井県立岡島美術記念館

福井市宝永町3—11—13

電 福井 (24) 5170

福井県大野市出身の岡島辰五郎氏(ニューヨーク市に永年在住し、1962年1月客死)のコレクションと建築費の寄贈により、昭和33年8月開館。主に貴金属を使用した小形の金工品(刀剣及び附属品、中国金銅仏等)の美術工芸品を集めている。また、昭和40年6月、今立町在住の山田保治氏収集の民芸品が寄贈され、あわせて展覧している。

〔観覧日〕 月曜、祝日、月末、12月28日—1月4日休館、4月—9月 9時—4時半、10月—3月 9時半—4時

〔観覧料〕 20円

福井市立郷土歴史館

福井市足羽山公園内

昭和28年11月開館。考古出土品、古文書、古地図、遺墨、美術工芸品を集めている。

〔館 長〕 徳照寿天磨

〔観覧日〕 9時—4時 月曜日休館

〔観覧料〕 20円

私立郷土博物館

福井県敦賀市三島町1丁目

元県社八幡神社境内

電 1193

昭和25年10月開館。郷土を中心に文化財の知識の普及と保護とを目的とした郷土総合博物館。

〔館 長〕 石井左近

〔観覧日〕 9時—4時、無休

〔観覧料〕 20円

身延山宝物館

山梨県南巨摩郡身延町

電 身延山 2—3

大正15年5月創立。身延山久遠寺に関する歴史資料、其他の宝物を公開する。

〔観覧日〕 9時—5時

〔観覧料〕 30円

諏訪市美術館

長野県諏訪市大字上諏訪中浜町

電 (02665) ② 1217

昭和25年8月創立。従来片倉会館の一部として諏訪湖畔にあり、懐古館と呼ばれ、諏訪地方出土の考古学参考品を陳列し、時に応じ各種展覧会場として利用されてきたが、昭和25年8月28日、片倉家より諏訪市に寄附さ

美術観覧施設

れ、昭和31年5月より諏訪市常設美術館として油絵、水彩、版画、彫刻、工芸等を収蔵、展覧している。

〔館 長〕 中村文武

〔観覧日〕 月曜日を除き毎日 9時—5時

〔観覧料〕 50円

松本市立博物館（日本民俗資料館）

長野県松本市丸の内4—1

電 松本 (2) 0133

明治39年創立。松本市立博物館として日本北アルプスの山岳資料、民俗、考古、歴史に関する諸資料ならびに石井柏亭他の近代美術品等を蒐集陳列し地方文化の向上を図り、学校教育、社会教育の資としていたが、改築のため、日本民俗資料館として組織替えして昭和41年4月から新発足した。42年10月延985坪の新館落成をみて、43年4月中旬より再開の予定。松本市立博物館の名称は存置。なお、分館中山考古館は市内中山地区出土の考古資料を収集展示している。

〔館 長〕 田中 肇

〔観覧日〕 8時半—5時（日曜、祝日休館）但し特別展開催期間中を除く

〔観覧料〕 30円

※再開準備のため休館中

上田市立博物館

長野県上田市上田公園内

電 上田 (3) 1274

昭和4年7月創立の上田徴古館が昭和28年8月より市立博物館として新発足したもの。昭和40年6月新館（本館）が落成し、現在本館と南櫓の二ヶ所で郷土資料を陳列公開している。

〔館 長〕 塩入 恒

〔観覧日〕 8時半—5時 毎水曜、年末年始休館

〔観覧料〕 30円

山本鼎記念館

長野県上田市 市公園内

電 上田 (2) 2693

昭和37年10月開館。山本鼎による児童自由画の啓発、農民美術教育運動等の功績を継承するために、多くの人の賛同をえて建設された。学童の絵、農民の秀作品及び山本鼎の遺作品が集められている。なお当館では地方文化を高めるために実技の指導を行なっている。

〔館 長〕 山越脩蔵

〔観覧日〕 8時半—4時半

〔観覧料〕 20円

碌山美術館

長野県南安曇郡穂高町

昭和33年4月創立。財団法人。わが国近代彫塑の開拓者荻原碌山（守衛）の全作品その他を保存し公開してい

る。

〔館 長〕 平井盛人

〔観覧日〕 月曜、祭日の翌日休館。4月—10月 9時—5時、11月—3月 9時—4時

〔観覧料〕 50円

善光寺大勧進宝物館

長野市元善町492のイ

電 長野 (2) 2460

明治40年創立。大正7年増設、寺宝約250点を収蔵、参拝者、信徒に拝観させることを目的とする。

〔館 長〕 都筑玄妙

〔観覧日〕 6時—5時

〔観覧料〕 10円

信濃美術館

長野市善光寺東隣り城山公園内

電 長野 (2) 2107 (3) 0944

昭和41年10月創立。県下の埋蔵文化財及び、郷土先人（春草、孤月、広業、契月、碌山、一茶、その他）の遺墨等を常時陳列するほか、大展示場では独自の企画による展覧会を開催して県民の文化センター的役割も果し、ローカル美術館としての広範囲の活動を目的とする。

〔館 長〕 山田邦夫

〔観覧日〕 9時—5時

〔観覧料〕 100円

平出遺跡考古博物館

長野県塩尻市大字宗賀字平出1011—3

電 塩尻 (3) 1022

昭和29年11月創立。平出遺跡出土の縄文式土器205、石器250点を中心に918点の陳列の他約10,000点の出土品を所蔵。

〔館 長〕 塩原一彦

〔観覧日〕 9時—4時 月曜、年末年始休館

〔観覧料〕 30円

市立駒ヶ根博物館

長野県駒ヶ根市赤穂2423—6

電 駒ヶ根 (3) 2111(代)

昭和27年4月開設。出土品、民俗資料、地方史資料、動植物標本などを陳列。

〔館 長〕 小池金義

〔観覧日〕 10時—6時 日曜、祝日及び毎月末日休館

尖石考古博物館

長野県茅野市豊平字南大塩

昭和30年11月創立。石器、縄文式土器土偶など3,295点を収集陳列。

〔館 長〕 宮坂英次

〔観覧日〕 8時—4時 休館日なし

〔観覧料〕 30円

驥山館

長野市篠ノ井布施高田
電 篠ノ井 (3) 0449・0941

川村驥山の書 140 数点の収集陳列。ホール、書道教育センター。

〔館 長〕 川村和気
〔観覧日〕 10時—4時 月曜休館
〔観覧料〕 50円

高山市立飛騨民俗館

岐阜県高山市上岡本町1411
電 高山 (3) 2817

飛騨の古い民家、民具等を保存し、公開するため昭和34年7月設立された。

〔館 長〕 長倉三朗
〔観覧日〕 9時—5時 年中無休
〔観覧料〕 100円

熱海美術館

静岡県熱海市伊豆山大久保 998
電 熱海 (81) 6247

昭和32年1月創立。箱根美術館と同じく財団法人東明美術保存会に所属し、箱根美術館の姉妹館として絵画、書跡、彫刻、工芸を陳列する。

〔館 長〕 吉岡庸治
〔観覧日〕 9時—4時 木曜日、7・8月、年末11日間
休館
〔観覧料〕 100円

佐野美術館

静岡県三島市中田町1—43
電 三島 (75) 7278

昭和41年1月創立。鉄興社会長佐野隆一蒐集の美術品の保存と、一般愛好家、研究家の鑑賞に寄与するため郷里の三島市に建設、寄贈したもので、財団法人佐野美術館として昭和41年11月開館した。

〔館 長〕 下田舜堂
〔観覧日〕 10時—5時 月曜、及び夏・冬休館
〔観覧料〕 100円

三嶋大社博物館

静岡県三島市大宮町
電 三島 (75) 0172(代)

昭和5年3月創立。三嶋大社所蔵の国宝、重文、重宝等の宝物を始め郷土出土品等を陳列する。刀剣38点、古文書142点、工芸43点。

〔館 長〕 原 勝治
〔観覧日〕 9時—4時 (雨天閉館)
〔観覧料〕 50円

久能山東照宮博物館 (旧称宝物館)

静岡市根古屋 390
電 (85) 5612大正3年3月宝物館を新築したが久能山は海岸に近い
ため、除湿、防湿装置完備の博物館を昭和40年4月に新
築した。家康公遺品等徳川歴代将軍の武具刀剣類 400 点
を陳列する。〔館 長〕 白井光男
〔観覧日〕 4月—9月 8時—5時、10月—3月 9
時—4時
〔観覧料〕 80円

浜松市立郷土博物館

浜松市元城町49—2 浜松城内
電 (53) 3872蜆塚分館 同市蜆塚町 19333
蜆塚遺跡内 電 (53) 4387歴史・考古学・民俗・美術資料を中心とするもので、
本館は昭和33年4月設立、分館は蜆塚遺跡を整備して35
年7月から公開している。なお毎年春・秋には特別展を
催す。〔館 長〕 鈴木真一
〔観覧日〕 8時半—5時 本館は年末・特別展の前夜
休館、分館は月曜日・年末年始・祝日の翌日休館
〔観覧料〕 20円 分館無料

愛知県文化会館美術館

名古屋市中区久屋町
電 052 (971) 5511~5昭和29年12月創立。30年2月開館。鉄骨鉄筋コンクリ
ート2階建、展示室18、計2,312.2 m^2 。国際美術の紹介、
国内芸術の交流、産業美術の進展及び郷土美術文化の振
興を図るのを目的とする。各美術団体の地方巡回展、特
別展等を開催。〔館 長〕 松尾信資
〔観覧日〕 10時—6時 年末及び年始3日休館
〔観覧料〕 展覧会により異なる

磐田市立郷土館

静岡県磐田市見付2452
電 (053) (832) 4511昭和28年10月開設。明治8年に建築された洋風の旧見
付小学校舎に民族資料、見付宿場関係資料、古文書を収
蔵陳列する。又、遠江国分寺収蔵庫完成に伴い考古資料
の収蔵、陳列にあたる。〔館 長〕 吉倉正雄
〔観覧日〕 9時—4時半 月曜午後・火曜・祝日、年
末始休館
〔観覧料〕 無料

美術観覧施設

名古屋城天守閣

名古屋市中区南外堀町6-1
電 (052) (231) 1700、2700

昭和34年開設。疎開により戦禍をまぬがれた名古屋城の障屏類6百余点他古美術資料を展示する。

〔所 長〕 佐藤吉正
〔観覧日〕 年中無休
〔観覧料〕 80円

徳川美術館

名古屋市東区徳川町
電 (961) 9261(代)

昭和6年12月財団法人徳川黎明会により設立され昭和10年11月開館。尾州徳川家伝来の美術品、古文書等を保存し展覧する。絵画、彫刻、工芸品外約10,000点。

〔館 長〕 熊沢五六
〔観覧日〕 9時—4時 月曜及び年末年始休館
〔観覧料〕 100円

【近畿地方】

三重県立博物館

津市広明町147 津市借楽公園内
電 津 (8) 2283

昭和28年6月創立。地方総合博物館として考古・歴史・美術等の人文科学資料および植物・動物・鉱物等の自然科学資料、ならびに県内産業、特産物の展覧を行う。

〔館 長〕 西村忠雄
〔観覧日〕 9時—4時半 月曜、祭日の翌日、月末、年末年始休館

神宮徴古館農業館

伊勢市倉田山
電 伊勢 (3) 1700・1701

神宮司庁で経営する歴史・美術博物館で、農業館とともに、はじめ神苑会によって設立せられ、明治44年神宮に献納された。神宮の撤下御装束神宝類をはじめとして、神宮崇敬を物語る歴史参考品及び現代美術を収蔵し、一般に公開する。昭和20年戦災により焼失したが、同28年10月第59回神宮式年遷宮附帯事業として同所に新築開館した。又同36年宇治橋前に分館歴史絵画館を併設した。

〔館 長〕 神宮祢宜、熊谷貞雄〔主幹〕 西川元泰
〔学芸員〕 西川元泰〔書記〕 松岡文雄
〔観覧日〕 1月—12月 8時半—4時半
〔観覧料〕 神宮徴古館 } 共通 70円
 〃 農業館 }
 〃 歴史絵画館 } 30円

滋賀県立琵琶湖文化館

大津市打出浜1番1号
電 大津 (2) 8179

昭和36年3月竣工開館。昭和23年設立され、その後発展解消したもの。絵画・書蹟・彫刻・工芸・考古品その他郷土を中心とした歴史参考資料の収集展示、又琵琶湖の水族など淡水魚をも展示する。

〔館 長〕 須藤静夫〔次長〕 森本潤次
〔入館日〕 12月29、30、31日をのぞき開館
 9時—5時(但し、夏期は午後9時まで)
〔入館料〕 50円

布施美術館

滋賀県伊香郡高月町唐川
電 363

昭和28年10月開館。富岡鉄斎等の書画を収集。

〔館 長〕 布施巻太郎
〔観 覧〕 研究者には便宜を図る。

井伊美術館

彦根市金亀町彦根城内
電 彦根 (3) 5657

昭和30年4月開館。井伊家所蔵の甲冑武器刀剣、茶器その他大名道具及び井伊直朝の遺品、関係資料等を集めている歴史博物館。

〔館 長〕 井伊正弘
〔観覧日〕 年中無休
〔観覧料〕 50円

近江神宮歴史館

大津市錦織町近江神宮境内
電 大津 (3) 3725

昭和38年6月開館。和時計各種、古今の時計類及び時計関係、図書類を集めている他、大津京趾出土品を陳列。

〔館 長〕 横井時常
〔観覧日〕 9時—5時
〔観覧料〕 50円

【京 都】

京都国立博物館

京都市東山区七条
電 (541) 1151(代)

明治22年5月宮内省達を以て図書寮附属博物館が廃止され帝国博物館、帝国奈良博物館と同時に帝国京都博物館が設置された。25年工事に着手し28年竣工、30年5月開館した。この後官制改革により京都皇室博物館と改称、大正13年今上天皇の成婚に際し宮内省より京都市に移管され、同年2月1日より恩賜京都博物館と改称し、京都市の経営するところとなったが、昭和27年文化財保護法の一部改正により同法の規定に基づき4月1日より国立移管をもって京都国立博物館として新発足した。内部組織は館長、次長の下に管理課、学芸課を置き館長諮問機関として京都国立博物館評議員会が設置されている。

る。

〔館長〕 塚本善隆 〔次長〕 浦谷吉雄 (管理課)
八木邦夫 (学芸課) 梅津次郎
〔評議員〕 井島勉、岩本盛次、大西良慶、大宮庫吉、
富井清、奥田東、貝塚茂樹、近藤雄三、柴田実、堂本三
之助、村岡四郎、村田治郎、森田慶一
〔観覧日〕 毎月曜日、12月26日—1月3日休館 3月
—10月 9時—4時半、11月—2月 9時—4時
〔観覧料〕 50円、特別展100円

京都国立近代美術館

京都市左京区岡崎円勝寺町 岡崎公園内
電 (761) 4111~4
京都市より勧業館別館の寄附をうけて、昭和38年3月
に設置された。文部省設置法の改正により42年6月1日
から独立して京都国立近代美術館となった。
〔館長〕 今泉篤男 〔庶務課長〕 新山忠弘 〔事業課長〕
乾由明 〔評議員〕 平沢興、吉村正一郎、井島勉、岩井
盛次、上野照夫、小林行雄、近藤雄三、重達夫、塚本善
隆、福田平八郎、源豊宗、望月信成、山鹿健吉〔運営委
員〕 加藤一雄、河本敦夫、木村重信、佐藤雅彦、西村兵
部、藤岡一、矢内原伊作、吉岡健二郎
〔観覧日〕 10時—5時 月曜、年末年始6日間休館
〔観覧料〕 50円

京都市美術館

京都市左京区岡崎円勝寺町 岡崎公園内
電 (771) 4107~8
昭和8年設立。鉄筋コンクリート2階建、9362 m^2 。市
主催の美術展を開催するほか、美術団体に会場を貸与す
る。所藏品日本画 183、洋画 149、彫刻 30、工芸 49、
書 1。
〔館長〕 早借達一郎 〔副館長〕 黒川武男 〔庶務
主幹〕 茂木理一
〔観覧日〕 9時—5時 展覧準備中及び年末年始に臨
時休館のほか特定休館日なし。

二条城

京都市中京区二条城町
現在の建物17世紀前半の築城になる。京都市所属。
狩野探幽他の障壁画と庭園がある。
〔観覧日〕 1月5日—12月25日 8時45分—4時
〔入場料〕 入城料40円、御殿観覧料60円

藤井有鄰館

京都市左京区岡崎円勝寺町44
電 (771) 0005
大正15年11月創立。鉄筋コンクリート3階建。藤井善
助の寄附行為による財団法人藤井善助会館の経営。藤井善
助蒐集の東洋古美術品を保存展覧する。
〔代表理事〕 藤井善三郎

〔観覧日〕 毎月第1、3日曜の正午—3時のみ開館。
1月、8月は休館
〔観覧料〕 無料

京都大学文学部陳列館

京都市左京区吉田本町
電 (771) 8111
国史関係古文書と考古学資料の10万余点はわが国有数
の蒐集。観覧には予め許可を要する。
〔主 事〕 赤松俊秀

対岳文庫 (岩倉公旧跡保存会)

京都市左京区岩倉上蔵町 100
電 (781) 8111
岩倉具視を中心とする明治維新史料の蒐集陳列。
〔館長〕 大久保利謙

陽明文庫

京都市右京区宇多野上ノ谷町1
電 (441) 7550
昭和13年11月財団法人組織として設立。旧近衛家文庫
古文書10万余点、古典籍3万余部を収蔵し、研究者のも
とめに応じ随時閲覧の便を図っている。
〔理事長〕 細川護立
〔責任者〕 名和 修

醍醐寺霊宝館宝聚院

京都市伏見区醍醐東大路町22
電 醍醐 2
昭和10年4月開館。醍醐天皇1000年遠忌の記念事業と
して設立された。醍醐寺所蔵の珍しい仏画、一般絵画、
彫刻、古文書記録、経典等を保管整理し、また一般に公
開する。
〔館長〕 佐和隆研
〔観覧日〕 春秋2季(4月—5月、10月—11月) 9時—
4時
〔観覧料〕 50円

豊国神社宝物館

京都市東山区大和大路正面茶屋町
電 祇園 3802
大正14年12月開館。神社宝物、歴史風俗資料を陳列す
る。

広隆寺霊宝館

京都市右京区太秦蜂岡町
大正11年10月創立。聖徳太子1300年遠忌記念に創設さ
れた。同寺蔵の飛鳥時代弥勒菩薩像を始め各時代の多く
の仏像、仏画、美術工芸品等を収蔵している。
〔館長〕 清滝英弘
〔観覧日〕 毎日

美術観覧施設

〔観覧料〕 100円

仁和寺霊宝館

京都市右京区御室仁和寺
電 (075) ④ 0038

大正15年12月竣工開館。聖教30帖冊子、孔雀明王等仁和寺所蔵の国宝その他宝物を保管し一般に公開する。毎年10月の第1日曜～第3日曜まで仁和寺名宝特別展を開催する。

〔館長〕 森諦円
〔観覧日〕 9時—4時
〔観覧料〕 100円

織宝苑 (タツムラ・シルク・マンション)

京都市左京区南禅寺下河原町43—1
電 (77) 1220・1700

外国人への絹の紹介、販売をかねて常時古代製、名物製を展示、手織の実演も行う。

〔代表者〕 竜村 徳

北野天満宮宝物殿

京都市上京区馬喰町
電 (44) 0005・3229 (46) 3151

昭和2年12月創立。菅原道真公没後1025年祭(半万灯祭)の記念事業の一つとして設立され、国宝北野天神縁起絵巻を初め絵画、古文書等の宝物類を展示する。

〔観覧日〕 毎月25日の月次祭当日と春秋二季の臨時開
殿 9時—4時

西陣織物館

京都市上京区今出川通大宮東入
電 (431) 0588・4321

西陣織物と参考品の陳列および製織実演。

財団法人池大雅美術館

京都市右京区松尾万石町57
電 京都 (381) 2832

昭和34年12月開館。鉄筋コンクリート70坪。池大雅関係の絵画60、書50、資料7点の蒐集品を展示する。

〔館長〕 佐々木米行
〔観覧料〕 100円

財団法人堂本美術館

京都市北区平野上柳町26—3

堂本印象の作品170点および素描を公開。

〔館長〕 堂本三之助(印象)
〔観覧日〕 3月15日—6月15日、9月15日—12月15日
1月2日—1月15日 1年2回陳列替えを行う。
〔観覧料〕 150円

京都府立総合資料館

京都市左京区下鴨半木町
電 (781) 9101~3

昭和38年11月開館。古い伝統をもつ京都に関する文化を一望出来ることを意図して作られたセンター。資料、図書部門その他研究室、会議室等がある。展示室(727m²)では京都に関する文化、産業、民俗、風俗を中心とした資料を展示公開し、特に春秋2回京都伝統工芸に関する資料展を行う。

〔観覧日〕 9時—4時半 展示室一月曜・年末年始、
閲覧室一日曜・祝祭日・年末年始休館
〔観覧料〕 50円、特別展100円

教王護国寺重要文化財収蔵庫(東寺宝物館)

京都市南区九条町1
電 (691) 3325

昭和40年10月24日開館(竣工式)。宗教法人教王護国寺が所有する文化財(国宝・重文指定物件120件を含む)約3万点を災害から守るため完成されたもの。

〔館長〕 木村澄寛
〔観覧日〕 不定期。9時—16時
〔観覧料〕 150円

【大 阪】

大阪市立美術館

大阪市天王寺区茶臼山町121
電 (771) 4874

古美術品の常設展覧と一般美術展の展覧場としての設備を兼ね、昭和11年5月落成した。同月開館し、古美術の常設展覧は同年9月より開始した。絵画、彫刻、美術工芸、考古学資料など同館蒐集保存の古美術品を展覧し、展覧会室、講堂は一般美術展、講演会等に貸館する。

〔館長〕 今村竜一〔学芸課長〕 佐藤雅彦
〔観覧日〕 年末年始8日間休館 9時—5時
〔観覧料〕 50円

大阪市立博物館

大阪市東区馬場町
電 (941) 7177

昭和35年12月開館。

〔館長〕 三品彰英〔学芸課長〕 館長兼務
〔観覧日〕 年末3日間のみ休館 9時—5時

南蛮文化館

大阪市大淀区中津南通3—2
電 (451) 0088

北村芳郎氏蒐集の南蛮関係美術品を陳列し春秋2回公開する。

日本工芸館

大阪市浪速区新川町3—619

電 (641) 6309

昭和26年6月北区堂島上2ノ46に創立。堂島の米倉であったものを増築し、民芸の研究と普及を目的として、財団法人組織により設立されたが、昭和34年6月これを解体し、豊中市にある財団法人日本民家集落へ寄附。現在地に鉄筋コンクリート3階建と別館木造ブロック2階を新築改築して移転した。日本の現代民衆工芸品および古民芸品を主体として現代美術工芸品・版画等を蒐集常時展覧する。昭和36年12月福岡県朝倉郡小石原村皿山に分館を建設。37年5月窯業技術研究室を増築している。

〔館長〕 三宅忠一 (小石原分館長) 高田一夫

〔観覧日〕 10時—5時 月曜休館

〔観覧料〕 50円

観心寺霊宝館

大阪府河内長野市寺元

電 河内長野 134

霊宝館は明治33年に開設され、重文、八大観音、如意輪観音像を始め、仏像、古文書、楠家遺品等の寺宝を保管展覧する。

〔館長〕 永島行善

〔観覧日〕 9時半—5時

〔観覧料〕 10円

藤田美術館

大阪市都島区綱島町40

電 (351) 0582・0583

昭和26年3月財団法人設立認可。男爵藤田伝三郎ならびに同平太郎二代に亘って蒐集された古美術品を主としこれに分家徳次郎の遺品を合わせて創立せられたもの。財団法人設立の認可後、展覧室・庭園・事務室の整備に3ヶ年を費し、昭和29年5月に開館式を挙行了した。一般公開は現在のところ春秋2季特別展開催のほか、随時展覧を行っている。国宝7点、重要文化財40点を含む絵画、彫刻、工芸、書を約5000点収蔵している。

〔館長〕 藤田富子 〔理事長〕 菅礼之助 〔理事〕 藤田光一、藤田富子、藤田周子、久留島秀三郎、小川栄一、猪瀬弁一郎、松沢万蔵、大久保常雄、望月信成

〔監事〕 藤田直照、森田祐男

〔観覧日〕 春秋2季 10時—4時

〔観覧料〕 150円

逸翁美術館

大阪府池田市建石町1965

電 (51) 3865・4358

昭和32年7月創立。10月4日開館。財団法人組織、故小林一三氏蒐集の重要文化財その他美術工芸品の保存展覧を行う。収蔵品は、絵画(日本・東洋)750点(西洋)10点、彫刻70点、工芸2050点、書480点。

〔館長〕 岡田利兵衛

〔観覧日〕 毎日10時—4時 毎週月曜日休館、他に年

末年始及び3・6・9月の陳列替えの時は各1週間臨時休館。

〔観覧料〕 100円

【兵庫】

神戸市立南蛮美術館

神戸市葺合区熊内町1—35

電 (22) 3043

南蛮美術の蒐集で著名な池長美術館(昭和15年3月創立)が建物・所蔵品共に昭和26年4月神戸市へ寄附され市立神戸美術館となった。同年7月より開館。春秋2回南蛮美術展を開催する。昭和40年名称を神戸市立南蛮美術館に改めた。

〔館長〕 折茂安雄

〔観覧日〕 9時—5時 月曜、8月、月末26日以降、12月21日—1月4日休館

〔観覧料〕 100円

白鶴美術館

神戸市東灘区住吉町落合1545

電 (85) 6001

昭和6年3月創立。昭和6年嘉納治兵衛の古稀を記念し、その美術工芸品、考古資料の蒐集品を永久に保存するため財団法人白鶴美術館を設立した。建物は同9年竣工し、5月から公開した。中国青銅器、陶磁器、鏡、銀器及び日本奈良古寺伝来の工芸品、金石類、刀剣書画等の所蔵品を春秋陳列し、他に特別展を開催する。

〔理事長〕 嘉納正治 〔理事〕 内藤乾吉、望月信成、武藤誠、木戸只一、小田栄作、中村純一

〔観覧日〕 4・5・9・10・11月の春秋2季展の他に特別展を随時開き、年間150日開館 10時—4時半 月曜休館

〔観覧料〕 100円

鶴林寺宝物館

兵庫県加古川市加古川町北在家

電 加古川 (2) 2563

大正10年10月聖徳太子1300年御忌記念として建設した従来の宝物館は設備不十分のため鉄筋コンクリート建の宝物館を新設し、昭和42年3月21日より白鳳時代の金銅聖観音像その他重要文化財、絵画、工芸美術品、古文書等200余点を陳列し、希望者のある毎に開館する。

滴翠美術館

芦屋市山芦屋町60

電 芦屋 (3) 2228

関西財界人として活躍した故山口吉郎兵衛の収集した古美術の遺品を遺族の寄贈により成ったもので、昭和39年6月財団法人山口文化会館の美術部門として開設された。収集品のうち殊に京焼、紀州焼等の陶器類、人形、等が知られる。

美術観覧施設

〔館 長〕 山口チカ
〔観覧日〕 10時—4時半 月曜休館
〔観覧料〕 100円

【奈良】

奈良国立博物館

奈良市登大路50
電 奈良 (22) 7771—3

明治22年帝国奈良博物館設置せられ同28年4月開館。33年官制の改革と共に奈良帝室博物館と改められた。さらに昭和22年5月官制改革により、帝室博物館は文部省の管轄の下に国立博物館となるに及んで国立博物館奈良分館と改称された。ついで25年5月文化財保護法の制定にともない文化財保護委員会の管轄に、また27年4月東京国立博物館奈良分館に、同年8月文化財保護法一部改正により東京国立博物館より分離し、奈良国立博物館と改められて新発足をした。内部組織は館長の下に次長が置かれ、従前の庶務、学芸、普及の3課は廃されて新たに管理、学芸の2課が置かれ、館長の諮問機関として奈良国立博物館評議員会が設置されている。

〔館長〕 蔵田蔵 〔次長〕 内藤和美
〔課長〕 (管理) 池田正信 (学芸) 西村兵部
〔評議員〕 奥田良三、越智岩太郎、鍵田忠三郎、岸勇一、小林剛、佐伯勇、寺尾威夫、橋本凝胤、細川英道、松下幸之助、村田治郎、土井弘、上野澄園
〔観覧日〕 毎週月曜日と年末年始9日間休館。3月—10月 9時—4時半、11月—2月 9時—4時
〔観覧料〕 50円

奈良県立橿原公苑大和歴史館

奈良県橿原市畝傍町
電 大和橿原 5956

昭和15年11月開館の大和国史館を同24年8月大和歴史館と改称したもの。縄文式早期から弥生式、古墳、飛鳥奈良時代に亘る土器、石器、骨角器、珠玉、金石及び木製品、万葉集関係資料、その他民俗資料、古銭等主として奈良県下出土遺物、歴史的資料を収集、保管、展示する。昭和30年12月28日、博物館相当施設としての指定を受けた。

〔公苑長〕 仲西 茂 〔館主任〕 伊達宗泰
〔観覧日〕 毎日9時—4時半 月曜日午後、火曜日及び毎月末、祝祭日、12月26日—1月5日まで休館
〔観覧料〕 50円

興福寺国宝館

奈良市登大路町
電 (22) 5370

昭和34年3月、旧食堂、細殿を天平様式に復元し、興福寺諸堂に伝来した国宝級の仏像、古文書、絵画、工芸品など約一万点を収蔵展覧している。

〔観覧日〕 無休、8時—5時 9月1日—11月末日・3月1日—5月末日 時間外開館可能
〔観覧料〕 100円

春日大社宝物殿

奈良市春日野市御蓋山 160
電 奈良 (22) 7788・7789

昭和10年4月創立。歴代朝野から献進の宝物を保存し、展覧する。絵画彫刻の他、鎧、太刀等工芸品約3,000点所蔵。

〔観覧日〕 9時—5時 7・8月は8時半—4時半
〔観覧料〕 50円

天理大学附属天理参考館

奈良県天理市布留町1
電 天理 (2) 1511 内線 793

大正14年4月天理大学の創立以来40年間に蒐集した海外民俗資料に、さらに支那朝鮮の古美術、近東・中南米古代資料、日本の貝塚資料、アイヌ資料、キリシタン資料、交通関係資料、文楽人形等も加えて総点数約23万を数え、大学附属施設として公開している。

〔館 長〕 丸川仁夫
〔観覧日〕 9時—4時 日曜・祭日・年末年始7日間休館
〔観覧料〕 無料

東洋民俗博物館

奈良市あやめ池町北園
電 奈良 (45) 0069

昭和3年11月創立。財団法人組織。大正6年頃より九十九豊勝が個人として蒐集したものを収蔵し展覧する。各国民族資料、特に比較宗教学に関する資料が多い。

〔館 長〕 九十九豊勝
〔観覧日〕 9時—5時
〔観覧料〕 50円

法隆寺大宝蔵殿

奈良県生駒郡斑鳩町
法隆寺 電 (いかるが) 2555~7

昭和16年4月創立。聖徳太子1320年忌を記念して作られたもので、法隆寺所蔵の宝物類 (絵画15点、彫刻96点、工芸214点、書4点他) を展示する。

〔館 長〕 間中定泉
〔観覧日〕 年中無休 8時—4時半
〔観覧料〕 140円

大和文華館

奈良市菅原町 969
電 奈良 (45) 0544

昭和35年10月創立。昭和21年以来近畿日本鉄道株式会社が美術館設立のため内外の美術品の蒐集につとめてい

だが、新しく美術館を建設して開館した。建物は、吉田五十八の設計になる鉄筋コンクリート造、延面積約2324 m^2 の現代建築である。常設展観のほか春秋二季に特別展観を行う。国宝4点、重要文化財25点をふくむ多数の収蔵品がある。昭和26年以降美術雑誌「大和文華」を発行している。(現在は年二回発行)

〔館 長〕 矢代幸雄 〔次長〕 石沢正男
〔管理課長〕 大宅勇 〔学芸課長〕 衛藤駿
〔観覧日〕 10時—5時(入館は4時まで) 月曜、年末年始 休館
〔観覧料〕 100円 特別展 150円

草津美術館(依水園)

奈良市水門町74
電 奈良 (22) 2173

昭和15年開設。中村準策の蒐集になる古美術品を展観するもので、朝鮮陶磁器を中心とし、古鏡、銅器、古印などがある。

〔開館日〕 春秋2回

〔和歌山〕

和歌山県立美術館

和歌山市一番町和歌山城內
電 (23) 2467

昭和38年開館、近代美術館として運営している。

〔館 長〕 中谷英雄

高野山霊宝館

和歌山県伊都郡高野町高野山
電 高野 2254・2029

大正10年5月10日創立。高野一山の宝物を保管し、一般の拝観に供している。

〔館 長〕 山本智教
〔観覧日〕 夏季8時—5時 冬季9時—4時。月末12月25日—1月31日休館
〔観覧料〕 70円

熊野神宝館

和歌山県新宮市新宮1
電 533

明治40年創立。熊野速玉大社国宝神宝類997点、重要文化財2点の他、熊野郷土関係古美術品資料を展観する。昭和32年鉄筋コンクリートに改築した。

〔館 長〕 上野 元
〔観覧日〕 無休、9時—4時
〔観覧料〕 50円

串本応挙芦雪館

和歌山県西牟婁郡串本町
(紀州串本無量寺境内)
電 串本 468

昭和36年創設。無量寺所蔵の応挙・芦雪等の絵画並びに室町—江戸時代の絵画、墨跡及び串本町出土の舟型木器他約300点の古代漁撈関係資料の保存管理・公開展示をする。

〔館 長〕 東条光顯
〔観覧日〕 9時—5時 年中無休
〔観覧料〕 50円

〔中国地方〕

鳥取県芸美術館

鳥取市瓦町 124
電 (22) 5203

昭和24年12月創立。同37年より財団法人として発足。約3000点の日本、東洋の民芸品を収集陳列する。

〔館 長〕 吉田璋也
〔観覧日〕 10時—5時
〔観覧料〕 60円

島根県立博物館

松江市殿町1
電 松江 (21) 0111(代) 内線372~3

昭和33年12月設立。県内出土の考古資料及び指定文化財の常時展観と共に、国内外の絵画工芸等の展覧会を開催して、地方文化の向上に資する。

〔館 長〕 手銭白三郎
〔観覧日〕 9時—5時 月曜、祝日、年末年始休館
〔観覧料〕 30円~200円

出雲大社宝物殿

島根県簸川郡大社町
電 大社 (3) 3100

昭和38年5月10日境内に新築した庁舎に併設、国宝・重文をふくむ絵画、彫刻、工芸品、古文書、考古資料、祭器等550点余りを収蔵する。

〔観覧日〕 8時—4時
〔観覧料〕 50円

玉作湯神社出雲玉作趾出土品収蔵庫

島根県八束郡玉湯町大字玉造

出雲玉作趾出土品(上代玉類・砥石類、上代硝子類等350点以上)を収蔵。

〔観覧日〕 事前に連絡のこと。

津和野町立郷土館

島根県鹿足郡津和野町大字森村
電 津和野 300

大正10年1月発足。郷土史資料を中心とし、森鷗外、西周等の肖像、遺品などを収集。

〔館 長〕 池田 潔
〔観覧日〕 9時—5時
〔観覧料〕 50円

美術観覧施設

大原美術館

岡山県倉敷市新川町312-1
電 倉敷 (22) 0005

昭和5年11月創立。故洋画家児島虎次郎を記念し、美術の研究発達に資するため絵画及びその他の美術品の蒐集、陳列公開等を行う。大原孫三郎によって創設され、昭和10年3月財団法人となった。西洋絵画、彫刻、古代エジプト美術品、海外古陶磁器及び日本の洋画等の収蔵品が著名である。昭和36年新館を設立、西洋現代絵画及び古代エジプト美術品、海外古陶磁器などを陳列。さらに昭和37年バーナード・リーチ、富本憲吉、河井寛次郎、浜田庄司の作品を常時陳列する陶器館を増設し、昭和38年には棟方志功の板画館と芹沢銈介の染色館を増設した。

〔館長〕 藤田慎一郎

〔観覧日〕 9時—4時 年末年始5日間、毎月曜日休館

〔観覧料〕 本館100円 その他の館50円

倉敷考古館

岡山県倉敷市前神町1015
電 倉敷 (22) 1542

昭和25年11月創立。考古学の研究普及と地方文化の向上を目的として、財団法人組織をとっている。考古学関係資料1500点を収蔵する。

〔館長〕 武内潔真

〔観覧日〕 9時—4時 月曜日、年末2日、年始3日
春分、秋分の日、天皇誕生日休館

〔観覧料〕 80円

倉敷民芸館

岡山県倉敷市前神町
電 倉敷 (22) 1637

昭和23年11月創立。岡山県民芸協会の事業の一つとして創設され、のち財団法人として独立した。古今東西の民芸品の蒐集、展覧、普及に当たっている。所蔵品約6,500点、付属工芸研究所がある。

〔館長〕 外村吉之介

〔休館日〕 月曜日、年末2日、年始3日

〔観覧料〕 100円

岡山美術館

岡山市内山下78
電 (0862) ☎ 1733

昭和39年10月開館。美術愛好家故林原一郎氏の蒐集した東洋古美術品と、旧備前藩主池田家の協力による蔵品を主体として展示する。蔵品は彫刻を除く各分野に亘り約3,000点収蔵。

〔館長〕 大熊立治

〔観覧日〕 9時—5時 (無休)

〔観覧料〕 100円

吉備考古館

岡山県都窪郡山手村
電 総社 (2) 1521

昭和17年創立。吉備地方を中心とし、県内の考古資料、郷土資料を展覧する。

〔館長〕 宮岡亮行

〔観覧日〕 毎日 9時—4時

〔観覧料〕 50円

吉備考古館別館

岡山市別所・ファミリーランド内

昭和39年5月1日設置。

〔館長〕 宮岡亮行

〔観覧日〕 毎日9時—6時

〔観覧料〕 無料

厳島神社宝物館

広島県佐伯郡宮島町

創立明治30年。現在の建物は昭和9年建造され、厳島神社宝物として伝承した藤原時代以後の書蹟・工芸品等を公開する。

〔館長〕 野坂元定

〔観覧日〕 毎日

〔拝観料〕 100円

耕三寺博物館

広島県豊田郡瀬戸田大字瀬戸田553-2
電 瀬戸田 6018

昭和27年9月設立。尾道市南方海上8K余の生口島瀬戸田町にあり、重要文化財を含む古美術品と、近代作家の作品並びに考古資料、墨蹟等を常時出陳公開している。

〔館長〕 耕三寺弘三

〔観覧日〕 8時—5時 年中無休

〔観覧料〕 100円

山口県立山口博物館

山口市上宇野令島越2960
電 山口 (2) 0294

大正6年4月設立。県立教育博物館として発足、特に明治維新関係資料を豊富に収蔵した。昭和20年4月本館建物は転用され、一時閉館状態であったが、昭和25年7月建物転用が解除され、県立科学博物館として発足し、さらに自然人文を総合した県立山口博物館として再発足。昭和41年県文化センターの一環として改築。新館は坂倉準三氏の設計で昭和42年9月竣工、10月開館した。歴史、考古、美術、工芸、生物、地学、理工、天文の総合博物館として資料25,000点収蔵。総工費25,000万円。

〔館長〕 白杵華臣

〔観覧日〕 昭和42年10月以降

防府天満宮文化財収蔵庫 (旧松崎神社宝物館)

山口県防府市宮市

松崎神社は昭和27年4月炎上、本殿幣殿拜殿等の復旧工事は昭和38年9月に完了した。同宝物館は災禍を免れたが老朽のため、閉鎖し、昭和40年9月1日防府天満宮文化財収蔵庫を新築し、希望により開庫。なお昭和28年1月22日松崎神社は防府天満宮と改称した。昭和42年9月25日宝物庫竣工。

〔観覧日〕 毎日9時—4時

〔拝観料〕 50円

忌宮神社宝物館

山口県下関市長府町宮の内

電 下関 (0832) 45—1093

大正4年3月創立。神社創建以来の古文書其他寄進による絵画、工芸品等380余点、就中重要文化財として足利尊氏、並びに長男直冬、弟の直義、足利高経の豊浦宮法楽和歌一卷及び伝則宗、長船盛光の二刀を収蔵する。

〔館 長〕 磯部稜威雄

〔観覧日〕 無休

〔観覧料〕 20円

市立岩国徴古館

山口県岩国市横山2—7—19

電 (41) 0452

私立岩国徴古館(昭和19年4月設立)が昭和26年4月岩国市へ移管され、市立となったもの。郷土に関係ある美術工芸品、歴史地理資料を蒐集保存し、且公開して文化の向上に寄与しようとする。藩制時代の地方的絵画251点、工芸317点余り、同時代の地方史資料、大内、毛利、特に吉川氏に関する多くの古文書等を所蔵する。

〔館 長〕 森本常人

〔観覧日〕 9時—4時半 月曜と祭日の翌日休館

〔観覧料〕 無料

西村博物館

山口県岩国市横山2—10—27

電 (41) 0506・0825

財団法人。昭和38年10月開館。西村重則の収集になる1000点以上の武具を中心とした展示。

〔館 長〕 西村重則

〔観覧日〕 9時—6時 無休

〔観覧料〕 100円

萩市郷土博物館

山口県萩市江向525—4

電 (2) 3131

昭和34年8月、在来の萩市科学博物館に人文科学部門を加えて開館。萩市の産業・歴史・民俗資料および美術

工芸品を一階に陳列し、二階には自然科学資料を展示する。

〔館 長〕 上岡正次

〔観覧日〕 8時半—5時(12月—2月4時半)月曜・祝日休館

長府博物館

山口県下関市長府町川端

電 (45) 0555

昭和8年10月創立。当初は故桂弥一が財団法人長門尊攘堂を創設し明治維新前後の志士の遺墨等を収集陳列したものであった。戦後は財団法人長府博物館と改称、郷土を中心とした文化資料を蒐集、保管し、常時展覧している。また、各種特別展も行う。

〔館 長〕 藤田武男

〔観覧日〕 毎週月曜日、祝祭日の翌日及び年末年始12月29日より1月2日まで休館

〔観覧料〕 70円

〔四国地方〕

徳島県博物館

徳島市西山手町1—1

電 (22) 9011

昭和34年12月設立。生物室・地学室(5階)産業・科学室(4階)と考古室(3階)からなる総合博物館。重文指定の銅鐸などがある。

〔館 長〕 日出武敏

〔観覧日〕 9時半—4時半 月曜、第3木曜、祝日、年末年始休館

〔観覧料〕 20円

徳島県立図書館

徳島市城の内1

電 (22) 3151

大正5年6月創立。中林梧竹作品400点、阿波浄瑠璃人形資料200点を収集。

〔館 長〕 上原浩一

〔観覧日〕 9時—6時半(冬期6時)日曜祭日休館

〔観覧料〕 無料

高松市立美術館

香川県高松市栗林公園内

電 高松 (31) 3216

昭和24年11月開館。昭和24年高松観光大博覧会を機会にその建物の一部360坪を市立美術館として存置し、中央、地方各種美術展を開催、地方文化の普及を図っている。

〔館 長〕 中村良三

金刀比羅宮博物館

香川県仲多度郡琴平町

美術観覧施設

電 琴平 ⑤ 2121~3

金刀比羅宮博物館は、宝物館、学芸館、金刀比羅宮書院の三施設に分れている。

宝物館は明治38年創立。金刀比羅宮所蔵の書画、刀剣、古文書等を収蔵展覧する。学芸館は昭和3年創立。学芸参考品、標本等のほか高橋由一の作品26点を収蔵展覧する。書院には鶴の間外4室に書かれた応挙の絵（重要文化財）等がある。

〔館長〕 琴陵光重

〔観覧日〕 無休、8時—4時

〔観覧料〕 30円

総本山善通寺宝物館

香川県善通寺市 615

電 111

明治35年4月創立。善通寺伝来の絵画、仏像、工芸品等約120余点を陳列展覧する。

〔館長〕 亀谷有英

〔観覧日〕 春、夏 8時—5時 秋、冬 9時—4時

〔観覧料〕 無料

大山祇神社国宝館（紫陽殿）

愛媛県越智郡大三島町

電 大三島 32

国宝館大正15年6月創立。紫陽殿昭和38年8月創立。鎧、兜、太刀等美術工芸品1000余点収蔵、展覧する。

〔館長〕 三島安久

〔観覧日〕 無休。春夏 8時—5時 秋冬 9時—4時

〔観覧料〕 140円

愛媛文華館

愛媛県今治市山里通

電 今治 ③ 0534

昭和30年3月創立。財団法人組織の陶磁器その他各種の美術品を陳列する。

〔館長〕 二宮兼一

〔観覧日〕 10時—4時 毎月曜及び祝祭日の翌日休館

〔観覧料〕 30円

高知県懐徳館

高知県高知市丸の内1

電 ② 2776

高知城の懐徳館を大正2年6月より公開。昭和5年4月県立懐徳館を設置した。館長は県社会教育課長が兼務。絵画・工芸・書約180点の他、考古資料数100点を収集陳列する。

〔館長〕 安岡 一

〔観覧日〕 8時半—5時 12月26日—1月1日休館

〔観覧料〕 30円

〔九州地方〕

石橋美術館

福岡県久留米市野中町

石橋文化センター内

電 久留米 ③ 2271(代)

昭和31年4月創立。東京のブリヂストン美術館の姉妹館として、石橋正二郎の収集品中、ことに日本近代の油絵・彫刻を展覧し、春秋その他に特別展がある。

〔主 事〕 田中幸夫

〔観覧日〕 年末年始12月28日—1月1日を除き毎日

〔観覧料〕 40円（但し別に石橋文化センター入園料20円を必要とする）

観世音寺宝蔵

福岡県筑紫郡太宰府町大字観世音寺

電 二日市 3708

昭和34年11月創立。天智天皇の勅建で天平18年に創建されたが、其後再度の火災に堂宇仏像等焼失した。平安時代に至り再興され、当時の仏像18点他を新築の宝蔵に収める。

〔館長〕 石田琳円

〔観覧時〕 9時—5時

〔観覧料〕 50円

福岡県文化会館美術館

福岡市天神5—2—1

電 福岡 (74) 8591~5

昭和39年11月開館。県民の美術的活動の促進、文化的教養の向上を目的として建設された。

〔館長〕 城取文男

〔開 館〕 10時—6時

〔休 館〕 月曜、年末年始

北九州市立八幡美術館

北九州市八幡区本町4丁目

電 (67) 5414

昭和33年開館。米国アジア財団よりの援助を基に、市民への美術鑑賞、教育普及に資するため発足した。特別展のみ、その他個展などの利用にも供する。

〔館長〕 井上禎久

佐賀県文化館

佐賀市松原町70

電 (4) 3947

昭和27年4月以来博物館相当施設としての活動を続け、昭和35年4月県立の博物館施設として正式に登録した。自然科学資料2602点、人文科学資料1315点（考古・民俗・美術工芸とくに陶磁）の常時展の他に特別展を開催。なお、博物館事業のかたわら月刊誌「新郷土」の発行など県内の文化事業の育成と各種文化団体の指導にあたる。

〔館長〕 永竹 威

〔入場料〕 20円

有田陶磁美術館

佐賀県西松浦郡有田町大樽1356

電 有田 (9) 3372

昭和29年5月創立。石造2階建の土蔵を改造し、日本における磁器発祥の地にふさわしい古陶磁器と各種資料を常時陳列するほか特別展を企画する。

〔館 長〕 松尾 茂

〔観覧日〕 9時—4時半 月曜、祝祭日休館

〔観覧料〕 20円

祐徳博物館

佐賀県鹿島市古枝祐徳稲荷神社外苑

祐徳院殿御遺品、旧鹿島藩歴代藩公の大鎧及び宝物、祐徳稲荷神社宝物、佐賀県内考古出土品の常時陳列。年6回の特別陳列（歴史、美術、民俗等）

〔館 長〕 星野英夫

〔観覧日〕 水曜日は休館

〔観覧料〕 20円

小笠原記念館

佐賀県唐津市西寺町近松寺内

小笠原藩関係の宝物を中心とする常時陳列のほか特別展開催。

〔館 長〕 常安弘通

〔観覧日〕 9時—5時 月曜及び12月—2月は休館

〔観覧料〕 30円

長崎県立美術館

長崎市立山町2

電 (22) 6700 (23) 1883

原爆10周年を期して、長崎県では国際文化センター建設事業を計画し、その一環として、美術博物館が建設された。内容は、長崎県のもつ歴史的背景を地盤とした、他県にない特色を打出すことに主眼が置かれている。

〔館 長〕 平山多馬喜

〔観覧日〕 9時—5時 月曜、国民祝日、年末年始休館（特別展の際は休日なし）

〔観覧料〕 50円、特別展は別

長崎市立博物館

長崎市平野町7—8

長崎国際文化会館内

電 (44) 0990

昭和16年2月創立。開国史に関係する郷土資料、主としてキリシタン関係、中国、オランダ貿易関係の資料を蒐集し展観する。

〔館 長〕 渡辺九平

〔観覧日〕 9時—5時、無休

〔観覧料〕 文化会館の入場料として30円

島原城史料博物館

長崎県島原市桜馬場1183

電 島原 4766

昭和35年設立。17世紀初頭の島原城西の櫓を復元し、島原城史料館を設置。昭和39年天守閣を復元、西の櫓史料館のキリシタン史料を中心とした郷土史料を移し常時展観している。数十点を収集展示する。

〔観覧日〕 8時—6時 12月29日—1月1日休館

〔観覧料〕 入園料10円 登閣料100円

松浦史料博物館

長崎県平戸市鏡川町12

電 平戸 2236

昭和30年10月開館。元松浦家伝来の鎌倉時代以後の資料を収蔵し、美術的価値ある書画、工芸品450点以上を平時展示する。

〔館 長〕 白石一郎

〔観覧日〕 7—9月 8時半—5時 12—3月 9時—4時 年末3日と元日のみ休館

〔観覧料〕 80円

本妙寺宝物館

熊本県熊本市花園町6

電 熊本 (52) 0630

明治42年5月創立。明治42年清正公300年祭に際し公の威徳顕彰の目的を以て開設した。

〔館 長〕 池上義豊

〔観覧日〕 毎日 9時—5時

〔観覧料〕 30円

菊池神社宝物館

熊本県菊池市隈府1257

電 熊本 2549

大正8年11月創立。菊池神社の教化活動の一環として設けたもので、祭神菊池氏の遺品その他関係資料を収蔵、展観する。

〔館 長〕 千種宣夫

〔観覧日〕 9時—4時

〔観覧料〕 10円

熊本国際民芸館

熊本市竜田町三宮公園

電 熊本 (66) 2573

昭和40年5月創立。館長外村吉之介が九州民芸運動の一拠点として創設。ことに国際交流に力を入れ、内外の民芸品の蒐集、展観、更に民芸の普及に当たっている。

〔館 長〕 外村吉之介

〔観覧日〕 8時半—5時 月曜、年末年始各2日休館

〔観覧料〕 60円

美術観覧施設・美術団体一覧(あ・い)

日田市立博物館

大分県日田市三本松町
電 日田 5191

昭和35年12月創立。法恩寺山古墳群の出土品を中心とするもの300点の他に民俗資料、自然科学標本を陳列。

〔館長〕 合谷 均

〔観覧日〕 9時—5時半 毎週月曜日、祝祭日休館

〔観覧料〕 無料

別府市立美術館

大分県別府市上田ノ湯
電 (3) 2453

昭和25年10月創立。市立図書館の一部として近代の作品50余点を展示している。

〔館長〕 阿部 晋

〔観覧日〕 9時—4時 月曜日、祝日、年末年始休館

〔観覧料〕 無料

錦水園美術館

大分県別府市南のヶ浜町

武器、書画、茶道画、古文書など数千点の蒐集陳列。

〔観覧日〕 無休 9時—5時、夜間5時—10時

〔観覧料〕 150円(夜間200円)

宮崎県立博物館

宮崎市神宮町東神苑
電 (3) 2738

昭和26年4月創立。昭和15年、紀元2600年記念事業として奉讃会が設立した徴古館を同26年県立博物館として新発足したもの。考古資料3000余点を主とし他に歴史、美術資料1000余点を収蔵、陳列する。

〔館長〕 柳 宏吉

〔観覧日〕 9時—4時半 毎週月曜及び月始1日、年末年始と祝日(成人・子供・文化の日を除く)休館

〔観覧料〕 20円

鹿児島市立美術館

鹿児島市城山町4—36
電 (2) 5513 (3) 4906

昭和29年9月1日開館。黒田清輝記念室を設け、その他藤島武二、和田英作等の洋画、橋口五葉の版画、木村探元の日本画、新納忠之介、安藤照の彫塑等郷土作家の作品及び薩摩工芸品並びに薩摩民芸品等を展覧している。なお昭和31年6月、岩崎与八郎寄贈の393.29m²の新館が完成した。

〔館長〕 坂元盛愛

〔観覧日〕 無休、9時—4時半

〔観覧料〕 20円

美術団体一覧 (五十音訓)

(あ)

アートクラブ(洋・彫・工・建・評論) 品川区大井4—25—24 山口勝弘方 電 (771) 1549 昭和28年5月国際アートクラブ日本本部として創立(通称アートクラブ)。画家、彫刻家、その他の美術家、評論家によって組織され、名国のアートクラブと連繋し、現代芸術を発展させるための活動を行う。また本会は一切政治に関与しない。各国アートクラブは各々本部を国内に持ち、国際的な中央本部に連繋するが、中央本部は2年毎に国際会議によって所在を決めることになっている。

〔代表〕 岡本太郎 〔書記長〕 滝口修造

〔書記〕 藤沢典明、山口勝弘、池田竜雄

〔幹事〕 滝口修造、井上武吉、池田竜雄、岡本太郎、金子真珠郎、品川工、末松正樹、田中繁一、利根山光人、中井幸一、難波田竜起、原武典、針生鎮郎、伴勝雄、藤沢典明、藤松博、元永定正、山口勝弘、油野誠一、吉田穂高 〔会員〕 185名

あまがつ「天見会」(工・人形) 京都市中京区押小路通り富小路角633 面屋庄三方 電 075 (231) 8928 昭和30年4月10日創立。昭和33年2月東京・京都で第1回あまがつ会人形展開催。本会は永い伝統と平安の気風に培われてきた日本の人形芸術を、新しい時代感覚で、よ

り高い格調へと、研鑽精進すると共に、人格の陶冶をなす。指導、京人形司13世面屋庄三

〔会員〕 平中歳子、浜岡都美、林駒夫、西村喜代、西村恵美子、瀧谷慶子、吉田宣子、米田律子、種田蝶子、中村久仁子、内田典子、黒田和江、松室美美、福島秀子、雨宮英子、沢島喜代子、遠藤弥生、佐野益美、畑マス子、大橋操、大田珠代、西井千津子、木下芳子

(い)

一水会(洋・陶) 浦和市常盤町1—8—24 高田誠方 電 (0488) 7016 昭和11年12月、旧二科会員8名は「会場芸術を非とし、技術を重んじ、高雅なる芸術を尊重することに於て一致」、同会を創立した。12年12月東京都美術館に第1回公募展を開催し、爾後毎秋季に展覧会を開き、昭和43年9月第30回展開催。

〔委員〕 池部均、池辺一郎、礒三彩亭、小野末、高橋庸男、高田誠、田崎広助、仲田好江、中村善策、中村琢二、納富進、深沢紅子、福田新生、小山敬三、高野三三男、有島生馬、安宅虎雄、荒谷直之介、木下孝則、木下義謙、鈴木良三、等43名

〔会員〕 227名<陶芸部> 〔委員〕 11名 〔会員〕 9名

一線美術会(洋・彫) 杉並区大宮前4—466 岩井弥

一郎方 電 (398) 8624 昭和25年7月創立、年1回春に公募展覧会を開き昭和43年3月第18回展開催。

〔代表委員〕 岩井弥一郎

〔委員〕 (絵画部) 田村満、村瀬真治、西東重義、簗輪初太郎、宮沢今朝雄、本村博之、倉沢康、大黒孝儀、根本清満、山田哲士、高橋治男、関川富士郎、田畑弘、阿部和夫、飯塚吉光、石井芳弥、田中久雄、柳林卓、山下儔、五十嵐聖一、池上敬二、今村清志、石田正幸、長谷川漸、蜂谷久雄、林与三郎、保科米三、星富二、星野登喜男、豊田伝、徳植清祐、鳥井芳雄、太田実、山崎光子、奥田辰一、奥野博、落合歌二郎、渡辺喜一、門田弘敬、川上幸吉、吉田由紀、田河水泡、高橋生三郎、高橋信雄、田中稔、田中久雄、坪井鶴吉、石上泰三、中山久也、中林松太郎、日下常由、矢吹敬一、堀江佑造、山下真一、増田誠、小池政治、木暮光孝、小柳勇児、小橋川嗣、勅使川原一文、秋山良太郎、浅原昭二、新井盛治、青木博信、若宮独人、斎藤博、斎藤森重、坂本哲、坂本芳枝、宮田真平、三浦定雄、遠山青太、柴田喜代、森茂、菊地洋二、亀山功二、田城光俊、根本敬一、黒田オサム、浅井ときわ、梶川正男、巽郁夫、石名田喜久男、富樫日出夫、町田国夫、石野世紀雄、落谷勝敏、本田義久、山岡秀雄、吉田馨、岩本光庸、箕田芳子、佐野正雄、高山英三、児玉勝次、清水照子、山田忠直、熊坂秀夫、安藤久孝、阿部大、(彫刻部) 石田来之助、小林秀江、高橋治男、成川明 〔会員〕 67名

一陽会(洋・彫) 台東区上野桜木町36 野間仁根方 電 (821) 3400 昭和30年7月創立。二科会を脱退した鈴木信太郎、高岡徳太郎、野間仁根を中心に、同じく二科会を脱退した会員19名、会友7名によって結成された。昭和30年9月日本橋高島屋において第1回公募展開催。昭和43年9月第14回展開催。

〔会員〕 (絵画部) 鈴木信太郎、高岡徳太郎、野間仁根、米良道博、山路真澄、荻野康児、森由太郎、山谷鉄一、長谷川千春、棟方寅雄、松下明治、片柳忠男、飯田慶三、小出泰弘、村上英男、指田由来、沢田正太郎、田辺栄次郎、小川哲郎、堀内千里、上田春雄、勝一晃、国本克己、田所満雄、野間佳子、萩原栄一、八重垣逸郎、小野竹郎、鶴田猛、大石可久也、峯岸義太、山田首、小林丙、中村秀雄、浅井一介、大羽悟郎、岡本耕介、北山泰斗、鈴木力、月見里シゲル、(彫刻部) 浅野孟府、植木力、伊本淳、中村輝、根本勲、金田忠、櫛山勝、宮川和博、横沢英一、加藤博二、山崎猛、郷悦三、森川正之

(う・お)

VAVA(洋) 岐阜県関市末広町6 西尾一三方 電 05752 (2) 2074 岐阜県関市並びにその近くに在住する10余名の画家によって昭和33年1月創立。同年8月東京銀座・文芸春秋画廊にて第1回展開催。以来毎年8月第1週に銀座で発表展を行う。「VAVA」は鳥合の衆である。叫ばない。歌わない。互いに噛み合う癌細胞の増殖」を詠い文句とする。昭和39年、在ブラジル日本大使館、リオ・デ・ジャネイロ国立美術館主催「VAVA」

展(リオ、国立美術館、サンパウロ日本文化センター) 昭和40年、アンデパンダン・アート・フェスティバル企画開催(岐阜・長良川畔) 昭和43年第10回展開催。

〔会員〕 (代表) 西尾一三、石原ミチオ、後藤昭夫、後藤喜美夫、小本章、西尾治、羽山富雄、山下文夫、山田俊

旺玄会(洋) 東京都東村山市美住町2-2344 阪井谷松太郎方、昭和8年当時の官展を離脱した牧野虎雄を主宰者として槐樹社その他の新進作家が集って旺玄社を結成し、同年第1回旺玄展開催。昭和21年旺玄会と改称した。昭和30年2月大久保作次郎、田沢八甲、吉松芳村ら古参会員を含む6名は脱退した。昭和42年5月第33回展開催。

〔委員〕 五十嵐祥晃、市川加久一、梅野順三、清原馬目、小林喜代吉、小林猶治郎、近藤せい子、近藤良悦、酒井嘉久、阪井谷松太郎、相良文雄、佐藤雄治郎、清水正博、杉浦勝人、杉浦一郎、鈴木金平、高野真美、玉の内満雄、古橋義朗、松下芳太郎、皆見鶴、宮城健盛、忍田三子雄、木島恭一、小林茂夫、佐藤武三、三上恵美子、渡辺景一、荒井孝人、臼井春夫、内海正見、忍田和子、河島一一、河西万文、北川金治、木村信、児玉順、杉山良雄、高沢正利、竹田譲、中村明、吉尾房子、金井敬陽、吉岡憲一、吉増達夫、久保亀吉 〔会員〕 89名

(か)

かおす(洋) 東京都世田谷区代沢3-21-3 進藤善方 電 (421) 1764 昭和32年創立昭和41年6月10回展開催。

〔会員〕 北村幸一、大角竜介、佐々木四郎、進藤善、張替真宏、吉野谷幸重、今井治男、中田一路、中田和江、小島俊男、細川弘司、原田敦子

塊土社(彫) 水戸市河和田町2018 後藤末吉方 昭和30年1月創立。昭和24年以来の彫聖協会が29年末に発展的解散をして30年初めより新発足したもの。主に茨城県に在住する彫聖家達による団体。年1回展覧会開催。

〔会員〕 後藤清一、渡辺卓郎、吉田曉禾、高久茂雄、後藤修、後藤末吉、小森邦夫、小嶋尚久、山崎猛、石塚輝雄、蛭田二郎、丹下保、篠原洋、加藤忠義、小松崎久、菅谷政雄、関野信彦、滝田省三、土信田富久、平戸司郎、六崎敏光、吉田貫

関西水彩画会(水) 大阪市東住吉区上住吉町17 赤尾長二方 電 (673) 2193 昭和10年4月創立。関西在住の水彩画家の団結、親睦、普及研究を趣旨とする。

機関紙「関西水彩」発行。公募展、講習会開催。

〔会員〕 別荘博資、青野馬左奈、中谷武雄、大久保正義、赤尾長二、上田素由、水野修造、中川隆史、宮本草一路、村井新治、山野一、永山隆二、小出啓夫、片山民二、笠松方成、松井情人、富士本昇、太田三郎、福井勝重、玉井武二、木原義明、高田定雄、谷本ためひろ、和田行雄、等52名 〔会友〕 18名

関西能彫協会(彫) 奈良市高天市町5 本田正人方 電 奈良 (22) 2475 昭和35年4月創立、昭和38年3月

美術団体一覧(き・く・け・こ)

第1回展開催、本会は能面と能姿彫塑の制作研鑽に正確を期そうとする彫刻家の集まりである。昭和42年11月第5回展開催。

〔会員〕 本田正人、池田秀鳳、泉鶴寿斎、橋本良寿、為田哲園、中村三友、岩本慶治郎、藤井泰山、宮沢甲輔、北沢如意、長沢氏春、堀安右衛門、石倉耕春、福井定光、前喜最勝坊

(き)

京都金芸鋳会(工) 京都市北区等持院西町16 加藤宗巖方 電 075 (451) 5402 昭和26年5月創立。京都金芸作家の同志的集り。展覧会を鋳展という。昭和42年7月第14回展開催。

〔会員〕 浅井徳太郎、今大路長光、上田哲三、上田直和、大久保照湖、加藤宗巖、加藤秀雄、加藤忠雄、加茂雪峯、金谷五良三良、金江宗観、小林尚珉、小泉正弘、里村昌彦、広瀬兼広、野田喜市、村上直行、辻井健三、辻井賢二、富江宗八、富木章、倉賀野茂樹、田中秀明、山本英顕

京都伝統彫刻家協会(彫) 京都市下京区富小路松原上ル 吉岡宗雲方 電 075 (351) 6700 昭和23年11月創立。昭和40年9月金沢市に於て第1回展開催。

〔会員〕 友義康嗣、富田康夫、柿本常光、栢口隆運、吉岡宗雲、吉岡曉雲、吉岡定雲、高橋慶岳、谷口桂雲、田中文弥、中西祥雲、松長吾周、深田宗山、江里宗平、荒木啓運、佐野克州、佐川定慶

京都陶芸家クラブ(工) 京都市東山区五条橋東6-569 清水六兵衛方 電 075(561)0698 昭和23年2月創立。京都府在住の陶芸家及び陶芸会、白泥会、黏土の三陶芸団体が組織される。昭和24年から33年まで京都において10回、展覧会を開催。昭和30年から33年まで東京大丸において当クラブ黏土のみ4回展覧会を開催。昭和41年第18回展を三越本店にて開催。

〔会長〕 清水六兵衛〔副会長〕 森野嘉光〔総務〕 井上治男、新開寛山〔運営委員長〕 藤平伸〔会員〕 43名

露会(洋) 世田谷区祖師谷1-1031 梶田英一方 電 (300) 4920 昭和28年7月創立。昭和16年12月東京美術学校油画科卒業生の有志によるグループ。昭和38年6月第10回展開催。

〔会員〕 笠木実、梶田英一、黒沢梧朗、沢田正太郎、清宮賢文、田代利夫、田畔司朗、弦田英太郎、細小路真、柚木祥吉郎、吉原秀夫

(く)

具体美術協会 大阪市北区宗是町33 グタイピナコテカ内 電 (441) 1180 昭和29年7月、吉原治良を中心とする17名の美術家達によって結成。

〔会員〕 大原紀美子、白髪一雄、鷺見康夫、田井智、坪内晃幸、名坂有子、前川強、正延正俊、松谷武判、向井修二、村上三郎、元永定正、山崎つる子、吉田稔郎、吉原通雄、上前智祐、嶋本昭三、吉原治良、今井祝雄、今中クミ子、坂本昌也、名坂千吉郎、橋原通正、ヨシダ

・ミノル、小野田実、聴濤襄治、堀尾貞治、高崎元尚、河村貞之、松田豊、森内敬子

(け)

形象派美術協会(洋) 世田谷区廻沢町 660 安部堅方 電 (300) 3520 昭和28年1月創立。昭和28年5月第1回創設公募展を岐阜市公会堂にて開催、36年5月第9回公募展を銀座デパートにて開催37年4月、38年4月東京文化会館にて公募展開催。以降毎年公募展。

〔会員〕 福山進、中西良男、浅野英三、田辺繁雄、青野裕彦、中田早、鎌田知治、祖田功、近藤克己、渡辺勝海、高橋三郎、河合幸三、大関新意、谷口汎明、宮城照己、岡本功、棚橋明義、近藤功、京田寛、児玉保彦、小木英雄、中村隆、岡本格、田口貞好、高木喜夫、富田榮郎、安部堅、鈴木儀平、等 142 名

現代工芸美術家協会(工) 台東区東上野4-10-17 美工ビル5階 電 (841) 8314 昭和41年社団法人設立。昭和43年5月第7回日本現代工芸美術展開催。

〔理事〕 (会長) 山崎覚太郎 (副会長) 楠部弥次、清水六兵衛 (常務理事) 佐治正、帖佐美行、蓮田脩五郎、辻光典、高橋節郎、浅見隆三、岸田竹史、飯塚小軒斎、岸沢武雄、山本正年、宮下善孝、新開寛山、鈴木青々、吉賀大眉〔監事〕 三井安蘇夫、井上治男〔顧問〕 山鹿清華〔参与〕 山室百世以、山脇洋二、井上良斎、他19名〔評議員〕 青木滋芳、他40名〔会員〕 157名

現代美術家協会(展覧会名現展)(洋) 杉並区阿佐ヶ谷北2-31-1 佐藤亘宏方 電 (338) 3855 昭和23年11月、日本作家協会洋画部、現代美術作家協会、新生派美術家協会の3団体が合同して設立発足したものである。昭和35年デザイン部新設。昭和43年6月第24回現展開催。

〔会員〕 相沢謙一、池田貞夫、石原富美子、今井久司、今村邦男、上田研次郎、大野民雄、奥津博、奥山由治、尾崎菊信、柏木房太郎、加藤研二、北川友紀、川中卓美、倉田周一、後藤義雄、黒崎義介、黒田幹太郎、黒田寿雄、小谷忠芳、小谷津功、小松崎一男、小山重之、児玉光仙、今野照秋、斎藤朗彦、坂本憲、佐藤一二三、佐藤亘宏、神貞一、神馬守、吹田逸夫、鈴木重雄、関謙治、竹尾潮、竹田一夫、高橋英生、武井徳一、高橋成見、高久銀次郎、立原比呂雄、常松泰秀、照丘晃子、戸塚春男、徳沢隆枝、中川美智子、奈良義雄、難波田元、西元治、西村重次、野口満、野口和子、野田弘、原弘、橋本勝、原田雅光、蓮沼九、平田俊一、久富金之、藤田宗助、船橋公平、富士井盛文、古川梅、古野由男、堀弘尚、堀田高、増田陽一、松井正治、松崎順考、松下信之、三浦勝治、養島義一、村瀬卓郎、谷田孝三郎、山路光男、村上香、元山登夫、山本和子、吉田輝彦、吉武友樹、吉田隆、米田三男之介、義江清司、岩崎年勝、尾崎キクオ、小幡普士夫、黒田秀方、島春男、マヤ・ペデシン、三輪考一、宮地周、村瀬隆、森義孝、森山芦楠

(こ)

工彩会(工) 世田谷区祖師谷1-440 会田富雄方

電 (300) 3030 昭和17年研究団体として発足。新進作家を世に送り出しつつ工芸の社会的地位を明瞭にする。昭和24年第1回展を開く。昭和33年9月第9回展開催。その間地方において移動展を開催する。昭和41年第17回定期展を開催。33年3月大阪フェスティバルホールに総合工芸の「孔雀」、34年9月小倉市公民館に「交詢」の壁面装飾を完成。其後宝酒造、講談社、森永製菓、三共製菓、文芸春秋、東京放送等の壁面装飾、並に会長、会田富康が新宿田舎生命本社の大壁面を製作完成。

〔会員〕 飯塚小軒斎、土肥刀泉、富樫謙也、大坪重周、岡本輝子、山本曠、武田三千子、中島珠光、会田富康、木下純寛、三田村秀雄、平野利太郎、平田郷陽、宏きよ子、介川芳秀、中野馨一、市橋敏雄、山浦等、音丸藤、音丸淳、山崎一成、喜多村栄太郎、岡本久、岡本妙子、田中節子、小林牙子、寺尾敬子、山田朝春、酒井市三郎、青木竜山、植田和子、滝田朝江

向彫会(彫) 杉並区上高井戸3-749 日下寛治方電 (391) 0966 昭和36年創立。旧日本木彫会系の木彫家の集り。会員相互の親睦と信頼によって彫刻美術の研究を主とし文化の昂揚に寄与する目的をもつ。昭和43年6月第8回展開催。

〔会員〕 安藤玄三、大島駒蔵、大村露、日下寛治、佐々木大樹、佐々木日出男、中西弘馨、松原重正、三国慶一、山脇敏男

紅土会(洋) 新宿区上落合2-7-3 桜井慶治方電 (362) 5662 昭和22年8月創立。同年より毎年展覧会開催。昭和43年12月第22回展を開いた。

〔会員〕 桜井慶治、上島一司、武内和夫、野本正雄、海老沢巖夫、大道健治、篠田喜代志、森清治郎、橋本万寿子

行動美術協会(洋・彫) 大田区中馬込1-18-21 田中稔之方電 (772) 1478 昭和20年11月創立。昭和19年二科会は解散し、翌年8月終戦後二科会は再結成を図ったが、その際主張の異なる旧二科会々員の一部を中心として組織された。昭和43年9月第23回展開催。

〔会員〕 (絵画部) 榎倉省吾、福井勇、古家新、飯田清毅、柏原覚太郎、三芳悌吉、向井潤吉、村田實史雄、難波香久三、田中忠雄、高橋進、伊谷賢蔵、伊藤久三郎、小林武夫、小出卓二、西阪修、田川寛一、下高原竜己、田辺三重松、坪内節太郎、中右瑛、川原章二、高井寛二、佐藤真一、斎藤真成、田中勇次郎、河野通紀、高須国之、全和鳳、江見絹子、田中阿喜良、大谷久子、辻親造、辻好子、辻司、野尻弘、貝原六一、玉沢潤一、大森朔衛、深見隆、田中稔之、藤形一男、河端亮治、荒井秀宣、尾崎悌之助、下高原千歳、下高原進、平川勇、保地謙也、阿部平臣、稲葉桂、大場厚、松本宏、藤井多鶴子、北勝徳弘、森口宏一、小山内益郎、荒木由三、下高原伸輝、柘植太、原義行、西田秀雄、吉川家永、鬼頭正人、森真吾、田中徳喜、前川佳子、矢野喜久男、大門清次、儀間比呂志、三箇三郎、南和好、木村平、大熊峻、山森元竜 (彫塑部) 建畠寛造、中島快彦、向井良吉、

板谷慎、今村輝久、林是、小谷謙、篠井欽治、白井謙二郎、戸津侃、藤庭賢一、松岡卓、井上平八郎、尾川宏、佐藤允子、田中栄作、富樫実、橋本惣介、三林暢夫、宮永理吉、村井浩、村上泰造、塩見哲郎、富谷道信、小井戸信雄、橋本省、岩城信嘉、小門光男、中野蔭、西山三郎、高橋慎悟、増田正和、石井厚生、岸田克二、翁観二、辻弘、石黒錦二、小林陸一郎

光風会(洋・工) 港区西新橋1-4-12 光風会館内電 (591) 1732 責任者小寺健吉。明治45年創立。明治43年白馬会解散後、中沢弘光、山本森之助、三宅克己、杉浦非水、岡野栄、小林鐘吉、跡見泰の7人の発起で創立、第1回展を45年6月上野竹之台陳列館に開催した。官展系洋画家の団体、毎年春季公募展を開催、昭和43年4月第54回展を開いた。

〔会員〕 (絵画) 青井幸雄、安達真太郎、足立真一郎、足代義郎、有馬三斗枝、秋元松子、荒井邦朝、浅井光男、青山兵吉、秋吉匠、芦田芳男、天野丈作、荒川節、有元康道、井上武、伊藤応久、伊藤悌三、伊藤四郎、伊藤鎭一、岩船修三、飯田弥生、石橋武治、石河彦男、石野安親、岩本隆善、池田功、石川実、乾一雄、岩田順三、宇城辺時志、鶴飼幸雄、内山孝、宇野千里、上田祐司、梅林良子、江藤純平、海老沢巖夫、円地信二、岡田又三郎、小川博史、大沢海蔵、大原省三、大倉克次、大桃寛、大村浄一、緒方亮平、斧山万次郎、奥山堤、岡本由郎、岡崎勇次、尾崎侃、小田忠、大森栄八郎、太田美代子、加藤久幹、角卓、河井清一、上島一司、梶進、梶田英一、風野信雄、笠井忠郎、金子徳衛、金子仁三郎、兼行武四郎、川田茂、川端謙次、川村嘉久、梶悦次、金岩清隆、清原重以知、鬼頭鍋三郎、木村八郎、北浜淳、木村雅徹、木和村創爾郎、祇園卓志、菊地健蔵、岸本年晴、北川威夫、桐野江節雄、久山章、黒田頼綱、黒田久美子、熊沢欽三、熊野礼夫、樽松正利、小寺健吉、小林易夫、国領経郎、小泉政孝、小島清雄、小寺明子、小山宇司、小林藤四郎、阪倉宜暢、笹鹿彪、笹岡了一、桜井悦、桜井慶治、斎藤斎、坂田虎一、里見明正、佐川忠金、佐藤房子、西光寺享、斎藤俊夫、桜庭彦治、市ノ木慶治、新道繁、白石隆一、白川一郎、篠崎輝夫、島戸繁、神保和幸、庄司栄吉、篠田喜与忠、杉村惇、鈴木三五郎、相井春雄、末原晴人、進来哲、炭田幸一、妹尾寿信、千田徹夫、千名恒、泉田康治、反町博彦、田村一男、田中実一、田中実、高木春太郎、高宮一栄、高田正二郎、高橋道雄、高光一也、高倉一二、竹沢基、大道健治、大道武男、田中祐一、高谷重生、高橋規矩治郎、滝清、武内和夫、千原成一、中条茂、辻永、辻朗、辻村八五郎、津田克己、筒井博、坪内正、寺島竜一、寺坂公雄、土佐林豊夫、戸田定、鳥居昇、留岡彬、鳥屋尾孝吉、時田幸彦、土井六郎、遠山義晴、長原坦、中岡恒雄、中川義憲、永田精二、永瀬義郎、長坂春雄、長尾真佐栄、名渡山愛順、中島音次郎、中田幾久治、長峰勇、中島覚雄、新延輝雄、西尾善積、西尾毅、西山真一、西村憲定、西村俊郎、西村喜久子、西岡義一、西田

美術団体一覧(こ)

亨、西尾為一、布尾良策、塗師祥一郎、根津莊一、根本從之介、根岸秀雄、野平上、野本昌男、橋本正躬、早田嘉之、橋本百合子、長谷川進、花田忠吉、林泰二、日原晃、日野耕之祐、樋口善一、平野一男、広井邦一、久本弘一、藤彦衛門、藤本東一郎、藤井芳子、藤江理三郎、藤井軍三郎、藤原昇一、古屋浩蔵、福井重男、藤田孝也、藤原昭三、福谷光磨、星野正三、本多正勝、本間美智子、馬淵聖、牧野司郎、益山英吾、松尾正己、松浦莫章、松本正人、丸山豊一、増田英吉、万羽章、南政善、水上信雄、三宅次郎、御正伸、溝江勘二、宮崎進、村岡平蔵、武蔵原鏡二、武藤完一、村山俊夫、村田省蔵、森田元子、森田源一郎、森桂一、森新市、森清治郎、守屋千之、森勇、森正一、矢田清四郎、山尾平、山中清一郎、山下忠平、山口猛彦、山村孝太郎、山本彪一、山田新一、山名武、柳瀬俊雄、矢口洋、八木茂雄、矢野馨、山田茂人、山田きみ、山本仁朗、由里明、幸島重雄、米田重博、米本一郎、読谷山朝典、吉田光慶、吉田道良、吉田富美、渡辺武夫、和田香苗、和田清、渡辺一美、等283名

(工芸)

一噌元治、伊勢瑛子、飯田美郎、岩田久利、井田裕允、伊藤奎、石山恵美子、市川芳子、井伏圭介、岩坪さくら、海野建夫、遠藤光映、大久保婦久子、大樋年郎、大須賀選、小川欣二、大田博明、加藤庄造、加藤舜陶、金丸水明、川上正三郎、河合寿成、河本五郎、北原央、小森十九、佐野寛、加納真輝、勝和子、神成潔、松風栄一、城秀男、鈴木青々、諏訪修、関谷純代、竹内真三郎、武石勇、谷口良三、武内信弘、帖佐美行、辻光典、土屋吉平、寺本美茂、中田満雄、中村俊介、中村董一、中野馨一、夏井清、中村雅臣、西村英夫、西村純一、野口晴朗、浜達也、般若佑弘、原福生、林平八郎、原田清子、福原達朗、藤本肇、古畑省己智、堀友三郎、松岡武夫、三橋国民、皆川月華、宮之原謙、宮入製装雄、山形駒太郎、山鹿清華、山本正年、大和保男、山崎愛子、米沢久、鷺田うめゑ、等72名

光陽会(洋) 北区上中里1-2 多々羅義雄方 電(919) 5927 昭和29年2月創立。多々羅義雄、早川芳彦、井口勇らが創立委員となって結成し、民族性を生かした独自の芸術を創作することを目的とする。昭和43年6月第16回展開催。

〔会員〕 多々羅義雄、吉川俊久、鷺田新太、原田繁男、本間勝太郎、高山幸夫、池田英夫、木林良孝、河辺昌久、等93名

国画会(絵・版・工・写真・彫) 文京区目白台3-18-1 田宮進方 電(941) 5041 大正7年1月小野竹喬、土田麦櫻、村上華岳、野長瀬晩花、柳原紫峰の5名は国画創作協会を設立、爾来毎春東京及び京都で協会展を開催し、また入江波光はじめ数名の若い作家を同人に推挙したが、同15年梅原竜三郎、川島理一郎の両名を迎えて第2部を新設し、さらに富本憲吉、金子九平次を加えて彫刻及び工芸を同部に置いた。その後昭和3年7月

解散したが、第2部は存続して国画会と改称し、梅原竜三郎、川島理一郎、大橋幸吉、金子九平次、富本憲吉、山脇信徳の旧会員に新たに高村光太郎、椿貞雄、河野通勢の3名が参加し、翌4年「第4回国画会展」を公募の上開催した。第6回展に版画部新設、平塚運一が鑑査を担当した。10年梅原竜三郎及び富本憲吉は新帝院会員に任命され、同年6月川島理一郎は同会を脱退した。なお第14回展には写真部を新設し、鑑査には福原信三、野島康三の両名が当たった。同14年彫刻部は同会から結束離脱し、彫刻部は解消した。29年理事制を廃し委員制を設けた。同38年10月、去る36年2月の日本美術院彫塑部解散にともなって結成されたS・A・S(彫刻家集団)の全委員12名が合流して彫刻部とし新発足することになった。昭和43年4月第42回展開催。

〔名誉会員〕 梅原竜三郎(客員) 浜田庄司、青山義雄、柏木俊一、バーナード・リーチ

〔会員〕(絵画部) 青木達弥、東貞美、伊藤廉、伊藤弥太、池辺貞喜、遠藤末満、石原宏策、石井佐一、上原正三、宇治山哲平、内堀勉、大森啓助、大清水咲子、尾田竜、金子三蔵、喜多村知、木内広、国松登、熊谷九寿、久保守、庫田葵、小林邦、斎藤静輝、沢野岩太郎、里見勝蔵、渡川栄志、島内キミ、杉本健吉、杉本賢司、須田勉太、須田静、立石鉄臣、高松健太郎、土田文雄、中村博、長野静司、野田好子、原精一、橋本三郎、張替正次、平塚運一、日向裕、福留章太、藤本俊子、福井敬一、二見利節、細谷重雄、益田義信、真垣武勝、松木満史、松田正平、宮田重雄、三橋健、村上敏、宗像逸郎、山崎隆夫、養田つや子、和田忠志、鈴木正二、小館善四郎、上田清一、田中道久、北村綱義、音部幸司、本田克己、鎌田排捺子、岩尾秀樹、土田次枝、積田鏗土、渡辺貞一、尼川尚達、今関一馬、井上悟、井上善教、岩田和子、梅宮馨四郎、大歳克衛、大沼映夫、彼末宏、亀井貞雄、川村浩章、菊地辰幸、橋野富彦、小林敏夫、小牧源太郎、佐々木豊、島田章三、島田鮎子、重延理子、下淵冷泉子、菅野充造、高瀬捷三、高橋美則、田宮進、水野英夫、水上民平、宮芳平、宮本薫、宮田晨哉、森陶生、矢岡勲、吉田清志、渡辺一郎、平井一男、星守雄、宇田要之助、小泉富司、辻清子、蛸子喜悦、真野岩夫、野中進、大西博文、中島宣矩、大池宗作、山本万司、吉田勇、(版画部) 畦地梅太郎、稻垣知雄、伊藤勉、橋本興家、川上澄生、斎藤清、下沢木鉢郎、品川工、笹島喜平、関野準一郎、平塚運一、ブブノフ、前田政雄、益田義信、山口源、中川雄太郎、粟山茂、天野邦弘、熊谷吾良、佐藤宏、玉上恒夫、中尾義隆、星裏一、金守世士夫、日下賢二、はりかえしように、鈴木幹二、高木志朗、(写真部) 入江泰吉、川崎亀太郎、小菅成夫、木村伊兵衛、平松太郎、星多喜夫、中居正躬、西山清、錦古里孝治、北角玄三、長浜慶三、ハナヤ勘兵衛、吉川富三、内田美胤、竹見義雄、竹田正雄、清水武甲、島田貫一郎、三浦悠、木村昌斗志、橋本清一郎、仮谷六郎、島田謙介、田中幸太郎、(工芸部) 上田恒次、及川全三、

岡村吉右衛門、河井武一、河井博次、小島恵次郎、黒田辰秋、後藤清吉郎、佐久間藤太郎、芹沢銈介、外村吉之介、立花長子、滝田項一、船木研児、古沢万千子、三代沢本寿、柚木沙弥郎、柳悦孝、柳悦博、安川慶一、四本貴資、原田麻那、長沼孝一、中村操、原山雅子、喜多村作太郎、丸山太郎、大島郁、太田仔至子、武内晴二郎、板津夏子、前川典子、(彫刻部) 荒川明照、茂木敏夫、桜井祐一、新海竹蔵、鈴木実、関谷充、千野茂、塚田喜司郎、古島実、堀川恭、山本豊市、西田昌二、秋山進、小川清彦、柴田善二、染谷英五、川田清

国際美術家協会(工) 京都市下京区寺町長高辻上る 沢井一染方 電 075 (35) 5133 近畿地方の工芸美術を観光客を通じて紹介するために昭和33年5月に設立された。

同年6月開所展

〔理事〕 浅見隆三、河合卯之助、小泉秀雄、小林尚珉、久保金平、佐野猛夫、徳力富吉郎、皆川泰蔵、森野嘉光

〔専務理事〕 沢井一染、谷岡美雄、会員 138 名

国際具象作家協会(洋・彫) 横浜市中区西竹之丸12 寺田春式方 電(横浜64) 6531 フランス側事務所 33 Rue Charcot Paris 13e. Roger Montané 方 1956年6月国際交流の横の機関として創立された国際具象作家協会を1958年1月に国際具象派協会と改称したがイタリア作家の提携を得て再び1964年3月第5回展(朝日新聞社主催)を開いた。それを契機に展覧会は運営世話人として依頼されることになり、下記の諸氏が第6回展運営世話人となった。日本及び外国関係のコミテはイタリアを加え20氏となった。

(コミテ) Bardone(Guy), Savary(Rodert), Guerrier(Raymon), Minaux(André), Montañe(Roger), Sekiguchi(Shungo), Bruno(Saetti), 近岡善次郎、藤井令太郎、久保守、大久保泰、中間冊夫、竹谷富士雄、寺田春式、田中忠雄、矢橋六郎、中根寛、桜井祐一、淀井敏夫、1954年(昭和29年)在仏中交友のあった日・仏の作家評論家によって結成。各々の伝統を尊重しつつ、生活に基盤をもつレアリテュメンを造型表現に訴えようとするものだと声明している。

昭和39年3月第5回展開催。第6回展は主催者の都合により休止、この間フランス側委員に於て次回開催の方法等協議研究中。

国際工芸美術協会「J・A・C・C」(工) 北区田端町337 佐竹伊助方 昭和30年12月創立。伝統を生かしつつ世界的視野に立った新しい工芸の創造を目的とする。その目的達成のため、デザイン、技術の研究、日本工芸の海外進出及交流、工芸に関する印刷物の刊行、会員相互の扶助、親睦、内外諸官庁、商社との連携その他必要な事業を行なう。

〔理事長〕 中村光哉 〔理事〕 11名 〔会員〕 54名

国際美術協議会 港区芝白金台町1—55 国際文化振興会 電(441) 8106・8107 昭和32年8月創立。日本美

術の国際的交流及び発展、国際美術展への参加等に関し、国内関係諸機関の連絡を緊密にし、必要な審議を行なうとともに、右事項に関する政府の施策に協力するために設置する。

〔委員長〕 富永惣一 〔主務幹事〕 井上信 〔委員〕 外務省文化事業部第一課長・伊達邦義、文部省文化局文化課長・鹿海信也、文化財保護委員会事務局次長・西森馨、国立西洋美術館々長・富永惣一、国立近代美術館次長・河北倫明、日本美術家連盟・宮本三郎、益田義信、村井正誠、本郷新、和田新、美術評論家連盟・滝口修造、土方定一、嘉門安雄、国際文化振興会・米沢菊二

(さ)

朔日会(洋・彫) 台東区谷中2—3—9 羽藤馬佐夫方 電(821) 7785 昭和12年創立。昭和43年5月第37回展開催。

〔同人〕 羽藤馬佐夫、加藤正信、高木秀男、越次勇、新野一弘、白石延夫、後藤高司、徳本立憲、池淵知世、木島五郎、斎藤敬一、羽藤淑子、乙正敬一郎、秋元達生、小葉流水、長谷川隆、稲川一郎、西村半右衛門、荒井一男、新井保男、岩井滋郎、大津博、岡村昇、塩月倫、海川博一

〔会員〕 49名(準会員) 97名

サロン・ド・ジュワン(洋) 新宿区番町1 ローヤルマンション1004号 山下一郎方 電(356) 1018 昭和26年9月創立。昭和43年11月第25回展開催。

〔会員〕 渡辺敬寿、川口直司、米倉寿仁、横森以佐武、中島由多禾、辻葦夫、盛益子、森島澄子、小島冽、小林正治、小野洋、遠藤敏弥、山下一郎、平賀甲一、篠崎千、上田薫

三軌会(絵画・工芸・デザイン) 杉並区上荻窪1—13 互井方 電(391) 6465 昭和24年2月創立の水彩作家協会を30年1月三軌会と改名。昭和32年写真部解消、デザイン部新設。昭和35年工芸部創設。同43年3月第20回展開催。

〔委員〕(絵画部) 井川徳造、今井退蔵、古郷八郎、小林新吉、阪口幾生、坂梨心澄、佐藤幸、芹生芳郎、滝沢清、松本明也、森治三郎、森田一男、松岡隆一、林香代子、三保憲司、陶山侃、野島光洋、(工芸部) 大坪重周、河津直武、木下純寛、小林昇、清水喜美、下平律美、袖山栄太郎、高橋耕南、十束敏、手塚央、長嶋正親、林茂松、三須澄子、宮沢貞子、宮地房江、村田元、藪田信次、高山芳樹(デザイン部) 山内善之進、佐藤晃一、小原剛太郎、榎本常夫、杉浦隆、多田祐、細田守也

(し)

示現会(洋) 豊島区駒込1—124 示現会館内 電(941) 1676 昭和22年10月創立。昭和43年3月第21回展開催。

〔代表者〕 三上知治 〔事務責任者〕 奈良岡正夫

〔会員〕 青木純子、居関金一、江崎寛友、大内田茂士、大沼静巖、奥瀬英三、斎藤俊雄、佐々木真夫、田原

美術団体一覧(し)

輝、寺崎善次郎、内藤定昭、内藤秀因、中村勝美、中村新次郎、奈良岡正夫、橋原健三、能見三次、藤坂太郎、三上知治、三上浩、光安浩行、水戸敬之助、山田説義、山本吉雄、阿部広司、上橋薫、大坪実、京野一、桜井淑子、田中良尊、館野良行、所栄次、中川澄子、野生司行正、松本巖、山川浩、工藤靖彦、中沢志朗、長谷喜久一、松本重雄、等 121 名

四耕会(彫・工・写真) 京都市東山区高台寺樹屋町349 宇野三吾方 電 075 (561) 7697 昭和23年10月創立。彫刻・工芸・写真等の研究団体。毎年1回公募展開催。

〔会員〕 伊豆蔵寿郎、宇野三吾、岡本素六、大西金之助、加藤仁、沼田一三、雲雀民雄、藤田作、益田哲、渡辺好章、土本真澄、宇野瑞子、北出藤雄

朱泉会(綜) 名古屋市中区十六町1-72 後藤敬一郎方 電 名古屋 (841) 7111 昭和28年10月創立。名古屋在住の種々の美術分野に属する作家たちによって結成。表現手段の違うそれぞれの作品や月例会によって横の交流をはかり、作家は互いの重要な意義を見出している。創立以来、毎年1回名古屋で、更に昭和33年より東京で展覧会を開く。昭和41年5月第14回名古屋展・11月第8回東京展開催。

〔会員〕 石黒二郎(油絵)、真島健三(油絵)、野水信(彫刻)、萩原冬昶(墨象)、後藤敬一郎(写真)

主体美術協会(洋) 新宿区戸塚町3-866 大村連方 電 (361) 7869 昭和39年9月創立。昭和43年6月第4回展開催。

〔会員〕 赤塚徹、荒木道夫、井沢元一、石川歌子、磯村敏之、稲葉実、岩織治、井上俊郎、上野実、植田寛治、尾内健治、大野五郎、大村連、奥井章夫、奥富修、小野絵麻、賀川孝、加藤一、川合喜二郎、亀山良雄、菊地長市、城所昌夫、木村栄治、倉石隆、紺野修司、小菅徳二、小谷博真、小谷良徳、小林良曹、金野宏治、佐藤吉彦、塩水流功、島田由紀子、末松正樹、鈴木国稔、関清明、関戸伸、瀬高政良、田中朝吉、田中淳、塚谷政義、司修、手塚益雄、寺田政明、土井栄、渡カ敷唯信、戸律勇作、豊田一男、中島保彦、中野淳、中村輝行、奈良清四郎、西良三郎、西村保史郎、西山松久、根岸正、橋本章、羽原智達、浜哲郎、浜田方一、秀島任、平野遼、深見公道、古木茂雄、古山保子、細井憲摩、堀内菊二、前川博人、松井豊、前田孝造、松本忠義、宮崎照雄、森芳雄、森川ユキ江、森田六男、森秀男、矢野利隆、八銀四郎、柳沢安雄、八橋誠滋、山田光春、山本新蔵、吉井忠、吉江新二、与志崎朝、脇坂憲治

J・A・N(洋・写) 〔青年美術家集団〕 三鷹市牟礼4-13-5 武藤久方 電 (0422) 46401 昭和10年創立。昭和43年第37回展開催。

〔会員〕 藤井令太郎、福井敬一、五味秀夫、浜谷次郎、今関一馬、井上孟、南桂子、武藤久、村瀬静孝、村松祐夫、中村道、斎藤正夫、笹岡了一、塩出千鶴子、横地康国、辻正男、広瀬通秀、鎌田和子、松島治基、佐々木進吉、清水康雄、賀川忠、坪井鼎、星俊六、三浦哲

生、入江観

十一会(洋) 練馬区大泉学園町 643 木下幹一方 電 (922) 8146 昭和33年4月創立。創元会を退会した小野彦三郎、木下幹一、山野正、松崎利行に旧東光会々員関口茂、橋尾常次、国画会より清水光子、新日展木下繁、山脇正邦8名により結成。その後会員の移動があった。昭和43年8月第10回展開催。

〔会員〕 軽部興、菅野功、木下幹一、島あふひ、関口茂、中谷ミユキ、橋尾常次、松永和夫、柳田久、山野正、丸木俊

自由美術協会(洋・彫・版) 板橋区向原町2-12-10 井上長三郎 電 (956) 6521 昭和11年7月創立。昭和12年第1回展を開催。戦時中昭和16年第5回展より美術創作家協会と改称したが昭和21年第9回展(大阪)より旧称に復活、昭和43年10月第32回展開催。

〔会員〕(絵画部) 青木健真、青木正春、青山嘉靖、浅野孝、穴見清、板津包信、一本平蔵、市村力、伊藤朝彦、伊藤和子、井上長三郎、井上照子、井上美彦、磯野新次郎、石井久子、池田一末、池田太一、池内茂吉、市川秀光、上野省策、上原二郎、内田耕、浦久保義信、鶴飼充男、栄永大治良、江見崇、大成節子、岡本実、小作青史、乙葉統、小貫政之助、小野州一、小俣球、大成颯吉、柿手春三、川上茂昭、川上十郎、加古松雄、神田千里、久保愛子、熊谷明広、幸丸辰門、小山寿夫、児玉晃、近藤照倫、サイトー・トシオ、境野一之、佐々木正芳、佐藤弘、佐藤昭平、坂口清一、沢田俊一、沢田哲郎、佐藤孝、清水七太郎、正田徹、杉原清司、鈴木福男、関正和、関房江、高原栄人、谷本重義、田原史、団勇、田賀亮三、高木勲、千原三郎、鶴岡政男、東宮不二夫、富田卓司、富山妙子、豊島綱明、土器屋杏子、永田力、長野誠之助、中沢洋一、中西康郎、中山一郎、奈良桂、南園義博、西さだ子、西井義晃、西八郎、西垣清、西中博、にしおか・ひろし、灰谷正夫、林田セツ子、はらだ・はじむ、浜松一誓、比田井仁史、久田弘、平沢熊一、広瀬一二、藤沢喬、藤沢匠、藤井喜久雄、本田洋子、古田千鶴子、福寿一三、松野庸子、万城信郎、丸山武男、峰村リツ子、森川信素、森田亘、森本仁平、八幡健二、山下弘喜、脇正人、山田千秋、吉見敏治、三田耕之、三好ユキ子、溝田コトエ、大久保四郎太、細口俊一、浜田弘康、浜田紀子、山本鉄男、伏木澄夫、毛内義衛、赤木幸輝、伊藤博、石川嘉一、宇都宮マリ、梅原暉、江原和足、大野修、大沢啓三、尾方利男、尾崎正義、岡島弘国、川村晃夫、河合良浩、金子寛、金坂朝臣、片伯部勝三郎、久保吉治、倉智憲夫、佐々木美枝子、鈴木慶夫、田守正道、大門清広、大和良軸、山信田稔、渡辺修、横尾茂、中村春来、新美孝、調惣男、野沢もも子、長谷川匠、長谷部昇、彦坂浅男、藤波ちげん、増田暢士、安藤勲、白水興承、文挾克明、牧野重信、(彫刻部) 赤荻賢司、安藤士、池田宗弘、伊藤釣、井上信道、板津邦夫、大村清隆、垣内治雄、佐野文夫、鈴木徹、高野寛、田島義朗、千葉精一、富樫一、中島一雄、

中谷唯一、西谷富士雄、新田実、松本光司、峯孝、安丸行、吉村主税、米坂ヒデノリ、北村隆博、島田忠恵

集団・版(版) 杉並区井草1-34-5 穂積肇方 電(390) 7397 昭和34年夏、日本版画家、日本版画家協会に属さない作家たちの研究と発表機関として結成。8月第1回展。

〔会員〕 青木マサオ、稲田利行、風間照一、桜井幸子、すずき・けんじ、高橋経一、富張宏司、鳥居明美、浜本昌宏、比嘉良治、福田利秋、福室利一、穂積肇、松田ハルミ、森村惟一、松下芳太郎、稲田三郎、栗原一枝、深沢史朗、小口益一、秋山静、大勝恵一郎

出版美術家連盟 新宿区下落合2-586 岩田専太郎 電(951) 0734 昭和25年10月創立。戦前の日本挿絵協会を戦後改称したもの。年1回出版美術祭を行う。

〔会員〕 岩田専太郎〔理事長〕 鴨下晃湖〔事務局長〕 西原比呂志

朱葉会(洋) 北区上中里1-20-10 真砂澄子 電(910) 8645 大正7年創立。女流画家の団体。昭和43年6月第48回展開催。

〔会員〕 真砂澄子、友田みね子、吉田ふじを、山田文子、大久保為世子、岩村芳子、田栗テル、石川よし子、清水信子、梅川慶子、重松京子、河崎千代子、村田米子、安田和子、奥田八重子、等45名

春陽会(洋・版) 武蔵野市西久保3-9-13 志村一男 電(0422) ⑤ 3616 大正9年秋日本美術院洋画部を脱退した小杉未醒、山本鼎、倉田白洋、森田恒友、長谷川昇、足立源一郎の6名は同11年1月、新婦朝の梅原竜三郎を加え、更に8名の客員を迎えて同会を創立。「春陽会は従来屢々見たる如き既成会への社会的対抗として興らず、単なる芸術家の心を以て因縁相熟したるものです」と声明した。翌年5月上野竹之台陳列館に第1回展を開き、爾後毎年春期に公募展を開催し、また東京開催後大阪、名古屋等に地方展を催している。昭和26年から36年迄舞台美術部を設けた。昭和43年4月第45回展開催。なお春陽会研究所は昭和44年開催、現在に及んでいる。

〔会員〕 (油絵) 石井鶴三、石井光楓、伊藤慶之助、岩田栄之助、伊川鷹治、今竹七郎、岩崎又二郎、伊藤善、原田武男、原田平治郎、林俊行、本荘起、豊泉恵三、友田みね子、岡鹿之助、鬼塚金華、小栗哲郎、大沢鉦一郎、小川マリ、大嶺政寛、小川緑、加山四郎、川端弥之助、加賀孝一郎、川隅路之助、川上尉平、川島昇太郎、加藤秀夫、横堀角次郎、吉田達磨、高田力蔵、高橋辰雄、田中寿太郎、田川勤次、田辺謙輔、田中岑、土屋義郎、中川一政、南城一夫、中谷泰、中村徳三郎、村山密、上野春香、上原欽二、魚津良吉、野村千春、倉田三郎、山川清、藤野竜、藤井令太郎、小泉倫之助、遠藤典太、足立源一郎、秋口保波、荒木市三、佐藤篤郎、佐藤昌胤、水谷清、三雲祥之助、南大路一、宮田武彦、宮脇晴、三井永一、志村一男、角南松生、木本晴三、笠木実、小柳秀太郎、中山爾郎、高木勇次、関四郎五郎、市

川晃、五味秀夫、大嶺政敏、井上重生、杏掛利通、田畔司朗、西尾節子、宮城音蔵、出岡実、越智雄二、木下公男、関頼武、徳田信保、松村禎夫、安喰虎雄、池内登、石川武彦、今関人、大庭勝郎、広野殷生、前田舜敏、松島治基、三根孝子、横尾丈夫、横山了平、吉江麗子、入江観、田代利夫、曾根徹、加藤助八、平田峻三、石田正典、小坂茂、四方れい、玉那覇正吉、保坂良平、宗久恭子、津谷鹿市、(客員) アントニオ・レイモンド(版画) 石井鶴三、長谷川潔、前田藤四郎、古川竜生、駒井哲郎、北岡文雄、清宮賢文、幸田美恵子、武田健夫、野村候三、三井永一、木村晃郎、深沢幸雄

女流画家協会(洋) 港区南青山5-12-28 岡田節子 電(400) 5725 昭和21年11月創立。女流画家相互の研究と新人の登竜門として展覧会を開催する。昭和43年6月第22回展開催。〔会員〕 168名

新槐樹社(洋・彫) 武蔵野市御殿山2-4-3 堀田清治 電(0422) ④ 6706 昭和33年3月結成。6月第1回展、昭和43年2月第12回展開催。

〔委員〕 (絵画部) 明石真三、飯田勇、石井敏、石川久三郎、石原益夫、伊藤豊成、牛尾忠夫、氏家次郎、上島竜、小原信夫、岡野正樹、金井美寧、日下泰輔、黒田保、小島富子、小林数寛、佐野寿、高橋信治、丹野良輔、千木良富士、鶴見守雄、豊田寿久、永瀬てる子、中村春野、沼田稔男、萩原城舟、羽田野保次、浜口虎、早川義孝、林富太郎、福岡芳忠、福島雅弥、堀田清治、堀川素弘、増田大罌、松村健三郎、三木参郎、望月利八、森本宏、安枝達雄、吉田博、吉野不二太郎 (彫塑部) 潮田皓哉、岡正敏、亀貝保、山脇正司、横田七郎

〔会員〕 (絵画部) 119名 (彫塑部) 4名

新協美術会(洋・彫・工・写) 台東区浅草3-26-4 田代光方 電(874) 3057 昭和32年11月創立。在野美術団体。昭和32年11月創立展を開催。以後年1回公募展を行う。昭和43年3月第11回開催。

〔委員〕 青山裏、伊藤大八、上杉一盛、薄井清明、江口まひろ、大垣泰次郎、大塚敏雄、岡内義文、片山茂樹、川田達徳、木原寿夫、河野重軌、細井繁誠、河野浩、河野重軌、三谷長博、宮沢迪子、宮武光、福井芳郎、福田光修、佐藤昭、太賀正、關山省兵、西沢栄一、西原比呂志、西村義富、佐々木利栄、田沢八甲、田代三善、田代光、竹内栄三郎、千代忠、富家貞男、中村秀之介、長井恵之、西岡茂八郎、横山義雄、和田平三郎

〔会員〕 (絵画・彫刻部) 会員、会友を含め 153名

新工人会(工) 品川区東大井3-18-18 三上修一郎 電(761) 9435 昭和26年12月創立。若い工芸家の新作発表機関。

〔会員〕 松浦彌、辻清明、近藤実、近藤昭作、江頭源一、古田重郎、三上修一郎、増田武夫、坂田種男、山岸征史、矢村仁四郎、安田与佐

新構造社(綜) 目黒区下目黒5-5-13 本目勇市 電(713) 4991 昭和10年6月構造社有志幹事会は絵画部の解消を決議したが、同部は翌月構造社総会を招集、

美術団体一覧(し)

絵画部の存続を決議し、同11年第9回構造社絵画展を公募の上開催した。11年7月彫塑団体17会の加盟により名を新構造社と改称、更に工芸部を新設した。昭和24年から太平洋画会、新構造社、朱葉会、創造美術会の団体による自主連立展を開催し、3回展を了えて太平洋画会が退会、3団体による連立展を運営したが昭和36年創造美術会が退会、昭和38年連立展という名称を廃止、毎年2団体による展覧会開催。昭和43年6月第40回新構造社展開催。

〔会員〕(絵画) 黒川五郎、川田恒之輔、馬上幸男、迎豊作、西田範子、折田智、戸次義人、武藤弘之、坂本台、古川泰司、仲野達三、西野和治、小川阿屋子、安久一郎、秋山静、平松欽一、江上清、松田静男、山崎実、竹内博州、村岡清、新井時厚、本目勇市、市川兼治、何徳来、清浦正風、楠本繁、北沢博生、小祝嘉一郎、斎藤六郎、岡本萃伯、岡義長、中川安一、南部一信、難波魁、小田福丸、島太郎、三枝惣太郎、寺中靖直、徳山巍、多比羅栄一、山本好信、福崎精哉、内山慶、北沢定一、宮村泰彦、高野直一、石田正義、羽山登、難賀紀光、福地良太郎、松井正吉、隅井竹一、風間照一、松岡彰、白木建男、岡崎利雄、北沢猛郎、関谷一夫、松本貞子、野田通則、的場二三男、岸宏士、松野俊雄、清水惟司、林清、宮沢順子 (彫刻) 原比呂美、小塚博、恩田忠一、寺畑助之、山名常人、友沢正彦、林双吉、池田長巳 (写真) 天野光章、高橋政祖、関岳、荒井義之、相場勝彦、三条健久、服部守男、多比羅亀三郎、立花浩二

新興美術院(日) 世田谷区玉川瀬田町944 電(702) 7006 昭和12年9月日本美術院を脱退した元院友12名を以て結成、戦争中一時中絶していたが昭和25年旧新興美術同人6名に他2名を加え再興新興美術院として発足、毎年春秋2回展覧会を開催。昭和30年社団法人となる。昭和43年6月第18回展を開催。

〔会員〕 茂木杉風、小林果居人、鬼原素俊、芝垣興生、高島祥光、岡田練石、箱山精一、谷口正春、大路孫三郎、根本正、上地瑛一郎、大山魯牛、大川一男、中西一路、渡辺玉花、野田松岳、松本涼草、恩田耕作、上条静光、鈴木草牛、山本貞雄、野口広文、斎藤二良、戸時最光、朝木良之介、井上利子、小野一郎、小林恒吉、佐藤恵一、鈴木大華、仲孝幸、南部白光、日高政広、平野三代喜、広本進、深沢泉子、船田玉樹、満田天民、三好光志、三輪高英、諸橋英正、田坂繁光、御田勝平、吉田鉄之助、平田春朝、鈴木春栄、金子八畝

新樹会(洋・彫・版) 中野区上鷺ノ宮2-2-16 三岸黄太 電(990) 6160 昭和22年3月創立。昭和43年8月第22回展開催。

〔会員〕 朝井閑右衛門、大久保泰、岡田又三郎、片岡球子、島村三七雄、仲田好江、浜口陽三、三岸黄太、南政善、木内克、桜井祐一、清水多嘉示、千野茂、山本豊市

新匠会(工) 京都市左京区南禅寺草川町60 伊砂利彦

方 電(075) ⑦ 5322 昭和22年新匠工芸会として第1回展を開催。昭和26年第5回展より新匠会と改め、昭和27年在野団体として新発足。

〔会員〕(陶) 福田力三郎、徳力孫三郎、徳力牧之助、山田岳、安田茂郎、加藤賢司、竹内彰、坪井明日香、牧勇吉、小山喜平、近藤豊、近藤潤、東憲、(染) 河合隆三、暮田延美、伊砂利彦、伊砂久二雄、西尾篤子、堀飛火野、高井貞子、楠野すみ、安原博三、小溝一夫、広重明、北川有三、(漆) 山永光甫、冬木偉沙夫、(金) 鹿島一谷、関谷四郎、(木) 林二郎

新象作家博覧会(洋) 世田谷区松原1-32-19 山下治 方 電(321) 7884 昭和33年1月創立。美術文化協会を脱退した会員を中心に広く優秀な作家の参加をもとめ、自由な芸術活動を理想とする団体として発足した。昭和43年6月第11回新象展開催。

〔会員〕 内田慎蔵、井上市三郎、浅井昭、池原正男、大口登、太田一男、安藤憲三、金子滋、賀茂牛之輔、熊谷文利、佐伯和美、千葉健作、土井俊生、萩原、浜口富治、庭田定男、横山重生、吉川三伸、吉加江京司、海老原肖像、宮崎万平、山下治、等83名

森々会(日) 杉並区阿佐ヶ谷北2-26-6 川崎小虎 方 電(338) 1077 昭和25年4月川崎小虎塾有志により結成。

〔顧問〕 川崎小虎、東山魁夷 〔会員〕 石曾根貞亀、石田重子、太田歳、奥山芳泉、小倉芳司、小沢春子、川崎鈴彦、川崎春彦、永山十志夫、奈良裕功、小関きみ子、佐藤永芳、大島秀信、石倉正富、斎藤俊雄、湊忠一

新世紀美術協会(洋) 新宿区中井2-19-3 刑部人 電(951) 4103 昭和30年4月創立。無所属、芸術院会員中の和田三造、川島理一郎、大久保作次郎を名誉会員として迎え、旺玄会離脱の大久保作次郎、吉村芳松、柚木久太等の日展系の団体。昭和30年7月日本橋高島屋において創立記念会員展を開催。43年2月第13回公募展開催。

〔名誉会員〕 川島理一郎 〔会員〕 荒木隠雄、藤川光次、刑部人、草光信成、池上浩、東海林広、栢森義、別府貫一郎、柚木久太、大島士一、等185名

新制作協会(日・洋・彫・建) 港区芝西久保明舟町12 第2天徳ビル10階 電(501) 9041 昭和11年7月、第二部会が文展に参加するに及び猪熊弦一郎、内田巖、佐藤敬、中西利雄、小磯良平、三田康の6名は同会を離脱、脇田和、伊勢正義、鈴木誠の3名とともに新制作派協会を設立、同14年7月国画会の彫刻部を脱退した本郷新、佐藤忠良、山内壮夫、柳原義達、吉田芳夫、舟越保武、明田川孝によって彫刻部を設けた。同24年には建築部を新設、26年には日本画在野団体創造美術と合流し新に日本画部を設け新制作協会と改称した。展覧会回数は従来の回数を追うことになった。昭和43年9月第32回展開催。

〔会員〕(油絵部) 飯田四郎、伊藤維郎、猪熊弦一郎、石川滋彦、伊藤正義、糸田芳雄、服部和益、西田勝、西

村元三朗、富岡惣一郎、荻太郎、荻須高德、太田忠、大國章夫、大住閑子、岡田正二、小関利雄、脇田和、若松光一郎、渡辺恂三、加藤金一郎、角浩、風間完、鎌田正蔵、竹谷富士雄、田中修、田淵安一、玉置正敏、中尾進、中島節子、行木正義、村尾絢子、内田武夫、桑田道夫、丸山正三、松田襄、深尾庄介、福島誠、小磯良平、小松益喜、合田小三郎、赤穴宏、網谷義郎、安保健二、坂井範一、佐藤敬、三田康、山東洋、三岸節子、宮脇公実、関口俊吾、瀬島好正、鈴木誠、鈴木新夫、石阪春生、小林義範、田沢茂、鶴見雅見、寺戸恒春、丹羽和子、(日本画部) 石本正、西村昭二郎、堀文子、太田正弘、奥村厚一、小野具定、渡辺学、加山又造、吉岡堅二、竹山博、向井久万、鳥頭尾精、上原卓、上村松篁、上野泰郎、野崎貢、大河内正夫、工藤甲人、山本丘人、福田豊四郎、近藤弘明、朝倉摂、麻田鷹司、秋野不矩、沢宏毅、菊池隆志、信太金昌、広田多津、稗田一穂、平川敏夫、毛利武彦、菊地養之助、黒沢吉蔵、(彫刻部) 伊藤傀、伊藤礼太郎、岩野勇三、五十嵐芳三、石湯清四郎、一色邦彦、早川麗一郎、浜岡登美子、西常雄、細川宗英、本田明二、本間紀男、本郷新、豊福知徳、富松孝佑、大國丈夫、岡本庄三、小田襄、加藤昭男、掛井五郎、吉田芳夫、吉田大象、田畑一作、田村楽造、高田博厚、竹田京一、土谷武、武次郎、中井延也、村田勝四郎、郡司和男、山泉寿夫、山内壮夫、山本常一、山本恪二、舟越保武、小坂圭二、阿部米蔵、芥川永、佐藤忠良、寒川典美、菊池一雄、城田孝一郎、篠崎明雄、菅原安男、澄川喜一、柳原義達、高橋清、(建築部) 池辺陽、岡田哲郎、川島甲士、谷口吉郎、山口文象、松村勝男、剣持勇、小林保治、白石勝彦、海老原一郎

新美術協会(日・彫) 兵庫県芦屋市西芦屋町41 山田皓斎方 電 0797 (2) 4529 東京事務所 文京区大塚 3-8-7 飯田一穂方 電 (941) 7781 昭和29年3月創立。「各自が自由な立場にあって新しい絵画、彫刻を創造する」主旨の集団。年1回公募展、随時会員展を行なう。昭和43年6月第15回公募展開催。(都美術館)

〔会員〕(絵画) 淵上晃成、長谷川保枝、石井馨、前田晃邦、諸永青晃、大橋良三、大泉以更、田所量司、立脇泰山、安川日露四、山田皓斎、小野信、館花修、平口平、田中竜児、高増徑草、金泰伸、山田都基、吉見英、石川主計、石橋同、西浦旭展、佐田雲峰、石永皓一郎、大槻四郎、中村仁美、土肥武雄、荒木賢治、(彫刻) 伊東種、松本雅山、奥田勝、松本哲

(す)

水彩連盟(水) 浦和市領家7-22-3 田中実方 電 (0488) ㊟ 2303 昭和15年5月創立。昭和43年3月第27回展開催。

〔会員〕青野馬左奈、新井邦雄、荒川三郎、荒木省三、荒谷直之介、安野光雄、今井英光、五十嵐二郎、五十嵐光昭、池田正司、生田正雄、石山庄一、市川勇、今泉利一、岩田知治、上尾忠生、上田哲農、内山市郎、大井田幸男、大川原興司、大久保三一、大塚国正、小泉喜

代治、小木曾雅子、小野川幹雄、春日部たすく、春日部智恵子、加藤藤次、川越弥録、川村良紀、菊池豊、朽木育三、清田内匠、久保田益弘、栗林忠男、黒沢真頼、黒倉正雄、小林康美、小堀進、サイタ享、酒泉淳、阪本勝則、柴田俊、柴田祐作、柴原雪、鈴木信男、左右木愛弼、高須敬司、田上博茂、田中君江、田中実、田辺伝、竹中正一、谷口依子、辻正人、坪谷義人、寺居健一、寺沢良元、戸田健夫、鞆谷繁夫、直木昭、永井保、長沢節、中原保治、中安徹、難波栄子、仁戸田秀吉、橋本照、端名清、服部怜子、林健治、伴敏子、東平哲弥、広瀬修、比嘉良治、福井勝重、藤川九郎、富士本昇、古川弘、前田正夫、牧原万之助、益子洋、光岡始、増永直樹、三橋兄弟治、三橋英子、宮本正義、武藤信義、宗次秀男、森治郎、森相夷、茂木直治、山倉克巳、渡辺真一、渡部百合子、(スタイル画部) 明石まきひこ、浅賀政男、石原幸夫、亀谷三良、河原淳、北村一夫、久保道代、小泉寛明、小林久三、佐久良敏敏、新町真策、高木弓、丹野最世子、長沢節、成田幸比路、原雅夫、花井幸子、穂積和夫、星信郎、山崎高、渡部明美

(せ)

青桂会(日) 神奈川県逗子市山野根 423 中村岳陵方 電(逗子) 2379 昭和32年創立。中村岳陵の蒼野社塾員中、日展審査員、同出品依頼者、特選受賞者と、それに準ずる作家数名を加えた塾員団体。昭和32年7月第1回展開催。

〔会員〕鈴木竹柏、野島青茲、中野蒼穹、望月定夫、倉光博、尾山巖、菖蒲大悦、丸山石根、渋谷江津、東照光、堀史明、関主税、成田陽、沢田実

青陶会(陶) 京都市東山区渋谷通東大路西入新シ町 369 岡本和郎 電 075 (561) 4738 昭和27年6月創立。楠部弥式を中心とする陶芸研究団体。昭和41年4月第13回展開催。〔会員〕24名。

ZEROの会(彫・絵・文学評論) 京都市北区大宮玄塚北町8(土橋方)関根勢之助方 昭和35年1月創立。作品制作に関する研究団体を本旨とする。毎年1回ZEROの会展を開催。

〔会員〕(絵画) 森本岩雄、藤波晃、国又宏、関根勢之助、(彫刻) 上田弘明、三宅五穂、宮永理吉、井上平八郎、(文学評論) 津山昌、土肥美夫、丹治恒次郎

繊維デザイン創作集団(工) 杉並区和田本町1-49-8 女子美大デザイン研究室内 電 (382) 2271-7 昭和30年4月創立。繊維デザイナーの創作団体として結成された。

〔教授〕新井泉、松井汲夫、〔助教授〕渡辺万治、藤田栄一

前衛美術会(絵・彫) 北区赤羽町1-261 尾藤豊方 電 (902) 3427 昭和22年5月創立。戦後、美術文化協会より分れ、近代美術の批評的摂取と美術の基盤を大衆を通じてくみとる趣旨で会を結成。爾後昭和28年、当時の社会的状況を反映して“ニッポンを新しい美術創造の課題として捉える”べく《課題ニッポン》を開催、7回を

美術団体一覧(そ・た)

重なる。この道程で漸次芸術の自律性とアバンギャルド運動体としての個有の表現への要求が結集し“素朴リアリズムとモダニズムの方法主義と対決し表現主義者としての芸術の論理と精神を統一的に捉える”ことをテーゼとして、昭和35年より前衛展を開催して現在に至る。昭和38年6月第16回前衛美術会展開催。昭和39年6月、アンデパンダン64展に参加。昭和42年7月「東京芸術会議展」開催。

〔会員〕 浅香公紀、石橋親人、板橋繁男、井手則雄、入江比呂、植竹邦良、岡美行、岡本正教、小粥智夫、大塚睦、大田昇、奥田善己、齋藤昌弥、片寄みつぐ、近藤文雄、齋藤国雄、齋藤康子、齋藤タロミ、齋藤晃司、杉本真理子、鈴木慶則、頭川政治、高山良策、高山晃、永岡博、長尾祥子、中村宏、中山全夫、関口礼子、晴山英、原右門、尾藤豊、星野勝成、前田杜士、宮城泰介、山下宏、山田宏修、山下菊二、山浦宏、吉野富美子、新居田郁夫、白髪三郎

(そ)

草炎会(洋) 世田谷区祖師谷2-1139 永見譲治方 電 (482) 7048 昭和34年4月創立。新しい時点に立つてのリアリズムのあり方を探求せんとするものの集りである。昭和42年11月第7回展開催。その間春季小品展3回開催。

〔会員〕 伊藤仁、伊吹英次、大月源二、尾崎房、小出峯雄、小室寛、金野新一、須山計一、永見潔、永井譲治、成川虎一、古沢潤、星岳沢子、箕田源二郎

創型会(彫) 豊島区要町1-60 村井辰夫方 電(955) 0391 九元社の会員有志により結成、昭和26年10月創立。昭和43年6月第17回展開催。

〔同人〕 森大造、中野四郎、村井辰夫、奥山泰堂、法元六郎、金城真輔、爽紹世、尾崎一章、長谷川宏、紺谷英儀、三木貞夫、翁朝益、中森泰吉、中森五三九、花田一男、入江勇、木村博昌、金野照夫、塩原康正、神保豊、齋藤馨、他会員41名

創元会(洋) 中野区江古田1-36-10 深谷徹方 電(952) 0092 昭和16年3月創立。昭和42年4月26回展開催。

〔委員〕 田中繁吉、橋本花子、樋口一郎、広本秀与丸、小泉繁、井上自助、柏木治子、戸谷賀一、戸田郁郎、倉員辰雄、吉田民尚、深谷徹、金子千恵子、樋口治平、三島利正、石塚三郎、井上和、鱒竜之助、宮下広吉、豊千里、氏家秀之進、鈴木千久馬、長谷川竜甫、高島常雄、川口雄男、坂本幹男、安藤信哉、糟谷実、塚本張夫、塩見俊治、荒明実、出口竜一、長谷川政子、三好準治、安武芳男

〔会員〕 197名

創作画人協会(日・洋) 茨城県北相馬郡取手町井野台除ヶ戸 田中路口方 電 (029772) 0563 昭和43年1月創立。43年6月創立第1回展開催。

〔会員〕 芦川武蔵、安孫子荻声、阿部ケイ、新井豊、伊藤敏博、岩田弥光、宇佐見省吾、遠藤一文、大知経之、岡本唐貴、木間明、帰山阡蒼、楠田喜代子、倉島丹

浪、齋藤正夫、清水詢平、菅原洸人、高野照汪、田中路人、中川とも、蜂巣丈平、浜崎左髪子、広田稔、松原鉄之、丸木俊、丸木位里、村上大魯、森林丘、山上嘉吉

創造美術会(洋・日・彫・染) 東京都世田谷区太子堂4-2-2 川村卓方 電 (411) 0572 昭和22年8月創立。同43年第21回記念展開催。

〔会員〕(絵画部) 朝海早苗、石野正太郎、板谷松男、石川健治、岩淵健彦、小笠原久松、大宮弘、小田三郎、岡本操、金沢俊夫、加藤祭一、河合弥、河田邦彦、川村卓、神谷万吉、菊地政時、小島良三、坂口辰己、下田範次、塩沢孔六、白倉芳行、鈴木伴造、高橋章介、土橋義延、手操宗義、成瀬憲、中野敏、野上祇磨、福勢喜一、細田喜道、門口文雄、安部信雄、岩間武平、池田秋青、伊久留朱明、水足対雲、川辺忠孝、菅野剛吉、菊地友一、小柳創生、長嶋北彩、沼井肇、蛭川秀華、野村政良、平田晴耕、藤原茂富、牧野竜山、大宰知恵子、窪田香丘、辻もと以、津田耕村、手束富美子、林一羅、白倉静子、水谷美和子、石崎松寿、佐々木勲、佐々木長治、笹沼恭欣、園明耕、辻内利春、堀内キミ子、大越松司、尾賀隆雄、小崎智、紺野光男、柴田幸彦、迫田潤一、野口実、松本一、三引良一、宮島昌夫、三塩雅博、森脇栄山元勝雄、等102名、(彫刻部) 有栖川典秀、沖田譲二、岸田陸象。

創造美術協会(洋・日・彫) 岸和田市魚屋町56 高須国方 電 (0724) ③2589 昭和10年4月創立の洋画団体セクションダールが同15年創造美術協会と改称、関西在住の各派美術家により組織されたもの。昭和24年彫塑部を新設、昭和42年9月第20回記念展を開催。

(絵画) 〔常任委員〕 西飯修、上嶋竜、下高原竜己、荒井秀宜、玉沢潤一、小林武夫、高須国方、河野通紀、山田千秋、藤田重夫、荒木由三、貝原六一、今村市久、浜口虎、河端亮治、森島包光、野尻弘、川原章二、河口正勝

〔委員〕 辻好子、堀田薫、木村平、下高原進、山口勝子、青谷広洋、藤田嘉子、永井珪子、藤田豊、田中仁三郎、黒田保、竹木堯亜、高谷詩野、狩野晃一、小林かず、浜田清、池田信雄、岡田信造、村井新児、大森重夫、他会員208名

(彫塑) 〔常任委員〕 松岡卓、白石正義 〔委員〕 井上重四郎、松本全曼、他会員15名

走泥社(工) 京都市東山区五条坂白糸町 八木一夫方 昭和21年9月創立。新時代に即応する工芸の総合的研究団体。昭和43年第27回展開催。

〔会員〕 河島浩三、門井嘉衛、熊倉順吉、森里忠男、村井次郎、佐藤雅彦、鈴木治、辻勘之、鳥羽克昌、山田光、八木一夫、林康夫、林秀行、小西晴美、近藤清次、川上力三、川端信二、高野基夫、田辺彩子、吉竹弘

(た)

第一美術協会(洋・彫) 文京区目白台1-6-11 石川重信方 電 (941) 1501 昭和4年5月創立。毎年展覧会開催、昭和43年5月第39回展開催。

〔委員長〕 石川重信 〔副委員長〕 高橋亮、岡登貞治
〔委員〕 石川重信、大沢邦雄、高橋亮、神津港人、横山群、野沢考作、山口美勇、佐藤晃、新関国臣、青木東正、有馬周三、石川泰男、磯田嘉介、上田久之、長田正之助、門脇俊一、小島三郎、佐藤利平、高橋賢一郎、豊田芳郎、直江兼博、広田剛郎、星野順一、牧島省三、増沢潔人、牧野柿五郎、松田義雄、村上啓也〔会員〕 147名

太平洋美術会(旧称太平洋画会) (洋・彫・染) 荒川区西日暮里3-7-29 電 (821) 4100 明治22年創立の明治美術会を同34年組織を一新し翌年1月太平洋画会と改称、第1回展を上野公園五号館に開催した。同37年洋画研究所を開設、昭和4年太平洋美術学校と改称し、同20年戦災にあい中絶、32年再び開校した。なお32年、会名を太平洋美術会と改称した。毎年展覧会を開催し昭和43年6月第64回展を開催した。

〔名誉会員〕 坂本繁二郎、沢田政広

〔会員〕 (絵画部) 尼谷良、石井明、石井弥一郎、市川光雄、一井増郎、大木卓、大宮松太郎、大森商二、小柳津経広、河合敏雄、川村信雄、小坂健三、近馬勘吾、小宮惣太郎、小泉秀松、小島清、沢村みちる、島添鶴雄、砂田正己、鈴木武志、高橋虎之助、多田栄二、武田好文、佃武昭、椿悦至、原正俊、広島八重子、丸毛利久、三浦金之進、山口美好、長岡忠三郎、深水正策、岩崎英子、行方巖、永島吉太郎、慶伊安次郎、後藤泰作、杉山司七、吉城弘、安藤邦衛、伊藤正三、小池不可止、中山章、日向茂生、秋場洋二、熱尾艶男、内田豊、海老原録郎、北岡数彦、久郷良祐、近馬治、小間頼重、田賀美代子、戸田利兵衛、沼田一郎、野沢一郎、花谷時子、菱沼藤男、日比野美根男、布施悌次郎、古橋昭夫、馬淵鈴美、松下国夫、森川豊三、吉木梓、和田甫、楠喬、安倍榮作、朝日出、秋山いわお、天野鐘吉、綾木圭三、青木四郎、飯島雪子、池部朝治、石原誠一郎、伊藤正子、今瀬忠、上田孝、大内青坡、大島辰之助、加藤広、柿原千代、北郷ふち、近藤乃耶、小西清見、小林孝一、小池かよ、幸田至生、酒井薫子、坂井正雄、杉田浩一、杉本勇吉、菅野吉晴、瀬島叔子、高梨潔、谷川潔、高梨舜治、田中玲子、手代木英馬、土井邦晃、中島久雄、庭野裕子、根本和民、針谷武雄、平山太郎、丸山不忘、満留満、宮川精一郎、室伏勝義、村瀬良三、八幡港二、湯田和男、吉田忠雄、青木寿一、安藤吾路、稻田春、大槻茂、川上暮四郎、岸本政尚、佐藤美智子、佐藤寛、田中常太郎、田中長三郎、田辺富治、布川勝三、服部弘、広野照臣、平山嵩、平沢定治、藤沢泰俊、藤原泰市、堀潔、松村泰二、宮崎文男、米岡孝司、佐藤三郎、(彫塑部) 堀進二、山本豊市、石井明、宮本重良、三沢寛、木島正夫、杉本宗一、関保寿、今里竜生、松田喜三郎、村田竜正、相曾秀之助、池辺瑠璃、小野寺玉峯、川崎普照、小金丸幾久、小村悦夫、白井保春、菅野忠良、菅野睦子、立川義明、平野敬吉、三上友也、吉木梓、西村虚空、倉持芳、(染織部) 野口道方、満留満、野田習之、

二科十郎、海老原美登、大野古紀久、上村喬春、楠川孝子、高村住、野村佐千、林三恵、松宮節、水田千代子、横田富生、佐藤章子、松宮涼子

匠(工・染) 京都市左京区下鴨西高木町7 皆川泰蔵方 昭和23年4月創立。染色美術家の集り、毎年1回展覧会開催。

〔会員〕 皆川泰蔵、今西良雄、春日井秀雄、三浦景雄、山出守二

大潮会(洋) 板橋区常盤台3-17 浦崎永錫方 電 (960) 4020 昭和11年7月1日創立。本展は全国美術教育関係者の技術向上に資するを目的とす。昭和43年12月第32回展開催。

〔会長〕 浦崎永錫 〔会員〕 天井陸三、豊千里、石野安親、荻名芳夫、等 100名

大調和会(日・洋・彫) 千代田区神田神保町2-11 新村堂内 昭和27年2月創立。武者小路実篤を会長に大調和展を再興することになったが、白樺系の作家の集りではなく、新しい会員によって組織された。日本画、洋画の具象作品の優れたものを公募して展覧する。昭和43年2月第7回大調和展開催。

〔会長〕 武者小路実篤

〔委員〕 (洋画部) 上田貞一、三浦俊輔、水谷淳、内田豊、河野通明、播本修三、浜本恵義、佐藤保春、平沢喜之助、村上博 〔会員〕 (洋画部) 川幡正光、高須光治、等 43名

(ち)

知求会(日・洋) 世田谷区北沢1-7-1 幸田佑三方 電 (467) 0551 昭和32年1月創立。昭和43年10月12回展開催。

〔会員〕 祁答院慶昭、幸田佑三、佐藤多持、奈良原浩

中央美術協会(洋・日・彫・デザイン) 練馬区南町3-812 中央美術学園内 電 (997) 1194 昭和27年5月創立。中央美術学園の指導者と卒業生をもって組織する。昭和43年第19回展開催。

〔会長〕 郡山三郎

〔委員〕 田屋幸男、石井伝三、加藤武、小石豊蔵、菊地正男、筒井善昭、羽賀靖世、阿部聡、原庄造、伊藤一路、宮尾清一、大島忠昭、岡田金良、前島浩三、花岡義春、森山数夫、関口猪一郎、井上辰夫、鈴木正治、岡庭司、粕谷周市、東山喜事、鈴木進、志村実、出井信雄、加藤日出男、伊藤園子、長野旭峰、池田道明、後藤陸夫、立花重雄、中村正昭 42名、〔会員〕 61名

丁子会(洋) 世田谷区松原3-21-21 柿原千代方 電 (321) 0156 昭和36年6月創立。太平洋美術会系の女流画家の集り。昭和42年8月第8回展開催。

〔会員〕 今村美代子、岩崎英子、柿原千代、小松原雅子、沢村みちる、田賀美代子、広島八重

鑄金家協会(工) 豊島区堀の内162 島光秋方 明治41年2月東京鑄金会として創立。昭和17年まで32回の展覧会を開いたが、戦争と共に中絶し、昭和22年3月鑄金家協会として新発足した。同年第1回展、昭和33年5月

美術団体一覧(て・と・に)

第3回展開催、以来毎年5月開催。

〔会長〕 高村豊岡

〔副会長〕 香取正彦、内藤春治

〔委員長〕 丸谷端堂

(て)

鉄鶏会(洋) 京都市伏見区深草砂子谷1 古田安方
電(64) 1505 昭和32年創立。昭和43年9月第11回展開催。

〔会員〕 田上博茂、古田安、宮本浩二、中井克己、吉岡一、中井淳二、白石道夫、千本祐三、中野耕二、中馬宗武、和気史郎、岸正豊、秦森康屯

(と)

東丘社(日) 京都市北区平野上柳町16 電(075) (441) 0968 昭和5年創立。堂本印象の主宰する画塾で毎年京阪神名古屋で展覧会を開催する。昭和43年第25回展開催。

〔総務〕 三輪晃勢、山本倉丘 〔社員〕 52名

東光会(洋) 豊島区千早町2-11-2 江藤哲方 電(957) 5742 昭和7年5月創立。昭和43年4月第34回展開催。

〔会員〕 岩下三四、石本秀雄、家永駿三郎、橋詰英一郎、原田博介、林林男、西寺鉄舟、錦織保久、豊島利右衛門、渡辺浩三、渡辺文雄、河井達海、田代順七、田中孝夫、多田俊彦、武永慎男、辻利平、筒井茂雄、梅津五郎、野沢寛、能登靖幸、小野政吉、大和田富子、大平敬次郎、大木茂、岡本肇、大歳曉、胡桃沢原人、熊岡正夫、栗家功、山本日子士朗、山形光寿、山崎修二、松岡正直、松岡正、松永敏太郎、真木宣武、的場勇、河野磐、近藤喜義、葦名芳夫、朝井清、清原武則、三田村策、水野一好、島村剛生、江藤哲、平通武男、森田茂、関真、瀬田忠司、稲村退三、石原梅男、岡一夫、和田貢、斎藤久子、長根翠、有馬侃、坂田憲雄、矢田安史郎、守洞春、他243名

東陶会(工・陶) 目黒区下目黒4-843 安原喜明方 電(712) 4320 昭和2年創立。年2回、同人展開催。

〔会員〕 安原喜明、宮之原謙、井上良斎、土肥刀泉、中静昭平、館野善次郎、古宇田正雄、城戸夏男、板谷梅樹、磯谷丹阿春、横山朝陽、山本正年、中野馨一、林茂松、川上正三郎、西沢爽、中村雅臣、小島章光、井高宏、井高洋成、唐杉壽光、唐杉信、磯博、手塚昇、田村吾川、伊藤哲次、沢井平三郎、横山光之助、篠田義一、二橋英作、鈴木章子

独立美術協会(洋) 練馬区南田中町1058 島居敏文方 電(996) 4573 昭和5年11月創立。里見勝蔵、児島善三郎、林重義、林武等二科会の会員会友及び同会出品者11名に国画会の高昌達四郎、春陽会の三岸好太郎を加え「我々は既設の団体より絶縁し新時代の美術の確立を期す」と宣言、独立美術協会を創立した。翌年1月第1回展を開き新帰朝の福沢一郎も第1回展から会員として参加した。昭和43年10月第36回展開催。

〔会員〕 赤星孝、足立裏、池島勘治郎、井上寛信、今井憲一、伊藤彪、入江一子、宇根元警、海老原喜之助、

江川平三、江口良、大久保泰、岡部繁夫、奥谷博、尾崎良二、織田彩子、岡村芳男、小原雄二、小原稔、片山公一、加藤陽、菊地精二、久保一雄、小島善太郎、小林和作、小林数雄、古賀猛、斎田武夫、斎藤長三、斎藤求、桜井浜江、坂本善三、佐川敏子、芝田耕、芝田米三、島村三七雄、下川都一郎、清水鍊徳、志村計介、末永胤生、鈴木保徳、鈴木亜夫、妹尾正彦、瀬尾正雄、高須頼子、高昌達四郎、高橋忠弥、高橋秀、高岡惣七、高森明、田中一行、島海青児、島居敏文、土井俊泰、中尾彰、中津瀬忠彦、中岡冊夫、仲村一男、中村節也、中村善種、中山巍、鳩川誠一、西田藤次郎、西山舜之助、野口弥太郎、狭間二郎、林武、針生鎮郎、樋口加六、藤岡一、富士本昇、堀之内一誠、斑目秀雄、松崎真一、松島正幸、松島鈴子、松山幾三郎、水島清、緑川広太郎、宮崎精一、李田たけを、矢崎牧広、山田栄二、山道栄助、山本正、山中馨、横地康国、和気史郎、飯田実雄、江田豊、大内のふ子、河尻隆次、空野八百蔵、林敬二、松本英一郎、松樹路人、森通、西野久子、斎藤紅一、森兵五、山田貞実、安田謙、青柳春、赤星信子、来栖重郎、白鳥三郎、枋内忠雄、広瀬義男、沢村美佐子、米原二郎、砂田友治、竹内晟、大坪権治

(に)

二科会(綜) (本部) 杉並区久我山2-590 東郷青児方 電(391) 0524 (事務所) 杉並区荻窪1-137 吉井淳二方 電(398) 7511 大正3年文展第2部に二科設置運動が起ったが、当局に容れられず、同年10月ついに文展より分離して、上野竹之台陳列館に二科美術展覧会を開催した。同展開催の際の鑑査員11名は翌年そのまま会員となり在野団体として独立した。爾来同会は新進流派の作家を包容して我洋画史上に啓蒙的功績を挙げている。大正8年藤川勇造が会員に推され初めて彫刻部の加入をみた。其後昭和5年児島善三郎、里見勝蔵等は退会し独立美術協会を創立、更に石井柏亭、有島生馬、山下新太郎、安井曾太郎等の名誉会員辞退があり、会員の移動はあったが在野として行動を続け昭和18年第30回展を開催した。翌19年には情報局の指令により展覧会は中止となり、更に諸般の事情により同年10月ひとまず解散した。同20年終戦となり再結成を図ったが旧会員中、向井潤吉、古家新等は行動美術協会を、また正宗得三郎、熊谷守一等は第二紀会を結成して離脱した。昭和20年新に工芸部、理論部を、同26年漫画部、商業美術部、同28年写真部を設けた。同30年7月鈴木信太郎、高岡徳太郎、野間仁根は退会を声明、一陽会を結成するに当り、米良道博、荻野康児、鮎利彦、山路真護、浅野孟府、植木力等絵画部並びに彫刻部の会員は行動を共にした。昭和43年9月第53回展開催。

〔会員〕 (絵画部) 青山竜水、安藤幹衛、藤井二郎、藤川栄子、藤沢典明、福島金一郎、服部正一郎、井上賢三、井上覚造、伊藤研之、伊東静尾、今長谷巖、北川民次、桑原実、松本弘二、松井正、松葉清吾、中原実、野村守夫、大沢昌助、織田広喜、佐藤吉五郎、斎藤三郎、

清水刀根、鷹山宇一、寺田竹雄、東郷青児、鶴岡義雄、山口長男、山尾薫明、山本不二夫、吉井淳二、吉村勲、吉原治良、石橋宏一郎、猪田七郎、大淵陽一、久保繁造、佐々木宗一郎、末永一夫、鈴木崧、鈴木幸生、関谷陽、田川覚三、田中君子、竹内清、ベル・串田、西村千太郎、西村竜介、仁広田秀吉、萩尾テル、堀賢三、原田直康、春田安喜子、増田勉、森田信夫、堀越隆次、月館れい、新開盛寿、大城皓也、池上丁一、高根秀雄、藤野一友、新田稻実、吉田正雄、ヘンリー・杉本、辻本敬三、福島淳志郎、戸川ふみ子、中村直人、狩野守、赤羽恒男、藤田慎治（彫塑部）笠置季男、大西金次郎、安藤菊男、乗松巖、野水信、松下隆治、平川正道、淀井敏井、日高正法、広瀬不可止、飯田艇三、高須賀桂、長谷川雅司、木村敏、小畠広志、小山田寿、須賀通泰、野口嘉光、番匠宅司、東村正久、平野秀一、細井良雄、村岡三郎、若林奮、荒木啓、大平隆洋、倉沢実、古久保三郎、竹内正治、吉岡侃、工藤健、斎藤顕治、(写真部)大竹省三、秋山庄太郎、早川雄二、林忠彦、緑川洋一、植田正治、等17名
(商業美術部) 赤羽喜一、石川茂、高橋良、高橋春人、日置勝駿、等20名

二紀会(洋・彫) 世田谷区玉川奥沢町2-304 宮本三郎方 電 (721) 3276 二科会は昭和19年第30回展後解散し戦後再結成を図ったが、旧二科会員黒田重太郎、栗原信、田村孝之介、中川紀元、鍋井克之、正宗得三郎、宮本三郎、横井礼市の9名は参加せず旧二科会の活動を第一期とし、戦後新しく第2の紀元を劃するの目的を以て昭和22年5月二紀会を創立した。昭和42年4月、社団法人認可され、初代理事長に宮本三郎が就任した。昭和43年10月第22回展開催。

〔理事長〕 宮本三郎 〔副理事長〕 田村孝之介、松村外次郎 〔理事〕 秋保正三、大石俊彦、大兼実、佐々木次、峰岸義一、土岐国彦、津田周平、成井弘、藪野正雄、佐伯米子、中川為延 〔名誉会員〕 中川紀元、鍋井克之、横井礼以、黒田重太郎、佐野繁次郎、〔会員〕 (絵画部) 53名 (彫刻部) 23名 〔同人〕 (絵画部) 247名 (彫刻部) 46名。

二元会(洋・日・版) 北区上中里1-14-5 浅田進方 電 (910) 6286 <大阪事務所> 大阪市南区二ツ井戸町6 鈴木博尊方 電 (211) 2760 昭和40年12月5日、同志111名により洋画・日本画・版画の三部門よりなる公募団体として創立。現代絵画の探究研鑽と互助親和の精神を以て実験の新分野の開拓並に新人の発掘育成により画壇に於けるユニークかつ意欲的行動団体として最も意義ある存在となることを目的とする。41年1月、大阪・戎橋画廊にて創立第1回展開催。43年11月、日本美術協会にて第5回展開催。

〔理事〕 (洋画部) 石原土句枝、大町紘、田中舎密、小松原勝市、浅田進、鈴木博尊、金光珠、的場二三男、(日本画部) 大山新城、前川恵一、(版画部) 鈴木博尊 (洋画部兼) 〔運営委員〕 13名 〔会員〕 38名 〔準会員〕 31

名 〔会友〕 59名

日展(綜) 台東区上野公園 電 (821) 0453 現在は民間団体であるが、その沿革はつぎのようであった。明治中期、美術の隆盛に伴って美術団体の群生をみたが、明治40年政府は美術振興策として文部省に作家・学者・批評家よりなる美術審査委員会を設け、毎年文部省美術展覧会(文展)を開催し、その出品を審議させた。しかし新旧の対立は免れず、その結果大正3年日本画では横山大観、下村観山、今村紫紅、安田靉彦らが分離して日本美術院を再興し、洋画では石井柏亭、有島生馬、山下新太郎、坂本繁二郎らが二科会を分立することになる。大正8年美術審査委員会は廃止され、新たに帝国美術院規定による美術展覧会(帝展)が設けられた。審査員の一部には文展時代にしばしば受賞した作家たちが選ばれ、回を重ねるごとに帝展で特選を得た新進作家たちが加わって、文展時代の惰性を破ることに努めた。昭和2年には日本画・洋画・彫刻の3部の外に、第4部として美術工芸を加えたが、年を経るに従って帝展にも無鑑査出品の氾濫というような弊害が顕著になった。昭和10年松田文相は帝国美術院を改組し、在野団体の作家を加え、無鑑査出品者を整理するなどの改革を考えたが、美術界は混乱に陥った。そこで平生文相は再改組を行って一層の紛糾を呼び、昭和12年帝国美術院を解消して帝国芸術院を設置することによって収まり、展覧会は文部省主催の4部の総合展(新文展)として毎年開かれることになった。これに在野の作家も出品した。第2次大戦後、昭和21年文展は日本美術展覧会(日展)と改称して再出発したが、不参加団体が増加し、昭和23年アメリカ軍総司令部顧問の「改組と民主化」の勧告に従って、翌24年には日本芸術院と芸術院会員有志によって組織される日展運営会との共催として日展を開いた。しかし、昭和32年その運営状況が国会において問題になり、その結果、以後芸術院はこれに関係せず、社団法人日展という民間団体が昭和33年5月設立され、新しい出発が準備されることになった。その目的と事業としては、日本画・洋画・彫塑・工芸・書の5科よりなる日本美術展覧会を毎年秋に開催するほか、内外の美術に関する調査研究および機関誌「日展美術」の刊行などが計画実施されている。昭和43年11月第11回展開催。

〔理事長〕 辻永 〔常務理事〕 小野竹喬、中村岳陵、山口蓬春、福田平八郎、徳岡神泉、児玉希望、有島生馬、小森源太郎、北村西望、斎藤素巖、沢田政広、山鹿清華、山崎覚太郎、鈴木翠軒 〔理事〕 堂本印象、伊東深水、金島桂華、宇田荻郎、東山魁夷、川島理一郎、長谷川昇、小山敬三、大久保作次郎、鬼頭鍋三郎、田崎広助、耳野卯三郎、雨宮治郎、清水多嘉示、古賀忠雄、松田尚之、清水六兵衛、楠部弥式、井上良斎、川村巖山

〔監事〕 司忠、川崎小虎、三上知治、〔顧問〕 高橋誠一郎、福田繁、鍋島清方、野田九浦、平橋田中、岩田藤七、高村豊周、豊道春海

〔評議員〕 (日本画) 麻田弁次、池田達郎、伊東万耀、

美術団体一覧(に)

岩田正巳、奥田元宋、梶原緋佐子、川本末雄、加藤栄三、佐藤太清、嶋谷自然、関主税、杉山寧、高山辰雄、寺島紫明、西山英雄、橋本明治、浜田観、三輪晃勢、三谷十糸子、村松乙彦、望月春江、森白甫、森田沙伊、山口華樹、山田申吾、山本倉丘、(洋画) 安宅庸雄、安藤信哉、朝比奈文雄、荒谷直之介、有馬三斗枝、井手宣通、伊藤清永、伊原宇三郎、池部鈞、江藤純平、大沢海蔵、緒方亮平、奥瀬英三、河井清一、木下孝則、倉員辰雄、胡桃沢源人、小寺健吉、小堀進、高野三三男、笹岡了一、笹鹿彪、佐竹徳、新道繁、新保兵次郎、鈴木千久馬、田中繁吉、田村一男、高田誠、高光一也、辻村八五郎、土佐林豊夫、中村善策、中村琢二、橋原健三、西山真一、納富進、平通武男、福田新生、藤本東一良、堀田清治、光安浩行、南政善、棟方志功、村岡平蔵、森田茂、森田元子、山下忠平、山田新一、柚木久太、渡辺浩三、渡辺武夫、(彫塑) 赤堀信平、伊藤五百亀、伊藤芳雄、円鋸勝三、大須賀力、太田良平、岡本鮎朋、矩幸成、木島延幸、北村治緒、北村正信、木下繁、木村珪二、黒田嘉治、小森邦夫、後藤清一、佐々木大樹、佐藤すけお、斎藤武松、進藤武松、瀬戸田治、富永直樹、中川清、長沼孝三、野々村一男、橋本高昇、長谷川義起、昼間弘、藤野舜正、古川順三、堀進二、三国慶一、水船六洲、宮地寅彦、宮本光庸、榎山三毅、森野円象、安田周三郎、安永良徳、山畑阿利一、山本雅彦、柚月芳、和田金剛、分部順治、綿引司郎、(工芸) 会田富康、青木滋芳、浅見隆三、伊東翠壺、海野建夫、大須賀喬、大坪重周、各務鉦三、叶光夫、岸田竹史、岸本景春、小松芳光、佐治正、佐野猛夫、新開寛山、高野松山、高橋介州、高橋節郎、帖佐美行、辻光典、土肥刀泉、内藤春治、中村翠恒、信田洋、蓮田脩吾郎、般若脩弘、番浦省吾、平松宏春、福沢健一、二橋美衡、丸谷端堂、三井安蘇夫、皆川月華、宮坂房衛、宮之原謙、森野嘉光、安原喜明、山室百世以、山本正年、山脇洋二、吉賀大眉、吉田醇一郎、(書) 青山杉雨、赤羽雲庭、天石東村、安東聖空、伊藤夢州、飯島春敬、生井子華、石井雙石、今井凌雪、今関脩竹、印南溪庵、内田鶴雲、江川碧潭、大石隆子、岡本松堂、金子鳴亭、金田心象、上条信山、木村知石、熊谷恒子、桑田笹舟、小坂奇石、小林斗庵、近藤拱南、近藤秋簞、佐藤祐豪、鈴木梅溪、炭山南木、田中塊堂、高木雙吉蔵、谷辺橘南、徳野大空、殿村藍田、手嶋右卿、中村蘭台、西川寧、西谷卯木、梅舒適、日比野五鳳、平尾孤往、広津雲仙、松井如流、松下芝堂、松本芳翠、松丸東魚、宮本竹逯、村上三島、森田翠香、森田竹華、森田緑山、保多孝三、柳田泰雲、山崎節堂

日本アブストラクト・アート・クラブ (洋・版・彫・評) 世田谷区若林町2-7-2 西田信一方 電(421) 1587 昭和28年6月創立。アブストラクト・アートの国際交流を目的として結成した集団。

〔会員〕 西田信一、山口長男、植木茂、村井正誠、山口薫、川端実、佐野繁次郎、山口源、淀井敏夫、向井良吉 (客員) イサム・ノグチ、岡田謙三

日本インダストリアルデザイナー協会(工) 通称JIDA 渋谷区猿楽町55 電 (463) 3736 昭和27年10月創立。

〔理事長〕 佐々木達三

〔理事〕 明石一男、秋岡芳夫、栄久庵憲司、金子至、小池岩太郎、寿美田与市、知久篤、坪居恭平、鶴岡英世、豊口克平、真野善一、皆川正、宮島久七、吉岡道隆

〔監事〕 河瀬之介、山口勇次郎

〔会員〕 261名

日本浮世絵協会 千代田区丸ノ内東京ビル三階、内山商事内、電話 (212) 2721 昭和37年5月創立。浮世絵を主とするが、一般版画その他各時代の関連芸術にわたって、広く内外の諸機関と連絡して、研究に努め、版画の普及をはかり、文化の発展に寄与することを目的として設立された。

目的遂行のために、機関誌「浮世絵芸術」と「会報」を発行し、研究会、講演会、展覧会を開き、海外との研究交換、木版技術の保存・育成、その他必要な事業を行っている。

〔会長〕 高橋誠一郎

〔理事長〕 橋崎宗重 〔理事及監事〕 丹波恒夫、広瀬喜之助、光野幸四郎、渡辺規、内山晋、氏家武雄、中嶋晋一郎、宮達豊久、柿本保、山口桂三郎、今中宏、C. H. ミッチェル、R. ベルジェス、大田耕士、荻原安之助、梶川芳雄、酒井藤吉、中村不二尾、北岡文雄、深水正策、堀越謙吉、宮尾しげを、棟方末幸、森村義行、山田健太郎、吉田暎二、永見田次郎、細見良、松方三郎

〔顧問〕 浅野長武、石田茂作、梅沢彦太郎、太田清蔵、田中一松、三井高陽、江馬務、樋口一成
その他に正会員・維持会員がある。

日本画院(日) 台東区池之端4-23 望月春江方 電 (821) 3810 昭和13年5月創立。昭和43年5月第28回展開催。

〔創立同人〕 川崎小虎、野田九浦、松本姿水、望月春江、根上富治、町田曲江、穴山勝堂、森村宜永

〔同人〕 石塚青我、大田歳、小関きみ子、長嶺雅男、永山十志夫、石曾根貞、猪木匡四郎、大島秀信、橋爪堆恩、小沢春子、川村暢洋、川合清、川崎鈴彦、川崎春彦、高橋光輝、奈良裕功、佐藤永芳、佐藤美雄、三河大樹、塩原友子、清水保雄、鈴木美江、関口雄揮、石倉正富、松原道男、宮沢和雅、竹島静、尾瀬戸春光、高野薫邦、黒沢亜津志、広瀬秀穂、板倉半徑、斎野俊雄、猪股琴与、大室白耀、大山翠豊、小倉芳司、栗山北洋、樋口英雄、湊忠一、水谷春夫、長島千春、宮部沙久弥、押田清子、飯塚栖圃、杉山光蔵

日本画府(日・洋・彫・工) 練馬区中村北1-13 児玉三鈴方 電 (990) 2732 昭和31年2月創立。同志10名を中心とし公募展を年1回開催する。昭和43年2月第15回展開催。

39年2月文部省より社団法人認可さるにより理事制と

なる。

〔理事長〕 児玉三鈴

〔理事〕 石田粧春、矢崎虎夫、竹上義治、佐藤もとみ

〔事務局長〕 田崎昭作

〔会員〕(洋画部) 37名 (日本画部) 161名 (彫塑部) 47名 (工芸部) 12名

日本工芸会(工) 東京都台東区上野公園 東京国立博物館内 電 (822) 1111、(内線258)。文化財保護法の施行により、我が国伝統工芸の保護育成を目的として、昭和30年6月設立。伝統工芸作家を正会員とし学識経験者を特別会員として組織されている。全国9ヶ所に支部を持ち、各支部に準会員、研究会員を擁している。昭和40年より国庫補助金をうけて伝統工芸技術伝承者の養成を行なうほか、年1回、日本伝統工芸展を開催。昭和39年より、日本染織展を、東京都教委と共同主催で開催している。年6回機関誌「日本工芸会会報」を出し、会員の親睦、技術の研究に資している。我国唯一の総合工芸作家団体。昭和43年10月第15回日本伝統工芸展開催。

〔総裁〕 高松宮〔会長〕 細川護立〔副会長〕 畠山一清、松下幸之助〔顧問〕 稲田清助、上野直昭、岡部長景、川北嶺一、岸信介、小塚新一郎、谷川徹三、高橋誠一郎、富永惣一、藤山愛一郎、前田義徳、松田伊三男、美土路昌一、矢代幸男〔役員〕(理事長) 田内静三、(副理事長) 小山富士夫、内藤四郎、(常任理事) 赤地友哉、田村耕一、音丸耕堂、松田権六、森口華弘、(理事) 宇野三吾、大場松魚、小倉建亮、香取正彦、川崎音三、金重陶陽、後藤学一、清水卯一、鈴田照次、田村耕一、中村勝馬、長野埜志、羽田登喜男、堀柳女、永見晃堂、松原利男、水町和三郎

〔会員〕(正会員) 211名、(特別会員) 83名、(賛助会員) 6名、(準会員) 160名、(研究会員) 206名

日本国際デザイン協会(工) 中央区銀座西6-6 銀座日産館 電 (517) 2609 都市計画、建築設計、インダストリアルデザイン、クラフトデザイン、グラフィックデザイン等における国際性を高めることを意図して創作、生産、技術、教育、マネジメントなどの領域における協力を計る。昭和32年10月設立。講演会を屢々催す。

〔会長〕 足立正〔常務理事〕 大月栄一〔理事〕 岩田久利、岡本太郎、勝見勝、亀倉雄策、河合正一、剣持勇、河野鷹思、斎藤鎮雄、坂倉準三、清家清、丹下健三、浜口隆一、原弘、菱田安彦、柳宗理、吉坂隆正、渡辺力〔監事〕 高田忠、野沢隆一

日本山林美術協会(絵・彫・工) 豊島区要町2-33 鶴田吾郎方 電 (957) 1357 昭和29年5月創立。山林に関するあらゆる美術創作と活動を行う。昭和42年1月第11回展開催。

〔代表委員〕 鶴田吾郎〔会員〕(絵画) 藤島淳三、二口善雄、広本了、石井光雄、小島三郎、桑原宏、樫村実、牧野四子吉、秋田文雄、光安浩行、太田洋愛、佐藤保春、佐々木英夫、白尾三男、須山計一、高木周平、(彫

刻) 村井辰夫、奥山泰堂、瀬戸団治、樽谷清太郎、(工芸) 浅川藤治、広瀬忠一

日本実在派作家集団(洋) 渋谷区神宮前2-3-13 中条顕方 電 (408) 4546 昭和36年10月創立。自由美術家協会、一水会、二紀会等の公募団体で創作活動をつづけていた5名の作家によって創立した。自由と独立を互に尊重しあい、レアリティの追求をめざす同志的集団で、他の一切の公募団体に関係しない。昭和43年第8回展開催。

〔会員〕 小口益一、黒田外喜男、近藤吾朗、中条顕、沼田浩、原叶人

日本水彩画会(水) 中野区野方6-2-8 不破章方 電 (330) 6229 大下藤次郎、丸山晚霞、河合新蔵の3人の経営せる日本水彩画会研究所を大正2年4月、石井柏亭、白滝幾之助、真野紀太郎等37名の発起に依り、改制拡張して新たに各派水彩画家の総合団体として設立。毎年1回東京及関西で展覧会開催、昭和43年6月第56回展開催。

〔名誉会員〕 池部鈞、石井鶴三、小山周次、三上知治、水野以文

〔委員〕 阿部広司、相沢光朗、荒木茂喜、不破章、萩原実、日野九州男、石川達三、小山良修、牧野正吉、増田喜恵蔵、水平譲、水谷景房、内藤秀因、野沢潤次郎、岡崎祇容、竹内梅次郎、竹内栄三郎、丹野良輔、寺島脩治、富田通雄、渡部文雄、山中仁太郎、山崎政太郎、山本不二夫、山森元亀、原義人、飯塚隆雄、木川秀雄

〔会員〕 阿部セキ、秋山文雄、相沢光朗、青津清喜、安藤信哉、栗田口博、別車博資、江口均、榎本了三、淵上政夫、藤江志津、藤野盛雄、藤田薫、福田四郎、古川盛雄、早川国彦、林義勇、林幸四郎、半沢良夫、星野正三、広田幸吉、本多信彦、水室幸吉、平井圭三、平沼溪水、平島武夫、井原大吉、飯島公夫、飯島敏三、飯島直、池尻一朗、石井鶴三、石川光夫、石川新二、池部鈞、梶谷保、霞春海、木島工、金子市太郎、河村久子、笠松方成、金井勝久、勝俣泰蔵、小山周次、小泉政孝、紺野五郎、桂竜雄、上河内昌巳、木原義明、木内芳雄、清田英作、絹笠省三、熊谷文利、小宮重吉、菊地吉美、小出哲夫、古茂田次男、間宮勇、丸山東美男、松井清人、松本寿雄、松本慎三、前原大三郎、三浦轡、水野以文、水田謙爾、水木伸一、水谷莊介、三石吾良、宮川博行、宮本草一路、宮沢迪子、宮沢昇、三上信次、三上知治、宮嶋羊郎、宮部進、森寅雄、森田正世史、村上鉄太郎、村越義夫、望月正信、中田早、名柄正之、南東敏子、仁科実、野村英夫、野村潤一、沼尾松三、野津佐吉、仲井義雄、西原務、小原博司、小椋繁治、小野直彦、大宮幸一、太田三郎、大谷清一、大塚喜久子、太田黒幸、岡田節男、岡田正二、小川俊郎、納直次、斎藤大、坂上恒子、坂江重雄、佐竹禹南、斎藤伊右衛門、篠田真武、代田恒夫、繁野三郎、紫原源太郎、志賀貞夫、紫山英雄、菅沼金六、佐竹泰次郎、杉原茂右衛門、鈴木百合子、瀬川繁雄、田坂ゆたか、谷本ためひろ、高木重雄、竹中正義、

美術団体一覧(に)

玉井武二、筒井正雄、富安昌也、鳥井三郎、高野浩、谷俊男、田幸稲、田口祝一、田村英一、高島仁、寺島長虎、田中武子、有働観美、牛尾弘、漆畑広作、若林市朗、和田常雄、山本和夫、山村秀一、大和屋巖、吉田四郎、吉田収、吉松真司、磯田順彦、荒木清秋、和田行雄、花園すみれ、向井良三、根岸倉治郎、小河原俊彦、伊藤徳次郎、等 192 名

日本水墨派(日) 豊島区池袋 4-28-7 大坂府弘方 電 (982) 1853 昭和29年7月創立。初め中川紀元、棟方志功、峰岸義一によって組織され、津田青楓、近藤浩一路などを客員として同年第1回展を開いたが、昭和32年海外美術の水墨画への関心のたかまるにつれ、新に、新しい東洋の墨画追求をもとめ改組、再出発した。昭和43年8月第15回展開催。

〔会員〕 峰岸義人、宮永岳彦、沢野吾、辻谷和子、石井成児、真辺啓介、根本淑子、栗原勝男、結田信、大坂府弘、沢令花、吉田謙吉、岡部蒼風、新井狼子、今井満里

日本墨絵会(日) 杉並区成宗 1-5 山田玉雲方 電 (392) 2570 昭和12年2月。小川芋銭、小杉放庵、津田青楓、中川一政、矢野橋村、菅橋彦、生田花朝、小松均、岸浪百舂居、渡辺大虚等によって結成された墨人会の後身で、伝統を尚びつつ新しい和風墨絵道を振興し、「清潤素雅」を基調とする国民美術の確立を期するを趣旨としている。昭和18年日本墨絵会と改め、今日に及ぶ。

〔会員〕 山田玉雲、戸田蹊春、久富裕慈、竹内雅朋、吉村嘉扇、竹内清紅、戸田秀雅、河合素玄、漆原素林、漆原草雄、伊達南城、佐藤修竹、徳間虎岳、田坂薫泉、田中玉瀾、杉山王峯、富田無象外

日本宣伝美術会 中央事務局・中央区銀座東 3-2 美術家会館 電 (542) 2824 昭和26年6月創立。毎年東京・大阪・名古屋・九州・北海道その他各地で展覧会を開催、そのほかデザイン講習会等を行う。昭和43年8月第18回展開催。

〔中央委員〕 栗津潔、板橋義夫、伊藤憲治、大橋正、勝井三雄、亀倉雄策、栗谷川健一、河野鷹思、田中一光、永井一正、西島伊三雄、原弘、早川良雄、細谷敏、山城隆一

日本彫塑会(彫) 文京区大塚 6-26-1 電 (943) 0091 昭和28年2月創立。昭和22年創立の日本彫塑家連盟を発展改称して日本彫塑家倶楽部としたもので職能団体的性格を離れ彫塑家相互の親睦と彫塑の研究、発展を目的として再発足したが、さらに昭和37年7月新しい会則が発展的に改正されて日本彫塑家倶楽部を日本彫塑会と改称した。昭和43年4月第16回日彫展開催。

〔名誉会長〕 北村西望、斎藤素巖、沢田政広、雨宮治郎、古賀忠雄 〔会長〕 清水多嘉示 〔支部連合会長〕 松田尚之 〔委員長〕 円鋳勝三 〔関西支部長〕 松田尚之 〔東海支部長〕 野々村一男 〔北陸支部長〕 矩幸成 〔監事〕 安田周三郎、富永直樹 〔委員〕 阿部正基、雨

宮敬子、今城国忠、神野義衛、北村治禎、瀬戸団治、田中昭、高橋剛、竹内不忘、中村博直、平野敬吉、古川順三、松本繁米、水船六洲、渡辺徹

〔会員〕 (本部) 322名 (関西支部) 46名 (東海支部) 34名 (北陸支部) 34名

日本彫塑会関西支部(彫) 滋賀県大津市昭和町13-22 伊室重孝方 電 (07754) 0733 昭和28年6月創立。関西日展彫塑家協会が発展改称し、日本彫塑家倶楽部(東京)に合流し、京都、大阪、兵庫、奈良、滋賀の2府3県をもってその関西支部として新発足した。昭和43年第15回展を京都、大阪で開催。

〔関西支部長〕 松田尚之 〔会員〕 46名

日本陶磁協会 中央区銀座東 2-11 日本医事新報社 梅沢彦太郎方 電 (541) 8150 昭和20年1月創立。社団法人。年数回、講演会並びに春秋2回古陶磁の展覧講演会等を行う。機関誌「陶説」毎月発行。

〔役員〕 (顧問) 団伊能、松永安左衛門、細川護立、畠山一清、浅野長武、大屋敦、浜口雄彦、(理事長) 梅沢彦太郎 (理事) 磯野信威、伊東祐祐、小田栄作、加藤土師朋、久志卓真、黒田領治、小山富士夫、小森新一、佐藤進三、瀬津伊之助、田中作太郎、田山信郎、内藤匡、山田健太郎、中本守、広田照、堀口捨巳、藤山順吉、満岡忠成、森村義行、保田憲司、田中丸善八、岡田宗叙、柿本保、本多静雄

〔会員〕 2,500名

日本陶彫会 横浜市戸塚区矢部町645-6 伊藤芳雄方 電 (0458) 2740 昭和26年5月創立。昭和42年第14回展開催。

〔会長〕 沢田政広 〔副会長〕 古賀忠雄、〔事務会計〕 伊藤芳雄 〔会員〕 滝川美一、中川為延、沼田喜代子、長谷川義起、林茂松、長谷秀雄、森豊一、山畑阿利一、浅井行雄、井上美邦、今城国忠、井高郎山、円鋳勝三、大内青圃、尾形喜代治、唐杉壽光、片岡静観、紫山清風、西沢爽、植木力、井出誠二郎、大和作内、名嘉地千鶴子、中村博直、宮本知忠、渡辺六郎、瀬瀬弘、河野道生、中村直人、長谷川和幸、林是、矢崎虎夫、古川武治、沢田恒夫

日本銅版画協会(版) 世田谷区新町 1-77 駒井哲郎方 電 (421) 7181 昭和28年7月創立。関野、浜田、駒井等の中堅作家が発起人となって銅版画家の全国的な集団をつくった。昭和32年7月第1回展開催。

〔理事長〕 駒井哲郎 〔理事〕 浜田知明、関野準一郎、浜口陽三、〔経理〕 田河水泡 〔会員〕 約100名

日本都市美推進連盟 財団法人 中央区京橋 2-9 電 (561) 1258 大阪市東区南久太郎町 4-20 電 (251) 3624 名古屋市中区栄町 4 電 (97) 4430 昭和27年5月創立。市街地の人々に潤いを与え、文化の向上に寄与するため、希望と秩序のある新しい街「都市美」を推進すると共に、美術文化の顕揚発展を期して、その健全な育成を図ることを目的としている。都市美彫展を2年毎に各都市で行うなど都市美に関する研究、啓蒙、宣

伝、測量、設計、製作施行、美術講演会、出版物の刊行、その他目的達成に必要と認めた事業を行う。機関紙「都市美」毎月発行。

〔顧問〕 有島生馬〔相談役〕 杉山司七、望月信成、村野藤吾〔理事長〕 美津島一〔理事〕 和田新、山中一男、木下孝則、石川滋彦、小山敬三、山下登、小堀進、荒谷直之介、〔会員〕 60名、各府県知事、市長、商工会議所会頭は協力会々員

日本南画院(日) 京都市上京区烏丸通上御霊前下 河野秋邨方 電 京都(44) 2755 昭和35年4月創立。南画復興を目的とし、全国の南画家が結集して、松林桂月を会長に社団法人として発足した。昭和36年2月東京都美術館、京都市美術館で第1回公募展開催。昭和42年3月第7回展開催。なお昭和37年第2回展より水墨画展を併催している。

〔会長〕〔理事長〕 河野秋邨

〔特別会員・顧問〕 10名〔正会員〕 165名

日本板画院(版) 府中市晴見町1-24-1 棟方末華方 電 (0423) @9044 昭和27年5月創立。昭和43年第15回展開催。

〔会長〕 松方三郎〔役員〕 松方三郎、棟方志功、下沢木鉢郎、棟方末華、三ノ輪一巴、大木澄爾、白川威海、竹田道太郎、深津準之助、吉松公希〔会員〕 64名

日本版画協会(版) 台東区上野桜木1-10-25 上野誠方 電 (821) 6629 大正7年創立の日本創作版画協会が昭和6年版画家の大同団結をはかり改組したもの。昭和43年4月第36回展開催。

〔会長〕 石井鶴三、〔委員〕 畦地梅太郎、萩原英雄、橋本興家、星裏一、岩見礼花、城所祥、北岡文雄、駒井哲郎、熊谷吾良、宮下登喜雄、中山正実、野村博、関野準一郎、高橋力雄、上野誠、山口源、吉田穂高、吉田政次、金守世士夫、〔監事〕 稲垣知雄、前田政雄、〔会員〕 100名

日本表現派(日) 千葉県館山市見物向原 134 岩崎巴人方 昭和42年2月第10回展開催。

〔会員〕 岩崎巴人、大野正六、松井牧牛、田中秀雄、菊地晃、渡辺浩治

日本美術院(日) 台東区谷中4-2-8 電 (821) 4510 明治31年10月、当時東京美術学校長を退いた岡倉覚三を盟主とし、橋本雅邦以下26名を正員として結成。「新時代における東洋美術の維持並開発」が創立に際しての二大主張であった。同年10月第1回展を開催、研究所を下谷谷中初音町に設置して後進の養成に努め、雑誌「日本美術」を発刊した。同39年12月に至り一時東京の研究所を撤廃し、同人4名は岡倉覚三と共に常陸の五浦に退去し専念研鑽に努めた。大正2年岡倉覚三病歿するに及び、直ちに院の再興を画して新たに院舎を谷中上三崎南町に起し、翌3年9月開院式を挙行、10月再興第1回展を開催した。再興に当たったのは横山大観、下村観山、木村武山、安田靉彦、今村紫紅、小杉未醒、辰沢延次郎、笹川種郎、斎藤隆三等で其の中実技者6名を以て

同人とした。再興美術院には彫刻部並びに洋画部を設けたが、洋画部は大正9年小杉未醒、山本鼎、倉田白羊等の脱退と共に消滅した。毎年秋季に公募展を開き、また春季には内部の試作展を開く。大正10年米国クリーブランド美術館の要請に応じ、同国主要都市6箇所に巡回展を開き、以後日本美術の海外紹介にも努めた。昭和10年帝院改組に際して、同人合議の上新帝院への参加を声明し、横山大観、安田靉彦、小林古徑、前田青邨、富田溪仙、平櫛田中、佐藤朝山、藤井浩佑の8名が会員に就任した。昭和33年5月財団法人設立認可。同36年2月彫塑部は解散した。昭和43年9月第53回展開催。

〔理事長〕 安田靉彦〔理事〕 前田青邨、平櫛田中、堅山南風、奥村土牛〔監事〕 郷倉千靉、酒井三良

〔同人〕 安田靉彦、前田青邨、真道黎明、郷倉千靉、堅山南風、酒井三良、富取風堂、奥村土牛、小倉遊亀、田中青坪、中村貞以、新井勝利、北沢映月、小松均、中島清之、片岡球子、中島多茂都、岩橋英遠、羽石光志、島田訥郎、真野満、今野忠一、福王寺法林、郷倉和子、樋笠数慶、堀出英雄、菊川多賀子、平山郁夫、莊司福、吉田善彦

日本美術会 港区新橋6-19-23 平和と労働会館内 電 (431) 5103 昭和21年創立。日本美術の自由で民主的な発展と、その新しい価値の創造を目的とする広汎な美術家の自主的なあつまりである。毎年アンデパンダン展開催。同43年2月第22回展開催。機関紙「美術運動」を発行。民主的な新しい美術の創造と、美術運動の推進を目的とする。

〔代表〕 中谷泰〔事務局長〕 谷内栄次〔委員〕 伊藤和子、伊吹英次、井上長三郎、大成彌吉、岡本博、金野新一、河野新、沢田俊一、渋谷章三郎、杉本博、武田敦史、滝平二郎、永井潔、中島保彦、平山克、藤井哲、松山文雄、箕田源二郎、宮川寅雄、山崎外郷、吉井忠、渡辺皓二、吉川佳男、他58名

日本美術家連盟 中央区銀座東3-2 美術家会館 電 (542) 2581~3 昭和24年6月創立。美術家(日本画、洋画、版画、彫刻家)の芸術上の主義や傾向にとられない個人加盟によって組織し、美術家の職能組分として、權益の擁護、相互扶助、其他美術の普及、国際交流等文化に寄与するための諸事業を行う、昭和34年より社団法人組織として運営す。

〔理事長〕 村井正誠〔理事〕 (日本画部) 新井勝利、岩崎巴人、望月春江(洋画部) 伊原宇三郎、大河内信敬、高野三三男、田村一男、宮本三郎、村井正誠、難波田竜起、藤本東一良(版画部) 北岡文雄、吉田穂高、水船六洲(彫刻部) 菊池一雄、清水多嘉示、本郷新、山本雅彦〔常任理事〕 岩崎巴人、北岡文雄、田村一男〔監事〕 大久保泰、大須賀力〔委員〕 (日本画部) 新井勝利、岩崎巴人、稗田一穂、福王寺法林、堀文子、丸木位里、望月春江、麻田鷹司、安西啓明、上野泰郎、加藤東一、片岡球子、今野忠一、中島清之、浜田台児(洋画部) 井手宣通、伊原宇三郎、大久保泰、桂ユキ子、高

野三三男、斎藤義重、田崎広助、田中忠雄、田村孝之介、利根山光人、難波田竜起、藤本東一良、益田義信、南政善、宮本三郎、村井正誠、赤穴宏、伊藤廉、久保守、佐藤真一、笹岡了一、島村三七雄、新道繁、田村一男、高田誠、寺田竹雄、中谷泰、仲田好江、藤井令太郎、三雲祥之助、森田元子、脇田和 (版画部) 北岡文雄、駒井哲郎、水船六洲、棟方志功、上野誠、関野準一郎、吉田政次、吉田穂高 (彫刻部) 菊池一雄、清水多嘉示、建畠覚造、山本雅彦、大須賀力、高田博厚、本郷新、松村外次郎、柳原義達、円舘勝三、古賀忠雄

日本美術協会 台東区上野公園 1-2 電 (8338) 151~5 明治12年創立の竜池会を同20年日本美術協会と改称し財団法人組織とした。毎年展覧会を継続して太平洋戦争までに145回に及んだ。本邦美術の振興をはかることを目的とし、戦後組織を新たにして各流各派を総合融合する方針で絵画展を東京並びに各地で開催した。現在、当協会は活動を一時休止しているが、目下再活動を考慮中。

〔総裁〕 高松宮宣仁 〔顧問〕 石橋正二郎他6名〔会頭〕 団伊能 〔理事〕 岡崎真一、司忠、野沢一郎、浜野茂、花崎利義、長谷川仁、根津嘉一郎、松山茂助、山崎種二、山田健太郎 〔監事〕 清瀬三郎 〔事務局長〕 荒牧昭三

(の)

能彫刻会(彫) 世田谷区粕谷町10 横山正三方 電 (300) 1739 昭和22年創立。戦前能美会として出発したが発表展を9回継続して20年に中止、戦後能彫会と改めて再出発した。流派を問わず能の真髄を彫刻によって表現しようとする同好の士の集りである。

昭和35年第13回展後これを解散し、36年8月石井鶴三、入江美法、紺谷英儀、花岡幸雄、横山正三によって本会を設け第1回展を開いた。昭和42年第7回展を開催、吉田満、青柳謹衛が新たに入会。

(は)

白日会(洋・彫) 北区中里町32 村上鉄太郎方 電 (821) 7303 大正13年6月創立。昭和43年3月第44回展開催。

〔会員〕 (絵画部) 姉川覚、新井茂、安藤秀一、池田正司、石井伝三、石井勤、池田正司、石崎五郎、伊藤清永、伊藤利行、伊東正一、井上隼雄、今井英光、岩月光金、氏田勝恵、内山又輔、大石靖、大崎善生、大沢正夫、大町敏子、乙黒久、小野瀬進、榎村実、川口栄、川村精一郎、河田安市、河西賢太郎、亀川敏、草壁隆、東理次良、黒沢信男、小堀進、小林一雄、小泉馨式、小林晟、駒田治夫、酒泉淳、笹口淳、篠原薫、佐藤義太郎、柴田裕作、関戸紹作、杉本三男、菅野鮎一、須原幹夫、田中君江、武田由平、高須敬司、手塚恒二、富山芳男、土屋宗祐、長井幸一、長崎義男、難波栄子、西川加耶子、中兼久偉、中野隆、中野恒、中村民夫、中山鎭三郎、中山忠彦、野田弘志、灰野文一郎、畠山慈、八景正義、平野俊昌、広本了、平松譲、古川弘、古沢正守、

藤江幾太郎、堀英治、前島博、前林章司、牧原万之助、町田源三郎、益子洋、松本次郎、間部時雄、水野富美夫、宮島武男、宮原鹿蔵、三留幹夫、六峯茂次、完次秀男、茂木直喜、村上鉄太郎、村上洋一、森谷重夫、森本真澄、持田政郎、柳沢淑郎、山本道乗、谷部正、山田鶴佐久、山倉克己、安井藤三郎、渡部百合子、岩村俊夫、大橋皓志、久保孝雄、小知和謙一、竹下隆一、田島清兵、持田泰、吉田海作、(彫刻部) 伊藤五百亀、内堀功、大木祥作、木村珪二、小池藤雄、榊原猛、笹野恵三、坂手譲、寺島辰治、富田匠美、中村晋也、中茎久男、中村宏、野崎隆司、広瀬和子、星野宣、松本隆司、松谷謙司、峯田義郎

パンリアル美術協会(絵) 京都市左京区下鴨中川原町29 不動茂弥方 電 075 (791) 1515 昭和22年12月創立。昭和43年10月第26回京都会展開催。

〔会員〕 不動茂弥、星野真吾、三上誠、下村良之介、湯田寛、木村嘉子、西井正樹、並木光昭、砂華光、加藤明子、渡辺明節

(ひ)

美術記者会 中央区京橋 3-11 国立近代美術館内

〔会員〕 社名50音順

共同通信社	文化部	北村 由雄
	社会部	板垣 恭介
	〃	浜田 寛
産経新聞社	教養部	日野耕之祐
信濃毎日新聞社	通信部	田村 好道
新聞三社連合		伊藤美智江
中日新聞社	文化部	岡山 東
	〃	岩津 良治
	〃	倉田 玄之
東京新聞社	文化部	寺田 千壘
	〃	豊田 穰
西日本新聞社	文化部	山下 国語
	事業部	伊東 浩三
日本経済新聞社	文化部	滝 悌三
	〃	村瀬 満男
日本放送協会	社会部	大手 博道
	TVニュース部	鶴丸 昌子
報知新聞社	文化部	小林源太郎
北海道新聞社	社会部	高森 伸明
毎日新聞社	学芸部	安井 修蔵
読売新聞社	文化部	田中 穰

美術評論家協会 台東区上野公園 都美術館内 本会は主に美術報道に関係する記者を以て組織され、会員相互の親睦を図ると共に美術界の発展に寄与する諸事業を行うを目的とする。

〔会員〕 泉与志(美術新潮会)、大山広光(美術街社)、神谷清太郎(画廊社)、大島隆一(美術展会社)、高木紀重(日本美術通信社)、樽原祐、中尾雅俊(新日本美術社)、中田宗男、小森盛、安藤謙一、(月刊日本画・日本美術

振興会)、佐久間善三(美術新聞)、菊池芳一郎(美術グラフ・時の美術社)、三輪武士(週刊美術社)、三輪郷(真珠社)、紫崎風岬(汎芸社)、大久保積翠(都市と芸術社)、中台青陵(造型新聞社)、松村曠(月旦社)

美術評論家連盟 中央区京橋3-11 国立近代美術館
 気付 昭和29年5月創立。日本における美術評論家の団結をはかるとともに、国際的に協力し、造型文化の発達に寄与することを目的とする。国際美術評論家連盟に加盟し、その日本支部となっている。

〔会長〕 山田智三郎 〔常任委員長〕 久保貞次郎〔常任委員〕 井関正昭、今泉篤男、乾由明、小川正隆、小倉忠夫、大島辰雄、河北倫明、久保貞次郎、神代雄一郎、坂崎乙郎、瀬木慎一、高階秀爾、滝口修造、東野芳明、富永惣一、中原佑介、中村伝三郎、針生一郎、土方定一、本間正義 〔事務総長〕 小倉忠夫 〔事務次長〕 高階秀爾

美術文化協会(綜) 北多摩郡清瀬町中里1458 大西弘之方 電 (0424) ⑨ 1738 独立を脱退した福沢一郎を中心に主として独立、二科の所謂前衛派の新進が昭和14年に結成した。同会は絵画、彫刻、写真、装飾、図案、書等各分野を網羅し総合的に前衛運動を行う。昭和29年4月分裂したが同年10月新人を吸収して再編成した。昭和43年3月第28回展開催。

〔会員〕 浅利篤、浅田政紀、東俊一、新善夫、猪飼重明、市川重治、伊東一信、伊藤利彦、伊藤直介、犬塚政己、今村市久、入来天、入来兵衛、岩田哲夫、大西弘之、大宮健二、岡田徹、岡田恭男、岡本唯嗣、沖中陽明、小関通、加藤純雄、加藤雅巳、亀浦忠夫、工藤政雄、クワタシゲユキ、川元巖山、川元御祐己、河本太洋、金春錫、国光与、小島喜八郎、児島邦三、後藤啓八郎、小林猛雄、近藤求、サトウ宗政、佐野美咲子、島駿一郎、島田雄二、島木律、白木正一、須部佐知子、清野正、高橋敏行、高林陽一、滝旅陽、武政忠、竹村晴夫、竹村克爾、竹村文男、田中昇、千葉一雄、筒井年男、寺田伊勢男、戸川金雄、堂庭郁夫、富田宏代、坂東青樹、中野勉、中村好喜、中村和子、中村博、中山太郎、中島尚、長尾晴海、羽阪清、原田圭司、早瀬竜江、東政美、藤田一一、藤田竜児、堀田修、本田安治、牧野静雄、松代中、松原祐一、松本義信、真野鉄也、見崎泰中、水野孝嗣、宮本初義、村岡和雄、村上賢秀、森幸彦、森久根、求正美、森中喬章、八島正明、山内誠美、山景吉家、山川誠、山崎貴英子、山本祐明、山下セイゼン、横山敏明、吉岡治美、吉田彰

(ふ)

仏教美術協会 練馬区豊玉中3-25 萩原雅春方 昭和28年10月創立。現在、仏像彫刻家と彩色家の集りである。伝統的木彫及彩色技法の保存、正しい継承をねがって、信仰の対象として造像儀軌の究明及び表現の研究練習を旨とする。昭和42年8月第14回展開催。

〔顧問〕 逸見梅栄

〔会員〕 阿井瑞峯、森大造、高村晴雲、鈴木回策、西

山如拙、佐藤勝利、先崎榮伸、鈴木信春、野坂法山、西川宗舟、萩原雅春、佐藤匡義、三木貞夫、安西順一、渡辺龜三郎

(へ)

霹靂社(日) 練馬区大泉学園町718 平子聖竜方 電 (924) 2525・2680 昭和4年6月創立。戦争により中絶。昭和21年10月再建。昭和43年6月第22回展開催。

〔主宰者〕 平子聖竜

(ほ)

北斗会(洋) 豊島区要町1-20 藤本東一良方 電 (957) 6439 昭和31年創立。昭和33年第1回展を銀座・松屋で開く。

〔会員〕 岡田又三郎、金子徳衛、樽松正利、寺島竜一、永田精二、藤本東一良、渡辺武夫、庄司栄吉

(ま)

斑会(洋) 三鷹市中原4-14-9 片山芳樹方 電 (0422) ④5930 昭和34年7月創立。絵画におけるレアリズム運動の研究グループ。昭和42年第8回展開催。

〔会員〕 金子博信、片山芳樹、高森捷三、中沢茂、野崎利喜男、渡辺正一

真赤土会(工) 中野区江古田4-42-14 栗原方 昭和17年4月創立。毎年東京他各地で展覧会を開く。昭和41年3月21回展、日本橋三越。

〔会員〕 (染色) 栗原宏、猪瀬敏子、大久保方子、小川雅子、鈴木京子、富樫迪子、(陶器) 森一紀、村木朝司(鋳金) 小笠原陸兆、成田阿久利(木彫) 逸見良之助、木村鉄雄、(皮革) 数見吾一、(ガラス) 簗口滋人

(む)

無厭会(工・陶) 京都市東山区五条橋東6丁目 山崎光洋方 電 (祇園) 1253 昭和22年2月創立。清水焼作家20名によって結成。

〔会員〕 河合瑞豊、河合栄之助、米沢蘇峯、高橋道八、大丸北峰、宇野仁松、久世久宝、山崎光洋、近藤悠三、浅見五郎助、赤沢露石、清水六兵衛、三浦竹泉、宮川香齋、七兵衛信翠、新開邦太郎、永楽善五郎、森野嘉光、諏訪蘇山

(も)

萌木会(染) 港区西新橋3-15-6 電 (431) 4293 芹沢銈介門下の染色作家の研究団体で、毎月研究会を開き、年1回作品発表会を行う。

〔会員〕 芹沢銈介、岡村吉右衛門、小島恵次郎、柚木沙弥郎、立花長子、長沼孝一、秋山弘薫、三代沢本寿、塩入守治、片野元彦、四本貴資、下平清人、土手武彦、斎藤多通子、関俊子、吉枝紫津子、金野木実子、土田フミエ、中村操、中村裕子、大橋豊久、大橋隼雄、山内武志、小島尹久子

モダンアート協会(洋・彫・版・生活美術・写) 世田谷区烏山町1420-35 広井力方 電 (309) 1910 昭和25年9月創立。昭和43年4月第18回展開催。

〔運営委員〕 朝妻治郎、東俊二、小松義雄、勝本富士

雄、勝田寛一、村井正誠、中村真、中井幸一、小川孝子、周襄吉、勝呂忠、清野恒、矢橋六郎、山口薫、広井力

〔会員〕 絵画部63名、彫刻部10名、版画部5名、生活美術部6名、写真部14名

(り)

立軌会(洋) 杉並区東田町2-206 秋野卓美方 電(311) 5819 昭和24年4月創立。元創元会の会員7名によって結成、昭和43年8月第20回展開催。

〔会員〕 飯島一次、牛島憲之、大貫松三、須田寿、山下大五郎、玉置弘三、秋野卓美、五百住乙、小川イチ、吉本弘、丹野正弘、中谷卓彦、榊田達雄、武林敬吉、宮内義雄

(ろ)

六窓会(綜) 世田谷区等々力3-5-2号 黒田嘉治方 電(701) 1490 東京美術学校昭和6年卒業の同窓

を以て昭和25年創立、昭和29年4月第5回展開催。昭和30年度の展覧会は休み、以後展覧会は毎年開催せず随時開催とする。

〔会員〕(日本画) 橋本明治、加藤栄三、山田申吾、東山魁夷 (洋画) 伊勢正義、大貫松三、佐藤敬、須田寿 (彫刻) 長沼孝三、野々村一男、大須賀力、黒田嘉治 (建築) 吉村順三 (工芸) 内藤四郎

六二層(日) 練馬区南田中12 諏訪荘内 酒井邦夫方 電(997) 1527 会員間の絵画上の主張は同じではなく、むしろ各人が主張を闘わせ、日本画をもう一度初源のなところから勉強することを目的として、同志が集い、1962年(昭和37年)結成創立。逐次、発表展開催。

〔会員〕 安東千恵子、稲垣三郎、奥田正人、小林恒吉、酒井邦夫、菅原正記、関川都、野原茂生、増田欣子、日高政広、水上聖邦、山本政雄、吉田久、Patrick Murphy、新居田郁夫

日本芸術院会員・帝室技芸員・文化勲章・文化功勞者・重要無形文化財等一覧・文化財専門審議会専門委員名簿

日本芸術院会員

院長	昭和23. 8. 11	高橋誠一郎
第一部(美術) 会員		
第1分科(日本画)	昭和12. 6. 24	鏑木健一(清方)
		前田廉造(青邨)
		安田新三郎(靱彦)
	22. 4. 17	福田平八郎
		奥村義三(土牛)
		野田道三(九浦)
	22. 7. 14	小野英吉(竹喬)
		中村恒吉(岳陵)
	25. 12. 15	堂本三之助(印象)
		山口三郎(蓬春)
	32. 2. 28	徳岡時次郎(神泉)
	33. 5. 1	伊東一(深水)
		堅山熊次(南風)
	34. 5. 1	金島政太(桂華)
		児玉省三(希望)
	36. 7. 20	宇田善次郎(荻邨)
	40. 1. 15	東山信吉(魁夷)
第2分科(洋画)	昭和12. 6. 24	有島壬生馬(生馬)
	22. 4. 17	辻永
	23. 10. 5	川島理一郎
	32. 2. 28	長谷川昇
	34. 5. 1	小糸源太郎
	35. 3. 1	小山敬三

	昭和35. 3. 1	東郷鉄春(青児)
	38. 2. 1	大久保作次郎
		鬼頭鍋三郎
	41. 1. 15	宮本三郎
	42. 1. 15	田崎広次(広助)
		耳野卯三郎
第3分科(彫塑)	昭和12. 6. 24	北村西望
		斎藤知雄(素巖)
		平櫛倬太郎(田中)
	25. 6. 1	石井鶴三
		沢田寅吉(政広)
	39. 1. 15	雨宮治郎
	40. 1. 15	清水多嘉示
	42. 1. 15	古賀忠雄
	43. 1. 16	松田尚之
第4分科(工芸)	昭和12. 4. 17	松田権六
	25. 12. 15	高村豊周
	29. 1. 1	岩田藤七
	32. 2. 28	山鹿健吉(清華)
		山崎覚太郎
	37. 2. 1	清水六兵衛
		楠部弥一(弥弼)
	41. 1. 15	井上良太郎(良斎)
第5分科(書)	昭和12. 7. 14	豊道慶中(春海)
	35. 3. 1	鈴木春視(翠軒)
	37. 2. 1	川村慎一郎(驥山)

第6分科 昭和29. 1. 1 吉田 五十八
 (建築) 30. 1. 1 村野 藤吉(藤吾)
 37. 2. 1 谷口 吉郎
 第二部、第三部 会員 略

皇室技芸員

日本画 昭和 9.11 安田 靱彦
 19. 7 堂本 印象
 “ 鏑木 清方
 “ 前田 青邨
 洋画 “ 梅原 竜三郎
 彫刻 “ 平 櫛 田 中

文化勲章受章・文化功労者

氏名	専攻	文化勲章受章日	文化功労者日	死亡年月
岡田 三郎助	(洋画)	昭和12. 4. 28		昭和14. 9. 21
藤島 武二	(“)	“		“ 18. 3. 22
竹内 恒吉(栖鳳)	(日本画)	“		“ 17. 8. 23
横山 秀麿(大観)	(“)	“	昭和26. 7. 21	“ 33. 2. 26
川合 芳三郎(玉堂)	(“)	“ 15. 11. 10	“	“ 32. 6. 30
伊東 忠太	(建築)	“ 18. 4. 29	“ 26. 7. 21	“ 29. 4. 7
和田 英作	(洋画)	“	“	“ 34. 1. 3
安田 新三郎(靱彦)	(日本画)	“ 23. 11. 2	“	
朝倉 文夫	(彫塑)	“	“	“ 39. 4. 18
上村 津弥(松園)	(日本画)	“		“ 24. 8. 27
小林 茂(古径)	(“)	“ 25. 11. 3	“ 26. 7. 21	“ 32. 4. 3
梅原 竜三郎	(洋画)	“ 27. 11. 3	“ 27. 11. 3	
安井 曾太郎	(“)	“	“	“ 30. 12. 14
板谷 嘉七(波山)	(陶芸)	“ 28. 11. 3	“ 28. 11. 9	“ 38. 10. 10
香取 秀治郎(秀真)	(鍔金工芸)	“	“	“ 29. 1. 31
鏑木 健一(清方)	(日本画)	“ 29. 11. 3	“ 29. 11. 9	
前田 廉造(青邨)	(“)	“ 30. 11. 3	“ 30. 11. 3	
坂本 繁二郎	(洋画)	“ 31. 11. 3	“ 31. 11. 3	
西山 卯三郎(翠嶂)	(日本画)	“ 32. 11. 3	“ 32. 11. 3	“ 33. 3. 30
北村 西望	(彫塑)	“ 33. 11. 3	“	
松林 篤(桂月)	(日本画)	“	“	“ 38. 5. 22
川端 昇太郎(竜子)	(“)	“ 34. 11. 3	“ 34. 11. 3	“ 41. 4. 10
堂本 三之助(印象)	(“)	“ 36. 11. 3	“ 36. 11. 3	
福田 平八郎	(“)	“	“	
奥村 義三(土牛)	(“)	“ 37. 11. 3	“ 37. 11. 3	
中村 恒吉(岳麓)	(“)	“	“	
平櫛 倬太郎(田中)	(木彫)	“	“ 29. 11. 9	
吉田 五十	(建築)	“ 39. 11. 3	“ 39. 11. 3	
山崎 朝雲	(木彫)	“	“ 27. 11. 21	“ 29. 6. 4
山下 新太郎	(洋画)	“	“ 30. 11. 3	“ 41. 4. 10
中沢 弘光	(“)	“	“ 32. 11. 3	“ 39. 9. 8
和田 三造	(“)	“	“ 33. 11. 3	“ 42. 8. 22
上野 直昭	(美学美術史)	“	“ 34. 11. 3	
辻 永吉	(洋画)	“	“	
富本 憲吉	(工芸)	“	“ 36. 11. 3	“ 38. 6. 8
内藤 多仲	(建築)	“	“ 37. 11. 3	
梅原 末治	(考古)	“	“ 38. 11. 3	
堅山 熊次(南風)	(日本画)	“	“	
松田 権六	(工芸)	“	“	

有 島 生 馬	(洋 画)	昭和39. 11. 3
小 絲 源 太 郎	(〃)	昭和40. 11. 3
山 口 三 郎 (蓬 春)	(〃)	〃
徳 岡 時 次 郎 (神 泉)	(日 本 画)	〃 41. 11. 3
山 崎 覚 太 郎	(工 芸)	〃
林 武	(洋 画)	〃 42. 11. 3
村 野 藤 吉 (藤 吾)	(建 築)	〃

重 要 無 形 文 化 財 等 一 覧 (昭和41年3月現在)

(1) 重要無形文化財一覧

I 各 個 指 定

工芸技術の部 (28件・34人)

陶 芸

(鉄釉陶器) 昭和30. 2. 15指定	石黒 宗麿(棚 翁)
(志 野)	〃 〃 荒川 豊蔵
(瀬戸黒)	〃 〃 〃
(民芸陶器)	30. 2. 15 〃 浜田 象二(庄 司)
(色絵磁器)	36. 4. 27 〃 加藤 一(土師南)

染 織

(有職織物)	35. 4. 19 〃 喜多川平郎(平 朗)
(羅)	31. 4. 24 〃 (〃)
(唐 組)	〃 〃 深見 重助
(友 禅)	30. 5. 12 〃 木村 文二(雨 山)
(〃)	〃 〃 中村 勝馬
(〃)	42. 4. 10 〃 森口平七郎(華 弘)
(型 絵 染)	31. 4. 24 〃 芹沢 銑介
(長板中形)	30. 2. 15 〃 清水幸太郎(松 吉)
(伊勢型紙)	〃 〃 南部 芳松
(伊勢型紙)	〃 〃 児玉 博
(伊勢型紙)	〃 〃 六谷紀久男(梅 軒)
(伊勢型紙)	〃 〃 中島 秀吉
(伊勢型紙)	〃 〃 中村勇二郎
(伊勢型紙)	〃 〃 城之口みえ
(糸入れ)	〃 〃 千葉あやめ
(正 藍 染)	30. 5. 12 〃 甲田 栄佑
(精好仙台)	31. 4. 24 〃

漆 芸

(蒔 絵)	30. 2. 15 〃 松田 楠六
(〃)	〃 〃 高野 重人(松 山)
(彫 漆)	30. 5. 12 〃 音丸 芳雄(耕 堂)
(沈 金)	〃 〃 前 得二(大 峰)
金 工	
(鋳 金)	39. 4. 21 〃 高村 豊周
(茶の湯釜)	38. 4. 24 〃 長野 松蔵(埴 志)
(日 本 刀)	30. 5. 12 〃 高橋 金市、次(竜泉貞)
(〃)	38. 4. 24 〃 宮入 堅一(昭 平)

(肥後象嵌) 昭和40. 4. 20 〃 米光 太平(光 正)

木竹工

(竹 芸)	42. 4. 10 〃 生野 秋平(祥雲斎)
人 形	
(衣裳人形)	30. 2. 15 〃 平田 恒雄(郷 陽)
(〃)	〃 〃 山田 松枝(堀柳女)
(紙塑人形)	36. 4. 27 〃 鹿兒島寿蔵

II 総 合 指 定

工芸技術の部 (3件)

小千谷縮・昭和30. 5. 12指定 越後上布	(一部改正 35. 4. 19)	小野塚キイ(宇うみ)
		小川 よの(〃)
		和田 金蔵(耕つく)
		山口 初治(〃)
		目崎 よし(いざり)
		一之谷たか(いざり)
		大里 ふく(糸つむ)
		大塚 いせ(〃)
結 城 紬	31. 4. 24 〃	北村 勘一(耕くび)
		今井 五郎(〃)
		北条 きの(織)
		増田 かね(〃)
		矢加部アキ(耕手く)
久留米 餅	32. 4. 25	桜井勇次郎(〃)
		松枝 玉記(藍 染)
		森山 虎藤(〃)
		矢加部アキ(手 織)

(2) 記録作成等の措置を講ずべきものとして選択され

た無形文化財一覧

工芸技術の部 (36件)

陶 芸

柿 右 衛 門	昭和30. 3. 19認定	酒井田柿右衛門(死亡)
上絵付「色鍋島」	32. 3. 30 〃	今泉 今右衛門
上絵付「黄地紅彩」	〃 〃	加 藤 土 師 萌
祥 瑞	30. 3. 9	川 瀬 竹 春
唐 津 焼	32. 3. 30	中里太郎右衛門

織 部	〃	32. 3. 30	加 藤 唐 九 郎
萩 焼	〃		三 輪 休 和
〃	〃		板 倉 新 兵 衛 (死亡)
辰 砂	〃		宇 野 宗 應
青 磁	〃		〃
磁器大物成型の ろくろ技法	39. 3. 24		奥川 忠右衛門
瀬 戸 丸 窯	32. 3. 30		
丹波立杭窯	〃		丹波立杭窯保存 会
染 織			
白 石 紙 布	30. 3. 19		
上代植物染	31. 3. 31		後 藤 貞 像 (死亡)
紫根染・茜染	32. 3. 30		栗 山 文 次 郎 (死亡)
有松鳴海紋	〃		愛知県絞技術保 存会
丹 波 布	〃		丹波布技術保存 会
黄 八 丈	〃		黄八丈技術保存 会
か っ べ た 織	37. 3. 30		玉 置 び ん
組 紐	35. 3. 25		道 明 新 兵 衛 (死亡)
〃	〃		五 嶋 敏 太 郎
和 裁	35. 3. 15		小 見 外 次 郎 (死亡)
漆 芸			
(村 上 堆 朱)	30. 3. 19		鈴 木 秋 湖
(〃)	〃		板 垣 孝 一
(蒔 絵 用 具)	32. 3. 30		小 宮 又 兵 衛 (死亡)
(存 清)	〃		香 川 宗 石
(飛 騨 春 慶)	〃		飛騨春慶技術保 存会
(能 代 春 慶)	〃		石 岡 庄 寿 郎 (死亡)
(螺 鈿)	〃		片 岡 華 江
金 工			
(秋田銀線細工)	30. 3. 19		伊 藤 徳 太 郎 (死亡)
(〃)	〃		高 坂 雄 水
(布 目 象 嵌)	32. 3. 30		鹿 島 一 谷
(肥後透及び肥 後象嵌)	38. 3. 30		米 光 太 平
人 形			
(人形の胡粉仕 上の技法)	41. 4. 25		原 米 州
そ の 他			
(截 金)	30. 3. 19		
(刀 剣 柄 巻)	31. 3. 31		山 口 脩 吉
(木 画)	32. 3. 30		木 内 省 右 (死亡)
(木 版 画)	〃		

(七 宝) 32. 3. 30

備考 上絵付(黄地紅彩)の加藤土師萌と、肥後透及び肥後象嵌の米光太平は重要無形文化財保持者に認定されている。

文化財専門審議会専門委員

会 長	石 田 幹 之 助
副 会 長	新 関 良 三
副 会 長 理	坂 本 太 郎
代 理	

第 一 分 科 会 (美術工芸関係)

分科会 長 理	田 沢 坦
代 理	

絵画彫刻部会	
部 会 長	米 沢 嘉 圃
部 会 長 理	亀 田 孜
代 理	

石 井 鶴 三 夫
熊 谷 宜 剛
小 林 坦
田 沢 坦
福 井 利 吉 郎
丸 尾 彰 三 郎
源 豊 宗 郎
山 口 三 郎
(臨) 河 北 倫 明
(〃) 隈 元 謙 次 郎
(〃) 小 塚 新 一 郎
(〃) 高 橋 誠 一 郎
(〃) 土 方 定 一

工 芸 品 部 会 長	本 間 順 治 郎
部 会 長 理	溝 口 三 郎
代 理	

梅 沢 彦 太 郎
太 田 英 藏 一 讓 彦 三 く 藏 雄 吉 六 二 吉
加 藤 田 正 徹 三 く 藏 雄 吉 六 二 吉
岡 取 川 本 田 永 部 田 脇 森
香 谷 山 藏 末 服 松 山 森
(兼) 藏 末 服 松 山 森
(〃) 藏 末 服 松 山 森
(〃) 藏 末 服 松 山 森
(〃) 藏 末 服 松 山 森
(兼・臨) 藏 末 服 松 山 森
(臨) 藏 末 服 松 山 森

書 跡 部 会 長	岩 橋 小 弥 太 平
部 会 長 理	山 岸 徳 助 郎
代 理	
石 田 幹 之 助	
神 田 喜 一	

		田塚坂赤川是	山本松瀬沢	信善太俊一恭	郎隆郎秀馬三
	(兼)				
	(臨)				
	(ク)				
	(ク)				
考古部	部会長	駒八藏末水有原	井幡田永野光田	和一雅清教淑	愛郎藏雄一一人
第二分科会	分科会長	藤堀浅大関田谷服福村藤田米青	島口野岡野辺口部山田岡沢木	亥治捨	郎己清実克泰郎吉男郎夫垣嗣男
	分科会長代理				
	(兼)				
	(ク)				
	(臨)				
第三分科会	分科会長	坂本宝坂沼有駒齋末杉八藤井児清滝内	本田月本田光井藤永原幡島上玉水口藤	太正圭太政教和雅莊一治光幸潤政	郎次吾郎矩一愛忠雄介郎貞多三宏恒
史跡部	部会長				
	部会長代理				
	(兼)				
	(ク)				
	(ク)				
	(ク)				
	(ク)				
	(ク)				
	(臨)				
	(ク)				
	(ク)				
	(ク)				
	(ク)				

	(臨)	本吉関田横谷沼堀本山吉	田永口中山口田口岡	弘義太光吉政捨正三邦	人信郎薰雄郎矩己次郎二
名勝部	部会長				
	部会長代理				
	(兼)				
	(ク)				
	(ク)				
	(ク)				
	(ク)				
天然記念物部	部会長	本渡加古佐山藤吉田沼武	田辺藤賀竹階本岡中田田	正武陸忠義芳治邦政久	次男奥道輔磨義二薰矩吉
	部会長代理				
	(兼)				
	(ク)				
	(臨)				
埋蔵文化財部	部会長	八駒有斎杉末清滝内福水	幡井光藤原永水口藤山野	一和教莊雅潤政敏清	郎愛一忠介雄三宏恒男一
	部会長代理				
	(兼)				
	(兼・臨)				
	(ク・ク)				
	(ク・ク)				
	(兼)				
	(ク)				
民俗資料部	部会長	岡関竹西古宮最本八	内角野本上田幡	正敬芳井清太孝安一	雄吾郎慶人郎敬次郎
	部会長代理				
	(臨)				
部会に属しない臨時専門委員		爪生順			良

	(臨)	大	村	筆	雄
	(〃)	大	崎		康
	(〃)	若	林	正	武
	(〃)	両	角	良	彦
	(〃)	安	達	次	郎
	(〃)	深	草	克	己
	(〃)	志	村	清	人
第 四 分 科 会	(無形関係)				
分科会長		松	田	権	六
分科会長		新	関	良	三
代					
工芸技術部会					
部会長		石	沢	正	男
部会長		小	山	富	士
代		小	路	位	三
					郎

	佐	々	木	信	三	郎
	高	村		豊		周
	浜	田		象		二
	松	田		権		六
	三	木	喜	代		次
(兼)	岡	田				譲
(〃)	加	藤				一
(〃)	香	取	正			彦
(〃)	蔵	田				蔵
(〃)	本	間	順			治
(〃)	溝	口	三			郎
(臨)	鹿	児	島	寿		藤
(〃)	柳		悦			光
(〃)	山	脇	洋			二

美術家及美術関係者名簿

(昭和43年12月現在)

凡 例

- 1 本名簿にのせた美術家及美術関係者の数は2700余名である。

我が国において、美術家として社会的地位を有する人々を採録した。その他掲載予定の人々で回答未着、調査不可能の分およびその他の不備は次年度に補いたい。

- 1 名簿は氏名の頭文字の発音により50音順に記載した。発音の同じ場合は字劃の少いものを先にし、頭文字の同じものは二字目の発音により、その発音の同じ場合は字劃の少いものを先に掲げた。但し、同字は訓音の異なるものもなるべく1箇所に集めた。安宅、安達、安西、安藤等を同一箇所に掲げた如くである。

- 1 名簿に用いた略語は左の通りである。

(学)学者及び評論家 (日)日本画 (洋)洋画 (挿)挿画 (版)版画 (漫)漫画 (彫)彫塑 (工)工芸
(漆)漆工芸 (陶)陶磁 (金)金工芸 (木)木工芸 (染)染色 (織)織物 (繡)刺繡 (硝)硝子工芸
(建)建築 (写)写真 (記)美術記者 (文化財事務局)文化財保護委員会事務局 (文化財専審委)文化財専門審議会専門委員 (東京芸大)東京芸術大学 (東美校)東京美術学校 (京都美大)京都市立美術大学 (京都絵専校)京都市立絵画専門学校 (京都美専校)京都市立美術専門学校 (女子美大)女子美術大学 (女子美校)女子美術学校・女子美術専門学校 (帝国美校)帝国美術学校 (日美校)日本美術学校 (大阪美校)大阪美術学校 (東京高工芸校)東京高等工芸学校 (東京高工業校)東京高等工業学校 (京都高工芸校)京都高等工芸学校 (名古屋高工業校)名古屋高等工業学校 (京都美工芸校)京都市立美術工芸学校、其他これに準じた。

- 1 住所中東京都のみは都名を略して区名を以て始めた。

「美術家及美術関係者名簿」 ページ (275～328 ページ)

個人情報保護のため非公開

Pages of the list of Artists and Experts in Art (pp.275-328)

Cut for protection of the personal information

印刷 昭和44年3月11日

発行 昭和44年3月29日

日本美術年鑑

昭和43年版

編集者 東京国立文化財研究所美術部
(美術研究所)

印刷所 大蔵省印刷局
東京都港区赤坂葵町2番地
電話 (582) 4411

発行所 東京国立文化財研究所
東京都台東区上野公園12-53
電話 (828) 代6811・6812

本年鑑は下記の販売所で1部2,800円で取扱っております。

政府刊行物普及販売所一覧

官報・政府刊行物のご相談、ご注文は下記普及販売所をご利用下さい。

●政府刊行物サービス・センター

(名称)	(所在地)	(郵便番号)	(電話)	(振替番号)
霞が手	東京都千代田区霞が関1の2(皇居別荘内)	100	東京 591 1924-1925	東京 68492
古	東京都千代田区大手町1の5(国電電報ビル内)	100	東京 211 5570-7095	東京 59843
大	大蔵省東区大手町2の1(合同庁舎1階)	540	大阪 412 1681-1682	大阪 13413
名	名古屋市中区三の丸2の5(合同庁舎2号館内)	460	名古屋 551 9205-9341	名古屋 29773
横	福岡市博多区東2の11の1(合同庁舎1階)	812	福岡 411 6201-6204	福岡 17603
札	札幌市北三条西4丁目(合同庁舎館内)	060	札幌 223 7211-7213	札幌 95649

●政府刊行物サービス・ステーション

(名称)	(所在地)	(郵便番号)	(電話)	(振替番号)
札幌市	札幌市北三条西4丁目1番地	060	札幌 223 0975	小樽 13995
青森市	青森市本町2丁目7番16号(今泉書店)	030	青森 131 3611	仙台 31390
盛岡市	盛岡市南大通1丁目16の2号	020	盛岡 222 2984	盛岡 255
仙台市	仙台市東一番丁90番地(石川書店)	980	仙台 222 9322	仙台 1349
秋田市	秋田市大町2の2の2(久文字屋)	010	秋田 100 2129	秋田 300
山形市	山形市大町2丁目4の11号(久文字屋)	990	山形 100 2150	山形 150
福島市	福島市大町7の20(福島西沢書店)	960	福島 222 0161-2	郡山 249
水戸市	水戸市泉町2の2の31(川又書店)	310	水戸 222 2047	東京 5441
宇都宮市	宇都宮市鉄地町3224(集英堂書店)	320	宇都宮 331 2732-3533	宇都宮 558
前橋市	前橋市本町1丁目3の4号(敬平堂)	371	前橋 222 6216	東京 134340
浦和市	浦和市政路1の7の9(駅前岩瀬書店内)	336	浦和 222 4259	東京 56788
熊谷市	熊谷市本町2の2866	360	熊谷 222 0400	東京 36201
千葉市	千葉市中央区299	280	千葉 222 7635	東京 196171
横浜市中区	横浜市中区相生町4の74(横浜日経社)	231	横浜 222 2661-3	横浜 12493
東京都	東京都千代田区神田錦町1の2	101	東京 222 1601(代)	東京 87035
東京都	東京都渋谷区神宮通り1の4(大盛堂書店内)	150	東京 463 7555	東京 144373
東京都	東京都葛飾区池袋2の1157(芳林堂書店内)	171	東京 334 1101(代)	東京 95018
立川市	立川市栄町3の6の27(オゾン書店内)	190	立川 222 2213	
新潟市	新潟市東区1の67(教科書ビル内)	950	新潟 111 5297	新潟 4570
富山市	富山市中央通り2丁目5の6(中田書店内)	930	富山 222 4938	新潟 6001
金沢市	金沢市片町2丁目1番7号(宇都宮書店)	920	金沢 222 6136	金沢 31
福井市	福井市順化1丁目1番19号(品川書店)	910	福井 222 0112	福井 7848
甲府市	甲府市中央4丁目2の18(柳正堂)	400	甲府 222 2201	甲府 333
長野市	長野市大門町66の1(長野西沢書店)	380	長野 222 3185	長野 124
岐阜市	岐阜市笠土屋町25	500	岐阜 222 2767	名古屋 25651
静岡市	静岡市駿河区3丁目109番地(東洋町通り)	420	静岡 222 2661	東京 96449
名古屋市	名古屋市東区栄2丁目6番2号(川瀬書店)	460	名古屋 222 3703-4705	名古屋 563
名古屋市	名古屋市中区堀内町2の33	450	名古屋 511 7451(代)	名古屋 1
津市	津市京町1211(別所書店内)	514	津 222 3366	東京 13149
大津市	大津市中央1丁目5番2号(沢五車堂)	520	大津 222 2683	東京 18033
京都市	京都市中京区河原町六角下東入	604	京都 222 4444	京都 20028
大阪市	大阪市西区土佐堀船町6(肥後橋前)	550	大阪 443 2171-3	京都 57561
大阪市	大阪市北区信保町1の10(天満橋北詰)	530	大阪 336 3361-2	大阪 33148
神戸市	神戸市生田区北長狭通5丁目13の9	650	神戸 222 0637	神戸 9470
奈良市	奈良市橋本町26(奈良明新報)	630	奈良 222 3131-5	大阪 91807
和歌山市	和歌山市本町1の7(宮井平安堂)	640	和歌山 222 1331	大阪 62
鳥取市	鳥取市本町2丁目212番地	680	鳥取 222 2158	大阪 9035
松江市	松江市本町63(今井書店)	690	松江 222 2230	大分 185
岡山市	岡山市東区地下商店街	700	岡山 222 7048	岡山 236
広島市	広島市本町3番55号(女学院南側)	730	広島 222 2808-2905	岡山 5854
山口市	山口市門政寺42	753	山口 222 0582	岡山 1047
徳島市	徳島市紙屋町3の18(小山助学館)	770	徳島 56 2135(代)	徳島 595
高松市	高松市番町2の2の4(飯田書局)	760	高松 222 8045	徳島 15399
松山市	松山市三番町4丁目6の13	790	松山 222 7879	徳島 1678
高知市	高知市帯屋町107の6	780	高知 222 5866	徳島 8791
福岡市	福岡市天神4丁目5番17号(市民会館電停前)	810	福岡 222 3722	福岡 1177
佐賀市	佐賀市本町1丁目2番18号	840	佐賀 222 3722	福岡 25088
長崎市	長崎市山崎町2番10号(飯田書局)	850	長崎 222 1413	長崎 1619
熊本市	熊本市上通町4の57(長崎書店内)	860	熊本 222 0555	熊本 68
大分市	大分市本町4丁目1の24号	870	大分 222 4308	下関 9230
宮崎市	宮崎市広島1丁目4番4号	880	宮崎 222 2284	鹿児島 7580
鹿児島市	鹿児島市中町12番7号(西本願寺前)	892	鹿児島 222 1691	鹿児島 113